

秋田の農地・水 活動記録誌

農地・水保全管理支払交付金)



平成24年3月

秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会

農地・水活動記録誌 目 次

	発刊にあたって 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会長	・ ・ ・ ・	1
1.	鹿角市	〔活動組織 21組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 2
2.	小坂町	〔活動組織 6組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 15
3.	大館市	〔活動組織 45組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 20
4.	北秋田市	〔活動組織 66組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 45
5.	上小阿仁村	〔活動組織 14組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 80
6.	能代市	〔活動組織 26組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 89
7.	八峰町	〔活動組織 17組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 104
8.	三種町	〔活動組織 13組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 114
9.	藤里町	〔活動組織 5組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 122
10.	秋田市	〔活動組織 15組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 126
11.	男鹿市	〔活動組織 3組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 135
12.	潟上市	〔活動組織 4組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 138
13.	五城目町	〔活動組織 15組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 142
14.	八郎潟町	〔活動組織 3組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 151
15.	井川町	〔活動組織 1組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 155
16.	大潟村	〔活動組織 1組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 157
17.	由利本荘市	〔活動組織 43組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 159
18.	にかほ市	〔活動組織 25組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 183
19.	大仙市	〔活動組織 123組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 200
20.	仙北市	〔活動組織 31組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 267
21.	美郷町	〔活動組織 38組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 285
22.	横手市	〔活動組織 92組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 307
23.	湯沢市	〔活動組織 54組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 355
24.	羽後町	〔活動組織 43組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 385
25.	東成瀬村	〔活動組織 3組織〕	・ ・ ・ ・ ・ 408
	資料編		・ ・ ・ ・ ・ 411

秋田の農地・水活動記録誌 発刊にあたって

秋田県農地水環境保全向上対策協議会



会長 黒子 高夫

はじめに

平成19年度から始まったこの農地・水活動ではありますが、現在県内では707組織において地域の環境保全向上のため、地域住民が一体となり各種活動を進めて来ております。

二期対策への移行

この度、国の平成24年度予算概算決定において、全国の活動組織による事業継続要請が圧倒的に多かったことから、第二期対策への継続が示されました。平成18年に、この事業創設に関わって以来、一期対策を進めて参りましたが、まずはほっとしているところであります。

家族の絆

昨年の3.11大震災では公共交通機関マヒによる首都圏での帰宅難民の大量発生や、日頃家族間の連絡手段である携帯電話の不通、マイカーを動かすためのガソリン確保等々異常事態が続きました。家族間で改めて、緊急時の連絡方法や避難場所の特定など、キマリを定めた家庭も多かったのではと思います。

また、この震災以来独身の方々の結婚願望が以前より増えているとの報道がありまして、これは家族の絆をより強く意識せざるを得ない現実が発生し、生きている証として苦楽を共にする伴侶が欲しいと言う、衝撃が独り身の方々の心を前向きにしたと考えています。

本活動の地域連携

アンケート調査によると、多くの方々から「集落単位での共同作業が地域を明るく元気にする」、作業を続ける中で地域住民からは「環境を守ることを大変さを改めて実感した」との声が聴かれ、本活動の最大のメリットであると思います。

また、この活動の持続的な発展のためには、地域の人と人との結びつき、絆が基本であることは言うまでもありません。

活動記録誌の発刊

ここに、5年間を振り返り一期対策のまとめとして活動記録誌を刊行いたしましたので、関係の皆様のご高覧を頂くとともに、引き続き本協議会運営へのご理解とご協力をお願い申し上げ、発刊のごあいさつといたします。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	鹿角市	住 所	鹿角市花輪字荒田4番地1	電 話	0186-30-0246
担当部署	産業部 農林課	担当者	和田寛美、柳館秀人、中島静香		

(5年間の感想等記入)

鹿角市は県北部を貫流する米代川をはじめとした清流が流れており、周囲を山々に囲まれています。その自然の中には多種多様な動植物が生息する生態系が広がっている、豊かな自然に恵まれたまちです。

主力産業の1つである農業の基盤となる農地及び農業用施設の維持管理、また、豊かな自然に囲まれた美しい農村環境の保全に係る事業として平成19年度より農地・水・環境保全向上対策事業を21組織でスタートしました。

鹿角市では1集落ごとに事業を実施する組織を設立し農地・水事業に取り組んでいる場合が多く、事業実施にあたり、毎年度農地・農業用施設の点検・機能診断を実施し、補修計画を組み、また、以前から集落で抱えていた農地・農業用施設に係る問題は5年という事業実施期間内での長期にわたる事業計画を組むことによりそれらの問題は概ね改善されました。事業実施以前は市に対し集落から農地・農業用施設の補修・改修の要望が挙げられていましたが、事業実施後には”自分たちの集落は自分たちの手で守る”という意識が根付き、維持管理体制の構築や補修技術の習得がなされたものと認識しています。また、農業者だけでなく、子供たちや非農業者を交えた農地・農業用施設の維持管理、農村環境の保全活動により、子供たちや非農業者にも自分たちをとりまく農村環境に対する意識の高揚が図られとも思います。さらに、年間を通して共同活動が実施されるため、集まる回数が増えることで集落内のまとまりは一層強いものとなりました。今後、少子高齢化等に伴う共同活動従事者の減少が懸念される中、子供たちや非農業者の人たちを含めた地域ぐるみでの共同活動体制が構築されたことは、集落内の農業生産にも役立つものと思います。

農村環境保全活動ではそれぞれの集落が持つ農村環境の魅力を再認識し、それらの維持管理や保全活動を試行錯誤しながら次世代を担う子供たちと一緒にやっていくことにより、農業やそれを取りまく農村環境を身近に感じてもらう良い機会となりました。また、自分たちの農村環境を見つめ直すことにより、新たな魅力の発見もあったように思います。

平成19年度からの5年間で培われた地域共同の精神や農村環境に対する意識により、市と市民が一体となって鹿角市内の美しい農村環境の保全に対し取り組んでいけるよう努めてまいります。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

鹿角市	耕地面積	田	3,670 ha	畑	2,780 ha	合計	6,460 ha
平成19年度	協定面積	田	840.78 ha	畑	117.12 ha	合計	957.90 ha
平成20年度	協定面積	田	840.78 ha	畑	117.12 ha	合計	957.90 ha
平成21年度	協定面積	田	840.78 ha	畑	117.12 ha	合計	957.90 ha
平成22年度	協定面積	田	840.78 ha	畑	117.12 ha	合計	957.90 ha
平成23年度	協定面積	田	840.63 ha	畑	117.12 ha	合計	957.75 ha

(支援交付金実績)

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	924.13 ha	38,906,680円
平成20年度	対象面積	計	924.13 ha	38,906,680円
平成21年度	対象面積	計	924.13 ha	38,010,400円
平成22年度	対象面積	計	924.13 ha	38,156,920円
平成23年度	対象面積	計	923.98 ha	37,381,619円
合計				191,362,299円

活動組織名称

鹿角市

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0001	水沢環境保全隊	0009	三ツ矢沢地域資源保全隊
0002	熊沢地域資源保全隊	0010	瀬田石地域資源環境保全隊
0003	永田みんなの環境を守る会	0011	石野みらい農業
0004	長嶺地域資源保全委員会	0012	堀内地域資源保全隊
0005	川部地域資源保全隊	0013	二本柳地域農業資源・農村環境保全組合
0006	小豆沢地域資源保全隊	0014	鏡田環境保全隊
0007	夏井地域資源保全隊	0015	用野目水土里保全隊
0008	大久保農地保全隊	0016	狐平地域保全隊

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	水沢環境保全隊	代表	畠山 吉則
協定面積	田 33.9ha 畑 3.8ha 計 37.7ha	対象面積	田 33.9ha 畑 3.8ha 計 37.7ha		
管理施設	開水路 19.5 km ため池 ヶ所 農道 12.3 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 41人 農業団体 団体	非農業者個人	4人 非農業団体	3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

水沢保全隊は、中山間ではありながらも、国道沿いに位置しています。国道を通る人たちに豊かな農村風景を提供しよう活動に取り組んできました。老人クラブや婦人会による花壇の整備、植栽を行ったり、草刈り等を実施しました。特に遊休農地の維持管理に努めました。更に、農道や用水路の補修をや維持管理を徹底することで長寿命化を図り、後に労力のかからない施設となるよう努めてきました。

しかしながら近年では、高齢化と若者の減少、それぞれの仕事の都合等により、全員での共同作業がだんだんと難しくなってきました。そんな中でも、構成員一人一人の想いは、"このままではいけない、なんとかしなければ"と自分たちの農村を守ろうと前向きです。今後も皆で自分たちの農地や農業用施設の維持管理に努め、より良い農村環境のため頑張りたいです。



子供たちと一緒に水質検査を実施しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	熊沢地域資源保全隊	代表	栗山 正一
協定面積	田 41.0ha 畑 ha 計 41.0ha	対象面積	田 41.0ha 畑 ha 計 41.0ha		
管理施設	開水路 10.2 km ため池 ヶ所 農道 9.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 38人 農業団体 1団体	非農業者個人	4人 非農業団体	4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、緑豊かな水田風景、地域を流れる清流を未来に受け継いでいくために活動を行ってきました。春・夏のクリーンアップ、水質調査や生物調査を行い、子供たちが、親子で地域の自然に親しむことが出来ました。また、クリーンアップやなわなない体験などを老人クラブと共にすることで、地域の絆を強めることが出来ました。

こうした活動を通して、子供達だけではなく若い保護者にも地域の自然やお年寄りとのコミュニケーションを大事に思う心が定着してきました。

私たちの地域は、以前から水路保全を中心に共同作業が大事にされていましたが、この5年間の活動を通して、「地域の将来のために」という意識が強くなったと思います。また、この5年間に共同作業で補修された水路や農道も多くあり、安心して農業に従事できる環境作りがなされました。

また、この活動がきっかけで始まった「なわなない」は伝承目的だけではなくお年寄りと子供たちの貴重な触れ合いの場となっており、お年寄りの元気にもつながり、非常に感謝されております。

今後も共同作業の精神を大事に、自分達で出来ることは自分達ですることを心懸け、この地域が将来にわたって団結を大事にして、美しい水田風景や、清流が残る地域であり続けることを目指していきたいと思っています。



なわなない体験の様子

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	永田みんなの環境を守る会	代表	戸田 公雄
協定面積	田 41.5ha 畑 ha 計 41.5ha	対象面積	田 41.5ha 畑 ha 計 41.5ha		
管理施設	開水路 15.8 km ため池 ヲ所 農道 5.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 30人 農業団体 1団体	非農業者個人	50人 非農業団体	団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織では、国立公園八幡平の観光道路、国道341号線沿いに位置しております。そのような立地の中で、集落民による環境保全に対する意識の高揚は重要であると考え活動に参加することとしました。特に平成19年に集落営農組織活動を開始したことから、たいへん地域での活動がしやすい状況でした。 活動としては、国道からの集落への進入路にプランターロードと銘打って花を植栽し景観形成活動を行った結果、観光客も車を止め、写真撮影の場面も多く見られました。 また、農道・畦畔等の草刈も一斉に行うことができ、農村集落としての景観が良くなったと思います。 老人クラブの活動も、農道のゴミ拾い、花の植栽等、会員の交流する機会が増えたと喜んでおります。 農道の不陸修正によって整備されましたので、草刈等安全に作業することが出来ております。 当初2年間は、子供たちと老人クラブ、学校の先生の指導をいただき生態系調査を実施しました。以降は子供が2名になったことから活動が出来なかったことが残念でした。 開水路の整備や水門との整備等生活用水、農業用水の確保の為に管理がし易くなりました。 本活動を開始してからは、集落営農組織の活動とタイアップした結果、農地の放棄地も無くなりました。今後は、施設等の維持管理に努めて参ります。					
					
				(老人クラブ・婦人会による花の植栽)	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	長嶺地域資源保全委員会	代表	阿部 正明
協定面積	田 55.0ha 畑 7.1ha 計 62.1ha	対象面積	田 37.3ha 畑 ha 計 37.3ha		
管理施設	開水路 13.5 km ため池 ヲ所 農道 7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 62人 農業団体 1団体	非農業者個人	26人 非農業団体	7団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 本会では、地域内の農家、非農家、各団体の総参加のもとに、地域コミュニティの強化による資源保全向上活動を推進し、住み良い農村社会を形成するとともに、将来的にはこれらの共動活動の成果を生かし、集落営農組織化を目指して行くことを目標に活動を行ってきました。 基礎活動や農地水向上活動は、従来から道普請や堰根上げを実施してきたこともあり、スムーズに活動に入ることが出来ましたが、本事業の実施を契機に非農家などの参加者も多くなり、また、作業自体も之までの人力作業だけでなく機械、資材等の調達が出来るため農道や用水路の補修・整備が目に見えて進んできました。 また、景観形成活動や地域資源保全活動は老人クラブや婦人会、子供会の協力により実施してきましたが、老人クラブではこれまで以上に環境整備に力を発揮してくれるようになり、子供会でも子供達に農作物の栽培体験や在来生物の放流活動を体験させることができ、農村環境の大切さを教えることが出来ることとにも、親子、高齢者等との交流も出来ました。 水質環境を調べることで安心したり、汚染にも配慮するようになり、豪雨等の災害についてもすぐに行政を頼るのではなく、自分達で細やかな応急処置が出来るようになり、大変助かっております。 「農地・水環境は地球の宝」の啓蒙看板の下、これからもみんなで地域の農村環境を守るため活動を継続していこうと決意しています。なお、集落営農組織も設立され、徐々に出はありますが活動を充実させています。					
					
				菜の花の作付けによる景観形成	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	川部地域資源保全隊	代表	阿部 正
協定面積	田 40.3ha 畑 ha 計 40.3ha	対象面積	田 40.3ha 畑 ha 計 40.3ha		
管理施設	開水路 14.3 km	ため池 ヶ所	農道 2.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 38人	農業団体 1団体	非農業者個人 1人	非農業団体 6団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) この度の活動内容や感想の起稿にあたり、共動活動初年度の簿冊を開いていたら、平成19年6月1日付けで発行した保全隊会報代1号に、代表挨拶文が次のように掲載されていた。『昨年のモデル事業に引き続き、今年度から5ヶ年間保全隊の共動活動に取り組んでいくことになりました。事業内容は従来から集落が行ってきた用排水路の浚渫、施設補修のほか新たに農道、用排水路脇の草刈、景観形成、生態系保全、資源循環などとなっています。ついては、自治会はもとより婦人会、老人クラブなど各種団体の協力がなければ成果を得る事が出来ないと思っておりますので、各位のご協力をお願いするものであります。』と活動事業への協力を要請する文面でありました。 モデル事業で少し体験したとはいえ、本格的な活動としてテーマ別の月別活動項目は、列挙したものの、保全隊活動の趣旨を理解して協力してくれるものやら、不安を抱えてのスタートであったことが思い出されました。 あれから5年目の終盤を迎えた今日、これまでの活動を振り返ってみると、まずは、水不足常習地帯を解消するため、用水施設を計画的に施行してきたこと。 また、柵渠工法の大規模排水路は、ほぼ40年の風雪に耐えてきたこともあって、特に助骨の痛みが著しかったがその補修にあたっては経費節減の事も考慮し、外注せずに自前で補修してきたことが印象に残っています。 また、私ども川部集落への主な入口は、米代川に架設されている川部橋のすぐ傍らにあって、そこを起点に直進すると集落へ（熊野神社方向）また、西に進行すると夜明橋方向となっております。この2つのルート（1,200m）沿線の路肩にモデル事業も含め、連続6年間ひまわりを植栽しました。 最初の3年間は花芽も順調で開花期間も長く、すばらしい花が咲きましたが後の3年間は連作障害なのか生体に勢いがなく、開花期間を持続させるため床土の入替、肥料の散布、防虫、殺菌、水やり、草むしり等色々苦勞がありました。 しかし、路線で作業していると、歩行者はもとより、わざわざ車を止めて労いの言葉を掛けられると、気苦勞も疲れも忘れ作業に精を出したものでした。 用排水施設の整備は、農作業の効率性はもとより、用水管理も容易に出来るようになったこと。また、ひまわりの植栽は、共動活動を通じて、これまで以上に集落住民の絆を深めてくれました。					



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	小豆沢地域資源保全隊	代表	千田 俊夫
協定面積	田 55.6ha 畑 ha 計 55.6ha	対象面積	田 55.6ha 畑 ha 計 55.6ha		
管理施設	開水路 20.2 km	ため池 ヶ所	農道 5.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 80人	農業団体 団体	非農業者個人 60人	非農業団体 団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地区は、純農村地域で農業用施設の維持保全は集落が共同管理しています。地域資源保全隊では、このような中で緑豊かな水田風景、地域を流れる水系を守り将来を担う子供たちに引き継いで行く事を目標として活動を行ってきました。 幸いにしてこの地には「だんぶり長者伝説」があり、減少危惧されている「シオカラトンボ」が生息しています。この生態系に配慮した施設の管理として、5年前から休耕田を借用して「シオカラトンボ」のさなぎを育て現在では数十倍目に付つくようになりました。 又、同時に水質調査、モニタリングを子供たちと一緒に行って、農薬を使用しない環境づくりを伝えています。更に景観形成のための施設への「すいせん」植栽を集落全体での活動として取り組み5年間継続しており、主要農道の両側約7.2kmに球根50,000個子供会から老人クラブまで延べ人数520人で「自分たちで出来ることは自分たちで」を合い言葉にして地域の景観形成に努めています。毎年、春になるのを待ち遠しく感じます。 当地区のモットーは「共動活動による世代交流の実現」という立て看板を3ヶ所に設置しており、地域の絆を持ち続けられるよう頑張っています。					



農薬を使用しない農地を借り上げて減少危惧されている「シオカラトンボ」生息地を守り、草刈り、環境調査、清掃を実施しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	夏井地域資源保全隊	代表	山口 正司
協定面積	田 54.6ha 畑 ha 計 54.6ha	対象面積	田 54.6ha 畑 ha 計 54.6ha		
管理施設	開水路 10.5 km ため池 ヶ所 農道 4.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 60人 農業団体 1団体	非農業者個人 6人 非農業団体 6団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊は、八幡平のふもとにあり、自然の恵みをうけ、おもに水田で米を作っているため、地域を流れる水や水路、農道、水田などの保全活動を行ってきました。

春一番には老人クラブのクリーンアップが行われました。花の苗が出来る6月下旬～7月上旬に農道の景観形成活動として構成員全てが参加して花植えが行われました。5年間続けて行ってきたのもその後の管理など各団体が責任を持って行ってくれたからだと思います。婦人会による補植、子供会、老人クラブによる花壇の花管理、農家の人々による農道の草刈りなど花が咲き終わるまで協力してくれました。

水田地域であるため、地域の水環境は重要であると考え、水質モニタリング、水生生物の調査を子供たちとその保護者で実施しました。それらの結果を目にし、環境の変化や、それによる影響、改善策についても考えることができました。農家だけでなく、子供も含めた皆で水環境を大切に守らなければならないことを実感しました。

「活動は水路も春、秋と5回行い、泥上げ、草刈りなど保全管理を毎年2回行った方が良い」というような、活動に関する提案や意見が挙がるようになるなど、これまでの活動を通して次第に自分たちが地域を自ら守るという思いが今以上に盛り上がってきたように思います。

今後も協力しあいながら農村環境の保全や維持管理活動を頑張っていきたいと思っています。



景観形成活動で農道にマリンゴールド2000本両側約1000m)植え、往来する人々に安らぎを少しでも与えられるように、又ゴミなど投げ捨てないように定期的に草刈りを実施しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	大久保農地保全隊	代表	佐藤 喜美男
協定面積	田 51.0ha 畑 ha 計 51.0ha	対象面積	田 48.4ha 畑 ha 計 48.4ha		
管理施設	開水路 10.9 km ため池 ヶ所 農道 4.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 28人 農業団体 1団体	非農業者個人 3人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

大久保農地保全隊は、これまでの集落の自治会と一緒に共同管理してきた。農業施設の維持管理はもとより、各団体と連携を図り、農地の保全、環境の保全、水質の保全をしながら集落住民が健康で生き生きとした地域づくりを目指して活動してきました。春、施設の点検から始まり、水路の泥上げ、ゴミ拾い等のクリーンアップ、農道の砂利敷や主要水路の脇や法面の草刈等、様々な保全活動に老若男女の住民が各自参加することによって、自分達で出来ることを自分達でという意識を共有することが出来ました。又、ほ場整備事業から30年以上経った事から水路等施設の補修が必要となってきましたが、この5年間の活動を通して、徐々に維持復旧できてきました。これらの活動を会報「黄仙郷だより」に乗せ、全戸配布して活動情報を共有しています。秋の水仙の球根植栽は住民全員参加で実施し、5年間の活動で当初の計画以上の成果を上げることが出来ました。春になり集落に繋がる主要農道の脇に植えた水仙の花が満開になると、通りすがりのドライバー達が車を止めて、カメラを向ける姿も珍しくなくなりました。そしてその光景は集落の家々が黄色い絆で結ばれているような実感が有り、当地域の自慢でもあります。

今後、我が集落も少子高齢化、過疎化が進むなかで住民皆で力を合わせ環境を守っていかなければと思います。



景観形成活動における水仙の植栽、春の開花状況。5年間で約2kmの秋期の球根植栽、春は2kmの黄色の花の絆でつながれる。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	三ツ矢沢地域資源保全隊	代表	内田 正男
協定面積	田 11.8ha 畑 ha 計 11.8ha	対象面積	田 11.8ha 畑 ha 計 11.8ha		
管理施設	開水路 7.2 km ため池 ヲ所 農道 1.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 19人 農業団体 団体	非農業者個人 3人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、緑豊かな田園風景と里山、また地域を流れる清流を次世代へと受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。取り組み当初は戸惑いもありましたが、春のクリーンアップや景観形成活動は農家非農家を問わず構成員全員が参加するようになりました。

近年、環境の変化に伴い水質の悪化が懸念されておりますが、ヨシの草刈りや水質検査等を行うことにより、水質保全に対する意識の高揚が図られるようになり、遊休農地の草刈りや農道の補修等、皆で積極的に活動に参加できたことは大変良かったと思います。

当地域は子供の数が少なく、生き物調査等実施出来ませんでした。今後機会があれば実施したいと考えております。

私たちの小さな集落では、地域行事等の活動が停滞してきておりますが、5年間の活動を通して地域のまとまりが復活しつつあるように感じております。

農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域皆で農業用施設を”長持ちさせよう”、”自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”という機運が生まれました。農業用施設の保全管理、草刈りや泥上げ等の日常管理を地域皆で行うことにより、助け合いの大事さ、環境意識が育まれました。これからも”自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”の精神で地域を盛り上げたいと思います。



遊休農地の草刈りを行うことにより、害虫発生の防止及び景観の維持に努めている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	瀬田石地域資源環境保全隊	代表	田村 富男
協定面積	田 71.3ha 畑 ha 計 71.3ha	対象面積	田 71.3ha 畑 ha 計 71.3ha		
管理施設	開水路 17 km ため池 ヲ所 農道 4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 67人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全隊では、少子高齢化が進み農業従事者が減少し、遊休地、荒地が増える現状を危惧し、地域一丸となって自然資源の恩恵の素晴らしさと大切さを実感出来る強固なコミュニティーの構築を目的とし、活動して参りました。

春のクリーンアップに始まり、景観形成活動等では、構成員が出来る範囲の時間で全員参加しました。また、生態系保全調査では小学校と連携し、生き物調査も行い「ホタルの生息する場所」を作りました。

昨今、地域コミュニティーが薄れがちの中にあって、本事業を通じ、農業者、非農業者を問わず農業施設の維持管理を大切にしようという気遣いが生まれました。老若男女を問わず、地域を構成する人に一体感が生まれ、日常生活でも安心感が生まれました。



(水路の草刈り風景)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	石野みらい農業	代表	石川 倉男
協定面積	田 15.0ha 畑 ha 計 15.0ha	対象面積	田 15.0ha 畑 ha 計 15.0ha		
管理施設	開水路 5.1 km ため池 ヶ所 農道 1.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 14人 農業団体 団体	非農業者個人	人 非農業団体	4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの石野みらい農業は19世帯の小さい集落であり、少子高齢化が進み地域の田畑が荒廃するのを心配しておりました。 当初この農地水保全対策事業に対しては、集落営農を推進する良い機会と考え組織名を石野の集落が未来に繋がる希望に満ちた施策ということから「石野みらい農業」と名付けた組織名であります。 取り組み当初は、戸惑いもありましたが春には用水路の泥上げや開水路の草刈りを実施いたしました。特に景観形成活動は構成員全てが参加する集落の一大イベントとなりました。 特に3アールの減反田に集落の未来に向けての「希望」をイメージしたニコニコマークが光を八方に放す花壇としたものです。花作りは、各世帯で種から花苗に育て上げて花壇を造ってまいりました。この作業を通して地域に絆ができ、挨拶を交わし明るくなった気がしております。冬は除雪後の核家の入り口除雪などをお互いに協力して行うなど結いも復活してまいりました。 農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を大切にしようという機運が生まれました。農業施設の保全管理の他にも、草刈りや泥上げなど日常管理を地域の人々で行うことにより、これからも自分達で出来ることは自分達で頑張ろうと思っております。 組織の名称趣旨を生かすため集落営農の組織化に向けて地域を盛り上げてまいりたいと思います。					
				 花壇コンクールで優秀賞を秋田県花いっぱい運動から表彰されました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	堀内地域資源保全隊	代表	湯瀬 政志
協定面積	田 21.9ha 畑 0.1ha 計 22.0ha	対象面積	田 18.9ha 畑 ha 計 18.9ha		
管理施設	開水路 5 km ため池 ヶ所 農道 3.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 21人 農業団体 団体	非農業者個人	4人 非農業団体	4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊は、国立公園十和田湖の南玄関に位置しており、地域全体が里山自然景観を有するなど、そこを訪れる人々に豊かな農村景観を提供しています。その地域資源や農業施設を子供達へ受け継いで行くことを柱に活動を行ってきました。それまで、ほとんどの作業は個人で行っていましたが、本事業の実施を受けて、クリーンアップや景観形成活動はそれぞれが役割分担をして行いました。これにより地域の交流や共動活動へ参加意識の向上が高まって参りました。個々の農業者で見ると後継者難などありますが、このような事業を通じて共動活動を続けることにより、地域全体の農業施設の維持が図られ、営農の継続が可能となっていくと思います。 今後は自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろうと意識を更に合わせて地域を守っていききたいと思います。					
				 水生生物の生息、水質調査などを続けていき、昔からの自然景観の存続を図ります。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	二本柳地域農業資源・農村環境保全組合	代表	佐藤 幸夫
協定面積	田 42ha 畑 ha 計 42ha	対象面積	田 42ha 畑 ha 計 42ha		
管理施設	開水路 11.8 km	ため池 1ヶ所	農道 7.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 8人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全組合では、ほ場整備事業をきっかけとなり、全員で整備区域内の環境を守ろうという思いでこの事業を始めました。その結果農家以外の人にも農業に関心を持っていただき、草刈作業、用水路清掃作業、花壇整備作業などの活動の際は多くの人々に参加していただきました。これは各事業を推進するにあたり大きな力になったと思っており、地域の皆さまには大変感謝いたしております。

この事業を実施し、これからの時代は自分達の農業、農村環境は自分達の手で守っていかなければならないとつくづく感じました。自分達の子や孫の世代にすばらしい農村環境を残してやるのは我々の義務だと思います。少しでもすばらしい環境が残せるように、これからも地域一体となって頑張っていきたいと思ひます。



多くの人で協力した、草刈り作業の様子。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	鏡田環境保全隊	代表	相馬 正男
協定面積	田 46.42ha 畑 ha 計 46.42ha	対象面積	田 44.53ha 畑 ha 計 44.53ha		
管理施設	開水路 5.3 km	ため池 ヶ所	農道 3.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 51人	農業団体 1団体	非農業者個人 10人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落「鏡田」は、水のはった田んぼが鏡のように見えたことから名付けられたとされており、その名が表すとおり豊かな田園地帯に集落があります。平成18年には、ほ場整備事業が完了し、地域の資源である水田や用水路、農道がきれいに整備されました。

その貴重な資源を守るため、保全隊では、用水路の土砂上げと草刈り、幹線農道のクリーンアップ、花壇の整備などを行ってきました。事業の実施に当たっては、地域全体の資源を守っていかうということで、農業者の方々をはじめ、老人クラブ、婦人会、青年会、子供会など、様々な団体の協力を得ながら取り組んできました。

クリーンアップや花壇整備には子供たちも参加し、地域の資源を確認する貴重な機会となりました。また、夏休みの期間中には、保全隊の活動を報告する会を行っていますが、様々な世代の人たちが交流する貴重な場となり、地域にも活気が出てきているように感じています。地域には集落営農組織があり、現在法人化を進めようという機運が高まってきており保全隊の活動は集落の一体感の醸成にも役立っていると考えています。引き続き地域の環境を守るべく、保全隊の活動を続けていきたいと思ひます。



花壇整備にあたっては、子供会や老人クラブなど、様々な団体の協力を得ながら植栽・草刈り等を行っています。国道に面しており、地域の景観形成に一役買っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	用野目水土里保全隊	代表	福島 寿栄
協定面積	田 54.2ha 畑 11.2ha 計 65.4ha	対象面積	田 54.2ha 畑 11.2ha 計 65.4ha		
管理施設	開水路 9 km ため池 ヶ所	農道	13.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 57人 農業団体 1団体	非農業者個人	27人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊は、基盤整備事業を契機に平成15年から24年までの10年間水田を「所有は個人、利用は皆で」を合言葉に集落一括管理方式で取組んでいたことから、本事業の合意形成はスムーズにまとまりました。特に実施初年度、平成19年9月の集中豪雨による米代川氾濫では、当集落内の水路や一部水田は立木の倒木や土砂の流入などの被害を受けましたが、集落全戸出役による撤去処理で復元されました。このことから「まとまってやれば出来る」と結束の大切さを集落全戸で共有でき、良かったと思っております。

この事業対象の畑11.2ha周辺には当集落の山林・畑が約80haあります。25年からの第2期10年は集落内の土地全部を一括管理方式で纏めたいと考えているため、本事業の継続はもとより、施設の長寿命化につながる「向上対策事業」には23年度から実施しており、24年度からは「環境保全型直接支援事業」にも取組するべく準備を進めています。

集落内にある土地資源と労働力を有効に活用する集落営農事業では就労期間の拡大を目的に、枝豆収穫：8/初～10/中を主体にアスパラガス促成栽培：1/上～2/下、秋冬ネギ：10/中～12/下の作型に目途がつき栽培技術を高め安定生産、有利販売に結びつくよう努力し、これら事業展開による収益で自治会運営が出来ることを目標にしています。

様々な事業を活用しながら、集落を盛り上げたいと思っております。



(農道の草刈りの様子)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	狐平地域保全隊	代表	石井 巖
協定面積	田 31.61ha 畑 ha 計 31.61ha	対象面積	田 31.61ha 畑 ha 計 31.61ha		
管理施設	開水路 10.6 km ため池 ヶ所	農道	4.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 51人 農業団体 団体	非農業者個人	24人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、以前より自治会活動で実施していた春の用水路の泥上げ、自治会所有の運動場の3回の草刈りを保全隊活動に引き継いだものなので、自治会会員の異論なくスムーズに保全隊活動を発足することが出来ました。また、当地区で水田を耕作している農業者に対して活動内容を周知し、水路の泥上げ、農道の草刈り、水門の開閉等を自分勝手に行わないように注意喚起することを組織として呼びかけ、地域全体の農業施設を適正に保つことに最も貢献したものだと思っております。

農業用水が持つ多面的機能の理解を共有するためにも非常に有意義な活動であったと思います。その一例として、子供会活動の中で用水路の上流と下流の水質検査を実施し、生活用水がどのようにして用水路を流れ、水質の変化があるのかを感想文にして保全隊に提出してくれました。また、老人クラブでは花の植栽をする場所をごみステーションの周辺にすることを進んで実行してくれました。

このように、地域内の農業施設の保管理、多面的機能の理解、環境保全等をさまなければおさなりの効果を5年間の活動を振り返って感じたところであります。



水質調査の様子

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	下川原地域資源保全管理組合	代表	佐藤 豊栄
協定面積	田 26.8ha 畑 15.4ha 計 42.2ha	対象面積	田 26.8ha 畑 15.4ha 計 42.2ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 ヶ所	農道	7.3 km	ハ イ°ライ	km
構成員	農業者 45人 農業団体 1団体	非農業者個人	10人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当組織は、戸数60戸あまりでほとんどが農家です。この事業発足前頃より市の定住化促進事業も有り地域外からの住民も増え、非農家混在化が進み始めている状況でした。共動活動の項目そのものは、自治会として従来より実施している活動が多く、農家の理解も良く、また非農家の人達も農家の人達と協力し、理解し合いながら一緒に活動してきました。この事業は、私たち組織及び自治会にとっても非常にタイムリーで有益な事業でした。活動としては、泥上げ・河川整備・農道の砂利補充・花壇の整備等従来やってきた活動の他、水質モニタリングやトゲウオ生息地の環境整備等の取り組みも行い、結果自分達の住む所は、自分達で環境を維持向上させようという気持ちが出てきたと思います。今後はこの精神を次の管農環境面では、水路の管理・畦畔の再築立農地・畦畔等の草刈はもとより、稲わらの鋤込み(秋耕紀)の取り組み・代掻き時の濁水を直接流さないなど農作業時の環境にも配慮するようになったと思います。 当地域も高齢化が顕著になり、若い世代も仕事の兼ね合いもあり担い手不足になりつつあります。しかし農業法人が5年前発足し経営も安定してきており、地域の農業の引き受け手になろうとしています。 今後もこのような事業に積極的に取り組み、地域が明るく、楽しくなっていけたらと思います。					
					
				トゲウオ生息地の自然観察会	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	高屋水土里保全隊	代表	安保 誠一郎
協定面積	田 33.5ha 畑 30.2ha 計 63.2ha	対象面積	田 39.4ha 畑 36.2ha 計 75.6ha		
管理施設	開水路 14.6 km ため池 ヶ所	農道	21.6 km	ハ イ°ライ	km
構成員	農業者 54人 農業団体 1団体	非農業者個人	13人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地域は、鹿角市の中でも川と山に挟まれた珍しい地域環境にあり、水資源に恵まれた歴史上でも貴重な場所と言われております。その中で農業を中心に地域は発展しましたが、近年農業人口の減少、そして少子高齢化による諸問題に集落としてもその対応に苦慮しておりました。 もともと集落全体で農業用水や農道整備には取り組んでいたのですが、年々その作業に集まる人々の減少にも将来の不安を感じておりました。特に20代や30代の若い人たちの作業参加は集落の将来を考える上でとても重要な要件でした。 今回この制度により、地域消防団や子供会などの団体の参加を求めることが出来て今後の足がかりになり、また、一緒に将来を考えるきっかけ作りが出来たことは成果と言えます。若い世代に地域の歴史と良さを伝えながら自分達のルーツを知ると共に、先人の残した土地や自然を大切にすることを意識しながら、進む高齢化の中で若い世代も支え合いながら生活基盤を守る気風に繋がります。地域の歴史を学ぶ機会を持ったり、自然に関心を持つような生物調査を行ったり農道や農地の草刈、水路の整備などを通じて、地域の人の繋がりを深めながら、農業の継続を目指すために今後も若い世代の取り込みを中心に組織運営を進めていきたい。					
					
				共同作業の様子	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	小平地域環境協議会	代表	平野 亮一
協定面積	田 71ha 畑 41.9ha 計 113.2ha	対象面積	田 71ha 畑 41.9ha 計 113.2ha		
管理施設	開水路 20.2 km ため池 ヶ所	農道	12 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 155人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達協議会では設立当初、今後ますます荒廃が懸念される農地や農業用施設、農村環境の保全のため、開水路の維持点検、補修、農用地の除れきや風雪による倒木等の処理、農道の補修・点検を継続してやり続けることを目標として事業をスタートしました。 事業を実施してからは水路を利用するときのトラブル（詰まり、溢れ等）が皆無になり、農業者の皆さまには大変喜んでいただいている次第です。また、このような作業には農業者だけでなく、非農業者のみなさんや、各協力団体の皆さまにも積極的に参加していただく事ができました。未来に向け色々な意味で財産を築けたものと考えています。 今後も事業を継続するに当たり、地域全体でしっかり計画をたててみんなで事業に取り組んでいきたいと考えております。					
					
生物の生息状況調査					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	新斗米地域資源保全隊	代表	米田 新一
協定面積	田 31.4ha 畑 ha 計 31.4ha	対象面積	田 31.0ha 畑 ha 計 31.0ha		
管理施設	開水路 8.2 km ため池 ヶ所	農道	4.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 49人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 人工の減少、高齢化が進む昨今、新斗米地域でも例外ではなく、今後の集落活動の進め方についての方向性が打ち出せる道筋を付けられれば良いと思って始めた活動であった。 始めた当初は活動に積極的に大勢の構成員が参加してくれていたが年月が経つにつれ構成員の高齢化、現役世代の勤務の多様化等により活動への参加者が減少し始めてきた。そのため、活動の方向性を変更せざるを得ない状況が多々発生していった。それでも何とか工夫しながら5年間やってきたのである。そんな中でも集落内へ取水する用水路工事は構成員と地元の土木工事会社の技術協力により整備できたことはこの事業の一番の環境改善であると思われる。 農地及び農業用水路を整備するとなると農閑期のわずかな期間に集中して事業を行わなければならないためその期間内にやれることが限られてくる。そのため事業計画の立案がとても難しかった。また、当初の目的の集落活動の進め方に道筋をつけるということに関しては達成したとは言いきれない。まだまだその点には課題が残るものの、この5年間地域のみんで取り組んだ農地水の事業は、ひとつの財産として地域の人々の心に残ったと思う。					
					
堰上げ作業の様子					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	鹿角市	組織名	館ぼっけ隊	代表	米田 新一
協定面積	田 9.7ha 畑 9.2ha 計 18.9ha	対象面積	田 9.7ha 畑 9.2ha 計 18.9ha		
管理施設	開水路 4.7 km ため池 ヶ所	農道	2.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 43人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち“館ぼっけ隊”は、地域が誇る古き良き農村景観を将来に引き継いでいくため、自分たちで出来る範囲の活動を心がけて行ってきました。このため取組み当初から、子供からお年寄りまで必ず何らかの活動に参加しており、特に春のクリーンアップには集落人口の約半数が参加するまでになりました。

5年間の活動を振り返ってみると、泥上げや水路補修など農地や農業用施設の維持・保全活動に農業者以外の方々も多数の参加があり、また、親子で参加した水生生物調査やかかし作り活動など、地域コミュニティや家族の絆が、より深まる良い機会となりました。

こうした活動を通じて、地域の恵まれた農村環境を再認識する機会となり、毎年最後に開催する座談会においても活発な意見交換で盛り上がっています。これからも将来にわたり自分たちの手で地域の特徴である“秋田蕎麦の里”としての景観を守っていきたいと思います。

道路沿いに設置したかかし。道行く人たちの目をひきました。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	小坂町	住 所	鹿角郡小坂町小坂鉦山字尾樽部 3 7 - 2	電 話	0186-29-3912
担当部署	小坂町観光産業課農林班		担当者	細越 浩美	

(5年間の感想等記入)

農地・水・環境保全向上対策の取り組みに参画した地域は、従来より結束の強い地域でありこの活動によって地域活動のさらなる向上が見られました。
 その影響は集落活動全般に波及し、大変良い影響を与えることができたと考えられます。
 具体的には、子どもと大人、高齢者の多世代交流の促進、農村景観に対する意識向上の芽生え、農業用施設管理の体系化、集落状況の把握等が挙げられます。
 さらに集落内の交流が進むことによる情報交換の中から、地域の見守り活動に結びつくような事例もありました。
 このような取り組みは集落内全体ばかりでなく、周辺の未実施集落へも好影響を与えており、類似する活動を実施する事例もいくつか見受けられるようになりました。
 この5年間、農地・水・環境保全向上活動を取り組んだことは、町全体にとっても良いことであったと考えられます。
 しかし、この活動の事務処理は大変複雑で、農家が農作業の合間に取り組むにはハードルが高く、担当役員の苦労は大変なものでありました。次期対策にはその点を考慮した内容になるよう希望いたします。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

小坂町	耕地面積	田	474	ha	畑	420	ha	合計	894	ha
平成19年度	協定面積	田	247.50	ha	畑	0.00	ha	合計	247.50	ha
平成20年度	協定面積	田	247.50	ha	畑	0.00	ha	合計	247.50	ha
平成21年度	協定面積	田	247.50	ha	畑	0.00	ha	合計	247.50	ha
平成22年度	協定面積	田	247.50	ha	畑	0.00	ha	合計	247.50	ha
平成23年度	協定面積	田	236.00	ha	畑	0.00	ha	合計	236.00	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	247.50	ha	10,890,000円					
平成20年度	対象面積	計	247.50	ha	10,890,000円					
平成21年度	対象面積	計	247.50	ha	10,890,000円					
平成22年度	対象面積	計	247.50	ha	10,890,000円					
平成23年度	対象面積	計	236.00	ha	9,772,912円					
					合計	53,332,912円				
活動組織名称		小坂町				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0022	荒川田園環保倶楽部									
0023	砂子沢地域農村環境保全協議会									
0024	岩沢農地・水・環境保全隊									
0025	万谷地域水田管理協議会									
0026	上川原環境保全共同体									
0027	濁川地域資源保全活動組織									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	小坂町	組織名	岩沢農地・水・環境保全隊	代表	熊谷 直美
協定面積	田 29.5ha 畑 ha 計 29.5ha	対象面積	田 29.5ha 畑 ha 計 29.5ha		
管理施設	開水路 3.8 km ため池 ヶ所	農道	1.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 25人 農業団体 1団体	非農業者個人	27人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

昭和40年代前半に地域は区画整備され、比較的整理された水田と転作地。岩沢地区は地域において、整備された土地柄のように見えるが、整備されてから50年にもなり、いろいろなところで手をほどこさなくてはならないような状態にあります。

景観豊かなこの水田と街並み、整備されきれいな水が流れる用水路、私たちはいつまでもこの豊かな自然ときれいな水を守ってゆくため、この活動を行ってきました。

地域の農業者が年々減少し、この集落へも他地域からの移住者も増え、また農業を再開する人がいるなど、地域農業活動や個々の活動は一部の地域活動を除き、個々の取り組みでおこなわれ、昔の「ゆい」農業「よいこ」農業は名ばかりのものとなっていました。そんな中での共同作業、どうしてもその地域の作業になじめないなど、最初は足踏みをしていた農業者以外の人たちも、いつの間にか作業に加わり地域の和と協力が生まれつつあるようになりました。

草刈りや水路の砂利あげ、そして水路の通水など毎年行わなくてはならないことが必然的に皆の協力で行えるようになり、水路のごみや砂利はきれいに整備され、「当初始めたころに比べるとずいぶんと畝畔や水路がきれいになったな!」と、誰となく言われるようになりました。

この活動を通じて私たちは地域の農業施設を大切にし、自然の保全管理をしっかりとてゆくことが景観を良くし、住みよい地域づくりになることを確認し合いました。



手入れの行き届いた水田

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	小坂町	組織名	荒川田園環境倶楽部	代表	福田 穰
協定面積	田 30.3ha 畑 ha 計 30.3ha	対象面積	田 30.3ha 畑 ha 計 30.3ha		
管理施設	開水路 5.4 km ため池 ヶ所	農道	3.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 人 農業団体 1団体	非農業者個人	1人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

5年間の事業を推進する中で①地域活動をするにより、地区農家の積極性(反面消極性)が把握できたこともあり、今後の集落の中心的な若い人を後押しできたことは良かった。②集落の将来像をアンケートにより探ったが10年後の体制が5年に縮まった。これは年配の担い手の離脱により、またそれに乗じて兼業農家の委託が増えた。集積となったことは良いことだが、若い担い手がまかないきれいか、今後の経営の仕方を模索しなければならない。③維持管理の部門で10~20年後の将来を予測し、古い地区で見られるよう、U字溝の壊れに対しふたをかけたことは、対処できるであろう(今後の効果)④小学校の農業体験学習は子どもたちの学習(体験不足の)にも良い効果をもたらし、この事業は終了後も継続となった。私たちにとても楽しい事業でした。以上です。



小学生との農業体験学習

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	小坂町	組織名	万谷地域水田管理協議会	代表	安保 富雄
協定面積	田 35ha 畑 ha 計 35ha	対象面積	田 35ha 畑 ha 計 35ha		
管理施設	開水路 2.7 km ため池 ヲ所	農道	3.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 59人 農業団体 1団体	非農業者個人	25人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当団体では、年々減少傾向にある農家戸数に危機感を持ち、今回の共同活動支援交付金での地域活動に取り組むこととしました。5年間の活動内容は、春からの水路の泥上げ、農道の砂利補充、対象区域内の草刈り作業、農道花壇作り、年2回の農業学習会、子どもたちによる水質調査等が年間の主な活動となりました。これまで自治会で取り組んでいた地域の共同作業が、改めて各個人個人の意識を変え、これからの農業への取り組みを新たに模索する大きな機会となりました。

また、共同作業による会員間の親睦も深まり、現在の地域農業の現状を共通理解し合えたのも大きな収穫となりました。今後10年後に14%農家戸数が減少すると予測されている中、現在進められている圃場整備と合わせ、集落営農組織をつくり、農業生産法人等の設立に向けた話し合いがされるなど、耕作放棄地・無耕作地を増やさないような取り組みが求められています。

これまでの5年間の活動が、町・県・国の関係職員のご指導・ご協力により無事終わることに深く感謝するとともに、これからの地域農業に若い後継者が増え農道花壇の植栽には、多くを願っております。



農道花壇の植栽には、多くの地域住民が参加し、田園風景をさらに美しくします。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	小坂町	組織名	砂子沢地域農村環境保全協議会	代表	木村 恭一
協定面積	田 37.4ha 畑 ha 計 37.4ha	対象面積	田 37.4ha 畑 ha 計 37.4ha		
管理施設	開水路 8.5 km ため池 ヲ所	農道	7.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 26人 農業団体 団体	非農業者個人	33人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域では、これまでも水路の維持管理作業は共同で実施してきました。しかし、その他の活動への発展までは思いが及ばなかったことから、集落の活性化につながって欲しいとの願いもあって、取り組みを始めたものです。

活動当初は、子どもたちと一緒にの行事も実施したのですが、その後参加できる子どもがほとんどいなくなり、小規模な活動体の限界を知らされました。

それでも非農家の方々に声をかけ続け、対象区域内での景観作り活動を継続してきました。特に農道などへの水仙球根の植栽を継続できたことは何よりで、散歩や農作業の合間に黄色の花々が「いやし」を与えてくれます。地形的に楽さの大きい沢地帯のため、畦畔や農道法面の草刈りは、面積も大きく急峻できわめて難儀をしていますが共同活動に位置づけてきたから、皆でがんばり通せたと思います。



農道への水仙球根の植栽。毎年春には黄色い花を見るのが楽しみとなった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	小坂町	組織名	上川原環境保全共同体	代表	亀田 誠一
協定面積	田 33.8ha 畑 ha 計 33.8ha	対象面積	田 33.8ha 畑 ha 計 33.8ha		
管理施設	開水路 13.9 km ため池 ヶ所	農道	5.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 26人	農業団体	団体	非農業者個人 10人	非農業団体 4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの環境保全共同体では、農地・農業用水等の資源の基礎的な保全管理として水路の草刈り、泥上げ、農道の砂利補充等を実施してまいりました。そして水質保全では農業用水の水質モニタリングを実施し、施設の適正管理に努め、また非灌漑期には地域用水としても利用し、管理を行ってきました。そして景観形成・生活環境保全活動を対象に、花の植栽とその後の管理を集落全体で取り組んでまいりました。

24年～28年度までの共同活動交付金には取り組まないにしても、これまでの5年間で培ってきた地域の「協働力」と「参加意識」をさらに高めて、農家、非農家を問わず身の丈にあったこれまでの活動を継続しながら、農家集落「我が郷土」をみんなで守っていききたいと思います。



集落全体での景観形成のための共同作業。花の植栽を行っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	小坂町	組織名	濁川地域資源保全活動組織	代表	杉原 庄吾
協定面積	田 81.5ha 畑 ha 計 81.5ha	対象面積	田 81.5ha 畑 ha 計 81.5ha		
管理施設	開水路 1.9 km	ため池 ヶ所	農道 1.35 km	ハイライン	2.5 km
構成員	農業者 107人	農業団体 1団体	非農業者個人 12人	非農業団体	1団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

＊私たち濁川保全隊では、水路や農道の草刈りを主軸に遊休農地の景観形成と水路の破損施設改修を行って後世に伝えられる農地を残そうと活動してきました。特に大型の法面では、左の写真の如く、雑木が繁茂し、農地が見渡せない程の藪であったが、右の写真の如く、集落の全体を見渡せるようその景観は素晴らしいものになりました。関係者の皆は、これを自己意識のもとで維持管理することに大きな喜びを感じているところです。



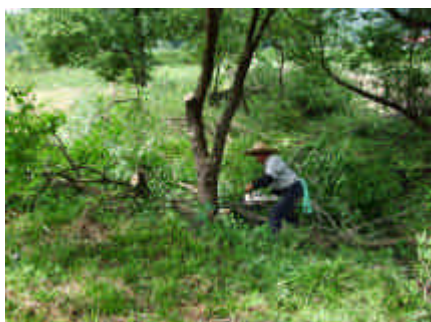
落差10mの法面、雑木伐採中)



落差30mの法面、雑木伐採後の草刈り)

＊遊休農地への景観形成は、菜花を栽培して耕作放棄地の再生を図ろうという活動です。遊休農地の状態から早くも藪の原野と化し、柳の大木さえも茂っている状態でした。そうした藪を刈り払って、また減反政策に抵触しないよう、町の奨励作物である菜の花を植栽したのです。

菜の花栽培は、菜種油を搾油し、それを更に廃油の回収に繋げて、リサイクルに取り組もうという活動です。それまで、ヨモギやススキが繁茂した圃場に綺麗な花が一面に咲き誇って、集落の自慢の一つでもあります。



圃場に生え茂った柳の大木を伐採中)



嘗て、遊休農地の一面に咲き誇った菜花)

＊開水路の改修事業

開水路の改修事業には、破損コンクリート製U字溝の交換と素掘り水路へのコンクリートU字溝の敷設があります。その改修総延長は、この5年間で400m余に及びます。

目地補修まで含めると、2kmを超えています。この事業は、特に冷水のかかる水田や山の斜面に沿う素掘り水路において、維持管理の面では大変喜ばれている処です。



斜面沿いの素掘り水路に敷設工事中)



破損U字溝を新品と交換)

＊この活動を通じて良かったこと

構成員の参加を共同活動参加者名簿から統計しますと、年間延べ人員において、構成員一人当たり3回以上参加しており、非農業者を層別しても体勢的に見地から、6割の人が参加している計算になります。即ち、それ丈この活動に対する理解が得られているものと考えます。この事業を通じて、草茫々の畔や農用地が見られなくなり、本来の姿を取り戻しつつあると思います。それから、不具合の施設があれば、忌憚のない意見がでるようになっています。それぞれ、個別の維持管理において、その関連的な共同意識が芽生えたもの、と思料致しております。 以上

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	大館市	住 所	秋田県大館市字中城20	電 話	0186-43-7075
担当部署	産業部 農林課 農村整備係	担当者	今畠将樹		

(5年間の感想等記入)

大館市では46活動組織が共同活動に取り組んできました。

開始当時は共同活動を行うにあたり農業者以外の方からどの程度の参加が得られるか不安を抱えながらのスタートでしたが、農村環境向上活動を中心に幅広い世代の方に参加していただくことができました。最近の活動組織との意見交換では、本対策の成果として農地や農業用施設の保全面積が適切に行われたことは勿論、様々な実践活動を通して地域住民の交流の場が増え、地域における課題やそれを解消するために今後何をすべきなのかを話し合い、共有できたことを挙げる方も多くいました。活動内容からもその変化が見られ、開始当時は殆どの組織で同じような活動をしていたのが、後半になると農用地等を活用して菜種油やジャムを作ったり、ため池や水路で生物調査を行う等、それぞれの地域の特長を生かした実践活動を行うようになってきました。組織の代表者や役員の方が計画段階で工夫をされたのでしょうか、地域内で良好な関係を築くことができたからこそ、このような新しい活動を試してみようという意欲に繋がったものだと思います。

平成19年度に始まりました農地・水・環境保全向上対策も名称や制度内容の変更はありましたが、平成24年度以降も継続されることが決まりました。体制整備構想を作成した際、多くの活動組織で10年後の就農者や共同活動参加者が予想以上に減少するという結果になりました。農業の持続的発展と多面的機能の健全な発揮を図るためにも、共同活動の大切さを再認識すると共に、これまで培ってきたものを活かしより一層の効果をもたらすことができるよう、活動組織との連携を大切にしながら今後も進めていきたいと考えております。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

大館市	耕地面積	田	6,560	ha	畑	1,270	ha	合計	7,830	ha
平成19年度	協定面積	田	2,151.19	ha	畑	35.15	ha	合計	2,186.34	ha
平成20年度	協定面積	田	2,151.19	ha	畑	35.15	ha	合計	2,186.34	ha
平成21年度	協定面積	田	2,151.09	ha	畑	35.15	ha	合計	2,186.24	ha
平成22年度	協定面積	田	2,151.09	ha	畑	35.15	ha	合計	2,186.24	ha
平成23年度	協定面積	田	2,148.39	ha	畑	35.95	ha	合計	2,184.34	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	2,027.41	ha	87,589,920円					
平成20年度	対象面積	計	2,027.41	ha	87,589,920円					
平成21年度	対象面積	計	2,006.27	ha	86,659,760円					
平成22年度	対象面積	計	1,966.41	ha	84,905,920円					
平成23年度	対象面積	計	1,987.91	ha	84,452,378円					
合計					431,197,898円					
活動組織名称		大館市				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0028	餌釣・池内地区環境保全組合				0036	浦山地域資源保全向上隊				
0029	曲田活動組織				0037	葛原大堰環境保全向上組合				
0030	山館地域資源保全隊				0038	猿間地域保全隊				
0031	小館花地域環境保全隊				0039	軽井沢地域資源保全隊				
0032	立花地域農用地保全活動協議会				0040	小茂内地域農地保全隊				
0033	餅田環境保全組織				0041	大茂内農地。水。ため池。環境保全隊				
0034	沼館地域環境保全会議				0042	塞ノ神地域資源保全隊				
0035	別所地区環境保全組合				0043	小坪川原地域資源保全向上活動隊				

活動組織名称 大館市

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0044	高村地域環境保全協議会		
0045	比内前田地域自然環境を守る会		
0046	本宮地域自然環境を守る会		
0047	大岱地域資源保全隊		
0048	赤川地域資源保全隊		
0049	田の沢地域資源保全隊		
0050	蛭沢地域資源保全隊		
0051	田茂の木地域資源保全隊		
0052	赤坂・向館地域資源保全隊		
0053	柏木地域資源保全隊		
0054	長坂地域資源保全隊		
0055	炭谷の環境を守る会		
0056	中野環境保全会		
0057	五日市地域資源保全隊		
0058	田尻資源保全隊		
0059	新館地域農村環境保全対策事業協議会		
0060	駒橋環境保全会		
0061	釣田クリーン保全隊		
0062	水曲地域資源保全隊		
0063	笹館環境保全隊		
0064	小新田集落環境保全活動組織		
0065	羽立地区農地・水・環境保全向上活動組織		
0066	大巻地域資源環境保全会		
0067	寺崎地域環境保全隊		
0068	八木橋地区環境保全隊		
0069	畠沢地域資源保全隊		
0070	小坪沢地域資源保全隊		
0071	大葛地域環境保全組織		
0072	森合堰地域資源保全隊		
	向黒沢地区資源保全会（※北秋田市）		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	餌釣・池内地区環境保全組合	代表	本多 貞利
協定面積	田 104.6ha 畑 ha 計 104.6ha	対象面積	田 88.0ha 畑 ha 計 88.0ha		
管理施設	開水路 20.8 km	ため池 2ヶ所	農道 7.4 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 145人	農業団体 3団体	非農業者個人 3人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全組合が活動している地域は農地と宅地の混住化が進んでおり、宅地・店舗・事業所などからの排水が農業用水路に流入しているため、活動当初から「農業用施設の多面的機能」と「水土里の大切さ」を地域の人達に理解して欲しいという思いで取り組んできました。毎年、農家の人達を中心に泥上げ、草刈りなどの共同活動を行ってきましたが、これに刺激されたのか、自発的に自分の周りの草刈り、ゴミ上げなどを行う店舗・事業所が増えてきたように思います。

また、水質モニタリングやため池などの生き物調査では子供達が実際に自分の目で観察することにより「小さな生き物たちが棲む環境＝水環境」の大切さを学びました。身近な水辺に多種多様な生き物を確認出来たことは、子供だけでなく大人も驚きましたし、地域の環境に自信が持てたような気がします。

ほかにもゴミ拾い、花の植栽、施設の補修作業など様々な活動を行いました。最初は戸惑いながらの活動も年を重ねるごとに参加者が増え、まとまりが増して地域に元気が出てきたと思います。これからもこのまとまりを大切に共同活動を行うことによって「農業用施設の大切さ」「水の大切さ」を地域に発信していきたいと思っています。



餌釣ため池の水が流れる餌釣沢川での生き物調査。ケラの仲間やカワトンボ、ミズカマキリ、小魚、ドジョウ、ヌマエビ、ヤゴなどが確認出来ました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	曲田活動組織	代表	畠山 和夫
協定面積	田 55.9ha 畑 ha 計 55.9ha	対象面積	田 55.6ha 畑 ha 計 55.6ha		
管理施設	開水路 12.9 km	ため池 ヶ所	農道 6.4 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 38人	農業団体 1団体	非農業者個人 183人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域では、本対策実施以前においては、水路・ため池・農道・揚水施設等の農業施設の維持管理は、地元水利組合を中心に農業者およびその家族などで実施していました。しかし、基盤整備の立ち遅れている当地区においては、幹線水路の土堀り区間の距離も長く、農業者の高齢化・減少などにより、泥上げや草刈りなどその維持管理は人員の確保や労賃等の支払い等などの面において、水利組合の運営を圧迫しておりましたが、本対策を実施してからは、金銭的な面ばかりではなく、労力の確保においても、徐々に非農家の方々にも参加いただけるようになり、ありがたく思っています。また、「農地・水向上活動」において、老朽化や災害等により破損した施設の改修なども行うことが出来て、当地区の農業施設の保全に大変役立っていただきました。

環境保全については、国道や農道周辺のクリーンアップは、従来から実施していましたが、農業施設を含めた地域全体の環境保全向上については、あまり関心を持たれていなかったのが実情でしたが、水質モニタリングの実施や景観形成のための花の植栽、広報紙などを通じて、農地や水の重要性や地域の環境について、多少なりとも関心をもっていただけだったものと思います。



地域の幹線農道脇に子供会・寿社会による景観形成のための花苗を植栽すると共に子供たちと地域のお年寄りの交流を深めました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	山館地域資源保全隊	代表	藤原勝美
協定面積	田 60.3ha 畑 ha 計 60.3ha	対象面積	田 44.9ha 畑 ha 計 44.9ha		
管理施設	開水路 22.7 km ため池 ヶ所 農道 9.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 94人 農業団体 1団体	非農業者個人 3人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全隊の活動目的は、地域の環境整備を行いながら将来を担う子供達に農業用施設の大切さを伝えようというものでした。当地域は、泥上げなどの共同作業を通じて以前から農家のまとまりはある程度形成されていましたが、世代を超えた地域住民のまとまりという点で当初不安があったので、保全隊活動では誰もが参加しやすい花の植栽や水質モニタリングを実施しました。たくさんの地域住民が参加して地域の環境向上活動を行ったことで、非農家住民や子供達も共同活動の楽しさを実感し、地域住民の交流が生まれ、農業用施設や地域環境の保全に興味をもって貰うことが出来ました。また、地域住民のみならず、児童館と協力して園児達と一緒に休耕田にヒマワリを植える活動も行い、広く地域環境を守ることの大切さをPR出来たと思います。

農地・水向上活動の方では、以前は農家主体であった草刈り作業などに、徐々にではありますが非農家や若い世代の住民が参加し始めてきました。様々な活動を通じて農業用施設が貴重な地域資源であることが理解され始めた結果だと思っています。

「自分達の地域は自分達で守る」今後も、地域のつながりを大切にし地域環境の保全を考えていきたいと思っています。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	小館花地域環境保全隊	代表	伊藤 昇
協定面積	田 60.7ha 畑 ha 計 60.7ha	対象面積	田 60.7ha 畑 ha 計 60.7ha		
管理施設	開水路 14.3 km ため池 ヶ所 農道 6.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 87人 農業団体 1団体	非農業者個人 5人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

小館花地域は、農用地と高台にある住宅地がはっきりと別れているという特徴があることから非農家の人達にいかにして農村環境に関心を持って貰うかが課題でした。泥上げなどの共同活動を通じて農家同志のつながりはあったものの、非農家にあっては農用地を知らない人もおり、農家との結び付きはあまりなかったため、婦人会、子供会を中心に花の植栽活動と水質モニタリングに取り組みました。当初は戸惑いながらの活動でしたが、徐々に非農家の参加人数も増え、子供も大人も一緒に汗をかきながら活動を行うようになりました。水路の脇に花を植えることで水路に関心を持ち、その水路に流れる水を調べ、水を管理する水土里ネット大館南の協力を得て頭首工の施設見学なども行いました。こうした活動が実を結び、農業用施設や水の大切さに理解を深め、地域住民とのつながりが出来たことが一番の成果であると思っています。

保全隊活動で培った地域住民のつながりや活動精神を今後も持続するため、農家と非農家がお互いに理解し合い、出来ることを分担して行うことで地域資源や環境の維持保全を図りたいと考えています。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	立花地域農用地保全活動協議会	代表	長崎 章夫
協定面積	田 63.8ha 畑 ha 計 63.8ha	対象面積	田 61.9ha 畑 ha 計 61.9ha		
管理施設	開水路 14.3 km	ため池 ヶ所	農道 6.1 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 21人	農業団体 4団体	非農業者 人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

立花地域農用地保全活動協議会は、将来の地域農業発展を祈りながら、集落農業の将来計画に基づきその一部分を農地水環境保全向上対策で実施してきました。基盤整備が終了していることから、農道幅が広く、有効活用を図るため農道脇にプランターを設置し、ラベンダー、アジサイ、木イチゴ（ブラックベリー、ラズベリー、黄味イチゴ）、エキナセア、ハマナス等を植栽し地域住民の散策の場となっています。将来は「田の中公園」として、地域住民の散策だけでなく、都市と農村、消費者と生産者との交流を図る場としていきたいと考えております。

今まで県管理の河川堤防に木が生い茂り景観を害しておりましたが、この事業で刈り払い景観の向上を図ってきました。また、毎年1種類花木を植栽してきましたが、植栽に当たっては地域住民の総行動日として老人会から子供会まで60人以上の参加者を得て行ってきました。立花の場合一つの作業にこれだけの人の参加での行事はありませんでした。ラベンダー祭りやブラックベリー、ハマナスを活用した摘み取り体験は、地域の住民が積極的に参加するなど住民の連帯感が生まれてきたことは良かったと思います。

当地域は、集落営農・立花ファームが組織化され将来は農業をより発展させ、農業で地域を自立させようと計画立案し、それに向かって進めてきております。この事業を大いに活用し、立花ファームと連携し地域の発展に結び付けていきたいと考えております。



農道脇にプランターを配し、ラベンダーを植栽、地域住民との交流、憩いの場となっている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	餅田環境保全組織	代表	石川 久晴
協定面積	田 34.2ha 畑 ha 計 34.2ha	対象面積	田 31.2ha 畑 ha 計 31.2ha		
管理施設	開水路 2.7 km	ため池 ヶ所	農道 2.9 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 69人	農業団体 1団体	非農業者 人	非農業業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達は、農業活動の法人化を進めるために、既存の集団栽培組合を中心に農作業の共同化を推進し、効率化と低コストの農業活動を行って参りましたが、環境保全活動に取り組むことによって地域全体が、農業への関心と、環境整備への取り組み方に変化が出て参りました。

農業施設整備では、用水確保のため、開水路の破損が激しい箇所補修整備、揚水場の老朽箇所を維持補修をすることができました。

環境保全活動では、地域の老若男女の参加による花の植栽活動大きな事業でした。国体で、来館いただいた他県のチームを花ロードで迎えようと農道に植えたことが、継続事業として楽しく活動しています。

また、小学生と用水路の水質検査を行い、食に対する「水」の大切さを確認することもできました。

この環境保全活動を通して地域活動に参加することで、地域コミュニケーションづくりの一環として町内挨拶運動も展開することができ、地域の「和」が築かれたと実感しています。



7月の花植栽活動で、ペゴニアとマリーゴールドを植えました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	沼館地域環境保全会議	代表	虻川 宏
協定面積	田 56.4ha 畑 0.8ha 計 57.2ha	対象面積	田 56.4ha 畑 ha 計 56.4ha		
管理施設	開水路 11.8 km	ため池 ヶ所	農道 7.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 121人	農業団体 団体	非農業者個人 5人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当町内は少子高齢化が進み、また景気低迷による影響か若者の失業者も多く、町内の雰囲気は暗く、または世の流れなのか隣近所とのかかわりが薄らいでいく、先々に希望の見えない沈滞ムードにあると思えるような状況でした。そんな折、町内ぐるみで取り組むべき一つの方向性を示すものとして「農地・水・環境向上対策」が示されました。町内の役員会と老人クラブ、婦人会、青年会、子供会の団体の代表とこのことについて会議をしたところ、ぜひ取り組むべきであるとのことであった。その他町内会総会を通してこの話をしたら、何かに餓えていたかのように賛同の声が上がった。このことを受けて各団体の代表者が中心となり「環境保全会議」という組織を作り事業に取り組むことにしました。当初はどのように進めたらよいのか役員の戸惑いもありましたが、各団体や町内の皆さんの後押しがあり、また市担当課の助言もあり計画した活動等予想以上にスムーズに進められまた成果が上げられました。農業者が難渋してあった水路の泥上げや、農道の草刈り、農道の砂利敷きなど農業者以外の方々にも呼びかけをしたところ、参加が予想以上であり、耕作者から大いに喜ばれています。引きこもりがちな高齢者の活動への参加や、子供達の水質検査や生き物調査などで自然への触れ合いができ貴重な体験ができ大変良かったと思います。実質的な農地・水・環境向上活動の成果がありましたが、相乗効果として農業者が非農業者や他町内からの参加者があり手伝ってくれるのかとの思いがあったこと。高齢者の方々がまだ「皆の役に立てる」という充実感を抱いたこと。子供達の自然に触れた時のあの歓喜の声。町内総出の一斉清掃や花の植栽等を通して高齢者から子供まで和やかな会話が入り乱れていました。活動が進むにつれ次第に町内の人たちの挨拶がなされるようになり、町内会活動もスムーズになり、町内が明るくなったことがこの事業にかかわった人たちのおおきな喜びです。この明るい町内を継続できるよう盛り上げていきたいと思っています。



景観形成のための施設への植栽を行い、地域住民の交流や安らぎの場を提供することができた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	別所地区環境保全組合	代表	畠山 保丸
協定面積	田 74.0ha 畑 ha 計 74.0ha	対象面積	田 74.0ha 畑 ha 計 74.0ha		
管理施設	開水路 28.7 km	ため池 3ヶ所	農道 10.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 86人	農業団体 3団体	非農業者個人 4人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全組合は、中山間地のこの緑豊かな農村環境を次の世代に残し、継いでもらうことを目標に活動してきました。4月の地区総参加による清掃を皮切りに活動が展開されます。おもな活動は、水田用施設の維持・管理であり、改修を行うにあたり、技術を持っている者の指導のもと、組合員一丸となって活動してきました。水路には、山林の斜面に手掘りで作ったものもあり、これを維持するのは倒木、杉の葉の片づけ等色々苦労もありますが、夏の杉木立の中にある水路の景観には心が癒されます。

景観形成活動では寿社会による花の定植、草取りが多数の参加者者により行われました。回を重ねるごとに参加者の楽しみとなり、一体感が増しました。農道を通るときに目に入る色とりどりの花はこれまで当地域を支えてきた人たちの励ましであります。

子供会では親子総出で農道の清掃活動をにぎやかに行いました。子供たちが自分の手で缶拾いを行い、きれいにすることを体験し少しでも地域を大切にすることが芽生えたと思います。この「農地・水・環境保全向上対策」の活動を実施してきて、自分たちの施設は自分たちで守るという気概を培うことができました。

そして、これらの施設と景観を次の世代に継承してもらうためにさらに改修を続け、寿社会、子供会とも連携を取りこの地域を守っていききたいと思います。



7月に行われた子供会による清掃活動です。朝早くからお父さん、お母さんと缶拾いを行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	浦山地域資源保全向上隊	代表	阿部岩雄
協定面積	田 44.3ha 畑 ha 計 44.3ha	対象面積	田 42.4ha 畑 ha 計 42.4ha		
管理施設	開水路 13.1 km ため池 ヲ所 農道 4.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 77人 農業団体 3団体	非農業者個人 13人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

浦山地域資源保全向上隊として、春先のクリーンアップから水路の泥上げ、農道の保全等様々な活動を行ってきましたが、子供会・婦人会・町内会といった地域住民とのふれあう機会が多く得られたのが良かったと思います。クリーンアップでは町内のほぼ全戸から参加となり、地域の景観形成向上活動に貢献できました。また、農道の景観整備として花の植栽も5年間継続して行ったことで、保全隊活動以前とは違った景観形成が出来たことも地域の農村環境向上に役立てたと思います。

農業者の高齢化・離農者が進む中で当地区においても遊休農地の発生が懸案事項の一つとなっていました。保全隊の活動により減反としていた水田に生茂っていた木の伐採・草刈りを実施したことで遊休農地発生抑制・解消が出来たのも保全隊の取り組みのおかげでした。

さらに、サイホンに入る前の沈砂地の補強・米代川の取水口の補強等の開水路の補修が出来たことは、今後の営農活動に安心をもたらす事となりました。

次年度以降も保全隊の活動を継続する予定なので、地域の農業・農村環境向上のチカラになれるように取り組んで行きたいと思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	葛原大堰環境保全向上組合	代表	佐藤 久司
協定面積	田 76.9ha 畑 ha 計 76.9ha	対象面積	田 76.9ha 畑 ha 計 76.9ha		
管理施設	開水路 19.7 km ため池 ヲ所 農道 12.4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 160人 農業団体 3団体	非農業者個人 3人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

我が集落の大堰は、旧南部領から取水源として米代川から入ってくる。東から西へ6kmに及び、約70haの水田が広がっている。葛原大堰環境保全向上事業としてはじめられた5年間の事業、当局の指導のもとに取り組んだけれど、先ず集落全体の田の地形、字名地番を確認することからはじめた。

水路わきの田からの空き缶拾い、水路点検、清掃、どろ揚げと共に田起こし、水張り、代かき、田植えまで一連の作業を進める内に、あれこれとやるべきことが見えてきました。水路わきへの花植え、雪で倒れかかり錆びたりしたガードレールの補修、農道へ曲がる出入り口の拡幅、農道への砂利敷設、水取り入れ口の改善等次々とやるべきことが見えてきました。

集落の皆さんから力を借りられ、固い絆が確かなものだと思います。子供たちの力も借り9つに分けての花の植栽管理、寿社会の農道の草刈り作業等々、結束がなければ到底成し得なかったことでしょう。

遅ればせながら、R103号葛原バイパスもH31年に開通の見通しがつかしました。今後これを中心にして本格的な基盤整備をしなければならなくなろう。その為にはさらなる結束のもと思い切った決断をする時が来る、そう願いたいと思います。

それまでに一人一人が自覚をし、力を貯めておいてもらいたいと考えます。



通水機能の維持を図り生活環境をよくする為、4月と7月の年2回、40名前後の参加者により大堰の草刈り、泥上げ作業をしました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	猿間地域保全隊	代表	畠山 修一
協定面積	田 45.6ha 畑 ha 計 45.6ha	対象面積	田 45.3ha 畑 ha 計 45.3ha		
管理施設	開水路 9.7 km ため池 ヶ所	農道	5.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 46人 農業団体 団体	非農業者個人	7人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊は、保全隊活動を実施する前は農業者が構成する改良区組合員だけで施設の維持・管理を行っていましたが、この活動により地域の非農家、婦人会、老人クラブ、子供会の参加を取込む事が出来、活動目的である地域一体活動が出来ました。また、この事により、地域の”和”が一層強くなったと感じました。活動内容は、①春の農作業前の水路の草刈り・泥上げ、②道路脇への花の定植作業及びその後の管理等、③小学生による水質モニタリングの実施(年2～3回)④破損施設の改修等や農道への敷砂利補充の実施、⑤冬期間の通水の為の水路の草刈り作業等の実施を行ってきました。何れの作業にも非農家の方の参加を頂き、構成員全員で地域の財産である農業施設等の重要性をお互い再認識しました。活動日の天候は雨や雪の日も多く大変だったと思いました。

しかし、初夏には少しですけれどもホタルも見られ環境となりました。又6月から10月迄は花も見られ自分達が活動してきた事が年々自信となっています。この生活環境を維持していく為に改めて構成員の生活形態(下水等)を考えていかなければならないと感じています。



6月の日曜日にベコニアの花の植付け作業を小学生、婦人会、老人クラブ、農家、非農家等で行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	軽井沢地域資源保全隊	代表	佐々木 哲雄
協定面積	田 21.8ha 畑 ha 計 21.8ha	対象面積	田 21.3ha 畑 ha 計 21.3ha		
管理施設	開水路 12.5 km ため池 1ヶ所	農道	5.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 40人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全隊で第一の取り組みたい目標は、地域内に未整理の耕地及び、水路、農道等の農作業に支障をきたす箇所があり、その改善を考えてスタートしました。第二に地域全体で取り組むこととして、全域クリーンナップと地域内の景観を保つこととして婦人部の協力で花壇作りに取り組みました。農道保全のため定期的に砂利敷等を行いました。

併せて周辺の草刈りを春から秋まで3～4回行いました。用水路整備として特に水通しの悪い箇所を整備し、農道整備も完備することができました。

春のクリーンナップは、市の行事と同時に行うことができました。花壇づくりは地域内に数ヶ所設置し周囲に喜ばれております。

小学生を対象に水質検査を行い、水質改善に取り組みました。

また、遊休農地解消を呼びかけ全員で取り組み、耕作放棄地を無くす取組みをしました。



遊休農地の草刈りを共同作業で行い耕作放棄地の解消に努めました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	小茂内地域農地保全隊	代表	石垣 忠廣
協定面積	田 29.9ha 畑 ha 計 29.9ha	対象面積	田 29.9 ha 畑 ha 計 29.9ha		
管理施設	開水路 11.3 km	ため池 ヶ所	農道 3.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 18人	農業団体 3団体	非農業者個人 15人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全活動の目的は、担い手育成基盤整備事業により、集落中心に360°広まる約30haの水田とその施設維持、そして環境の保全を目的として活動を行ってきました。取り組みにあたっては町内にあるほとんどの組織を取り込み、春の『清掃活動』では子供会も参画し『景観形成活動』ではプランターを用いた”花の植栽”を老人クラブと婦人会が担当し長期間に渡る水管理に大変な苦労もありましたが5年間に継続され、それぞれの組織の団結がさらに強まったと感じています。基盤整備完了からすでに十数年経過し、農用地及び農道にはすでに樹木が大きく成長しており個々の農業者だけでは到底なし得ない伐採活動や刈払い活動も、保全隊によってその機能回復と維持保全が図られました。現在、農業者以外の方々も農業用水が持つ多目的機能を理解し、地域みんなで農業施設を長持ちさせようという機運が深まっております。また、農業施設の保全管理は水路の草刈りや堰上げなどの日頃の管理をみんなで行うことによって、地域の認定農業者は営農に専念することが出来、多いに感謝されています。これからも隊員のほとんどが水田地主、でありますので『農地・水・環境保全向上』活動は”集落みんなで頑張ろう”の精神で継続して行きたいと思ひます。



※長木川清流の里として、大切な水資源保全のため、5年間に渡って”水質モニタリング調査”を行い、各施設への啓蒙も図っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	大茂内農地、水、ため池、環境保全隊	代表	渡辺 修作
協定面積	田 48.9ha 畑 ha 計 48.9ha	対象面積	田 48.9 ha 畑 ha 計 48.9ha		
管理施設	開水路 12.4 km	ため池 4ヶ所	農道 7.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 28人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

地域の農地、用水等の資源は地域で守ることを柱に日頃農業者が手の届かない農業施設は共同作業の実施で、施設の長寿命化を図り将来につながる活動ができました。

- ①花の植栽について、婦人部では花の苗作りをするため、振興局の担当者を講師に種まき、3千本の花作りができるまでになりました。
- ②ため池(4カ所)の管理について、農業者で維持管理をしてきた、高齢化や離農のため年々参加者が減少し将来に不安を感じるようになりました、今回の共同活動を契機に地域全体で維持管理等資的向上に努めます、また、40年ぶりに水抜きをした、ため池は昔の面影が全然なくブラックバスが大量に生殖し、鯉、鮒、ドジョウ、小エビ、貝、メダカ等はすべてブラックバスに食べられ残っているのは50cm以上の鯉だけ、今後も地域の資源として、外来魚駆除の取り組みをします。
- ③開水路の補修について、地域には下水道がなく家庭の生活排水は開水路へ、開水路の半数以上は素掘り側溝で夏場は悪臭で窓を開けられなく、今回側溝整備し悪臭の改善と維持管理の軽減を図ることができました。
- ④菜の花栽培。搾油し各種イベントで使用。



遊休農地の草刈りを共同作業で行い耕作放棄地の解消に努めました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	塞ノ神地域資源保全隊	代表	近藤 寿一
協定面積	田 60.9ha 畑 ha 計 60.9ha	対象面積	田 60.6ha 畑 ha 計 60.6ha		
管理施設	開水路 10.9 km ため池 ヶ所	農道	5.1 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 77人 農業団体 2団体	非農業者個人	10人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は里山やため池を背景にした豊かな田園風景を形成しており、保全隊はこの環境を守り、年々薄れてきている地域内の結びつきを取り戻し、未整備のままとなっている田圃のほ場整備事業を平行して進め、地区の将来計画につなげることを目標に活動してきた。

当初から構成員の関心が高く多くの方々の参加が得られたが、地区内の耕作放棄地面積が多く夏の暑い時期の草刈り作業や草取り作業はかなりきついものとなった。

子供会も参加した田植えや稲刈り体験では、子供たちだけでなくその保護者にとっても初めての体験となり、また収穫した米でのだまこ作りや餅つきも農と食の関係を知る貴重な体験となった。

女性の方々が中心となって農道路肩等への花の植栽や農道路肩のきめ細かな雑草対策が行われ、往来する人々にも喜ばれるなど保全隊活動をアピールできた。

遊休農地発生防止対策の活動を通じて、地域農業の将来について考えるようになり、永年の懸案であったほ場整備事業が本年に着手予定となった。合わせて農業法人の組織化が計画されており、保全隊活動で培われた地区内の協力共同の輪をこれからの地域将来に広げたい。

農地に清らかな水を供給してくれるため池や四季折々の彩りを魅せる里山に囲まれた自然豊かな農業環境を共同活動で保全

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	小坪川原地域資源保全向上活動隊	代表	仲沢 昭男
協定面積	田 64.9ha 畑 ha 計 64.9ha	対象面積	田 62.2ha 畑 ha 計 62.2ha		
管理施設	開水路 14.8 km ため池 ヶ所	農道	3.2 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 80人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

取組当初は本当にできるか？戸惑いがありましたが、構成員みんなの協力により、春・秋のクリーンアップや花壇への植栽、子ども会による水質モニタリング調査等、今まで行った事のない活動をする事ができました。

農道の砂利補充、法面の補修、開水路の目地詰め等も行いましたので、農業者も喜んでおります。

5年間の活動により、地域の世代を超えた幅広い交流ができたのではないかと感じております。

今後も豊かな「みどりある地域環境」を維持していきたいものと思っております。

子ども会から老人クラブまでの地域の老若男女が農道等のクリーンアップに参加（雪融け時期の初春3月下旬実施）

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	高村地域環境保全協議会	代表	小畑 淳
協定面積	田 92.8ha 畑 ha 計 92.8ha	対象面積	田 86.4ha 畑 0ha 計 86.4ha		
管理施設	開水路 26.6 km	ため池 ヶ所	農道 9.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 90人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

高村地域環境保全協議会では、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということを目標に、農地・水・環境保全向上対策に取り組んできました。活動面積も大きく当初は、参加してくれる人数が足りるのか心配でしたが、地域のたくさんの方々に参加していただき、順調に活動を終えることができました。農家以外に参加してくれた各団体には、それぞれの団体が取り組みやすいよう活動内容を役割分担し自らが活動計画を立てて実践するという形をとることにより、活動に対する意欲や連帯感が生まれ、組織全体の結束力も高まりました。

活動当初、地域に植えられた花を見て、地域内が明るくなったとか、草刈り後の景色が清々しいなどの声が聞かれたり、個人的に花を植える人が現れるなど、地域の中で環境に対する意識が変わってきたと感じました。また、活動を通して世代間の交流も図られ、地域内のコミュニティー構築にも、よい効果をもたらしております。

当地域でも、農家の高齢化や後継者不足などにより将来における、保全管理体制の弱体化が懸念されておりますが、この活動を機に、今後とも各団体、非農家などを含めた地域ぐるみでの保全管理活動を維持し、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということを実践していきたいと思えます。



地域内を流れる三浦堰は農業用水だけでなく、防火用水や流雪処理など、地域の暮らしに大切な役割を果たしている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	比内前田地域自然環境を守る会	代表	加賀谷 敬孝
協定面積	田 52.4ha 畑 ha 計 52.4ha	対象面積	田 52.4ha 畑 ha 計 52.4ha		
管理施設	開水路 8 km	ため池 2ヶ所	農道 4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 18人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当自然環境を守る会は、市民が憩いの場としている市民の森に隣接しており、又菅江真澄が紀行文に記している桂清水神社もありこの農村風景・環境及び現在は少なくなりつつある農作業の共同実施を次世代につなげることを目標に活動してきました。

当初は景観形成活動に不安を感じておりましたが、女性の活動に取り組む姿勢は、子供にも好影響を与え一緒に植栽をする姿が見受けられ、子供会による水質調査も夏休みの行事として定着できたようで共同作業が次世代に定着しつつあると感ずることができました。女性のきめ細やかさと継続する姿に地域活性化は女性から実感しました。

共同作業実施については、堰上げはもちろんのこと、農道の整地及び補修、ため池堤体の草刈や青年会による管理道の草刈を実施できました。ため池の安全手すりの補修を実施し安全面の整備と耐用年数向上を果たすことができたのも印象に残る活動です。

今回の活動で、目標を掲げ人が集いとにもかくにも活動を5年間継続したことが意義深いものと考えています。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	本宮地域自然環境を守る会	代表	富樫 安民
協定面積	田 27.6ha 畑 ha 計 27.6ha	対象面積	田 27.6ha 畑 ha 計 27.6ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 ヶ所 農道 3 km	ハ イ プ ラ イ ン	km		
構成員	農業者 25人 農業団体 団体	非農業者個人 32人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの守る会は、町内活動が組織化されていたので従来の事業をさらに発展・継続させることを主眼としたのでスムーズにスタートできました。環境整備活動としてクリーンアップや側溝の泥上げは、年数回実施していましたが、本会の事業実施で非農家も含めて若い人達の草刈り作業への積極的な参加も見受けられ広範囲にわたって整備された。また、荒れ放題だった遊休農地にも変化が見られ、雑木が所有者の手で伐採され、農地再生へ向けた意欲を感じ取れた。フラワーロードへの植栽・草取り、水やりも婦人達を中心となり、年々少なくなった子供会と連携、老若男女が和気相合の作業で町内コミュニケーションも深まった。環境保全活動では近くにある「市民の森“とんぼ公園”」の管理指導員を招いて“自然環境の変化による生き物の生態”を学習し日常生活における自然破壊の恐ろしさを学び、子供会が中心となった“水質モニタリング調査”結果の分析など貴重な体験をしました。当地域には集落営農組織がなく葉たばこ生産農家(10戸)が主力で、米単作兼業農家が多いので、今後は農業施設(ポンプ、用排水路、農道等)の維持管理への取り組みが大きな課題となっており、5年間の体験を生かして活動してまいりたい。



親子でコミュニケーションを図りながら水質モニタリングの実施

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	大岱地域資源保全隊	代表	工藤 敏成
協定面積	田 19.4ha 畑 6.2ha 計 25.6ha	対象面積	田 15.2ha 畑 ha 計 15.2ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 4ヶ所 農道 4.3 km	ハ イ プ ラ イ ン	km		
構成員	農業者 17人 農業団体 団体	非農業者個人 28人 非農業団体 団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、水の豊かなため池がいくつもあります。その中にはコイやフナ、沼エビ沼貝や昆虫類もたくさん生育しており、自然の生態系がまだ残っております。また、水路にはドジョウやツブ類なども生育しており、PTAや子供たちと一緒に水の水の保全や生き物調査・水質の調査なども行ってきました。女性部としては花の植栽を行っており、環境保全および向上のための活動を行ってきました。その他ボランティアにて、先祖の墓地および神社敷地の清掃や地域集会所の清掃なども行っております。

また、農道の草刈り等もみんなで力を合わせて行ってきました。

当地域は10戸程度の小さい集落ですが、5年間協力しながら活動し深い絆ができました。この絆を大切に、これからも地域の環境保全に頑張っていきたいと思ひます。5年間どうもありがとうございました。



女性部による花の植栽活動

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動)

市町村名	大館市	組織名	赤川地域資源保全隊				代表	北林 和彦		
協定面積	田 40.1ha 畑 3.6ha 計 43.7ha	対象面積	田 36.1ha 畑 ha 計 36.1ha							
管理施設	開水路 4 km	ため池 ヶ所	農道 6 km	ハ°イ°ライ° km						
構成員	農業者 39人	農業団体 団体	非農業者個人 11人	非農業団体 4団体						

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織が活動する地域は、県営ほ場整備事業で水路等整備されていますが老朽化した水路や排水路などが課題となっていました。

平成19年度からの事業に取り組み、農業者以外の方々・子供会を始とする各団体の参加で地域全体の交流や農村環境の維持に役立ちました。特に、5年計画で始めた長さ100m・幅5mの法面への植栽は、隣接する集落の人々、山瀬ダムを訪れる人々に豊かな農村環境を提供出来るようになりました。今後も草取りなど協力して管理していく予定です。

又、平成23年度は耕作放棄地を修復した田に、子供会を中心としてもち米を植え、秋の収穫祭で餅つきをし子供会から老人会と全構成員で親睦を深める事ができました。

5年間の事業取り組んだことにより、地域の環境を見直す事が出来たと思います。これからも皆協力し自分たちの地域を守って行きたいと思います。



赤川地域資源保全隊代表 北林和彦

田植えでは、昔ながらのコロで型を付けドロンコになりながら田植えをしました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	田の沢地域資源保全隊			代表	齋藤 一	
協定面積	田 23.7ha	畑 3.1ha	計 26.8ha	対象面積	田 19.8ha	畑 ha	計 19.8ha	
管理施設	開水路 3.3 km	ため池 ヶ所	農道 3.2 km	ハ°イ°ライン km				
構成員	農業者 13人	農業団体 1団体	非農業者個人 9人	非農業団体 6団体				

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全隊の活動の目的は、生まれ育った田の沢の自然を農業の環境整備を行いながら子供や孫達に、残そうする意気込みのある活動です。個々の力では到底なし得ないであろう大変な目標でありました。部落の人達の大きな力、そして何よりも部落を愛する皆の心が本活動を支えて下ったものと感じております。この農地、水、環境保全活動は農地や農業用施設は単に食料供給だけでなく、多面的機能を発揮する社会共通資本であり、農業者だけでなく非農家等、多様なグループの参画で活動いただき、施設の機能回復と、農村環境の維持保全が図られました。夏の暑い時の作業は大変でしたが、保全隊員の協力があって、無事作業を終えた事、女性達による植栽等共同作業で絆が生まれた事、色々な作業が浮かんできます。今後も地域の環境保全に力を入れて行きたいと思います。



農村環境維持保全の為、非農業者と共にみんなで農業用施設の泥上げ作業を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	蛭沢地域環境保全隊	代表	笹木 克己
協定面積	田 29.0ha 畑 7.1ha 計 36.1ha	対象面積	田 26.0ha 畑 ha 計 26.0ha		
管理施設	開水路 4.1 km ため池 ヶ所 農道 3.3 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 11人 農業団体 1 団体	非農業者個人 12人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

蛭沢保全隊は、この5年間トラブルもなく非農家を含む住民の協調体制でもってほぼ、計画通り遂行する事が出来ました。

役所の方及び関係機関のご指導が大きな支えになり、持ち堪えたのはゆうまでもありません。加えて、当初課題とされた、事務処理については献身的尽力者に恵まれ、かかる負担を引き受け解決してくれた事に頭のさがる思いでした。

当地は四方山に囲まれ、30軒足らずの農家及び非農家未来に繋がる子供2.3人である現状、教本にある指導マニュアル及び先進地事例は、余りにかい離し、事業部門の割合調整において苦慮しました。

幸いにも、替えがたい現状打開に土木工事に精通する退職者が多く、予想以上に水田関連施設を、自前で改良修復する事が出来ました。

些かでも、後世に引き継ぎを果たせた事は隊員一同の喜びであります。



長さ70mの素堀水路であったのをU字溝を購入し取り付けした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	田茂の木地域資源保全隊	代表	田村 長一郎
協定面積	田 15.8ha 畑 0.4ha 計 16.2ha	対象面積	田 15.0ha 畑 ha 計 15.0ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 ヶ所 農道 2.4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 25人 農業団体 団体	非農業者個人 19人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は、岩瀬側沿いにある15世帯の小さな集落です。集落の真ん中を貫く水路が大切なものとなっています。子供から老人まで、集落全員がその水路に携わっており、一年を通して保全活動を行っております。そのため、水路の保守管理は農家以外の世帯の方も携わっております。共同活動を通じて、いろいろなメンテナンスも行うことができました。この5年間で、その水路を通して集落の話し合いや、自然を守ることが日常的なものとなってきました。

その他に、花の植栽や水田、自然環境、風景の保全についても集落を挙げて全員で取り組んできました。遊休農地の手入れ(草刈等)も集落を挙げてみんなで取り組み、その遊休農地も有効に活用してきました。活用方法は、大豆や大根、キャベツ、白菜、レタス等の集落の集会などで消費できる作物を栽培して、みんなで集まって美味しくいただいたりして活用しており、集落の『和』がますます深まっております。

これからも、この『和』を生かして今後の地域の環境保全活動に繋げていきたいと思っております。5年間どうもありがとうございました。



道路脇の花の植栽や、田の管理(草刈りなど)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	赤坂向館環境保全隊		代表	浅利 重博
協定面積	田 28.8ha 畑 3.0ha 計 31.8ha	対象面積	田 23.9ha 畑 ha 計 23.9ha			
管理施設	開水路 3.1 km ため池 1ヶ所	農道	4.3 km	ハ°イ°ライン	km	
構成員	農業者 86人	農業団体	団体	非農業者個人 137人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

本地域は萱刈山の山麓に広がる花岡越え、畑の沢が合流する杉の沢川の流域に位置しイワナヤマメ、カジカ、沢ガニが生息する自然豊かな集落です、私たちの活動の目的は地域における農地、水、環境が有する社会共通資本としての役割を維持管理し将来にわたって住みよい集落を作っていくことが目的である。

そのため組織として取り組みできた水質保全、環境、美化運動について特に農業者、自治会婦人会、老人クラブ、子供会など数多くの団体に参加いただき農業や自然の大切さを理解いただけたと思う。

現在構成員には8人の認定農業者が地域農業を牽引しているが10年後には高齢化するため継続が危ぶまれることから若い世代で兼業で農業している若い担い手を確保していくのが課題である。

6月第3日曜日、マリーゴールドの苗を子供会、婦人会、老人クラブ会員との共同作業で行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	柏木地域資源保全隊		代表	浅利 誠三
協定面積	田 28.4ha	畑 ha	計 28.4ha	対象面積	田 28.4ha	畑 ha 計 28.4ha
管理施設	開水路 1 km	ため池	ヶ所	農道	1 km	ハ°イ°ライン km
構成員	農業者 12人	農業団体	団体	非農業者 8人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、柏木地区周辺の自然、地域環境を農業の環境整備を行いながら故郷を残していこうとしている活動ですが、地域住民の少子高齢化の実態もあり活動も大変でしたが地域の人たちの協力をいただき、農村環境の維持が図られました。

夏の暑い中での草刈作業、非農家の協力もえての水路の修繕、泥上げ等又地域住民全員での地域清掃、婦人会による花の植栽、地域住民の保全活動の勉強会など、色々な活動、交流があり住民の絆ができた有意義な5年間の活動でした。

春、秋2回行う地域の清掃活動。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	長坂地域資源保全隊	代表	小笠原 幸悦
協定面積	田 31.7ha 畑 6.2ha 計 37.9ha	対象面積	田 25.6ha 畑 ha 計 25.6ha		
管理施設	開水路 4.3 km ため池 4ヶ所	農道	4.1 km	ハ°イ°ライ	km
構成員	農業者 26人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊の活動として、地域における混住化、農業者の高齢化による施設の維持管理の脆弱化が課題となっている部分を、維持保全を農業関係者だけでなく地域に住む非農家、子供会と共に活動してきました。「基礎部分」として年2回の2日間に亘る農道及び遊休地の草刈りについては、雨降りの寒い中及び猛暑の中皆で力を合わせ行事を行って来ました。又地域の運動公園の草刈については、地域皆総出で行って来ました。

草刈り等との大変な行事とは別に「環境保全」の活動として、農道約400m区間に水仙の球根を皆で植える行事を行いました。毎年春になると花を咲かせ農道を通る人、農作業をする人、電車の車窓から見る人の目を楽しませ、将来に残る事業を行ったと実感しております。

今までを振り返り、一つの組織として地域一体となって頑張ってきたことは、これからの地域に団結力と活性化をもたらしてくれると思っております。地域として大変良い勉強と行事を行わせていただいたと感謝し、これからも地域一体となって頑張りたいと思っております。



地域の皆と植えた水仙の球根が花を咲かせ皆の目を楽しませてくれます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	炭谷の環境を守る会	代表	横瀬 晴蔵
協定面積	田 8.7ha 畑 ha 計 8.7ha	対象面積	田 7.6ha 畑 ha 計 7.6ha		
管理施設	開水路 2.7 km ため池 ヶ所	農道	0.9 km	ハ°イ°ライ	km
構成員	農業者 8人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落では、農家の高齢化により個々での保全管理が難しくなっているなかで、農業離れによる遊休農地の発生防止等集落ぐるみで保全管理に取り組む活動を行って来ました。小さな集落のため、活動組織結成前から集落住民ぐるみで共同作業を行っており、問題なく本活動が出来たと感じております。活動では、集落として森林の貯水量の減少等により、用水確保が集落の大きな問題で山際水路の倒木、落石等による用水漏水があり、工事箇所を山際から離し新規用水路整備工事の保全を行いました。

集落内遊休農地においても、雑草の繁茂状態を耕起による保全管理を行い、最終年度に担い手農家により野菜栽培が実施されました。

5年間の活動は、集落住民の支えによって出来たと感じております。保全活動は、事業が終了したから終わりではなく、今後も集落内の保全は継続を図り、集落民全体で維持管理を進めていきたいと考えております。



集落は用水貴重な為、用水路の補修作業を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	中野環境保全会	代表	立石 勇喜
協定面積	田 98.8ha 畑 ha 計 98.8ha	対象面積	田 95.0ha 畑 ha 計 95.0ha		
管理施設	開水路 22.2 km ため池 ヶ所 農道 11.5 km	ハ°イ°ラ°イ° km			
構成員	農業者 90人 農業団体 1団体	非農業者個人 40人 非農業団体 5団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 中野環境保全会の活動する組織事業は農地40年前に県営ほ場整備事業で農道、水路施設が完成した、年がたつにつれて老朽化が激しくなってきたときに、農地、水環境保全対策が町内会に案内がきまして(平成18年)町内会で話し合いをし、期間は5ヶ年ということに参加することにした。当初は取組に戸惑いもありましたが、まずは、地域住民を明るくする目的でこの事業に取り組みをしました。まずは春のクリーンアップで始まり、花いっぱい運動と景観形成活動などで地域の参加者が多く来てくれました。農業施設の点検(年3回)、農道法面の草刈り(年5回)農道砂利補充には、3日間も続けて作業した(2,200m)こともあった。 更には、地域住民と老人、子供たちとの交流会などをし、地域の皆様にはとても喜んでいただきました。 また、冬には流雪溝などの管理もあり、日常管理はみんなで行うことにより明るい町内になっています。この事業により地域の営農に専念することができ非常に感謝されています。これから、この事業を続けたいと思います。					
					
				花壇づくり	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	五日市地域資源保全隊	代表	小松 多治兵衛
協定面積	田 110.6ha 畑 ha 計 110.6ha	対象面積	田 105.8ha 畑 ha 計 105.8ha		
管理施設	開水路 24.3 km ため池 1ヶ所 農道 8 km	ハ°イ°ラ°イ° km			
構成員	農業者 72人 農業団体 1団体	非農業者個人 35人 非農業団体 5団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊では、緑豊かな水田風景、地域を流れる湧水を子供達へ受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。取組み当初は、戸惑いもありましたが春のクリーンアップや景観形成活動は構成員全てが参加する集落の目玉になりました。保全隊の目標でもあった湧水保全活動では水質調査を行い、保護者も自分たちが子供の頃の環境を伝えるなど貴重な活動となりました。 私たちの集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間地域の「結い」が復活しつつあるように感じますので再度長内沢の基盤整備に取組をする。 農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を「長持ちさせよう」、[自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう]という意気込みが生まれました。農業施設の保管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理を地域みんなで行う事により、地域の集落営農組織では営農に専念する事が出来、非常に感謝されています。これからも「自分たちで出来ることは自分達で頑張ろう」の精神で地域をもり上げたいと思います。					
					
				花の苗をプランタに植付、子供会、老人クラブ等との共同作業をしました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	田尻資源保全隊	代表	田 畠 久治郎
協定面積	田 26.5ha 畑 ha 計 26.5ha	対象面積	田 24.3ha 畑 ha 計 24.3ha		
管理施設	開水路 7.5 km ため池 ヶ所	農道	4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 10人 農業団体 1団体	非農業者個人	85人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私達田尻資源保全隊は、『未来へつなぐ農地、水、環境』をテーマに掲げ、管轄区内に広がる豊かな農村環境を後世に繋ぐべく活動を行ってきました。基盤となっている集落自体が小規模ではありますが、その分「小さいながらも皆で力を合わせて地域を守ろう」という個々の協力意識が高く、この組織活動が交流の場だけではなく、地域住民の団結力も高めるきっかけにもなったように思われます。 また、環境保全活動において、減反地を利用してコスモスやヒマワリを定植したことにより、地域住民だけでなく農道を通る人も車を止めて写真撮影していく姿も見られるなど、対外的にも地域活動の成果を示すことができたことは大きな成果でありました。 今後も構成員の方々の理解と協力を得ながら、この活動を継続的なものとし地域の農地、水、環境を守り後世に残していけるよう努力していきたいと思ひます。					
					
				7月 ヒマワリ定植地の手入れ風景。夏には大輪のヒマワリが通行人の目を引き付けました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	新館地域農村環境保全対策事業協議会	代表	杉沢 喜一
協定面積	田 28.4ha 畑 ha 計 28.4ha	対象面積	田 27.4ha 畑 ha 計 27.4ha		
管理施設	開水路 5.8 km ため池 ヶ所	農道	4.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 10人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私達の新館農村環境保全事業の目的は、これまで営々と築いてきた生まれ育った故郷での生活の基盤である農業の食料生産施設である資源を守り、環境整備を行い次の世代を担う子供や孫達に素晴らしい形で残していこうとする活動ですが、非農家の理解を得て集落挙げて取り組んできました。この「農地・水・環境保全活動」は、農地や農業施設は単に食料の生産供給だけでなく、雨水を滞留する水利機能や、生き物を育むなど多面機能を発機する「社会共通資本」であり、農業者だけでなく非農家や色々なグループの参画での共同活動のもと、施設の機能修復と農村環境の維持保全が図られました。猛暑の中での草刈作業は大変でしたが、非農家など協力を頂き共同作業を通じ町内会の交流が図られ、町内会員の連帯感が醸成されたものと思っております。共同作業活動を通じて、農家でない皆さんには農業に対する理解も深まり、農作業の大変さや農業の大切さや、自然を守り環境を良くすることの必要性を、改めて理解してもらえたと感じております。景観活動事業として、沿道への花の植栽、遊休農地への菜種やひまわりの作付けを行い昔懐かしい農村風景を再現し集落の皆さんから共感を得ました、以降も啓蒙実践に努める。					
					
				秋の晴天の1日、町内会の皆さんの協力を得て、農道への碎石の敷きこみ作業を行い、施設の修復管理に努めました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	駒橋環境保全会	代表	奈良 貞治
協定面積	田 33.3ha 畑 ha 計 33.3ha	対象面積	田 32.0ha 畑 ha 計 32.0ha		
管理施設	開水路 10.5 km ため池 ヲ所 農道 3 km	ハ°イ°ライ° km			
構成員	農業者 30人 農業団体 1団体	非農業者個人 69人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、戸数は少ないけれど、昔からまとまりのある集落と言われてきました。しかし農作業の機械化や、兼業が多くなるにつれ、いろいろあった「結い」（よいっこ）といわれる農作業がなくなり、地域の人と人のつながりも薄れてきました。

私たちの環境保全会は、共同作業を通じて地域のまとまりを作っていくことと、地域の農業や環境をみんなで守っていこうという気持ちを高めていけるよう活動を進めて来しました。

町内のあらゆる年齢層や団体に協力してもらうことで「つながり」や「まとまり」が前進できたと思います。

特に老人クラブの女性陣が中心の「花の会」は、花壇やプランターなどで、春から秋まで花を咲かせ、地域を明るくしてくれ、他所から集落を訪れる人にも良い印象を与えてくれました。

地域の農地と農業を、地域で守って行こうと集落営農を立ち上げました。前途は厳しいけれど若い人が残れるような地域づくり、故郷作りの一歩として5年間の環境保全会の活動は、大いに役立ったと思います。



「花の会」の人たちの、春の花の植栽風景です。男性も手伝っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	釣田クリーン保全隊	代表	羽沢 良則
協定面積	田 30.5ha 畑 ha 計 30.5ha	対象面積	田 27.5ha 畑 ha 計 27.5ha		
管理施設	開水路 10.2 km ため池 ヲ所 農道 1.8 km	ハ°イ°ライ° km			
構成員	農業者 14人 農業団体 1団体	非農業者個人 28人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、緑豊かな農村風景を守ることを目標として活動を行ってきました。

特に、春のクリーンアップや景観形成活動である花の植栽においては、子供会、婦人会をはじめ、構成員のほとんどが参加する集落の一大行事となりました。特に、花の植栽では、サルビア マリーゴールド、ペコニアなど親子、孫などと一緒に作業をしました。また、植栽場所は、通学路沿いということもあり、子供たちへ安らぎを与えたものと思っています。

水路の泥上げや、草刈作業など大変な作業もありますが、参加率が高く、非常に感謝しております。

また作業後には、慰労会と称し、みんなと酒を酌み交わすことも多くなり、集落内のコミュニケーションが前よりもまして図られるようになりました。

この事業をきっかけに、これからも農村風景を守るために、自分たちで出来ることを頑張っていきたいと思っています。



6月上旬、親子、孫等と一緒に、サルビア、マリーゴールド、ペコニアなどを植えました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	水曲地域資源保全隊	代表	野呂 俊一
協定面積	田 23.6ha 畑 ha 計 23.6ha	対象面積	田 22.5ha 畑 ha 計 22.5ha		
管理施設	開水路 4 km	ため池 2ヶ所	農道 2.8 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 9人	農業団体 1団体	非農業者個人 5人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊は、引欠川を中心に広がる緑豊かな田園地帯であります。この豊かな地域を守り続けて行こうと、平成19年度から始まったこの事業に取り組みましたが、当初は内容がわからず困惑しました。

汗をかいての夏場の草刈り、水路の泥上げ、景観形成の花の植栽等、破損施設の補修を農業者だけでなく地域の人たちみんなで取組めたことは有意義でありました。

夏休みを利用したの生き物調査は大人も子供も楽しみました。

農地・水がいかに大切な財産であるか子供たちも知ることができたと思います。

先人たちの美しいこの風景を地域の人たちみんなでいつまでも守り続けていきたい。

花壇の手入れ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	笹館環境保全隊	代表	菅原 一成
協定面積	田 110.2ha 畑 ha 計 110.2ha	対象面積	田 104.9ha 畑 ha 計 104.9ha		
管理施設	開水路 21.5 km	ため池 ヶ所	農道 12 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 91人	農業団体 3団体	非農業者個人 11人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

笹館環境保全隊の主な事業の内容は、30a区画圃場に基盤整備されたのが、S45年で各用水路、排水路が40年も経過しており施設の老朽化と破損施設が多く、又、当時の工事は特に素堀の用水路等農地も湿田地帯であり、雨が降れば農道の路肩が崩壊し用排水機能が低下し改善の時期に入っていました。又、地域の上流には今は廃坑になりました鉱山も2ヶ所あり雨が降ればカドミの発生の常習地で農家は常に危険と隣合わせの生活で特に近年は「食の安全、安心」が叫ばれる時代であります。カドミ対策には、稲の出穂前後の水管理が重要であります。用排水機能を整備し必要な時期に水管理が出来る施設に農家は早期の改善を願っていました。

総延長で500mにも及ぶ改良を農家自らの手で4年間の継続事業で完工にこぎつけ、環境保全のお蔭と農家は大変喜んでおります。その他、排水路の法面には防草シート張りの実施、景観形成を保つ為の地域ぐるみでの花壇への植栽以前に比べ住民の絆が強固になりました。

子供達の体験学習の一環として河川改修になり空き河川を利用しての、鯉の放流を行い良い体験が出来子供達には、生涯忘れられない事と思います。

素堀の用水路の改修

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	小新田集落環境保全活動組織	代表	菅原 貞夫
協定面積	田 26.9ha 畑 ha 計 26.9ha	対象面積	田 25.7ha 畑 ha 計 25.7ha		
管理施設	開水路 6.3 km ため池 ヶ所	農道	3.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 33人 農業団体 2団体	非農業者個人	3人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は、古くから稲作とブドウの栽培をしていますが、高齢化も進み個々の自助努力では地域の農村環境とそれに基づく有効利用がなかなか出来ないのが現状でした。

この5年間の活動のおかげで地域住民の「和」が広まり、すべての作業の分担化効率アップそして地域全体を明るく環境整備していったことが大変大きな収穫であったと思います。

特に景観形成および遊休農地整備のためにひまわりを植栽し環境美化と採油が出来ました。

また、広範囲の農道や畦畔等の草刈りは、この事業がなければ成し得なかったことと思います。

当初は取り組む仕組みが浸透せず右往左往し、事業の大幅な変更を改めて感じました。組織をひとつにまとめること、計画性の大切さなど等。

今後は徐々に世代交代をしながら集落の「共存・共栄」を柱にコミュニケーションを持ち、減少にはどめがかからない集落ではありますが良いものを次の世代に残していく努力をしていきたいと思っています。



ひまわり栽培のための研修会の実施

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	羽立地区農地水環境向上活動組織	代表	藤原 良一
協定面積	田 53.5ha 畑 ha 計 53.5ha	対象面積	田 51.7ha 畑 ha 計 51.7ha		
管理施設	開水路 15 km ため池 ヶ所	農道	7.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 29人 農業団体 2団体	非農業者個人	10人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は協定面積の約3分の2が基盤整備(30a区画)済みであり、未整理地は殆どが水田転作地として利用されている。そのため、用排水路の敷設や整備よりもむしろ施設の延命のための共同活動を主眼に草刈や砂利敷きなどの活動をしてきた。

その一方、景観形成のため、花壇への花の植栽。また、バス路線での直接的な路面への植栽が困難な場所ではプランターでの花の植栽を実施。

高齢者から幼稚園児まで幅広くその維持と管理に参加し、農村の資源維持の意識高揚に繋がったものと確信した。



花壇の設置

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	大巻地域資源環境保全会	代表	渡部 耕民
協定面積	田 76.9ha 畑 ha 計 76.9ha	対象面積	田 74.9ha 畑 ha 計 74.9ha		
管理施設	開水路 23.4 km ため池 ヶ所	農道	10.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 45人 農業団体 2団体	非農業者個人	7人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、集落内農家による春の堰上げが以前からの共同作業でありました。農家と非農家による共同作業や環境保全活動はありませんでした。この保全会を設立するにあたり景観形成のための花壇を2カ所に設置することや、農道と水路が混在している場所を本来の形にすること。また、未整理地の農用地法面及び水路法面の補修を主な活動と致しました。

特に、花と緑のある美しい住み良い地域とし、集落に元気を取り戻すことを合い言葉に花壇の土盛り作業から始めました。子供たちの参加による植栽・草取り等の活動により環境への意識が高まり、地域の絆がより強くなった様に思います。

また、農道と水路の混在箇所を改修したことにより農産物や資材の安全な運搬ができるようになり大変喜ばれています。他にも遊休農地発生防止のための草刈りや水路法面を昔からのしがらみ工法による補修作業など多くの保全活動をさせて頂きました。これらの活動を通じて農業や環境保全の大切さを改めて深く感じたと思います。今後も自分たちでできることは自分たちで頑張っていきたいと思ひます。



11月21日子供たち参加による花壇の後片付け (写真は子供たちの部分)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	寺崎地域環境保全隊	代表	松沢 耕策
協定面積	田 32.9ha 畑 ha 計 32.9ha	対象面積	田 32.2ha 畑 ha 計 32.2ha		
管理施設	開水路 7.5 km ため池 1ヶ所	農道	2.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 17人 農業団体 1団体	非農業者個人	45人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では地域の緑豊かな水田地帯を守り、農業環境の整備をしながら地域の素晴らしい農村環境を若い世代に残していこうと活動してまいりました。個人の力では到底できない活動であり、この「農地・水・環境保全活動」は農業者だけでなく、地域の老若問わず参加でき、作業を通じて交流の場となり、地域の活性化にも繋がりました。

水路の泥上げ・草刈、農道の砂利敷き均し等の作業は男性が中心に、農道の清掃(カン等拾い)花の植栽、草取等は老人会、婦人会が中心に楽しく活動ができました。

当地域には子どもが少ないため、魚の生息観察等ができなかったのは残念であったが、ポスターの作成には保護者の理解もあって協力していただき、地域の環境をみんなで守っていこうという機運を感じました。

農業環境維持に農業者個人又は農業団体が中心に活動されてきましたが、農業者の高齢化に伴い、今後は5年間の共同活動(農道への砂利敷き均し、草刈、花の植栽等)を生かし、農村環境保全に地域ぐるみでやっていきたいと考えております。



農道への砂利敷き均しを5年間毎年でき、農道2kmの凹凸の軽減ができ、車及び農業機械が安全に通ることができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	八木橋地区環境保全隊	代表	高橋 勝男
協定面積	田 74.9ha 畑 ha 計 74.9ha	対象面積	田 62.6ha 畑 ha 計 62.6ha		
管理施設	開水路 16.3 km ため池 ヶ所	農道	3.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 39人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は、土地改良区区域外であり、圃場整備がされておらず、農地・水路・農道等資源の維持保全は、各農業者及び各水利組合で実施しているが、農業者の高齢化進展、生産調整水田面積の増加により、施設の維持管理が問題となりつつあった。

そこに、タイムリーにこの事業に取り組むことが出来、未装工水路の整備、農道の補修、砂利補充等、農業施設の整備が進み、維持管理の省力化が図られた。

異常気象時には応急措置が迅速に実施でき、営農への影響を最小限にすることができた。

また、春、秋のクリーンアップ、景観形成のための施設への植栽、カバープランツの植栽等、村の美化及び意識高揚にも大変有意義な事業であった。

更に、水資源に乏しい地区であるため、水源かん養林等の保全に取り組むことも出来た。

体制整備構想の作成は、あらためて、高齢化、農業従事者の減少が浮き彫りになり、将来像について意見交換をする絶好の題材となった。

将来展望を実現するために、次期対策も地域一丸となり農村環境保全、地域活性化の活動に取り組みます。



農家の直営による、未装工水路の整備が進み、維持管理の省力化が図られた

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	畠沢地域資源保全隊	代表	高橋 房彦
協定面積	田 21.7ha 畑 ha 計 21.7ha	対象面積	田 21.5ha 畑 ha 計 21,5ha		
管理施設	開水路 8.4 km ため池 ヶ所	農道	3.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 12人 農業団体 団体	非農業者個人	4人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊の活動は緑豊かな田園風景、農業の環境整備を行ないながら将来にわたって残して行こうとする活動ですが、一人では限度があり、皆んなでやると大きな力となります。

農業者だけでなく非農業者など構成員多数で本活動を支えてくださったものと感じています。

特に本地域は未装工水路で農業用水の確保が常に付いて廻るところです。農業用水の大切さが構成員皆さんに理解されていると思います。

春のクリーンアップ、用水路の泥上げ、猛暑の中での草刈り、寒い冬でのU字溝の据付け作業など大変でした。

私たちの村は小学生、中学生、高校生等が一人も居ない、いわゆる限界集落ですが、作業を通じて構成員達の交流の場となり地域の「助け合い」が出来たと思います。環境保全活動では花の植栽によって咲いた花などが多くの人々の目の保養になったと思います。地域の皆んなで農業施設を長持ちさせよう、大切にしよう、そして自分たちで出来る事は自分たちで頑張ろうという気持ちが生まりました。農業施設の保管理のほかにも草刈りや、泥上げ等の管理を地域皆んなで行うことにより、田園風景が維持されることが自然を守ることにつながると感じました。



大切な水がスムーズに流れるように開水路の中の泥上げや周りの草刈りなどを行っているところです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	小坪沢地域資源保全隊	代表	長田 定義
協定面積	田 22.6ha 畑 ha 計 22.6ha	対象面積	田 18.9 ha 畑 ha 計 18.9ha		
管理施設	開水路 8.2 km ため池 ヲ所	農道	2.7 km	ハ°イ°ラ°ン	km
構成員	農業者 9人	農業団体 団体	非農業者個人 15人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 中山間地で周りを山に囲まれ、小集落で少ない耕地の集まりのなかにある当地区の活動は、居住地域の環境整備と、地形上比較的に小面積の耕地が散らばる、その周囲の刈払いと、河川周囲の刈払い・農道と水路の整備・花壇の造成・河川等の水質検査を行ってきた。 居住地域の環境整備は集落に花壇の造成をおこない、小中学生から老人クラブまで参加し、管理は婦人会を主体に集落全体で進めてきたが、子供たちとの共同作業は稀なことで喜ばれている。農地周辺の刈払いは、これまで何年も手が入らない荒れた箇所も整備されてよくなった。 農道の整備には集落内から重機やダンプカー・トラック等を安く借り上げ砂利を敷き、路面整地や草刈は老若男女も出来る作業は参加し、荒れていた農道部分も水路も改善された。集落の中央を流れる河川周囲の刈払いは、炎天下器械を持ち寄り、世代を超えての共同作業にお互いとの関係を見直す機会になったと思う。 集落は地下水を利用し生活している、水質に対する関心が高く、検査活動はこれからも続けていければと思っている。					



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	大葛地域環境保全組織	代表	山口 龍治
協定面積	田 26.9ha 畑 ha 計 26.9ha	対象面積	田 24.2ha 畑 ha 計 24.2ha		
管理施設	開水路 4.8 km ため池 ヲ所	農道	4.1 km	ハ°イ°ラ°ン	km
構成員	農業者 11人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 我々保全隊は、地域の環境保全に努めて参りました、その結果農道堤防には約20種類1500本程の紫陽花が植え付けされ、又春一番には水仙が咲き誇るように、紫陽花の上に水仙約5種5000本程を植えました、紫陽花の管理には草刈・蔓の除去等の作業に集落の若者から、高齢者・主婦の方々が進んで参加しました。 その中でも、高齢者の割合が多く早朝の作業が中心に行われました。 植えつけた結果、農道の散歩者が、多くなりました。 又他の地域からの散歩者も多くなり早朝より賑わっている。今年度は、集落で紫陽花祭りを、行うべく検討している今までと違い、集落全員が環境の整備に努力したことで集落の中から、自然発生的に紫陽花祭りの話が出ました、今後は集落の会議の中で、祭りの次期方法等検討する事になりました。 又地域の転作田で作付けされた蕎麦で、蕎麦打ちも2回行うことが出来て、皆喜んでおります。					



植え付け終了後の記念撮影

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大館市	組織名	森合堰地域資源保全隊	代表	畠山 伊吉
協定面積	田 17.6ha 畑 ha 計 17.6ha	対象面積	田 17.2ha 畑 ha 計 17.2ha		
管理施設	開水路 4.8 km ため池 ヶ所	農道	3.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 12人 農業団体 1団体	非農業者個人	23人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達、森合保全隊の活動目的は、生まれ育った故郷森合の自然を保全隊の皆、老若男女が体力に応じた共同作業をしながら、緑豊かな環境を守り子供や孫達に残して行く事が最大の目的です。 農地・水環境を守る事は単に農業者のためばかりではなく、多面的機能を発揮する「社会的共通資本」であり、農業者、非農業者、さらに多様なグループの共同参画をいただき施設、農村環境の維持保全、景観形成が図られました。共同作業での連帯感も形成され強い「きずな」が生まれました。					
					
				花植え共同作業で100個のプランター製作	

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	北秋田市	住 所	北秋田市花園町19-1	電 話	0186-62-1111
担当部署	産業部 農林課 農業振興班	担当者	藤田 学		

(5年間の感想等記入)

当市は、平成17年に鷹巣町、合川町、森吉町及び阿仁町の合併によって誕生し、秋田県の約1割を占める広大な面積を有しています。

当市の基幹産業である農林水産業は自給率の向上に向けて、その振興が求められている一方、環境に配慮した循環型社会を目指す中で、豊かな国土を保全する役割も担っています。

特に当市では、森吉山をはじめとする豊かな自然環境資源の宝庫です。

このようなことから、当市では平成19年4月より66組織が「農地・水・環境保全向上対策」活動に取り組んできました。

この活動によって、農業者のみならず同じ地域に暮らす農業者以外も活動に参加することにより、農地や水路等の施設は、単に農業の為の施設というだけでなく、その地域全体の共通の資源であると認識し、将来にわたって地域に暮ら暮らす全ての人たちによって集落環境の保全が図られる組織が作られたと感じています。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

北秋田市	耕地面積	田	5,500 ha	畑	1,100 ha	合計	6,600 ha
平成19年度	協定面積	田	3,029.06 ha	畑	8.20 ha	合計	3,037.26 ha
平成20年度	協定面積	田	3,026.71 ha	畑	8.20 ha	合計	3,034.91 ha
平成21年度	協定面積	田	3,010.26 ha	畑	8.20 ha	合計	3,018.46 ha
平成22年度	協定面積	田	3,010.26 ha	畑	8.20 ha	合計	3,018.46 ha
平成23年度	協定面積	田	2,996.07 ha	畑	8.20 ha	合計	3,004.27 ha
(支援交付金実績)				〔支援交付金全体〕			
平成19年度	対象面積	計	2,955.93 ha	130,060,920円			
平成20年度	対象面積	計	2,933.50 ha	129,074,000円			
平成21年度	対象面積	計	2,917.05 ha	127,915,480円			
平成22年度	対象面積	計	2,917.05 ha	127,505,840円			
平成23年度	対象面積	計	2,922.96 ha	125,696,190円			
合計				640,252,430円			
活動組織名称		北秋田市			組織が多い場合次頁に		
番 号	活動組織名称			番 号	活動組織名称		
0073	今泉地区資源保全会			0081	四渡地区環境保全組合		
0074	前山地区資源保全会			0082	坊山地区環境保全会		
0075	坊沢深沢地域環境保全組合			0083	小猿部地域資源保全会		
0076	新屋敷町地域環境保全組合			0084	中畑地区環境保全組合		
0077	緑ヶ丘地区環境保全組合			0085	竜森地区環境保全組合		
0078	蟹沢地区環境保全会			0086	品類地区資源保全会		
0079	綴子大太鼓の里保全隊			0087	川井地域環境保全会		
0080	向黒沢地区資源保全会			0088	下杉地域環境保全組合		

活動組織名 北秋田市

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0089	上杉地域環境保全組合	0129	下小様農地・水・環境保全向上対策組織
0090	桃栄地域環境保全組合	0130	上小様農地・水・環境保全向上対策組織
0091	道城地域資源保全隊	0131	吉田農地・水・環境保全向上対策組織
0092	増沢地域環境保全組合	0132	湯口内農地・水・環境保全向上対策組織
0093	木戸石地域資源保全会	0133	荒瀬農地・水・環境保全向上対策組織
0094	八幡岱地域環境保全組合	0134	笑内農地・水・環境保全向上対策組織
0095	美栄地域環境保全組合	0135	幸屋渡農地・水・環境保全向上対策組織
0096	新田目地域資源保全会	0136	幸屋農地・水・環境保全向上対策組織
0097	福田地域環境保全組合	0137	比立内農地・水・環境保全向上対策組織
0098	羽根山地域環境保全会	0138	長畑農地・水・環境保全向上対策組織
0099	東根田地域環境保全組合		
0100	西根田地域環境保全会		
0101	芹沢地域環境保全会		
0102	三里地域環境保全組合		
0103	摩当地域資源保全会		
0104	三木田地域環境保全組合		
0105	鎌沢地域資源保全会		
0106	大内沢地域環境保全組合		
0107	雪田地域資源保全会		
0108	杉山田地域環境保全組合		
0109	本城地域環境保全会		
0110	向本城地区資源保全会		
0111	日栄地域環境保全隊		
0112	鶴田地域資源保全組合		
0113	中道岱地区環境保全組合		
0114	根小屋呼友会		
0115	寄延地区資源保全会		
0116	白坂地域資源保全向上共和会		
0117	大淵地域資源保全組合		
0118	桂瀬地区環境保全組合		
0119	浦田地区環境保全組合		
0120	平里地域環境保全組合		
0121	巻淵地域資源保全隊		
0122	堺田愛郷連		
0123	上羽立地区環境整備		
0124	下羽立地区環境整備		
0125	惣内地区環境保全組合		
0126	五味堀地区環境保全組合		
0127	神成地域資源保全隊		
0128	小淵農地・水・環境保全向上対策組織		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	今泉地区資源保全会	代表	成田 金正
協定面積	田 60.62ha 畑 ha 計 60.62ha	対象面積	田 0.75ha 畑 ha 計 60.75ha		
管理施設	開水路 6.3 km ため池 1 ヶ所	農道 5.4 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 85人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
5年間活動を行い、農家及び非農家など集落一体となった活動を行えたことは、大変良かったと思います。花の植栽活動には婦人会・老人クラブ・子供会など、今まで一体となって作業を行うことの無かった各団体が積極的に協力し、年2回の植栽活動を行うことができ、集落内も華やかになりました。又、子供会参加による水質モニタリング、生態系保全のためのブラックバスの駆除など、地区内の問題点を子供たちにも考える機会を与えてたことは、大変良いことだったと思います。 営農面でも泥上げや草刈りなど、高齢化や後継者不足などで苦勞していましたが、非農家の協力等により適切に管理を行うことが出来ました。さらに、高齢者の独り暮らしの耕地は、保全会による草刈りを毎年実施し、隣接農家の方々からも大変喜ばれています。 今後も集落一体となり、自分たちが出来ることは自分たちが行うという気持ちを持ち続けたいと思います。					
					
				各団体が協力し実施した花の植栽	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	前山地区資源保全会	代表	熊田 進
協定面積	田 93.58ha 畑 ha 計 93.58ha	対象面積	田 93.58ha 畑 ha 計 93.58ha		
管理施設	開水路 19.9 km ため池 ヶ所	農道 9.5 km	ハ°イ°ライン 1.4 km		
構成員	農業者 89人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 8団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
前山地区資源保全会では、地域における混住化・農業者の高齢化による施設の維持管理の脆弱化が課題となり、施設の維持保全は農業者だけではなく、自治会・婦人会・老人クラブ・子供会・土地改良区が参画し、維持保全活動を目標として活動を行ってきました。 維持保全活動に当たり、今までの施設管理では作業が行きわたらない場所などもあり、作業内容に伴い、管理の徹底が行われ地域としても農業への関心が向上されたと思われます。 景観形成活動は気軽に参加できる活動でもあり、地域住民が気軽に参加をし、クリーンアップや花の植栽活動など数多くの参加者が見受けられました。 農業施設の保全管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理も地域で行うことにより、農家の高齢化や後継者不足なども懸念されると思います。 今後も活動を通して、地域を盛り上げたいと思います。					
					
				花の植栽活動 子供会・老人クラブなど地域住民の交流の場となり、作業を行いました	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	坊沢深沢地域環境保全組合	代表	津谷 喜代蔵
協定面積	田 4.21ha 畑 ha 計 4.21ha	対象面積	田 4.21ha 畑 ha 計 4.21ha		
管理施設	開水路 2 km ため池 ヶ所	農道	2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 54人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の組織が活動する範囲は、古くから農業者個人で整備作業を行っていましたが、昭和の後期から地区内の農業者が共同で整備作業を行うようになりました。 しかし、高齢化が進み農道や用水路の整備に苦勞していましたが、本事業の利用により相当整備を行う事ができました。特に、平成21年7月19日と平成23年8月17日の豪雨災害による被害は甚大でありましたが、本事業により復旧作業が迅速に対応することができました。 また、地区内の子供達による水棲生物の調査により、多くの生物の存在も確認でき貴重な体験が出来ました。 私達の組織は小さな集落で古くから共同作業を行ってまいりましたが、5年間の本事業の体験により更に集落の結集が図られ感謝しております。					
					
				5年間で農道及び水路の破損個所の補修が出来ました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	新屋敷町地域環境保全組合	代表	津谷 勝男
協定面積	田 7.17ha 畑 1.9ha 計 9.07ha	対象面積	田 7.17ha 畑 ha 計 7.17ha		
管理施設	開水路 1.8 km ため池 ヶ所	農道	3.1 km	ハ°イ°ライン	0.7 km
構成員	農業者 1人	農業団体	1団体	非農業者個人	人 非農業団体 5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織が活動する範囲は、町内会の居住地域と側近の田園地帯となっており、地域の人たちの散歩コースともなっています。 しかし、環境は手つかずとなっているので、豊かな環境状態とはなっておりませんでした。 活動を始めた当初、周りは草の丈も太く、長い状態で草刈りには大変難儀しましたが、毎年の草刈りですばらしい景観となりました。 又、町内会一同での共同作業がほとんど行われて来なかったもので、農地・水・環境保全向上対策活動を通して町内会の人たちとのコミュニケーションが計られる機会が多くなり、すばらしい環境を得た事と、町内会の団結が高まり町内会の運営にも大きな貢献ができた活動であったと高く評価しているところです。 広報用の看板には、「自然を大切に 豊かな環境を守りましょう」と記載しております。					
					
				景観形成活動(花壇への植栽)後の記念撮影	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	緑ヶ丘地区環境保全組合	代表	長崎 輝男
協定面積	田 47.8ha 畑 ha 計 47.8ha	対象面積	田 45.99ha 畑 ha 計 45.99ha		
管理施設	開水路 7.9 km ため池 ヶ所	農道 6.6 km	ハ゜イ°ライン 5.3 km		
構成員	農業者 32人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの緑ヶ丘環境保全組合の構成は、農業者及び非農業者、自治会、婦人会、老人クラブ、子供会、上三九郎岱水利組合で構成されています。

取組当初は戸惑いもありましたが、平成19年集落営農組織と一緒にの時期に立ち上げられた事が良かったと思います。5年間地域住民と一緒に環境活動を行って参りました中で特に心に残っている事があります。一つ目は環境活動の一環として”川の水をきれいにして大切に使いましょう”

”川に濁り水を大量に流さないで、水の垂れ流しをなくしましょう”と広報等でも呼びかけ自治会や子供会の協力を得ながら3年間川の生き物の状況調査と水質モニタリングを実施したところ、ここ数年見えなかった淡水魚と昆虫類が採見され徐々に川の水もきれいになって来ていることがわかりました。

二つ目は農道です。急斜面で砂利が雨の度に流され農機具の移動など荷物の運搬作業に苦勞して通った道も3年計画で出来て地域住民より大変感謝をされております。



子供会と自治会で川の生き物の生息状況調査と水質モニタリングの実施中。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	蟹沢地区環境保全会	代表	桜庭 正夫
協定面積	田 27.22ha 畑 ha 計 27.22ha	対象面積	田 27.22ha 畑 ha 計 27.22ha		
管理施設	開水路 3.9 km ため池 1 ヶ所	農道 5.3 km	ハ゜イ°ライン 3.6 km		
構成員	農業者 29人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

蟹沢地区環境保全会では、地域における農業者の高齢化による施設の維持管理の脆弱化が課題となり、施設の維持保全は農業者だけではなく、自治会・婦人会・老人クラブ・子供会・土地改良区が参画し、維持保全活動为目标として活動を行ってきました。

花の植栽などでは集落の一大イベントになり、子供会・老人クラブ・自治会・婦人会など農業者以外の参加者も数多く募り、地域としても今まで以上の団結が深まったと思います。

活動を通じて、各農業用施設などの大切さを改めて感じ、草刈りや泥上げなどの日常管理を地域みんなでやることにより、感謝されています。



花の植栽活動前の集合写真

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	綴子大太鼓の里保全隊	代表	藤島 勝政
協定面積	田 497.3ha 畑 5.9ha 計 503.3ha	対象面積	田 427.37ha 畑 ha 計 427.37ha		
管理施設	開水路 25.3 km ため池 2 ヶ所	農道	62.1 km	ハ イ°ライン	57.2 km
構成員	農業者 502人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	60団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊は農地や集落環境の保全向上を目指して様々活動を展開してきました。 農業施設の維持管理活動（泥上げ・草刈り等）では、春に集落毎で点検診断を行い、計画を立て集落毎に参加を呼びかけ毎年計画通り実施することが出来ました。 農村環境向上活動では、小学校と連携を取り昔ながらの農業体験や景観植物植栽を行い、子供会と連携を取って水質生き物調査を行い、集落間・世代間の交流として農免道路への花植栽と地域住民交流会を開催するなど、地域一体となりこの5ヶ年の活動を終えることが出来ました。 朝早くから、また暑さ寒さの中での作業など大変だった活動も多々ありましたが、活動を終えた後の参加者の笑顔、そして励まし合って最後まで達成する喜びなどをみんなで分かち合えたことなど、この活動を通して人・組織・地域の「絆」を深めることが出来たと感じています。					
					
				地域住民が一体となって行った稲穂ロード（農免道路）への花活動。最終年度には1年目に植栽したスイセンの球根を分球し植え付けを行いました。5年間で5種類毎年違う花を植栽し、3.3kmに及ぶ稲穂ロードの景観を彩りました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	向黒沢地区資源保全会	代表	山内 清種
協定面積	田 69.06ha 畑 ha 計 69.06ha	対象面積	田 69.06ha 畑 ha 計 69.06ha		
管理施設	開水路 3.1 km ため池 1 ヶ所	農道	3.9 km	ハ イ°ライン	3.3 km
構成員	農業者 32人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の組織が活動する範囲は、平成2年度に県営ほ場整備事業が完了して区域です。 整備前は、水路の堰上げ等、集落民全員で管理していましたが、整備されてからは個々の管理となり、集落民の集う機会が無くなるとともに、整備後20年が経過した各施設は老朽化が目立ち始めていました。このような現状の中、この「農地・水・環境保全活動」は、農業施設の再生は勿論のこと、集落民の「集う気持ち」も再生してくれた活動となりました。 この地域は、水路の法面が多く草刈り作業に労力を費やしていたことから、雑草対策で防草シートを布設し、その法面にシバザクラを植栽したところ、省力化に加え景観をも変えてくれました。また「環境保全」活動では、子供会や老人クラブなど総参加で花の植栽を行い、作業終了後には参加者全員で「集いの会」を開催し、今では恒例行事になりました。 この活動により、農業用施設がもつ多面的機能を子供達へ伝えとともに、環境を維持保全することが希薄化する中、この地域における自然環境のすばらしさが再認識できたことは、地域にとっても大きな財産になりました。					
					
				雑草対策で行った防草シート布設及びシバザクラの植栽。植栽後1年目で見事に開花しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	四渡地区環境保全組合	代表	成田 直敏
協定面積	田 24.96ha 畑 ha 計 24.96ha	対象面積	田 24.96ha 畑 ha 計 24.96ha		
管理施設	開水路 6.6 km ため池 8 ヶ所	農道 4.8 km	ハイクライ	km	
構成員	農業者 15人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの四渡環境保全組合では、緑豊かな水田風景等を子供達へ受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。

組織当初は戸惑いもありましたが、春・秋のクリーンアップや景観形成活動は構成員全てが参加する集落の一大イベントになりました。

当組合の目標でもあった地域環境を守る活動では、農道の整備、ため池の保全、地域内を流れる水の水質検査など貴重な活動となりました。

私たちの小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域の絆が復活しつつあるように感じています。



景観形成活動で構成員全員で花の植栽を5年間実施した。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	坊山地域環境保全会	代表	佐藤 敏則
協定面積	田 32.95ha 畑 ha 計 32.95ha	対象面積	田 32.95ha 畑 ha 計 32.95ha		
管理施設	開水路 5.3 km ため池 4 ヶ所	農道 3.9 km	ハイクライ	km	
構成員	農業者 8人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は現在21戸で、これは50数年変わっておりません。ほとんどが兼業農家で0.3haから3haの農地を所有し、農道、水路等の管理は各自で実施してきました。

ところが20数年前から後継者が育たず高齢化が進み、現在は8戸だけの農業者となり、基盤整備されていない農地は荒地もみられるようになってきた。

このような状況の中、5年前から始まった農地・水向上共同活動に取り組むようになって、農業者以外の方々も積極的に事業に参加する事によって、農道整備、水路の泥上げから草刈等こまやかな事業が実施された。

また、春から秋まで地域の花壇の整備を子供会、老人クラブ、婦人会の参加を得ながら環境整備の一環として花の植栽を続けてまいりました。

私たちの小集落でもまとまりが薄れてきていましたが、この活動により復活しつつあります。



景観形成活動による花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	小猿部地域資源保全会	代表	中林 藤一郎
協定面積	田 169.65ha 畑 ha 計 169.65ha	対象面積	田 169.65ha 畑 ha 計 169.65ha		
管理施設	開水路 27.7 km ため池 1 ヶ所	農道	17.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 238人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	23団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、「みんなのふる里 みんなの力で守りましょう」をテーマに活動を行ってきました。平成18年度に、地区内で一部モデル事業として取り組んでいたことから、初年度からスムーズに取り組むことができました。春のクリーンアップから始まり、集落一丸となって行う花の植栽など、農家・非農家が力を合わせ行える活動が出来たことは、集落にとっても大変良い事でした。さらに、水質保全の水質モニタリングでは、地域の将来を担う子供たちや、炊事・洗濯など水質に一番関係している婦人会を対象に、それぞれ水質モニタリングを行い、地区の水質状況に関心を持ってもらえた事も貴重な活動となりました。

農家の高齢化や後継者不足など、地区の維持管理においても年々人手不足が懸念されていましたが、この活動において非農家の方々も、泥上げや草刈りに参加していただき大変心強いものがありました。

今後も地区一丸となり、「みんなのふる里 みんなの力で守りましょう」を掲げ協力していきたいと思ひます。



子供会による水質モニタリング
地区の将来を担う子供たちに関心を持ってもらい、綺麗な水の流れを後世に残したいものです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	中畑地区環境保全組合	代表	長岐 正人
協定面積	田 46.48ha 畑 ha 計 46.48ha	対象面積	田 46.48ha 畑 ha 計 46.48ha		
管理施設	開水路 4.4 km ため池 1 ヶ所	農道	3.8 km	パイプライン	2.0 km
構成員	農業者 16人 農業団体 団体	非農業者個人	10人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は山間部の小さな部落で、小猿部川を水源とし稲作を主流としています。今までも水路の泥上げ、草刈、敷砂利等は共同作業として行ってきましたが、農業者が主であり労働力不足と財政難で継続が困難な状況となっていました。

本組織活動によって、できなかった農道及び水路の補修が可能になり、非農業者の参加によって労働力が確保され大きな力となっております。

特に景観形成では、姫岩ダレ草などを植栽し、明るさと活気が感じられるようになり、本事業には感謝いたしております。

今後、益々加速する高齢化、少子化による後継者不足が本組織でも深刻な問題となってきつつあります。共同活動を通じて更なる団結が期待され、継続を望むものであります。



農道の急勾配区間の補修を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	竜森地区環境保全組合	代表	畠山 精一
協定面積	田 78.55ha 畑 ha 計 78.55ha	対象面積	田 78.55ha 畑 ha 計 78.55ha		
管理施設	開水路 18.5 km ため池 ヶ所	農道 13.8 km	ハ イ° ライ° 10.1 km		
構成員	農業者 47人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 10団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

竜森地区環境保全組合では、地域における農業者の高齢化による施設の維持管理の脆弱化が課題となり、施設の維持保全は農業者だけではなく、自治会・婦人会・老人クラブ・子供会・水利組合・土地改良区が参画し、維持保全活動为目标として活動を行ってきました。

これまでの活動に伴い、竜森地域としても農業への関心が向上されたと思われます。現在、三ノ渡水利組合、松沢水利組合を主体とし取組んでいるが、今後は若い世代の農業従事組織経営を目標とすることにより、農家の高齢化や後継者不足なども懸念されると思います。

このような活動を行うことにより、農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に関心を持ち理解を示すことにより、普段使われている防火用水及び冬期間の消流雪水と使用されている農業用水が、地域の貴重な資源となると、改めて感謝されています。



自然豊かな資源保全のため草刈りや清掃を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	品類地区資源保全会	代表	布田 久人
協定面積	田 43.15ha 畑 ha 計 43.15ha	対象面積	田 43.15ha 畑 ha 計 43.15ha		
管理施設	開水路 3.8 km ため池 2 ヶ所	農道 8.2 km	ハ イ° ライ° km		
構成員	農業者 24人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

水田面積43ha余りの内の3分の1強の15ha余りの転作地の管理や農道の補修等、これからの農業を考える上で大きな課題になっていましたが、5年間にわたり集落全戸の積極的な協力により耕作放棄地の発生防止、畦畔等のきめ細やかな雑草対策、8k余りの農道敷砂利作業、用水路の泥上げ、草刈等々、揚水機の手入れ修理、子供会や婦人部の合同花いっぱい活動、集落全員感が復活したと思っております。



共同作業によるきめ細やかな雑草対策

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	川井地域環境保全会	代表	佐藤 吉男
協定面積	田 125.92ha 畑 ha 計 125.92ha	対象面積	田 125.92ha 畑 ha 計 125.92ha		
管理施設	開水路 19.6 km	ため池 5 ヶ所	農道 17.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 80人	農業団体 1団体	非農業者個人 1人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動する保全会の範囲は、団体営及び県営ほ場整備事業地区であるが40年以上経過し用排水路等の農業施設が老朽化、併せて、ため池5箇所も老朽化していることが課題となっていました。

地域課題としては、高齢化率が高く、世帯・人口の減少が著しい。

それとともに就農者及び共同活動参加者も高齢化し、65歳以上が大半を占めることでした。

この事業を通して、農業者以外の方々と一緒に農業施設の保管理や草刈り・泥上げ・ため池の外来種の駆除・景観形成事業等多くの地域課題となっていることが地域みんなで協議を重ねながら実施することが出来ました。

今後、益々農業が持つ多面的機能を通じ、計画的な共同活動の実施による農地及び農業施設の維持補修・景観作業・水質検査等による環境や安全対策を強化していきたいとします。



5年間で10箇所の用排水路の補修を行うことが出来ました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	下杉地域環境保全組合	代表	後藤 久美
協定面積	田 81.59ha 畑 ha 計 81.59ha	対象面積	田 81.59ha 畑 ha 計 81.59ha		
管理施設	開水路 27.3 km	ため池 5 ヶ所	農道 9.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 30人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全組合は、阿仁川の水田地帯にあり、ため池からの取水と頭首工からの取水のため、広範囲にわたって活動を行ってきました。各施設の草刈り、水路の泥上げ、植栽等まで幅広く活動を行ってきました。

我が地域のため池は公園とも隣接しているため、ミズバショウの群生地整備・景観形成・ため池の生態系の崩壊の原因となっている外来種の駆除を行ってきました。

また、各活動において地域全体の住民参加型に努め、農家から非農家問わず、子供からお年寄りまで交流することができました。

生態系の保全・防災・景観形成など多面的機能をもつ水田やため池をこれからも地域の財産として後世に残していきたいと思います。



保全組合で実施したため池の外来種の駆除です。外来種の多さに驚きました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	上杉地域環境保全組合	代表	関 富五郎
協定面積	田 124.75ha 畑 ha 計 124.75ha	対象面積	田 124.75ha 畑 ha 計 124.75ha		
管理施設	開水路 20 km ため池 4 ヶ所	農道 12.5 km	パイプライン km		
構成員	農業者 56人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

過去5年間の活動を経て、農業施設の保全と農業の仕組みが環境保全向上の共同活動を通して農業とそれを取り巻く様々な課題が浮き彫りにされてきた。

特に、農地と水の密接な関わり方を改めて理解することが出来て、今後の取組みを考えさせられた。

さらに、集落の農業者、自治会、長寿会、親子会、営農団体、婦人会等の諸団体と共同活動を行なうことによりコミュニケーションが活動ごとに広がり共通意識が深まった。また、環境美化活動では花の植栽で高齢者の参加を得て参加の輪がさらに広がり活性化してきた。

最後になりますが、共同活動を行なうことによって農家も、以外の人でも地域の農業施設に対する意識が高まり、大切な資源であることに関心が深まりまとまりが出てきた。



共同活動に向け地域で話し合い、計画を策定

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	桃栄地域環境保全組合	代表	芳賀 泰志
協定面積	田 9.05ha 畑 ha 計 9.05ha	対象面積	田 9.05ha 畑 ha 計 9.05ha		
管理施設	開水路 2.5 km ため池 4 ヶ所	農道 1.0 km	パイプライン km		
構成員	農業者 13人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の環境保全組合は組織が小規模であり、多くの活動を行えませんでしたでしたがこれまで手の届かなかった範囲での草刈り、泥上げ、砂利敷きなどの活動を行ってきました。

また、農道においての植栽は、集落に続く農道が華やかとなりました。今となっては各活動が地域の景観・生活環境を改善し、生態系保全や地域住民との交流活動にもつながったと思います。

この農地・水・環境保全活動を通じて地域住民一丸となって活動に取り組めた事が良かったのではないかと感じています。



保全組合で行った砂利の補充・不陸整正です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	道城地域資源保全隊	代表	松橋 新一
協定面積	田 51.57ha 畑 ha 計 51.57ha	対象面積	田 51.57ha 畑 ha 計 51.57ha		
管理施設	開水路 10.8 km	ため池 ヶ所	農道 2.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 73人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

県営ほ場事業により30数年前に地区内農地は30a区画に整備され、農業用排水路は用排分離、開水路となりましたが、年々地域における混住化・農業者の高齢化により施設の維持意管理、さらに水路などの農業施設の老朽化が地域の課題となっていました。

これらの課題を少しでも軽減出来れば平成18年度からモデル事業に取り組み、農地・水路・農道等資源の維持管理保全を農業者だけでなく非農業者も含め、集落民一同協力しこの事業に取り組んできました。

その結果、集落民の農業に対する関心が高まり地域の農業施設を集落民みんなで守っていこうという機運が高まりました。

又、草刈りや土砂上げなどを定期的に行うことにより周辺の環境を整えることができみんなで頑張れば地域内が明るくなるという喜びを味わうことができました。

用水路脇等を活用した花植栽活動、定期的清掃活動では老若男女が多数参加し作業する喜びと住民の絆を深める場となりました。

地域のまとまりが薄れてきていると感じていた時にこの事業に取り組んで、道城魂が復活し、集落民の絆が一層深まったと感じています。



用水路の土砂上げ作業を行い水の溢れる箇所を土を積み上げ 水が溢れるのを防ぐことができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	増沢地域環境保全組合	代表	杉渕 實
協定面積	田 61.43ha 畑 ha 計 61.43ha	対象面積	田 61.43ha 畑 ha 計 61.43ha		
管理施設	開水路 24.2 km	ため池 9 ヶ所	農道 10.4 km	パイプライン	1.7 km
構成員	農業者 62人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域は阿仁川の最下流に位置し、洪水による農地への被害が頻繁に発生する地域です。特に平成19年の大洪水は、これまでにない大被害となりましたが、事業を活用しながら対象施設の補修も含め農地の多面的機能を維持することができました。

地域内では高齢化が進み農業者数が減少し、農道や開水路の維持管理が大きな課題でしたが、泥上げや草刈・農道補修等地域みんなが参加して行うことにより、地域住民のふれあいの場が増え活性化に繋がるとともに、農用地の保全管理を計画的に実施することができました。

農道への花植えには親子会や寿クラブ・婦人会等非農業者の参加が多く、道行く人の心をなごませこの活動の目的を広く浸透させることができました。活動の報告と反省を兼ねた交流会には集落の大半が参加し大変喜ばれています。これからも、この活動が地域をもっともっと活性化させ農用地の保全管理に役立つよう取り組んでいきたいと思ひます。



水路の泥上げ作業は、朝5時半から雨にもかかわらずたくさんの方に参加していただきました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	木戸石地域資源保全会	代表	佐藤 征太郎
協定面積	田 69.64ha 畑 ha 計 69.64ha	対象面積	田 69.64ha 畑 ha 計 69.64ha		
管理施設	開水路 6 km ため池 1 ヶ所	農道 10 km	パイプライン km		
構成員	農業者 77人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では水と緑に包まれた原風景を守り継ぐ運動のスローガンに則り、農地及び水路や景観形成、生態系保全、他に水質保全活動を行ってきました。

小学生も交えて地域住民大多数が参加するようになり、この共同活動によって地域の農地や用水の保全会の大切さと資源を守っていく意識が高まったと思います。

高齢化等により遊休農地の発生が懸念され、農作物への病虫害被害などで地域で対策を練って復しましたが、保全会の共同活動によって遊休農地の発生を防止してきました。

今後も、住民各自が地域を守って行く意識を高揚させながら活動していきたいと思っています。



遊休農地の発生防止活動。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	八幡岱地域環境保全組合	代表	藤田 信行
協定面積	田 45.67ha 畑 ha 計 45.67ha	対象面積	田 45.67ha 畑 ha 計 45.67ha		
管理施設	開水路 5.8 km ため池 ヶ所	農道 3.3 km	パイプライン km		
構成員	農業者 42人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する地域は、全国に先がけた通年施工方式の圃場整備事業が昭和47年に完成した。

しかし、生態系保全を考えた農業施設ではないことから整備前は町内でも有数のホタルの生息地であったが、川魚とともにその姿が見られなくなり絶滅したものと思っていた。

その後、長い年月を経て自然環境の浄化に伴い、ようやく平成18年頃から幹線排水路にホタルの姿が見られるようになった。

当組織では「ホタルの里」と命名し、看板の設置、水質モニタリングの実施、春・秋のクリーンアップや、景観形成活動行事の啓発により子供からお年寄りまで多数の方々が参加するようになった。

その活動の成果は年々向上しており、親子会が毎年7月頃に実施する観察会では、`光が交錯する芸術的な風景、が見られるようになった。

今後、地域住民、とりわけ子供たちがホタルとの触れ合いを体験し、後世に継承していくことを願っている。



観察会でホタルとの触れ合いを楽しむ親子たち

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	美栄地域環境保全組合	代表	藤嶋 佐久栄
協定面積	田 14.84ha 畑 ha 計 14.84ha	対象面積	田 14.84ha 畑 ha 計 14.84ha		
管理施設	開水路 2 km	ため池 2 ヶ所	農道 4.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 8人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの暮す地域は、75年前に入植した開拓地です。
入植当時は、決して稲作には適さないこの土地を、大抵を手作業で耕し僅かな収穫に汗を流した苦労話を祖父から聞かされたものです。
時の流れとともにため池が整備され、又、立派な農道、水路が先輩方のご苦勞により整備されてきました。
しかし、30年の歳月は施設の老朽化を招き、耕作者だけでの補修作業は人手や金銭面において無理がありました。

今回、保全組合が発足されたことにより地域の皆さんの力を借りることが出来たことで、今までに無い知恵や技術を持つ人の参加を得る事となり、水路等の補修作業を通じて地域住民の繋がりも生まれ、特に高齢者と若者とが会話できる場が出来たことは5年間の一番の産物だと思っています。

これからもこの出来つつある地域の繋がりを大切にして行きたいと思います。



重機を使った水路の補修作業。今までは出来なかった作業が出来ました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	新田目資源保全会	代表	斎藤 祐一
協定面積	田 45.25ha 畑 ha 計 45.25ha	対象面積	田 45.25ha 畑 ha 計 45.25ha		
管理施設	開水路 5.0 km	ため池 ヶ所	農道 4.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 18人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

優良農地(県営圃場整備役1000ha)の一角に約45haの農地がエリアとなっておりますところに、国指標のメニューを5カ年実施してきました。

主たるメニューは、景観形成生活環境保全、生態系保全事業であります。今回は、花壇ロードに触れたいと思います。

阿仁川新田目橋の幹線農道(L=1000m W=3.5m)両脇に花壇約60個を設置、マリーゴールド・サルビア等を植栽、管理を実施してきました。

特に、23年度はたまたま「父の日」の記念作業となり、父に感謝、家族に感謝、花にも感謝の合言葉に植栽。9月下旬頃まで管理(主に水かけ、草刈等)実施しました。

我が集落は、他地域と比べても少子高齢化が一段と進んでおる集落であります。皆で事業する意欲が出て集落のコミュニティ造りに大きく貢献して頂いた事業でありました。



コミュニティ(地域)造りに貢献
{花壇ロード}

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	福田地域環境保全組合	代表	鈴木 勲
協定面積	田 32.72ha 畑 ha 計 32.72ha	対象面積	田 32.72ha 畑 ha 計 32.72ha		
管理施設	開水路 5.5 km ため池 2 ヶ所	農道 1.5 km	ハイクライ 0.3 km		
構成員	農業者 25人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する地域は、昭和44～48年県営圃場整備事業、通年施行で完成した箇所があります。

農業従事者の高齢化の加速により、若い担い手の確保と優良農地の確保、農用地の多面的有効利用が課題でありましたが、環境保全活動への若い世代の参画で熟練農業従事者との対話や一体となった活動が見え始め、老若の交流の推進、地域農業等の活性化が進みつつあるように感じます。

また、地域の農業用水は3系統ですが、毎年水質モニタリング学習会開催により、構成員の水に対する意識、大事さ等貴重な活動となりました。

今後とも地域環境の向上、地域活性化の推進に対し、この経験を生かしたいと思います。



水質モニタリング学習会

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	羽根山地域環境保全会	代表	松岡 利夫
協定面積	田 56.81ha 畑 ha 計 56.81ha	対象面積	田 56.81ha 畑 ha 計 56.81ha		
管理施設	開水路 10.9 km ため池 ヶ所	農道 7.1 km	ハイクライ 0.8 km		
構成員	農業者 21人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織は、地域の農業環境を守り後世に最良の条件で引き継いでいくため、農業者、農業者以外を含め活動を目指してきました。

課題として、農地の雑草繁茂による環境悪化の解消、用排水路の老朽化に伴う劣化を整備するため作業を考え5年間実施してまいりました。

主体の農地の雑草管理は、暑さも増す時期の草刈となり対策として、早朝に太陽の昇る前の時間を利用し、高齢者でも作業が出来るよう実施しました。

5年間の作業は様々な苦労もありましたが、集落皆の団結で終了することが出来ました。

今後は、組織を最大限利用し、若い世代の者も取り入れ地域の発展に繋がればと期待しています。



草刈で雑草繁茂解消 環境整備

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	東根田地環境保全組合	代表	桜田 日出雄
協定面積	田 34.39ha 畑 ha 計 34.39ha	対象面積	田 34.39ha 畑 ha 計 34.39ha		
管理施設	開水路 5.4 km ため池 2 ヶ所	農道 4.2 km	ハ°イ°ライン	km	
構成員	農業者 12人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域環境保全組合では、開水路の景観形成のため花の植栽を共同作業で行いました。『通水路に花がさいたよ』というタイトルで小学校高学年の児童から作文を頂きましたので要旨を紹介します。

【今まで花は見かけませんでしたが、どうして急にきれいな花が花壇に赤、黄色、オレンジの花など沢山咲くようになったか疑問に思ったので、お父さんに聞いたら農村環境活動といわれる活動で5カ年にわたってきれいにしていく活動と聞きました。毎朝集落の人たちが花に水かけをやっていました。学校でも花を植えてみんなで育てていますが、集落の花も学校の花もたくましく育ててほしいものです。緑・水・花の環境の大事さがよくわかりました。】とありました。

子供から大人までこのことが集落で話題となり、各家庭はもとより地域に花の植栽がいろんな形で実践されるようになりました。これからも景観形成中心の街づくりを進めたものです。



農道の花壇に咲いたきれいな花々!!

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	西根田地環境保全会	代表	金森 勝三
協定面積	田 44.38ha 畑 ha 計 44.38ha	対象面積	田 44.38ha 畑 ha 計 44.38ha		
管理施設	開水路 11.1 km ため池 3 ヶ所	農道 3.1 km	ハ°イ°ライン	km	
構成員	農業者 11人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会は、小阿仁川の恵みをうけ広大な水田地帯の中に位置し、代々先祖から引き継がれてきたため池を所有し多くの生物や植物が生息しているなど生活の一部となっているため池の人と自然環境の調和を目標に活動を行ってきました。

保全会では水質モニタリング調査や生物調査を行い、恒例となった年に1回の生物調査においては老若男女問わず参加し地域内の交流を深めてきました。

また子供達においては自然環境に対する学習の場になったと思います。

将来故郷を思う心や癒しの場として継続するためにも今後活動を続けていきたいと思っています。



保全会で行ったため池の生物調査です。調査はもとよりお年寄りから子供まで楽しい一時を過ごしました。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	芹沢地域環境保全会	代表	土濃塚 謙一郎
協定面積	田 27.81ha 畑 ha 計 27.81ha	対象面積	田 27.81ha 畑 ha 計 27.81ha		
管理施設	開水路 3.8 km ため池 1 ヶ所	農道 2.0 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 14人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

（5年間の活動内容や感想等記入）

従来農業については農業者個人で活動しておりましたが、この事業が始まってからは、非農業者にも参加を促し、水路の泥上げ・雑草対策・農道の砂利敷き補修など、共同作業を通してこの地域の農地環境の現状・問題点などをみんなで考え、地域全体として共有することが出来た。

また、景観形成の一環として、花壇づくり・草取りなど、寿クラブ・婦人会・親子会など、本来あまり関係しない人たちにも、農業者と一緒に取り組み、交流・啓蒙活動を通して地域全体として考える環境が出来た。

合わせて、地域の大事な水質保全についても重要性を確認出来てきている。

この地域の農地・水・環境保全について、地域住民全体で、改めて考えられるようになった良き機会の事業だと考えております。



景観形成活動による花の植栽

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	三里地域環境保全組合	代表	福岡 昌樹
協定面積	田 60.96ha 畑 ha 計 60.96ha	対象面積	田 60.96ha 畑 ha 計 60.96ha		
管理施設	開水路 8.4 km ため池 1 ヶ所	農道 8.4 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 13人 農業団体 団体	非農業者個人 1人	非農業団体 6団体		

（5年間の活動内容や感想等記入）

地域一丸となり、農家、非農家にかかわらず、老若男女総参加のもと、農地・水・環境保全に取り組んできました。

今後も農地・水・環境保全はもっとも重要な施策と考えます。

ご指導、ご鞭撻よろしくお願いします。

有難うございました。



子供たちと共に巣箱を作り、ため池近くに設置しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	摩当地域資源保全会	代表	金田 健市
協定面積	田 30.79ha 畑 ha 計 30.79ha	対象面積	田 30.79ha 畑 ha 計 30.79ha		
管理施設	開水路 21 km ため池 1 ヶ所	農道 3.6 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 16人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

この事業のおかげで老朽化した施設を改修でき大変助かりました。
農道の補修（砂利敷を含む）、用水路の補修（泥上げ含む）、農用地の草刈等、農業者・非農業者参加で施設を維持する事ができました。

毎年、大雨後には農道・水田・水路等が破壊されており、この事業のおかげで大改修する事ができましたし、他組織との交流で研修会も行いう事ができ、会員相互の親睦を図る事もできました。



H20年農道法面大改修(場所~おきさ街道)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	三木田地域環境保全組合	代表	三浦 淳蔵
協定面積	田 54.42ha 畑 ha 計 54.42ha	対象面積	田 54.42ha 畑 ha 計 54.42ha		
管理施設	開水路 19 km ため池 1 ヶ所	農道 10 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 57人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私ども三木田地域環境保全組合は資源の長寿命化と共同活動を通じて持続的な農業を守り、協働精神を育み安全で安心して暮らせる自然豊かな街（集落）づくりを目指して活動して参りました。

この事業で農道の草刈、補修、用排水路の泥上げ草刈、補修などで後継者難や担い手不足で悩む農家の労力不足を補うこととなり、更に水利費や賦課金の半減化や農業経営の所得向上に大きな成果をもたらしました。

生物調査や水質検査などは子供たちと地域の輪をもたらし、清い水と土、緑豊かな自然の中で名も知らぬ生物や雑草の多さに驚き、素足で田んぼに入って郷土の土の温もり温かさに触れたことはいつの日か故郷を思う思い出になることでしょう。



地域の小学校・JA・集落農業者と生き物調査を3年間実施・自然環境の大切さを子供たちと学習した。この地域は外来生物が少ないことがわかった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	鎌沢地域資源保全会	代表	加藤 龍悦
協定面積	田 63.72ha 畑 ha 計 63.72ha	対象面積	田 63.72ha 畑 ha 計 63.72ha		
管理施設	開水路 21.3 km ため池 ヶ所	農道 12.2 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 42人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当集落では高齢化等により年々農業者が減少し、農道や用水路等の管理に苦慮していましたが資源保全会活動により、農業者以外の方もまきこんだ農業施設の整備や農業用水を地域用水としての活用が図られた。

景観形成の花植栽および話し合いには子供から老人まで多くの参加があり、集落が一体となった取り組みができた。

また、春先に咲く花が見られないとチューリップの球根をボランティアで植えるなど地域の環境・景観に対する関心が高まった。



集落民が一体となった花の植栽作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	大内沢地域環境保全組合	代表	成田 誠司
協定面積	田 15.14ha 畑 ha 計 15.14ha	対象面積	田 15.14ha 畑 ha 計 15.14ha		
管理施設	開水路 3 km ため池 1 ヶ所	農道 3 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 10人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全組合の農地は源流に近いところに位置し、清らかな水に恵まれ、秋には鮭の群れが川一杯に上り、保全組合発足後初めて水質モニタリングを実施し水に対する意識を高めました。

保全組合発足以前にも施設の管理は行ってきましたが、高齢化(47.7%)等進み作業の内容としてはあまり良いものではありませんでした。

地域活動指針チェック表に従い作業もスムーズに進むようになり、地域住民の環境に対する意識の高まりもみられ、年齢等関係なく積極的に参加され個人々々いろいろな意見を述べるようになりました。

当集落の素晴らしい環境を未来の子供達へ引き継ぐためにも今まで以上に施設の管理及び景観形成活動を継続していくつもりです。

尚、5年間ご指導いただきました各職員及び担当者の皆様方には心より感謝申し上げます。



大雨等の被害多発し水路法面の崩落6ヶ所及び水路U字溝の被害等発生し補修することができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	雪田地域資源保全会	代表	山岡 多郎右エ門
協定面積	田 22.53ha 畑 ha 計 22.53ha	対象面積	田 22.53ha 畑 ha 計 22.53ha		
管理施設	開水路 7.7 km ため池 1 ヶ所	農道 4.1 km	ハイクライ	km	
構成員	農業者 7人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会では清廉な水の流れの小阿仁川と雪田沢川に挟まれ、川の浸食によってできた平地に水田が広がっている小田園等子ども達へ受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。

取組み当初は当地区は高齢者が多いため、戸惑いもありましたが、自治会と連携を計りながら構成員全てが参加できるようになりました。

特に、施設への植栽では目立って参加者が多かった。

保全会の目標であった生態系保全では、旧苗代を適正管理したところ、21年2月頃から白鳥が飛来、親2羽子4羽計6羽が毎年飛来し、地域の話題となり、毎日見るのが楽しみとなり、自治会地域の貴重な活動となりました。

小さな自治会ですが5年間の活動は極めて有意義な活動だと感じています。



22年2月から飛来した白鳥 自治会自宅からわずか10kmの旧苗代

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	杉山田地域環境保全組合	代表	伊藤 英一
協定面積	田 36.75ha 畑 ha 計 36.75ha	対象面積	田 36.75ha 畑 ha 計 36.75ha		
管理施設	開水路 8.0 km ため池 ヶ所	農道 5.0 km	ハイクライ	km	
構成員	農業者 17人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する地区は、30年以上前に県営圃場整備事業が完成し、水路や農道等農業施設の老朽化が地域の課題となっていました。

平成19年度から環境保全事業に取り組み、水路の補修柵の泥上げ、揚水機の整備、農道の草刈り整備など、地域みんなで“農業施設を長持ちさせよう”と努力しました。

限界集落の話が聞こえ43戸の小集落ではまとまりが薄れてきていましたが、特に環境向上活動の花植栽には、親子会・長生きクラブ・婦人会方々のご賛同を頂き、秋祭り以上の参加者がマリーゴールド・サルビアを多く植栽し秋まで鑑賞することができました。

薄れてきていました集落の絆が、この5年間の活動で復活されつつあると思います。

これからも少人数の集落ではありますが、自分たちの力で出来ることは自分達でと意気を高めているところです。



年間2箇所程 5年間で10箇所の開水路補修ができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	本城地域環境保全会	代表	柴田 林之助
協定面積	田 74.92ha 畑 ha 計 74.92ha	対象面積	田 74.92ha 畑 ha 計 74.92ha		
管理施設	開水路 13.1 km ため池 2 ヶ所	農道	14.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 58人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	9団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年度から5年間にかけて行われたこの事業は、私たちの集落に大きな恵を与えてくれました。

1つには、農村環境の整備です。これまでは、集落で行ってきた農道整備及び水利組合で行ってきた水路の整備事業が、交付金で早急に日当が支払われるため、年々活動人数が増え事業もはかどった。また、景観形成のための植栽、草刈・清掃、ため池の水質モニタリングによる水質保全等により以前にない集落を取り巻く環境を整備する事が出来た。

2つには、共同活動を通して個人の収入が増えた事です。この日当は固定給とは異なり臨時の収入なので、自由に使われ地域の経済の発展に少しは寄与した事と思います。

3つには、共同活動を通して集落民間の絆が強まった事です。これまでは農用地へ行く機会のなかった非農家の方々も、活動を通して水路の泥上げ、農道の整備作業等農家の方々と共に作業を行い、事業の終わりの座談会でもコミュニケーションを持ち、農業に対する理解が深まったと思います。

この事業で芽生えた共同・助け合いの心が部落に根付いて来たと感じています。



共同作業前の打ち合わせ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	向本城地区資源保全会	代表	九嶋 政雄
協定面積	田 55.9ha 畑 ha 計 55.9ha	対象面積	田 55.9ha 畑 ha 計 55.9ha		
管理施設	開水路 10.7 km ため池 ヶ所	農道	8.1 km	パイプライン	0.9 km
構成員	農業者 42人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が所管する農地・農業用水路・農道等は農業者によって整備され、大概良好でありましたが、今後農業者の高齢化が進むことから、適切な農地・農村環境の継続的な保全が重要となりました。

平成19年度から本事業に取り組み、農業施設の保全管理のほか開水路の泥上げ、農道等の草刈等構成員の参加を得た共同活動として実施しました。

また、景観形成活動として実施した総延長約1kmに及ぶ「向本城フラワーロード」づくりには、老人クラブ・子供会・婦人会が植栽からかん水、草取等の日常の管理を担当し、地域の美化活動として住民から好評を得ました。

5年間の活動で地域のまとまりや農村景観を維持しているという住民の思いが以前に増して強まったと感じています。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	日栄地域環境保全隊	代表	小笠原 喜代志
協定面積	田 11.1ha 畑 ha 計 11.1ha	対象面積	田 11.1ha 畑 ha 計 11.1ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 1 ヶ所	農道 7.2 km	パイプライン 0.6 km		
構成員	農業者 12人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 9団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は、昭和12年に開拓者として先祖が移転をしてきて今は3代目が主流になって先導している所です。

やはり高齢化が進み、農業を離れる人も多くなってきました。私たちの水田は集落から少し離れた目の届く所にあります。ため池を利用しております。水田面積から見て、ため池が大きく管理が大変です。

この度、農地・水・環境保全事業を取り入れて、どうなるかと思いましたが、徐々に協力体制ができ、法面の草刈り、農道補修、そして水路の目地詰めなどは一回りすることができました。

また、景観形成の花の植栽などには婦人部、時には子供たちも参加して頂き楽しみながら事業を進めることができました。

このように、前よりもまとまりのある集落になりつつあるように思っております。特に婦人部の皆さんは協力体制ができ絆が大きくなったように思います。

5年間の最後の事業23年度には集落の大勢の皆さんに参加をして頂き温泉旅行に出かけた所です。



このように度々婦人部の皆さんには頑張って頂いております。有難うございました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	鶴田地域資源保全組合	代表	九嶋 善一
協定面積	田 45.8ha 畑 ha 計 45.8ha	対象面積	田 45.8ha 畑 ha 計 45.8ha		
管理施設	開水路 6 km ため池 2 ヶ所	農道 6.1 km	パイプライン km		
構成員	農業者 20人 農業団体 2団体	非農業者個人 10人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全組合では、景観形成活動を中心に農道の補修（砂利敷など）開水路の管理（目地詰など）ため池の維持管理、開水路の泥上げ、水質モニタリングなどを行ってきました。

役員の中にパソコン操作する人がおらず、事務的にはかなりの苦勞が伴いました。

農道、農用地、開水路、ため池の草刈は年に3回定期的に実施し、特に農道、ため池、雑木の繁茂がひどく、維持管理が困難な状況でしたが、この5年間で見違えるようにきれいになりました。農用地の受委託がかなり面積を占めるようになり開水路の泥上げ等は実施に困難な状況でしたが、この事業でスムーズな泥上げ作業を実施することができました。

景観形成活動では、子供さんから年配の方、また同じ集落内で生活していても顔を合わせる機会の少なかった婦人部の方々の参加が多く、管理作業や水やりなど作業を楽しみにしてくれる人も多く、このことで地域の連帯感が強まりつつあるように感じています。



景観形成活動で集落内の連帯感が強くなった

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	中道岱地区環境保全組合	代表	吉田 祐康
協定面積	田 12.0ha 畑 ha 計 12.0ha	対象面積	田 12.0ha 畑 ha 計 12.0ha		
管理施設	開水路 3.0 km ため池 2 ヶ所	農道 3.0 km	パイプライン 3.0 km		
構成員	農業者 10人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

中道岱地区環境保全組合(北秋田市)の施設は、平成4年完成した農地・農道・パイプライン・開水路・ため池・貯水槽などの施設があります。比較的新しくパイプライン・開水路などの損傷は無く、貯水槽は平成23年3月11日の地震被害と思われますが、貯水槽側面の低床あたりにかけて亀裂が生じて現在補修中ではありますが、老朽化的な所は見られないのが現状です。

農地も個人的には排水周りなどの小規模補修があったが、風水害等による被害も無く推移しております。農道については毎年砂利敷補修を実施していますが、22年8月の大雨で集落からの排水溝からあふれて農道を洗掘されて補修しました。

年間の構成員全員の事業としては、開水路・ため池・貯水槽周辺の草刈作業(総勢25名)自治会も構成員ですので婦人会による児童公園・集会所・神社等の草むしりや景観形成の花植えなどを地域ぐるみで実施しております。

春と秋の農作業に入る前の貯水槽・開水路の泥上げなども構成員の男性ですが、全員参加で実施し、結果的に農業者と地域が一体となった活動により農業に対する、また農作物に対する関心と、農業者と自治会の一体感が強まったと感じております。



開水路・ため池・貯水槽等の周辺の草刈り

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	根小屋呼友会	代表	武石 富雄
協定面積	田 37.3ha 畑 ha 計 37.3ha	対象面積	田 37.3ha 畑 ha 計 37.3ha		
管理施設	開水路 4.7 km ため池 1 ヶ所	農道 5.0 km	パイプライン 0.7 km		
構成員	農業者 10人 農業団体 団体	非農業者個人 20人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち呼友会は地域内の適正な維持管理を行うことが困難でした。農地・水・環境保全向上対策活動に参加する事で農業者、非農業者みんなで活動をして役割を理解して適正な管理を行う事ができました。

5年間で農業施設の保全管理や日常管理を地域みんなで出来た事を感謝しています。ただ高齢化が進んで今後の活動の内容が問われる時期にきています。それと事務会計等が大変難しくもっと簡単に出来たらと思います。地域のまとまりが薄れていく中でこのような活動を行う事で皆がひとつになってやって来れたことを大変うれしく思っております。



5年間で各施設の補修を行なう事ができました。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	寄延地区資源保全会	代表	工藤 要吉
協定面積	田 23.7ha 畑 ha 計 23.7ha	対象面積	田 23.7ha 畑 ha 計 23.7ha		
管理施設	開水路 4.5 km ため池 ヶ所	農道 2.4 km	パイプライン 3.1 km		
構成員	農業者 24人 農業団体 1団体	非農業者個人 2人	非農業団体 1団体		
（5年間の活動内容や感想等記入） 当地域の資源保全会集落は、昭和4年に先人が開拓した農地で高台に位置し、用水は上流の山林よりの湧水のため乏しく水利問題で困って居たが、平成14年度に担い手育成基盤整備事業によりパイプラインが完成し阿仁川より揚水し現在に至っている。 しかし、4.5kmの開水路の維持管理に大きな負担があり年々耕作放棄地が増加している状態でしたが、平成19年度からの本事業による共同作業実施により集落の全住民が農地・水・農村環境保全向上対策事業に参加するようになり、現在では、用水路の泥上げ・草刈り作業・水質保全管理・景観形成（花苗の植栽）等が年中行事として集落での共同活動が定着しつつある。					
					
泥上げ作業					

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	白坂地域資源保全向上共和会	代表	畠山 隆生
協定面積	田 32.8ha 畑 ha 計 32.8ha	対象面積	田 32.8ha 畑 ha 計 32.8ha		
管理施設	開水路 12.4 km ため池 3 ヶ所	農道 8.8 km	パイプライン 4.2 km		
構成員	農業者 9人 農業団体 1団体	非農業者個人 7人	非農業団体 9団体		
（5年間の活動内容や感想等記入） 私たちの組織が活動する範囲は40年以上前に圃場整備したため池からの用水利用の地域と平成7年に完成した大区画整備事業のパイプライン給水の地域と2つの地域があります。 特にため池からの開水路は毎年被害にあい、毎年補修に多くの費用がかかる事や、蛍の里として有名なため水質の保全には特に気を使いながら事業をしました。 開水路、パイプライン、ため池、農道と全ての保全活動を行わなければならないため、戸数16戸の小集落であるので全戸の協力が必要であるが、体制は集落営農組織を中心に活動が進んでいたために事業の活動には集落全体で取り組むことが出来たことに感謝し、これからも集落全体で協力し合っていきたいと思います。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	大湊地域資源保全組合	代表	武石 一男
協定面積	田 16ha 畑 ha 計 16ha	対象面積	田 16ha 畑 ha 計 16ha		
管理施設	開水路 5.5 km ため池 ヶ所	農道 1 km	パイプライン km		
構成員	農業者 43人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織は、緑豊かな水田風景と清流阿仁川沿いに位置する小さな集落ですが、水路など農業施設の老朽化が進み大きな課題となっていました。 本事業によって豪雨等による開水路被害の解消、共同活動によって今までバラバラであった集落も活発な行動が見られるようになりました。 これからもこうした状況を継続していきたいと思います。					
					
5年間で水路の補修、目地補修を行うことが出来ました。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	桂瀬地区環境保全組合	代表	白沢 俊孝
協定面積	田 25.64ha 畑 ha 計 25.64ha	対象面積	田 25.64ha 畑 ha 計 25.64ha		
管理施設	開水路 10 km ため池 2 ヶ所	農道 4.5 km	パイプライン km		
構成員	農業者 36人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 当組合は、農地面積(田)25haで農地耕作者36人(世帯数57世帯)の小さな集落で構成されており高齢化が進む中で活動に参加できる方はわずか半数の20人で活動して来ました。 設立当初は活動内容が理解できず、集団作業にも支障を来す状況でありましたが、環境部門の景観形成での花の植栽・草取作業等で地区の婦人会・老人クラブ等が積極的に参加するようになると、男性陣も日増しに協力し基礎活動・誘導活動に協力・理解し作業協力することが出来ました。これも「農地・水環境保全向上対策」の補助事業のお陰と感謝申し上げます。 又、年度毎に農地補修等に改善案の意見が多く出て、作業にも協力するようになり、今後も続けて行く事により、増々地域住民の絆が深まり、お互いに助け合いの精神でこれからも農地向上と地域住民とのつながりを大切に桂瀬地区では阿仁川の清流を活かし、自分たちで出来ることは自分たちでがんばる気持ちで進んで行きたいと思います。 5年間本当にありがとうございました。					
					
水路の泥上げ作業					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	浦田地区環境保全組合	代表	柳山 敏幸
協定面積	田 51.8ha 畑 ha 計 51.8ha	対象面積	田 51.8ha 畑 ha 計 51.8ha		
管理施設	開水路 1.6 km ため池 2 ヶ所	農道	8.8 km	パイプライン	7.3 km
構成員	農業者 21人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	10団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの浦田地区は緑豊かな環境に恵まれた稲作を中心とした緑豊かな地域であります。近年は農業従事者の高齢化、後継者不足もあり、農地及び地域の環境維持が困難になってきていました。

浦田地区環境保全組合の活動は、自治会内の会員及び各種団体の協力で、春のクリーンアップから、野鼠駆除作業、開用排水路の泥上げ、農地・水路・堤周辺の草刈り、パイプラインの維持管理、地域内3カ所に花壇を作り花を植え環境向上に努めている。

又、地域内農道の砂利敷きなどの維持管理、子供会、浦田小学校と連携して地区環境保持のため生物生息調査の実施、水路の補修・改良と、地域住民で作業の分担をし、地区内全員参加で交流を実施した。

この5年間の活動を通して、環境の改善が成り、さらに自分たちの地区の生活環境は、自分たちで守っていくという、意識と絆が大変深まったと思っております。



会員により、地区内の農地・水路等の周囲の草刈りを継続することにより、地区内の環境は常に維持されている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	平里地域環境保全組合	代表	松浦 義春
協定面積	田 15.3ha 畑 ha 計 15.3ha	対象面積	田 15.3ha 畑 ha 計 15.3ha		
管理施設	開水路 6.0 km ため池 ヶ所	農道	3.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 21人 農業団体 4団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の地域は、川からと山の湧水を利用している農業用水で、毎年、用排水路が土砂・小石・ゴミ等で埋もれるため堰上げを実施しているが、高齢化と農業経営の厳しく変わる中、賃貸する農家が多く参加者が少なくなる心配が考えられる。

そういう中で、農業用水の多面的機能（生活用水・防火用水・冬の消雪流）に理解を示し、共同活動を通じ保全する事に機運が生まれました。

そのほかにも、高齢化の中で農業施設等の草刈りや農道に花を植え景観にも努め、歩行者から喜ばれております。

また、地域への広報、啓発普及として設置した立看板に掲げてある通り「水と緑に包まれた郷土の農地・水・環境を守り継ぐ」という地域の人々の意識の高揚も高まったと思います。

共同を通じ活動が地域に浸透し、感謝されておると感じています。



5年間の共同活動で、用排水路が毎年清く流れており、その道端には毎年春に水仙が咲き人々から喜ばれている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	巻刈地域資源保全隊	代表	三浦 米蔵
協定面積	田 11.0ha 畑 ha 計 11.0ha	対象面積	田 11.0ha 畑 ha 計 11.0ha		
管理施設	開水路 2.0 km ため池 ヶ所	農道 1.5 km	ハ゜イ°ライン	0.1 km	
構成員	農業者 18人	農業団体 団体	非農業者個人 7人	非農業団体 3団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの自治会「婦人会」では、15年以前から県道比内線のバイパス開通に合わせ、奥森吉を訪れる観光客等を歓迎するため県道脇に花を植えてきました。 しかし、近年高齢化の進行や資金不足等により意欲の低下がみられ参加者の減少により存続が危ぶまれる事態がありました。 こうしたおり、「農地・水・環境保全対策」に取り組み、話合の結果、自治会ぐるみの取り組みにより、他地区で取り組みが衰退するなか、平成22年、23年 市より奨励賞を授与しました。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	堺田愛郷連	代表	土佐 武
協定面積	田 15.6ha 畑 ha 計 15.6ha	対象面積	田 15.6ha 畑 ha 計 15.6ha		
管理施設	開水路 2.75 km ため池 1 ヶ所	農道 2.585 km	ハ゜イ°ライン	km	
構成員	農業者 28人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの愛郷連では、緑豊かな自然環境と水田風景を子ども達へ受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。 取り組み当初は戸惑いもありましたが、春のクリーンアップや景観形成活動は構成員すべてが参加する集落の一大イベントになりました。 また、農業施設の保全管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理を地域のみんで行うことにより、今までうすれてきていた「絆」が5年間の活動で地域に復活しつつあるように感じています。					
					
手作り看板、手作り花壇で5年間 マリーゴールド・サルビアを植栽することができた。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	上羽立地区環境整備	代表	片岡 喜宝
協定面積	田 11.5ha 畑 ha 計 11.5ha	対象面積	田 11.5ha 畑 ha 計 11.5ha		
管理施設	開水路 2.8 km ため池 2 ヶ所	農道 1.1 km	パイプライン km		
構成員	農業者 13人 農業団体 1団体	非農業者個人 2人	非農業団体 2団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
上羽立地区環境整備では構成員農業者13人となっておりますが、実際は男性農業者3人と非農業者2人、女性農業者2人非農業者2人で外は浦田、桂瀬、惣内部落の耕作者です。浦田、桂瀬、惣内部落でもそれぞれ活動組織がありなかなか参加出来なくなり、主に上羽立部落の人たちで活動を行って参りました。 結局、男女合わせて9人、大仕事時は2名が加わり11名。 この制度で皆仲良く全員参加で仕事をし、日当を頂き部落民の絆を深めるということはこの上ない制度と思いました。 しかし反面、人数が少ない上にまだまだ就労者もいて、事務処理も大変でした。 写真から制度前はこのようなことはなかったのに、本当に今後もいろいろ継続して参りたいと思います。 5年間本当に有難うございました。					
					
				農村環境向上活動 施設等の定期的な巡回点検・清掃	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	下羽立地区環境整備	代表	金沢 嘉和衛
協定面積	田 12.65ha 畑 ha 計 12.65ha	対象面積	田 12.65ha 畑 ha 計 12.65ha		
管理施設	開水路 3.5 km ため池 1 ヶ所	農道 1.3 km	パイプライン km		
構成員	農業者 13人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当、環境保全組織の対象地域は、小集落で農地規模も小さく、土地改良事業にも該当にならない地域であり、かつ、ご多分ながら、高齢化に伴う農業者の離農等地域の農地等環境の維持が困難となっている実情である。 この現状を打開するために、「農地・水環境保全対策向上事業」を活用しなければ当集落の維持存続は難しいと地域で協議を重ね、共同作業を徹底することを確認し合い、昔は当たり前で忘れかけていた「結いっこ」の再現により、農家・非農家問わず全集落民で、貯水池・水路維持を行うことで地域の結束が深まりその事業効果に感謝しております。 集落の水路にコスモスを植栽し、100kmマラソンの参加者や通行者からの感嘆の声をうけ、活動への励みとなっている。 また、当事業で農用水の非灌漑期にはため池からの用水利用により、生活用水利用、生活雑排水の浄化、冬期の流雪利用に活用し、地域のために貢献している。					
					
				農道の砂利補充	

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	惣内地区環境保全組合	代表	庄司 親雄
協定面積	田 17.35ha 畑 ha 計 17.35ha	対象面積	田 17.35ha 畑 ha 計 17.35ha		
管理施設	開水路 6 km ため池 1 ヶ所	農道 1 km	パイプライン km		
構成員	農業者 19人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		

（5年間の活動内容や感想等記入）

第2次農業構造改善事業圃場整備後30数年がすぎ、農道・水路等の損傷が課題であった5農道における砂利補充、2開水路の施設補修の実施、又ため池の開水口補修等、施設の保全、草刈り、泥上げ、景観形成活動は地域住民の協力で行われた。

私たちの小さな集落でも、5年間の活動を通し地域を盛り上げたいと思った。



水路の泥上げ作業

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	五味堀地区環境保全組合	代表	春日 正一
協定面積	田 41.38ha 畑 ha 計 41.38ha	対象面積	田 41.38ha 畑 ha 計 41.38ha		
管理施設	開水路 11.4 km ため池 ヶ所	農道 3.3 km	パイプライン km		
構成員	農業者 20人 農業団体 3団体	非農業者個人 45人	非農業団体 2団体		

（5年間の活動内容や感想等記入）

私たち組織の活動は、農業用水路を地域用水として防火また悪臭発生防止等に利用している重要な施設である。この用水路はコンクリート水路と素掘水路の混合となっており共同作業参加で草刈り・泥上げ等を実施し水路の保全管理を期している。

特に、素掘水路箇所については豪雨後において見回り・点検を実施している。

また、組織集落は県立森吉山自然公園に近く訪れる人々に農村景観を提供するため農用地等の共同作業による草刈り、また住民参加による花の植栽等を実施している。

この植栽には景観への意識を高めるために子供達も参加しております。

本事業は農業従事者の高齢化対策、農用地の継続、農作業の効率化等を考慮した事業でありこの事業を継続要望いたします。

この活動で地域に生まれた共同の連帯感を更に持続していきたい。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	神成地域資源保全隊	代表	佐藤 恵治
協定面積	田 7.8ha 畑 ha 計 7.8ha	対象面積	田 7.8ha 畑 ha 計 7.8ha		
管理施設	開水路 2.6 km ため池 ヶ所	農道 1.3 km	パイプライン km		
構成員	農業者 18人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 8団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊では、集落内の高齢化と農家の担い手不足が進む中で、「農村環境の保全」と「助け合い精神の育成」を目標として活動を行ってきました。 取り組み当初から共同活動の趣旨を理解する人も多く、特に景観形成活動の花植え作業や水路の泥上げ及び農道の草刈り・補修作業などを行ったことにより、農村環境の改善と農家の負担軽減を図ることができました。 また、構成員すべてが活動に参加する事によって、構成員の連帯意識が高まり、自分たちの生活環境は自分たちで守っていこうとする連帯感がより一層強くなったように感じられます。 美しい農村環境を維持して行くために、これからも“共同活動を継続し、みんなの助け合い精神で頑張りたい”と思っています。					
					
				自治会などで行った共同活動です。 5年間で延べ約4.5kmの水路の泥上げ や草刈りを行うことができました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	小湊農地・水・環境保全向上対策組織	代表	大野 廣志
協定面積	田 18.5ha 畑 ha 計 18.5ha	対象面積	田 18.5ha 畑 ha 計 18.5ha		
管理施設	開水路 1.7 km ため池 ヶ所	農道 1.6 km	パイプライン 2.5 km		
構成員	農業者 17人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織が活動する範囲は平成17年度に県営圃場整備事業が完成し、農業施設も一新されました。 しかし一方、区画整理された圃場は担い手に賃貸借されるようになり、地域の絆もよわまってきました。 自分の田んぼでも人に貸してしまうとなかなか行くこともなくなっていました。5年間の活動で直接耕作していない人や、非農家の人々が花植に一同に介してにぎやかに集まるようになりました。 また、用水路の管理係や草刈り作業にも農業者と同じく参加するようになりました。23戸の小さな集落なのでこれからはますますつながりを深めて共同作業をしないと農業施設を維持して行くことが難しくなります。 この事業によって地域住民の意識が再び昔のように共同の力で地域を守って行こうという方向に向いてきました。					
					
				毎年のこの花植えて農業者以外の人たちもこの農道を歩くのが楽しみだそうです。 農業者は花をトラクターで踏みつぶさないようにゆっくりと進み安全にも貢献しています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	下小様農地・水・環境保全向上対策組織	代表	小林 博
協定面積	田 16.26ha 畑 ha 計 16.26ha	対象面積	田 16.26ha 畑 ha 計 16.26ha		
管理施設	開水路 1.8 km ため池 ヶ所	農道 1.0 km	パイプライン km		
構成員	農業者 14人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は40年前に農地、開水路、農道等の整備を行ったが、農道は凸凹であり、開水路の法面は崩壊した箇所が多く見られ農業施設の老朽化が地域の課題となりました。また農地は三角田が多く農作業にも支障を来しております。

今回の、補助事業により地域のみんなで頑張ろうと意識が芽生え、今まで個人で行っていた農作業も共同で行うことにより能率がよく作業が出来、農業施設の保全管理も機械等の使用により今まで出来なかった管理を行うことにより地域の方々から非常に感謝されている。

小さな高齢者の多い集落でも共同作業を行うことにより大きな成果をあげることが出来ました。

5年間の活動で地域もまとまりつつあり感謝されている。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	上小様農地・水・環境保全向上対策組織	代表	豊島 丈夫
協定面積	田 11.6ha 畑 ha 計 11.6ha	対象面積	田 11.6ha 畑 ha 計 11.6ha		
管理施設	開水路 2 km ため池 ヶ所	農道 2 km	パイプライン km		
構成員	農業者 16人	農業団体 団体	非農業者個人 2人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織は森吉山の麓にあり小様川の上流部に位置しております。

最近では学校も統合し小学生、中学生を入れても1人しかいない高齢者50%位の地域ですが、農地水を通して活動が再生されたと思っています。

構成員全戸参加により共同作業等が行えるようになりました。

最初は説明不足もありましたが5年間を通して非常に良かったと思っています。

地域の行事にも参加者が増えましたし、今後も地域の活動全般に生かして行きたいと思っています。

特に、震災後の地域のまとまりに生かされていると思います。



（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	吉田農地・水・環境保全向上対策組織	代表	吉田 仁吉郎
協定面積	田 38.93ha 畑 ha 計 38.93ha	対象面積	田 38.93ha 畑 ha 計 38.93ha		
管理施設	開水路 7.1 km ため池 1 ヶ所	農道 5.1 km	パイプライン km		
構成員	農業者 55人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 8団体		
（5年間の活動内容や感想等記入） 私達の組織の範囲の中に障害者福祉施設がある。そのため、地域との結びつきが最も深いつながりをもつ地区で、周辺にはため池を活用した田園風景があり、施設の園生と一体となった景観活動も行ってきた。 入所者は都会からが大部分で、その保護者からも大変喜ばれ安心感が得られているようだ。又、地区の運動会や祭りも参加し、地域と一体になった活動が行われている。 今後は、農作業等やれる部分を生かしながら、その取り組みをして参りたい。 先般、最後の総会を開き、みんなが活動を通して連帯感が生まれ、是非とも今後も続けて行ってもらいたいと強く述べられていました。					
					
				園生と一体となった花植え活動をし、地域の景観形成を造成して参りました。	

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	北秋田市	組織名	湯口内農地・水・環境保全向上対策組織	代表	工藤 敏雄
協定面積	田 10.7ha 畑 ha 計 10.7ha	対象面積	田 10.7ha 畑 ha 計 10.7ha		
管理施設	開水路 3.8 km ため池 ヶ所	農道 2.4 km	パイプライン 1.8 km		
構成員	農業者 21人 農業団体 団体	非農業者個人 11人	非農業団体 3団体		
（5年間の活動内容や感想等記入） 私たちの湯口内地域は、39世帯で集落を構成し、高齢化率約50%の農業集落です。集落では平成13～14年の2カ年で、水田(上部・下部)の基盤整備事業を実施し農作業の効率化を図り、現在に至っています。 さて、5年間の最終年度を迎えた「農地・水・環境保全」事業については自治会の支援もあって地域の理解が大きくなってきています。特に、農地・農業用水についてはこれまでも湯口内沢川の水源をかんがい用水として利活用してきました。中でも上部の開水路（1.8km）の維持管理には大きな共同作業が投入されて来たところであります。 現在、開水路が整備されたとはいえ、冬期間中の雪害・土砂崩れは毎年発生し、その復旧・回復は共同作業が一番と考えております。 また、開水路の共同作業では「取水口」の補修・長寿命化をこの5年間の中で最も重要な作業として力を入れて来ました。加えて下部開水路の用水は夏季分は集落内の生活用水、冬気分は流雪溝としても利用され、地域の生活文化向上にも欠かせないものとなっております。 今後においても地域の資源を保全する活動を通して、遊休農地の発生防止と集落の健康管理・生活向上のため元気で頑張りたいと願っています。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	荒瀬農地・水・環境保全向上組織	代表	湊 榮興
協定面積	田 17.5ha 畑 ha 計 17.5ha	対象面積	田 17.5ha 畑 ha 計 17.5ha		
管理施設	開水路 2.0 km ため池 ヶ所	農道 2.7 km	パイプライン 3.9 km		
構成員	農業者 27人 農業団体 団体	非農業者個人 92人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織が活動する対象は、40年以上も前に・圃場整備・水路（5km）も全てU字溝が設置され頭首工も完成されているが、長い年月が経過しているため諸施設の老朽化、また地域の高齢化による農業従事者の減少、それに伴う施設の維持管理が課題となっている。 (1) 活動対象が地域住民であり、農業者、非農業者が共に活動するため、農業に対する理解と地域住民の交流が図れた。 (2) 水路は豪雪地帯で高齢化が進むなか、冬は流雪溝、夏は農業用水と集落の生活に欠かすことのできないものであるが、時には雪害や豪雨災害もあり、これらの災害を防止する蓋の設置は住民から大変感謝されている。 (3) 景観形成に於いて植栽などは農地の近くという制限があり、集落の景観とはそぐわなかった。 (4) 組織の高齢化により計画・実施・整理・報告等の事務が代表に集中し大変であった。					
					
				5年間で水路に蓋を290枚（145m）設置できた。住民はこの事業に対しては特に感謝している。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	笑内農地・水環境保全向上対策組織	代表	中嶋 鉦一
協定面積	田 5.1ha 畑 ha 計 5.1ha	対象面積	田 5.1ha 畑 ha 計 5.1ha		
管理施設	開水路 2.6 km ため池 ヶ所	農道 3.8 km	パイプライン km		
構成員	農業者 12人 農業団体 団体	非農業者個人 9人	非農業団体 4団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織が活動する笑内地区は、従前、各農家が個別に用排水路等の維持管理を行ってきたところですが、本事業の導入を契機に農地・水環境保全向上対策に係る協定書を作成し、地区一丸となり活動を行ってきました。 ・取組当初は、非農業者（管理施設外）の戸惑いもあり活動が多少ぎくしゃくしましたが、自治会等の集会の都度、活動の意義等を啓蒙しながら理解を深め、円満に5年間活動を継続してきました。 ・お蔭様で春の田植えから秋の収穫、冬の雪景色まで、一連の農業の営みが地区住民のみならず、内陸線利用者の皆様にも四季折々の季節感を堪能していただく活動となりました。 ・本地区の農業用施設は、農業用水量が少ないため十分に農地を活用できず、耕作地5.1haに縮小した小規模農業者の集まりではありますが、この活動を通して、すべての集落住民が自治会の運営に積極的に参加し、よりよい親睦が生まれ、地区の農村環境の資質向上に機能した役割は大きいと感じております。					
					
				5年間継続し、用排水路の維持、補修管理に努めました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	幸屋農地・水・環境保全向上対策組織	代表	松橋 李雄
協定面積	田 13.01ha 畑 ha 計 13.01ha	対象面積	田 13.01ha 畑 ha 計 13.01ha		
管理施設	開水路 4.2 km ため池 ヶ所	農道 2.4 km	パイプライン 1.7 km		
構成員	農業者 20人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち組織の5年間の活動は、主に毎年4つの活動を行い地域の皆さんから高い評価を頂きました。

一つ目は、春の花の植栽で農免道路両側100m程にマリーゴールド500本程を婦人会、子供会と協働で行い、フラワーロードは最高の景観となりました。

二つ目は、夏の農道と法面の草刈りにより、内陸線と国道105線沿いの田園があるため、その法面の草刈り後の景観はとても良くなりました。

三つ目は、秋に悪くなった農道に砂利敷きを行い、地域の利用者からも喜ばれております。

四つ目は、排水路の泥上げを行っておりますが、田の整備後一度も実施できていない箇所が多く初年度は大変でしたが毎年計画的に行うことにより排水が改善されました。

このように農家と地域の皆さんと共同で作業を行う事ができたことは、地域と仲間の絆が生まれるきっかけを築き上げた活動であったと思っております。



春の農道植栽を婦人会、子供会と共に笑顔で5年間実施できました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	幸屋農地・水・環境保全向上対策組織	代表	佐藤 孝昭
協定面積	田 8.1ha 畑 ha 計 8.1ha	対象面積	田 8.1ha 畑 ha 計 8.1ha		
管理施設	開水路 1.2 km ため池 ヶ所	農道 0.9 km	パイプライン km		
構成員	農業者 15人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域では、昔から水路の泥上げや諸々の仕事を部落民の義務として出役させ男と女、老人に区別して差額や不足料を徴収して会の財源とし運営してきたものですが《農地・水…》制度を導入してから意識が変わりました。

自治会の会費を値上げし、活動に参加した人には少額だが日当を払うことで喜んで出て来るようになり制度の役割も理解され活気づいてきたところです。

地域内の水路は、U字溝に重い蓋がついたもので設置して20数年も開けたことはありませんでしたが皆に語り思い切った中の堆積した土砂を大量に上げる事ができました。

もし、この制度が無かったら永久に『開かずのU字溝』だったろうと仲間と語りあったものでした。

農道には、200m以上に亘ってマリーゴールドの花を毎年植え続け道行く人々の目と心を和ませ、花を見ながらの立話も多く見られるようになりました。

我々構成員間の連帯感も深まり地域に対してもっと何か出来る事はないのかといろいろ模索するようになりました。これを契機に一層の研究と論議をかさねてまいります。



20数年ぶりにあけたU字溝のふたやはり仲間のやる気だった

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	比立内農地・水・環境保全向上対策組織	代表	松橋 利彦
協定面積	田 3.1ha 畑 ha 計 3.1ha	対象面積	田 3.1ha 畑 ha 計 3.1ha		
管理施設	開水路 1.3 km ため池 ヶ所	農道 0.6 km	パイプライン km		
構成員	農業者 7人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

地域の子供会、自治会等に協力してもらい、ゴミ拾い、花植えなどを行ってきました。
構成員の農業者は7名ですが、実際農業に携わっている人は4名しかいません。
活動内容は、泥上げ、草刈がメインで、活動交付金が少ない為、お金のかかる活動、修理などはできませんでした。



今年 子供たちから標語を書いてもらっていました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	北秋田市	組織名	長畑農地・水・環境保全向上対策	代表	上杉 政吉
協定面積	田 9.9ha 畑 ha 計 9.9ha	対象面積	田 9.9ha 畑 ha 計 9.9ha		
管理施設	開水路 3.5 km ため池 ヶ所	農道 1.2 km	パイプライン km		
構成員	農業者 12人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織は、構成員12名と少人員で3箇所には場が分かれている事から、開水路管理がそれぞれの地域で行い、農業者以外の方々の応援をいただき、施設管理できたことが大変良かったと思います。

又、過去長い間、改修出来なかった用水路の決壊危険箇所等を整備し、良好な通水環境施設に完了したことは5年間この事業に取り組んだ最高の成果と思っております。
今後まだ改修を要する箇所があるので、構成員を中心に地域一丸となって取り組んで行きたいと思っています。



5年間で12箇所の用水路整備と、農道2箇所の整備を行なうことが出来ました。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	上小阿仁村	住 所	北秋田郡上小阿仁村小沢田字向川原118 電 話 0186-77-2223		
担当部署	産業課 農務班	担当者	主任 小林 圭		

(5年間の感想等記入)

農村の就業構造における農家世帯の比率は減少の一途をたどっております。

加えて、離農給付金制度、農地集積の推進など、今後ますます農家世帯の減少が加速されるような政策誘導がなされており、農道や用排水路など農村基盤の維持管理の継続が危惧されておりました。

このような中で、非農家を巻き込んでの農村環境保全を目的とした本制度の導入は、あらためて農村コミュニケーションの在り方について、協働、互助の原点回帰に一石を投じたものと、その効果の継続性に期待しているところです。

心配するのは、本制度が一定期間を定めて実施されるものであり、情勢の変化により制度が打ち切りとなった場合、元の本阿弥になりはしないかということです。

より取り組みやすい方式に改良を重ねながら、本制度が永続されることを願っております。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

上小阿仁村	耕地面積	田	487	ha	畑	66	ha	合計	553	ha
平成19年度	協定面積	田	380.14	ha	畑	0	ha	合計	380.14	ha
平成20年度	協定面積	田	380.14	ha	畑	0	ha	合計	380.14	ha
平成21年度	協定面積	田	377.32	ha	畑	0	ha	合計	377.32	ha
平成22年度	協定面積	田	379.88	ha	畑	0	ha	合計	379.88	ha
平成23年度	協定面積	田	379.14	ha	畑	0	ha	合計	379.14	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	380.14	ha	16,737,600円					
平成20年度	対象面積	計	380.14	ha	16,737,600円					
平成21年度	対象面積	計	377.32	ha	16,602,080円					
平成22年度	対象面積	計	379.88	ha	16,714,720円					
平成23年度	対象面積	計	379.14	ha	16,330,746円					
合計					83,122,746円					
活動組織名称		上小阿仁村				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
140	長信田地域環境保全隊				148	福館地域環境保全隊				
141	羽立地域環境保全隊				149	下五反沢地区資源保全組合				
142	大阿瀬地域環境保全隊				150	上・中五反沢地域環境保全隊				
143	堂川地域環境保全隊				151	大海地域環境保全隊				
144	下仏社地域環境保全隊				152	大林地域環境保全隊				
145	上仏社地区環境保全隊				153	小田瀬地域環境保全隊				
146	杉花地域環境保全隊									
147	小沢田地域環境保全組合									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	長信田地域環境保全隊	代表	御処野 耕作
協定面積	田 17.1ha 畑 ha 計 17.1ha	対象面積	田 17.1ha 畑 ha 計 17.1ha		
管理施設	開水路 4.4 km ため池 ヶ所	農道	1.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 30人 農業団体 団体	非農業者個人	44人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 長信田環境保全隊は、農地および農道や水路の適正な管理による施設保全や、景観形成の推進として花の植栽やクリーンアップを実施し、地域環境の美化運動に取り組んできました。 この5年間で振り返って感じたことは、集落周辺の農道に植栽した花が、地域民の心を癒しその素晴らしい農村風景を醸しだして集落全体が明るい環境に移り変わった事です。 またモニタリング調査では、森林に囲まれた清流水を農業用水として利用していますが、以前は水田にからの濁水が多く見られましたが、環境意識の向上により現在はほとんど濁水の放流が無くなりました。農道及び水路の管理も適時の共同作業により土砂堆積や雑草の繁茂も解消され、地域住民の散策路や運動コースとして利用され健康増進の一翼を担っております。 地域みんなで行う共同作業の中で、人々のコミュニケーションも深まり、併せて老若男女の世代間交流も定期的に行われるようになりました。 掛け替えのない自然保護と地域民の心の架け橋として農地・水向上対策事業の成果を基に、自分たちで出来る事は自分たちで創り上げ、そして守り通して地域づくりを進めたいと考えております。					
				 地域の人々が心を癒し活力の源となる環境づくりの一環として農道全線に花を植栽しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	羽立地域環境保全隊	代表	武石 肇
協定面積	田 28.4ha 畑 ha 計 28.4ha	対象面積	田 28.4ha 畑 ha 計 28.4ha		
管理施設	開水路 8.6 km ため池 ヶ所	農道	1.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 44人 農業団体 2団体	非農業者個人	205人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の保全隊では、農地を守り適切な営農活動を行うため、地域住民と力を合わせて、水路、農道の補修や草刈り、また、集落内を水路が通り住民もその水を利用し畑等に使用しているため、住民一体となってその管理に努めた。 集落の環境向上を図るため、集落の出入り口に花の植栽を住民一体となって実行しその管理は婦人会、老人クラブにお願いし実行した、これまで地域活動に参加されなかった集落住民も徐々に多くなり地域の繋がりが強くなり喜んでます。 この先、農業経営を続けていくため、農地、農業施設、農村環境を荒廃させることのないよう地域住民の力を借り農地・水・環境保全の実施により生まれた絆を大切に継続していきたいと願っています。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	大阿瀬地域環境保全隊	代表	萩野 隆
協定面積	田 18.0ha 畑 ha 計 18.0ha	対象面積	田 18.0ha 畑 ha 計 18.0ha		
管理施設	開水路 5.5 km ため池 ヶ所	農道	2.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 40人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち保全隊は、農地集積の拡大に伴い農道や水路等の維持管理が手不足状態となり、農地区域の中に雑草の繁茂や水路には土砂が堆積し流水への支障や、道路においては破損箇所が放置状態にあるなど、農業基盤として又生活空間としての管理改善が課題となっておりました。 地域ぐるみで話し合いを重ね、地域環境保全隊を結成し、人は地域のために・地域は人のために一丸となって環境の再生を思い共同活動に取り組みました。 その結果、農地は濁水を放流しない作業管理が行われ、水路は草払いや土砂等の除去によって清流が淀みなくほ場に流入して適期管理が生育を促進し、道路は路盤の整正等の補修によって路肩の崩落も無く、大型化した農作業機械の搬入も安全になりました。 またこの活動が謙虚に現れたのは、地域住民のコミュニケーションが増し、老若男女の世代間交流が活発になり、地域に笑顔と喜びと楽しさと助け合いの心が甦り、正に大きな「信頼」と自分たちが出来ることは自分たちでの「精神」が育った事です。 今後も地域づくりの計画も進んでおり、頼もしい限りの大阿瀬地域環境保全隊となりました。					
					
				きめ細かな除草は景観構築とともに害虫の発生予防にも欠かせない作業です。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	堂川地域環境保全隊	代表	伊藤 光
協定面積	田 39.55ha 畑 ha 計 39.55ha	対象面積	田 39.55ha 畑 ha 計 39.55ha		
管理施設	開水路 14.4 km ため池 ヶ所	農道	3.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 12人 農業団体 4団体	非農業者個人	80人	非農業団体	7団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊では、集落環境の向上を目的に、農業用水路法面に花の植栽を行いました。これまでも、集落内に花の植栽をしたらどうかという話は自治会総会などで出されていましたがいざ実行となると、経費の面等が障害となり、なかなか実行できませんでした。 農地・水・環境保全向上対策が始まったことを機会に、平成19年から集落入口の農業用水路法面に花を植栽しました。集落を出入りするとき通る道路に面していることや集落公民館に近いこともあり、集落環境が向上し、集落住民の自慢となっています。 毎年、集落ぐるみで植栽するため、これまであまり地域活動に参加してこなかった集落住民も参加するようになり、地域のきずなも強まりました。 年間の花の管理については高齢者をお願いしており、生きがい対策にもなっています。 これからも、農地・水・環境保全向上対策で培った自分達の生活環境は自分たちで良くしていくという気概を持って活動を続けていきたいと思っています。					
					
				5年間農業用水路法面に花を植栽し集落環境の向上と地域のきずなづくりを図ることができました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	下仏社地域環境保全隊	代表	大沢 裕昭
協定面積	田 13.25ha 畑 ha 計 13.25ha	対象面積	田 13.25ha 畑 ha 計 13.25ha		
管理施設	開水路 3.1 km ため池 ヶ所	農道	1.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 22人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊は小さな集落でありその上高齢者が多いため、少しでも明るい集落にしたいと思い当事業に取り組んできました。 我が集落は道路と川に挟まれた小規模の水田が多く 水路の泥あげ、法面の草刈りなど 管理に大変苦勞をしてきました。 集落の戸数は23戸と小さな集落で、しかも現在は児童、生徒が1人も居ない状況です。 しかし村、野外センターの指導を受け、花の植栽に力を いれてきました。 小さな集落でも構成員みんなの協力により花の植え付け などを通じて交流の場が多くなり以前より集落内が明る くなったように感じております。 下仏社地域環境保全隊代表 大沢 裕昭					
					
				構成員の老人クラブとの共同作業 による花の植栽	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	上仏社地区環境保全隊	代表	齊藤 博臣
協定面積	田 32.02ha 畑 ha 計 32.02ha	対象面積	田 32.02ha 畑 ha 計 32.02ha		
管理施設	開水路 16.5 km ため池 5ヶ所	農道	10 km	パイプライン	6.8 km
構成員	農業者 26	農業団体	1団体	非農業者個人	74人 非農業団体 7団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊では小さい集落ですが昔から地域の財産を守るため郷役制度が定着していまし た。また地域の高齢化が進んできたためいち早く地域の農地を守るため営農組合を組織し共同で 農地を守ってきました。そのため保全隊の活動にも進んで参加してもらい大変地域の活性化にな りました高齢者が多く地域及び農地の管理が大変ですがこれからも共同で地域を守っていきたく と思います。					
					
				5年間で農道約8kmに砂利を敷き 農道整備ができました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	杉花地域環境保全隊	代表	齊藤 昭作
協定面積	田 27.4ha 畑 ha 計 27.4ha	対象面積	田 27.0ha 畑 ha 計 27.0ha		
管理施設	開水路 12.4 km ため池 ヶ所	農道	2.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 28人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全隊は農地を守り適切な営農活動を行うため、地域住民と力を合わせて、水路、農道の補修や草刈り、また景観をよくするための花の植栽の協同作業等を楽し行うことが出来ました。当初は事務的にも、実践活動にも多少の心配はありましたが当局の親切なご指導のもと、どうにかついて行くことが出来るようになり感謝申し上げる次第でございます。

この先、農業経営を続けていくために、農地、農業施設、農村環境を荒廃させることにならないよう、地域住民の力を借り農地、水、環境保全の実施により生まれた絆を維持していきたいと願っているところでございます。



稲刈りが終了し、農閑期を迎えた10月、次年へ向け農業者により農道整備をしました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	小沢田地域環境保全組合	代表	田中 良一
協定面積	田 18.1ha 畑 ha 計 18.1ha	対象面積	田 18.1ha 畑 ha 計 18.1ha		
管理施設	開水路 6.4 km ため池 ヶ所	農道	1.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 27人 農業団体 団体	非農業者個人	74人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全組合は緑豊かな水田風景、地域内を流れる河川の環境保全等、子どもたちの受け継ぎと水路等の農業施設の老朽化が地域の課題となっていました。

取り組み当初は戸惑いもありましたが、春秋のクリーンアップや部落内のレクリエーションを通じて、組合の目標であった健康と融和を図ってまいりました。

子どもたちは環境保全の一環として、これまで取り組んでいなかった水質モニタリングを実施し、汚染されていないきれいな水であることを知る良い体験となりました。

農業施設では、水路のU字溝のコンクリート構造物の目地部が劣化が激しく、目地詰め作業と長年実施されていなかった幹線水路及び農道の草刈と泥上げを実施したことにより、地域の農業者が営農に専念することができ、感謝されました。

これからも、自分達でできることは自分達で頑張ろうの精神で地域を盛り上げたいと思います。



集落内を流れる河川の上流で、子どもたちと水質モニタリングを実施し、水の透明度を確認する。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	下五反沢地区資源保全組合	代表	北林 甚一
協定面積	田 36.3ha 畑 ha 計 36.3ha	対象面積	田 36.3ha 畑 ha 計 36.3ha		
管理施設	開水路 11 km ため池 ヶ所	農道	5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 77人	農業団体 団体	非農業者個人 55人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当協定区は集落全体を包み込むような範囲に及び、農地、水路、農道等資源の保全は集落内の農業者が主体となって実施してきておりますが、近年、特に農業者の高齢化により施設の維持管理が脆弱となった事が課題となっております。

このようなことから、組織活動の実施に伴い、特に非農家の方々のご理解と協力を仰ぎ、地域ぐるみで資源保全と併せ環境美化に取り組んできました。

春の開水路泥上げ作業は水利組合が主体的役割を果たしてまいりましたが、これまでの少人数の実施から多人数で出来、能率的で喜ばれ、きめ細やかな雑草対策では広範囲を一度に実施でき、集落内の環境美化にも多大な役割を果たし、施設等への植栽にあっては、日常生活の中で、春から初秋までの間、咲き誇る花が地域内外の人々の心を癒してくれました。

農道の補修管理にあっては、個人では到底及ばない砕石敷設など、事業期間のうち毎年施工でき、施設の永続は勿論、営農における作業効率の向上は言うに及ばずでありました。

親の会主体の自然観察会は、少ない児童生徒たちですが、自然とのふれ合いから郷土を愛する豊かな心の醸成を願い、みんなが元気で明るく参加してくれ、四年間実施する事ができました。

本事業の実施により、自助、共助の秩序や、従来からの集落内連帯感を持続できた事は、最大の成果と思っております。



施設等への植栽

総延長約250mにサルビア・マリーゴール約2,000本の植栽は、春から初秋まで大切に管理。毎日の生活に彩りを添えてくれました。植栽から管理作業は話し合いの場でもありました。



農道の不陸整正

計画策定の際に箇所を特定し、毎年度継続して砕石を敷設した。農機具や運搬機器の横転防止や、作業効率の向上に効果がありました。



こども自然観察会

夏休み期間中に実施。、稲の収穫までの生育過程の話し合いや昆虫類、水路のホタルの餌となるカワニナの生息状況観察など、元気に参加、父母同伴の水遊びは好評でした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	福館地域環境保全隊	代表	齊藤 貢
協定面積	田 49.4ha 畑 ha 計 49.4ha	対象面積	田 32.1ha 畑 ha 計 32.1ha		
管理施設	開水路 11.6 km ため池 ヶ所	農道	2.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 14人 農業団体 4団体	非農業者個人	43人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年に、57軒の集落で福館の福館地域環境保全隊はスタートしました。何もわからないまま0からの始まりでしたが、地域を守ると言う思いから部落会と農業者が中心になり活動に取り組みました。この地域は、高齢化率が非常に高く少子高齢化がもっとも進んだ集落であり限界集落の指定も受けております。また、後継者不足を理由に毎年離農する地域の農業者が止まらないそう言った時期に農地・水・環境活動が始まりました。部落会と、農業者の呼びかけに最初は理解が得られず活動の参加者も限られていましたが、婦人会・老人クラブ・若勢団・消防団・子供会から協力してもらい、しだいに地域住民からも参加者が増えるようになり、ここ2年間はほぼ全世帯が参加してくれるようになりました。そこには、農業とは単に個人の生産活動ではなく地域環境を守っているし、守って行くんだと言う思いと考えが地域住民の中で、世代を超えてつながってきたのだと思います。活動を通じて、自分たちの手で地域環境を守る事は農業も守る事につながるし、逆に農業を守ることが地域環境を守り、またこの活動が地域になくなりかけた人と人をつながりを取り戻したことが、農地・水・環境活動の成果ではないかと思います。



8月に景観植物の管理作業に地域住民で作業する

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動)

市町村名	上小阿仁村	組織名	上・中五反沢地域環境保全隊	代表	中田 義夫
協定面積	田 23.7ha 畑 ha 計 23.7ha	対象面積	田 23.7ha 畑 ha 計 23.7ha		
管理施設	開水路 7.4 km ため池 1ヶ所	農道	2.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 34人 農業団体 団体	非農業者個人	22人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊の地域では、構成員の高齢化等により農業の担い手不足の問題を抱えております。先祖より引き継がれてまいりました地域を後世に引き継いでいくために集落外の農業者の比重が大きなウエートを占めておる地域であります。平成19年度より始まったこの制度により年度当初は施設の点検、計画、環境整備の実施を行ってまいりました。地域の景観形成のため、農道の一ヶ所に花を植え地域のみinnで管理するイベントの一つになりました。

この制度の導入によって地域の環境をinnでよりよくしていきましょうという機運が生まれてきたと思います。



点検活動平成23年4月17日施設内ため池の状況
平成19年4月土砂浚渫実施現在フナ、タニシ生息トンボのサナギ、ホタルの生態系の堅持役割

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	大海地域環境保全隊	代表	清水 勝雄
協定面積	田 26.6ha 畑 1.63ha 計 28.23ha	対象面積	田 26.6ha 畑 1.63ha 計 28.23ha		
管理施設	開水路 9.6 km ため池 ヶ所	農道	3.5 km	ハブライン	km
構成員	農業者 35人 農業団体 2団体	非農業者個人	7人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、緑豊かな水田風景と地域内に群生する「ミズバショウ」と「ホタル」の舞う姿を後世に残すことを目的に活動を行ってきました。小集落であるため、元々クリーンアップや花植え・祭典などの行事には全戸が参加し、まとまりのある地域ではあったが、本事業のお陰で老若男女が更に各行事に積極的に参加するようになりました。

保全隊の活動の一つでもある、地域を流れる水路の水質モニタリングやミズバショウの生育保全と観賞用のために遊歩道を設置し、地域の憩いの場として提供し来訪者を楽しませている。

農業者以外の方々も、以前はほとんどが農家であったため、農業用水がもつ多面的機能に理解を示し、みんなで農業施設を“長持ちさせよう”と機運が高まった。又、農業施設の保全管理のほかにも草刈りや泥上げなどの日常活動を地域みんなで行う事によって、農家の皆さんから非常に感謝されています。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	大林地域環境保全隊	代表	畠山 久夫
協定面積	田 46.3ha 畑 ha 計 46.3ha	対象面積	田 46.3ha 畑 ha 計 46.3ha		
管理施設	開水路 17.2 km ため池 ヶ所	農道	7.4 km	ハブライン	km
構成員	農業者 13人 農業団体 5団体	非農業者個人	5人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する範囲は、30年以前に圃場整備した地域と、未整備の地域がほぼ半々になっている。そのため水路等の農業施設の老朽化が地域の課題になっている。本事業により水路等の補修、改修を重点的に取り組み、他の助成事業も活用しながら整備に心がけてきたが、まだまだ不十分という状態である。

農業者が年々減少し、当事業の当初から農業者数が、2／3になり個々の作業負担が大きくなってきている。農業施設の保全管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理に 農業者以外の方々にも協力を得ているが、作業の軽減を図るため、農道・用排水路の法面に防草シートの敷設を積極的に行い、農業者の負担が軽減されようこばれている。



防草シートの敷設：農家の負担の軽減を目的に、農道の法面に防草シート1500mを敷設する。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	小田瀬地域環境保全隊	代表	小林 武
協定面積	田 18.7ha 畑 ha 計 18.7ha	対象面積	田 18.7ha 畑 ha 計 18.7ha		
管理施設	開水路 6 km ため池 ヶ所	農道	2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 16人	農業団体	団体	非農業者個人 3人	非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊は高齢化が進む中、故郷の水田風景等農業の環境整備を通し地域住民との交流を計ることを目的として活動を行ってきました。取り組みについて、住民の理解を得て積極的に参加を頂く事ができ、共同作業では開水路のゴミ上げ、農道の砂利のコーティング、草刈りについては農用地周辺ときめ細やかな除草をすることができました。

景観形成活動は地域を花で飾ることを目的に、住民から持ち寄った水仙の球根を農道脇に植え、通年春番に花飾りを満喫しております。また、生ごみの再利用では堆肥化して花壇に施して住民の方々にマリーゴールドなどを植え、地域住民と交流の一端を成しております。

水質モニタリングについては、当地域は減農薬農法に取り組み、米作り、野菜作りを行っています。また、住宅においては小規模合併浄化槽を設置しているため、環境にやさしい水質となって下流に放出されていることがモニタリング成果から裏づけされています。

保全活動開始から5年、構成員がさらに高年齢が進む中、今後共に助け合い共同活動の必要性が改めて重要と感じております。



2007年地域住民と交流を兼ねた施設等の研修会

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	能代市	住 所	能代市上町 1－3	電 話	0185-89-2183
担当部署	環境産業部 農業振興課	担当者	眞柄 幸治		

(5年間の感想等記入)

能代市においては、28組織が地域の農業用施設や農村環境保全のために共同活動を行っておりました。

従来から地域の農家同士がお互いに助け合い農地周りの草刈りや水路の補修等を行っていましたが、農地・水・環境保全向上対策を機に非農家や子どもたち(花植え等)も参加するようになり、地域の一体感が増すなど集落機能の維持・向上に役立っていると感じました。

また、農業用施設の維持や長寿命化を図ることによって、耕作放棄地の抑制につながっていると思います。農地としての機能をこれまでどおり発揮できる環境こそが農家のみならず地域や市にとっても重要であり、こうした環境を次の世代へ引き継いでいくことが、いまの私たちに課せられた使命であると考えます。

さらに、活動組織からの声として多く聞かれたのが、豪雨等の災害時に迅速な応急措置を講じることができるため、二次災害の防止に効果的であるというものです。市としても、災害時に地域自らが率先して行動をしてくれたことは非常に助かりましたし、地域の自立性と行動力を実感する機会ともなりました。

他方、今対策の課題としては、活動の要件や事務処理が複雑かつ煩雑であることが挙げられます。各組織において中心となって働いている方々は非常に忙しく、また、事務を行っている方も同様です。もう少し地域の自主性を尊重し、より地域の実情に即した活動が行えるよう要件や事務処理を分かりやすく簡素化してもよいのではないかと考えます。

これからの少子高齢社会を見据えると、農地をはじめとした国土保全や集落機能の維持向上のためには、こうした地域ぐるみの活動を今後とも国を挙げて支援していくことが重要であると考えます。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

能代市	耕地面積	田	6,700 ha	畑	982 ha	合計	7,680 ha
平成19年度	協定面積	田	3,380.52 ha	畑	483.80 ha	合計	3,864.32 ha
平成20年度	協定面積	田	3,393.70 ha	畑	483.80 ha	合計	3,877.50 ha
平成21年度	協定面積	田	3,380.52 ha	畑	483.80 ha	合計	3,864.32 ha
平成22年度	協定面積	田	3,380.52 ha	畑	483.80 ha	合計	3,864.32 ha
平成23年度	協定面積	田	3,370.31 ha	畑	483.80 ha	合計	3,854.11 ha
(支援交付金実績)				〔支援交付金全体〕			
平成19年度	対象面積	計	3,052.77 ha	128,894,200円			
平成20年度	対象面積	計	3,067.47 ha	129,541,000円			
平成21年度	対象面積	計	3,054.32 ha	130,593,040円			
平成22年度	対象面積	計	3,054.32 ha	130,497,760円			
平成23年度	対象面積	計	3,092.29 ha	130,621,545円			
合計				650,147,545円			
活動組織名称		能代市		組織が多い場合次頁に			
番 号	活動組織名称		番 号	活動組織名称			
154	荷八田地域資源活き活き隊		162	羽州いなほ会			
155	朴瀬地域資源保全隊		163	常盤・四日市みどりの会			
156	真壁地地域資源保全隊		164	ときわ川若鮎の会			
157	小友地域資源保全隊		165	能代南保全隊			
158	浅内地域資源保全隊		166	榊地区小友会地域資源保全隊			
159	久喜沢地域資源保全隊		167	吹越地域資源保全隊			
160	常盤地域資源保全隊		168	羽立地域資源保全隊			
161	東雲原地域資源保全隊		169	山紫水明会			

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	荷八田地域資源活き活き隊	代表	小林 一成
協定面積	田 109.1ha 畑 36.5ha 計 145.6ha	対象面積	田 97.7ha 畑 26.2ha 計 124ha		
管理施設	開水路 32.9 km ため池 2ヶ所	農道	15.7 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 49人 農業団体 1団体	非農業者個人	83人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、農家が主体となり、農地及び農業用施設等の保全管理をで行ってましたが、農業者の高齢化などにより弱体化し、また、地域の維持管理活動においても連帯感が薄れ、集落としての活動も弱体化しつつありました。その様なことから、この事業を契機に多様な参画組織(自治会、老人クラブ、消防団など)と連携を図り、十分に話し合いを重ねながら、地域住民のコミュニケーションを再構築させ、資源の長寿命化や質的向上を強化することを目指し5年間実施して参りました。

この5年間の活動を通して、地域用水として利用されている用水路の維持管理のための草刈と土砂上げ、また、共同利用する農道への砂利敷きなどを、主な活動として地域の多様な組織と一緒に参りました。更には、農村景観の保全を目的として施設沿線の清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質調査など従来行っていなかった活動も共同活動として行なつた結果、地域のイベントとなり多数の非農業者の参画を得ることができ、コミュニケーションを再構築することが出来ました。今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています、このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると思われます。今後もこれら活動を通し地域の活性化が図られること期待しています。



地元子供会と共同で開水路内の生態系調査を行い、水環境の重要性を深めあった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	朴瀬地域資源保全隊	代表	見上 清隆
協定面積	田 126.8ha 畑 52ha 計 178.8ha	対象面積	田 67.1ha 畑 26.1ha 計 93.2ha		
管理施設	開水路 34.8 km ため池 2ヶ所	農道	17.9 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 120人 農業団体 4団体	非農業者個人	73人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、一級河川(米代川)に近接しており、そこを訪れる人々に豊かな農村景観を提供しています。また幹線用水路は、防火用水としても使用されており、集落の貴重な資源となっています。農地・農業用水等資源の保全管理を農業者で行ってますが、高齢化などにより弱体化しつつあり、また、地域の連帯感が薄れ、集落としての活動も弱体化しつつありました。その様なことからこの事業を契機に多様な参画組織(自治会、老人クラブ、子供会など)と連携を図り地域住民のコミュニケーションを再構築させ、資源の長寿命化や質的向上を強化することを目指し5年間実施して参りました。

この5年間の活動を通して、地域用水として利用されている用水路の維持管理のための草刈と土砂上げ、また、共同利用する農道への砂利敷きなどを、主な活動として地域の多様な組織と一緒に参りました。更には、農村景観の保全を目的として施設沿線の清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質調査など従来行っていなかった活動も共同活動として行ない、集落の一大イベントとなり多数の非農業者の参画を得ることができ、地域住民のコミュニケーションを再構築することが出来ました。今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています、このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると思われます。今後もこれら活動を通し地域の活性化が図られること期待しています。



地元子供会と共同で開水路内の生態系調査を行い、水環境の重要性を深めあった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	真壁地地域資源保全隊	代表	清水 征男
協定面積	田 25.6ha 畑 21.4ha 計 47.0ha	対象面積	田 12.1ha 畑 12.5ha 計 24.6ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 ヶ所	農道	4.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 81人 農業団体 1団体	非農業者個人	65人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、農家が農業の生産性の向上を資する事を目的として、農地及び農業用施設等の保全管理を実施しながら農作業に従事して参りましたが、農業者の高齢化などにより弱体化し、地域の維持管理活動においても連帯感が薄れ、集落としての活動も弱体化しつつありました。その様なことから、この事業を契機に参画組織（自治会、老人クラブ、婦人会など）と連携を図り、十分に話し合いを重ねながら、集落を活性化させ、施設の長寿命化等を図りながら5年間実施して参りました。

5年間の活動を通して、多面的機能を有している施設の維持管理を、農業者並びに地域の参画組織と共同で実施しました。更には、農村景観の保全を目的として施設沿線の清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質調査など従来行っていなかった活動も共同活動として行なつた結果、地域のイベントとなり多数の地域住民が参画することができ、コミュニケーションを再構築することが出来ました。今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています。このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると思われます。今後もこれら活動を通じ地域の活性化が図られること期待しています。



農道沿線L=200mへ地元住民と共同で「リ・ゴールト」の植栽活動を行い生活環境の重要性を深めあった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	小友地域資源保全隊	代表	藤田 真悦
協定面積	田 34.1ha 畑 25.7ha 計 59.8ha	対象面積	田 24.4ha 畑 20.5ha 計 44.9ha		
管理施設	開水路 11.0 km ため池 ヶ所	農道	8.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 164人 農業団体 1団体	非農業者個人	99人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、以前は農業者が主体となって農用地・農業用水路等の保全管理を実施しておりましたが、高齢化などにより弱体化しつつありました。また、地域の連帯感が薄れ、集落としての活動も弱体化しつつありました。その様なことから、この事業を契機に多様な参画組織（自治会、婦人会、消防団、子供会など）と連携を図り地域住民のコミュニケーションを再構築させることと、農用地や農業用水路等を若い世代に受け継いでいくため、地域全体で資源の長寿命化や質的向上の強化を目指し5年間の活動を実施して参りました。

この5年間の活動で、草刈や水路の土砂上げ、農道への砂利敷きなどの保全管理を地域の多様な組織と共同で実施しました。更には、農村景観の保全を目的として施設沿線の清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質検査など従来行っていなかった活動も共同活動として行い、集落の一大イベントとなり多数の非農業者が活動に参加し、地域住民のコミュニケーションを再構築することができました。

今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています。このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると思われます。今後もこれら活動を通じて地域の活性化が図られることを期待しています。



地元子供会と共同で開水路の生態系調査を行い、水環境の重要性を深め合った。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	浅内地域資源保全隊	代表	今野 清孝
協定面積	田 129.6ha 畑 69.3ha 計198.9ha	対象面積	田 84.1ha 畑44.9ha 計 129.0ha		
管理施設	開水路 32.2 km ため池 ヶ所	農道	23.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 306人 農業団体 1団体	非農業者個人	247人	非農業団体	10団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、農業者が主体となって保全管理を実施しておりましたが、高齢化などにより弱体化しつつありました。また、地域の連帯感が薄れ、集落としての活動も弱体化しつつありました。その様なことから、この事業を契機に多様な参画組織（自治会、小学校など）と連携を図り地域住民の繋がりを再構築させることと、農用地や農業用水路等を若い世代に受け継いでいくため、地域全体で資源の長寿命化や質的向上の強化を目指し5年間の活動を実施して参りました。

この5年間の活動で、農用地や農業用水路等の保全管理を地域の多様な組織と共同で実施しました。更には、農村景観の保全を目的として施設沿線の清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質検査など従来行っていなかった活動も共同活動として行い、集落の一大イベントとなり多数の非農業者が活動に参加し、地域住民の繋がりを再構築することができました。

今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています。このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると考えられます。今後もこれら活動を通じて地域の活性化が図られることを期待しています。



農業者と非農業者が共同で活動を実施。地域全体で農業用水路等の保全管理や農村環境の景観形成を実施。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	久喜沢地域資源保全隊	代表	大高 昭春
協定面積	田 184.9ha 畑 122.4ha 計 07.4ha	対象面積	田 143.9ha 畑 89.3ha 計 233.2ha		
管理施設	開水路 46.2 km ため池 ヶ所	農道	25.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 172人 農業団体 1団体	非農業者個人	91人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、白神山地が一望できる位置にあり、そこを訪れる人々に豊かな農村景観を提しています。今までは、農家が主体に農地・農業用水等資源の保全管理を共同作業で行ってましたが、農業者の高齢化などにより弱体化しつつあり、また、地域の維持管理活動においても連帯感薄れ、集落としての活動も弱体化しつつありました。その様なことからこの事業を契機に多様な参画組織(自治会、老人クラブ、子供会など)と連携を図り地域住民のコミュニケーションを再構築せ、資源の長寿命化や質的向上を強化することを目指し5年間実施して参りました。

この5年間の活動を通して、用排水路の草刈と土砂上げ、また、共同利用する農道への砂利敷きなどを、地域の多様な組織と一緒に共同活動として行いました。更には、農村景観の保全を目的として施設沿線の清掃活動、花の植栽、水質調査など従来行っていなかった活動も行ない、また、お盆に帰省する子供達と一緒に、生態系調査を行うなど、集落の一大イベントとなり多数の非農業者の参画を得ることができ、地域住民のコミュニケーションを再構築することが出来ました。今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています。このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると考えられます。今後もこの活動を通し新世代のリーダー育成を図り、若年層の定住化につながればと感じています。



農道沿線L=2,400mへ地元住民と共同でコスモスの植栽活動を行い生活環境の重要性を深めあった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	常盤地域資源保全隊	代表	幸坂 一士
協定面積	田 78.9ha 畑 73.2ha 計 152.1ha	対象面積	田 68.5ha 畑 44.5ha 計 113.0ha		
管理施設	開水路 21.5 km ため池 ヶ所	農道	16.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 190人 農業団体 1団体	非農業者個人	200人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、農用地や農業用水路等の保全管理を農業者が主体となって実施していましたが、高齢化などの原因により活動が弱体化しつつありました。また、集落としての共同活動も地域の連帯感が薄れ、弱体化しつつありました。そのようなことから、この事業の取り組みを契機に多様な参画組織(自治会、老人クラブ、女性部会、消防団、子供会など)と連携を図り地域住民の繋がりを深め、地域全体で保全管理や景観形成などの活動を実施することを目標に5年間取り組んで参りました。

この5年間の活動で、農用地や農業用水路等の保全管理を地域の多様な組織と共同で実施しました。更には、農村景観の保全のための清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質調査など従来行っていなかった活動にも地域全体で取り組み、集落の一大イベントとなり多数の非農業者が活動に参加しました。この活動を通じて地域の連帯感が強化され繋がりを深めることが出来ました。

今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれておりますが、このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承することが出来ると思われ

ます。今後この活動を通じて地域の活性化が図られることを期待しています。



農業者と非農業者が共同で活動を実施。地域全体で農業用水路等の保全管理や農村環境の景観形成を実施。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	東雲原地域資源保全隊	代表	菊池 実
協定面積	田 147ha 畑 ha 計 147ha	対象面積	田 113.1ha 畑 ha 計113.1ha		
管理施設	開水路 37.2 km ため池 ヶ所	農道	9.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 65人 農業団体 団体	非農業者個人	135人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全隊は、5年間に渡り環境向上事業等に取り組み、またその一番の活動は農用水路地内への植栽事業でした。思いもよらないほど多くの会員が集合して、楽しく花植えをしその後の水やりや草取りなど地域の団結がより強いものになった様な気がします。

今後もこの様に、みんなが集まりひとつの目的に向かって活動できる機会があれば良いなあと思っております。



植栽作業終了後記念撮影。最近では夏がとても暑く管理作業が大変でしたが、霜が降りるまでも花を楽しむ事ができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	羽州いなほ会	代表	矢田部 昌
協定面積	田 399.8ha 畑 ha 計 399.8ha	対象面積	田 384.4 ha 畑 ha 計 384.4ha		
管理施設	開水路 113 km	ため池 17ヶ所	農道 71.5 km	パンプライン	km
構成員	農業者 411人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 33団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の組織は、高齢化や後継者不足により、農業施設の維持管理が年々困難な状況の中で、の持続のため数少ない担い手が、施設の維持管理を行っていましたが、この度の「農地・水・環境保全活動」により、年齢に関係なく又、農業者以外の人でも多数参加していただいた中で、泥上げ、草刈り、砂利敷き、各施設の補修、花の植栽・管理等さまざまな活動を行い、集落の年間行事として定着しつつあり、活動も和気あいあいとした中で行うことができました。同時に農業の大切さを理解するとともに、農業を守ろうという意識が生まれ、担い手のメンバーもさらに地域農業の発展のため意欲的に取り組んでおります。 私達の組織は、小さな集落がいくつも集まった組織で構成されており、この事業を実施するにあたりそれぞれの集落が知恵を絞り、地域にあった活動を話し合い実施することができ、久々に各集落に活気が見られました。 この活動を実施するにあたっては、集落、自治会だけでは力不足であり、土地改良区の助力があってこそと感謝しております。					
				 農道、溝畔草刈作業。毎年勢いよく延びる雑草対策として、翌年ヒメイワダレ草を植えました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	常盤・四日市みどりの会	代表	小林 寛
協定面積	田 98.5ha 畑 ha 計 98.5ha	対象面積	田 87.6ha 畑 ha 計 87.6ha		
管理施設	開水路 11.1 km	ため池 3ヶ所	農道 2.2 km	パンプライン	1.2 km
構成員	農業者 208人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 県道沿い一面に広がるほ場は、これまでも四季折々の農村風景を見せておりましたが、この事業を実施して以来、老人クラブ、婦人会さらには小学生参加の花の植栽により、色とりどりの花が咲き誇り、地域住民の目を楽しませてくれました。ほ場整備事業で造成された学校脇のメダカ池の管理も、総合学習の一環としてだけでなく、地域の資源保全のためにと、小学生と保護者が一体となった取り組みをし、池の水の供給に農業用水が重要な役割を担っております。 又、活動の一番大きな目的である、農業施設の維持管理についても、これまで農業者のみの草刈りや泥上げ作業に、老若問わず多くの構成員が参加してくれるなど、地域農業に理解を示し、農業の多面的機能を再認識する良い機会になったとも言えます。さらに維持管理が徹底されたことにより、事業実施前に多く見られた田んぼへの空き缶のポイ捨てが激減したのも事業効果のひとつであります。 地域住民が共通意識の元、地域農業の存続のため、共同活動に汗を流す貴重な活動となりました。					
				 老人クラブ等との植栽作業。春と秋の二回、植栽姿も美しい。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	ときわ川若鮎の会	代表	齊藤 長幸
協定面積	田 145.3ha 畑 ha 計 145.3ha	対象面積	田 132.4ha 畑 ha 計 32.4ha		
管理施設	開水路 26.1 km ため池 1ヶ所	農道 14.3 km	パイプライン 4.8 km		
構成員	農業者 129人 農業団体 1団体	非農業者個人 18人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

ときわ川若鮎の会では、様々な恵みを受けている常盤川に感謝を込めて、地域を流れる川の清掃、堤防の草刈り等を行い、鮎、サクラマスが川を遡上して回る清流を子供たちへ受け継いで行く事を目標として活動してきました。又、常盤川は地域の農業用水として重要な取水源であり、地域住民にとって特別に思い入れのある貴重な資源と言えます。

又、農業施設の保全管理として、揚水機等取水施設の点検・診断、用排水路・農道・ため池の草刈り、泥上げ等農業者だけでなく、たくさんの住民が参加してくれ、多少とも農業に関心を持ってくれたのではないのでしょうか。

何よりも、パワーを見せてくれたのが、各集落の老人会であります。花の植栽から管理に至るまでの作業は、猛暑の中でも行われ、そのような中で聞こえてくる笑い声は今の厳しい農業情勢を吹き飛ばしてくれるようでした。この事業のおかげで、久々に地域のコミュニケーションがとれ、各集落からは感謝の声が聞こえております。各集落とも農業離れが進む中で、地域住民が一体となった活動ができ、農業の持つ重要な役割を今一度見つめ直す、非常に貴重な活動でありました。



これまで以上に念入りな点検・診断を行い、各施設とも万全な状態です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	能代南保全隊	代表	小川 善信
協定面積	田 499.5ha 畑 89.3ha 計 582.8ha	対象面積	田 360.6ha 畑 75.0ha 計 435.6ha		
管理施設	開水路 87.6 km ため池 15ヶ所	農道 79.8 km	パイプライン 71.7 km		
構成員	農業者 485人 農業団体 1団体	非農業者個人 586人	非農業団体 14団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達が活動する浅内地区は、高齢化と農家以外の世帯の増加が進んでおります。

草刈りや泥上げといった作業が重労働でしかも少人数で負担する状況になっており維持管理が難しいのでこの事業は大変、意義のあるものになりました。

施設等の清掃活動、生物の生息状況の把握には子供達が積極的に参加してくれて、農村環境の大切さを認識する貴重な活動となりました。また、景観形成のための施設への植栽等にもたくさんの地域住民が参加し交流活動ができました。しかし、その後の維持管理が大変だった5年間でもありました。

また、作業前の準備、参加者への作業指示、一服の飲物の手配、写真撮影、参加者の出欠の確認等、リーダーの方は大変だったと思います。

活動を通して、農業施設の保全管理ができ、地域が活性化するよい機会になりました。そして資源や環境をみんなですく守らなければならないという意識が高まったと思います。

今後も積極的に活動に参加していただき、農業への理解を深め、次世代へ豊かな農村環境を伝えていってほしいと願っております。



地域住民で防草シート設置後、タイムを植栽しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	檜地区小友会地域保全資源隊	代表	袴田 正彦
協定面積	田 168.9ha 畑 ha 計 168.9ha	対象面積	田 72ha 畑 ha 計 72ha		
管理施設	開水路 80 km ため池 1ヶ所	農道	160 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 185人 農業団体 1団体	非農業者個人	40人	非農業団体	1団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全隊の活動の目的は、農業の環境整備を行いながら子供達や、孫達に最良の形で残していくとする活動です。保全隊だけの力だけではなし得ない大きな目標を、地域の皆さんからの尽力を頂き支えられた事に感謝しております。この、「農地・水・環境保全活動」は農地や農業用施設は単に食料供給だけでなく、多面的機能を発揮する社会全体における「資本」であり、農業者のみならず、非農業者・各団体の参画で活動頂きました。中でも学校との連携で将来を担う子供達が参加してくれた事で、沼に生息する生物の観察から、生物の名前～生息するための環境等に回を重ねる毎に関心が高まり、学校に持ち帰り学習発表会でテーマに掲げる程にもなりました。この活動により一人でも多くの人に関心と興味を持って頂いた事は、大きな成果だったと思います。又、婦人部においては、花壇作りに精を出して頂き苗植え～水やり～草取りと汗を流しての作業のおかげで、豊かな風景が作り上げられました。



小友沼周辺に生息する淡水魚の説明に熱心に耳を傾ける子供達。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	吹越地域資源保全隊	代表	佐藤 勝男
協定面積	田 68.2ha 畑 ha 計 68.2ha	対象面積	田 68.2ha 畑 ha 計 68.2ha		
管理施設	開水路 11 km ため池 1ヶ所	農道	7.4 km	ハ°イ°ライン	4.7 km
構成員	農業者 30人 農業団体 2団体	非農業者個人	6人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は、秋田県北部の米代川河口部右岸に位置する緑豊かな水田風景の広がる地域です。本地域における農地・農業用水路は、ポンプでくみ上げた河川水を水源とし、基幹作物の水稻の貴重な資源となっている。

平成19年度から、農地・水環境保全向上対策を導入して、地域で一体となった活動をおこなうことにより、農用地や農業施設の持つ多面的な機能を農家以外の方々からも理解していただける貴重な活動となりました。地域のことは、地域の環境保全は、みんなで守り、農業用施設の長寿命はこの地域でもたいへん重要で次の世代へなんとしてもつなげるための共同作業を再度確認することができました。また、米代川に近接しているため、そこを訪れる人々に豊かな地域の農村景観を提供し、高齢化により農業の継続が危ぶまれる中、若い世代の農業者のためにも、地域の活性化のためにも、地域のみんなが協力し地域を盛り上げていきたいと思っています。



水量豊富な米代川を水源として稲作の大切な資源保全のため草刈りや清掃をおこないます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	羽立地域資源保全隊	代表	渡部 純一
協定面積	田 16.2ha 畑 ha 計 16.2ha	対象面積	田 16.2ha 畑 ha 計 16.2ha		
管理施設	開水路 2.5 km ため池 1ヶ所	農道	3.5 km	排水路	1 km
構成員	農業者 18人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 3団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 羽立地域は桧山川源流部の中山間にあり、生活は不便だが、豊かな自然に囲まれて、住民はこの自然を誇りとしています。羽立地域資源保全隊は、この豊かな自然を守り後世に受け渡すことと、子ども達の自然を大切に、また地域を愛する心を育むこと、そして共同活動を通じて住民の連帯感を強めることをコンセプトに活動を行ってきました。 農業者のほかに、自治会、婦人会、子ども会が協力して基礎部分のほか、地域のクリーンアップや花壇づくり、清流の生き物観察を通じた水質保全体験学習、全世代を対象とした交流会を実施してきました。 5年間の活動で、みんなが自然を守ることに理解が深まり里山を大切にしています。また、日常でも子供達も大人にとけ込み、地域住民どうしの連帯意識も強まったと感じております。					
				 子どもたちは、夢中になって川に網を入れ魚採りに挑む。この清流からは、ウグイ、カジカ、ヤマメ、ドジョウ、川虫、蛙が捕れた。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	山紫水明会	代表	大倉 均
協定面積	田 72.46ha 畑 ha 計 72.46ha	対象面積	田 72.46ha 畑 ha 計 72.46ha		
管理施設	開水路 15.85 km ため池 5ヶ所	農道	14.82 km	ハ↑グライソ	1.8 km
構成員	農業者 36人	農業団体	団体	非農業者個人	8人 非農業団体 団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 山紫水明会では、5年間の活動を通じて改めて共同作業の大切さを認識し、営農継続に有意義に活用させていただきました。 基礎部分や、農地・水向上活動については、昔から「字」ごとに共同活動を実施していたため、スムーズに活動ができ喜んでおります。 ただ、5年間で3回の水害に見舞われ、しかも大きな被害を受けたため、農業者も今後の営農に不安を抱えております。 農村環境向上活動については、農村の美化や農業用水の地域用水としての利用等の活動を実施し、普段あまり交流のない老人クラブ、消防団等若い年代から高齢の年代まで地域全体の活性化のためにも非常に役立たせていただきました。					
				 子どもからお年寄りまで、地域総出で花の植栽作業を行いました。地域の一体感を実感できます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	大柄農地・水・環境を守る会	代表	丹波 吉昭
協定面積	田 57.44ha 畑 ha 計 57.44ha	対象面積	田 57.44ha 畑 ha 計 57.44ha		
管理施設	開水路 24 km	ため池 ヶ所	農道 11.2 km	ハ°イ°ライン	0.9 km
構成員	農業者 28人	農業団体 団体	非農業者個人 2人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

大柄農地・水・環境を守る会では、常盤川最上流にある大柄地域の農地、農業用水等の資源や農業環境の良好な状態を維持し合わせて下流地域の自然環境の質的向上を図ることを目標として活動を行ってきました。初年度は、県の指針がぼやけていて予算の配分に苦労しましたが、地域の構成員の会に対する理解と献身的な協力の元、初年度の事業を終えた年度末の総会で、会に対するねぎらいの言葉と次年度への事業意欲を感じこの事業への参加が地域にとって正解であったと改めて確信いたしました。保全活動を通じ老人クラブから子供会、婦人部又農業者、非農業者など今までこの狭い地域でもあまり交流の無かった団体、個人の交流が生まれ大柄地区の他団体行事への参加率も向上している事実がある事から5年間の活動が地域の交流、環境向上に大きく貢献したと感じます。又農道補修など個人では、なかなか手が出しづらい作業もこの事業をきっかけに関係者以外の協力も得てかなりの部分整備できました。5年間の事業の途中で親から息子へと代替わりした農業者もおり地域にとっても喜ばしい事と思います。5年間の事業を通し後継者の育成もある程度できました。今後も地域住民が日常的に交流し、農村環境向上活動が活発に成ることを祈念します。



地域総出の作業では、和気あいあいと楽しみながら行うことができました。地域の一体感を実感するひとときです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	市川堰緑風万里の会	代表	幸坂 登
協定面積	田 243ha 畑 ha 計 243ha	対象面積	田 243ha 畑 ha 計 243 ha		
管理施設	開水路 127.6 km	ため池 ヶ所	農道 33.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 286人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	13団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

活動組織である市川堰緑風万里の会は、文政年間に着手し幾多の歴史の荒波の中をくぐり抜けて現在に至っている延長19km超の幹線用水路”市川堰に由来し、先人が人力で開削した水路からの豊富な水に支えられ息吹いている緑豊かな田園風景と、先人が残した歴史、文化を後世に受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。

年度始めの水路の泥さらい、クリーンアップを皮切りに花苗の植栽、草刈といったこれまで農業者がごく自然に行っていた一連の作業に農業者以外の人たちの姿が見受けられるようになり、そこで生活する人たちが総てが共有する景色であり環境であるということを改めて実感する活動となりました。

時代を担う小中学生との交流は勿論、地域全体の友和と絆、結いの心を取り戻した中でこれまで以上に精神的なつながりと現実の自然風景を絶やさないようこれからも頑張り、地域全体を盛り上げていきたいと思ひます。



農業、生命の源たる水の大切さ、先人が残した偉大な贈り物である堰の重要性、そこで暮らす人々へ齎す恩恵といったものを大切にしながら、資源保全、景観形成・生活環境保全作業を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	富根ブナの森ふれあい会	代表	米川 大治
協定面積	田 376.9ha 畑 ha 計 376.9ha	対象面積	田 326.46ha 畑 ha 計 326.46ha		
管理施設	開水路 75.5 km ため池 5ヶ所 農道 31.9 km	ハ゜イ°ライ	5.7 km		
構成員	農業者 292人 農業団体 団体	非農業者個人 人 非農業団体 22団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年から始まった時でした。どういう形でそれぞれの地区に呼びかけ、農地・水・環境の意義をどう伝えればいいか悩みました。この事業を地域に充分理解頂けるために・・・でも答えはすぐ出ました。

町内を核として役員の方々から先導して頂き、会報を通して一気に町全体に広がっていったのです。

ブナの森ふれあい会は、農業者だけでなく地域の子供から大人まで幅広く参加して頂き、一緒に共同作業することを趣旨に活動が始まりました。思い出に残るものとして、子供達と松寿会がプランターに花を植栽する作業、ヤマメの放流と捕獲調査した時の子供達の歓声、町内会での草刈り作業が終わった時の達成感は何とも言えないものでした。

また、その活動によってきめ細やかな施設の維持管理や、改良区等に関わる方への負担軽減を図りながら、農村の自然や景観を守り、地域間の交流意識を高めることが出来ました。

生まれ育った地域の環境を守ることは当然ですが、もっと住民と力を合わせ、環境に興味を持って頂く。そして、終わりのない事業が展開できればいいなと思います。



駒形川に、生息に適するヤマメの稚魚の放流を地域住民や富根地区の小学生達の協力を得ながら行い、在来生物の育成を行っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	種かじかの会	代表	佐藤 耕一
協定面積	田 111.92ha 畑 ha 計 111.92ha	対象面積	田 94.07ha 畑 ha 計 94.07ha		
管理施設	開水路 22.7 km ため池 ヶ所 農道 16.7 km	ハ゜イ°ライ	km		
構成員	農業者 137人 農業団体 団体	非農業者個人 人 非農業団体 14団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

5年間の活動の感想としては、農業施設の保全管理という観点からみて、一定の役割を果たすことが出来たのではないかと考えている。関係土地改良区とも連携し、効率のいい施設管理を実施出来たことで、農業者の負担の軽減にもつなげる事が出来た。

なお、運営上の問題として、作業員の高齢化などが問題となった。共同活動に参加する農業者のほとんどが60才以上であることや、地域を引っ張っていく若い農業者がなかなか出てこないことは、今後も引き続いていく課題であると考えている。

しかし、同対策を実施することにより地域の「絆」を再確認させられた面もある。今後も引き続き地域住民の活力を高揚結集して行動を起こし、地域の実情に即した活動を展開し、これまでのように農地や農業施設の適切な維持管理、そして地域の盛り上げを図っていききたい。



地域の住民によるコスモスの植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	荷上場鮭の会	代表	武田 英文
協定面積	田 89.9ha 畑 ha 計 89.9ha	対象面積	田 70.9ha 畑 ha 計 70.9ha		
管理施設	開水路 20.7 km	ため池 ヶ所	農道 10.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 154人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 18団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当荷上場鮭の会では、農地・農業用水路等の資源を活用し、生態系保全、景観形成・生活環境保全などを地域住民とともに実施してきました。農地の荒廃を防ぐため休耕地にはひまわり、コスモスの花を植栽することで景観形成を実施し、生態系保全では用水路等で鮭の稚魚を放流し、秋には成長した鮭が遡上してきました。 また、生息しているナマズ、鮒等の生き物調査を子供たちで実施し、夏場は近年見られていなかったホタルの観察を子供から大人まで多数参加した中で実施し、飛来したホタルも多数であったため、とても幻想的で参加者はみんな喜んでおりました。 最近では地域の人たちでもなかなか話し合う機会がないところに同対策が始まったことにより、このような活動をとおして今までより地域住民の輪が広がり、活動に参加した方たちは楽しみながら活動に精を出してくれました。 今後も、地域の方々に農用地等の草刈や用排水路の泥上げ等を実施し、春と秋にはクリーンアップ作戦（集落内の用排水路の清掃、雑草対策）を実施するなど、引き続き資源保全向上のために活動を続け、地域の活性化につなげていきたいと思ひます。					
				 農用地の荒廃を防ぐため草花の植栽をする。資源回復のためにも何回も草取り等を実施、秋には見事に開花しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	高丘環境保全会	代表	菊池 博悦
協定面積	田 92ha 畑 ha 計 92ha	対象面積	田 27.73ha 畑 ha 計 27.73ha		
管理施設	開水路 23.0 km	ため池 0ヶ所	農道 22.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 48人	農業団体 1団体	非農業者 人	非農業団体 6団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
これまで高丘環境保全会は、江戸時代に築造された岩堰用水路の歴史的な資源を保全するために、流域の地域住民と密着した活動を中心に取り組んできました。特に用水路が市街地を流れることで水質の汚れが目立っていたことから、連合町内会区長の協力のもとに「環境の町」をイメージさせる地域活動として、「岩堰用水クリーンアップ作戦」に取り組んできた。農家以外の方も参加して、秋田国体の開催年から5年間も継続実施してきました。 また、用水路の築造にあたった先人の労苦を子供たちに伝えるために、二ツ井小学校の協力を得て4年生の水路の見学・体験学習を実施してきました。このように用水路の歴史を学びながら環境の向上をめざした活動を実施してきましたが、 農業者の減少と水路の老朽化という課題も残っております。地域環境と農村らしい生産活動を維持するに地域を支える「ヒト」の育成、そして用水路の保管理に生産活動の基本となる農地を地元で維持できる「担い手」の育成はこれからの課題であると考えております。今後の地域活動を進めていくためには、これがムラ作りの最大の課題となる。 高齢化の進行と農業を担う人の不在のなかで地域営農の継続と農村らしい環境を維持するには農家以外の地域住民の参加を視野に入れた活動が重視されていると思われる。					
				 能代市立二ツ井小学校4年生の地域体験学習の一環として約380年前の江戸時代に築造された「岩堰用水」の頭首口などを訪れる、体験学習会を実施している。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	切石米白会	代表	石山 金由
協定面積	田 74.53ha 畑 ha 計 74.53ha	対象面積	田 64.39ha 畑 ha 計 64.39ha		
管理施設	開水路 14.0 km ため池 1ヶ所	農道	14.0 km	パイプライン	14.0 km
構成員	農業者 157人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	12団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの「切石米白会」では、きめ細やかな雑草対策や地域内を流れる用水路の清掃活動、その他の活動を構成員と連携して実施することを目標として行ってきました。取組当初は、戸惑いもありましたが、春のクリーンアップや景観形成活動は構成員が参加する一大イベントとなりました。保全隊の目標でもあった水質モニタリングや「さつまいも」の作付けを行い、子供達は自分の力で貴重な体験をすることが出来ました。 農業者以外の方々や若い世代も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を『大事に長持ちさせよう』『自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう』という気持ちになりました。農業施設の保全管理のほかにも、草刈りや泥上げ等の日常管理を地域みんなで行う事によって、地域の集落営農組織では営農に専念する事ができ、非常に感謝されています。これからも、『出来ることは自分たちで頑張ろう』の精神で地域を盛りあげたいと思います。					
				 地域住民が一斉となって行うクリーンアップ。大切な環境保全のためにきれいにしていきたいと思います。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	梅内本郷農地を守る会	代表	藤田 孝一
協定面積	田 35 ha 畑 ha 計 35ha	対象面積	田 26.37ha 畑 ha 計 26.37ha		
管理施設	開水路 6.4 km ため池 ヶ所	農道	3.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 59人 農業団体 団体	非農業者個人	13人	非農業団体	11団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの農地を守る会は、戸数73戸の小さな山間地集落に組織されているが、少子高齢化の進行が大きく、農業の展望が厳しいものと予想されることから地域農業を守ることを目的として活動を行ってきました。 これまで数町歩程度を管轄する7つの小さな水利組合がそれぞれが独自に活動していたことから、取組当初は戸惑いもありましたが、水源である河川やその水路、農道の一斉草刈、花いっぱい活動などの環境対策を共同で行うことで連携を深めてきました。もともと地域の「結い」的なつながりの強い集落でありましたので、5年間の活動で一層の絆が強まったもとと感じております。 農業施設の保全管理には日常の機能点検が最も大切と言われていますが、その面でこの制度は大変有効なものでありました。水路の泥上げや日常の草刈作業、補修などをきめ細かく実施の事業のおかげで災害時の復旧も迅速に対応することが出来ました。 世界自然遺産の白神山地を展望できる集落の田園風景は美しく、山々からの豊かな水に恵まれた良質米づくりの適地とされてきましたので、農業者、非農業者も含め、個々の自覚と努力を更に高揚させ、引き続き農地を守っていききたいと思います。					
				 田園風景が美しく、豊かな水に恵まれた農地を守るため地域全員で農業施設の適切管理を行います。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	七村農地と水を守る会	代表	清水 一也
協定面積	田 17ha 畑 ha 計 17ha	対象面積	田 16.17ha 畑 ha 計 16.17ha		
管理施設	開水路 1.3 km ため池 ヲ所	農道	2.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 11人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの農地を守る会は小さな山間地集落で組織されているが、少子高齢化の進行が大きく農家自体も減少しており、これまでどおり農地や農業施設を管理していくのは困難ではないかと考えていたところで同対策が始まり、当地域でも事業に取り組むこととなりました。

当地域ではこれまで3つの水利組合それぞれで活動していたため、当初はまとまって活動することに戸惑いもありましたが、水源である河川やその水路、農道の一斉草刈、景観形成活動などを共同で実施していくうちに地域内の連携が深まり、5年間の活動により地域の「まとまり」は一層強くなったと考えております。

また水利組合しかないことから、ほ場整備などの土地改良事業を実施することが困難であり、水路の更新などもなかなか思い通り進めることが出来ませんでした。大雨の時は頻繁に水路に泥が上がり、その復旧には大変な労力を要していました。

そんな中で集団的に農業施設の点検や維持管理を実施出来るこの対策は大変有効なものでありました。これまで個人で実施していた水路の泥上げや日常の草刈作業、水路の補修などを共同で実施することで実施効果は高まり、豪雨における復旧の際にも、この事業で築かれた「まとまり」により、みんなで作業することで迅速な復旧につなげることが出来ました。

今後もこの地域の「まとまり」を維持しながら、集落の美しい田園風景や、山々からの豊かな水を守っていきたいと考えております。



田園風景が美しく、豊かな水に恵まれた農地を守るため地域全員で農業施設の適切管理を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	能代市	組織名	本田代まもる会	代表	小林 義則
協定面積	田 20.9ha 畑 ha 計 20.9ha	対象面積	田 16.47ha 畑 ha 計 16.47ha		
管理施設	開水路 1.2 km ため池 ヲ所	農道	3.0 km	パイプライン	km
構成員	農業者 21人	農業団体	5団体	非農業者個人	人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち本田代まもる会では、後世に山、川、花、田んぼと自然豊かな地域環境を受け継がせることを目標に活動に取り組みました。地域の子供たちとは「田代川への鯉の稚魚の放流」を実施し、ホタルの生息地域を増やすために水上川の草刈などの環境整備を行いました。

また、最初のころは松寿会を中心としてプランターへ花卉の植栽をしておりましたが、さらに景観を向上するため最終年には道路沿いにたくさんの花を植えました。結果周辺の山々や水田など

と相まって、非常にすばらしい景観になったのではないかと考えております。

なお、右の写真のように「農地・水・環境保全向上対策」をイメージした看板を集落の入り口付近に設置し、この5年間で実施してきたものを関係者そして周辺の方々に広く周知することが出来ました。

これからもこのような活動を継続し、これまでと変わらない美しい田園風景を維持していきたいと考えております。



事業周知の看板設置と県道沿いへの植栽の共同活動

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	八峰町	住 所	山本郡八峰町峰浜目名瀧字目長田118 電 話 0185-76-4609		
担当部署	八峰町農林振興課 農業係	担当者	堀内 和人		
(5年間の感想等記入)					
役場として事業スタートまで、各地域を巡回し本事業の説明に歩いた。その中では、地域が一体となって農地等の保全を行う本事業には『大変良い事業』だとの声が多数聞こえた。しかし、地域が組織を立上げ事務及び事業を展開していくことへの不安もあり、纏れない地域もあった。 事業がスタートし、今まで個々に行っていた作業が共同活動により一斉に行われることにより農地の景観及び水路等の維持が地域としてスムーズに行われるようになったと思う。 また、各組織からの感想にもあるとおり、農村環境向上活動において、地域子ども会や老人クラブと農業者が一体となり、植栽作業等を行うことにより地域内に居ても普段ふれ合う機会が無かった人との交流【絆】ができたとの報告があり、今後の地区の繋がりが多少なりとも見えたような気がする。 しかし、体制整備構想にもあるとおり、今後の農業者は高齢化の一途とたどり、農業者はますます減少していくことが確実となっている状況にあるので、更なる地域の繋がりを大切に農地を保全していくことが必要と考えられる。					

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

八峰町	耕地面積	田	1,830	ha	畑	300	ha	合計	2,130	ha
平成19年度	協定面積	田	1206.98	ha	畑	80.14	ha	合計	1287.12	ha
平成20年度	協定面積	田	1208.43	ha	畑	80.14	ha	合計	1288.57	ha
平成21年度	協定面積	田	1208.03	ha	畑	80.14	ha	合計	1288.17	ha
平成22年度	協定面積	田	1207.43	ha	畑	80.14	ha	合計	1287.57	ha
平成23年度	協定面積	田	1207.43	ha	畑	80.14	ha	合計	1287.57	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	1211.62	ha	62,002,200円					
平成20年度	対象面積	計	1211.39	ha	61,992,080円					
平成21年度	対象面積	計	1211.16	ha	61,812,560円					
平成22年度	対象面積	計	1210.58	ha	61,950,280円					
平成23年度	対象面積	計	1210.58	ha	61,864,418円					
合計					309,621,538円					
活動組織名称		八峰町				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0199	水沢地区農地・水・環境保全会				208	横内地域保全グループ				
0200	大久保岱サルビアの会				209	大信田活動組織				
0201	岩子桜の里				210	小手萩地域資源保全向上活動組織				
0202	大槻野まもり隊				211	内荒巻自治隊				
0203	目名瀧地域資源保全会				212	石川清流の会				
0204	高野々美化隊				213	東雲西部地域資源保全隊				
0205	田中美里みどり会				214	本館地区資源保全向上協議会				
0206	沼田資源保全隊				215	下真瀬保全隊				
0207	畑谷環境保全隊									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	水沢地区農地・水・環境保全会	代表	阿部 栄悦
協定面積	田 156.0ha 畑 ha 計 156.0ha	対象面積	田 156.04ha 畑 ha 計 156.04ha		
管理施設	開水路 km ため池 1 ヶ所	農道 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 87人 農業団体 7団体	非農業者個人 40人	非農業団体 1団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの目的は、本事業を完遂するとともに、地域の心のきずなを高めよう！そしてその足跡を後継者に受け継いでいこうというものです。当初は、スタッフ不足や役員の団結が大切だと感じました。机上プラン及び規制や制約と現状のギャップに悩みながらも会員みんなの協力で乗り越えてきました。2年目から制約が緩和されて次第に事業がやり易くなりました。

泥上げ・草刈り・砂利敷き・開水路の保全修理等はもちろんですが、景観形成ひまわり畑の作付は、国道101号線沿いを通る帰省客や観光客並びに地域の小学生などに環境の大切さを訴え、感激してポーズをとりながら写真を撮っていました。又、遊休地へのソバの作付では収穫した実を構成員の親睦を図る総会の懇親会で役に立てました。

田圃の血液となる水は日本の源泉100選にも登録されており、これを守り、活用してゆくことが今後のキーワードになると存じます。

5年間の事業により絆から結いへと発展するように努力しつつも、額に汗し農道や施設が大変よくなりました。すたれゆく地域の協力体制が復活しつつあります、是非とも継続してほしい事業だと地域の皆が望んでいます。



国道101線脇で観賞用ひまわりの植栽とそこで楽しむ地域の小学生たち

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	大久保岱サルビアの会	代表	田村 利満
協定面積	田 57.2ha 畑 ha 計 57.2ha	対象面積	田 57.2ha 畑 ha 計 57.2ha		
管理施設	開水路 13.3 km ため池 ヶ所	農道 9.8 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 46人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

サルビアの会が活動する地域は、平成12年度にほ場整備事業で完了した農地ですが、田面の段差が大きく、水路法面の草刈りは大変難儀しておりました。このため、一部の法面には低木が生えるなど、水田の風景を悪化しておりました。

しかし、当事業において5～9月にかけて、きめ細やかな草刈週間を設定し実施することで、美しい水田景観を保つことができました。

また、大久保大集落は40年以上前から、自治会が各戸に花の植栽を奨励し実施しており、各種団体から優秀賞等を受賞しておりました。この各戸の技術を活かして老人会や婦人会で水路肩に花の植栽や手入れ等を行い、水田風景の美化に努めると共に、作業を通じて世代間交流も行うようになりました。

当地域は、ホタルが多く生息する農地ですが、最大の生息地である小河川の草刈りが、農家の高齢化により実施できない状況でした。しかし、当事業で共同により実施することができ、ホタルやホタルの餌であるカワニナの生息環境を保全する事が出来るようになりました。

このように、世代間交流や農業施設の保全、さらにそこに生息する昆虫等の環境保全が出来るようになり、当事業を通じて小さな集落が“一つの輪”になって来ております



老人会や婦人会等の共同作業で花を植栽し、水田風景に努めると共に、世代間交流も行っている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	岩子 桜の里	代表	佐々木 慶夫
協定面積	田 81.3ha 畑 ha 計 81.3ha	対象面積	田 81.3ha 畑 ha 計 81.3ha		
管理施設	開水路 8.2 km ため池 ヶ所	農道	10.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 52人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

限界集落、当地域は今まさに65才以上の年齢構成が半数近くを占めるに至っている現状にある集落です。これまでも、地域の環境保全活動は共同作業(普請)を通し、年に2回ほど実施して参りました。まさに手弁当で用排水路の清掃作業や環境の美化に努めてきたところでした。

「農地・水・環境保全活動」事業が展開してからは、こうした活動に費用的な支援を受けるにとどまらず、用排水路・農道の整備など多面的な機能を充実させていただいたと感謝している次第です。

地域には空き家も目立つようになってきたものの、一人暮らしの方や、住民間のコミュニケーション等連携もとれ、農業者のみならず、より多くの地域の方の参加・協力を得ることができております。小学生による稚魚の放流の体験活動を通して、水(川)という農業に欠かせない大切な資源についての理解を深めていただきました。

今まで、「農業」という地域の「生活スタイル」を通して地域の環境が保全されてきました。今後も、「農」を抜きにした生活は考えられないでしょう。これからも地域の産業のみならず、生活・暮らしの「核」となっている「農業」を維持していくことの大切さ、その必要性を住民一同感じているところです。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	大槻野まもり隊	代表	三浦 勝憲
協定面積	田 50.23ha 畑 ha 計 50.23ha	対象面積	田 50.23ha 畑 ha 計 50.23ha		
管理施設	開水路 km ため池 ヶ所	農道	3.7 km	パイプライン	2.9 km
構成員	農業者 16人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全隊は、他の団体より規模的に小さく又、構成員も少人数です。

この集落は、入植当時水利権が無く自分の敷地内に沼を作り、稲作を始めました。

水の確保に苦しんだ日も多々ありましたが、ダムからのパイプラインで水の供給ができたのは、正に画期的でした。

農業用水の大切さを常日頃感じ、まもり隊構成員で維持管理に努めています。

また、この事業のおかげで集落内に活気があふれた感じがします。

自治会、婦人部の協力のもと、初めての試みで花の植栽事業を行い、作業を通じて交流の場となり地域の「絆」が出来たと感じました。

これからも、農業施設の保全管理に努め、地域のふれあいを大切に頑張っていきたいと思ひます。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	目名瀧地域資源保全会	代表	佐々木 一衛
協定面積	田 98.4ha 畑 ha 計 98.4ha	対象面積	田 95.4ha 畑 ha 計 95.4ha		
管理施設	開水路 36.9 km ため池 3ヶ所	農道	14.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 77人 農業団体 団体	非農業者個人	80人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する範囲は、大昔から引き継がれてきた山中にある三カ所のため池と水沢川からの下堰頭首工と上堰揚水機により取水している水田であります。20年前には63haの県営圃場整備事業が完成し、その後平成19年には、幹線水路2.5kmの大改修を合わせた中渡地区担い手育成型圃場整備事業で38.6haが完成し現在に引き継がれている。

しかし、時が経つにつれ水路・ゲート類・農道等の農業施設の劣化や老朽化が課題となっていたが、本事業によって、地域みんなで農業施設を“長持ちさせよう”という機運が出来てきました。施設保管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理の共同活動にも参加者が良く出るうになりなした。

農業用水が持つ多面的機能、特に我が集落の防火用水としての利用には、これからも地域みんなで協力し、その維持・保全に努めていきます。



共用開始から20年経って、18カ所のゲートは劣化が進んでいたが5年間ですべて補修し保全した。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	高野々美化隊	代表	小林 金則
協定面積	田 37.84ha 畑 ha 計 37.84ha	対象面積	田 35.05ha 畑 ha 計 35.05ha		
管理施設	開水路 12.2 km ため池 1ヶ所	農道	7.0 km	パイプライン	0.3 km
構成員	農業者 33人 農業団体 4団体	非農業者個人	15人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

高野々美化隊は、地域の農地・農業用水等の資源の長寿命化、農村環境の保全、集落機能の活性化を図ることを目的に各構成員が連携し活動を行ってきました。

平成19年度から5年間の主な活動の中で、昔から継続的に実施してきた農道への砂利敷きと新たに実施した用水路・農道の法面への植栽作業は、構成員のほとんどが参加する活動となっています。

活動当初、30年ほど前からすると、人口・農業者数の激減や兼業農家の増加により、普段ふれ合う機会が少なくなったと感じておりました。しかし、この活動5年間で振り返ると、その機会が多くなったことで、少しでも地域の方々の活気、結束の機運を感じています。

10年後には、共同活動への参加者数が半減と推測されているなど資源の保全に関して様々な課題がありますが、これまで同様に農業者・非農業者・地域以外関係者の継続的な参加、その方々が活気付き、結束して取り組むことで、地域の貴重な財産である農業用等施設、農村環境・景観を次の世代が良い状態で引き継ぐことができると考えています。

これからも、当地域の関係者(団体)が一体となり、当組織の目的を継承し活動を継続して行ければと思っています。



毎年8月下旬に構成員のほとんどが参加し、農道の路面・路肩の凹凸及び軟弱箇所に砂利を敷き、9月の稲刈り作業に備えます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	田中美里みどり会	代表	木藤 實
協定面積	田 42.6ha 畑 ha 計 42.6ha	対象面積	田 42.6ha 畑 ha 計 42.6ha		
管理施設	開水路 18.1 km ため池 ヶ所 農道 8.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 39人 農業団体 1団体	非農業者個人 2人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの会は、少子高齢化や若者の農業離れなど地域農業に影響を与えている中で、農業者同士の連帯による農業関係施設の保全活動の実施と自治会や老人クラブ、婦人会、子供会などの地域団体と交流を図りながら農業に対する理解を深めてもらうこと、地域の自然や環境を守り、景観の向上を図ることを目標として活動してきました。

私たちの集落は、狭いながらも5つの地域に分かれて農地に関連する施設（水路や農道など）の保全管理を行っています。農地・水・環境保全向上活動事業を実践することにより、農業者同士の情報交換と交流が出来て、それぞれの地域の農作業がスムーズに行うことが出来ました。

また生態系保全活動では、地域の子供と保護者が水田の用水について学んだり、毎年の生き物調査を楽しみにしています。地域の水路の水質検査を行うことで、安全な農業用水を確認出来ました。景観形成・生活環境保全の活動では、地域総出により花の苗を植栽し、秋まで観賞出来て、心の潤いが出来ました。何よりも地域における世代間の交流が出来たことをうれしく思っています。花の苗の植栽は、2年目以降ボランティアで行っています。



地域住民が毎年6月上旬に行う花の苗の植栽事業。花の管理は、婦人会と老人クラブの皆さんが5班に分かれてそれぞれ交代で行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	沼田資源保全隊	代表	斉藤 隆宏
協定面積	田 75.5ha 畑 ha 計 75.5ha	対象面積	田 75.5ha 畑 ha 計 75.5ha		
管理施設	開水路 20.2 km ため池 ヶ所 農道 13.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 44人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全隊の地域は、豊かな水田風景の広がる農村地域であるが、生活様式の変化や農地の集積化による農業者の減少に伴い用排水路の管理が充分に出来ていない状況にあった。

本事業の実施により、農業者による参加状況が改善され、加えてこれまで関心が薄かった地域の環境状況についても、水路の溝畔利用したヒメイワダレ草の植栽や学童による希少種（メダカ）の調査及び水路の水質調査などへ積極的に参加し、これまで見過ごされてきた農業の持つ多面的機能について理解を深める事ができたと考えております。

また、地域中央を南北に貫く大排水路は、年間を通じて防火用水としての役割を持たせ、集落の防災と環境保全に努めてまいりたいと考えています。

この「農地・水農村環境保全対策」では、農地と道水路などの農業用施設により食糧供給地としてのみ見るのではなく、多面的機能を有する社会資本であるとの認識を深める絶好の対策であり、この5年間で施設の機能回復と環境の維持保全が図られたものと考えております。



ヒメイワダレ草を大排水路の溝畔に植栽しました。2年後には一面に白い花が咲きました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	畑谷環境保全隊	代表	後藤 祐誠
協定面積	田 138ha 畑 ha 計 138ha	対象面積	田 130,82ha 畑 ha 計 130,82ha		
管理施設	開水路 26.2 km	ため池 5ヶ所	農道 18.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 68人	農業団体 1団体	非農業者個人 182人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

畑谷環境保全隊の活動の目的は、故郷の自然や農業の環境整備を行いながら子供たちへ引き継いで行くことを目標として活動を行いました。当初はいろいろな問題もありましたが、地域住民と構成員の協力をいただきながら、地域環境の美化と農道、水路等の補修をとおして地域の結びつきを図ることができました。 具体的な例として地域住民の交流がほとんどなかったのが、花の植栽等を通じて住民の約7割の人が参加して予想以上の交流できました。また、ため池の泥上げ前に行った子供たちとの生態調査ではナマズ6匹、メダカ50匹、クサガメ2匹、フナ200匹等を確認することができ子供たちの貴重な体験になったと思います。私たちの小さな地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で住民の絆が復活しつつあるように感じています。



子供会と行ったため池の生態調査です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	横内地域保全グループ	代表	白鳥 金悦
協定面積	田 64.6ha 畑 ha 計 64.6ha	対象面積	田 44.5ha 畑 ha 計 44.5ha		
管理施設	開水路 10.5 km	ため池 2ヶ所	農道 12.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 32人	農業団体 団体	非農業者個人 40人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織は「横内地域に在る、農地農業用水などの資源や農村環境の保管理と質的向上を図る地域ぐるみの効果の高い共同活動を行う」を目的として活動をしてきました。

取組当初は 今まで個人管理してきた作業を共同活動で行うという戸惑いがあり、ギクシャクとした共同活動からスタートしました。遊休農地や農道・開水路の共同作業での草刈り、農道整備等、皆で行う事で農業者の間にも連帯感ができてきました。年度を重ねるごとに、「皆でこの地域農業を守っていく」という共通認識ができたように思っています。環境向上活動として花壇作りをしました。

横内は本当に小さな集落です。が、保育園児から年配の方皆で花苗定植や水やり、草取り作業を頑張りました。年度を重ねるごとに花壇の規模も拡大。地域をこえて足を運んでくれる人も増えました。他の地域の人から「花壇綺麗だすごいね」と声をかけられてうれしかったという住民の声。花壇作りを通して 集落内の世代をこえた交流の場ができ、住民同士の繋がりも生まれ、結びつきが強まった事を実感しました。農地・水事業のおかげで地域農業を皆で守っていく団結力と住民同士の繋がりを強く結べた事に感謝します。



8月の花壇の草取り作業
約3,000本の花が咲いています。
黄・オレンジ マリーゴールド
赤・ブルー サルビア

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	大信田活動組織	代表	金平 喜代三
協定面積	田 61ha 畑 ha 計 61ha	対象面積	田 61ha 畑 ha 計 61ha		
管理施設	開水路 2.7 km ため池 ヶ所 農道 4 km	ハ イ プ ラ イ ン km			
構成員	農業者 58人 農業団体 団体	非農業者個人 95人 非農業団体 団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私達の活動組織は現状を活かし、共同作業を通じ住民との交流を図ることを目的とする。現状を維持するにあたり、構成員とともに草刈り・砂利の補充作業・花の植栽等と交流しながら活動することができました。農用地・開水路・農道の草刈りにおいては構成員で草刈りをし、非構成員（主に女性部）が刈り取ったくさをレーキ等で集めるなど頑張ってくれました。花の植栽作業では老人クラブ・女性部等で集落内が明るくなり、花こはやっぱりええなあと言われてやってよかったと思っています。農用地の急斜面へのアグリシート張りにおいては個人所有地でしたが構成員、非構成員共に協力してくれ、3年かけてシートを張る事ができました。また集落内を流れる寺沢川は冬場は融雪溝として使用していますが夏には小河川の草刈り作業として維持しています。構成員の皆さんが自分たちの事なのだと意識があることが嬉しくおもいます。小さな集落ではあるが、今後は農業者の担い手育成をも考慮し、更なる向上を図っていければと願っています。					
					
				6月田植え後、農用地の急斜面にアグリシートを構成員・非構成員協力し、張る事ができました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	小手萩地域資源保全向上活動組織	代表	神馬 文夫
協定面積	田 32.1ha 畑 ha 計 32.1ha	対象面積	田 29.6ha 畑 ha 計 29.6ha		
管理施設	開水路 7.2 km ため池 ヶ所 農道 4.3 km	ハ イ プ ラ イ ン 1.5 km			
構成員	農業者 11人 農業団体 団体	非農業者個人 19人 非農業団体 2団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たち地域では、年々高齢化が進むことで保全管理が思うように出来ない状況化にありました。そして、この事業（活動組織）を取り入れる事で農業者・農業者以外の方々にも「農地・水・環境保全活動組織」に、参画してくれる様呼びかけたところ、皆さん心よく賛同してくれました。共同作業で取り組む実践活動、雨や暑さの日にも農業施設の草刈や泥上げ、農道砂利敷き等、構成員の皆さんが、ひとつの「交流の場」として不平・不満なく作業を行って来ました。 特に、婦人部・老人クラブの皆さんは、農用地を活用した景観に配慮した「花の植栽」に力を入れ、5年間、種まきから定植と草取りまで続けた事により、周辺の地域の方々にも大変好感をもたれたことが印象に残りました。 これからも、「自分達で出来る事を自分達で頑張ろう」の合言葉で、地域の「絆」を深めながら、この事業を進めて行きたいと思っています。					
					
				真夏の暑さに負けず5年間、花壇管理(草取り)に汗を流す婦人部の皆さん。 がんばれえー	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	内荒巻自治隊	代表	本多 健
協定面積	田 21.0ha 畑 ha 計21.0ha	対象面積	田 19.0ha 畑 ha 計 19.0ha		
管理施設	開水路 3.9 km ため池 ヲ所	農道	2.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 17人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

自治会会員17名全戸参加のもとでスタートした5年間でした。共同活動は、日曜日が主でしたが、結束意識が強く欠席する構成員が少なかった。各種作業の開始時間を8時とし、農家の朝仕事に支障ないように共同活動が行なわれたと思います。

自治会内(老人クラブ)からは花壇の整備作業、そして花の植栽と管理作業を担当してもらい、お盆の帰省客から好評を得て大変よかったと思いました。

子供会では蛍の観察会、周辺の川や沼に生育している魚や水生昆虫の観察会、又 真瀬川に産卵に戻るサケの観察等、将来荷なう子供にとっては大変有意義な体験になったと思います。

今大きな問題である少子高齢化が年々進むなかで、農用地・施設を維持するために5年間で得た組織構成の大事さと共同活動の絆を益々深めて将来の農業基盤に役立て行きたいと思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町・能代市	組織名	石川清流の会	代表	薩摩 勝幸
協定面積	田 228.1ha 畑 82.6ha 計 310.7ha	対象面積	田 221.9ha 畑 79.7ha 計 301.6ha		
管理施設	開水路 59.5 km ため池 ヲ所	農道	34.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 365人 農業団体 5団体	非農業者個人	245人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、農用地や農業用水路等を若い世代に受け継いでいくことを目標として活動を実施してきました。活動に取り組む以前は、農業者が主体となって保全管理を実施しておりましたが、高齢化などが原因で活動が弱体化しつつありました。また、集落としての活動も地域の連帯感が薄れ、弱体化しつつありました。その様なことからこの事業を契機に多様な参画組織(自治会、老人クラブ、婦人会、子供会など)と連携を図り地域住民の繋がりを再構築させ、地域全体で保全管理や景観形成などの活動を実施することを目標に5年間取り組んで参りました。

この5年間の活動で、農用地や農業用水路等の保全管理を地域の多様な組織と共同で実施しました。更には、農村景観の保全のための清掃活動、花の植栽、生態系調査、水質調査など従来行っていなかった活動にも地域全体で取り組み、集落の一大イベントとなり多数の非農業者が活動に参加しました。この活動を通じて地域の連帯感が強化され繋がりを深めることが出来ました。

今後10年後には高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれておりますが、このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承することが出来ると思われまます。

今後この活動を通じて地域の活性化が図られることを期待しています。



農業者と非農業者が共同で活動を実施。地域全体で農業用水路等の保全管理や農村環境の景観形成を実施。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町・能代市	組織名	東雲西部地域資源保全隊	代表	大谷重春
協定面積	田 224.3ha 畑 27.3ha 計 251.6ha	対象面積	田 194.65ha 畑 25.35ha 計 220.00ha		
管理施設	開水路 74.0 km	ため池 ヶ所	農道 32.6 km	ハ イ° ライ°	0.3 km
構成員	農業者 257人	農業団体 2団体	非農業者個人 83人	非農業団体 17団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの地域は、農家が主体となって農地・農業用水等資源の保全管理及び共同作業の活動を行なっておりありますが、農業者の高齢化等により弱体化しつつありました。また、地域の共同維持管理活動においては、連帯感が薄れ、集落としての活動が弱体化しつつありました。そしてこの事業を契機に多様な参加組織（自治会、消防団、老人会、婦人会、子供会）等と連携を図り地域住民のコミュニケーションを再構築させ、地域住民が一体となり資源の長寿命化や質的向上を目指し5年間実施して参りました。 5年間の活動を通して、地域用水として利用されている用水路の維持管理のための草刈りと土砂上げと一部の水路では、目地部分の補修、そしてまた、共同利用する農道へは、砂利の敷き均しなどの共同活動を地域の多様な組織と一体となり行いました。更には農村の環境資源の質を向上すること目的として、景観形成のための施設への花の植栽、地域内の景観保全及び生活環境保全のための清掃活動、生態系の保全のための生物調査、水質の動向を把握するための水質調査など従来行っていなかった活動も共同活動として行い、集落での大きなイベントとして多数の非農業者の参画を得ることができ、地域のコミュニケーションを再構築することが出来ました。 今後10年後には、高齢化が進み地域農業の維持が危ぶまれています。このような活動を継続していくことにより、若い世代へ地域農業を継承していくことができると思われます。 今後もこの活動を通し新たな世代のリーダー育成を図り若年層の定住化につながればと感じております。					
				 農道沿線へ地元住民と共同で、植栽活動を行い、生活環境の重要性についての知識を深めあった。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	本館地区資源保全向上協議会	代表	齊藤 進
協定面積	田 20.86ha 畑 ha 計 20.86ha	対象面積	田 20.86ha 畑 ha 計 20.86ha		
管理施設	開水路 10 km	ため池 ヶ所	農道 1.5 km	ハ イ° ライ°	km
構成員	農業者 22人	農業団体 2団体	非農業者個人 3人	非農業団体 3団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
本館地区は国道101号線の海岸段丘に広がる小集落で僅か20世帯しかない。だから土地改良区もなく、整備された用水路もない。江戸時代に開発された昔ながらの堰を利用した前近代的な農地だ。当時、旧八森町でこの事業に手を上げたのは【下真瀬保全隊】と当地区の2組織だけ・・・ 当地区住民は「このままでは雑草だらけになる」「堰の補修資金の一助に」との思い出県内の事例を参考に地域一丸となって努力してきた。平成19年に【本館集落営農組合】を立上げ、本事業とタイアップしながら、地域の保全等に活躍した。 泊川中流部から引水する《堰》は、例年水漏れや一部決壊など堰の修理は急務であったが、本事業を活用し生き返った。 また、限界集落すれすれである本地区には、『落城伝説』グリーンツーリズム施設『夕映の館』があり、県内外から多くの人々が訪れる。景観形成において集落の入り口に花壇を設置し訪れる人の心を癒している。 この事業を行い地域の絆が深まり、小さな集落が一つの輪となったと思う。					
				 心を癒している集落入り口の花壇の手入れ	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八峰町	組織名	下真瀬保全隊	代表	山本 優人
協定面積	田 25.53ha 畑 ha 計 25.53ha	対象面積	田 25.53ha 畑 ha 計 25.53ha		
管理施設	開水路 km ため池 ヶ所 農道 km	ハ°イ°ライン km			
構成員	農業者 24人 農業団体 団体	非農業者個人 62人 非農業団体 団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境保全事業を始めて、私たちの保全隊は農地の保全はもちろんのこと、地域の人々との交流を重視した活動をしてきました。地域の環境保全の取組として実施した、農道へのプラターの設置、普段田畑へ通う人々に癒しを与えるためのコスモスの植栽、親子や家族でホタルを楽しむためのホタル池の造成など。これらの活動には、農業者はもちろんのこと地域の老人クラブ、青年会、子供会が参加し、活動を通してより一層地域の絆が深まったように思います。

そのお陰で、当活動地域の域内の3自治会の若者達は、一作年から交流の野球大会を開催し、地域の繋がりをより一深めようとしているし、3自治会の内当活動地域の主体となっている自治会では、それまで単発で行っていた自治会の運動会を2年毎に実施することにきめ、平成24年9月に行う予定を立てている。

このようにこの事業を通し、継続的な農地の保全に貢献したことはもちろん、地域住民の繋がりを深め、その結果地域コミュニティ活動の活性化につながったことは、大きな成果であったと思う。



地域住民と一緒にコスモスの植栽

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	三種町	住 所	山本郡三種町鵜川字岩谷子8	電 話	85-4827
担当部署	農林課農地整備係		担当者	青 山 勇 人	

(5年間の感想等記入)

農業の持続的発展と多面的機能の発揮のためには、構造政策とは別に、農業農村の基盤である農地・水・環境の保全と質的向上、また農業の自然循環機能の維持・増進が必要であり、その担い手と活動は地域ぐるみでの共同活動がふさわしく、その活動組織を支援する政策と解するが、当初、当町においては集落営農組織の立ち上げという構造政策と絡めながら、活動組織の立ち上げを求めた。結果として、平成19年度から、この政策支援を受ける地域を絞り込むことになった。

各活動組織からは、5年間の感想をいただいたが、多くのところから意義ある活動であったとの評価をいただいている。泥や水草で詰まっていた排水路がなくなり、作り手のいない道路脇の田んぼも、草が刈られ、花畑に変えられた。大きな農家の草刈り時間が減っただけではない。美しい農村風景がよみがえった。地域の共同活動が地域の自然や住環境への共通認識を高め、地域の再生、ムラづくり、農村の後継者づくりへと広がっているように感ずる。絆が強まった。地域をみんなで守っていききたい、という声が発せられている。

各活動組織とも、役員を始めとする並々ならぬ熱意によって活動が進められてきた。制度的には共同活動への支援交付金であるが、始めから地域住民の理解を得て共同活動が始まることは少ない。お金と村づくりへの情熱と仲間の助け合いが組織存続の力になっている。残念ながら、2組織が次期対策から降りることになっている。比較的小さい集落で、活動の中心となる役員のなり手も少なく、活動に十分な人員の情熱を持った仲間が足りていないことが原因のようである。

来年度からは、従前組織11に、新規組織25の36組織で新たなスタートを切る。いくつかの土地改良区では管轄区域内の組織を集め協議会づくりを支援している。町としても県の地域協議会の指導等を仰ぎながら的確に活動組織を支援していきたい。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

三種町	耕地面積	田	5,080	ha	畑	823	ha	合計	5,900	ha
平成19年度	協定面積	田	1208.4	ha	畑	0	ha	合計	1208.4	ha
平成20年度	協定面積	田	1208.4	ha	畑	0	ha	合計	1208.4	ha
平成21年度	協定面積	田	1208.4	ha	畑	0	ha	合計	1208.4	ha
平成22年度	協定面積	田	1208.4	ha	畑	0	ha	合計	1208.4	ha
平成23年度	協定面積	田	1208.4	ha	畑	0	ha	合計	1208.4	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	1208.4	ha	53,169,600円					
平成20年度	対象面積	計	1208.4	ha	53,169,600円					
平成21年度	対象面積	計	1208.4	ha	51,568,880円					
平成22年度	対象面積	計	1208.4	ha	53,169,600円					
平成23年度	対象面積	計	1208.4	ha	51,940,191円					
				合計	263,017,871円					
活動組織名称 三種町										
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0181	市野保全会				0189	大曲ほたるの会				
0182	浜鯉川保全隊				0190	久米岡環境保全隊				
0183	中沢保全会				0191	ゲバヂの会				
0184	上岩川中央保全会				0192	安戸六まもり隊				
0185	泉八日自然と環境を守る会				0193	沢目がんぼり隊				
0186	志戸橋まもり隊									
0187	萱刈沢まもり隊									
0188	うかわ農水会									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	市野保全隊	代表	板垣 勝蔵
協定面積	田 26.3ha 畑 ha 計 26.3ha	対象面積	田 26.3ha 畑 ha 計 26.3ha		
管理施設	開水路 5.0 km ため池 5ヶ所	農道	4.0 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 22人	農業団体	団体	非農業者個人	3人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する地区は10年前に県営ほ場整備事業が完成しました。水源がなく、湧き水をため池5箇所のためにためて水源としています。

以前は、ため池や農道の草刈りは自治体が主体で行っていましたが、保全会を立ち上げてからは、会が主体となり、景観形成活動や水路の泥上げ、水質モニタリングも行いました。

地域みんなで農業施設、景観の保安全管理を頑張ろうという機運が生まれました。今後も、みんなで地域の活性化を図っていききたいと思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	浜鯉川保全隊	代表	近藤 敏雄
協定面積	田 65.1ha 畑 ha 計 65.1ha	対象面積	田 65.1ha 畑 ha 計 65.1ha		
管理施設	開水路 9.9 km ため池 ヶ所	農道	10.5 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 53人	農業団体	団体	非農業者個人	3人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全隊の対象地には、6～8年前に整備した大区画圃場3区域と整備してから40年以上経過した開田区域の計4か所の水田区域を設定しました。

保全隊発足時、開田区域は減反の強化に伴って大豆畑と自己管理地となり、水稻の作付けはわずかで、農道も水路も手付かずの状況でした。大区画圃場は個人への配置以後、水路全体の手入れはなく、地続きの国道や承水路法面等も自然のままのところがあり、農道の草刈りも大豆組合に続けて委託しているところでは年1回程という状況でした。

背景には、水田単作による収入減少と農業への意欲減退、後継者のサラリーマン化、少子高齢化、生活環境の変化等とともに、昔ながらの集落の結束力が薄れてきたことがあります。

保全隊では、開田区域の水田復活、遊休地の管理、農道・水路の機能回復、草刈り・植栽等による景観形成を主要目的とするとともに、集落の共同意識の高まりを期待して、できる限り非農業者含めて活動することになりました。

5年経過し、水田周辺の草木は刈り取られ、農道・水路も機能回復し、必要な修復もなされ、開田復活以外のハード面の目的はほぼ達したと思われます。集落意識はあと一歩と感じています。景観形成は婦人会、老人クラブのラベンダー、コスモス植栽が続けられ、婦人会のラベンダーの装飾化も進められました。

型どおりの資金使途だけでなく、保全隊への計画書提出とその認可活動があれば、さらに効果的な活動が展開できるのではないかと考えています。



年2回、非農業者も含め草刈り。農道はもとより、国道、川、山裾の法面もきれいになった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	中沢保全会	代表	近藤 正幸
協定面積	田 36.4ha 畑 ha 計 36.4ha	対象面積	田 36.4ha 畑 ha 計 36.4ha		
管理施設	開水路 6.1 km ため池 2ヶ所	農道	4.7 km	パンプライン	km
構成員	農業者 30人 農業団体 団体	非農業者個人	6人	非農業団体	3団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち保全会は加速的に進むものと予想される農地の集積化に備え、用水路、排水路の維持管理、ため池の長寿命化を図るための点検、補修、また共同活動による地域住民のコミュニケーションを再構築させることを目的に活動を行ってきました。 取組み当初は地域の集落営農組織を中心に農道の草刈り、用排水路の泥上げ、農道の砂利敷きならし等を実施しました。これらの活動は、力仕事のため、女性や老人クラブの参加はほとんど見られない状況でした。 2年目からは環境向上活動の一環として、地域集会所の花だんの整理、草取り、プランターによる花いっぱい運動などを実施しました。このような活動を通して自然に地域のコミュニケーションが図られるのだな、と今実感しているところです。 今後も自分たちでできることは、みんなで力を合わせてがんばろうと思っています。					
					
				婦人会による和気あいあいの”花いっぱい運動”の活動です。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	上岩川中央保全会	代表	工藤 誠悦
協定面積	田 33.2ha 畑 ha 計 33.2ha	対象面積	田 33.2ha 畑 ha 計 33.2ha		
管理施設	開水路 6.7 km ため池 ヶ所	農道	3.1 km	パンプライン	km
構成員	農業者 43人 農業団体 1団体	非農業者個人	20人	非農業団体	3団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の保全会は、緑豊かな水田風景と地域を流れる三種川の自然環境を守り、子供達へ受け継いで行ってもらうことを目標として活動してきました。取組み当初は、農家以外からは全く協力が得られず、戸惑いもありましたが、環境向上活動の中の生態系保全として、水田の冬季灌漑ビオトープを設置し、上岩川地域では30数年ぶりの白鳥(126羽)の飛来に賑わうことができました。ただ、その後の洪水によって、ビオトープ田は断念しています。 また、地元の上岩川小学校の生徒が三種川の水質調査をしていましたので、この機運を活用し、ビオトープ田の説明や観察など地域の環境について話し合う交流会を開催し、会の活動もアピールすることができました。その翌年からは全戸の協力を得て、数十箇所に花の苗を植え、花いっぱい運動を展開しました。 しかし、統合による地元小学校の廃校、老人クラブや地域消防団の衰退等で、制約のあるこの活動の存続に不安を感じ、今後は無理のない範囲での活動とするため、誠に残念ですが、保全会活動を取り止めることにしました。これまでの御指導、御鞭撻に感謝いたします。					
					
				ここも色鮮やかな花でいっぱいになりました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	泉八日自然と環境を守る会	代表	湊 稔
協定面積	田 135.2ha 畑 ha 計 135.2ha	対象面積	田 135.2ha 畑 ha 計 135.2ha		
管理施設	開水路 12.8 km ため池 ヶ所	農道	13.2 km	ハ゜イ°ライン	22.5 km
構成員	農業者 106人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

泉八日自然と環境を守る会では、農業者、土地改良区、自治会、消防団、PTA、老人クラブの地域全員の参加で農地・水保全活動を行うことを目標に活動してきました。

農地、農道等農業用施設の管理、草刈り、泥上げなどをみんなで行い、水田風景が良くなったという声が聞かれるようになりました。水質検査は消防団に担当してもらい、田んぼの用水の水質を知ることができました。子どもたちは、生態系保全では父兄と一緒に、生き物調査を行い、触れたり、名前を確認したりしました。老人クラブとは、花植えを経験しています。

5年間の活動を振り返ってみて、概ね計画通り行えたと思っています。今後も地域の自然と環境は地域みんなで守っていきたいと思っています。



みんなで生き物調査を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	志戸橋まもり隊	代表	河村 廣健
協定面積	田 241.9ha 畑 ha 計 241.9ha	対象面積	田 241.9ha 畑 ha 計 241.9ha		
管理施設	開水路 26.2 km ため池 39ヶ所	農道	45.8 km	ハ゜イ°ライン	km
構成員	農業者 110人 農業団体 2団体	非農業者個人	45人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織の活動している地区は、40年以上前に構造改善事業により土地改良を行ったところで、農業者の高齢化、地区内施設の老朽化、農地の遊休化等が進行しつつありました。以前より水利組合、自治会で共同作業を行っていましたが、経費等の問題で先細り感がありました。

老朽ため池等の補修作業をこの共同活動で行い、かつての地区内住民の意識が蘇りました。老人クラブ活動への参加者は以前の倍以上になっています。地区子供会と地区PTAの協力による開水路等の清掃作業は親水空間を醸成しました。消防団による水質モニタリングは環境問題（水質保全）における農業用水の重要性を気づかせてくれました。2年目以降開水路の泥上げは水路溝畔の補修につながり、遊休化しつつあった沢部等の草刈り作業は環境を意識させました。草刈り作業は除草剤散布農家の半減をもたらし、田園風景が蘇りました。開水路のホタルの復活は地区住民の自慢となっています。

この間、農地、水、環境の重要性を大いに意識し、何より一人ひとりの横のつながりが強まりました。今後もこの事業で醸成された地区の「自力更生」の意識がさらに発展してゆくよう努力したいと考えています。



老人クラブによる景観活動は年間を通じて行われました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	萱刈沢まもり隊	代表	日諸 光徳
協定面積	田 62.9ha 畑 ha 計 62.9ha	対象面積	田 62.9ha 畑 ha 計 62.9ha		
管理施設	開水路 0.8 km ため池 1ヶ所	農道	6.3 km	ハ°イ°ライン	6.4 km
構成員	農業者 65人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちまもり隊の活動目的は農業の環境整備を行いながら、子供達へ受け継がれていくことを目標として行ってきました。 取組み当初は参加人数が少なく戸惑いもありましたが、2年目以降になると農業者以外にも参加してくれるようになりました。 農業施設の保全、ため池の出水掘り、排水路の泥上げ、農道の敷砂利、草刈り、クリーンアップ、景観形成活動と、地域みんなで行うことにより、農業者からは非常に感謝されています。 これからも、自分たちでできることは自分たちでがんばろうの精神で地域を盛り上げたいと思います。					
					
				湧水の流れをよくする為、ため池の出水掘り作業をしました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	うかわ農水会	代表	三浦 盛光
協定面積	田142.3ha、畑 0ha、計142.3ha	対象面積	田142.3ha、畑 0ha、計142.3ha		
管理施設	開水路 17.9 km、 ため池 3ヶ所、	農道	6.3 km、	ハ°イ°ライン	2 km
構成員	農業者130人、 農業団体 1団体	非農業者個人	0人、	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 今までは各集落のグループで水路の泥上げ、清掃をしていましたが、参加する人達が少なく十分な活動が出来なかったように思います。5年前から農地・水・環境保全向上対策事業が始まり、水路清掃、草刈り、農道補修整備を行い、環境は年々整備されてきています。 自治会、老人クラブ、農業者、非農業者、子供達等、皆様の頑張りや御協力が大きな力になり、地域の自然環境が非常によくなりました。 老人クラブによる花の植栽、子供達が参加したザリガニ、ホタルの観察会は喜ばれ、好評でした。夕日沢ため池の生態系調査、水質調査結果の講習会にも非常に関心が持たれるようになりました。 緑豊かな田園風景、農水路を流れる清らかな水、自然を守る事の大切さ、必要性を学ぶことのできた、この事業は継続をしたいと思います。					
					
				鵜川保育園の園児たちとザリガニの観察をしました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	大曲ほたるの会	代表	成田 和保
協定面積	田 111.2ha 畑 ha 計 111.2ha	対象面積	田 111.2ha 畑 ha 計 111.2ha		
管理施設	開水路 14.2 km ため池 ヶ所 農道 1.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 90人 農業団体 1団体	非農業者個人 人 非農業団体 6団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動の目的は、ホタルの飛び交うきれいな水環境の復活をめざし水質改善を図ることと、先人が築いた農地や農業用用水路を良好な状態で確保し、次世代に継承していくため、自治会や各種団体と協力し活動することでした。 昔はほとんどが農家で地域のまとまりも良かったのですが、近年は非農家が多くなり交流の場も少なくなっています。この活動によって非農家も参加し、農地や農業施設は洪水を防いでいることなど、自然環境面で多くの役割を果たしていることが広く知ってもらえたように思います。 4月の水路清掃から始まり、6月、7月、9月と草刈を行い、道路の補修も行って、農家の方々からは良い事業をやってくれたと喜ばれています。 老若男女の参加による花の植栽などで、和気あいあいと共同作業ができ、みなさんから大変喜ばれております。					
					
				水路耕畔にヒメイワダレ草を、子供から老人まで参加し植付いたしました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	久米岡環境保全隊	代表	佐々木 文治
協定面積	田 144.6ha 畑 ha 計 144.6ha	対象面積	田 144.6ha 畑 ha 計 144.6ha		
管理施設	開水路 17.1 km ため池 ヶ所 農道 9.4 km	ハ°イ°ライン	14.1 km		
構成員	農業者 84人 農業団体 2団体	非農業者個人 人 非農業団体 7団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち環境保全隊では、春の水路の泥上げ作業や、年4回行う草刈り作業、あるいは農道の路面補修、さらには環境保全活動として、女性構成員が行っているプランターの植栽や、ひまわりの栽培がおもな活動です。 ひまわりの栽培では、6月ごろ種を蒔き、9月に刈り取り乾燥し脱穀した種を、4年前から秋田市動物園「ミルヴェ」に小動物の餌として150kg～200kg提供しています。動物園からはすごく喜ばれています。 草刈り作業では、農業者だけではなく非農家や、各種活動組織の協力により、夏の猛暑の中での草刈りを通して世代を越えた交流の場となり、地域の「和」、「絆」が生まれつつあると感じております。 これからも、農家、非農家ともに、農業への理解を深め地域の交流の場として「保全活動」を盛り上げたいと思っています。					
					
				夏休みに子供会による、大きく育ったひまわりの写生大会を行う。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	ゲバチの会	代表	荃沢 誠作
協定面積	田 103.2ha 畑 ha 計 103.2ha	対象面積	田 103.2ha 畑 ha 計 103.2ha		
管理施設	開水路 18.3 km ため池 3ヶ所	農道 6.8 km	ハ°イ°ライン 2.5 km		
構成員	農業者 70人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 本事業は私共の地域に大きな成果を生み出しました。 時間に追われ、お金におわれ、気持ちに余裕がなかったのですが、農地・水環境保全活動に取り組むことにより、地域を大切に思う気持ちが現れてきたように思います。 小学生を対象にした堤に生息するお魚調査。婦人部による花の植栽。老人クラブによる開水路、農道等のゴミ拾い、缶拾い。非農家も参加しての草刈り作業。どの事業も地域の協力と理解により、大きな成果をあげることができました。 地域を想い、大切に作る気持ちや人を気遣う心が育ってきたのではないかと思います。					
					
				婦人部による花の植栽	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	安戸六まもり隊	代表	田中 廣儀
協定面積	田 59.5ha 畑 ha 計 59.5ha	対象面積	田 59.5ha 畑 ha 計 59.5ha		
管理施設	開水路 4.8 km ため池 1ヶ所	農道 2.3 km	ハ°イ°ライン 4.4 km		
構成員	農業者 37人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 安戸六まもり隊の地域は、緑豊かな水田風景です。また、横沢ため池の水質管理をして、自然を子供たちに残していくことを目的に活動してきました。 当初は戸惑いの連続で、果たして事業が出来るのか不安でしたが、地域住民総参加により開水路、排水路の泥上げ、草刈り、農道整備、集落内清掃、外来種駆除、ため池の植栽作業、子供たちの水質視察研修等、さまざまな事業に取り組んできました。5年間の活動で農業施設、景観形成、生活環境保全など、いろいろ地域が改善されました。 地域住民の積極的な事業参加により、絆が深まった事業であったと思います。 これからも住民の絆をより深く、自分たちの地域は自分たちで守り、一丸となって事業に取り組んで行きたいと思っています。					
					
				子供たちも参加して、外来種駆除と生態系調査を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	三種町	組織名	沢目がんぼり隊	代表	青山 竹千代
協定面積	田 46.6ha 畑 ha 計 46.6ha	対象面積	田 46.6ha 畑 ha 計 46.6ha		
管理施設	開水路 22.7 km ため池 ヶ所	農道	1.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 46人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち沢目がんぼり隊の活動地域は、81世帯で人口が240人、就農者数が90人弱と比較的小さな農業集落です。組織が活動する範囲は、30年以上前に県営圃場整備事業が完成しており、用排水路、ため池などの農業施設の老朽化対策が課題となっているところです。

農業従事者の高齢化に伴い、取組み当初は戸惑いもありましたが、農業施設の保全管理のほか、農道等のきめ細やかな草刈や用排水路の泥上げはもちろん、景観重点地点のホタル水路の整備、クリーンアップ・ひまわり畑・花いっぱい花壇の景観形成活動、地区高齢者や地区PTA・子どもたちを交えた秋の案山子づくりなど、私たちの子どもの頃の農業・環境を伝えるなど、農業者も地区住民非農業者も農地・水向上活動に参加して貴重な経験、体験になりました。

人口減少や、高齢化の加速化、施設の老朽化等々課題はありますが、私たちの小さな3集落でも沢目地区としてまとまり、5年間の活動を通して地域の「集い・結し・絆」が一昔のように復活しつつあるように感じています。

最後に、これまで支援していただきました秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会、秋田県、三種町、鶴川地区協議会の関係各位に感謝とお礼申し上げます。



今年も案山子が沿道から豊作を願います。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	藤里町	住 所	藤里町藤琴字藤琴 8	電 話	0185-79-2114
担当部署	藤里町農林課 農業振興係	担当者	田代 文久		

(5年間の感想等記入)

藤里町は、青森県にまたがる広大なブナの原生林による水甕が清流となって河川にそそがれ農業用水路には、あふれんばかりの水が注がれ麓の水田を潤します。

近年、当町では農業者の高齢化が進み農業後継者が不足しており、農道の整備や水路の手入れなど行き届かない状況でした。

農地・水・環境保全向上対策の取組活動を通じて、地域で話し合いを重ねたことで集落の環境に取り組むきっかけになり観光地でもある集落の玄関口では、花を植え周辺のゴミを拾い環境整備を行いました。

また、農道や水路の草刈と泥上げは毎年実施され、老朽化した側溝の補修など問題化されていたことが改善され、災害時においても迅速に復旧対応していただきました。

町の中心部である藤琴地区では、幼稚園と小学校があり生徒と保護者が参加して、農業体験や鮎の放流活動を継続したことが学校との信頼が築かれ今では学校行事となっております。

地域の特徴では、地域にあった小学校が廃校となったため地域の小学生を対象にバケツで稲を栽培する研究課題に取り組み、収穫祭では活動組織の高齢者が指導者となってごはんを丸めて地域の郷土料理であるだまっこ鍋作りを孫に体験させておりました。

この地域では、伝統と知恵を地産地消として後世に受け継がれていることに感心させられました。

各組織では、農地・水・環境保全向上対策の活動を通じて地域で様々な活動を実施して問題化されていたことをこの5年間で改善されており、町では次期対策においてもさらなる活動に期待をしております。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

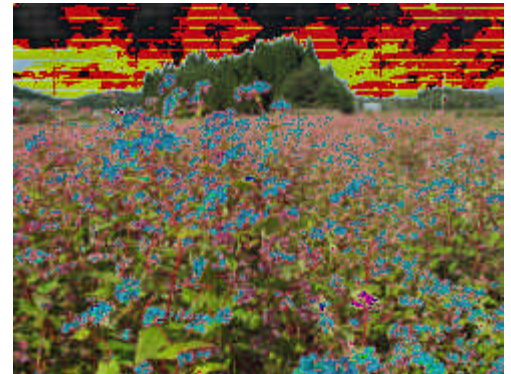
藤里町	耕地面積	田	817 ha	畑	204 ha	合計	1,020 ha
平成19年度	協定面積	田	200.29 ha	畑	0.00 ha	合計	200.29 ha
平成20年度	協定面積	田	200.29 ha	畑	0.00 ha	合計	200.29 ha
平成21年度	協定面積	田	200.29 ha	畑	0.00 ha	合計	200.29 ha
平成22年度	協定面積	田	200.29 ha	畑	0.00 ha	合計	200.29 ha
平成23年度	協定面積	田	200.29 ha	畑	0.00 ha	合計	200.29 ha
(支援交付金実績)				〔支援交付金全体〕			
平成19年度	対象面積	計	175.01 ha	7,700,440円			
平成20年度	対象面積	計	175.01 ha	7,700,440円			
平成21年度	対象面積	計	175.01 ha	7,359,880円			
平成22年度	対象面積	計	175.01 ha	7,700,440円			
平成23年度	対象面積	計	175.01 ha	7,700,401円			
合計				38,161,601円			
活動組織名称		藤里町		組織が多い場合次頁に			
番 号	活動組織名称		番 号	活動組織名称			
0194	矢坂みどりの会						
0195	藤琴・大沢地区農地環境保全会						
0196	中通地区環境保全会						
0197	共栄農地環境保全会						
0198	長瀬地区農地環境保全会						

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	藤里町	組織名	矢坂みどりの会	代表	菊池 博悦
協定面積	田 44.9ha 畑 ha 計 44.9 ha	対象面積	田 44.9ha 畑 ha 計 44.9ha		
管理施設	開水路 13,7 km ため池 2.0 ヶ所	農道 10,1 km	ハ イ プ ラ イ ン km		
構成員	農業者 40人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

矢坂みどりの会は、農業従事者が高齢化する中で農地の保全管理と農村らしい環境の保全を目的に活動してきた。なかでも、藤里町の玄関口となっている矢坂集落の県道沿いに「菜の花団地」を作り、景観形成活動によってムラを活性化させようと、町内会連合会と矢坂老人クラブ等との共同活動で見事な菜の花の群落が開花した。この菜の花は、菜種として収穫し、菜種油に精油して会員に提供した。また、農道や水路の保全管理として農道補修作業や水路の草刈、補修作業、用水池の補修作業を実施してきた。このような活動の中にも課題があった。それは、休耕田を活用した「菜の花団地」は未整理田であったために排水不良による不揃い、さらには4年目からは連作障害が発生した。その対策として景観作物の変更を行った。菜の花から「赤ソバ」の作付けに変えて春から秋の景観で村落を美しくするように対応した。今後集落の高齢化が進むと、農業生産、環境保全と共に「ムラの結い」による地域づくりに力を入れていく必要があるようだ。



菜の花は4年目に連作障害、そこで登場した景観作物が「赤ソバ」、初雪の降る12月まで咲いていた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	藤里町	組織名	藤琴・大沢農地環境保全会	代表	市川 一
協定面積	田 50.5ha 畑 ha 計 50.5ha	対象面積	田 50.5ha 畑 ha 計 50.5ha		
管理施設	開水路 32.9 km ため池 ヶ所	農道 19.5 km	ハ イ プ ラ イ ン km		
構成員	農業者 92人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 2団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全活動の目標でもある環境整備の活動は、農業者だけでなく非農家、町活動推進協議会等沢山の方々が支えて下さったと思っています。夏の猛暑にもかかわらず、草刈り作業、用排水路雑草除去、グランドシート張り作業等と毎年貴重な活動となり、多くの構成員の参加で実行して参りました。作業を通じ交流の場として保全環境活動の必要性を誓い合いました。また、小学生による農作業体験として田植え作業、また、秋には自分たちの植えた稲の稲刈り作業などと、授業では学べない貴重な体験が出来たと思います。このように体験作業を通して農業の大切さを指導しながら、地域住民との共同作業で楽しい体験となりました。啓発活動では、学校教育等と連携の中で幼稚園、漁業組合員等と共に稚鮎の放流を行い今後も地域を盛り上げたいと思います。



藤琴・大沢農地環境保全会 代表 市川 一

5月の晴れた日小学生、地域住民との共同田植え作業体験

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	藤里町	組織名	中通地区環境保全会	代表	石田 春雄
協定面積	田 56.9ha 畑 ha 計 56.9ha	対象面積	田 56.9ha 畑 ha 計 56.9ha		
管理施設	開水路 17.5 km ため池 ヶ所 農道 13.9 km	ハ イ プ ラ イ ン	km		
構成員	農業者 50人 農業団体 団体	非農業者個人 人 非農業団体 4団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち、中通地区保全会は、白神山地の入り口に位置する5集落で形成されている地域です。平成19年度から本事業を活用し「小さな一歩は皆さんが敢行するもの」を合言葉に、高齢者が主体なった農用地周辺の花の植栽やこれまでなかなか着手できなかった環境整備に取り組むことができました。

また、地域の基盤整備から30年以上経過しており、側溝の老朽化が進んでおりましたので地域の経験者の指導で用排水路も整備することが出来ました。

近年の異常気象により毎年のように発生する災害に見舞われながらも、本事業を活用し迅速に対応することが出来たことで地域住民も我々の組織に対する期待が非常に大きなものとなっております。

今後も、地域と一体となった農村環境を保全してゆくため、本事業を継続し、新たな事業にも取り組みながら活動してゆきたいと考えています。

中通地区環境保全会 会長 石田春雄



老朽化による側溝の補修作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	藤里町	組織名	共栄農地環境保全会	代表	斎藤 真号
協定面積	田 20.7ha 畑 ha 計 20.7ha	対象面積	田 20.7ha 畑 ha 計 20.7ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 5.0 ヶ所 農道 2.1 km	ハ イ プ ラ イ ン	km		
構成員	農業者 17人 農業団体 団体	非農業者個人 人 非農業団体 1団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全会は、農地の保全管理と景観形成活動を主な目的としてきました。活動内容は、農業者の高齢化に伴い保全管理の行き届かない農地を共同作業で補うことが出来ました。

また、草刈りや水路の泥上げ作業は毎年恒例となり地域住民が参加しており、農道、水路、ため池等の修理、農道の砂利敷きは農業者の協力で整備することが出来ました。

景観形成活動においては、地域の高齢者がバス停付近に花壇を作りマリーゴールドなどの花を植栽したが、散水と雑草除去など管理に苦労がありました。

当保全会地域の先には観光拠点があり、幹線道路両側の水田を景観形成として菜の花を作付して、休日に訪れる観光客や地域住民からも好評でした。菜種を採取して菜種油に加工し試食していただき好評でありました。当初は活動について戸惑いがありましたが、5年間の活動で保全会に対する地域のからの期待が大きくなり会員一致で今後も事業を継続することになりました。

共栄農地環境保全会 会長 斎藤真号



地域の景観作物として菜の花を栽培

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	藤里町	組織名	長瀬地区農地環境保全会	代表	桂田 俊三
協定面積	田 27.01ha 畑 ha 計 27.01ha	対象面積	田 27.01ha 畑 ha 計 27.01ha		
管理施設	開水路 4.2 km ため池 ヶ所 農道 4.8 km	ハ°イ°ライン	2.9 km		
構成員	農業者 16人 農業団体 団体	非農業者個人 人 非農業団体 1団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会では、活動目的として地域環境の整備と花いっぱい運動、次世代を担う子供達の地域を知る運動を重点項目に揚げながら活動を進めてまいりました。

取組当初は、戸惑いもありましたが、「身の丈に合った活動にしよう」を合言葉に今できることは何かを話し合い、そして行動し少しずつ積み重ねることが出来ました。

春の花壇の設置・管理や農道等の整備・バケツ稲作づくり、さらに秋の収穫感謝祭を実施することが出来て喜んでいきます。

特に子供達によるバケツ稲作づくりは、植付けから収穫まで一緒に作業する親子の「絆」が強くなったと思います。

また、地域活動を強制することなく農業者以外の方々も含めて老若男女を問わず積極的に参加され交流の輪が広がり、活動を5年間継続する「源」となりました。

自分たちの地域は、自分達で守という強い意志で、今後新たな目標を定め地域活動に取り組んでまいります。

長瀬地区農地環境保全会 会長 桂田俊三



長瀬地区の入口であるバス停付近の花壇で女性の皆さんが共同で除草作業を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	秋田市	住 所	秋田市山王一丁目1番1号	電 話	018-866-2117
担当部署	農林部 農地森林整備課	担当者	長谷部 正美		

(5年間の感想等記入)

農業・農村の基礎となる農地・水・環境の保全と質的向上を図るため、農業者だけでなく地域住民、自治会、関係団体等が幅広く参画した地域ぐるみの共同活動も平成23年度で終期を迎えます。

本対策に取り組まれた活動組織の皆様には、連日、連夜の話し合いによる活動計画策定から始まり、又水路の草刈り、泥上げ、花の植栽、水質調査などの幅広い共同活動へも年々多くの方が参加していただきました。その結果、農村環境の保全はもとより、世代を超えた連帯感が生まれたことや、これまで以上に環境への意識が高まったことなど、大きな成果が得られたものと考えております。

本対策も、今後、5年間延長されることから、多くの集落が活用し農村環境の保全に取り組んでいただきたいと期待しております。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

秋田市	耕地面積	田	8,580 ha	畑	721 ha	合計	9,300 ha
平成19年度	協定面積	田	947.69 ha	畑	0.00 ha	合計	947.69 ha
平成20年度	協定面積	田	947.69 ha	畑	0.00 ha	合計	947.69 ha
平成21年度	協定面積	田	961.89 ha	畑	0.00 ha	合計	961.89 ha
平成22年度	協定面積	田	961.89 ha	畑	0.00 ha	合計	961.89 ha
平成23年度	協定面積	田	961.41 ha	畑	0.00 ha	合計	961.41 ha
(支援交付金実績)				〔支援交付金全体〕			
平成19年度	対象面積	計	810.05 ha	35,642,200円			
平成20年度	対象面積	計	810.05 ha	35,642,200円			
平成21年度	対象面積	計	810.05 ha	35,092,200円			
平成22年度	対象面積	計	810.05 ha	35,642,200円			
平成23年度	対象面積	計	810.05 ha	35,049,632円			
合計				177,068,432円			
活動組織名称		秋田市		組織が多い場合次頁に			
番 号	活動組織名称		番 号	活動組織名称			
0216	長岡「美取の郷」		0224	小山みどり会			
0217	下刈農村保全会		0225	左手子郷の会			
0218	道川みどり会		0226	新波水土里の会			
0219	飯田長野農村環境保全会		0227	向野あぜなみの会			
0220	上町やぶれ会		0228	繋みどり会			
0221	上野あぜみち会		0229	神ヶ村水の会			
0222	小阿地ふるさと環境保全隊		0230	碓田緑水会			
0223	末戸松本みのり会						

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	長岡「美取の郷」	代表	安田 友一
協定面積	田 41.36ha 畑 ha 計 41.36ha	対象面積	田 31.06ha 畑 ha 計 31.06ha		
管理施設	開水路 24.4 km ため池 ヲ所 農道 7.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 13人 農業団体 1団体	非農業者個人	63人 非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の「美取の郷」は秋田市北部の郊外に位置する緑豊かな田園風景であります。この豊かな地域は、高齢化と少子化に伴い10数年前に耕地の基盤整備を土地改良区が着手し完成しました。完成した今は、農作業が省力された集落は全員が農業者でない混住化の農村に「農地・水・環境保全向上対策」の共同作業を持ち込み集落の一体化になることが出来ました。

雪融けが終わり、集落内の農業機械、トラックの走行で土など落ちた側溝の清掃を集落全員で泥上げをしました。年3回の共用道路の清掃作業、草刈り作業に取り組みました。次代を担う子供たちには集落の環境保全に清掃活動、水質調査等に参加をされて環境向上を伝える事など貴重な活動となりました。

集落の集会には多数の町内会員が集る様になりました。水路堤延長の集会所の花壇に老人クラブの植栽、共用道路路肩には婦人会の植栽と農作業や勤めに出る方達の癒やし場となりました。農業者、非農業者の良い関係が生まれました。朝に夕に散策の場として清掃活動をした農道、用水路の水辺など農業の施設の大切さを非農家の方達も認識されたと思います。集落全体で更に集落環境整備に頑張る事を総会の度に会員方達は口々に言っておられました。



雪融けが終わり農作業等で農業機械の土や藁くずなどが農道と生活の共用道路の側溝につきり集落が一体となり側溝の泥上げ清掃をしました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	下刈農村保全会	代表	菊地 公明
協定面積	田 54.1ha 畑 ha 計 54.1ha	対象面積	田 54.1ha 畑 ha 計 54.1ha		
管理施設	開水路 7.2 km ため池 ヲ所 農道 6.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 19人 農業団体 1団体	非農業者個人	111人 非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達下刈農村保全会では、国及び県の基本方針に則り、基礎活動及び農村環境保全活動に取り組んできました。

基本活動においては、年3回の草取りをはじめ、泥上げについても同時に行いました。

環境保全活動については以下の3点をスローガンにして取り組み実施しました。

1. ゴミ捨て場の景観が悪かった場所を整地、整理し、土地を改善し

町内会・婦人会と協力し、桜とツツジの苗木を植えました。

2. 保全会の活動を啓蒙するため町内3か所に看板を設置し、住民にアンケートを実施。

《つなげよう未来に 下刈の風 緑の輝き 美しき里》を活動のスローガンとした。

3. 道路の美観と高齢者の安らぎを目的として、プランターを200ヶ所設置し地域の美化に努めた。

その他道路の清掃、軽微な保守なども実施した。

小さな集落でお年寄りも多い中での取り組みですが、住みよい里としてこれからもがんばっていかうと思います

下刈農村保全会代表 菊地公明



ゴミ捨て場の景観が悪かった場所を整地、整理し、土地を改善して桜とツツジの苗木を植えました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	道川みどり会	代表	大渕 道雄
協定面積	田 41.6ha 畑 ha 計 41.6ha	対象面積	田 41.6ha 畑 ha 計 41.6ha		
管理施設	開水路 6.4 km ため池 ヲ所	農道	9.5 km	パ ^ロ イ ^ン	km
構成員	農業者 88人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち「道川みどり会」では、長年、地域の農業者が守り続けてきた農業施設や農村環境が高齢化や後継者不足により維持できなくなることを危惧し、それらに対する意識を高め自分たちの手で守り続けて行くことの大切さを地域住民に理解してもらえるような活動为目标に行ってきました。まず、農業施設の保全活動で「水路の草払い」については全町内会員が地域の環境美化活動に合わせ、農業者だけでなく非農家の町内会員にもクリーンナップ、ごみ拾いの活動に参加して頂きました。また、非農家の方々がよく散歩される用水路沿いへは、老人クラブや婦人会を主に町内会員誰でも参加してもらい「花の植栽」を行い、2回の草取りや夏の暑い期間の水やりなどの植栽管理を通じて、普段は交流がない町内会員同士の交流の場ともなりました。

これらの活動の他、農村生活環境の向上に貢献する活動により、農業者だけが農地・農業施設の保全活動を行えばいいと言う考えを変えてもらえたものと思います。

この5年間の活動で、地域住民が力を合わせて活動を行えば、農村環境を良い方向に変えることが出来ることを証明できた期間のように思います。今後も引続き地域の美しい農村・里山環境の保全に頑張りたいと思います。



毎年、花の植栽のあと雨が少なく水やりが大変でしたが、きれいな花が長く咲き地域住民を癒しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	飯田長野農村環境保全会	代表	保坂 真人
協定面積	田 120.42ha 畑 ha 計 120.42ha	対象面積	田 120.42ha 畑 ha 計 120.42ha		
管理施設	開水路 44.6 km ため池 ヲ所	農道	23.7 km	パ ^ロ イ ^ン	km
構成員	農業者 120人 農業団体 1団体	非農業者個人	447人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は戦後間もなくの基盤整備のままで、圃場は10a区画であり、水路・農道の整備は殆ど未整理のままである。また、泥炭層が厚く農地は軟弱で大雨等の影響で水路・農道の崩落が度々起こる。一方、農地管理面積の割に農家戸数が少なく（1軒当たり約2h）、農地の管理には相当数の労力と資金を必要としてきた。他方、当地区は市中心部に近く、2km周辺にはショッピングモール、学校、病院等があり近年ベッドタウンとして市街化区域農地の開発が進んでいる。非農業者数は就業者の4倍となり、混住化が加速しつつ

あります。こうした現状のなか、本事業により、農道・水路等農用地の共同作業活動が活発となり、施設の維持管理がより効果的になり、精度も向上しました。また、生態系保全活動では、子供達が親と一緒に農地を飛び回り生物の生育状況を確認する姿は誠に微笑ましい限りです。老人会、JA女性部は農用地の清掃と植栽活動に取り組み地区住民の目と心を癒やしてくれます。青年会（青友会）の皆さんは町内水路の清掃にあたり、清流の確保に汗し、町内会の皆さんは水路に繋がる側溝清掃や水路沿いの樹木の枝きり等を行い、農用地の美化に取り組んでおります。本事業は多くの団体、個人に農地と水の大切さを伝えたと確信します。



毎年9月の第一日曜日に行われる幹線用排水路の草刈 8班に分けて行われる。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	上町やぶれ会	代表	鈴木 勇
協定面積	田 35.48ha 畑 ha 計 35.48ha	対象面積	田 35.48ha 畑 ha 計 35.48ha		
管理施設	開水路 13.3 km ため池 ヶ所	農道	3.7 km	パンプライン	km
構成員	農業者 23人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

雪が消えふきのとうが芽吹く4月、用水路の泥上げで1年の作業が始まり、田植えが終わって、初夏を迎える頃から農道や水路の草刈りを行い、3月の雪解け頃に、傷んだ農道の補修や碎石敷きを行うというサイクルでした。また、環境保全活動の一環として町内全体で取り組んだ花壇作りは、前年に植えたチューリップが春に花を咲かせ、夏にはマリーゴールドなどの草花が農作業で通る人々を癒してくれました。

子供会の農地と水の歴史学習、水と生物の調査等々では、日頃なじみのない村と水田開発の関係や先祖たちの苦難の歴史などに触れるとともに、今、豊かな実りを与えてくれている水を通して、農村・農業への理解が深まったようです。

このように、共同作業で町内の方々とコミュニケーションをとりながら、ともに汗を流し、ともに事業を完遂してきたことに深い満足感を抱いています。

農地・水・農村の環境を守ることの重要性和難しさを改めて認識させられた5年間であったと思います。

11月、翌年の春に向けてチューリップの球根植え付け作業を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	上野あぜみち会	代表	榎 政良
協定面積	田 40.8ha 畑 ha 計 40.8ha	対象面積	田 40.8ha 畑 ha 計 40.8ha		
管理施設	開水路 15.3 km ため池 ヶ所	農道	4.0 km	パンプライン	km
構成員	農業者 47人	農業団体	1団体	非農業者個人	14人 非農業団体 5団体

私たちは5年前に「上野あぜみち会」を結成し、仁井田堰土地改良区の全面的なご指導お力添えをいただき参画し、今日に至りました。主な活動は用排水路の浚渫はもとより、農道整備、農道路肩にヒメイワダレ草や、マリーゴールドなどの植栽、ホタル生息地の整備、水質検査、見回りによる点検等々です。

こうした一連の事業に携わって感じたことは、①人の輪、とりわけ非農家の方々、御野場南町内の方々と交えて事業を遂行できたこと。②水は大切な資源であることの再認識。③人間が壊した環境、取り戻すのも人間。あきらめてはいけません。私たちの領域は私たちで改善を計らねばいけないと強く感じたことです。

一期5年の事業は完了しましたが、農地・水を守り環境を浄化していく活動は未だその途上にあります。5年間で培った知恵、共同活動で体感した和と力を存分に生かし、新体制下で本格化する事業に率先して取り組み、郷土の土地改良はもちろん、ホタルの生息を含めた生態系を守り、自分たちの手で推進していく「行動するあぜみち会」でありたいと、希望に燃えてがんばっていきたいと思います。

活動前の集合写真。管理する7路線の水路は各班に分かれて実施します。土水路のため維持管理には大変な労力が必要です。

代表 榎 政良

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	小阿地ふるさと環境保全隊	代表	鈴木 肇
協定面積	田 48.2ha 畑 ha 計 48.2ha	対象面積	田 48.2ha 畑 ha 計 48.2ha		
管理施設	開水路 26.0 km ため池 ヲ所	農道	8.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 49人 農業団体 団体	非農業者個人	73人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は旧秋田市の南部に位置し、御所野ニュータウンに隣接、かつては殆んどが水田野菜耕作の近郊農家で構成されてましたが、都市化による混住化のため農業排水路に生活排水流入や農道等にゴミ放棄が多く困り、農業者の高齢化による農業施設の維持管理、泥上げ、草刈作業に参加者が減り苦慮してきていました。

保全隊活動により非農家も参画して、集落の農村環境見直しを話し合い、自らの計画策定で実施する事で年々農業と共同作業に対する理解が深まる。

従前の農業者だけでは取組み出来なかった「耕作放棄田草刈」「休耕田へなたね栽培～搾油」「農道花壇の植栽」「生き物調査・水質調査」「用水路の目地補修」「農道のゴミ拾い」「各種研修・勉強会」等々・・・保全隊活動を通じて体験でき、非農家の協力も大きな力となり交流ができた事は、農業や農村環境を維持する上でプラスになり地域活動の組織化・活動がスムーズに運営できる環境が整い、今後も事業の継続を期待している。



＊休耕田になたね栽培・収穫後にビニールハウスで乾燥、唐箕で選別作業(写真)搾油までする。

ー未来に継ぐ・農村環境は自分達で守ろうー
小阿地ふるさと環境保全隊 代表 鈴木 肇

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	末戸松本みのり会	代表	鈴木 久志
協定面積	田 56.18ha 畑 ha 計 56.18ha	対象面積	田 56.18ha 畑 ha 計 56.18ha		
管理施設	開水路 17.2 km ため池 ヲ所	農道	7.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 61人 農業団体 団体	非農業者個人	41人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち末戸松本みのり会は、緑豊かな水田地帯です。水田の両側を仁井田堰と岩見川が流れております。100戸の住民で構成されております、昔からの住民が約70戸高齢化の集落です。30戸は新しい団地の住民です。老若男女、農家非農家との交流は堰の清掃、土手の草刈り、クリーンアップ、花壇作りなどの共同作業です。

当地区には子供が約30人おります、年2回の勉強会、水質検査、水辺の生物調査は夏休みに行ないますので大変喜んでくれます、

少しでも私たちの活動を理解してくれて、環境保全を守ってもらいたいです。

5年間の成果は概ね達成できたと思います。

少しは環境保全は農業者が行なうという考え方が変わってくれたように感じます。自然を守ることの必要性を改めて理解して頂けたと感じております。



8月の水辺の生物調査の一コマ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	小山みどり会	代表	佐賀 政芳
協定面積	田 111.7ha 畑 ha 計 111.7ha	対象面積	田 76.3ha 畑 ha 計 76.3ha		
管理施設	開水路 18.9 km ため池 3ヶ所	農道	10.0 km	パイプライン	1.0 km
構成員	農業者 87人 農業団体 1団体	非農業者個人	9人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの集落では、地域の環境は、地域で守ろうと従来より、各戸より出役し、側溝の泥上げ、道路の缶、ゴミ拾いをボランティアで実施しておりました。このことを一歩進め、地域に居住する全員がそれぞれの分野で、農村の環境保全に参加できる体制を組みました。 子供会は、町内を流れる農業用水の水質が、場所、時期でどう変化するか定点観測をして、水への関心を抱かせました。また、学校教育と連携して小学校での、田植え、稲刈りの体験学習を行い、米に対する知識、農業用水がはたす環境保全の役割を少しは理解して貰えたのではないかと思います。 老人クラブでの農道に接する集会所の敷地への、花苗の植栽を行い、地域住民を和ませる事業を、また、小学校に出向き、昔の遊び、縄跳びを伝授しました。 農業用水として使用している、ため池の整備を兼ね生息する魚類の調査、外来魚の駆除。間伐材を利用したU字溝の破損防止装置の設置。町内にある湧水地に生息する、山椒魚の管理、周囲に自生する水芭蕉の環境保護。 5年間の活動でありましたが、地域住民の絆を強くし、農業への理解を深め、自然を守ることの必要性を改めて理解して頂けるための、有効な事業であったと思います。					
				 5月にグラウンドのとなりに田植えた、豊岩小の"銀河米"が収穫の時期を迎えた。11月に炊き込みご飯にして、ご馳走になりました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	左手子「郷の会」	代表	佐々木 隆
協定面積	田98.8ha、 畑 ha、 計98.8ha	対象面積	田51.0ha、 畑 ha、 計51.0ha		
管理施設	開水路 7.5 km、 ため池 2ヶ所	農道	8.4 km、	パイプライン	4.7 km
構成員	農業者 25人、 農業団体 団体	非農業者個人	82人、	非農業団体	7団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 郷の会では、これまで地域の農地保全のために様々な活動をしてきました。そして、その活動の度に思うのは、自分達の地域を守っていききたい。後世に、この自然環境をしっかりと残していきたいという会員の熱意です。当地域では基盤整備事業により担い手への農地集積も順調に進んでおりますが基盤整備区域外の農地利用が大きな課題でもありました。そういった状況の中で、ヒントを与えてくれたのが、都市部の親子を対象としたワンパク王国という農業体験に参加している子供達の姿です。 田舎に住んでいる私達にはさほど珍しいと感じないものに子供達の視線は釘付けになります。ザリガニ・魚・カブト虫・植物・・・ 子供達がこの田舎に毎年訪れてくれる理由が、自然は絶えず変化し、常に意外性がありイレギュラーに富んでいるからだという事に気付かされたのです。人工的に創られた環境にはこういう変化はありません。そういった事を考えていくと、この左手子の農地というのは都市部から訪れる親子達にとっては自然のテーマパークみたいなものなのかもしれません。この環境をうまく生かせば、他地域に先駆けて全く新しい形の農村環境を実現する事も可能となります。農地の保全に農家以外の会員や地域外からの参加者を巻き込むことによって、より幅広い活動が出来るようになります。5年間の活動を通し農地の有効利用について新たな可能性を見出すことができたように思います。					
				 絶滅危惧種スナヤツメの生息する左手子。地域に住む生物達にとっても優しい環境を目指し農地保全を実践しています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	新波水土里の会	代表	斉藤 悦郎
協定面積	田 78.7ha 畑 ha 計 78.7ha	対象面積	田 68.1ha 畑 ha 計68.1ha		
管理施設	開水路 4.55 km ため池 2ヶ所	農道	3.37 km	パイプライン	15.6 km
構成員	農業者 83人 農業団体 1団体	非農業者	220人 非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入) 新波水土里の会地域念願の大型圃場整備事業が完成し農地は元より農村環境を維持し、子孫に受け継いでいくことを目標に活動してきました発足当初は構成員半数以上を占める非農家の協力を得られるかが心配でしたが農業の多面的機能や自分たちが自らの気運で積極的に活動に参加してもらいました、春1番には農地周辺の町内一斉清掃、水路沿い花壇用花苗作りから始まり、床づくり植栽まで多くの参加者でお祭りのような賑わいで作業ができました、生ゴミの減量資源化に取り組み構成員の半数近くがコンポストを活用し使用するボカシは自ら作成し頑張っています、特にこの活動の大きな目的でありました、農業用排水汚染問題は子供達の協力により5年間実施しました、生態調査として蛍狩りの実施、子供達も父兄と一緒に地域の資源や生態に関心をもつ機会になったと思います、農村の農家離れ混住化が進む中、先人達が受け継いだ緑あふれる豊かな水田風景すばらしい環境を受け継ぎ、引継ぎの為に共同活用を推進していきたいと思っております。

写真は8月23日花摘み暑くなる前の早朝作業状況です



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	向野あぜなみの会	代表	浅野 和善
協定面積	田 58.18ha 畑 ha 計 58.18ha	対象面積	田 48.19ha 畑 ha 計 48.19ha		
管理施設	開水路 8.9 km ため池 4ヶ所	農道	5.5 km	パイプライン	6.8 km
構成員	農業者 49人 農業団体 2団体	非農業者個人	114人 非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、流れ豊かな雄物川水系に位置し、他にも水量に満ちた4ヶ所の溜池があり、古来から水田耕作に適した環境にありますが、近年の農業情勢の変化に伴って農家の減少、高齢化、さらに農地の流動化など、農用地や環境保全、農業施設の維持管理を行うには個人の力でなし得ない課題が山積であります。

私たちはこの会の活動を展開するにあたり、子どもから老人会まで構成員一体となってできるものを計画し実施しました。2年間に亘る夏場の猛暑。溜池に突然大発生したオオマリコケムシ(外来種)。昔はきれいに澄んだ水だった溜池が、近年は水草も消え、マブナ、タナゴ等が減り、ブラックバスやウシガエルが増えて生態系にも異常をきたしていたのでこれに取り組みました。

また親子会が主体となった道路花壇も明るい環境づくりに貢献し、老人会が草刈、花摘み、水やりをするなど子どもたちにも貴重な体験で、心の中にも花が咲くような活動だったと思います。

他にも農業者、非農業者問わず、農道・溜池の草刈、用水路の泥上げ、自治会との道路草刈、側溝掃除、溜池の水質検査、ゴミの不法投棄監視巡回などに取り組みました。

5年間の活動を通して農地や水、環境保全の重要性が改めて認識され地域一体となって取り組む必要性も理解できたと思われます。今後もこれを踏み台として頑張っていきたいと思ひます。



（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	秋田市	組織名	繋みどり会	代表	工藤 重一
協定面積	田 57.5ha 畑 ha 計 57.5ha	対象面積	田 43.2ha 畑 ha 計 43.2ha		
管理施設	開水路 15.3 km ため池 5ヶ所	農道 6.1 km	パイプライン 1.0 km		
構成員	農業者 38人 農業団体 2団体	非農業者個人 6人	非農業団体 5団体		

（5年間の活動内容や感想等）

当地区はこれまで、農家戸数の減少、農業者の高齢化に伴い農地やその施設などの保全管理が脆（ぜい）弱化な状況にあり、以前から水路泥上げなど、昔からの普請を行っているものの全体までに至ってなかった。

このため、自治会内の各団体と連帯し、非農家を含めた地域ぐるみの共同活動により一層の保全管理に努める必要があった。

さいわい、本制度ができ、共同活動の計画に当たっては、農事組合を中心に自治会、各種団体等農家、非農家が幅広く参画し、それぞれの意見を尊重しつつ効果的な活動となるように計画策定のうえ作業を実施、1年目は役員はじめ参加者の戸惑いもありましたが、改良区の指導もあり、水路、農道等の維持管理は、農事組合が主体となり、環境保全は自治会や各種団体が協力、共同活動の定着、保全管理を目指して参りました。

現に、ため池、水路、揚水場に計4人の管理者を当て、配水操作・見回り等、また、地域利用として非灌がい期の通水に努めている。

水質保全については、検査を基に、婦人会・農協婦人部が広報により、自ら台所廃水の浄化に心がけてる。景観形成としての花の植栽、施設等の点検清掃は自治会を中心に定着している。

この制度のおかげで、これまでにない補修、改修等、施設の維持管理、保全が出来て、ありがたいと思っております。また、共同活動の一端から稲作防除は、何人かがグループで、ヘリコプター防除により労働時間の短縮等その効果をあげ、徐々に広まりつつある。



水路泥上げ・整備



農道砂利補充

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	神ヶ村水の会	代表	福原 一博
協定面積	田 80.1ha 畑 ha 計 80.1ha	対象面積	田 59.8ha 畑 ha 計 59.8ha		
管理施設	開水路 18.0 km ため池 3ヶ所	農道 18.0 km	パイプライン 1.0 km		
構成員	農業者 28人 農業団体 1団体	非農業者 46人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 神ヶ村水の会を地域は、秋田市の最南端に位置する稲作を中心とする農村地域です。地域の基盤整備事業は、昭和50年代前半に終了し、水路等の構造物も手入れが必要とされる時期になってきています。先人が守ってきたこの地域の環境を維持し後世に受け継いでいくことを目標に会を発足させ活動してきました。発足当初は、非農家、及び各種団体の協力が、得られるか不安でしたが、皆が、地域の発展のためと、積極的に活動に参加してくださいました。 地域の基幹産業である稲作に必要な農道、水路等の整備、環境保全のための地域内の一斉清掃、水路脇への花の植栽、生ごみ減量化及び資源化のためのコンポストの設置など、この事業を通じて地域の水田風景を維持し、後世に残していく良い機会となりました。 写真は、6月19日の花の植栽です。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	秋田市	組織名	碓田緑水会	代表	齊藤 均
協定面積	田 45.8ha 畑 ha 計 45.8ha	対象面積	田 34.7ha 畑 ha 計 34.7ha		
管理施設	開水路 14.1 km ため池 3ヶ所	農道 7.5 km	パイプライン km		
構成員	農業者 53人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち碓田緑水会の活動する地域は、小さな山に囲まれています。その中を一級河川新波川が蛇行して流れています。その様な地形上耕地面積は少なく、農作物の効適地も多く有りません。 山裾に農地、農道、水路が多く在りちょっとした降雨で土砂災害が発生します。また河川の氾濫が毎年の様に農地、農産物に大きな被害を与えています。 30年以上前に圃場整備事業が完成しましたが、農道、水路等の農業施設の老朽化が目立ってきました。当地区も高齢化が進み若い後継者も少ない現状です。かつてのように共同作業も殆んど見えなくなりました。 この様な事などから、本事業を地域一体で取り組むこととしました。 春先の泥上げ、カメムシ対策の草刈りは7月に2回行いました。秋口の農道の碎石補充、また水田の暗渠パイプ清掃を寒い中でしたが全面積完了できました。平成22年8月14日の豪雨被害、平成23年6月24日の豪雨被害に対して素早く対応することができました。 本事業に取り組んだことが、当地域の大きな財産となりました。また今後の農業施設の保全、農業の経営、集落の在り方について皆んなが、深く考えさせられました。					
					
				水田の暗渠パイプ清掃作業中です。協定農用地45,8haを19,20,21年度の3年間で全面積完了しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	男鹿市	住 所	男鹿市船川港船川字泉台 6 6 番地 1 電 話 0185-24-9138		
担当部署	産業建設部 農林水産課 農漁村整備班	担当者	技師 大淵和人		
(5年間の感想等記入)					
男鹿市では「箱井清流会」、「中石クリーン会」、「真山里山継承会」の3つの活動組織と共に農地・水環境保全向上対策支援事業に取り組んできました。全てが手探りな状況でありましたが、協議会及び活動組織の方々の協力により5年間活動することができました。 各活動組織とともに農道の草刈りやクリーンアップ、水路の補修等の様々な活動に多くの人が参加されており、特に高齢者の方々も積極的に参加されていたようで地域の活性化に少しでも貢献できたと思います。しかし、各地区ともに少子高齢化が進んでおり更なる対策をとり地域を盛り上げていく必要があります。 今年度でこの事業は終わりますが平成24年度から始まる農地・水保全管理支払交付金では継続する地域以外にも多くの地域が参加する予定であります。男鹿市では今までの経験を生かし地域の活性化に協力していきたいと思います。					

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

男鹿市	耕地面積	田	4,050	ha	畑	772	ha	合計	4,820	ha
平成19年度	協定面積	田	117.95	ha	畑		ha	合計	117.95	ha
平成20年度	協定面積	田	117.95	ha	畑		ha	合計	117.95	ha
平成21年度	協定面積	田	117.95	ha	畑		ha	合計	117.95	ha
平成22年度	協定面積	田	117.95	ha	畑		ha	合計	117.95	ha
平成23年度	協定面積	田	117.95	ha	畑		ha	合計	117.95	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	117.95	ha	5,189,800円					
平成20年度	対象面積	計	117.95	ha	5,189,800円					
平成21年度	対象面積	計	117.95	ha	4,963,200円					
平成22年度	対象面積	計	117.95	ha	5,189,800円					
平成23年度	対象面積	計	117.95	ha	5,085,938円					
合計					25,618,538円					
活動組織名称		男鹿市				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0231	箱井清流会									
0232	中石クリーン会									
0233	真山里山継承会									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	男鹿市	組織名	中石クリーン会	代表	渡部 昭一
協定面積	田 54.23ha 畑 ha 計 54.23ha	対象面積	田 54.23ha 畑 ha 計 54.23ha		
管理施設	開水路 17.9 km ため池 6ヶ所	農道	9.3 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 59人	農業団体	1団体	非農業者個人	人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち中石クリーン会は、豊かな自然環境を活用し、中石地区にある農地・農業用水・生活用水等の資源や、農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目的として活動してきました。全てが手さぐりの状態から始まりましたが、参加者の協力により5年間活動することができました。

各種団体を活動の中心におき、農道の草刈・補修、水路の泥上げ清掃、道路のゴミ拾い、花の植栽、生ゴミの堆肥化、使用済み食用油を回収しての石鹸作り、小学生による空き缶ゴミ拾い・水生生物観察等いろいろ活動してきました。特に高齢者の方々には積極的に参加してもらいました。

当地区は、水稻・梨栽培を中心とした専業農家が多く、比較的まとまりの良い地域です。そのためこの事業には関心も高く、多くの人に参加してくれました。しかし、少子高齢化も進んでおり、各世代間での繋がり・連携も更に必要になってきています。

これからは、この事業の経験を生かして、地域を盛り上げて行けるよう、みんなで力を合わせて努力して行きたいと思います。



花壇作りをしています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	男鹿市	組織名	箱井清流会	代表	杉本 信雄
協定面積	田 45.3ha 畑 ha 計 45.3ha	対象面積	田 45.3ha 畑 ha 計 45.3ha		
管理施設	開水路 14.9 km ため池 5ヶ所	農道	5.3 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 36人	農業団体	団体	非農業者個人	88人 非農業団体 団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

箱井清流会では、五里合盆地箱井地区の豊かな環境と水田風景を守り、未来に受けついでいくことを目標として、平成19年度から箱井集落全体でこの事業に取り組みました。

事業活動としては、箱井集落春のクリーンアップを始めとして、農道及び用水路の補修管理や農道草刈り、用水路の泥上げ等をするとともに、地域の環境を保全するために、農道の清掃と雑草繁茂地には花の植栽をしました。また、生ゴミの堆肥作りや溜池の外来魚駆除・用水路の生物調査等をそれぞれの構成員が分担して行ないました。

私たちの地域では、人口の減少と高齢化が進み、地域のまとまりが薄れていましたが、この活動により地域の融和が図られました。

また、農道草刈り・農道補修・開水路の泥上げ等を地域住民のみんなで行うことにより、地域の農業従事者からは非常に感謝されております。

これからも集落内の融和を図りながら、環境と田園風景を守りながら地域を活性化させたいと思います。



共同草刈り作業風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	男鹿市	組織名	真山里山継承会	代表	靱山 光正
協定面積	田 18.3ha 畑 ha 計 18.3ha	対象面積	田 18.3ha 畑 ha 計 18.3ha		
管理施設	開水路 7.3 km ため池 6ヶ所	農道 3.2 km	ハ イ°ライ° km		
構成員	農業者 14人	農業団体 1団体	非農業者個人 3人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち「真山里山継承会」は、自然生態系に配慮した環境保全型里山農業を創設することを目的に、当該真山郷集落がそのモデル地区となることを目指し、農耕地、自然水系及び人工水系、周辺の里山林などを対象にした様々な共同活動を行ってきました。

最大の労力を注いだのが、老朽化の著しかった開水路の補修事業です。本地区では、6ヶ所の溜め池を水源とする全長7.3kmの開水路のうち約1/2長が素堀りのままであったため、溝側壁の崩落のみならず、もともと流量に恵まれない貴重な用水の漏出を余儀なくされてきました。また、大きく迂回路となっていたため、用水のスムーズな流下が阻害されている箇所もありました。

そこで、本事業では総予算の約30%をつぎ込み、U字溝による全面改修および捷水路(ショートカット)の新設をおこないました(写真)。この5年間では、改修目標の6割程を達成することができました。しかし、高低差のある箇所の平坦化やヒューム管の交換などの工事が今後の課題として残されています。

この補修作業には、集落内の農業者全員が全工期にわたって参加しました。のみならず、土木工事の技術に長けた集落内外の非農業者の協力を得ることもできました。その結果、期待以上の成果を上げることができました。

水路の管理については、従来通り、春の泥上げ作業、夏の草刈り作業、“堰守り”当番制による見回り(延べ182日/年)をおこなっています。水路管理業務は、このほか、渇水時における水門の開閉、大雨時における障害物の除去・オーバーフロー防止、“山ズレ”(斜面崩壊)箇所の目視調査・応急処置など多岐に亘ります。しかし、集落農業者の高齢化により、近い将来、従事者の確保が困難になることが避けられません。そのため、域外からの農作業体験参加者等を取り込んだ新たな管理のあり方を模索しています。

上記事業のほか、次のような環境保全活動をおこないました。

(1) 水路沿いの景観整備

開水路の1/3近くが、観光客が訪れる主幹道路に並行しています。このため、水田と道路との間(畔)の雑草を裸地状に刈り込んだだけではただ殺風景な印象を与えてしまうこと、この空間を未利用のまま放置していたのではもったいないこと…などに気がつき、有効利用できる途はないかと考え、美観のみならず有用性も高い景観植物の植栽実験をおこなっています。今回は、食用油・つぼみ菜などとして利用できる菜の花の放任栽培や古代米のプランター栽培を試みました。

(2) 休耕田の多面的活用

減反政策により生じた休耕田のうち転作(畑作)に不向きなものの一部を“田んぼアート”(有色米を使ってデザインした田んぼの芸術)に利用しました。今年度は、大震災の後ということもあって、「アグリジオパーク」と称する、防災を意図した「男鹿半島の断層活動」をイメージしたものを公開しました(写真)。

(3) ホタルの繁殖事業

年々、ホタルの生息地が狭まっています。繁殖に最適の場所を新たに探すべく、近隣で採集した成虫を条件の異なるさまざまな水辺に放つとともに、餌となるカワニナも放流する実験を行いました。その結果、繁殖適地となるための要因を明らかにできました。当然ながら、そのような場所においては群れ飛ぶ姿が見られるようになりました。多くの人々からとても喜ばれています。

(4) 水路沿いの支障木の活用

開水路沿いには毎年、風倒木が多く見られます。これらを伐採し、用水の水質改善(濾過)を目的とした木炭づくりを試みています。そのための炭焼き窯が共同作業によって完成しました。



この辺りでは、以前は水路が溜め池の上手を大きく迂回していたためにスムーズな流下が妨げられていました。今回、U字溝と単管を使った捷水路を新設しました。その結果、流量が画期的に改善されました。



休耕田の有効活用の一環として、今年度は3色の古代米を使った“田んぼアート”に挑戦しました。農業への関心を覚醒すべく、かつ防災意識を高めるべく、男鹿半島の断層活動を再現した絵柄にしました。

（農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式）

市町村名	潟上市	住 所	潟上市昭和大久保字堤の上1-3（昭和庁舎） 電 話 018-855-5120		
担当部署	産業建設部 産業課	担当者	谷 広秋		
（5年間の感想等記入）					
ほとんどの農業用施設の管理・保全については、農業者が自分に関わりのある箇所のみ実施していたが、活動が始まってからは自分たちの地域は、自分たちの力でと農業者に限らず、非農業者及び幅広い年齢層から活動に参加してもらい地域の中でもコミュニケーション等が取れさらに地域内環境の向上も図れ、充実した活動となったと考えます。 農業用施設のみではなく、それぞれの地域で特色のある活動（ホタルの生息環境の整備、ため池の外来種駆除、岩魚の放流等）等さまざまなことを実施し、地域の中でも新しい交流の場となったことと思います。 今後さらに5年間継続となる予定なので、継続地区についてはそれぞれの地域で更なる環境の向上を目指して頂きたいと期待しています。					

（農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ） H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

潟上市	耕地面積	田	3,230	ha	畑	228	ha	合計	3,460	ha
平成19年度	協定面積	田	280.08	ha	畑	0	ha	合計	280.08	ha
平成20年度	協定面積	田	280.08	ha	畑	0	ha	合計	280.08	ha
平成21年度	協定面積	田	280.08	ha	畑	0	ha	合計	280.08	ha
平成22年度	協定面積	田	280.08	ha	畑	0	ha	合計	280.08	ha
平成23年度	協定面積	田	280.08	ha	畑	0	ha	合計	280.08	ha
〔支援交付金実績〕					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	280.08	ha	12,323,520円					
平成20年度	対象面積	計	280.08	ha	12,323,520円					
平成21年度	対象面積	計	280.08	ha	12,323,520円					
平成22年度	対象面積	計	280.08	ha	12,289,550円					
平成23年度	対象面積	計	280.08	ha	12,288,728円					
合計					61,548,838円					
活動組織名称		潟上市				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0234	上虻川ホタルの郷									
0235	下虻川豊友会									
0236	和田妹川わか杉会									
0237	飯塚のぞみ会									

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	瀧上市	組織名	上虻川ホタルの郷	代表	佐々木 嘉一
協定面積	田 79.64ha 畑 ha 計 79.64ha	対象面積	田 79.64ha 畑 ha 計 79.64 ha		
管理施設	開水路 36.5 km ため池 ヶ所 農道 12.7 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 80人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 18団体		
（5年間の活動内容や感想等記入） 私たち組織の活動目的は、生まれ育った上虻川地域の自然環境を次世代へ地域資源として残そうと保全活動を行っております。地域は4集落で構成されており典型的な少子高齢化地域でもあります。主な活動は農家・非農家の区分なく町内自治会を中心に各種団体の協力を得ながら草刈り・水路補修・農道補修・道路沿いの清掃・花壇の植栽・ホタル観察会・地域用水の確保等を実施しております。保全活動を地域の共同作業で行うことの成果は「絆」となって地域住民も認めており、「農地・水・環境保全向上対策」の事業成果となっております。 また、地域の学舎である豊川小学校5～6年生を対象にした環境学習会（岩魚の放流）や県立大学の教授・学生と共同の講演会・ホタル観察会を実施し、地域内外から多数の参加者が来ました。今後は更に活動内容の充実を図りたいと考えております。 5年間の活動によって、地域住民の自然環境に関する意識は向上しており、今後も共同作業の参加者を確保し保全活動を実施したいと思います。					
				 豊川小学校5～6年生の生徒みんな で、豊川に岩魚を放流しました。	

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動記録）

市町村名	瀧上市	組織名	下虻川豊友会	代表	伊藤 義弘
協定面積	田 63.5ha 畑 ha 計 63.5ha	対象面積	田 63.5ha 畑 ha 計 63.5ha		
管理施設	開水路 21.3 km ため池 2ヶ所 農道 7.1 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 98人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 2団体		
（5年間の活動内容や感想等記入） 私達の組織は、近年農家戸数の減少、農業従事者の高齢化に伴い、農業用施設の維持管理が脆弱化してきていることから、農業者と各自治会が連携し非農家を含めた地域ぐるみの共同活動で農業用施設の保全向上に努めてきました。 平成19年度からこの事業に取組み、草刈り・泥上げ・農道補修など農業者と自治会と老人クラブとが一体となって実施したことにより、数多くの参加者を得ると共に地域全体のコミュニケーションが図られました。 環境保全活動は、春と秋年2回クリーンアップを実施しかつ要所にゴミ捨て禁止看板を設置したことにより、年々ゴミの量が減少しました。農業用水の水質調査は年3回豊川とため池の2箇所を行い水質レベルを把握しました。ため池の外来種駆除は、自治会育成部も参加し子供たちが自然とのふれあいを体験しました。又、花の植栽と手入れは自治会と老人クラブが共同で行い、美しい農業施設の景観を形成し、道行く人の目を楽しませております。 この5年間の活動は、農業施設の管理保全に大いに役立ち、そして共同作業が交流の場となり新たな地域の「絆」が出来たと感じております。					
				 農業者と自治会の共同作業による 崩落した農道の補修作業	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	潟上市	組織名	和田妹川わか杉会	代表	菊地 豊勝
協定面積	田 57.94ha 畑 ha 計 57.9ha	対象面積	田 57.9ha 畑 ha 計 57.9ha		
管理施設	開水路 17.8 km ため池 6ヶ所	農道	6.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 77人	農業団体	1団体	非農業者個人	人 非農業団体 7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

童謡「ふるさと」の歌詞は私たちの小学生時代には、どこにもあった風景でした。この地区の進んでいく先には昔と今が共生できる地域社会づくり、これからも農業者、非農業者の別なく相互に理解しみんなが笑顔あふれる和田妹川。共同活動を行ったことにより、その意識がさらに強化されてきているほか、子どもからお年寄りまでの積極的な参加が地域の人達にとっては、共同活動が交流の場になっていることが嬉しい。

夏の夜の原風景「ほたる」、生息域の整備を行いながら成虫の放虫や餌となる巻貝(カワニナ)を放したり、春一番には「菜の花」で地域を着飾ることができました。

農用地等については、農道への砂利敷き、用水路・排水路の泥上げや草刈り。ため池の堰堤に危険防止柵の設置、数十年、手つかずとなっていた給水塔、ゲート類の塗装や補修、整備と今まで気にもしなかったことに気を遣い、一人ひとりが地域産業の柱、農業に目が向くようになりこのような地域の人達に後押しされ、農地・水・環境保全向上対策の一期目を終えることができました。



農道砂利敷き前の打ち合わせ風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	瀧上市	組織名	飯塚のぞみ会	代表	田仲 東
協定面積	田 78.8ha 畑 ha 計 78.8ha	対象面積	田 78.8ha 畑 ha 計 78.8ha		
管理施設	開水路 21.2 km	ため池 7ヶ所	農道 10.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 71人	農業団体 2団体	非農業者個人 281人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

取り組みのポイント

飯塚のぞみ会

	H19	H20	H21	H22	H23
基本プラン					
放置農業施設の解消					
危険箇所の解消					
将来活動に向けて					

- H19は、いかに地域の協力を得ながら活動を進めるかに手探り状態で進めた。
- H21は前年度の経験を生かしていくことと、地域で行政・土地改良区からも放置され、手つかずの施設を洗い出し解消を図ることを目標にすることにした。

- H22から農業者や地域の人々が、作業や通行等で危険を及ぼし恐れのある箇所の解消を計画し重点項目に入れ取り組んできた。
- H23からは役員の意識も、会の活動が終わっても続けたいとの思いがあり、継続するために将来展望(体制整備(案))により実現できる体制作りを考えて実行してきた。
- * 役員会だけでなく地域代表を含めた進捗会議を立ち上げ定期的に地域の重点テーマを提案し議論を深め5年間やってきました。



地域への貢献(浸透)は

農家・非農家・各種団体等との連携したとりくみを行ってきており、のぞみ会の日常活動は一定の評価はされて頂いてると理解しています。

地域では困っていることがあれば、のぞみ会に相談してみたらと言う声が聞こえ、また花壇の草取りやゴミ拾いを自主的にやってくれる人が見えます、意識の向上が現れてきています。

特に地域内農道周辺のごみのポイ捨ての減少は謙虚で、これも活動の成果の表れと思います。地域の困っていることに耳を傾け、積極的に取り組んでいくことが、地域から認知して頂き、協力体制が拡大し地域全体の活性化に繋がっていくものと確信しております。

反省点は

地域の活動としては一定の評価されたと思いますが、一部地域の活動への取り組みの不足が見られ、また幅広い年齢層から活動参加を促し工夫をしていく必要があります。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	五城目町	住 所	五城目町西磯ノ目一丁目1-1	電 話	852-5215
担当部署	五城目町 農林振興課	担当者	伊 藤 富 明		

(5年間の感想等記入)

地域の共同活動により、水路の草刈り、泥上げ、農道の砂利敷きなどの維持管理が行われ農業者のみならず農業者以外の方々も積極的に参加することが出来た事業として一定の成果があった。

水質検査においては、地元の子ども達が、身近な用水路などの水質環境の状態について、勉強することができ、今後の環境のあり方について貴重な活動経験になった。

また、町内会、老人クラブ並びに子供育成会による「花の植栽事業」を行うことにより、地域の環境保全に多いに役立った。

以上のことから、各地域集落内の団結力が生まれ、限りある資源保全に向けて今後、なお一層の取り組みが期待出来るものになったと感じた。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

五城目町	耕地面積	田	1,780	ha	畑	110	ha	合計	1,890	ha
平成19年度	協定面積	田	646.84	ha	畑	0.00	ha	合計	646.84	ha
平成20年度	協定面積	田	646.84	ha	畑	0.00	ha	合計	646.84	ha
平成21年度	協定面積	田	646.84	ha	畑	0.00	ha	合計	646.84	ha
平成22年度	協定面積	田	646.84	ha	畑	0.00	ha	合計	646.84	ha
平成23年度	協定面積	田	646.84	ha	畑	0.00	ha	合計	646.84	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	521.69	ha	22,954,360円					
平成20年度	対象面積	計	521.69	ha	22,954,360円					
平成21年度	対象面積	計	521.69	ha	22,954,360円					
平成22年度	対象面積	計	521.69	ha	22,954,360円					
平成23年度	対象面積	計	521.69	ha	22,234,447円					
					合計	114,051,887円				
活動組織名称		五城目町				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0238	谷地中緑友会				0246	山内山ゆり会				
0239	遺跡の郷 石崎グリーンサークル				0247	八田長面清水の会				
0240	クリーン大川会				0248	高千美野里会				
0241	下樋口みらい共生会				0249	台・御蔵下森っこ会				
0242	帝釈寺けやき会				0250	野田和郷の会				
0243	中村いずみ会				0251	浦横町おいかわ会				
0244	合地源流の会				0252	町村緑水会				
0245	湯ノ又みどり会									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	谷地中緑友会	代表	佐藤 文弥
協定面積	田 74.16ha 畑 ha 計 74.16ha	対象面積	田 74.16ha 畑 ha 計 74.16ha		
管理施設	開水路 19.1 km ため池 ヶ所	農道	9.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 25人 農業団体 1団体	非農業者個人	21人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の谷地中集落では、兼業農家割合が8割の水田単作中心の集落です。就農者の減少・高齢化・農業施設（水路・農道等）の老朽化、他の地域でも同じような課題を抱えている事とします。今後、集落の存続・営農活動の継続について何らかの手立てはないものかと、考えていた時「農地・水・環境保全向上対策事業」が始まることになり、「谷地中緑友会」として共同活動を進めてきました。子ども会とともに行った生物調査や水質モニタリング調査の中で、受け継ぐべき環境を再認識することが出来ました。

また、草刈りや泥上げ作業により農家非農家がお互いを尊重できる意識改革に繋がったと感じております。この共同活動を通して集落の皆が同じ目標意識を持ち、今後の活動に向かっての一步を踏み出せたと思います。

初夏に行われた花の植栽で、マリーゴールドの苗を約1kmの農道脇に移植しました。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	遺跡の郷 石崎グリーンサークル	代表	加藤 信雄
協定面積	田 24.2ha 畑 ha 計 24.2ha	対象面積	田 22.8ha 畑 ha 計 22.8ha		
管理施設	開水路 6.0 km ため池 ヶ所	農道	2.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 12人 農業団体 1団体	非農業者個人	53人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達「遺跡の郷 石崎グリーンサークル」は、この農地・水・環境保全向上対策事業を通じて集落全員参加型の活動を行い、昔ながらの集落の「結い」を第一に考えました。その活動内容は農道側溝等の清掃、花の植栽、生物の生息状況の把握、水質モニタリング、ローソク作り、案山子作り、自然環境にやさしい食用油の廃油を利用した「石けん作り」、生ゴミを堆肥化する為の「EM菌ぼかし作り」を行った。

以上のような活動を実施出来たという証は、まさに「結い」という言葉があてはまり、今後も次の世代まで永遠に継承できるように集落全員で努力し、「田舎の原風景」を守り続けていきたいと思っています。

案山子で東日本大震災の復興祈願。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	クリーン大川会	代表	八柳 善之丞
協定面積	田 96.1ha 畑 ha 計 96.1ha	対象面積	田 56.0ha 畑 ha 計 56.0ha		
管理施設	開水路 13.8 km ため池 ヲ所	農道	7.1 km	パンプライン	km
構成員	農業者 90人 農業団体 1団体	非農業者個人	230人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達、クリーン大川会は五城目町の西方に位置する大川集落の水田地帯にて活動しております。近年、環境の悪化などにより天然資源が脅かされてきており、子ども達に豊かな資源を引き継ぐ事が困難と予想しておりました。その中でこの事業を進めていく事で地域住民の理解や協力が得られ、当集落の一大事業となりました。春のゴミ拾いや水路の清掃から始まり、老人及び子どもなどが参画する、花の植栽活動（景観形成）、水質モニタリング及び生き物調査により見て触れて感じることで親と子の触れ合いが深まる事業など貴重な体験を得ることが出来ました。

この事業によって農業者以外の方々も多数参加して本来あるべき集落の姿を取り戻しつつあると感じました。またゴミ拾い作業を行った事により、農道に散乱するゴミも少なくなったようにも感じています。

今後も、本事業で得た共同活動精神をもとに今まで以上により良い集落になるよう努力して頑張っていきたいと思います。



水質のモニタリング風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	下樋口みらい共生会	代表	工藤 卓美
協定面積	田 48.01ha 畑 ha 計 48.01ha	対象面積	田 35.83ha 畑 ha 計 35.83ha		
管理施設	開水路 5.6 km ため池 ヲ所	農道	4.5 km	パンプライン	km
構成員	農業者 19人 農業団体 2団体	非農業者個人	10人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の「下樋口みらい共生会」は、緑豊かな水田風景と集落の環境保全を図ることを目的に、平成19年度から町内会、老人クラブ、子ども会、非農家等のグループ（団体）が一体となって活動してきました。活動内容は、農道・水路の除草や農道の整備、菜の花の播種を行うことが出来ました。また子ども会による水質検査・生き物調査においては、まだまだ沢山の生物がいることを自分たちで実際に見て感じる事が出来たようです。さらには、老人クラブ及び非農家等のグループによる農道周辺への花の植付け、水やり、除草作業などを通してグループ間の繋がりがより一層強くなりました。今後は、子ども達に美しい故郷、緑豊かな田園風景を残すため、自分たちに来る事は地域のみinnで協力し合って続けて行きたいと思います。

緑豊かな田園風景を残すため農道の除草作業中



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	帝釈寺けやき会	代表	宮川 東典
協定面積	田 43.9ha 畑 ha 計 43.9ha	対象面積	田 43.9ha 畑 ha 計 43.9ha		
管理施設	開水路 13.9 km ため池 ヶ所	農道	6.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 31人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

本集落は、五城目町東方馬場目川中流部に位置する帝釈寺地区一円の水田地域であり、真崎堰の分水基点である。帝釈寺町内では、担い手への農地集積が進む一方で、農家戸数の減少、農業従事者の高齢化も伴い、農業施設や農地などの管理保全が脆弱化してきている。この活動には、町内会、土地改良区、老人クラブ、消防団等が参画し、それぞれの立場や意見を尊重しつつ効果的、効率的な活動計画を策定した。維持保全活動は、これまでの活動を基本に質的向上を図り、農地・水・環境保全向上活動では、機能診断計画策定・啓発・普及を実施した。また、農村環境向上活動では、農道脇への花だん植栽、集落周辺の農地、水路、農道の定期的な清掃活動を実施した。今後も自分たちで出来る限り維持管理していきたいと思っております。



老人クラブによる花壇の除草作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	中村いずみ会	代表	石井 久左衛門
協定面積	田 31.1ha 畑 ha 計 31.1ha	対象面積	田 31.1ha 畑 ha 計 31.1ha		
管理施設	開水路 9.2 km ため池 1 ヶ所	農道	3.2 km	パイプライン	0.6 km
構成員	農業者 42人 農業団体 2団体	非農業者個人	99人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の地域は、中山間地に位置する純農村地域にある。集落は過疎化とともに農業者の高齢化により、集落や農業の維持管理にほころびが見え隠れする状況にありました。こうした中で立ち上げた「中村いずみ会」の目的は、豊かな自然の中で持続的な農村環境と景観形成の向上にありました。実施した事業は、農道・農用地の草刈り活動を中心にしながら、春夏秋の一斉清掃及び農道沿えの花苗植栽、未利用地へのケヤキ・ブナ植栽などがあり、各事業毎の参加率も良く、生まれ故郷を愛する皆様方の熱い心が本活動を支えてくださったものと感じております。



7月中旬に実施している農道沿えのコスモス苗植栽、毎年200本を植え付けしております。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	合地源流の会	代表	近野 一彦
協定面積	田 13.3ha 畑 ha 計 13.3ha	対象面積	田 13.3ha 畑 ha 計 13.3ha		
管理施設	開水路 7.9 km ため池 ヶ所	農道	5.0 km	パンプライン	km
構成員	農業者 4人 農業団体 1団体	非農業者個人	10人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達は、農家戸数の減少、農業従事者の高齢化、後継者不足のため農業用施設や農地の管理保全が脆弱化していたため、町内の各団体と連携し、非農家を含めた地域ぐるみの活動を行ってきました。この活動当初は、草刈りや花の植栽等毎週のように活動があり、負担に感じることもありましたが、しだいに地域のイベントとして受け入れられ、自分たちの地域は自分たちできれいにしていこうという機運が生まれました。

私達の集落は、大変小さく活動を維持していくことは容易ではありませんが、施設を自分たちの力で長持ちさせていけるよう今後も地域一丸となって頑張っていきたいと思っております。

5年間で農道約5.0kmの補修を行うことが出来ました。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	湯ノ又みどり会	代表	畑澤 勝男
協定面積	田 59.0ha 畑 ha 計 59.0ha	対象面積	田 54.54ha 畑 ha 計 54.54ha		
管理施設	開水路 7.5 km ため池 ヶ所	農道	7.8 km	パンプライン	km
構成員	農業者 56人 農業団体 団体	非農業者個人	50人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

本地区は、五城目町の北東に位置する湯ノ又町内一円の中山間地域である。町内の中央を内川川金ヶ沢川が流れ、その水を利用して米づくりが行われている。また、町内を県道4号が内川川と平行に走っており、町内の入り口カーブは県道工事に残った空き地があり、平成19年度からこの事業を使って花壇を作ろうと言う声が高まった。

平成19年度 造成工事
平成20年度 マツバキを植栽
平成21年度 ラベンダーを植栽
平成22年度 ふじを植栽
平成23年度 ふじ棚下周辺に芝生植栽
花壇の前面に間伐材で土の流出防止のため柵を設置

今後は、この5年間で概ね整備完了したふれあい花壇を町内の憩いの場として活用していきたい。

看板・パンゴラ設置

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	山内山ゆり会	代表	畠山 政憲
協定面積	田 100.3ha 畑 ha 計 100.3ha	対象面積	田 57.2ha 畑 ha 計 57.2ha		
管理施設	開水路 32.1 km ため池 3ヶ所	農道	15.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 51人	農業団体	団体	非農業者個人	両町内会 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

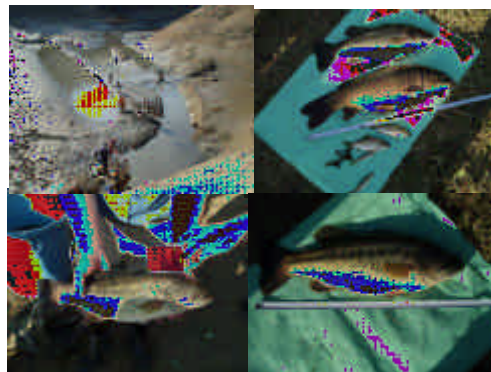
私たちの組織が活動する範囲は、2つの町内の農用地から成り、平成19年3月に10年の歳月を掛けた県営ほ場整備事業が完成し、水利を始め肥培管理も飛躍的に向上し、これを契機に農業法人が設立され営農に取り組んでおりますが、少子高齢化の進行は否めず施設の維持管理に一抹の不安が懸念されていたことに加え、昔からの地域コミュニティが薄れつつあった折、平成19年度からこの事業に取り組み、両町内の農業者以外の方々からも環境保全の観点から理解を得られ農業者と一緒に共同活動に汗してきました。

この事業を契機に、お互いの交流や営農情報の交換などコミュニケーションの活性化が図られております。

また、少ないながらも子供会を加えた清掃活動を通して環境保護の啓蒙にも? がっていると感じております。

今後は、参加者の高齢化は避けられないことから集落型農業法人が牽引役となり、地域で複合経営に協力しながら法人構成員を中心に、地域一丸となってほ場整備後の維持管理と環境保全や生態系保護について取り組み“自分たちでできることから始めよう!”を合言葉に地域を活性化できれば幸いと思います。

(構成員の声: 皆してやればエエゴドでざるな~)



平成21年のため池生態系調査
本来居ないはずのブラックバス発見! 誰が持ち込んだのか?・・幸い翌年からは発見されませんでした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	八田長面清水の会	代表	伊藤 良雄
協定面積	田 24.47ha 畑 ha 計 24.47ha	対象面積	田 24.47ha 畑 ha 計 24.47h		
管理施設	開水路 4.6 km ため池 2ヶ所	農道	2.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 19人	農業団体	団体	非農業者個人	89人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の集落は、将来こうありたいという思いを集落内で共有してもらおうと共に集落活性化活動や地域共同管理活動の中心となるリーダーを育成する必要性を訴えながら、話し合いを重ねひとりひとりの意見を集約し、事業に取り入れ、個々が関心をもって参加出来るようにしました。

この結果、農業者、非農業者、自治会、女性部が一体となって集落の環境保全に努め、より住みやすい地域になってきたことがわかりました。また、以前より空き缶のポイ捨て等の不法投棄が少なくなったという声が聞かれ、一定の効果があつたと感じております。

女性部によるぼかしづくり
作業風景



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	高千美野里会	代表	小玉 勝雄
協定面積	田 19.2ha 畑 ha 計 19.2ha	対象面積	田 19.2ha 畑 ha 計 19.2ha		
管理施設	開水路 4.5 km ため池 ヲ所	農道	2.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 9人 農業団体 団体	非農業者個人	70人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

初年度事業内容と経理内容との割合等の関係で少し大変でしたが、2年目以降スムーズに進んだように思います。

2年目より、道路添え等に花を植えたがこの事業には、農家、非農家関係無く子供から老人まで参加し、手入れ作業等は老人クラブが率先して行い、事業の目的とする集落内が一体となって事業を行うことが出来たうえ、集落内が明るくきれいになり大変よかったと思う。

現在、当集落は高齢化が進み今後農業面を考えた場合、非農家の協力がなければ行うことができない状態である。このような面からみた場合、農道、用水路整備等に協力を得ることが出来たことは、農家非農家関係無くお互いに協力し合い集落を守っていこうという思いが高まった、本事業のおかげである。

7月はじめ

早朝5時から集落内の道路添えにマリーゴールドの植付けの共同作業、下旬には、黄色・オレンジ等の花が咲いた。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	台・御蔵下森っこ会	代表	伊藤 徳美
協定面積	田 19.86ha 畑 ha 計 19.86ha	対象面積	田 19.86ha 畑 ha 計 19.86ha		
管理施設	開水路 2.0 km ため池 ヲ所	農道	3.3 km	パイプライン	2.0 km
構成員	農業者 15人 農業団体 2団体	非農業者個人	11人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の「台・御蔵下森っこ会」では、中山間地の緑豊かな原風景を町内会員全員の協力でも守り引き継いで行く事を目標として活動を行ってきました。私達の小さな集落では、高齢化並びに過疎化が急速に進み、地域の元気がなくなり、まとまりが薄れてきておりましたが、5年間の活動でコミュニケーションが強まり、地域に活力が出てくると同時に結びつきも高くなってきました。取り組み当初は組織としては町内会よりなく、関係者が指導援助を頂き女性部と60歳以上の寿会の組織を立ち上げ、農業2団体との横の結びつきを図り、この各組織が目標達成を目指して事業を展開してきました。

この取り組みによって、地域の農地や農業施設を少しでも長持ちさせ、緑豊かな原風景を守っていこうという体質に変わってきています。これからも「今自分達で出来る事は自分達で頑張ろう」を心に今後も地域の活性化を進めていきたいと思っています。

寿会会員と町内会員で花壇への
花の植栽作業



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	野田和郷の会	代表	藤井 一
協定面積	田 44.2ha 畑 ha 計 44.2ha	対象面積	田 29.9ha 畑 ha 計 29.9ha		
管理施設	開水路 8.7 km ため池 ヶ所	農道	8.9 km	パイプライン	5.0 km
構成員	農業者 23人 農業団体 団体	非農業者個人	232人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

共同草刈り：地域皆で行うことにより農家のみならず非農家にも感謝された。

農道補修：施設の機能回復が図られた。

開水路泥上げ：U字溝の底まで泥上げをしたことにより排水が良くなった。

会員が健康で明るく楽しく生活できるように花で地域を飾るため、花壇やプランターを設置して取り組んできた。また、農道や水路周辺の環境整備のため、空き缶及びゴミ拾い等の活動も実施してきた。

今後も花に囲まれた、ゴミのないクリーンな地域を目指していきたいと思っております。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	浦横町おいかわ会	代表	北嶋 高光
協定面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha	対象面積	田 19.19ha 畑 ha 計 19.19ha		
管理施設	開水路 3.8 km ため池 3 ヶ所	農道	4.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 56人 農業団体 1団体	非農業者個人	7人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の「浦横町おいかわ会」は、かつては周辺の小川に数多く見られた「おいかわ」も今では数少なくなっており、生息しやすい条件整備を図りながら、将来を担う子ども達に自然との触れ合いの場を提供し、環境を守っていかうとの目標で開始した活動でありました。

当初は知識もなく試行錯誤しながらの活動でありましたが、春・秋2回実施しているクリーンアップや景観形成活動で多くの方々の参加をいただき最近では定着傾向にあります。特に花づくり活動では、高齢者の方々のご協力を得て植栽された花が地域住民の目を和ませています。また生き物調査では、共同活動2～3年後に、所々で「おいかわ」の群れを確認出来たときは、地域住民一同感動しました。将来の担い手となる子ども達には貴重な体験になったと思います。

この活動を通して、住民の集まりの場が出来る中で少しずつではありますが、地域の「和」が復活してきているような感じがします。そして自然を守ることの必要性を改めて理解できたと思います。



夏休みの時期に、子どもと大人が一緒になり、楽しみながら地域の用水路で生き物調査を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	五城目町	組織名	町村緑水会	代表	伊藤 賢蔵
協定面積	田 20.1ha 畑 ha 計 20.1ha	対象面積	田 19.9ha 畑 ha 計 19.9ha		
管理施設	開水路 5.7 km ため池 ヲ所 農道 6.1 km	パイプライン km			
構成員	農業者 34人 農業団体 団体	非農業者個人 人 非農業団体 3団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する範囲は、30年以上も前にほ場整備された農地で、用排水路の老朽化が課題となっていました。

本事業の取り組みによって、今まで放置されていた水路などの泥上げなどが行われ、一連の水系の確保が図られ、点となっていた自作地のみの管理から、線となる地区全体の維持管理が図られ、機能性の向上も図られました。

また、共同で作業を行うことによって農業者だけでなく集落全体の繋がりが深くなったような気がします。

少子化、高齢化はさけて通れない状況ではあるが、自分たちでできることは自分たちで取り組み、がんばることは忘れずに、無理はせず細く長く活動が続けて行きたいと思います。



共同作業により、水路の維持管理が容易になった。



子ども会による花壇整備及び水質調査を行い、子供境に対する興味がわいてきた。



老人クラブによる花壇整備は、農村環境の維持と、高齢者の生きがいとなっている。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	八郎潟町	住 所	南秋田郡八郎潟町字大道 8 0 番地 電 話 018-875-5803	
担当部署	産業課		担当者	小玉直人

(5年間の感想等記入)

行政頼みの組織活動が当初多かったが、年を重ねる毎に改善の兆しが見えて来ました。ただ、交付金の使途方法に、若干の疑問点が毎回見られる組織があるため、使途の善し悪しのマニュアル等が必要であったと思いました。実際、各所に相談なしの大きな事業を実行し、問題になった箇所もありました。

また、繰り越しが多い組織に対しては、5年継続の交付金ではなく、それ相応の減額等の措置が必要だと感じております。

結構な額が動いてますが、目に見える成果を上げた組織、そうでない組織が分かれたと思います。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

八郎潟町	耕地面積	田	795	ha	畑	38	ha	合計	833	ha
平成19年度	協定面積	田	348.79	ha	畑	0	ha	合計	348.79	ha
平成20年度	協定面積	田	348.79	ha	畑	0	ha	合計	348.79	ha
平成21年度	協定面積	田	348.79	ha	畑	0	ha	合計	348.79	ha
平成22年度	協定面積	田	348.79	ha	畑	0	ha	合計	348.79	ha
平成23年度	協定面積	田	348.79	ha	畑	0	ha	合計	348.79	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	253.21	ha	11,141,240円					
平成20年度	対象面積	計	253.21	ha	11,141,240円					
平成21年度	対象面積	計	253.21	ha	10,604,440円					
平成22年度	対象面積	計	241.01	ha	10,604,440円					
平成23年度	対象面積	計	288.59	ha	6,642,466円					
					合計	50,133,826円				
活動組織名称		八郎潟町				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
253	川崎清流会									
254	羽立水土里会									
255	馬場目川河川区環境保全会									

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八郎瀧町	組織名	川崎清流会	代表	伊藤 昭二
協定面積	田 37.6ha 畑 ha 計 37.6ha	対象面積	田 37.6ha 畑 ha 計 37.6ha		
管理施設	開水路 1.4 km ため池 ヶ所	農道	5.6 km	パイプライン	4.4 km
構成員	農業者 56人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

○この事業が県及び町から事業実施の説明があったときは、協力団体である川崎地区の生産組合、川崎町内会、老人クラブ、婦人部会、子供会などの地域住民や会員へ説明すると共に、この事業で実施可能な事業あるいはその効果などをそれぞれの代表者と数回協議を行い、本事業を実施することに決定いたしました。会の命名は指定湖沼となった八郎湖にそそぐ馬場目川の清らかな流れを取り戻そうとする意図から「川崎清流会」と命名しました。

○この地区は従来、純農村地帯で住民の繋がりは深い地域であったが、近年の住宅建築や町営住宅、アパートなどの入居者増などにより、50世帯そここの町内会が現在約150世帯と大幅に増加した地域であります。こうした従来からの住民と新たな転入者との融和を図る観点からも本組合の果たす役割は非常に大きいものと認識して事業に取り組んでまいりました。

○活動の主な内容は、農道整備(5Km)、排水路の泥上げ(3, 5Km)、未整理田の用排水路の手入れ、排水路の草刈りなど5年間のスパンで実施するものや単年度で実施する事業などローテーションを組みながら構成員の平等性を重視しながら運営をしており、毎年開催している総会においても事業の効果について大変好評を得ております。

○近年の世帯増から農地等との混住地については、環境面の観点から適宜、地域住民とともに排水路の泥上げ、草刈り等を実施しております。また、八郎湖が指定湖沼となり、代掻き等の濁水あるいは農薬などが八郎湖に流入することを防ぐために排水側の畦畔塗りを随時実施しております。

○他団体との協働事業としては、老人クラブとともに毎年花苗を購入し環境整備に当たっています。また子供会では夏休み、冬休みを利用して行っている事業としては、地域に流れる2級河川の馬場目川の水質や生態などの調査を実施しており、子どもたちの貴重な自然体験となっております。婦人部については地域の伝統文化を継承するための事業を取り入れるなど様々な分野で地域住民と一体となった活動しております。

○最後に地域全体としては、後継者の減少もありますが、30代から40代の協力者(出席者)が少なく60代・70代がほとんどであります。今後この事業が廃止となると農家個々の負担増につながることで、地域住民とのコミュニティの場が希薄となることなど考えられます。5年間の事業ではありましたが、構成員・関係団体の協力のもと大きな成果を残し終了することが出来ました。今後ともよろしくお願いします。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八郎潟町	組織名	羽立水土里会	代表	須田 政博
協定面積	田 46.7ha 畑 ha 計 46.7ha	対象面積	田 40.6ha 畑 ha 計 40.6ha		
管理施設	開水路 km ため池 ヶ所 農道 7.5 km	パイプライン 5.1 km			
構成員	農業者 60人 農業団体 1団体	非農業者個人 人 非農業団体 3団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち羽立水土里会は対象面積約4,069 a、構成員60名それに町内会、老人クラブ、子供会の協力を得ながら活動を行ってきました。

主な事業は農道補修、排水路法面・農道の草刈、排水路・開水路及び地区内を流れる排水路側溝の泥上げ、漏水防止の畦塗り、また、学習活動としては子供会を主体として八郎湖に流れる水の源流から末端の残存湖までの水質調査を継続的に行っており、そのデータを基に講師を招いて勉強会と水環境などについて講演を聞いたりしました。

当初はなかなか活動方向、交付金の使い方、また報告書類の煩雑さ、帳簿の書き方などわからない事だらけで大変苦勞しました。役員が毎年変わるのも一つの原因でもありました。活動を通して思うのは、一人の力では前に進まない事も、みんなが集まって力を出し合えば解決できる事を、また農業離れ、人口減少、高齢化などの問題があってもまだまだ地域にはそれなりの力があることを教えられました。

今年度は5ヵ年最後の年であり、事業は一旦終了しますが、これからも地域の人々がお互い協力しながら次の世代に引き継がれる農地、水、環境保全に取り組んでいかなければならないと思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	八郎瀧町	組織名	馬場目川河川区環境保全会	代表	石川 定樹
協定面積	田 264.1ha 畑 ha 計 264.1ha	対象面積	田 174.7ha 畑 ha 計 174.7ha		
管理施設	開水路 21.7 km ため池 ヶ所	農道	21.7 km	パイプライン	25.9 km
構成員	農業者 438人 農業団体 1団体	非農業者個人	32人	非農業団体	23団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

非農家を含めた地域ぐるみの共同活動として、より一層の農地・水・環境保全向上に努める必要性から、活動の目標を農地・水・環境は自分達で守り、子供たちへ受け継いでいくという意識で一步を踏み出しました。多くの方々のご理解を得て基礎活動部分では排水路の泥上げ、農道の砂利補充、水路の草刈等実施しました。

農地・水向上活動部分ではきめ細やかな雑草の刈り取り、施設の老朽部品の管理等を実施し、基礎部分と共に水資源の大切さや、特に施設の各役割が順調に作動することを重視しました。

農村環境向上活動部分では雑草木で荒れ放題だった馬場目川沿いのサイクリングロードの整備とその後の花植栽で見違える程爽やかな憩いの散策道として変貌しました。

生まれ替わったこの散策道で町民の方々多くの参加で散策イベントができたことは誇りです。

活動区域内で水質調査を行い、代掻き時や稲刈り後のペーハー、透視度、COD等々の数値の記録もしました。夏休みの半日だけでも小学生の参加で水質、生物の生態系を含めての実施を目標にしましたが、スポ小や保護者、先生の壁を乗り越えられず、折衝力不足を悔やみました。

資源循環型社会の推進に思いを廻らせ、婦人会のご協力を糧に、家庭から出る生ごみの減量化を目指し、微生物を使ったEMボカシ作りで生ごみの堆肥化を進め、それが町民から大変喜ばれていることは好事例と思い自負しております。

干拓道路、農免道路その周辺の清掃活動も、多数の町民の方々の参加を得て一生懸命やりました。当初の頃は空き缶は勿論タイヤ、ふとんなど拾い集めたゴミが軽トラック3台分もありました。

施設の景観保全作業も実施しました。また共同活動の実践を基に広報誌の編集と発行もできたことは、記憶の記録として喜びのひとつです。

五年経過で現活動組織は終了となりますが、これまでの活動を踏まえ今後町内会、婦人会、老人クラブ等々この古里を思い、町民全員が自分達の力で活動を継続し更に進めて行くことが、本来目標としてきた農地・水・環境保全と緑豊かなふるさと創りの役割と確信しております。



（農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式）

市町村名	井川町	住 所	井川町北川尻字海老沢樋ノ口78-1 電 話 018-874-4418		
担当部署	産 業 課		担当者	鷺 谷 利 和	

（5年間の感想等記入）

農業を取りまく情勢は従事者の減少や、高齢化が進行し、農村の集落機能が低下すると共に農道、水路等施設の維持管理が懸念されていた。

本事業の活用により、農業者だけでなく町内会をはじめ婦人組織、更には小中学生等も含む活動組織を設立し、農地や水路及び農道等の管理作業は勿論、花壇づくり等地域環境の整備にも関わり年代や老若男女に拘わらず農村集落の環境づくりを住民総出で進めてきた効果は非常に大きい。今後とも、地域は自らの手で創るという意識を持ち続ける事を期待する。

（農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ）

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

井川町	耕地面積	田	1,200 ha	畑	106 ha	合計	1,300 ha
平成19年度	協定面積	田	205.90 ha	畑	0.00 ha	合計	205.90 ha
平成20年度	協定面積	田	205.90 ha	畑	0.00 ha	合計	205.90 ha
平成21年度	協定面積	田	205.90 ha	畑	0.00 ha	合計	205.90 ha
平成22年度	協定面積	田	205.90 ha	畑	0.00 ha	合計	205.90 ha
平成23年度	協定面積	田	205.90 ha	畑	0.00 ha	合計	205.90 ha

（支援交付金実績）

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	155.87 ha	6,858,280円
平成20年度	対象面積	計	155.87 ha	6,858,280円
平成21年度	対象面積	計	155.87 ha	6,558,200円
平成22年度	対象面積	計	155.87 ha	6,858,280円
平成23年度	対象面積	計	155.87 ha	5,958,040円
			合計	33,091,080円

活動組織名称

井川町

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0256	今戸みどり会		

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	井川町	組織名	今戸みどり会	代表	伊藤 八十治
協定面積	田 205.90ha 畑 ha 計 205.90ha	対象面積	田 155.87ha 畑 ha 計 155.87ha		
管理施設	開水路 51.6 km ため池 ヶ所 農道 18.0 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 119人 農業団体 1団体	非農業者個人	356人 非農業団体	8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は東に奥羽山脈、西に八郎湖残存湖の湖沿いに位置する自然豊かな農村地帯であり、平成18年度モデル事業から集落の活性化のためこの事業に取り組んできました。

基礎活動である農道路肩、水路の法面の草刈り作業や用、排水路の泥上げ作業、農道の不陸整正作業などは、農業団体である生産組合が中心になり他の構成員も参加して農村環境の保全に努めてきました。

農地・水向上活動では、集落の中心を流れる用水路が昔から生活用水として生活の支えに利用されて、今でも町内会が主体になり集落を上げての泥上げ作業を実施したり、消防団では非灌漑期に定期的に巡回点検や清掃作業を実施し、防火用水の確保に努めてきました。

さらに、破損施設の改修は用水路U字構の目地詰め作業や、用水路溜柵の蓋の更新及びゲートの新設など老朽施設の維持のため、生産組合や他の構成員がそれぞれの技術を出し合い、すべて手作りにより施設の長寿命化に取り組みました。

農村環境向上活動では、老人クラブ会員による水路沿いの花壇に小、中学生と合同で花の植栽を実施したり、小学生と合同でパックテストによる水質モニタリングの実施や、水路に生息する生物等の観察を行うなど共同活動のほか、農道路肩や水路のビン・缶拾いを実施しました。

生産組合では、廃棄物処理跡の官地を借り受け食育畑を作り、ひまわりや枝豆、さつまいもの播種から収穫までの管理をするなど、食育に対する理解や農村環境の美化に努めてきました。

また、農村環境の美化のため小公園の整備や雑草対策としてカバープランツによるヒメイワダレ草の植栽に取り組んだほか、昔の風物である鳥追い小屋や、釣り桟橋を設置し憩いの場を提供して地域住民に喜ばれています。

婦人会では、資源循環の活動として生ごみ減量のため、EM菌によるボカシを作り堆肥化作業を実施したほか、食用廃油による石鹼作りを実施し、製品化した石鹼を全戸配布して大変好評でありました。このように各団体がそれぞれ自分たちで計画を立て、他の構成員に呼びかけてお互い協力して地域作りに取り組み、”自分たちの地域は自分たちで”という気運が高まり、地域に連帯感ができました。これからも、絆を大切に地域を盛り上げていきたいと思います。



基礎活動

年4回早朝5時から7時まで全対象面積の農道路肩、法面の草刈り作業を実施した。



基礎活動

全世帯を対象に用水路の泥上げ作業を実施した。そのほか、生産組合でも用、排水路の泥上げを実施



農地・水向上活動

用水路の老朽化によるU字構の補修や目地詰め作業を実施した。



農村環境向上活動

婦人会を主体に資源循環活動として、EM菌によるボカシを作り、生ごみの堆肥化に取り組む。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	大潟村	住 所	南秋田郡大潟村字中央 1 - 1	電 話	0185-45-3653
担当部署	産業建設課			担当者	主事 濱川 智美

(5年間の感想等記入)

本村では、八郎湖の水質改善を目標として、水質浄化に関する実験や実証活動、水質のモニタリング調査、濁水防止実践活動、水質汚濁負荷抑制栽培の普及活動等の水質保全活動を行ってきました。

5年間、多くの村民や様々な組織と協力し、八郎湖の水質改善に向けて活動してきた結果、八郎湖の水質改善に対して多くの人が関心を持つようになったと感じています。

加えて、景観形成活動として春には菜の花、夏にはひまわり、秋にはコスモスの植栽活動をしています。この活動により、季節ごとに美しい景色を楽しめるようになり、村民はもちろん村を訪れた人々特に、菜の花については多くのメディアにも取り上げられ、大潟村の観光名所のひとつになっています。にも安らぎをもたらしています。

生態系保全活動については、田んぼの生き物調査や渡り鳥の調査、ビオトープの設置、外来魚捕獲・魚粉堆肥化等の活動を行っています。田んぼの生き物調査や渡り鳥の調査には多くの子どもが参加しており、大潟村の自然の豊かさを知り、守っていくことの必要性を学ぶことのできる貴重な機会になっています。

5年間、本事業で様々な活動に取り組んできましたが、多くの村民が参加し、協力して活動できる機会が増え、交流や情報交換の場ができたのではないのでしょうか。今後も、村民が主体的に草刈りなどの共同活動や大潟村の自然・環境を守る活動を続けていければと考えます。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

大潟村	耕地面積	田	11,200 ha	畑	259 ha	合計	11,500 ha
平成19年度	協定面積	田	8,946.60 ha	畑	0.00 ha	合計	8,946.60 ha
平成20年度	協定面積	田	8,943.60 ha	畑	0.00 ha	合計	8,943.60 ha
平成21年度	協定面積	田	8,943.60 ha	畑	0.00 ha	合計	8,943.60 ha
平成22年度	協定面積	田	8,943.60 ha	畑	0.00 ha	合計	8,943.60 ha
平成23年度	協定面積	田	8,943.60 ha	畑	0.00 ha	合計	8,943.60 ha

(支援交付金実績) [支援交付金全体]

平成19年度	対象面積	計	4,471.80 ha	105,424,560円
平成20年度	対象面積	計	4,471.80 ha	137,236,400円
平成21年度	対象面積	計	4,471.80 ha	131,322,400円
平成22年度	対象面積	計	4,471.80 ha	118,278,600円
平成23年度	対象面積	計	4,471.80 ha	101,151,420円
合計				593,413,380円

活動組織名称 大潟村 組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0257	大潟村農地・水・環境保全向上対策推進会議		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大潟村	組織名	大潟村農地・水・環境保全向上対策推進会議 代表 後藤 幸三
協定面積	田 8,943.6ha 畑 ha 計 8,943.6ha	対象面積	田 4,471.8ha 畑 ha 計 4,471.8ha
管理施設	開水路 km ため池 ヶ所 農道 335.6 km	パイプライン km	
構成員	農業者 543人 農業団体 19団体	非農業者個人 15人 非農業団体 35団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達、推進会議の活動区域では八郎湖の水質悪化という慢性的な問題を抱えており、その改善は長年の課題となっていました。

こうしたなか、平成19年度より農地・水・環境保全向上対策が始まり、村内では村民を始め、農業者、自治会、子供会、青年会、婦人会、若妻会、大潟の自然を愛する会、コガムシの会、農業後継者、農業者年金受給者、秋田県立大学、水系資源保全隊、農業協同組合、カントリーエリベーター公社、土地改良区、建設会社等の多様な団体が参画し、地域一体となり、この課題に向け活動を行ってきました。

活動の内容は堤内外の水質モニタリング、西部承水路、幹線排水路においての筏に木炭を使った水質浄化、幹線排水路敷地に浄化水路を造成し植物による浄化実践を行ってきました。

また、濁水防止実践活動、農法等による水質汚濁負荷抑制活動を進めてきました。

施設の長寿命化として農道の砂利の補充を、また農道わきの草刈り活動、農地周辺部の草刈り活動を農業者、非農業者で行いました。農村環境向上として田んぼの生きもの調査、渡り鳥調査、外来魚捕獲と魚粉肥料化、景観形成として菜の花、ひまわり、コスモスの栽培を行ってきました。

このような活動を地域一帯となり進めることは中々、機会がありませんでしたがこの活動により地域の絆も深まったように感じています。



菜の花と桜



村民の参加による農地周辺部草刈り活動

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	由利本荘市	住 所	由利本荘市尾崎 1 7	電 話	0184-24-6361
担当部署	農林水産部 農山漁村振興課	担当者	斎藤 英樹		

(5年間の感想等記入)

5年の感想ですが、実際に自分が担当したのは、昨年度からの2年であったので、各組織の立ち上げ当初の大変さがよくわからないので、そこは控えますが、担当としてとにかくこれだけは言えることは、この「農地・水・環境保全向上対策交付金」を使い活動した組織それぞれが、「この活動に参加したことにより、農業者だけでなく非農業者との共同活動が可能になり地域住民の環境保全への意識が向上し、組織として参加出来て、よかった」と言ってくれていることです。

農道や水路・ため池など、とにかく農家だけで管理を余儀なくされていたものですが、この活動により地域の財産として非農家の方から意識してもらい一緒になって守っていくきっかけとなった。この対策が今後も2期・3期と長く続いて過疎・高齢化が進む農村地域の支えとなって行くことを願います。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

由利本荘市	耕地面積	田	10,500 ha	畑	2,620 ha	合計	13,100 ha
平成19年度	協定面積	田	2,531.74 ha	畑	0.00 ha	合計	2,531.74 ha
平成20年度	協定面積	田	2,530.53 ha	畑	0.00 ha	合計	2,530.53 ha
平成21年度	協定面積	田	2,530.39 ha	畑	0.00 ha	合計	2,530.39 ha
平成22年度	協定面積	田	2,526.02 ha	畑	0.00 ha	合計	2,526.02 ha
平成23年度	協定面積	田	2,526.02 ha	畑	0.00 ha	合計	2,526.02 ha

(支援交付金実績)

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	2,411.65 ha	106,112,600円
平成20年度	対象面積	計	2,410.44 ha	106,059,360円
平成21年度	対象面積	計	2,410.30 ha	105,690,200円
平成22年度	対象面積	計	2,405.93 ha	105,608,360円
平成23年度	対象面積	計	2,405.93 ha	104,952,071円
合計				528,422,591円

活動組織名称

由利本荘市

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0258	いわくら環境保全向上活動組織	0267	川辺環境保全活動の会
0259	谷地環境保全向上活動組織	0268	小坂戸堰環境保全活動の会
0260	山田環境保全向上活動組織	0269	立石環境保全会
0261	内越地域環境保全協議会	0270	元町環境保全活動組織
0262	本荘子吉環境保全活動組織	0271	荒沢・矢越環境保全活動の会
0263	鮎瀬環境保全向上活動組織	0272	吉沢環境保全向上組合
0264	烏川環境保全活動組織	0273	新上条環境保全向上活動組織
0265	櫛引環境保全向上活動組織	0274	山本環境保全活動組織

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	いわくら環境保全向上活動組織	代表	高橋 卓次
協定面積	田 94.45ha 畑 ha 計 94.45ha	対象面積	田 94.45ha 畑 ha 計 94.45ha		
管理施設	開水路 27.4 km ため池 5ヶ所	農道	15 km	パイプライン	km
構成員	農業者 45人 農業団体 3団体	非農業者個人	150人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちのいわくら環境保全向上活動組織では緑豊かな水田風景、地域を流れる用水を守るための次の項目を目標として行ってきました。

①基礎部分では遊休農地等の発生状況の把握、施設の点検、共同作業計画の策定、施設周辺の草刈り、水路の泥上げ、農道の砂利補充、その他の活動を実施。

②誘導部分では「農地・水向上活動」と「農村環境向上活動」を行っています。

○農地・水向上活動として、農地・農業用水等の資源の水質向上を図る活動として、施設の機能診断、共同作業計画の策定、水路の目詰め、藻の除去、各施設の保守管理、見回りを実施。

○農村環境向上活動として、農地・農業用水等の資源を活かした農村環境の保全及び質的向上を図る活動として、水質検査、花壇及び看板の設置。

◎私たちの地域は5町内にまたがり、環境保全向上活動以前は地域のまとまりが薄れていましたが5年間の活動を通して地域の結束が復活しました。

◎農業者以外の方々も、農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を大切に、草刈りや泥上げ等の作業にも参加して行なうことにより、営農に専念する方々からも、喜ばれています。この気持ちで地域を盛り上げたいと思います。



花壇草取り

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	谷地環境保全向上活動組織	代表	小川 博一
協定面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha	対象面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha		
管理施設	開水路 8.7 km ため池 3ヶ所	農道	3.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 14人 農業団体 2団体	非農業者個人	13人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は、農業者の高齢化に伴い地域に在する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目的として活動を行ってきました。活動開始当初は農業者外の構成員の参加者なかなか思わしくなかったが町内会の協力のもと少しずつではあったが協力してもらえるようになってきました。

また、地域にある集落営農組織においてもより強い組織作りに向けて協議が進んで行こうとしている今、協力しながらよりよい地域作りを進めていきたいと考えている。



子供たちとの稲刈りイベント収穫終了後後日収穫したもち米を使用しての餅つき大会等の開催。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	山田環境保全向上活動組織	代表	田口 光雄
協定面積	田 27.5ha 畑 ha 計 27.5ha	対象面積	田 27.5ha 畑 ha 計 27.5ha		
管理施設	開水路 9.7 km ため池 ヶ所	農道	5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 25人	農業団体	3団体	非農業者個人	20人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの町内では、緑豊かな山々に囲まれた自然環境や景観に恵まれた閑静な地域ですが、近年高齢化・混住化が進み農地・水の資源や農村環境を適切に保全・管理していくことが難しくなりつつある。

この対策取り組み当初は、戸惑いもありましたが共同活動では水路の泥上げ・目地補修、くさかり作業を3回、農道の砂利敷き・補充・不陸整地を2回実施をし、農村環境の保全としてプランターへの植栽クリーンアップ等の活動を行ってきました。

私たちの小さな(28戸)集落でも混住化が進み地域のまとまりが薄れつつなっていますが5年間の事業の取り組みにより自治会・団体協力のもと`結び` `絆`が強くなったように感じます。非農業者の方々も水田・農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、農業施設の保全・管理、長寿命化にも取り組むことができ感謝されています。

これからも農地・農業用水等の資源や自然・景観を守る共同活動を展開し豊かな農村地域の維持・創造を目指していきたいと思います。



福寿会による植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	内越地域環境保全協議会	代表	高野 静男
協定面積	田 81ha 畑 ha 計 81ha	対象面積	田 81ha 畑 ha 計 81ha		
管理施設	開水路 9.1 km ため池 ヶ所	農道	10.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 27人	農業団体	団体	非農業者個人	54人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

年々 農業従事者の減少で地域の行事・農地の保全管理していくことの大変さを痛感していた時期に環境保全事業の導入により 地域住民・農業者の交流によりお互い存在感を確認し合えた

この5年間主たる事業は、傾斜地の機械による草刈管理・農道草刈・砂利しき管理・幹線水路管理又、花壇作り花植え、道路遊休地の空き缶拾いによる環境美化の推進建て看板による啓蒙活動実施

当地域は農地の基盤整備をして10年以上たって特に水路の不良箇所が多くなってきた農業者数が少ない割りに、水田面積が多いので共同作業でないと維持管理できなくなる

今後とも共同活動事業が導入になれば地域全体で参加して地域の活性化に貢献したい。



幹線用水路の草刈り

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	本荘子吉環境保全活動組織	代表	田口 功
協定面積	田 431.0ha 畑 ha 計 431.0ha	対象面積	田 431.0ha 畑 ha 計 431.0ha		
管理施設	開水路 42.3 km ため池 7ヶ所	農道	40.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 399人 農業団体 12団体	非農業者個人	人	非農業団体	16団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当組織の主な活動は、用排水路の保全管理・農道の整備・水利施設の保守点検です。また地域にある小学校・中学校と連携して様々な活動を行っております。 小学生は地域の環境学習という事で、堰や溜池を利用しての生き物調査や水源探訪、また、農業や水に係わるふる里の歴史について、年輩者の協力を得て講話をしてもらいます。 中学生には、田んぼアートのサポートをしています。 これは校舎の前に広がる田んぼに、1年ごとに自分たちの志を古代米で力強く表現し、その苗の成長を毎日確認しながら勉強しています。今ではアートの図案や農業体験が、生徒会や生徒達の興味ある一大イベントになっています。 混住化の進む地域にあって、子供達と係わる活動は、農家と地域住民の相互理解や親睦に多いに役立っており、これからもこの政策を活用して、私たちのふる里を元気にしたいと思います。					
					
				近い将来、卒業して行った生徒達がこのイベントと一緒に参加してほしいと思います。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	鮎瀬環境保全向上活動組織	代表	畠山 洋三
協定面積	田 85.4ha 畑 ha 計 85.4ha	対象面積	田 85.4ha 畑 ha 計 85.4ha		
管理施設	開水路 21.4 km ため池 ヶ所	農道	10.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 78人 農業団体 団体	非農業者個人	17人	非農業団体	7団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
【この事業への参加目的】 町内の開水路、農道、山林の作業道、環境の保全維持管理等は、今後いかなる農業経営体になろうとも、町内全員で、実施してゆかねば、経営自体及び町内が崩壊する。この理念の定着化をねらった。 【感想】 平成23年度6月23～24日にかけて、この地区は、昭和20年以来の大水害みまわれ、NHKのトップニュースで、全国に紹介された。とたん、全町民がたちあがり、農道、水路の泥よせ、ガレキ等の除去に、連日がんばった。 行政も、この事業を有効に利用してもよい、との指示を敷き、出来秋も一部壊滅地区を除き、まずまずの成果となった。 【平成24年度からの継続事業は、保留とした】 1) 水害被害者の負担額 2) 5年間の会計監査への責任と対するリーダーの高齢化 3) 自助努力の醸成と次世代リーダーの育成 ★10～20年後の農業従事者激減の調査結果には、戦慄を感じた。					
					
				※きめ細やかな雑草対策の実施状況 農道法面難所の、草刈りを実施する事で保全管理も含め、景観形成の意識高揚を図る。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	烏川環境保全活動組織	代表	猪股 佑一
協定面積	田 36.0ha 畑 ha 計 36.0ha	対象面積	田 36.0ha 畑 ha 計 36.0ha		
管理施設	開水路 7,424 km	ため池 ヶ所	農道 3,901 km	パイプライン	km
構成員	農業者 27人	農業団体 3団体	非農業者個人 6人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では、美しい田園の農村を次世代の子供たちへ受け継いでいくことと、共同活動を通じて地域のコミュニティ活性化を目指すことを目標として活動を行って来ました。活動当初は、お互いの理解不足により、思うように活動出来ませんでした。しかし、景観形成活動で花の植栽活動は構成員のほぼ全員参加で集落のふれあいが出来た。また、子供たちに於いても集落の人々とふれあい共同作業したことは貴重な体験になったことと思います。

我々の集落に於いても地域の絆が薄れ来た様な気がします、今回の活動を通して少しは回復して来た様な感じがします。

5年間の活動の中で草刈りや泥上げ等の日常の保全管理等がごく普通にくらしている地域の被害等の未然防止や景観形成に寄与していることが改めて認識しました。また、集落到に住む我々が普通に農作業等を行いそして生活出来ることに感謝し、今後も地域の絆を大切にこの様な活動が継続出来たら素晴らしいなと思います。



集落総出で植栽をして集落の人々はもとより、集落外の通りかかりの人々の目と心をも和ませることが出来た。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	櫛引環境保全向上活動組織	代表	小松 久
協定面積	田 18.5ha 畑 0.5ha 計 19.0ha	対象面積	田 18.5ha 畑 0.5ha 計 19.0ha		
管理施設	開水路 3.5 km	ため池 ヶ所	農道 2.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 20人	農業団体 2団体	非農業者個人 16人	非農業団体 2団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落では、大昔より幹線水路は、農家が灌漑用水、防火用水のため手入れを行ってきております。非農家は防火用水、一部生活用水のため、春の泥上げと草堰（水路の草刈り）に協力いただいておりますと古老から聞いておりました。昔から「結い」が出来ていた訳です。

したがいましてあまり苦勞することなく、組織を立ち上げることが出来ました。ましてや、路肩に菖蒲を植えたり、空缶・空瓶拾い、定期的な畦畔あるいは溝畔の草刈り等で、集落内が美しくきれいになりました。その結果以前よりホテル等がふえたような気がします。大人だけでなく、子供会による水質検査等も大きく関係していると思っております。菖蒲の手入れ等も、老人クラブを中心に集落住民が一丸となつてがんばっているからだと思っています。

これからは、金銭的な裏付けはありませんが、自分の地域は自分達で守るという昔からの「結い」の精神を受け継ぎ乍ら、子や孫達に誇れる環境にしたいと思っております。



3月 春祭り（祈願祭）

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	川辺環境保全活動の会	代表	佐藤 寿男
協定面積	田 39.72ha 畑 ha 計 39.72ha	対象面積	田 39.72ha 畑 ha 計 39.72ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 ヶ所	農道	4.9 km	ハ°イ°ライン	3.9 km
構成員	農業者 36人	農業団体	2団体	非農業者個人	人 非農業団体 4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

川辺圃場は、一級河川・子吉川に約3km沿って水田がある。豪雨時には子吉川の氾濫により圃場が冠水していた。平成11年に圃場整備と堤防嵩上げが行われ、冠水は少なくなった。しかし、平成23年は6月、8月、9月に豪雨があり、子吉川からの濁流が農道を洗い、泥でぬかるむ状態となった。加えて農道が整備されたことにより、子吉川の鮎釣り解禁期間は圃場に関係のない車の往来が多く、農道の砂利路面はくぼみ、稲刈り時期前の整備は例年になく大規模なものとなった。

米価が下がる中、農業経営に対する経費の縮減は農家にとって緊急の課題であり、「農地・水・環境保全事業」はまさに農家の救いとなっている。また、本事業による共同作業は組織団結の基礎ともいえるものでした。



子吉川堤防沿いの農道に砂利を敷き整備をする会員

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	小坂戸堰環境保全活動の会	代表	三浦 長市
協定面積	田 17.8ha 畑 ha 計 17.8ha	対象面積	田 17.8ha 畑 ha 計 17.8ha		
管理施設	開水路 9.1 km ため池 ヶ所	農道	4.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 17人	農業団体	2団体	非農業者個人	25人 非農業団体 団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当小坂戸堰環境保全活動の会は、高齢者世帯が多く担い手不足による営農継続の危機が迫っている。

当該事業を5年間継続し、老朽化が激しく手をつけられなかった水路や農道が、老若男女問わず地域住民の協力により、共同作業で維持、復旧、機能回復ができたことは、農業者にとって営農を継続する意欲が湧きました。

また、地域の子供たちが、老人、農業者と一緒にの作業により集落の「絆」が生まれ、故郷を愛することの大切さを教えられたような充実感がありました。

土水路の泥上げ、猛暑の中での草刈り作業など厳しい作業が多かったのですが、共同作業により楽しく行えたような気がします。

今後も、当該事業で得たことを今後も継続し、農業を中心とした明るく思いやりのある集落づくりに励みたいと思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	立石環境保全会	代表	三浦 忠行
協定面積	田 43.4ha 畑 ha 計 43.4ha	対象面積	田 43.4ha 畑 ha 計 43.4ha		
管理施設	開水路 10.8 km ため池 ヶ所	農道	3.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 37人 農業団体 2団体	非農業者個人	5人	非農業団体	団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達「立石環境保全会」の活動目的は、圃場整備後（県営圃場整備）20年を経過し農道、用水路、排水路等の破損箇所も多くあり、また集落の圃場まで通ずる幹線用水路は、子吉川上流4kmの頭首工より流れております。昭和25年頃設置した箇所も約1kmあり、老朽化により破損している箇所があり、補修、維持、管理、にも経費もかかっておりましたが、保全活動で対応することができました。 また、圃場の外周等の草刈りは、個人では対応できない箇所もありましたが、共同活動で行うことで作業が容易にできました。 農村環境向上活動では、地域の老人クラブ、子供会等による景観形成・生活環境保全、水質保全（水質検査等）の活動も行いました。 5年間の活動を通して一番の思い出は、老人クラブの方たちが真夏の暑い日も、雨の時も作業を中止する事もなく頑張ってくれたことには、敬服いたしました。 今後もこの圃場事業の基本である地域みんなで行動することを心掛けて「立石環境保全会」を継続したいと思えます。					
				 6月の晴れた日、サツマイモの苗の植え付けを、子供会、父兄（PTA）、老人クラブと一緒に作業しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	元町環境保全活動組織	代表	三浦 忠夫
協定面積	田 94.2ha 畑 ha 計 94.2ha	対象面積	田 94.2ha 畑 ha 計 94.2ha		
管理施設	開水路 18.2 km ため池 ヶ所	農道	13.6 km	ハ°イ°ライン	6.5 km
構成員	農業者 104人 農業団体 4団体	非農業者個人	50人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の暮らす元町地域は霊峰烏海山の麓に位置し、その自然の恵みを潤沢に受けている風光明媚な田園地帯です。親水子吉川から取り入れられる豊富な水量は、年間を通じ農業用水として、また生活用水、時には防火用水として私達の生活を支え潤してくれています。この5年間の「農地・水・環境保全活動」事業を通じて、先人先輩から脈々と受け継がれてきた自然との共生がいかに大切で大事なことなのかを改めて体感することができました。農村環境整備については農家はもちろんのこと、非農家の方々にも河川周辺の草刈り作業や、花の植栽等にも積極的に汗を流して頂きました。また、各子供会や老人クラブ・婦人会などの協力を頂き、各地域の花壇の再生や、遊休農地を利用したソバの植栽・農道への水仙の植栽など多岐にわたり交流を深めることができました。 この事業により大雨や台風による自然災害にも対処することができました。地域交流も深まり、環境整備と自然を守り次世代に継承していくことの大切さを地域皆様に理解して頂けたと感じております。					
				 おだやかな春の日、地域総出で農道に水仙の植栽を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	荒沢・矢越環境保全活動の会	代表	佐藤 拓夫
協定面積	田 19.8ha 畑 ha 計 19.8ha	対象面積	田 19.8ha 畑 ha 計 19.8ha		
管理施設	開水路 1.6 km ため池 ヶ所	農道 2.8 km	パイプライン 1.8 km		
構成員	農業者 23人 農業団体 5団体	非農業者個人 25人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

荒沢・矢越環境保全活動の会は、地域内の1ヘクタールを核とした大区画ほ場と、そこに流入する3水系の水利施設を核として活動している。その年間活動内容は、用排水路・ゲート等の維持管理、畦畔・農用地の法面の草刈り、農道の砂利敷きなどを実施している。

また、初年度から2年間は農道の路肩にコスモスを播種し地域の景観に配慮した。3年目からは、道路管理者の占有の許可を得て地区内の県道敷きに常設の花壇を設置した。その花壇には、例年3種類のマリーゴールドをブロックで植栽している。

例年5月末の堆肥運搬・耕起の作業から始まり、6月上旬に植栽、7月～10月は水やり・除草11月中旬の枝葉除去とこまめな管理に努め、できるだけ長期間の栽培にとりくんでいる。

一般の通行者が足をとめて見入っているのを見るにつけ地域の景観形成に多少なりとも貢献していると感じている。



6月の晴れた日、マリーゴールドの苗の植栽を、構成員並びに非農業者と一緒に作業した。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	吉沢環境保全向上組合	代表	佐藤 昭
協定面積	田 57.2ha 畑 ha 計 57.2ha	対象面積	田 57.2ha 畑 ha 計 57.2ha		
管理施設	開水路 25 km ため池 ヶ所	農道 10.2 km	パイプライン km		
構成員	農業者 人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全向上組合は、地域に存する農地・農業用施設等の資源や農村環境の保全・向上・維持を目的に、農業者、非農業者、子供会、老人クラブ等の協力を得ながら活動してきました。取組み当初は、戸惑いもありましたが、春の雪解け後の農地・施設の機能確認、水路の土砂上げ水路や畦畔の刈り払い、農道の砂利敷き、花壇への植栽、魚の放流、ホタル観察等実施して来ました。こうした活動の中で、農地を守ろうとする意欲と、高齢で活動に参加出来ないというジレンマもあり、農業者・非農業者も悩んだのも事実でした。子供達も地域では中々団地で集うことが少ない中で、保護者と一緒に小川に入っの稚魚の放流、暗がりのホタル観賞、スイセン等の植栽では普段行う事の出来ない経験をしました、この僅かな経験では有りますが、子供達の環境への興味が出て来てくれればと思いました。



組合長による年度初めの活動に対する挨拶

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	新上条環境保全向上活動組織	代表	佐藤 政雄
協定面積	田 52.8ha 畑 ha 計 52.8ha	対象面積	田 51.5ha 畑 ha 計 51.5ha		
管理施設	開水路 16 km	ため池 ヶ所	農道 7.9 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 70人	農業団体 団体	非農業者個人 13人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では、緑豊かな水田風景、地域を流れる湧水を子供達へ受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。取組当初は、戸惑いもありましたが春のクリーンアップや景観形成活動は構成員全てが参加する集落の一大イベントになりました。活動組織の目標でもあった環境保全向上活動では花壇設置や施設維持管理も行い、子供達に地域の貴重な財産を後世に継承することを確認することができ、保護者も自分たちが子供の頃の環境を伝えるなど貴重な活動となりました。

農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を“長持ちさせよう”、“自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”という機運が生まれました。農業施設の保安全管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理を地域みんなで行う事により、地域の集落営農組織では営農に専念する事が出来、非常に感謝されています。これからも“自分たちで出来ることは自分達で頑張ろう”の精神で地域を盛り上げたいと思います。

私たちの集落でも5年間の活動で環境、施設の継承されるように感じています。



春のクリーンアップ地域の環境保全の
為美化活動

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	山本環境保全活動組織	代表	伊藤 正弘
協定面積	田49.2ha、 畑 0ha、 計 49.2ha	対象面積	田 49.2ha、 畑 ha、 計49.2ha		
管理施設	開水路 16.9 km、	ため池 0 ヶ所、	農道 6.0 km、	ハイクライン	0 km、
構成員	農業者 25人、	農業団体 2団体	非農業者個人 36人、	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち組織は、国道と由利高原鉄道周りの景観維持向上、開水路・農道の維持をし次世代に引き継げるように活動を進めてきました。これまでは一部農業者に偏った活動が、地域全体で取り組まなければならないという思いと、共同活動でよりよい環境になれるという思いは、活動組織に浸透できたと考えている。

特に、活動のあり方、進め方について金銭的な部分の負担が軽くなったことも活動進める上で大きかったと考えている。

水路整備、農道維持、農地管理、景観形成、啓蒙活動取り組んできた活動のどれをとっても、以前の集落単位とその中の生産部組織では参加意義をまとめきれずに推移し、荒廃の部分が広がっていたであろうことは否定できなかったと考えている。



活動の説明会実施、実施する作業の
計画会議等初年度から綿密に実施して
きた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	奉行免環境保全向上活動組織	代表	佐々木 厚次
協定面積	田 18.4ha 畑 ha 計 18.4ha	対象面積	田 18.4ha 畑 ha 計 18.4ha		
管理施設	開水路 3.4 km	ため池 3ヶ所	農道 3.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 29人	農業団体 2団体	非農業者個人 30人	非農業団体 7団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの奉行免集落は烏海山から子吉川を経て流れる豊かな用水を活用した農村環境を次ぎ世代に継続できるよう活動を行ってまいりました。概ね、事業実施前から、行ってきたことなのでスムーズに事業を実施された。子供会の生き物調査は童心にを蘇らせた、活動であった。老人クラブの方々も施設への植栽「花苗・菜の花・水仙」等を行って農村環境を明るくされた。現在では少子高齢化等で若者が少なくなり、農業の継続について若きリーダーが必要と認識されているが現在は個々に活動されているので集落営農組織等の強化が必要である。 今後は子供会の道路クリーンアップ、老人クラブの植栽・農業者はJ A秋田しんせいの指導での統一草刈又は泥上げは継続して行い、集落の助成・水利組合員の賦課金等で住みよい農村環境を継続していけるよう努めていきたい。					
					
				農村環境を保全するため、草刈や清掃を行います。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	川西環境保全向上活動組織	代表	村上 長造
協定面積	田 63.6ha 畑 ha 計 63.6ha	対象面積	田 63.1ha 畑 ha 計 63.1ha		
管理施設	開水路 11.8 km	ため池 ヶ所	農道 12.9 km	排水路	12.5 km
構成員	農業者 72人	農業団体 5団体	非農業者個人 14人	非農業団体 6団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 平成19年度から23年度までの5年間、活動してきて大変だったことは、やはり会計や書記に事務作業が集中したとである。ほかの役員にももう少し作業を分担してやってもらう仕組みを構築すべきであったと反省している（例えば、この活動はこの班が担当、この活動はあの班が担当、という具合に）。 共同作業については構成員の皆さんが協力してくれ、思っていたよりもやりやすかったように思うが、年数を経るにしたがって参加者が減少する傾向は見られた。構成員の皆さんからの提案なども呼びかけたが積極的な発案は無く、結局は事務方が作業の内容等を考えて実施する形となってしまった。 当組織では、老人クラブや子供会が積極的に活動してくれたので、その点は活動内容にも幅が出来たと思われる。また、花壇の植栽等に関しては非農家の方も積極的に参加してくれ、農家の皆さんとの交流もあった。その反面、こういう活動を通してしか、農家と非農家、老若男女が一緒になって行動したり話し合ったりすることが少なくなっていることは、暮らし方の多様化や農業情勢の変貌、少子高齢化を印象付ける結果ともなった。 計画通りに活動が実施できなかった場合に、予算配分等の練り直しや計画変更等も余儀なくされ、役員で何度も話し合いを重ねた年もあった。それでも、複数の人で話し合うことは、いろいろな意見やアイデアも出てきて大変有意義であった。 活動事例や「共同活動状況写真」については、別添の当組織で発行した4年分のリーフレット（「農村環境を守るために」）を参照してもらいたい。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	米山地域農地・水・保全向上組織	代表	戸田 久一
協定面積	田 35.0ha 畑 ha 計 35.0ha	対象面積	田 35.0ha 畑 ha 計 35.0ha		
管理施設	開水路 8.7 km ため池 7ヶ所	農道 6.9 km	パイプライン km		
構成員	農業者 33人 農業団体 5団体	非農業者個人 10人 非農業団体 8団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの向上組織は、” 守り伝えよう豊かな自然を ” スローガンに地区内に看板を作成し往来の多いT字路2箇所に設置致しました。当地域には梶木沢堤、宮沢堤、権現沢堤等の6堤農業用水及び冬期間の消流雪水としても使用されており、また、水田はみどりのダムの役割と豊かな景観を提供してくれることから代掻き前と代掻き後に役員と子供会一緒に水質モニタリング調査、その結果を全戸に配布し泥水流出防止に努めてまいりました。また春のクリーンナップ、夏の美化活動として新たに花壇造成と花植え、道路の草刈、バス停留所清掃、鉢植え等構成員全員参加の一大イベントをしました。少子高齢化により今後も農業用水を地域用水として、農村景観についても、より一層地域全体でとりくんでいくことが涵養であります。当組織のアンケート調査結果、共同活動参加の高齢化率が10年後は5割近くになるため農地の集約化、機械の共同化、農業の協同化による作業の効率化を図り婦人会、和会、子供会との連携を密にし集落内の伝統行事を維持存続しながら地域間交流を密にして共同活動の絆を深めていきたいと思ひます。

水質モニタリング調査する
子供会及び役員の皆さん

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	森子環境活動組織	代表	熊谷 芳紀
協定面積	田 40.3ha 畑 0.8ha 計 43.1ha	対象面積	田 40.3ha 畑 0.8ha 計 43.1ha		
管理施設	開水路 16.4 km ため池 ヶ所	農道 5.7 km	ハﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ km		
構成員	農業者 32人 農業団体 1団体	非農業者個人 76人	非農業団体 8団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当集落に於いては、従前より水路の泥上げ・草刈・農道の砂利敷き等は、生産部・水利組合が中心になり農業者負担で行って来た。当環境保全の補助により負担もなくなり、非農業者も参加して集落一体で環境整備に当たれる様になり、集落の一体感が生まれて来た。

水害の度に崩壊する農道もL字型側壁で整備出来、従前より懸案で有った小水路の破損・裏込材の重鎮なども補修する事が出来た。23年度の水害に於いては素早く対応出来、水路の砂利・石の撤去、農道法面の崩落、水路法面の崩壊などの復旧作業に取り組めた。

全般の活動に際し参加人数も9割方、また植栽や施設のゴミ拾い等で、子供から老人まで環境保全の大切さが認識されて来たように思う。

農業者、非農業者の区別なく全員で環境保全に取り組める当制度の継続を今後も願うものである。

きめ細やかな雑草対策

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	小菅野活動組織	代表	畠山 晃一
協定面積	田 32.9ha 畑 ha 計 32.9h	対象面積	田 32.9ha 畑 ha 計 32.9ha		
管理施設	開水路 6.4 km	ため池 2ヶ所	農道 2.6 km	ハ°イ°ライ°	km
構成員	農業者 26人	農業団体 1団体	非農業者個人 9人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は山間にある小集落とその地域に農地を保有する周辺集落の数人の耕作者で構成されている。小菅野集落は戸数27で住民は100人に満たない。しかも近年の少子高齢化の波は避け難く集落内の人口は自然減、社会減とあいまって減少の度合を一段と加速させつつある。だから集落内での人と人との繋がりがだんだん弱くなり、地域での共同作業や集落のはたらきを維持する為に受け継がれてきた事業などもそのまま維持することが困難になりつつあった。そういう状況の中でこの事業に取り組むことができたことによって地域での共同のはたらきを活性化し、世代を越えた住民同士の連帯感を強めることに役立ったと思われる。

又、ハード面では大型圃場整備事業終了後20数年を経て老朽化が出てきていた溜め池や開水路、農道等を重点的に補修改善できたことはとてもよかったと思っている。



市道脇の荒地を整備しポット苗を植栽しながら景観を維持する為地域一丸となって取り組んでいます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	久保田集落活動組織	代表	須田 英也
協定面積	田 36.5ha 畑 ha 計 36.5ha	対象面積	田 36.5ha 畑 ha 計 36.5ha		
管理施設	開水路 15.5 km	ため池 ヶ所	農道 6.5 km	ハ°イ°ライ°	km
構成員	農業者 12人	農業団体 1団体	非農業者個人 19人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

久保田集落活動組織では、未来の集落後継者に豊かな緑と清流を残してあげたいとの思いからこの活動を行ってきました。春から夏にかけて農業用水として使用している久保田川の清掃を行っております。その成果として、春には桜並木の下に集い、夏には源氏ボタルが飛び交い、秋には鮭の遡上が多くなり近隣の地域住民の話題となっております。この活動を集落全体で継続して行くとの思いが1つになったことは、今後の集落活動に大きな力となっております。また、この活動を通して集落が、農業施設であっても集落全体で維持管理をしなければ環境は、良くなれないという思いで今後も頑張る地域を活性化して行きたいと思っております。



PTA・地域住民と連携し農業用水路の環境美化運動を通し生物がすむ環境に配慮する心を育てる。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	五十土地域資源保全向上活動組織	代表	加藤 富男
協定面積	田 47.5 ha 畑 ha 計 47.5 ha	対象面積	田 47.5 ha 畑 ha 計 47.5 ha		
管理施設	開水路 21.8 km	ため池 2ヶ所	農道 12.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 45人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	7団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動組織では、圃場整備された緑豊かな水田風景、地域を流れるきれいな水を子供たちに受け継いでいくことを目標に活動を行ってきました。 圃場整備後20年以上経過し、施設の保安全管理にお金がかかるようになってきましたが、地域みんなで農業施設を“長持ちさせよう”、“自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”という機運が今まで以上に高まり、活動がスムーズに実施できるようになりました。この事業に取り組んで、地域のみんなから感謝されております。 これからも“自分たちで出来ることは自分達で頑張ろう”の精神で地域を盛り上げたいと思います。					
					
				U字溝等施設の補修を行っています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	陣ヶ森環境保全組織	代表	阿部 弘行
協定面積	田 24.3ha 畑 ha 計 24.3ha	対象面積	田 24.3ha 畑 ha 計 24.3ha		
管理施設	開水路 7.12 km	ため池 ヶ所	農道 3.16 km	排水路	km
構成員	農業者 15人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 背後に豊かな森があり正面には鳥海山を望む恵まれた環境にある組織ですが、集落地域が県道沿いにあることもあって、心無い人々が捨てるゴミが水路や側溝に詰まり悩まされてきました。また、従来から子供会でクリーンアップを行って来ておりましたが、少子化と高齢化が進んできていることもあって不安を感じていたところでした。 この事業に取り組むことになって、従来にまして地域住民の環境保全に対する意識が向上してきたと感じます。 五年間の活動を通じて、花の植栽やクリーンアップは夏の住民の交流の場として定着しました。 非農業者の水路の泥上げや農道の整備を通じて農業用水路が持つ多面的機能や普段散歩に利用している農道の保全に理解を示し参加しています。 啓発看板の設置により道路沿いのポイ捨て空き缶も減少してきました。 今後も住民間の交流、協力を通じて、地域の環境の保全に取り組んでいきます。					
					
				集落住民との交流を通じ、花の植栽やクリーンアップ・草刈・農道整備など、地域環境の保全に取り組んでいます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	曲沢農地・水・環境保全向上活動組織	代表	高橋 昭
協定面積	田 124.3ha 畑 ha 計 124.3ha	対象面積	田 124.3ha 畑 ha 計 124.3ha		
管理施設	開水路 35.9 km ため池 2ヶ所	農道	8.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 137人 農業団体 4団体	非農業者個人	158人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち活動組織は資源保全向上活動を通じて、曲沢地域、前郷古川排水路維持組合に存する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目標に活動を行ってきました。はじめての取り組みで、地域設定、実施計画策定、活動実施等戸惑いながらの活動となりました。しだいに活動の目標、意義が構成員に理解されるようになり活動に活気が出てきました。 農業者の高齢化が進む中で世代間の交流、集落内外の環境保全では農業者と非農業者が共通の認識を共有することが出来ました。保護者、子供会を中心に取組まれた水質調査、ホタルの生態調査では自分たちの住んでいる環境を知る貴重な活動となりました。 圃場整備から二十数年が経過して水路、農道の破損が進み苦慮しておりましたが構成員が一体となって農業施設の保全管理活動ができ感謝されております。 高齢化、過疎が進む中で地域の環境保全向上を図るためには、よりいっそう絆を深め、共同意識を持ち、支えあっていかなければならないと強く感じました。					
					
				農業者とひ農業者参画による休耕田の保全推進	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	前郷本田活動組織	代表	庄司 和夫
協定面積	田 86.8ha 畑 ha 計 86.8ha	対象面積	田 86.8ha 畑 ha 計 86.8ha		
管理施設	開水路 16.1 km ため池 2ヶ所	農道	9.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 91人 農業団体 2団体	非農業者個人	30人	非農業団体	団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 基盤整備から20年たち開水路。ため池・農道等の修理が80%できたことに感謝お申しあげます。 この事業をやったおかげで地域の人たちが本当にまとまることができました。この事を若い人達に受け継いでいってもらいたいと思います。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	黒沢・鎌田地域環境向上活動組織	代表	畠山 登喜夫
協定面積	田 49.7ha 畑 ha 計 49.7ha	対象面積	田 49.7ha 畑 ha 計 49.7ha		
管理施設	開水路 9.2 km ため池 1ヶ所	農道 7.2 km	ハ゜イﾌﾟﾗｲﾝ km		
構成員	農業者 55人 農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち集落において、子供から老人まで農村環境をいかに守るかそれぞれの役割分担をしこの豊かな田園風景を今後にも受け継いでもらうため活動をしてまいりました。

子供たちは、地域の美化をするために、クリーンアップと花の植栽を担当し、また老人クラブにも花の植栽と管理を担当して頂き春から秋まで花のある集落にすることができました。

また、国道には地域の美化の啓蒙を図るため看板を設置することにより以前よりゴミや空き缶等のポイ捨てが減少いたしました。

環境面では、堤の泥上げや草刈り等の整備を行うことにより水質の向上やホタルなどが増えました。

農道のカーブの舗装することによりU字溝に砂利等が入らなくなり管理が楽になりまた砂利敷きも容易にできました。

今まで5年間で農業者以外の方も農業用水のもつ多面的機能に理解を示し集落内が結束致しました。

今後もこの環境を末永く維持して、集落営農・認定農業者を中心に営農を維持致します。



開水路泥上げ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	東鮎川地域農村環境保全協議会	代表	佐藤 一
協定面積	田 80.5ha 畑 ha 計 80.5ha	対象面積	田 77.9ha 畑 ha 計 77.9ha		
管理施設	開水路 12.2 km ため池 2ヶ所	農道 10.3 km	ハ゜イﾌﾟﾗｲﾝ km		
構成員	農業者 175人 農業団体 3団体	非農業者個人 308人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

本協議会では、住み慣れた農村地域を将来にわたってこの農業基盤を支え、環境の向上を目指すため、農業者だけでなく住民・集落会・関係団体が参加し活動を展開してきた。

活動は、これまで農業者が行ってきた農地の保全活動に加えて、施設を長持ちさせるようなきめ細かな補修や農村地域の自然や景観を守る共同活動を実施してきた。

特に、集落内を流れる農業用水路は、その多面的な機能を理解し、毎年4月農業用水を流す時期にあわせて地域住民全員で水路の清掃などその保全を実施している。また、農村環境保全のため道路花壇の整備や農道・水路のクリーンアップなど子供会と老人クラブが主体となって、まさに異世代協働し活動している。こうした活動で農村地域の環境を次世代にわたり保全することの大切なことを子どもたちが学ぶ機会となっている。

この協議会の活動を5ヵ年継続してきて、農村環境を農業者だけでなく地域住民みんなで守ることの大切さを学びこれからも継続してゆくことを確認している。農業者も農地の保全や農業施設の保全は、農業者のためだけでなく農村地域の環境保全のためにも重要であり、地域住民からも期待されていることを確認している。



堤土手の法面草刈り

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	南福田地区緑と農地を守る会	代表	鈴木 照久
協定面積	田 44.0ha 畑 ha 計 44.0ha	対象面積	田 44.0ha 畑 ha 計 44.0ha		
管理施設	開水路 5.6 km	ため池 ヶ所	農道 4.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 57人	農業団体 4団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

緑と農地を守る会は、南福田地区の水田・水路を含む地域の自然を農業者・非農業者を問わず集落全体で保全管理に取り組むことを目標として活動を行ってきました。取組当初は、水田関係の施設の維持管理について、非農業者から『なぜ農家じゃないのに、出役しなければ行けないのか』などと言われたりもしましたが、年数を重ねるにつれ『地域の自然は地域で守る』という意識が芽生え、集落全体の事業として定着し、近年は農業施設にとどまらず国・県道の法面や堤防の草刈りまで行うようになっております。

また、子どもたちにも集落バス停へのプランター設置や集落内の国・県・市道のクリーンアップを行ってもらい、農業や環境の大切さを学んでもらっています。

事業に取り組んでからは、非農業者も農地や農業施設に興味を持ち、積極的に活動に参加していただいておりますし、集落では10年後の将来展望の話し合いも行われるようになりました。

この機運をこれからも持ち続け、地域全体がひとつになり、農地や農業施設だけでなく地域全体の自然を守り続けて行きたいと考えております。



豪雨により、土砂で埋没した幹線用水路の泥上げを、被災翌日、地域一丸となり行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	町村蒲田地域環境保全向上活動組織	代表	木内 鉄男
協定面積	田 26.85ha 畑 ha 計 26.85ha	対象面積	田 26.85ha 畑 ha 計 26.85ha		
管理施設	開水路 3.3 km	ため池 ヶ所	農道 4.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 30人	農業団体 4団体	非農業者個人 8人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の活動組織は2集落で構成され、主たる集落は町村集落の農業者で組織され、同地区に土地を所有している蒲田集落の構成員で成り立っています。

この事業での成果は農業者・非農業者ともに地域の環境保全への意識が高まったことにあります。

農道の整備については以前は費用負担の問題で敷設がままありませんでしたが、5年間で全域の砂利を敷くことができ、非農業者からの参加も取り付けることができました。

人的負担が多い草刈作業も積極的な参加が見られ、時間短縮に大きな貢献が見られました。

老人クラブ・子供会なども植栽作業・クリーンアップで汗を流し地域の環境向上に活躍してくれました。

役員においても多忙の中、構成員以上に活躍をし計画事業遂行に大きな貢献を果たしそつなく5年間を終えることが出来たのはこの事業への意図の浸透にあったと思われます。

この先もこの共同活動で環境保全への貢献が役立って地域が整備されていくことを願ってやみません。



砂利敷きによる農道整備により、景観も整い通行への支障がなくなった

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	牛寺みどりの会	代表	吉尾 栄
協定面積	田 20.6ha 畑 ha 計 20.6ha	対象面積	田 20.6ha 畑 ha 計 20.6ha		
管理施設	開水路 7.1 km	ため池 1ヶ所	農道 3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

牛寺みどりの会は、水清き地肥える心豊かな出羽の山々に囲まれた中山間地域で生活している組織です。

地域における農業用水は、土地改良区が管理する六ヶ村つつみと町内会にある2つの堤を水路と揚水機により利用しています。防火用水としても大きな役割りを果しています。余った水は、再び赤田川に戻り下流域で利用されています。

農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで水を守り、質的な向上を図るために頑張るようになったのは、この活動の成果と考えます。

当会は赤田の大仏様に隣接しており、たくさん訪れる観光客に豊かな農村環境景観を提供しようとアイデアを出し合って頑張っています。

子供たちの美化活動、サツマイモ畑、老人クラブと一緒に花植え等、多くの会員の参加が見られるようになりました。小さな町内ですが、地域のまとまりが以前よりも活動を重ねる毎に濃くなってきました。特にサツマイモ畑の活動は好評で参加者も多く、生産と試食を通し地域の子供たちに農業と環境の大切さに親しむ心を育てつつあると思います。

種から植え付けし町内全体を花でいっぱいになるようになったのも、この活動の成果と確信しています。

まとまりという種が絆という花を咲かせ、自分たちのふるさとを将来につなげるこの活動で自分たちが得たものは、大変大きいものだと思います。

この活動に参加し活動したことを自信にして、更にふるさとを水を大事にしていきたいと思っています。



花いっぱいになった牛寺地域

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	女岡環境を守る会	代表	菅原 隆一
協定面積	田 19.7ha 畑 ha 計 19.7ha	対象面積	田 19.7ha 畑 ha 計 19.7ha		
管理施設	開水路 4.4 km	ため池 ヶ所	農道 2.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 14人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

女岡環境を守る会は、霊峰鳥海山を望み、出羽丘陵に囲まれた自然豊かな環境にあり、古くから農業を基盤とした生活が営まれてきました。

活動内容としては、赤田川の女岡頭首工の施設点検、農道沿線の雑草刈り払いやクリーンアップによる美化、水路の補修と災害時の見回り、地域の子供会、少年会、老人会を交えての花植え作業、近隣の小学校で生徒たちとプランターに花を植える作業等を行ってきました。

農家以外の方々にも積極的に参加していただき、5年間を無事に終了することが出来ました。

この事業を通し、環境保全の意識が高まり、地域の連帯感が生まれたことにより、今後もこの活動を継続することにより、地域の基盤である美しい農地・水を未来に託していきたいと願うものです。



近隣の小学校で生徒たちとプランターに花植え（上）と老人クラブを交えて沿道に花植え（左）

農地・水・環境保全向上対策、共同活動等報告

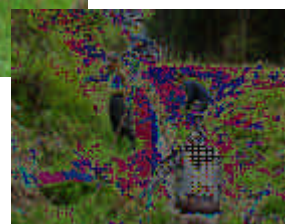
市町村名	由利本荘市	組織名	岩谷麓環境保全活動組織	代表	石井 清
協定面積	田 30.4ha 畑 ha 計 30.4ha	対象面積	田 30.4ha 畑 ha 計 30.4ha		
管理施設	開水路 9.0 km	ため池 9ヶ所	農道 2.4 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 54人	農業団体 4団体	非農業者個人 86人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、東、西、北の3方を丘陵に囲まれ、南に開けた緑豊かな地域であります。当地域は河に恵まれないため、農業用水、生活用水として利用するために藩政時代からため池が造られ、大雨の時にはダムの役目をはたし、災害を防いできました。しかし、ため池は造築後永年を経て老朽化が進み、又圃場整備と共に敷設された用水路は30年が経過しており、各所で補修が必要となってきている。そして、農家の減少も著しく、農業者だけでは当地域を支えることも難しくなっている。このような状況の中で、農業者・非農業者の総出での水路や農道、畦畔の草刈りや泥上げなどの活動を行ってきました。この活動の中で、非農家の若い人たちの参加が当地域に活気をもたらしました。

また、子供会や婦人会、寿会など広い年代の多くの団体が参加して花を植え、クリーンアップを行い地域の景観を豊かにしてきました。このように、農家・非農家、老若男女の別なく活動してきたことが地域の伝統行事である、折渡地蔵尊例祭やワタワタの継承に大きな力となっている。

この5年間の活動を活かし、農村として機能と景観を保ち、そして伝統を受け継ぐため地域が一体となって活動していきたいと皆で話し合っております。



子供会による花植え(上)と農家・非農家による草刈・泥上作業(下)

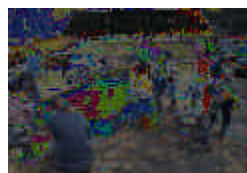
(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	大内三川ほたるの会	代表	三浦 幸夫
協定面積	田 54.5ha 畑 ha 計 54.5ha	対象面積	田 54.5ha 畑 ha 計 54.5ha		
管理施設	開水路 19.3 km	ため池 4ヶ所	農道 8.6 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 64人	農業団体 3団体	非農業者個人 17人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

大内三川ほたるの会において、当初実施計画「地域の目指すべき今後の方向」について。緑豊かで、清流の流れる古里。だれしものが憧れる農村の原点。地域全員で取り組むべく「ぐるみ集会」を開催し、意思の疎通を図りながら、一人ひとりが出来ること「身の回りや、家庭環境、そして美しい地域づくり」を目標に、いつか「ホタルが戯れる里づくり」をめざし、活動に取り組んで来ました。活動内容としては、5月の清掃活動として、子供たちを主とする農道、一般道の空き缶、ごみ拾いのクリーンアップ。休耕田を利用した作付として、コスモスの播種においては、保育園児による摘み採り体験。又、溜池泥浚渫においては、溜池の生態系調査を通して、普段目にする事のない地域内の環境施設を、体験、観察してもらう事で、次世代につながる環境保全を担ってくれるよう計画したところ大変好評でした。共同作業についても、以前よりは若者の参加者が増えており、活動に対する関心度を確認するものです。

比較的恵まれた水系、農地環境を次世代につなぐために、この活動に大きな期待が寄せられています。



「溜池の生態系観察」普段見ることのないため池での交流活動。保育園児による、コスモスの摘み取り体験

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	徳沢環境保全活動組織	代表	工藤 秀男
協定面積	田 26.3ha 畑 ha 計 26.3ha	対象面積	田 26.3ha 畑 ha 計 26.3ha		
管理施設	開水路 6.9 km ため池 1ヶ所	農道 3.6 km	ハイクライン 1.5 km		
構成員	農業者 33人 農業団体 1団体	非農業者個人 37人	非農業団体 1団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

農村の豊かな自然環境や景観は、農家だけのものではなく地域全体の貴重な資源であり、食料生産はもちろんのこと洪水防止や地下水の涵養、水質や空気の浄化と様々な多面的機能を果たしておりますが、農家の高齢化や地域の混住化が進行し、農地や農業用施設の保全管理していくことが難しくなっている現状で、当活動組織では農業者以外の方々の参加する地域ぐるみの共同活動で、この資源の保全活動に力をあわせて活動に取り組むことにより、地域ぐるみのつながりを次ぎの世代へとつなげていく一助となっている。農業生産面では、動力噴霧機械を共同購入し、水稻の病害虫の防除を行うことで、農業生産意欲の向上が図られている。

8月7日には徳沢共同組合が主体になり地蔵尊の祭典をおこなって自然の恵みに感謝する行事をおこなっており、今後も農村環境の啓蒙・啓発に取り組んでいきたい。

この活動の取組みにより地域内の連帯感が深まり、地域共有の資源である農地・農業用水等の保全管理を継続していきたいと思います。



農業者、非農業者全員参加で農業用施設の草刈りや清掃活動を行います。(異常出水後の共同管理)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	北福田環境保全活動組織	代表	小嶋 宏
協定面積	田 21.7ha 畑 ha 計 21.7ha	対象面積	田 21.7ha 畑 ha 計 21.7ha		
管理施設	開水路 11.7 km ため池 4ヶ所	農道 8 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 303人 農業団体 1団体	非農業者個人 20人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、春には秋葉公園の大堤にある桜約90本が満開になり、夏は子供たちが大堤で魚とり、秋には白鳥が水田や大堤に飛来するという誠に自然環境に恵まれた農村地帯です。

平成19年、本事業に取り組んだと同時に営農組合を立ち上げ、米づくりを中心に野菜栽培にも励んでいます。

平成21年に話し合いをした“体制整備構想”を機に、農業者はもちろん、非農業者も一体となって北福田の地域環境を守りぬくという意識が強固になりました。

幸い北福田には、先人が築いた恵まれた豊かな自然(山林・田畑)があります。

これらの維持・管理に当事業を積極的に活用して、住民一丸となって取り組むことを誓っています。



満開となった大堤の桜(上)と桜の苗木植え(左)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	松本環境保全の会	代表	三浦 直志
協定面積	田 43.7ha 畑 ha 計 43.7ha	対象面積	田 43.7ha 畑 ha 計 43.7ha		
管理施設	開水路 10.3 km	ため池 11ヶ所	農道 2.8 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 39人	農業団体 3団体	非農業者個人 20人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

出羽丘陵地帯の山々に囲まれた中山間地域で、集落の中央に国道(105号線)添いに一級河川(芋川)が流れ、また、地域には、東には、大内中学校と西には下川大内小学校があり、児童生徒の通学路がありまして、環境美化等には以前から集落を挙げて、取り組んでいます。集落内外の老若男女方々が、地域の道路を散歩(ウォーキング)されています。

そこで、当、事業に理解がありましたので、松本集落一体で取り組みました。

農道は、散策、学校ランニングコースであります。

基礎活動の水路(主に市道添)泥上げ、草刈り等美化は、年々、農業者だけでは長い用・排水路・農道、多くのため池等の維持管理が大変でありました。用水路泥上げ作業を通し農家、地域住民、特に若い世代の方が積極的に活動に参加が見られるようになりましたし、事業以外の奉仕作業にも多く出席するようになりました。

下川大内小学校生徒の松本町内児童で、実施した地域中央流れる一級河川(芋川)と深山から流入しています普通河川(矢野沢川)の水質調査を地域先輩の協力のもと

22年度、23年度下川大内小学校生徒の松本町内児童で、実施した地域中央流れる一級河川(芋川)と深山から流入してる普通河川(矢野沢川)の水質調査

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	堀切いちちょうの会	代表	真坂 平通
協定面積	田 29.3ha 畑 ha 計 29.3ha	対象面積	田 29.3ha 畑 ha 計 29.3ha		
管理施設	開水路 6.6 km	ため池 4ヶ所	農道 5.5 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 32人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

この組織名は、地域内に県指定天然記念物のいちちょうの巨木があり、町内会員みんなが親しくこの事業に取り組んでもらおうとこの名称を付けました。

私たちの地域は東西に4kmと長い所に34世帯が生活している山間部で、後ろは秋田市雄和に隣接している集落です。この町はずれの小さな集落を花のある地域にしようを合言葉に活動してきました。老人クラブ、婦人会が中心となり、農道等に植栽を行い、子供会は水質調査や道路のゴミ拾い、生産班や地域の人たちは農道、休耕地、畦畔などの草刈りや砂利敷き整備を行ってきました。

そして、集落の道路も?堀切花街道?として植栽し、心安らぐ地域に、子供たちには花のある美しいふるさとをいつまでも心に残ってもらえれば、と地域の住民が一体となって活動してきました。

町内会のみんながよき故郷を作ろうと一丸となって取り組めたことにより、この小さな集落がよりまとまりのある地域になりつつあることを実感しているところです。

老人クラブ、婦人会が中心となり子供会と一緒にみんなで植えたさつまいもの収穫を行いました。

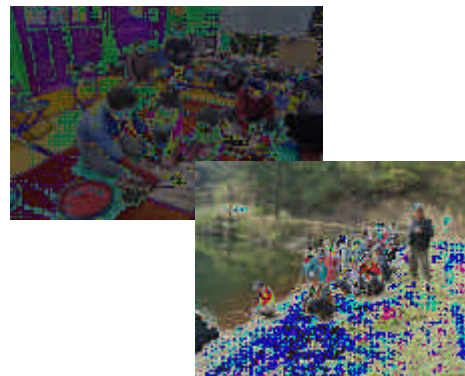
(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	平軸環境保全活動組織	代表	佐々木 源治
協定面積	田 24.0ha 畑 ha 計 24.0ha	対象面積	田 24.0ha 畑 ha 計 24.0ha		
管理施設	開水路 6 km	ため池 4ヶ所	農道 4.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 28人	農業団体 6団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の平軸環境保全活動組織は上川大内地区と下川大内地区の境、芋川に架かる平軸橋を渡った芋川右岸に位置しています。地域内の農地の灌漑は、かつては江戸中期に造られたといわれた芋川の太平堰堤から取水して用水堰を流し、昭和初期まで利用していましたが、今は葎沢堤・溜池・揚水機の灌漑が中心であり、葎沢堤は現在改修工事中です。地域は古くから農業に取り組む意欲の高い所で、大正3年には他集落に先駆け耕地整理に着手しており、さらに昭和50年～51年には第2次構造改善事業により共同育苗施設や農業機械の共同利用施設の導入、養豚団地など、農業経営の近代化・効率化などに積極的に取り組んできました。しかしながら近年は他の地区同様に中心的な経営者の年齢が高く、本事業導入を契機に集落農業の将来や後継者問題を真剣話し合う機会が増えました。また町内会等各組織の役員も若返りました。葎沢堤の改修は地域の水資源環境を多面的な視点で考えるきっかけとなりました。

本事業を通じて構成員の中に、自分たちの地域、そして農業と農地をどう守り、将来に引き継いでいくか。真剣に考えようとする芽が生まれ来ていると思います。



地域住民交流では景観作物を栽培し、そば打ちや餅つきなどの交流を図りました。葎沢堤の改修を機に水資源保全に関心も高まっている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	朴沢環境保全活動組織	代表	伊藤 金一
協定面積	田 14.5ha 畑 ha 計 14.5ha	対象面積	田 14.5ha 畑 ha 計 14.5ha		
管理施設	開水路 2.9 km	ため池 2ヶ所	農道 1.7 km	ハ°イ°ライン	0.5 km
構成員	農業者 20人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、山々に囲まれた中山間地帯である。その低い地域を流れる芋川流域に沿って下畑地区、馬渡戸地区、北坂地区の三地区がI期対策5年間の活動の拠点である。

この地域は芋川が氾濫すれば3分2が水没をして大河に変貌する所でもある。そうした中でこの地域の農業者・町内会・老人クラブ・管理組合・婦人会らの一体した協力と共同の力で農道の整備、開水路の泥上げ、放置されていた農地の草刈り、集落の環境保全、花などの景観形成に努めました。しかしながら水害地帯の常襲地域でもあり、まだなさなければ成らないところもあり充分とは言えない面もありますが限られた補助金の予算内の中でありますので仕方がないと想っております。

今後継続される次期対策に期待をしながら活動報告と致します。



春の開水路の泥上げ作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	新田水とみどりの会	代表	佐々木 恭悦
協定面積	田 40.1ha 畑 ha 計 40.1ha	対象面積	田 40.1ha 畑 ha 計 40.1ha		
管理施設	開水路 10.7 km ため池 ヶ所	農道 4.8 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 32人 農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) もう5年もうろうかと思ひ、ありがとうございます。初めは経理等で戸惑いましたが、町内のみなさんから励まされ、どうにか過ごすことができました。 私たちの組織は、新田町内会と板井沢町内会で構成されておりますが、ご多分に洩れず、後継者不足と老人人口だけ増える現実ですので、いかにして環境を整えるかですが、この事業はありがたい事業です。 町内には用水路や側溝など水が淀む場所も多くありますが、両町内会員は早朝から泥上げや草刈りにも積極的に参加してもらえるようになり、絆を深めております。 農道には碎石の補給や開水路の補修などにも利用させてもらい、早期に補修することで長持ちに繋がります。 また環境美化としては、2ヶ所に花壇を作り花を植え、田んぼ脇の道路の両側にマリーゴールド等を植えて道行く人の目を楽しませております。 何よりも両町内会110戸の絆が深まったことは、明るい希望と思ひ、これからもよろしくお願ひします。					
				 	
				毎年恒例のマリーゴールドの花植え (上)と早期の補修で施設を長持ち に(下)	

農地・水・環境保全向上対策、共同活動等報告

市町村名	由利本荘市	組織名	美しい高瀬地区をつくる会	代表	金子 拓雄
協定面積	田 77.9ha 畑 ha 計 77.9ha	対象面積	田 77.9ha 畑 ha 計 77.9ha		
管理施設	開水路 24,7 km ため池 3ヶ所	農道 9,5 km	ハイクライン km		
構成員	農業者 86人 農業団体 7団体	非農業者個人 4人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の地域は、出羽丘陵地帯の山々に囲まれた中山間地地帯である。土壌も豊かで自然環境にも恵まれており、米や野菜栽培、牛の飼育農家が多く、中でも全国的にも珍しいフランス鴨生産に携わっている農家もあり、土と水に深い関わりを持っている農業の盛んな所であります。更に農家以外の人達にとっても地域が大事にしなければならない山紫水明なるこの山里をみんなで守ろうとしていところす。そのようなことで四季折々に彩なすこの自然の宝物を、地域の大きな財産として将来を背負って立つ子供達に継承していかなければと考へ私達の活動組織を「美しい高瀬地区をつくる会」としたところであります。この会組織の目的は、先ずは該当エリア農地や農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的な向上を図ることであり、この5年間の活動を通して構成員農家は勿論、地域の一般住民の人達も本事業に対する関心度が大いに高まり、本事業に携わってきて良かったと考へております。特に、地元小学校の学習の一環として実施した「水中生物調査」「水質調査」「高瀬川源流探訪」等々事業は、児童生徒の体験学習として大変に得難いものであると好評でありました。そのことにより水や農業に対する理解も深まったことと確信しているところであります。					
				 	
				22年度・23年度堤干し後の生態系保全を 東由利小学校児童が授業の一環として ブラックバス捕獲にも奮闘、喜ばれまし	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	由利本荘市	組織名	西目環境保全活動の会	代表	加川 一男
協定面積	田 263.7ha 畑 ha 計 263.7ha	対象面積	田 143.6ha 畑 ha 計 143.6ha		
管理施設	開水路 39.9 km ため池 ヶ所 農道 0.9 km	ハ°イ°ライン	#### km		
構成員	農業者 140人 農業団体 2団体	非農業者個人 人 非農業団体 29団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

西目環境保全活動の会では山紫水明の象徴である烏海山を借景とし、それに展がる風光明媚な田園風景とその中央を流れる二級河川西目川とその支流の流水環境を保全し、子供達に引継ぎ、そして、子供達の体験学習を通して農業農村に関心を寄せていただき地域全体で町の環境と農業を守り継ぐことを目標とし、西目地域を一つの活動団体として組織し活動をしてきた。

この地域では旧西目町当時から、あらゆる事業の推進は「全町公園の町」を基本として進められておりましたので全町民参加型の農地・水・環境保全向上対策の共同活動の取り組みに対する理解が良く活動の推進力となっている。

活動の主な内容は水門等農業施設の点検、幹線市道、農道の沿線の雑草刈払いと滞留土砂の浚渫、花、木の植栽と植栽後の管理、そして、小学生と幼稚園児の共同田植、稲の刈取り、自然乾燥と一連の稲作を体験し収穫した米は学校給食で利用し、一部は東京のふる里会での消費拡大として利用し好評を得ている。又、小学生は親水公園の清掃と水質調査、河川での魚類生息調査をし環境の変化を観察し、学習効果が出ている。特に、体験活動により農業に関心を持つようになり、ふる里発見にもつながり将来の地域の活動向上が期待できる。

この活動の取組みにより地域内の連帯感が深まり、環境保全意識の向上に寄与されているばかりでなく農業に対する関心が深まってきており、効果が大きく本事業の継続に大きな期待が寄せられている。



秋晴の空の下、5年生児童や年長児と一緒に稲刈り作業を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	にかほ市	住 所	にかほ市金浦字花潟93-1	電 話	0184-38-4303
担当部署	産業建設部 農林水産課 農業農村振興班	担当者	副主幹 佐藤 孝司		

(5年間の感想等記入)

にかほ市は、県南西部に位置し、南に烏海山、西に日本海を望む山と海に抱かれ、気候も県内では最も温暖で、降雪量も最も少なく、貴重な自然遺産や長い歴史の中で育まれた伝統文化・芸能などが豊富にある地域です。

全国的に問題となっている過疎化・高齢化等の進行による集落機能の低下は本市も例外ではなく、「緑豊かな森、美しい清流など恵まれた自然に生まれ、田園と都市が調和する地域づくり。」をスローガンに平成19年度から開始された農地・水・環境保全向上対策に取り組む活動組織に対し、市も全面的に協力し、5年間の活動を見守ってきました。

事業の開始当初は、農業者以外の方々も一緒になって活動するといった取り組みに戸惑いをみせる組織も多々あり、地域をあげての共同活動への取り組みとは何か、試行錯誤の連続だったと思います。

1年、2年と経過し、ようやく自分たちの地域(集落)では何が必要なのか、また、自分たちの地域で取り組めることは何があるのか、といったことを地域全体で考え、地域が一体となって自主的に取り組む姿勢がみられるようになってきました。

農家を主体とした自主的な共同活動はもちろんのこと、婦人会・老人クラブによる花の植栽、地域の子供たち・その保護者を巻き込んでの環境保全活動など、それぞれの地域の実情に即した活動や取り組みは、今では地域の恒例行事として定着しているところも数多く見受けられます。

「自分たちの地域は自分たちの手で守る」といった意識が地域内で芽生えてきたこと、今まではあまりなかった世代を超えてのコミュニケーションづくりなど、この5年間の共同活動によって、これからの農業への取り組みや、今後の地域づくり・活性化のための第一歩が踏み出せたことは、大変喜ばしいことだと思います。

今後の活動組織の取り組みが、より一層地域に根付き、さらなる向上が図られることを期待します。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

にかほ市	耕地面積	田	3,350 ha	畑	428 ha	合計	3,780 ha
平成19年度	協定面積	田	1,476.47 ha	畑	0.00 ha	合計	1,476.47 ha
平成20年度	協定面積	田	1,476.47 ha	畑	0.00 ha	合計	1,476.47 ha
平成21年度	協定面積	田	1,476.29 ha	畑	0.00 ha	合計	1,476.29 ha
平成22年度	協定面積	田	1,476.11 ha	畑	0.00 ha	合計	1,476.11 ha
平成23年度	協定面積	田	1,476.11 ha	畑	0.00 ha	合計	1,476.11 ha

(支援交付金実績)

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	1,418.65 ha	62,420,600円
平成20年度	対象面積	計	1,418.65 ha	62,420,600円
平成21年度	対象面積	計	1,418.47 ha	62,026,800円
平成22年度	対象面積	計	1,418.29 ha	61,268,240円
平成23年度	対象面積	計	1,418.29 ha	55,073,581円
合計				303,209,821円

活動組織名称

にかほ市

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0302	芹田環境保全向上活動組織	0310	伊勢居地地区環境保全活動組織
0303	三森環境保全向上活動組織	0311	東畑環境保全向上活動組織
0304	中三地地区環境保全活動組織	0312	下坂地区環境保全活動組織
0305	衣川地区環境保全活動組織	0313	釜ヶ台環境保全向上活動組織
0306	小国環境保全向上活動組織	0314	冬師地区環境保全向上活動組織
0307	畑環境保全向上活動組織	0315	黒川環境保全向上活動組織
0308	院内環境保全向上活動組織	0316	飛地区環境保全活動組織
0309	石田環境活動組織	0317	赤石地域農地・水・環境保全向上活動組織

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	芹田環境保全向上活動組織	代表	阿部 幸彦
協定面積	田 74.4ha 畑 ha 計 74.4ha	対象面積	田 74.4ha 畑 ha 計 74.4ha		
管理施設	開水路 5.8 km ため池 ヶ所	農道	10.3 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 31人 農業団体 1団体	非農業者個人	2人	非農業団体	8団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 本地域には、国指定の史跡、波除石垣や港があり、農業・漁業・生態系について、水質モニタリングや小学校PTAによる生き物調査も行い、学校教育と連携し子供の情操を育む等環境を行える活動を進めて参りました。 また、白雪川、小川周辺や集落内の施設について関係組織が参画し、草取り作業・水路の泥上げ、農道補修など資質向上を図る活動を今後も実施し、様々な機能をもつ農業、農村、地域を活かす取り組みを行っていききたいと思います。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	三森環境保全向上活動組織	代表	佐藤 一夫
協定面積	田 37.7ha 畑 ha 計 37.7ha	対象面積	田 37.7ha 畑 ha 計 37.7ha		
管理施設	開水路 11.1 km ため池 ヶ所	農道	11.5 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 67人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の活動の場である、三森地区は基盤整備が行われておらず、農業の基盤である農道、水路の破損が目立ち、特に地域の基幹水路である「大堰」は今すぐにでも改修しなければならない所が何箇所か有りました。 この5年間で破損箇所の改修、破損予防の為の改修、水路を使い易くする改修が出来ました。 この活動には、農業者だけでなく、非農業者や自治会役員も参加していただき、あらためて「大堰」が地域の財産である事を確認出来ました。 また、基盤整備がされていない為、地域には昔ながらの自然が残っており、夏休みにはPTA、子ども会の活動として「生物観察会」が行われており、夏休みの行事として定着しています。 三森地区でも、高齢化が進んでいるので、地域皆で地域の環境を守る活動が無くなると、田畑の荒廃も急速に進むと思われるので、これからもこの活動は続けていただきたい。					
					
PTA、子供会の生物観察会					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	中三地区環境保全活動組織	代表	佐々木 祥男
協定面積	田 79.6ha 畑 ha 計 79.6ha	対象面積	田 79.6ha 畑 ha 計 79.6ha		
管理施設	開水路 35.3 km ため池 ヶ所	農道	19.0 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 46人 農業団体 4団体	非農業者個人	59人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当地区の現状は、平成16年度担い手育成基盤整備事業完了地区であるが、農業者の減少、地域の高齢化が進み地区の4集落で生産組織を立上げ、作付調整を行っていましたが、本事業により景観形成・農業用水の多面的機能を考え地区中心部には小学校があり、水質モニタリング、地域のクリーンアップ等構成員が参加し継続して共同活動ができるようになりました。 地域ではつながりが薄れておりましたが、この組織活動により地域の交流の場が増え集落内の出席率も増加傾向にあります。 農業者以外の人たちも農業用水の持つ多面的機能に理解を示してくれるようになり施設の管理のほか、周辺の非農用地の管理もみんなで管理することにより農家の負担が減り感謝されております。今後は農業情勢また社会状況が変わりつつあり、農業者の減少・地域の高齢化等厳しい地域社会であります。これからも地域の協力を得て若者の育成をしながら地域のみんで出来ることへの参画・協力を踏まえ、継続して地域を守って行きたいと思っております。					
				 大豆の共同耕起作業 (作業効率を上げるため)	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	衣川地区環境保全活動組織	代表	鈴木 敏規
協定面積	田 79.8ha 畑 ha 計 79.8ha	対象面積	田 79.8ha 畑 ha 計 79.8ha		
管理施設	開水路 38.4 km ため池 1ヶ所	農道	20.3 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 54人 農業団体 3団体	非農業者個人	57人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当地区の現状は県営ほ場整備により平成5年度に仁賀保地区3反区画、平成14年度に担い手育成が完了し、水田風景の維持、地域集落内を流れる用水の維持管理を目標に3集落において活動を行ってきました。19年度当初は、作業内容等に戸惑いがありましたが組織として水質モニタリングや生き物調査・花の植生等地域の子供から老人まで地域の環境に触れる貴重な体験活動となりました。 この事業により、地域の人々の触れ合いが増え活動の中から個々の交流があり、各団体のまとまりも増したように感じます。 農業者は、高齢化により集落営農組織を立上げこれからの農業を考えながら、農業者以外の方の地域を流れる農業用水が持つ多面的機能を考え、この地域の農業用施設を地域の人々で維持管理していく気持ちが生まれています。草刈りや泥上げなどの日常管理も農業者・地域の人で協力して進めていくことにより、地域の景観形成を守っていこうと考えております。今後も地域の協力を得て地域活動を進め”地域の和”を継続していきたいと思っております。					
				 何年ぶりに整備された幹線排水路 (地域排水も流れる)	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	小国環境保全向上活動組織	代表	本間 和好
協定面積	田 46.2ha 畑 ha 計 46.2ha	対象面積	田 46.2ha 畑 ha 計 46.2ha		
管理施設	開水路 8.8 km ため池 2ヶ所	農道	24.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 23人 農業団体 4団体	非農業者個人	31人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織では、集落を取り巻くようにほ場整備された優良農地の保全、農道・水路の維持と集落景観の向上を目的として活動してきました。農地・農業施設の維持・保全については、共同活動を中心に当初から順調に実施することができました。また、景観向上活動については、当初は、もう一步踏み出せず役員が中心となって花の植栽を行いました。しかし、予想した以上の女性や子どもの参加が得られ、現在では恒例の事業となっています。集落内の農家から花苗を購入し、

「地域で生まれた花を地域で育てる」ことを実践しています。さらには、農地の法面を整備し紫陽花を中心に植栽するグループも結成され、試行錯誤を繰り返しながら非農家・農家が協力しています。以上のことから、地域住民が協力して作業を行うことにより、農業に対する理解と集落環境に対する向上心が生まれてきたと思います。また、コミュニケーションと協働意識の醸成にも役立っていると思います。今後も、美しいふるさとを守るために、この両者の和を大切にしながら、活動を実践して協働の意識をもち、助け合い、共通の目的に向かって活動を継続し、地域の活性化につなげていきたいと思っています。



花の植栽のようす

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	畑環境保全向上活動組織	代表	佐々木 長秀
協定面積	田 103.8ha 畑 ha 計 103.8ha	対象面積	田 103.8ha 畑 ha 計 103.8ha		
管理施設	開水路 29.5 km	ため池 ヶ所	農道 15.7 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 42人	農業団体 4団体	非農業者個人 37人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

1、運営面

1年目は当事業の内容が十分理解できずに活動に入って行った。とにかく仕事をするのが先にでその後に基礎部分なのか農地・水向上活動なのか、また、草刈り作業にしても農用地なのか開水路なのか農道なのかの区分けに悩んだ。2年目になるとそれらの区分を判断できるようになり、3年目からはスムーズな運用ができるようになりました。

2、共同作業参加者の協力体制

農業者以外の集落の方々からの積極的な協力をいただきました。特に老人クラブからは会館と神社周辺の農道の草刈り、景観形成のための施設への植栽を、PTA、小学生の方々からは農道の空き缶拾い、水質モニタリングをやってもらいました。



3、事業状況、効果

(農道、水路)

当地域は南に位置する鳥海山に向かって上り勾配になっております。農道の場合は雨が降ると水路となり、土が流されてしまいます。この対策として農道のポイント、ポイントに水切り側溝を設置いたし農道を流れる雨水を水路に流しました。これにより土の流失がかなり少なくなった。

水路についても勾配があるために水の流れが速く、川底が洗われ水路法面が崩壊しておりました。崩壊個所の改修ができて安心して開水路を使用できるようになりました。

4、参加者の意識の変化

事業のために参加者から現場に集まってもらうのですが、自分の農地以外の農地、農道、水路状態を見て集落全体の状態を確認できたことは良い刺激になった。そして、10年後の集落の人口構成データー、将来構想の立案は、「今、自分達は何をしなければならないのか？」を考えるチャンスを与えてくれた。それは「この集落を自然環境を維持しながら農業を通して発展出来る集落でありたい。そして後継者が喜んでバトンを受けとくれるような集落でありたい。」という思いです。

5、新しい動き

農業の外的要因の動きとしてTPPの加入問題、内的問題点として少子高齢化による後継者の激減が深刻な状況になってきている。農地・水・環境保全事業を通して当集落の水田の状況がいかに貧弱であるか実感できた事から集落の営農を集落全体で考えようという機運が高まり『農地集積加速化基盤整備事業』に参加しようと動いています。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	院内環境保全向上活動組織	代表	佐藤 次博
協定面積	田 59.6ha 畑 ha 計 59.6ha	対象面積	田 59.6ha 畑 ha 計 59.6ha		
管理施設	開水路 15.2 km ため池 1ヶ所	農道 9.8 km	ハ↑フライン km		
構成員	農業者 24人 農業団体 1団体	非農業者個人 18人	非農業団体 3団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
【主な活動】 ・ 農業従事者によって、農道や水路等の施設の維持管理してきたが、近年、農業従事者(担い手)の高齢化・減少が進み、農道などの除草活動など管理不足の状態となっていた。今回、非農家も入れての管理活動を通して改めて、地域の財産である道路・水路等を管理保全することで生活環境を改善する意識が高まった。 ・ 子どもたちに、ホタルの住む環境を知ってもらうため、「ホタル調査」を5年間にわたり行った。子どもたちが、ホタル調査を通じて、生き物の住む環境や生体を勉強する機会を得るといった貴重な経験ができた。その一環で、子供たちによる環境看板も制作した。 ・ 当活動組織は、景観活動の一環としてひまわりとコスモスによる景観づくりに取り組み、院内小学校の全校生徒による種まきを実施し、学校教育との連携を図った。					
				地域の子供たちが環境看板を制作しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	石田地区環境活動組織	代表	鈴木 正美
協定面積	田 25.4ha 畑 ha 計 25.4ha	対象面積	田 25.4ha 畑 ha 計 25.4ha		
管理施設	開水路 10.2 km ため池 ヶ所	農道 5.0 km	ハ↑フライン km		
構成員	農業者 11人 農業団体 4団体	非農業者個人 20人	非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たち石田環境活動組織は、集落環境と緑豊かな農村景観を守るため、地域のよさは自分たち地域で守ることを目標に活動を行ってきました。以前は、誰かが何かをやっている程度であったが活動進むにより、老人から子供、農家と農家以外の様々な人々のコミュニケーションが図られ、地域の結束がより強くなったと思います。また、活動の一つでもある、子供たちとの生き物調査や水質モニタリング調査・集落周辺の花植えなど子供たちにとっても貴重な体験となりました。 地域のまとまりは、以前からありましたがこの活動により、5年間で更に集落内で子供から老人まで自分たちの集落の環境を良くしようとする意識とまとまりが生まれました。 また、農業施設については、当集落でも高齢化が進展しており維持管理が大きな負担となっていたが、農道の草刈や水路の泥上げ、農道の補修など地域のみんなで行うことにより皆さんから感謝されております。 今後も、美しい農村環境を守るため、更に結束力を強く集落のみんなで、わが村は美しくを合言葉に取り組んで行きたいと思います。					
				集落周辺の遊休農地や道路沿線に、花植えや桜の植栽を行い、美しい農村景観の創出に努めています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	伊勢居地地区環境保全活動組織	代表	菊地 良作
協定面積	田 70.9ha 畑 ha 計 70.9ha	対象面積	田 70.9ha 畑 ha 計 70.9ha		
管理施設	開水路 35.7 km ため池 1ヶ所	農道	12.7 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 40人 農業団体 1団体	非農業者個人	20人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの集落は、集落の中心にある地蔵尊の境内とその周辺の水路、農道、農地を主な活動施設としています。 共同活動は前からしていましたが、景観活動や生態系保全活動はしていませんでした。この活動によって環境活動に集落全体が取り組むようになり、花の植栽、生物調査、ホタルの観察など大人から子供まで、農家、非農家とも参加しております。その事により前にもまして集落内が明るくなり、活気がでてきたように思います。 特に、子供たちは集落の小川に住む生物を通し、集落の自然環境の豊かさを実感するようになりました。夏のホタルの観察などは、自然環境の豊かさを象徴するような活動です。 これからも共同活動を通し、農業施設の保全はもちろんの事、担い手確保や不耕作地防止などを図るため、さらに結いを強固にし、集落の自然の財産や文化的な財産も保全して行ければと思っています。					
					
集落を流れる小川					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	東畑環境保全向上活動組織	代表	齋藤 鋼市
協定面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha	対象面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha		
管理施設	開水路 20.0 km ため池 ヶ所	農道	6.8 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 32人 農業団体 2団体	非農業者個人	10人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち東畑環境保全向上組織では、緑豊かな水田風景、地域を流れる白雪川を末長く受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。 景観形成活動は花植えを通して景観形成だけではなく人とのふれあい、繋がりを形成する貴重な活動となりました。 私達の小さな集落でも、地域のまとまりが薄れてきていますが、5年間の活動で地域の結びつきが再形成しつつあるように感じています。 世代の違う人々と触れ合うことにより、それぞれの年代の考え方、意識を共感でき、農業を取り巻く様々な環境変化に対応していく為にも大きな活動となっております。 今後も農業施設の保全管理の他にも、草刈りや泥上げなどの日常管理を地域の人々で行う事により、環境保全の意味重要性を考えながら集落全体で取り組んでいきたいと思ひます。					
					
鳥海山の麓、清廉な白雪川の恵みを受け細長く水田地帯が続いている素晴らしい環境を保持するため、草刈りや清掃を行います。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	下坂地区環境保全向上活動組織	代表	佐藤 忠蔵
協定面積	田 11.6ha 畑 ha 計 11.6ha	対象面積	田 11.6ha 畑 ha 計 11.6ha		
管理施設	開水路 5.0 km	ため池 1ヶ所	農道 2.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 8人	農業団体 1団体	非農業者個人 23人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域は、南に荘厳な鳥海山を冠する豊かな自然条件・環境条件のもと、古くから稲作を中心に繁栄を続けてきた農村でありましたが、昨今は時代の趨勢に伴い、界隈地域に先んじて「限界集落」の位置づけとなって久しく、また日本農業を取巻く急速な情勢悪化と相俟い、近年の農業者にあっては、こうして代々継承されてきた優良な農用地の維持・保全を図るとした、農業者本来の勤めすら儘ならない状況に直面していた一方、地域全体に目を向ければ、年々荒廃の度合いを高める田園風景のさまに比例するかのよう、地域全体の活気は減退の一途を辿るばかりの光景を日々目の当たりにする状況にありました。

この事業は、地域のこのような暗澹とした空気の中に、たしかに新しい風を吹かせました。

それまで滞っていた農業施設への手当ては堰を切ったように次々と実施され、少しずつ、広く平準的な復旧・改善が実現し、農村風景は「然るべき姿」を徐々に回復していきました。

ため池は、樋管の漏水を止めるべく皆で何度でも話し合い、止水工事を2度実施し、農業者の長年の悩みの種であった農道の凹凸には長き延長にわたり砂利・砂による補充整正を実施した結果、総延長について機能の回復・向上が実現しました。水路は共有地・民地の別を問わず皆で泥上げをし、時には機械施工により協働し、また豪雨被害にあえば杭・土のうを設置するなど、再被害を回避すべく脆弱性向上を図りました。農用地および遊休農地については、草刈り支援が主な対処メニューとなりましたが、これは現農業者はじめ休農・離農者の第一の支援要請であり、それは当対策の過年のHPポータルサイトで理念として紹介がありました、明治期に来日した外国人旅行記の一節「まるで鉛筆で線を引いたように美しい日本の田園風景」を回復しようとする行いそのものであるとも言えます。

他方、この事業に取り組むことによって、多くの地域住民の内に潜む新たな一面が顕在化しました。それは花や生き物に対する並々ならぬ理解と愛情です。

特に農村環境向上活動においては、当初は物理的観点からの景観性向上と水質監視・向上を目的とし、それぞれ景観保全および水質保全をテーマとしたものでした。しかしながら、左記のことから農村環境向上活動は一層意義を増したものとなり、今では地域の老若男女誰もが参集する「花植え」並びに「水質体験会(水質が水生生物の個体種・個体数に及ぼす影響を確認する会)は、毎年恒例の一大イベントとなり、地域の誰もがいつでも心待ちにする会となるまでに発展しました。或いは、このように地域に醸成された意識や気概感、多くは体に障りのある方で組織される老人クラブが主体となり、互いに協力・連絡しあいながら、花壇植栽への水やり活動を隔日ローテーションで数ヶ月にわたり成し遂げた姿に象徴されるところであり、今後地域の将来計画を構築していく上では非常に頼もしく、また意義深い事柄でもあります。

この事業は、地域全般にわたる農地・水・農村環境の向上を目的とするばかりでなく、農村地域の古き良き相助精神の復活・再構築を促すものであったともいえ、このことは5年間のうちに全ての地域住民に懐古・再評価をする機会をもたらし、そしてそれは再度育まれ、また新たに誕生し、右肩下がりの一途を辿る当地域の状況にあっては、重層的で極めて意義の深い理念を持つ事業であったものと振り返ります。

おわりに、構成員の総意として、この事業が指し示した理念により養われた地域住民の意識や気構えをそのままに、来年度からも自主的に継続するよう努めていくことを、ここに表します。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	釜ヶ台環境保全向上活動組織	代表	阿部 静夫
協定面積	田 84.9ha 畑 ha 計 84.9ha	対象面積	田 84.9ha 畑 ha 計 84.9ha		
管理施設	開水路 21.5 km ため池 4ヶ所	農道	12.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 103人 農業団体 11団体	非農業者個人	10人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

釜ヶ台環境保全向上活動組織では、景観形成活動の一環で、健老クラブから子供会まで集落の一大イベントで、花の植栽に取り組み、世代を越えたつながりがとれた。

また、子供たちと保護者による、水生生物調査などにより環境を伝える貴重な活動となった。

各ため池では水質モニタリングも実施でき、水質を守り維持管理の大切さを知ることができた。

維持管理をすることで施設の長持ちにつながった。

これからも、自分たちで出来ることは、自分達で頑張ろうと思う。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	冬師地区環境保全活動組織	代表	三浦 善勝
協定面積	田 51.7ha 畑 ha 計 51.7ha	対象面積	田 51.7ha 畑 ha 計 51.7ha		
管理施設	開水路 11 km ため池 3ヶ所	農道	6,5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 20人 農業団体 3団体	非農業者個人	9人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

初年度の取組では、無我夢中だったような気がする。活動内容も把握できず、何度も市役所に足を運んだ経緯の中、組織らしく成り、地域住民の中にも浸透し、この作業はうちの団体の作業と各団体がそれぞれの役割分担が自然に出来てきた。 当集落も年々高齢化進み住民も2極化した部分もあったが、この活動を通して老若男女とコミュニティの場にもなった。

又、22年度より県の秋田元気ムラ支援事業の補助を得て、わら細工の後継者育成及び販路拡大に向けてPR活動実践 その支援として、組織では今では入手困難な、わら細工用（ササニシキ）を17a作付けを実践、小・中学生やボランティアを募り、地域住民と一緒に交流を兼ねて昔ながらの作付け、そのわらを使用したわら細工の体験学習とササニシキ米で昼食会を行ってる。現在市は市のグリーンツーリズムと協賛で継続している。当地区は鳥海山の麓に位置し、絶景は言うまでもないが、雪解け時や長雨では、もろに被害を被る。この5年間で、2ヶ所の開水路ゲートの崩壊も、この事業により応急処置や改修を行うことができ、その即応性は農業者にとっては喜ばしい事業である。



わら細工用（ササニシキ）稲刈り
地元の小・中学校及びボランティアの方々
手植え・手刈・に完全無農薬栽培

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	黒川環境保全向上活動組織	代表	佐々木 春男
協定面積	田 59.5ha 畑 ha 計 59.5ha	対象面積	田 59.5ha 畑 ha 計 59.5ha		
管理施設	開水路 20.8 km ため池 ヶ所	農道	8.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 22人 農業団体 3団体	非農業者個人	23人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち保全向上活動組織では、鳥海山を望む水田風景と白雪川水系に根付いた生活を将来に向けて継続して行く事を目標とした活動を実施してきました。 景観形成活動では、各組織の協力を得て、老若男女の中広い活動となった。水田の水質調査では水稻栽培における貴重なデータとなり、道路沿いの畦畔を使ったコスモス植栽とプランターでの花の植栽は地域への大きなアピール活動となり、鳥海山とあいまって、そこを通る人々の目を楽しませ季節の風物となりました。 私たちの組織は少ない戸数での活動ですが、環境保全活動を通じて農業者、非農業者が協働で農業施設の維持管理や地域環境の育成保全に取り組むことができるようになった。少子化、高齢化、後継者の減少で祭祀の継続等自治会運営にも支障をきたしつつあるが、活動を通じて取り戻した協働の気持ちと「自分たちの地域は自分たちで護る」という考えのもとに、地域の生活環境・自然環境の整備、保全に努め					
				 コスモスや花のプランター植栽は道を通る人々の目を楽しませ地域の風物となっている。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	飛地区環境保全活動組織	代表	佐藤 正春
協定面積	田 30.3ha 畑 ha 計 30.3ha	対象面積	田 30.3ha 畑 ha 計 30.3ha		
管理施設	開水路 17.3 km ため池 1ヶ所	農道	5.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 30人 農業団体 1団体	非農業者個人	14人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当集落の現状は、住民の減少・農家担い手不足・高齢化により限界集落に近い状況にあったが、平成19年度からスタートした農地・水環境保全活動では、集落内の維持発展を目的として農業生産関連施設等の維持管理に係る活動・集落内の環境保全に重点をおいた計画策定がなされた。計画では以前から当集落で取り組んでいた学校教育と住民交流を目的とした農業体験学習（伝統的農法による田植え・稲刈作業）も組み入れて全体計画を策定し、活動を実践した。毎年、春季からは効率的作業と地域施設状況把握のため、開水路・農道・ため池等の活動箇所の点検・診断を行いながら共同作業を実施し、環境保全活動では水質のモニタリング調査・学校教育との連携・農業用水路等の魚類等の生育状況調査・花等の植栽と集落の環境保全を図った。 また、平成23年度には集落営農組織から集落全体の農事組合法人も設立され、農地・水環境保全活動組織と両輪となり集落維持発展のため、今後も継続して活動の輪を広げていきたい。					
				 学校教育と住民交流による農作業体験学習	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市		組織名 赤石地域農地・水・環境保全向上活動組織				代表 伊藤 安夫						
協定面積	田	25.4ha	畑	ha	計	25.4ha	対象面積	田	25.4ha	畑	ha	計	25.4ha
管理施設	開水路	8.7	km	ため池	ヶ所	農道	4.3	km	ハ°イ°ライン	km			
構成員	農業者	20人	農業団体	1団体	非農業者個人	17人	非農業団体	4団体					

(5年間の活動内容や感想等記入)

赤石地域農地・水・環境保全向上活動組織では、当該活動に臨み、まずは以下の課題、及びその対策や方向性を掲げました。

1. 農業にとって農地・水・環境は不可分不可欠であるから、その保全向上は当然の使命であって最重要課題であることを再認識し理解を深める。
2. 地域在住の農業者が全体の25%に過ぎないことを現況を踏まえ、農業者と非農業者との連携を図ることで、これまで成されなかった活動にも視野を広げ、積極的に取り組む。

3. 当該活動について、積極的に実践に努めることが、今後の農業経営の向上に資すると位置付ける。

4. 当該活動と集落営農とを両立する中で、より良き農業の在り方を模索し、実践を通じて、以て農業にまつわる諸問題の打開を期する。

5. 非農業者に対し、農地・水・環境の保全向上と農業の重要性に関する理解の共有を目指す。

当該活動が実施される以前も、農業者の間では「普請」と称して農道や水路の草刈り、水路の泥上げ、農道の補修などが行われて居りましたが、開始当初には、それまで実施したことのない活動項目も多くあったため「こんなことまでしなければならぬのか」「こんなにすることが多いのか」という意見も多少はありましたが、農業者も非農業者も、活動を重ねるに連れて、一つ一つの活動が農地・水・環境の保全にとって重要であることの理解が深められた様でした。

特に景観形成・生活環境保全の活動では、「施設への植栽」と「伝統的農法の実施」が印象深く、また当該活動ならではの活動ではなかったかと思われます。

「施設への植栽」では、老人クラブによってアジサイやツバキ・ツツジなどが植栽されました。植物が生長し花を咲かせるに従い、活動した人のみならず周囲の多くが愛着が深められた様でした。

「伝統的農法の実施」では、水稻の杭掛けをしている農家の指導の下、PTAと学童による稲刈り体験が行われました。稲刈りを通じて、地域の農業者とPTAと学童が交流を深め、農業の苦勞、農業や食料の重要性について再認識され理解が深められた様でした。

また、この5年間には様々な自然災害がありました。その度に消防団は、「異常気象後の見回り」を実施しました。回数を重ねるに従い、非農業者の消防団員も異常気象が起こりそうになると対象施設のことを気にかける様になった様です。

この5年間の当該活動を振り返ると、役員としては苦勞したこともありましたが、活動を通じて農業者・非農業者ともに少なからぬ意識改革を果たし、またそれまで出来ていなかった活動も実施することがで



草刈り普請をする農業者



植栽をする老人クラブ



稲刈りをする学童



水田の冠水を見守る消防団

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	前川環境保全向上活動組織	代表	斉藤 正秋
協定面積	田 68.2ha 畑 ha 計 68.2ha	対象面積	田 68.2ha 畑 ha 計 68.2ha		
管理施設	開水路 17.9 km ため池 1ヶ所	農道	4.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 120人 農業団体 5団体	非農業者個人	72人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では、緑豊かな水田風景と地域を流れる白雪川水系の恩恵を絶やさず子供達へ受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。取組当初は、戸惑いもありましたが春のクリーンアップや景観形成活動を通して、ほぼ構成員全てが参加する様になりました。また、失われつつありました古里の良さを子供達が自分の目で確認することができ、保護者も自分たちが子供の頃の環境を伝えるなど貴重な活動となってきました。

従来、水田は各個人個人の営利目的が主体であり、私たちの小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で皆の共同活動を通じて、この地域・環境を守ろうと言う気運が高まってきました。実際に地域の各団体からも、この5年間の活動には感謝の声が出ており、何とか継続して欲しいとの強い要望を受けております。

「美しい郷土を育てる」為、更に地域住民が一体となって活動を継続して参りたいと考えます。



鳥海山を背景に、ほ場整備された田園では春には水を抱え、夏には緑のじゅうたんとなり、秋には稲穂をなびかせ、冬には白銀の世界へと通行する人々へ癒しを与えている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	大竹環境保全向上活動組織	代表	佐藤 光政
協定面積	田 50.1ha 畑 ha 計 50.1ha	対象面積	田 50.1ha 畑 ha 計 50.1ha		
管理施設	開水路 14.6 km ため池 ヶ所	農道	5.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 60人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

大竹環境保全会は、大竹集落会、JA秋田しんせい大竹支部、大竹老人クラブ、私公立消防団、金浦小学校PTA等の協力を得て、活動して参りましたが、地域の草刈、開水路の泥上げ、花の植栽、大竹特産の福寿草の管理等、うまくできたと思っております。

取り組み当初は戸惑いもありましたが、環境問題に関心が高まるとともに環境保全型農業への転換へと意識が高まったと感じられます。

昨年の東日本大震災以降、農業施設の維持管理を自分たちの集落は、自分たちで守って行こうという機運も高まりました。

これからも開水路の整備、農道の整備等に力をいれて、この地域をもっともっと盛り上げたいと思っております。



福寿草の管理

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	長岡地域環境保全向上活動組織	代表	斎藤 正治
協定面積	田 75.6ha 畑 ha 計 75.6ha	対象面積	田 75.6ha 畑 ha 計 75.6ha		
管理施設	開水路 6.9 km	ため池 ヶ所	農道 7.4 km	パイプライン km	
構成員	農業者 52人	農業団体 3団体	非農業者個人 10人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

長岡活動組織は、標高2,237mの秀峰「鳥海山」の裾野に広がる水田地帯にあり、山の恵みによる豊富な清流が流れ込んでいますが、昭和49年の153年ぶりの噴火によって、集落の河川や農業用排水路は以来、長年にわたり強酸性水と化し、それまでの貴重な水生生物の姿が確認されない状況が続いていましたが、近年、水質が徐々に改善されてきていることをうかがわせるような、ときおり「岩魚」や「川ガニ」など生物が確認されてきており、本事業を絶好の機会ととらえて、自治会全体で集落の環境保全向上に取り組むため、(1)「川にごみを流さない・汚さない」(2)「一斉クリンアップ作戦の実施」(3)「花いっぱい運動・空地に花を植えましょう」といった「生活改善実施決議事項」を掲げて、全住民あげて取り組んできました。

「川の水質保全向上活動」では、子供たちは、毎年夏休みに岩魚の放流を行なったほか、集落内河川の水質調査も継続しており、地域の環境を守っていくことの大切さの意識づけが図られたと全住民が等しく実感しているところです。

また、子供たちに伝統農法を伝承するため、老人クラブの皆さんの指導のもと、田植えから稲刈りまで体験させることにより、父兄もまた農作業の経験のない人も多くなってもきており、田舎の伝統というものの、米の栽培というものの普段体験することのない、貴重な機会になったものと確信しています。

春先の「一斉クリンアップ作戦」は、毎年定期的な実施により、今では多くの地域住民の積極的な参加によって、地域の良好な環境が守られているところです。

「花いっぱい運動」では、婦人部や老人クラブによる空地への花木の植栽によって、4季おりおりに咲く花木は環境保全向上とともに、地域住民の癒しの場所ともなっています。

これまで本事業によって培われた地域住民の輪で、今後とも地域の農業を支える貴重な資源と、住環境の保全向上に努めてまいりたいと考えております。



地域の農業を守り育て、そして貴重なかけがえのない資源を次代に引き継ぐため環境保全向上活動を展開していきます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	小滝地区環境保全活動組織	代表	佐藤 保之
協定面積	田 99.5ha 畑 ha 計 99.5ha	対象面積	田 99.5ha 畑 ha 計 99.5ha		
管理施設	開水路 9.8 km	ため池 1ヶ所	農道 7.5 km	パイプライン km	
構成員	農業者 67人	農業団体 1団体	非農業者個人 163人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

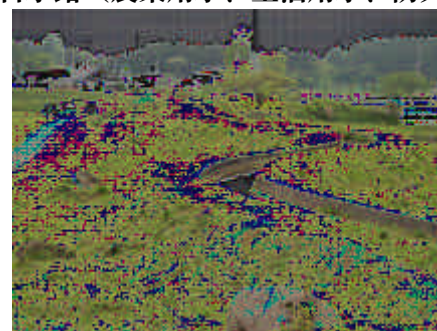
私たちの地域は長年、普請という形で地域内の環境整備、財産管理を行ってきました。

しかし、近年、高齢化の進行や普請の参加者が一部の人に限られるなどコミュニティの形成が課題となっておりました。今回この事業により子供から高齢者まで、各事業に参加し、**地区全体のコミュニティの復活**に繋がっています。

この事業で大きな成果があったのは、地区共通の財産である堰台水路（農業用水、生活用水、防火用水、流雪溝）の維持管理と補修が行えるようになったことです。今までは、作業時間に制約があり、全ての草刈り等が終了出来ない場合がありましたが、残った部分は、作業班を編成し、維持管理に努めたことや、また、崩壊の危険がある法面の補修をする事が出来ました。

環境面では、子供会、老人クラブ、自治会員による学校、地域会館、農道周辺の植栽の共同作業を実施し、**地区への愛着が芽生えた**ように感じました。

また、子供達の学習については、水源地への散策、土木遺産に指定されている、温水路の学習等、当地区と水との関わりを象徴するものを学んだことは、今後の保全に繋がるものと確信しています。



地区共通の財産である堰台水路の維持管理状況。今後も財産として保全活動を実施する。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	大須郷環境保全向上活動組織	代表	土門 昇
協定面積	田 50.4ha 畑 ha 計 50.4ha	対象面積	田 50.4ha 畑 ha 計 50.4ha		
管理施設	開水路 7.0 km	ため池 1ヶ所	農道 3.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 69人	農業団体 5団体	非農業者個人 138人	非農業団体 5団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 大須郷農地・水保全活動組織では、第3条の構成員による共同活動を通じ、大須郷地域の東に日本百名山の一つでもある鳥海山を望み、西に日本海を見渡せる優れた自然豊かな景観の中に存する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目的として活動を継続してきました。 構成員のほか、地域住民子供たち、PTA、婦人会、寿会の協力で少子化、過疎化が叫ばれる中、地域のまとまりが出来、今後の継続活動への足がかりが見えてきました。 少子化、過疎化、高齢化に対応した地域活性化の礎が出来、今後さらに地域環境保全活動が活発化される事を期待しています。					
					
				地域住民の協力による荒廃農地を利用した菜の花植栽地も地域の優美な景観箇所に生まれ変わりました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	大森地区環境保全向上活動組織	代表	桜山 次雄
協定面積	田 65.1ha 畑 ha 計 65.1ha	対象面積	田 65.1ha 畑 ha 計 65.1ha		
管理施設	開水路 16.1 km	ため池 ヶ所	農道 11.0 km	パイプライン	km
構成員	農業者 86人	農業団体 2団体	非農業者個人 78人	非農業団体 5団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動組織では、緑豊かな水田風景、地域を流れる河川等を子供たちへ受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。取り組み当初は、戸惑いもありましたが、春の小学校校地整備作業やクリーンアップ、景観形成としての花の植栽活動は構成員全員が参加する集落の一大イベントになりました。活動組織の目標でもあった河川の浄化保全活動では、水質モニタリングを行い、子供たちが自分の目で体で貴重な水資源を確認することができ、保護者も自分たちが子供の頃の環境を伝えるなど貴重な活動となりました。 私たちの小さな集落でも、農業が中心の集落体系から、近郊の工場などに就労する兼業農家が主流となったことから、地域のまとまりや活動が停滞してきていましたが、5年間の活動で地域の“元気”が復活しつつあるように感じています。 農家や非農家を問わず、活動に参加する集落民が増え、地域みんなで自分たちの集落や農地を守ろうという機運が生まれました。草刈なども集落総出で行うことで、つらく大変な作業も楽しく、また、休憩時には昔話に花が咲くなど老若間でのコミュニケーションも生まれています。この機運を大事に、さらに地域を盛り上げたいと思います。					
					
				保護者と子供たちによる水質モニタリングは、年に3回実施したこともあり、水質の変化を調査したり、活動の様子を作文に書いて、記憶に残る活動をしています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	本郷環境保全向上活動組織	代表	須田 歳三郎
協定面積	田 61.8ha 畑 ha 計 61.8ha	対象面積	田 61.8ha 畑 ha 計 61.8ha		
管理施設	開水路 10.8 km ため池 ヶ所	農道	6.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 55人 農業団体 団体	非農業者個人	2人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の地域は、奈會川、清水川に囲まれ、寺の前、谷地田、樋口水路等により集落内の田んぼ防火用水、生活用水をまかなっている。しかし最近、H19年、H23年の水害により清水川が、氾濫し、あちこちの堤防、水路が壊れてしまいました。県、市の努力により早急に改修していただきましたがまだ、泥水、土砂等が流れ各水路に堆積しやすくなっている。その中で(環境)の事業で水路普請を行い維持、管理に努めている。また、この地区は基盤整備が早かったことから未整備水路、老朽化した設備が多くこの事業で少しづつであるが地域みんなで補修、整備ができたように思う。また、ブルーラインの入口であることから景観形成活動に取り組み地元はもとより近隣の人々からも喜ばれている。また、小学校PTAを中心とした子供達に田植え、稲刈りを通じ伝統農法、農業のたいせつさを少しでも伝えることができたように思う。今後とも地域みんなの力と知恵を活用し住みよい地域、環境作りに努めたいと思う。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	馬場地区環境保全向上活動組織	代表	三浦 文雄
協定面積	田56.8ha、 畑 ha、 計56.8ha	対象面積	田56.8ha、 畑 ha、 計56.8ha		
管理施設	開水路 24.2 km、 ため池 1ヶ所、	農道	12.1 km、	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 23人、 農業団体 1団体、	非農業者個人	20人、	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当活動組織では、主に基礎部分を農業者が、誘導部分を農業者と自治会、財産管理会、老盛会等が共同して実施してきました。

当地域の新堰・上堰水路は防火用水、生活用水としても使用され、集落の貴重な資源となっており、他地区への通過上にあることから、維持管理は下流地域にも貢献してきました。

また、曲師小屋ため池は、水不足時の水源として当集落のみならず、他集落からも期待されていることから維持管理活動は欠かせないものとなっております。

現在、9人の認定農業者が中心となり、集落営農組織、ミニライスセンター組織、直播研究会等を構成し、集落の農業を牽引しておりますが、今後、農業従事者の高齢化率が高くなることを踏まえ、集落内の子供たちに農業を体験させるなど、農業への関心を高めさせ、地域一体となった活動を続けていきたいと思ひます。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	にかほ市	組織名	大飯郷地域活動組織	代表	齋藤 一義
協定面積	田 20.2ha 畑 ha 計 20.2ha	対象面積	田 20.2ha 畑 ha 計 20.2ha		
管理施設	開水路 3.7 km ため池 ヶ所	農道	2.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 24 人 農業団体 1 団体	非農業者個人	人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

大飯郷地域活動組織は、内容的なことを十分に把握できないままスタートし、計画された活動が実施されました。活動日も休日がメインとなるため、反発もあり、意識啓発と地域環境への理解を得るまで結構な時間を要した感じがします。

しかし、5年間の活動を継続することにより、意識が確かに変わってきたようです。

地域の資源や環境は自分たちで守り、子どもたちや若い世代に良好な農村環境を残さなければならぬと意識するようになり、共同活動の継続的な取り組みの必要性を認識してきたように感じます。

高齢化していることもあり、今後、どのような取組みをして継続していくかが課題となりそうです。



(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	大仙市	住 所	大仙市大曲花園町1番1号	電 話	0187-63-1111
担当部署	農林商工部 農林振興課		担当者	主任 武藤康晴、主事 伊藤誠一	
(5年間の感想等記入)					
平成19年度から始まった農地・水・環境保全向上対策は122組織でスタートし、平成20年度に組織の合併と新たに2組織が加わり現在の123組織となりました。					
これまでの活動内容を振り返りますと、農地・農業用施設の保全は事業実施以前は個人管理が主でありましたが、共同活動を行うようになってからは機能診断に基づいた補修箇所の早期発見・共同での補修等・よりきめ細かい管理がされております。この対策により個々の農家の負担が軽減されたと感じております。					
生態系保全活動については、三世代が協力した生態系調査や小学生への生態系学習教室など世代間の繋がりを強化し、未来を担う子どもたちに実体験を通して生態系保全の大切さを伝えることができました。					
景観植物の植栽ではサルビア・ペゴニア・ヒマワリ・菜の花など様々な景観植物を植栽し、農村環境を色鮮やかにして、そこを訪れる人々が花を見て心を癒したり、遊休農地発生防止に役立っております。また、中にはたくさんの見学者が訪れる「田んぼアート」を毎年度作成したり、「防草シート」の設置とカバープランツの植栽を急な法面に行い、危険な箇所の草刈の負担を軽減した組織もあります。					
これらの活動の参加者に着目しますと、全体で延べ約51万2千人参加した内、非農業者は約13万人参加したという市の集計データが出ており、特に農村環境向上活動ではその割合が32.3%と高く3人に1人が非農業者となっております。これは、市が交付金の40%を農村環境向上活動で使用すると定めた実施要綱の目的であり、市の総合計画にもある、「農業者だけではなく地域全体で農地・農業用水等の資源や農村環境の保全活動を実施する」という目的が達成されたと感じております。また、農地水の実施地域からは「地域の方と会う機会が増えた」、「活動を通して心の繋がりができた」といった感想があり、コミュニケーションの場が増えたことにより地域のつながりが強くなっていると感じました。					
次期対策が平成24年度から始まりますが、今後もますます地域共同による農地・農業用水等の資源や農村環境の保全活動に対する支援強化が進むことを期待しております。					

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

大仙市	耕地面積	田	18,500	ha	畑	1,680	ha	合計	20,200	ha
平成19年度	協定面積	田	12,420.33	ha	畑	39.49	ha	合計	12,459.82	ha
平成20年度	協定面積	田	12,513.29	ha	畑	18.79	ha	合計	12,532.08	ha
平成21年度	協定面積	田	12,468.65	ha	畑	38.59	ha	合計	12,507.24	ha
平成22年度	協定面積	田	12,490.62	ha	畑	39.67	ha	合計	12,530.29	ha
平成23年度	協定面積	田	12,475.43	ha	畑	39.68	ha	合計	12,515.11	ha
(支援交付金実績)					〔支援交付金全体〕					
平成19年度	対象面積	計	12,058.20	ha	530,305,600円					
平成20年度	対象面積	計	12,020.68	ha	528,654,720円					
平成21年度	対象面積	計	11,991.93	ha	501,293,760円					
平成22年度	対象面積	計	11,970.55	ha	519,584,120円					
平成23年度	対象面積	計	12,045.87	ha	505,878,415円					
合計					2,585,716,615円					
活動組織名称		大仙市				組織が多い場合次頁に				
番 号	活動組織名称				番 号	活動組織名称				
0327	大仙・イースト7ヶリ				0335	曲陽環境を守る会				
0328	田出沼地区保全活動組織				0336	藤木地区資源保全隊				
0329	飯田笑ノ口地域資源保全隊				0337	宮林・大島地区水土里保全協議会				
0330	川目環境保全会				0338	四ツ屋第一地域愛護会				
0331	クリーンファームおぬき				0339	下深井地区資源保全隊				
0332	古道・水と緑を守る会				0340	大曲地域環境保全活動協議会				
0333	鷹ノ巣地域環境保全隊				0341	萩台地区資源保全向上活動協議会				
0334	谷地板杭環境保全グループ				0342	杉本地域農地と水環境保全会				

活動組織名 大仙市

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0343	四ツ屋地区環境保全会	0383	八幡地区環境保全組合活動組織
0344	北檜岡地区環境を守る会	0384	長楽寺農村公園環境保全守る会活動組織
0345	関金地域環境保全会	0385	清水東部地区環境保全推進委員会
0346	宇船地域環境保全委員会	0386	土渕地域環境保全組織
0347	蒲地区農業環境保全会	0387	稲沢環境保全グループ
0348	八石環境保全会	0388	水沢地域資源保全隊
0349	椒沢環境保全会	0389	芦沢地域資源保全隊
0350	杉沢環境保全クラブ	0390	福部羅地区環境を守る会
0351	床畑環境保全協議会	0391	新田地域資源保全隊
0352	皆別当地区環境を守る会	0392	大川端地区環境保全組織
0353	宿地区環境を守る会	0393	上野地域資源保全活動組合
0354	強首地域環境保全会	0394	上宿アグリフォ実践隊
0355	強首二工区環境保全会	0395	中小種地域資源向上活動組合
0356	強首三工区環境保全会	0396	白岩ふるさと倶楽部
0357	藪台地域資源保全会	0397	野田自治会
0358	方角沢活動組織	0398	落合地域資源保全活動組合
0359	中仙南部環境改善グループ	0399	中村地域資源保全隊
0360	上桜田環境保全を高める会	0400	合貝集落会
0361	下八幡環境保全グループ活動組織	0401	上荒川地域資源保全隊
0362	鶯野水土里を高める会	0402	びんだれの里保全隊
0363	中野口地域環境保全向上活動組織	0403	一ノ渡君ヶ野資源保全向上隊「絆」
0364	村杉環境保全会活動組織	0404	和田川又地域資源保全活動組合
0365	神林活動組織	0405	宇津野地域環境保全隊
0366	大神成環境保全の会活動組織	0406	釜坂活動組織
0367	中仙集落環境保全組合活動組織	0407	西ノ又水利組合
0368	八日市環境保全組合	0408	薬師堂館の会
0369	小沼活動組織	0409	中宿部落
0370	豊川環境保全活動組織	0410	北田活動組織
0371	下黒土北活動組織	0411	大向坊村地区環境保全委員会
0372	上黒土環境保全活動組織	0412	田屋活動組織
0373	下黒土南アグリ環境保全会	0413	物渡活動組織
0374	金鏡みどりの会活動組織	0414	日吉地域環境保全会
0375	下桜田農村環境保全会	0415	木直地区環境保全推進協議会
0376	柏木野集落	0416	揚坊活動組織
0377	五百刈田地域資源保全組合	0417	中野地区環境保全グループ
0378	喜内野地域資源保全隊活動組織	0418	落合活動組織
0379	長戸呂環境保全組合活動組織	0419	小出地域活動組織
0380	東長野谷地乙森地域環境保全グループ活動組織	0420	平形活動組織
0381	斉開水系環境保全の会活動組織	0421	高野地区環境保全委員会
0382	館郷環境保全活動組織	0422	上野活動組織

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	大仙・イーストアグリ	代表	佐々木 勇一
協定面積	田 50.3ha 畑 ha 計 50.3ha	対象面積	田 50.3ha 畑 ha 計 50.3ha		
管理施設	開水路 4 km ため池 ヶ所 農道 4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 39人 農業団体 1団体	非農業者個人 2人 非農業団体 4団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、大仙市の東側に位置し緑豊かな水田があり、それに伴う環境保全を最小限の規模で微力ながら部落内で実施しておりましたが、5年前の農地・水・環境保全向上対策事業が始まり、それと同時に認可を得て組織を立ち上げ、環境保全と整備、又、地域の融和を第一目的として、事業に取り組んで参りました。

その間、大仙市の玄関口でもあるアクセス道路に、景観形成活動でフラワーロード全長300mを実施し環境保全の重要性を認識いただくのは、無論のこと、お花を観賞して、道行く方々への心のケアが出来た事等、構成員と共に保護者及び子供たちと一緒に汗を流した事などこの事業が、次世代に少なからず継承できるのではないかと、思っております。

こんなすばらしい事業が出来た事に感謝申し上げます。



次世代の子供たちと一緒に楽しい植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	田出沼地区保全活動組織	代表	後藤 幾久雄
協定面積	田 13.3ha 畑 ha 計 13.3ha	対象面積	田 13.3ha 畑 ha 計 13.3ha		
管理施設	開水路 6.4 km ため池 ヶ所 農道 9.3 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 43人 農業団体 1団体	非農業者個人 10人 非農業団体 4団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域の絆が生まれつつあるように感じております。

地域のみinnで農業施設を長持ちさせる為、自分達で出来ることは、自分たちですするという気運が生まれました。

農業施設の保全管理の他にも草刈り・花の植栽・泥上げなどの日常管理をみんなで行うことにより、地域から非常に感謝されております。



「サルビア街道」

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	飯田笑ノ口市域資源保全隊	代表	安藤 順一郎
協定面積	田 62,94ha 畑 ha 計 62,94ha	対象面積	田 62,94ha 畑 ha 計 62,94ha		
管理施設	開水路 13.6 km ため池 ヶ所 農道 2.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 51人 農業団体 団体	非農業者個人	20人 非農業団体	5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

飯田笑ノ口市域資源保全隊の活動場所は大仙市街地に隣接する水田が多く自然豊かな風景が多く見られます。

しかしながら国の減反政策が始まり休耕田が多く点在するようになり、後継者不足で休耕田の転作、耕起ができなくて荒地になる水田が有り自然豊かな水田・風景を取り戻すことを目標に農村環境向上の景観形成活動に取り組みソバの播種、菜種の播種、水仙の植え付けをしました。

結果、構成員の相互の意識も豊かな原風景を未来の子供たちに残そうという思いが強く残りました。

農地水向上活動においては排水路の清掃を通して地球環境の大切さを実感し、クリーンアップ活動においては人々の見勝手の投棄物に対して怒りを感じながら投棄物回収後の心地よさを体験しました。

今後は5年間の保全隊の活動を生かして地域に貢献した活動をして行きたいです。



老人施設こもれび・市立大曲病院の隣接道路が水仙の花で色づきました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	川目環境保全会	代表	渡邊 敏雄
協定面積	田 52.8ha 畑 ha 計 52.8ha	対象面積	田 23.6ha 畑 ha 計 23.6ha		
管理施設	開水路 10.9 km ため池 ヶ所 農道 8.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 70人 農業団体 3団体	非農業者個人	40人 非農業団体	1団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの環境保全会では、農業者の高齢化が進む中で、農地・用配水路・農道の荒廃を防ぎ、花と緑一面の住みよい環境を構築し、次世代の子どもたちへ継承して行くことを目標に活動をしてきました。景観形成の取り組みにおいては、周年通して花が見られる水仙・コスモス等の草花を植栽し景観を保ってきました。参加された子どもから年配者は、同じ集落内においてもなかなか顔を合わすことが無い中で、活動を通じてお互いに喜び、楽しむ会話がなされ、前にも増す絆が育まれ、新たな交流が図られました。

生態系調査においては、親子そろっての活動で、地域の農地に多くの生き物が住んでいることへの驚きと地域の教師の指導で生態を勉強できたことは、将来にわたって環境保全に継承されるものと期待できる活動でした。

環境保全活動と草刈・泥上げ等の農地・水向上活動の一体化を通じ、水田や農業用水が持つ多面的な機能が、皆のものとしての農地であり、環境であることの理解が深まり、この活動が一区切りされた後においても、活動が自らの手により進めることのできる体制の構築に努めるものとして確認されているところです。



農業者・非農業者の3世代が交流と絆を深め、景観形成のコスモス植栽を通じて環境保全の大切さを学びました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	クリーンファームおぬき	代表	安藤 喜美雄
協定面積	田 74.83ha 畑 ha 計 74.83ha	対象面積	田 74.83ha 畑 ha 計 74.83ha		
管理施設	開水路 8.9 km ため池 ヶ所 農道 5.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 65人 農業団体 2団体	非農業者個人 8人 非農業団体 6団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの地域は、旧大曲地区南部にある戸数73戸、周りは水田に囲まれた、純農村地帯です。昭和56年に大正8年から大正11年に整備された農道の狭い1反歩田から30aの田に区画され用排水路はU字溝に変わり、様々な生物が減少し、地域の自然環境が変わってしまいました。 そこで、地域に根差した環境作りを目指し、また、農地区画整理によって環境の変化が大きく見られましたが、それらの改善を1つに加え取り組みました。「地域の人々の繋がりが、薄れたこの頃」ですが、最初は、いろいろなとまどいがありました。共同活動を通して環境への意識の変化が現れ、自分の身の回りだけではなく、地域全体への環境改善への取り組みの大切さが浸透してきました。 また、児童たちと共に水路の水質モニタリング、生物の調査等を通じ、農村環境への感心を持ちました。 また、景観作物への取り組みも農業者、非農業者、児童たちと共同で作業を通じ繋がりができました。 集落営農への意識改革にも良い影響を与えております。 今までの5年間を無駄にせず、集落全域の活動を通して協力を得ながら自分達の出来る事から1つ1つを積み重ね、「三世代共同の景観作物の植栽」良き環境作りに進んで行きたいと思っております。					
					
				「三世代共同の景観作物の植栽」	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	古道・水と緑を守る会	代表	児玉 協三
協定面積	田 12,1ha 畑 ha 計 12,1ha	対象面積	田 10,4ha 畑 ha 計 10,4ha		
管理施設	開水路 4,2 km ため池 ヶ所 農道 1,8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 12人 農業団体 1団体	非農業者個人 4人 非農業団体 2団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たち古道・水と緑を守る会は、古道集落の周辺を対象とした組織であり、予算の規模も小さく大きな活動は出来ませんでした。昔から自分たちのことは自分たちでやろう、やらなければ集落のみんなに迷惑がかかるという気持ちでやっていたのですが、近年は高齢化や仕事の忙しさなどで農道や水路の手入れが少しおろそかになってきました。しかしこの対策のおかげでもう一度農地・水・環境保全の大切さを知ることが出来たことが良かったと思います。 この活動のなかでの最大の収穫は、小学生主体の通学路への花の植栽に子供たちが積極的に参加し、それによって自然の恵み、大切さを感じてもらえたことです。これだけはどんなことがあっても続けていきたいと思えます。					
					
				通学路への花の植栽	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	鷹ノ巣地域環境保全隊	代表	山信田 幹
協定面積	田 24.3ha 畑 ha 計 24.3ha	対象面積	田 24.3ha 畑 ha 計 24.3ha		
管理施設	開水路 3.9 km	ため池 ヶ所	農道 2.1 km	パンプライン	km
構成員	農業者 22人	農業団体 団体	非農業者個人 1人	非農業団体 2団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の保全隊では、美田すなわち持続可能な農地を次世代に引き継ぐ事、地域の皆さんに癒しの空間を提供する事を目標に活動を行ってきました。 水質モニタリングを通して水質保全の大切さを再確認し農業施設の保全管理を行う事により物を大切に使うという認識を共有出来たと感じています。 景観形成活動では、花の植栽を選択しましたが花の咲く頃にはファインダーを覗く姿も時々見受けられ美田と花はミスマッチでは無い事を実感しています。 この活動を通して得た共同活動の持つ力、楽しさ、可能性を集落や営農の維持発展に役立てていきたいと思っています。					
					
				遊休農地に花（向日葵）の植栽を行い美しい景観をつくる	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	谷地板杭環境保全グループ	代表	中野 和幸
協定面積	田 33.7ha 畑 ha 計 33.7ha	対象面積	田 33.7ha 畑 ha 計 33.7ha		
管理施設	開水路 6 km	ため池 ヶ所	農道 3 km	パンプライン	km
構成員	農業者 7人	農業団体 1団体	非農業者個人 13人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの環境保全グループでは、近年生活環境の変化により、集落内のまとまりが薄れてきていることから、何らかのイベント開催の必要性を感じていたところ、このような事業の導入することで、地域内のコミュニケーション向上を計ろうと取り組んできました。現在では、クリーンアップや花の植栽には、沢山の住民が参加し頼もしい交流の場になっています。 また、今までは個々の農家がそれぞれ時機を逸しないで行ってきた草刈等も、一斉に行うことで農地の景観も非常に向上されたように感じますし、その他施設も自分たちで守り延命させようという機運が高まってきたと思う。 今後、この精神を継続出来るよう地域一丸となって頑張っていこうと思う。					
					
				景観形成活動のうち、花の植栽において、女性住民を中心に行ったプランター作成作業で汗を出した一コマです。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	曲陽地区環境を守る会	代表	富樫 公一郎
協定面積	田 118ha 畑 ha 計 118ha	対象面積	田 118ha 畑 ha 計 118ha		
管理施設	開水路 20.7 km	ため池 ヶ所	農道 12.3 km	ハブライン	km
構成員	農業者 250人	農業団体 2団体	非農業者個人 50人	非農業団体 1団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

- ・資金を得て様々な事業を立ち上げるにより、それに参集する老若男女に交流が生まれ、郷土を愛する心情がより一層高まったものと確信している。
- ・初年度に取り組んだ、当地区で問題となりつつあった耕作放棄地を、交付金を活用して見事によみがえらせた事業は、大きな収穫であった。また、地域の宝である国の重要文化財の「古四王神社」への道沿い1kmに渡って造成した『フラワーロード』は春から晩秋まで見事な花を咲かせ、地域からも賞賛の声を多数頂いた。更に、従前より行ってきた福部内川沿いの草刈作業は、今回の交付金の活用により一層盛大な事業へと成長し地域に定着しそれが地域農業の活力を生むプラスの要因となっている
- ・景観作物として栽培した蕎麦の実をそば粉にして、蕎麦祭りを開催したが、新たな農業への目を開かせてくれたと好評であった。
- ・5年間の活動が単発の事業として消滅しないようにTシャツやカレンダーを作成し全戸に配布し、本事業の趣旨が忘れられることのないよう留意した。
- ・本事業の交付金から支出された『手当』により無償の活動の志が損なわれることのないよう注意した。



フラワーロードの作業風景。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	藤木地区資源保全隊	代表	佐藤 吉友
協定面積	田 192.9ha 畑 ha 計 192.9ha	対象面積	田 177.9ha 畑 ha 計 177.9ha		
管理施設	開水路 40.7 km	ため池 ヶ所	農道 16.6 km	ハブライン	km
構成員	農業者 215人	農業団体 2団体	非農業者個人 178人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全隊では、今の緑豊かな農村の風景を後世に残すため、また農地の保全を目標にしてこの5年間、地域ぐるみの活動を続けてきました。

特に、景観形成活動には全集落の老人クラブや町内会の協力を得てこの地区をほぼ縦断する幹線道路沿線(2KM)にサルビアなどの花苗プランターを設置したほか、道路の法面の崩壊を防止すると同時に景観にも配慮して「ヒメウダレ」の苗を植栽しました。

また「新藤木団地」の皆さんには、毎年近くを流れる水田の排水路の浚渫に泥まみれになりながらご協力いただいたりして、地域ぐるみ自分たちでまず行動しようと言う機運が芽生えてきたことは大変うれしく思います。

これからも、これまで培ってきた共同作業の心息を見失うことなく地域の発展に寄与したいと思っております。



中学校前の市道を利用して生徒達が「ヒメウダレ」の如く逞しく成長されることを願い植えました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	宮林・大島水土里保全協議会	代表	能味 一
協定面積	田 181.7ha 畑 ha 計 181.7ha	対象面積	田 181.7ha 畑 ha 計 181.7ha		
管理施設	開水路 49.2 km	ため池 ヶ所	農道 18.3 km	パンプライン	km
構成員	農業者 158人	農業団体 団体	非農業者個人 3人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当協議会は、合併前の土地改良区の集落や水田を総抱えにした組織体で事業活動を行っている。事業に取り組むに当り、共同の力で集落の保全に役立つ活動は何かを問いかけた。

大勢は「花」の植栽・管理であった。農村環境保全の重要性に落ち着いた。1 kmを越す「花街道」造りからスタート。ひまわり園造り、クレオメ園、アヤメ園、キバナコスモス、花菖蒲園にソバの花、菜の花など草花の種類は、10種類を越えた。

「花」の手入れは手間がかかるが、子供たちも加わった老若男女の結び付きは、予想以上であり、家族では味わえない絆の重さを共有することが出来た。

伊豆沼の復元も手がけた。昭和50年初期、基盤整備時に移設した沼(約60坪)である。土砂利で埋まり釣りまで出来た沼には雑木まで生えて干上がっていた。漏水を止め、小魚を放流し、間伐材で壁を補強し、辺りに花を植栽した。

農村環境の維持管理は機械力に頼ることも必要だが、共同作業で出来ることを活動を通して自信を得た。

会員には5ヶ年間のご協力に対し心からの謝意を表し次年度からの活動は、「結い」より強い共同の芽が、大きな花を咲かせるよう誓い合いたい。



伊豆沼より水を汲みとり、バケツリレーで、最上部の古電柱利用の花壇に水やりをする会員たち

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	四ッ屋第一地域愛護会	代表	草薙 節雄
協定面積	田180.1ha 畑 ha 計 180.1ha	対象面積	田180.1ha 畑 ha 計 180.1ha		
管理施設	開水路 48.8 km	ため池 ヶ所	農道 22.1 km	パンプライン	km
構成員	農業者 149人	農業団体 3団体	非農業者個人 6人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの愛護会では、仙北平野のほぼ中央に位置する、のどかで水と緑の豊かな田園風景を守りながら地域の交流を図る事を目標に活動を行ってきました。当初は、中仙地区と四ッ屋地区二つの行政区の違う地域と一緒に活動するという事で、どのように進めて行くべきか大変不安な中でのスタートとなりましたが、春の道路エアのクリーンアップや秋の道路路肩への水仙の植栽など構成員の多くが参加する地域におけるとても大切な共同活動となりました。

地域の母なる川“窪堰川”エアのクリーンアップを始め、農業施設の保全管理や草刈り、水路の泥上げ、水質モニタリング、プランターへの花の植栽、そばの植栽、カバープランツなどの活動を通して農業者以外の方々も含めて、“地域は、みんなで協力し合いながら、自分たちの手で守って行こう”という機運が高まってきました。

これからも、こうした共同活動を長く継続しながら地域の環境と景観を守り、“共同”と“助け合い”の絆を大切に盛り上げて行きたいと思います。



道路路肩等へカバープランツの施工により雑草対策が容易になり景観が保たれるように成った。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	下深井地区資源保全隊	代表	高橋 昇
協定面積	田 188.0ha 畑 ha 計 188.0ha	対象面積	田 146.3ha 畑 ha 計 146.3ha		
管理施設	開水路 33.6 km	ため池 ヶ所	農道 14.2 km	パンプライン	km
構成員	農業者 166人	農業団体 2団体	非農業者個人 29人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全隊では、今の緑豊かな農村の風景を後世に残すため、また農地の保全を目標にしてこの5年間、地域ぐるみの活動を続けてきました。

特に、景観形成活動や春のクリーンアップ 作戦には全集落の皆さんに参加していただきまして地域では、年中行事の一環として取り組んでおり、これを楽しみにしております。

旧国道に架かる跨線橋法面の草刈りは、年に3回行いますが以前には草ボウボウのすがたでしたが今はきれいな景観を見せています。

この事業に取り組んだおかげで地域の連帯意識や共同作業の意識は構成員の心に深く浸透しているとおもいます。

これからも、この経験を生かして地域発展のため頑張っていきたいと思います。



村の鎮守のお宮の前で、お母さん達が「井戸端会議」をしながらお花の植え付けに頑張っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	大曲地域環境保全活動協議会	代表	判田 勝補
協定面積	田 897ha 畑 ha 計 897ha	対象面積	田 897ha 畑 ha 計 897ha		
管理施設	開水路 186 km	ため池 20 ヶ所	農道 100.9 km	パンプライン	36.7km
構成員	農業者 701人	農業団体 団体	非農業者個人 700人	非農業団体 11団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私共の協議会では、地域の生産活動や農村環境の基盤である農用地の機能保全と併せ、農村風景の維持と、新たな景観の形成や生態系、地下水などの自然環境資源を維持し、つぎの世代に受け継いでいくことを目標とした活動を行ってきました。この地域は、市街地に近く混住化するなかで、農用地の保全や湧水並びに水質保全への関心は農業者に偏っている状況下にもありました。

このため子供達に地域の川に棲む生き物調査や水質の保全活動等に参加してもらうことにより、保護者その他の方々にも農村地域への関心をもってもらう機会となりました。

更に全体的な水路、農道の草刈りや花の植栽などによる景観形成活動などから生まれる地域の連帯感や、ゴミ等の不法投棄や交通安全などの意識の一助になったのではないかと考えております。

また農業用水の持つ様々な機能や、水路の補修、泥上げその他の農業用施設の保管理などへの多数の参加活動によって、農村環境整備に対する地域住民全体の意識に変化が出てきたことは、この事業の大きな成果であったと考えます。

今後も自らが自らの意識と活動によって、自らの住む農村環境の整備に取り組んで行きたいと考えています。



水路に住む生物の観察及び専門員による地域の水質保全による状況説明

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	萩台地区資源保全向上活動協議会	代表	佐藤 一男
協定面積	田 86.86ha 畑 ha 計 86.86ha	対象面積	田 56.89ha 畑 ha 計 56.89ha		
管理施設	開水路 11.6 km ため池 ヲ所 農道 8.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 114人 農業団体 1団体	非農業者個人 152人 非農業団体 4団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域は、圃場整備区域を核としながら活動しました。兼業農家が多いため、平成19年集落営農組合を設立しながら、担い手・農家・非農家・老若男女・子供会を問わずに多くの方から理解と協力をいただき、5年間の活動を終えることができました。開水路のきめ細かな雑草対策では、個々で管理できない所は組織活動で生態系や営農面に配慮して、雑木、藪草を下払いし、従前よりも地域の水田風景が美化環境となった。また水質モニタリング・生き物調査で、中野地区の子供会・保護者は大戸川で魚釣りの活動もされました。

遊休農地は、花園に生まれ変わり色鮮やかな花々が、子供達や地域の癒しの場となった。清掃活動は老人クラブの方々が空き缶やゴミ拾いの活動された。水路の泥上げ・草刈り等は農家非農家も参加し、早朝からの活動のスポットとなり、作業終了後の双方向コミュニケーションが生まれた。また地域住民からは、農業用水の持つ多面的機能の理解を示すようになった。

この活動を通じて地域と地域の結び付きや連帯感の向上心が高りつつ、今後は高齢化、混住化の進みで農業施設の保管理が低下しつつあるので、担い手者だけでは限界があり地域住民が活動組織に積極的に参加できる体制を整えて地域の活性化を図りたい。



遊休農地の発生防止のために
景観形成として植栽を行う
(サルビア・マリーゴールド・ペニニア・ラベンダー)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	杉本地域農地と水環境保全会	代表	伊藤 隆康
協定面積	田 63.0ha 畑 ha 計 63.0ha	対象面積	田 63.0ha 畑 ha 計 63.0ha		
管理施設	開水路 10.6 km ため池 ヲ所 農道 6.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 66人 農業団体 2団体	非農業者個人 53人 非農業団体 3団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全会は、JR田沢湖線沿線と市道に囲まれ、対象面積全てが水田で稲作が中心です。この大切な農地と水の環境を守り、将来に引き継ぐための基礎づくりを進めてきました。これまで、本事業の実施にあたって、一時的に終わる花のプランター栽培よりも、毎年花が咲く球根の植え付け、事業終了後も利活用でき、あの時やって良かったと言える様な事業をできるだけ選び実施して参りました。環境が重視されていることから、間伐材を利用した事業などに重点をおき、道水路の路肩の補修を進めることとしました。対象面積が少ないことから予算的に厳しいものがありました。しかし、会員のご協力により5年間を費やし、約800mを補修することが出来ました。会員の中に土木作業経験者があり、協力が得られたことも大きな要因で、感謝しております。また、事故も無く無事完成したことも大きな喜びです。さて、当地域の今後の農業については、農業従事者確保対策が大きな課題と受け止めております。魅力ある農業となるためには、農業所得の向上を積極的に進めることが重要だと思います。これを乗り越えるためには、どうしても大規模農業を最優先して進めなければならないこととしますが、兼業農家の多い当地区にとっては、その規模拡大の必要性についてはお互いに認識はあるものの、先祖からの土地に執着し、思うように進まないのが現状です。この協定地域内に5～6台ものコンバインが稼働している風景を見ると、農業集約を進める取り組みの必要性を感じます。



この事業を記念するとともに、地域の農地と水と環境を守り、これを今後引き継いでゆくことを誓い、交流の場である子供の遊び場に設置した。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	四ツ屋地区環境保全会	代表	児玉 裕一
協定面積	田 435.6ha 畑 ha 計 435.6ha	対象面積	田 435.6ha 畑 ha 計 435.6ha		
管理施設	開水路 75.1 km	ため池 ヲ所	農道 49.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 491人	農業団体 団体	非農業者個人 191人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち四ツ屋地区環境保全会では、緑豊かな水田、又地域を流れる用水や排水を次世代に受け継ぐことを目標に活動を行ってきました。

それまでは草刈や用排水の泥上げ等は個人で行っていましたが、この活動が始まってから集落全員で行うことの大切さや自分達の施設を「長持ちさせよう」という機運が生まれました。

又、花の植栽でも農業者以外の方々や老人クラブ、保育園児や小学生とのつながりも強くなりました。

これまでの五年間の活動が四ツ屋地区にとり、大変有意義な活動になりました。今後もこれを契機に自分達の地域を自分達で守ろうと頑張りたいと思います。



素堀水路の崩落防止、通水改善のために間伐材を使用し水路の改修を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	北檜岡地区環境を守る会	代表	鈴木 三男
協定面積	田 185.25ha 畑 2.36ha 計 187.61ha	対象面積	田 174.00ha 畑 ha 計 174.00ha		
管理施設	開水路 29.2 km ため池 ヶ所	農道	29.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 218人 農業団体 2団体	非農業者個人	310人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 当事業を始める前は、当地域においても、現在、全国的に問題になっている農業者の高齢化、担い手不足により、かつては集落あげての行事であった地区内のクリーンアップや農道の草刈り、用排水路の泥上げ等の活動に参加する人が少なくなり、農道や用排水路荒れ始め、しいては、集落全体の環境の悪化が危惧されているところでした。

このままでは、いままで築きあげてきた豊かな農村環境をこれからの世代に引き継ぐことが出来ないという危機感をもって当事業に参加させて頂きました。

当初は、事業の内容につまずいたり、呼びかけをしても特定の人しか参加してくれず、特に非農業者の方の参加が極めて少なく苦勞しました。

しかし、関係機関の協力の下、事業を進めていくうちに次第に参加者が多くなり、事業をしていく上で、集落のつながりを感じられるようになってきました。

特に、親・子・孫の三世代が協力して行う、生態系調査の実施は、世代間のつながりを確固たるものとし、先人の知恵や、環境の大切さをこれからの世代に受け継ぐことに大いに貢献出来たと思っております。

これからも、農村環境の保全、向上に地域をあげて取り組んでいきたいと考えております。



休耕田を利用した、景観植物の植栽
(憩いの場の形成)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	関金地区環境保全会	代表	斉藤 永太郎
協定面積	田 86.1ha 畑 ha 計 86.1ha	対象面積	田 81.0ha 畑 ha 計 81.0ha		
管理施設	開水路 29.3 km ため池 ヶ所	農道	13.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 87人 農業団体 2団体	非農業者個人	8人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 上流の集落から流れ来、我が集落をとおり集落に流れ、やがて玉川に注ぐ通称「古川」と呼ばれてきた大排水路。用排水路の堰払いや泥上げは共同作業として管理されてきたが、草刈り作業だけは隣接する農家が各々行ってきた。広くてしかも傾斜のある法面を個人が年3～5回に及ぶ作業量の膨大さに時として放置したり、あるいは除草剤に頼り法面を軟弱化させているのが現状であった。そこで今回の事業では、個人的な負担や除草剤に頼ることのない、良好な維持管理をすることを中心に据えた。

カバープランツの植栽。バックホウによる法面の不陸整生から始まり、土壌改良材の散布、ネズミ対策、防草シート貼りまでの工程を雑草が生えないうちに完了し植栽を待つ。

田植えが終わりいよいよヒメイワダレソウの植栽。この作業は「鹿島流し」の時期と前後し恒例行事として定着した。

その他の事業としては一斉草刈デーなど集落単位ではあるが地域内での同時作業はカメムシ対策に効果があるように思われる。

この事業の最大効果は他集落との一斉作業により、数百年来の「近くて遠い隣人」と連帯が生まれたこと。この制度とそして関係機関のご指導に感謝申し上げたい。



いくつかの集落の下を流れ、やがて玉川に注ぐ「古川」。ヒメイワダレソウの植栽により隣接農家は草刈り作業から解放された。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	宇船地域環境保全委員会	代表	黒川 敏夫
協定面積	田 64.64ha 畑 ha 計 64.64ha	対象面積	田 64.64ha 畑 0.48ha 計 65.12ha		
管理施設	開水路 14.29 km	ため池 1ヶ所	農道 6.07 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 81人	農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入) この地域でも、農業就労者の高齢化、後継者不足が進み、また米価の不安定要素が高まりそれにつれて次第に耕作放棄地が広がり、これに伴う農道、用排水路の荒廃が顕著になり、このままでは農地以外の部分まで環境環境悪化が進むことは容易に推測され、危惧されるところです。そこで農地・水・環境保全事業の発足を機に自治会の役員が中心となり、各種団体の協力指導の下、「宇船地域環境保全委員会」を組織活動を始めました。

活動内容としては、耕作放棄された土地を借り、多少のつまづきはありました荒れた土地をこの5年間で荒れた田を見事に花園に変えたこと、また、土地改良区からの依頼を受け、長沼尻の浚渫を実施し雑草のはびこった部分をきれいな湖沼に甦らせ、その残土を利用し周辺に土手を築き、芝桜を植栽、小さいながらも公園のような景観に変えたことは、特に印象深い活動です。

その後、長沼には地元小学生による稚魚の放流も行われ、在来種や水生動物、水の大切さへの理解が少しでも得られた思っております。また、この水を水源とした地域のほ場整備が計画されていることから地域農業の抱える問題の解決活性化に大いに期待しております。

農業施設の保守管理もいままでは行政頼みでしたが、みんなで問題点を出し合い農道の砂利敷きや水路の嵩上げ、ゲートの保守等、地域の判断により行えたことは改めて故郷を見つめる機会になり貴重なことだと思います。

今後も「自然は未来から子供達からの預かりもの」という気持ちをみんなで持ち続け、自然を大切にしていきたいものと思います。



稚魚の放流では、親子孫と3世代の交流もありました。放流事業は毎年子供達に好評で、放流の体験後自宅で金魚の飼育を始めた家庭が数件あったようです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	蒲地区農業環境保全会	代表	佐藤 兼正
協定面積	田 110.7ha 畑 ha 計 110.7ha	対象面積	田 106.99ha 畑 ha 計 106.99ha		
管理施設	開水路 13.64 km	ため池 ヶ所	農道 14.8 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 83人	農業団体 2団体	非農業者個人 68人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入) 当保全会では、純農村であるため自然豊かな農村機能を活かしつつ「農村に潤いと心の安らぎ」を合言葉に未利用地と排水法面を活用し芝桜、花菖蒲、マリーゴールド、サルビア、赤・白のそばの花、そして秋のコスモスと様々な種類の植栽に地域全体で集落の一大イベントとして取り組んできました。初年度は五里霧中でした。

また、親の会と連携した夏の「雑魚取り」には、祖父母も参加し三世代の交流が行われ有意義な農村学習が出来ました。

年三回の共同草刈、水路の泥上げ、農道の補充活動により資源の質的向上を図り、特に長年の懸案事項であった基幹排水路の中州除去については、関係者に大変感謝されました。

農村社会にも人と人のつながりが薄れてきていますが、5年間の活動で地域の【和】が形成され、まとまりが出来たことは、地域の一番の財産であると考えています。

今後は、今まで培ってきた人と人との和を大切にし農業生産基盤の確立である、面的集積、集落営農組織の設立にも取り組み地域みんなで農村社会の再構築に努めて参りたいと思っております。

これからも、地域内での話し合いを大事にし、自分たちで出来ることは自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろうをもっとうに地域を支えていきたいと思っております。



蒲地区の入り口に
250株の花菖蒲園

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	八石環境保全会	代表	渡部 肇
協定面積	田 47.6ha 畑 15.9ha 計 63.5ha	対象面積	田 22.4ha 畑 15.9ha 計 38.3ha		
管理施設	開水路 14 km ため池 ヶ所	農道	5.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 29人	農業団体	団体	非農業者個人	7人 非農業団体 団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全会では、長年集落で行われてきた道路の草刈りや用排水路の泥揚げなどに加え、環境保全に新たに取り組みました。春、夏の一齐クリーンアップには集落の老若男女が多数参加し、農村の環境保全の大切さを改めて実感することとなりました。

また、景観向上のため行われたひまわりやサルビアの植栽は、老人クラブが主体となって活動を展開し、年齢を感じさせない生き生きとした動きですばらしい景観を作り上げました。このことによりクラブ活動の活性化が図られ、会員一人一人の生き甲斐作りにも貢献できたことが何よりの成果となりました。

今後は、集落のまとまりを維持しながら、農業用施設の共同管理を進め、農村景観の永続的な保全に努めていきたいと考えています。



長年の農作業で鍛えたパワーで手早く花苗を植栽する老人クラブ会員

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	椒沢環境保全会	代表	佐々木 文雄
協定面積	田 45.0ha 畑 ha 計 45.0ha	対象面積	田 45.0ha 畑 ha 計 45.0ha		
管理施設	開水路 16.7 km ため池 5ヶ所	農道	6.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 25人 農業団体 2団体	非農業者個人	15人	非農業団体	2団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 春のクリーンアップ、支障木処理 花植え作業と構成員全員参加の地域の環境整備事業が5年間自分たちの地域は自分たちで守っていこう、一人一人自覚して参加する最大の成果だったと思います。草刈り、水路の泥上げなど個人で行われていた作業を共同作業することで結いも生まれ、高齢化に伴いため池の管理も放棄寸前でしたが保全管理し農業施設を少しでも長持ちさせようという思いを大事にしこれからも地域を盛り上げていきたいと思っています。					
					
老人クラブ、子供会、父兄3世代そろっての共同作業(花植え)の終了後のハイポーズ					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	杉沢環境保全クラブ	代表	上村 寿栄治
協定面積	田 61.8ha 畑 ha 計 61.8ha	対象面積	田 47.2ha 畑 ha 計 47.2ha		
管理施設	開水路 13.7 km ため池 2ヶ所	農道	8.8 km	ハ°イ°ライン	2.3 km
構成員	農業者 24人 農業団体 2団体	非農業者個人	35人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち杉沢環境保全クラブでは、緑豊かな水田風景、農村景観を子供達へ受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。取り組み当初は戸惑いもありましたが、春の農道沿いへの花の植栽による景観形成活動は、構成員全てが参加する集落の一大イベントになりました。子供達自らが活動をしたことで、地域環境を考える貴重な活動となりました。また、仙北市を流れる玉川から農業用用水を揚水していることから、「なくてはならない」水資源を保有している地域でもあり、その施設維持のための活動も行いました。 農業者以外の方々も農村が持つ多面的機能に理解を示し、“地域みんなで農村を美しく、長持ちさせよう”という機運が生まれました。景観形成活動のほかにも、草刈りや水路の泥上げ作業などの日常管理を地域みんなで行う事により、高齢化が進む農業者からは営農に専念する事が出来たと感謝されています。これからも“自分たちで地域を守る”の精神で地域を盛り上げたいと思います。 私たちのような小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域の“絆”が復活しつつあるように感じています。					
					
農道沿いのプランターに花を植え、地域みんなで美しい農村環境づくりに取り組みました。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	床畑環境保全協議会	代表	佐々木 義孝
協定面積	田 12.2ha 畑 ha 計 12.2ha	対象面積	田 12.2ha 畑0ha 計 12.2ha		
管理施設	開水路 6.3 km ため池 ヶ所	農道 1.7 km	ハ イ°ライン km		
構成員	農業者 12人 農業団体 団体	非農業者個人 1人	非農業団体 2団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの環境保全では地域が山に囲まれ何かとイメージ的にと考え景観形成活動を主体に5年間活動してきました。クリーンアップは春と夏ボランティアで行っています。地域内を県道が通っている関係上いろいろなゴミが捨てられていましたが毎年クリーンアップしてきた成果か最近ではゴミの量がだいぶ減ってきました。これからも活動を続けていきたいと思ひます。景観作物の植栽も1年目は面積も、植栽本数も少なかったけれど徐々に増やし5年目の今年

はサルビア、マリーゴールド等560本を植栽しました。景観作物の草刈り・草取りなどの活動を通じて地域構成員のコミュニケーションがこの活動を始める前より良くなってきました。また、支障木も5年間の伐採でだいぶ景観が良くなりました。水質モニタリングも当初は業者さんに依頼してましたが、3年前から構成員で調査を行っています。自分達で実際に調査することで水の管理の大切さを実感しています。当初はこの活動に対してとまどいがありました、構成員の皆さんも今では活動内容を理解され積極的に事業に参加しています。これからも構成員13名と少ないけれど常にコミュニケーションを取りながら活動をし、地域の活性を景観形成活動を軸に進めて行きたいと思ひます。



5年間、景観作物の植栽を通じて構成員の皆さんの親睦が深まりました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	皆別当地区環境を守る会	代表	伊藤 重勝
協定面積	田 44.2ha 畑 ha 計 44.2ha	対象面積	田 44.2ha 畑 ha 計 44.2ha		
管理施設	開水路 23.6 km ため池 4ヶ所	農道 6.4 km	ハ イ°ライン km		
構成員	農業者 50人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの「皆別当地区環境を守る会」では、緑豊かな水田風景、地域の宝である、ため池の水質保全を未来へ受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。

取組当初は、戸惑いもありましたが春のクリーンアップや景観形成活動は構成員全てが参加する集落の一大イベントになりました。守る会の目標でもあった、ため池の保全活動では水質モニタリングを行い、満足できる値であることを確認することができました。今後も水質保全に努めていきたい。

また、景観形成における、「花いっぱい運動」では、役員よりも母さん、ばあさん達がリーダーシップを発揮し、そのパワーには圧倒されました。花の播種から移植を行い、構成員により遊休農地に3,500本の花を植えました。管理も大変。

「草刈ではダメ」「草を根こそぎとらなきゃ」と、ばあさんの声。真夏の炎天下の中、構成員で草取りをした時にいただいた冷たいジュースの味が忘れられません。そして、きれいになった「花畑」に涼しげな風が吹いたとき、花がゆれ、いかにも花がお礼をしているように見え、みんなの顔が笑顔にかわりました。

私たちの小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域の“絆”が復活しつつあるように感じています。



真夏の炎天下の中、汗を拭き拭き、景観作物の草取りに精を出す構成員たち。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	宿地区環境を守る会		代表	斎藤 幸雄	
協定面積	田 66.3ha 畑 ha 計 66.3ha	対象面積	田 66.2ha 畑 ha 計 66.2ha				
管理施設	開水路 26.3 km	ため池 2ヶ所	農道 5.5 km	パイプライン km			
構成員	農業者 42人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

活動の一つに「雄清水周辺クリーンアップ」がある。この里に、古くから湧れることなく地下から湧き出る小さな泉が二つあり、雄清水（おしず）・雌清水（めしず）と称している。水量豊富であり、近くの用水沼の水と共に水田用水としても使用されてきた。十数年前、町の補助を受け農村公園として整備された。水温12度、飲んでみてうまいと皆が言う。口コミで伝わり、今では毎日40～50台の車が大きめのペットボトル20本、30本と汲んでいく。遠い秋田市からも来る。

西仙北地区内の商工会会員作成の清酒「大綱の響き」（つなのひびき）は、この水で仕込んだお酒である。

ここは、集落有地であり、きれいな環境を維持していきたいとの思いから「雄清水を守る会」が発足し、毎月1回草刈・清掃を行っていた。平成19年から「宿地区環境を守る会」一員として、すぐ前の減反地への景観作物栽培も取り入れ、環境整備により一層力を注いでいる。流れの中には、時折山椒魚が姿を見せる。夏には「雄清水まつり」を開催し、流しそうめん・いわなのつかみ取りなどで地域民一体で楽しんでいる。500メートル先には大沢川・揚水場があり、川の水量減少の折でも雄清水の水がそれを補い水田用水として大切な役目を担っている。



サンショウウオも生息しているきれいな環境を維持する為、月1回、草刈りや清掃を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	強首地域環境保全会	代表	小山田 雅浩
協定面積	田 226,37ha 畑 ha 計 226.37ha	対象面積	田 226,37ha 畑 ha 計 226.37ha		
管理施設	開水路 58.6 km ため池 ヶ所	農道 22.4 km	パイプライン km		
構成員	農業者 220人 農業団体 3団体	非農業者個人 42人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 平成19年より開始された農地水環境保全対策事業に於ける本会の対象水田面積は226haであり、対象集落は7集落構成員は220人にのぼる。活動組織は各集落自治会老人クラブ子供会青年会消防団出あり年間を通した活動を行ってまいりました。活動内容につきましては用排水路の整備保全、農道補修点検、景観形成の花植栽管理、クリーンアップ等、であります。地区内の農業者は勿論非農家の方々も積極的に参加されたことによりお互いの連帯感がさらに増し、他の集落内の活動にも好影響を与えたと思っております。 強首地域は平成19年圃場整備事業が採択されへいせい20年から面工事が実施されました。面工事実施前の用排水路は全て土水路でありこれらの清掃整備にこの事業は大きな成果をあげました稲作栽培にとって水の管理は最重要課題であり前集落一体となつて取り組んでまいりました、圃場整備については平成23年で大部分終了致しました、楊排水路にコンクリートフリームが設置されましたが法面の維持管理が大きな問題となり、抑草シートで防護する作業を進めております。各集落内には子供たちから募集した未来に夢を託した農地水環境保全の標語掲示版を設置し今後は花の植栽も進め将来の夢のもてる活動を展開していきたいと考えております。この事業が末長く継続する事を関係者一同期待しております。					
					
			景観形成、花の植栽共同活動		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	強首二工区環境保全会	代表	森川 文夫
協定面積	田 207.1ha 畑 ha 計 207.1ha	対象面積	田 37.0ha 畑 ha 計 137.0ha		
管理施設	開水路 53.4 km ため池 ヶ所 農道 16.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 183人 農業団体 1団体	非農業者個人	人 非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は、広範囲な地域・多くの構成員とがどのように取込み、活動をしたらよいのか会議を開き、行政の指導を受けながら農用地の保全と現在の環境を守りつつも将来に繋げて行きたいと願いながら、関係集落独自の今までの活動を継続し、春秋のクリーンアップを今まで以上に広範囲に、そしてみんなで花植え、水掛、草取りなど合ったことのない非農業者との出会いなど意義のある5年間でした。交付金事業が始まるとほぼ同時期に私たちの地域は100年の計のもと、大規模な圃場整備事業もスタートし完成も間近かですが、開水路の泥上げや農道、法面の草刈りなどの保守管理はこの5年間の経験を糧に未来の、そして将来の農村の環境、農用地保全の礎になるべき農業者・非農業者一緒になり地域を盛り上げ頑張っていきたいと思っています。



減反政策により遊休農用地になり草木が生い茂る農用地を保全会では水路の泥上げ・草刈りなどを行い、今は圃場整備により、すばらしい美田になりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	強首三工区環境保全会	代表	進藤 儀勝
協定面積	田 129.7ha 畑 ha 計 129.7ha	対象面積	田 76.1ha 畑 ha 計 76.1ha		
管理施設	開水路 47.4 km ため池 ヶ所 農道 15.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 103人 農業団体 団体	非農業者個人	86人 非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち三工区保全会では、農村の景観、環境の保全として地域環境の美化向上活動計画を呼びかけ、緑豊かな水田風景を後世へ受け継いで行くことを目標として活動してまいりました。地域一斉でのクリーンアップをはじめ景観形成のための植栽活動での、ひまわり、なたね畑作り作業には子ども会や地区老人会を取り込んでの共同作業になりました。活動当初は予想道理の開花をみることが出来るかとの不安もありましたが、見事なひまわり、なのはな畑が出来たときには、には、子どもから老人まで大変な喜びでありました。又これまで同様、農業用排水路の草刈り、泥上げ等清掃を行い水の有効活用を図ってきましたが、地域一斉での活動とすることで以前よりも地域全体のコミュニケーションがとれる様になりました。これまでの活動に子どもから老人会これまでの活動に子どもから老人まで取り込むことで、地域全体に水資源の大切さや美しい地域全体に水資源の大切さや美しい農村環境への関心が 高まった様に感じられます。これからも高まった様に感じられます。これからも、地域一体となり、後世に残せる美しい農村環境作りに勤めたいと思います。



子ども会が種まきして見事に咲いた、なのはな畑

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	藪台地域資源保全会		代表	田口 繁
協定面積	田 242.58ha 畑 ha 計 242.58ha	対象面積	田 236.0ha 畑 ha 計 236.0ha			
管理施設	開水路 94.5 km ため池 ヲ所 農道 36.2 km	ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ km				
構成員	農業者 288人 農業団体 団体	非農業者個人 49人		非農業団体 7団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)						
私たちの地域では農家の高齢化と農家戸数の減少がすすんでいます。現在農家で実施している道水路の維持管理の人員確保が困難となるため、非農家も参加してこの田園風景を維持して行くことを目標に活動を行なってきました。非農家の参加をどのようにするか試行錯誤をした5年間でした。まず景観を良くする為に行なった花の植栽では9割以上の地域住民が参加をし、大いにコミュニケーションが図られてたいへん好評です。共同作業後の懇親会（早苗振り）もこの事業がはじまってから次第に参加者が多くなりました。 その時、私たちの地域の普段何気ない風景がいかに大切なものであるか改めて考える良いきっかけとなった人もたくさんいました。 特に農業用水を防火用水として初期消火に役立つことや水質調査の結果を広報等でお知らせしたことで関心が益々高くなり、この事業のお陰と非常に感謝されています。ただ目標の道水路の維持管理に非農家の方々に参加していただくことはなかなか出来ませんでした。 これからは圃場整備をして維持管理を省力化し、花植栽等の軽作業を地域住民が共同作業できることを継続していきたい。						
						
			地域住民の親睦と景観を良くする為 に花の植栽を共同で行なった。			

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市			組織名	方角沢活動組織			代表 高橋 五十治		
協定面積	田 14.0ha 畑 ha 計 14.0ha			対象面積	田 14.0ha 畑 ha 計 14.0ha					
管理施設	開水路 3.8 km ため池 ヲ所			農道 2.3 km			ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ 0.2km			
構成員	農業者 1人 農業団体 団体			非農業者個人 1人			非農業団体 2団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)										
作付け面積の減少で休耕地が目に見えて増え、農村風景の良さが廃れていくのかと不安を感じていた頃、この活動の主旨を知り「水と環境の保全」を維持することが大事な目的として活動を進めてきた。特に、景観形成向上の一貫としての花植え（植栽）は効を奏し、心なごむ美観の形成に大いに役立つことができた。さらにクリーンアップや、農地施設の維持確保のための農道整備、草刈、泥上げなどを構成員全員で行なうことによって連帯感も増し、わが地域を自らの手で保全にかかわることの意義を分かち合えた成果は大きい。 ここは小規模の農業者の地域であり、今後の未来は、高齢化が進みほぼ予想もつかないわけではないが、今までの活動の意義をふまえ営農の未来の方向性を探り、たしかな農業地域として盛り上げていく気概で頑張っていこうとしています。										
										
				構成員全員による植栽は景観向上と連帯感も深めた。						

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中仙南部環境保善グループ	代表	佐藤 海彦
協定面積	田 459ha 畑 ha 計 459ha	対象面積	田 459ha 畑 ha 計 459ha		
管理施設	開水路 813 km ため池 ヶ所	農道	72 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 347人 農業団体 1団体	非農業者個人	16人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の中仙南部環境保善グループは、ほ場整備がされた450ha程の大きな面積をもってこの事業に取り組みました。最初は、地域全体に均衡の取れるようにと試行錯誤の連続で大変でしたが、2年目からは事業の内容等も把握して、順調に推進できたと思っております。私達の地域には絶滅危惧種のAIにランクされている「イバラトミヨ雄物型」が生息しており、ほ場整備を実施するにあたり、生態系に配慮した水路や保全池が数多く作られており、保全管理が大変でしたが、この事業により保全管理はもとより、後世に伝えていくための三世代交流(小学生、県、市、地域住民)をはかりながら生態系の調査等をし活動することができて、本当によかったと思っております。又地域全体でも、水路点検、草刈り、水路の土砂上げ、花の植栽・管理、カバープランツ施工、視察研修等、数多くの事業を実施することができ、共同作業等を通じ、地域や集落のコミュニケーションが図られ嬉しく思っております。今後も事業が継続され、より一層地域の絆が深まるよう期待しております。



三世代交流：イバラトミヨ捕獲作戦
(保全池浚渫の為)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上桜田環境保全を高める会	代表	相馬九右エ門
協定面積	田 55.8ha 畑 ha 計 55.8ha	対象面積	田 55.8ha 畑 ha 計 55.8ha		
管理施設	開水路 7,729 km ため池 ヶ所	農道	8,284 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 24人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当集落では、事業が始まる以前より用水路清掃、市道、農道のクリーンアップなどは農家・非農家全戸参加にて実施して来ました。

本事業で新たに環境向上活動を実施したことにより、農道、道に花の植栽を実施しました。多数の参加者により、地域のコミュニケーションが一層図られたと思います。



女性主体の花の植栽風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	下八幡環境保全グループ	代表	高橋 孝誠
協定面積	田 42.58ha 畑 ha 計 42.58ha	対象面積	田 42.58ha 畑 ha 計 42.58ha		
管理施設	開水路 7.4 km ため池 ヶ所	農道	1.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 45人 農業団体 1団体	非農業者個人	4人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちのグループでは、水田風景の中に安らぎを求める空間と子供から老人まで交流出来る場所を作りました。この活動を行うに当たり、活動の内容を地域住民に説明し協力を依頼致しました。活動が始まり、本当に人が集まってくれるか不安でしたが、地域の住民が心良く参加し春のクリーンアップ作業、側溝掃除、草刈り、植栽作業など活動を順調に進める事が出来ました。また水質については今まで興味が無い人が多く、悪化の状態にありましたが、水質モニタリングを行う事で水質改善に努めるようになり、夏の夜にはホタルが見られるようになりました。

私たちの集落では、住民が集まり交流する機会が薄れてきておりましたが、この活動を5年間行う事で集落全体が昔のように **結束** するようになりました。また活動を通して人を **思いやる** 気持ちも生まれております。また農業用水路、農道、農業用施設の管理も農業者以外の人も参加し、住民全員で保全に努めるようになりました。

最後にこの5年間の活動を通して、子供から老人まで幅広く交流出来た事、将来のリーダーを育成する機会が出来た事に感謝しており、今後も地域の活性化に住民全員で取り組んでいきたいと思ひます。



農作業の合間にほっとする場所及び地域交流を盛んにする場所を作りました。この場所を維持する為に管理を行っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	鶯野水土里を高める会	代表	富岡 弘
協定面積	田 414.66ha 畑 ha 計 414.66ha	対象面積	田 414.66ha 畑 ha 計 414.66ha		
管理施設	開水路 104.9 km ため池 ヶ所	農道	53.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 216人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	19団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの会では、地元の豊かな自然と農村環境を守る事を目標として活動を行ってきました。活動開始当初はどういった活動をしたらいいか戸惑いましたが、地域で知恵を出し合い、時には先進的な取り組みをしている活動組織を視察して参考にし、少しずつ活動が盛んになってきました。特に春と秋に行う一斉クリーンアップや花の植栽、花への水やりなどの活動には、高齢の方から子供まで様々な世代の方が参加しています。また、水質モニタリングや水路の泥上げ、法面の草刈り、農道の整備などを行い、地域で使用している農業用水や農業施設を健全な状態で使えるように活動しました。

上記のような活動を行ってきましたが、今までと比べ地域の絆が強くなったと実感しています。活動に参加して一緒に作業する、あるいは次の活動はどうしようかと話し合う、そういった事を通じて地域のまとまりが生まれ、地域が明るくなったのではと思います。

5年間の活動は、ゴミのない道路や美しい景観などの目に見えるものだけでなく、目には見えませんが非常に大切な人との繋がりを強くしてくれました。この繋がりを大事にして、今後も地域をより良くしていきたいと思ひます。



毎年6月頃になると、各地域で花の植栽を行います。農家非農家関係なく多数の参加がありました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中野口地域環境保全会	代表	児玉 政一
協定面積	田 53.8ha 畑 ha 計 3.8ha	対象面積	田 53.8ha 畑 ha 計 53.8ha		
管理施設	開水路 19.22 km ため池 ヶ所	農道	5.12 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 41人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の地域では、機械化が進む前はどんな作業でも“結い”で助け合い地域そのものが強い絆でむすばれておりました。しかし高度成長時代とともに、それぞれ若い働き手が農業以外の仕事に就き、時間に縛られながら、どうにか地域の行事に参加できるのがやっとでした。日曜以外はたいていの家がじいちゃん、ばあちゃんが一番の活躍者です。そんな中、保全活動が始まり、中野口保全会では緑豊かな水田風景、そして地域を流れる豊富な水を次世代へ受け継いで行く事を目標として活動して来ました。馴染むまでは、戸惑いもありましたが春のクリーンアップ、景観形成活動は全ての構成員が参加する一大イベントとなりました。私たちの集落では地域のまとまりがだいぶ薄れてきていましたが、5年間の活動のおかげで世代をこえた交流が芽生え、気軽な挨拶も増え、地域本来の“絆”がとり戻されたように感じます。

農業者以外の方々も共同の草刈活動を体験しながら、何気ない農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を大切にしよう、代々受け継がれてきた自然豊かな環境を次世代に残すために“自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”という機運が生まれました。全ての構成員が参加して植栽された通学路沿いに咲く色鮮やかな花に感動しながら、これからも自分達で出来ることは自分達で頑張ろうの精神で地域を盛り上げていきたいと思っています。



植栽活動をととして、次世代を担う子供達が積極的に作業に参加することで、自然に地域の様々な活動も受け継がれる。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	村杉環境保全会	代表	長澤 清喜
協定面積	田 66.0ha 畑 ha 計 66.0ha	対象面積	田 66.0ha 畑 ha 計 66.0ha		
管理施設	開水路 2.46 km ため池 ヶ所	農道	2.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 42人 農業団体 団体	非農業者個人	21人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

村杉環境保全会は、集落の環境整備を目的に多面にわたり活動を行ってきました。基礎的な活動として用排水路の清掃、道路・用排水路法面の草刈り、農地水向上として用水路の簡単な補修、きめ細やかな雑草対策、水質保全のための水質検査や生物調査、環境向上として花壇を設置し花を植えたり、意識向上のために学習会を開いたりしました。

これまで土地改良区に依存してきた簡単な用水路の補修では、土木作業を行なったことのある高齢者が若いとは言えないにしても後継者に技術を伝えるために一緒に作業をしました。さらに後継者を育てるうえで役に立ちます。

子供育成会と共同で道路のクリーンアップや水路に住む生物調査を行なうことで、環境保全に関心を持たせると同時に、広い集落を回って歩いたことから、地域の地形や住宅の配置を知るきっかけになりました。

同じ集落に住みながら、一年に一回も顔を合わせたことがないことが当たり前になってきた比較的広い面積に点在する住民が、活動のために、老若問わず、また、子供たちが集まったことから地域を大切にしようという意識が高まったように思われます。

今後も、住民が集まる機会を多く作ることで、地域の住環境をよくしたいと思います。



子供育成会と共同で道路のクリーンアップ。少子化の中で、子供たちと触れ合う機会がまた一つ増えた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	神林活動保全組織	代表	柴田 喜隆
協定面積	田 13.5ha 畑 ha 計 13.5ha	対象面積	田 13.5ha 畑 ha 計 13.5ha		
管理施設	開水路 2.83 km ため池 ヶ所	農道	3.418 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 7人 農業団体 団体	非農業者個人	5人	非農業団体	団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち神林活動保全組織は、地域における農村環境保全活動を通じ、神林地域に存する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目的に取組を行ってきました。 この取組は、水路清掃、道路清掃、農道管理といった従来から集落で行ってきた取組を基礎に世代ごとに景観作物の植栽やプランターへの花の定植、また、地域内外の子供を対象に農作物の収穫体験学習等を実施してきましたが、今後、集落内で人口の減少や農業担い手の減少が予想される中、今後こうした農村環境の保全を継続するためのきっかけとなったと感じています。 今後は、この5年間の取組が、若い世代にも継承され、この美しい集落環境を後世まで残せるよう引き続き取組を続けて行きたいと思えます。					
				 集落内外の幼児を対象に実施したアスパラ収穫体験学習です。自ら収穫したアスパラを給食でいただいてもらいました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	大神成環境保全の会	代表	高橋 誠悦
協定面積	田 80ha 畑 ha 計 80ha	対象面積	田 80ha 畑 ha 計 80ha		
管理施設	開水路 9 km ため池 4 ヶ所	農道	15 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 76人 農業団体 2団体	非農業者個人	27人	非農業団体	2団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 大神成地区は94世帯、人口377人の集落であります。農業従事者の高齢化、兼業化が進み、地域のまとまりが薄れてきている状況の中、農地・水・環境保全向上対策〈共同活動支援〉に参画しました。取組当初は、戸惑いもありましたが、春のクリーンアップや、景観形成としての農道路肩及びプランターへの花の植栽には20代から70代まで非農業者も含め60人以上の参加者がありました。農道への花の植栽は通学、通勤、農業従事者の心を明るく和ませ、作業を通じての会話も膨らみ、人と人とのつながりの復活に大きな効果をもたらし、これまで農業者のみで行われていた用排水路の泥上げ及び農道の草刈作業、砂利敷きには非農業者の参加も得るようになりました。5年の共同活動を通じて地域のまとまりも生まれ、『先人が残したこの地は自分たちで守っていく』と意識も高まってきていると感じております。将来の地域農業の担い手、農業後継者の育成に努めるとともに、水路は殆ど素堀りで水不足、排水に不良をきたし、ほ場の貸借、作業の受委託もおぼつかない状態であり、基盤整備により条件の整った農地、複合経営の所得向上を図り、活力ある農業を承継できることが地域の環境保全に不可欠であると思えます。					
				 農道路肩への花の植栽には20代から70代まで幅広く参加者が多く集落の一大イベントとなり、人と人とのつながりに大きく貢献しております。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中仙集落環境保全組合	代表	千葉 健
協定面積	田 372.7ha 畑 ha 計 372.7ha	対象面積	田 372.7ha 畑 ha 計 372.7ha		
管理施設	開水路 80.7 km ため池 ヲ所 農道 27.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 386人 農業団体 2団体	非農業者個人	20人 非農業団体 23団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では、地域の豊かな自然環境の保全・向上や、農業者の高齢化が懸念される中で、若い世代に農業に興味を持ってもらい、将来は担い手として地元に着定してもらうことを目標に活動を行ってきました。活動を開始した当初は、どのような活動を行うべきかなど戸惑いもありましたが、活動を進めていくにつれて参加者も増えていき、地域ぐるみの活動ができるようになっていきました。特に、クリーンアップや花の植栽などの農村環境向上活動では、世代を超えた取組ができていると感じます。

また、毎年、私たちの活動組織の取組の一つである、豊岡小学校と連携した農業体験学習として、田植え・稲刈り作業体験を行ってきました。児童たちも、普段なかなか取り組む機会のない作業を一生懸命に取り組んでくれました。この農業作業体験を通じて農業に興味を持ち、将来は一人でも多く農業に携わって欲しいと思います。

活動を通じて、地域で自主的に地域の農業施設や環境保全・向上への取組が増えたことや、人々の交流が増えたことは大きな成果だと感じます。これからも地域全体でより良い取組ができるようにしていきたいと思っています。



毎年、豊岡小学校児童による農業体験学習を実施しております。この農業作業体験が農業に興味を持つきっかけになって欲しいと思っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	八日市環境保全組合	代表	千葉 次郎
協定面積	田 41.8ha 畑 ha 計 41.8ha	対象面積	田 41.8ha 畑 ha 計 41.8ha		
管理施設	開水路 8.4 km ため池 ヲ所 農道 8.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 33人 農業団体 1団体	非農業者個人	13人 非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は自然景観が素晴らしく、かつて東京よりコマーシャルの撮影隊が来た地域であります。この景観を更にアップさせようと、地域一丸となって地域全体にフラワーロードをつくり、ここを通る人達に「気持ちいい」と言ってもらえるようになりました。又、八日市地域は山の源流に近く、蜚が群生する所があります。昔は何処でも蜚は珍しくなかったが、今は見られる場所が少なく貴重な資源であります。蜚＝清流というイメージであり、この生息環境を地域全体に広げていきたいと、気の長い取り組みを始めました。

まず、視察研修で蜚の勉強をし、看板を立て地域の共通認識を持ち、アピールしております。なお下水道の普及を図り、農薬の使用基準をつくり、徐々に営農分野にも指導を高め、地域のイベント作りなどにも取り組んでいきたいと思っています。

今までは「自分の所有地は自分で管理する」が当たり前でしたが、農道への砂利敷き、草刈り、水路の泥上げ、不備箇所の補修等、皆で作業を続けてやっていることにより「地域の不備は地域で守っていこう」が当たり前になって来ております。これも国の環境保全事業の有り難さであります。



自分の水田の排水路泥上げを個人で作業すれば何日もかかるが、共同で行えば半日もかからない。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	小沼地域資源保全隊	代表	藤澤 輝彦
協定面積	田 19.2ha 畑 ha 計 19.2ha	対象面積	田 19.2ha 畑 ha 計 19.2ha		
管理施設	開水路 4.2 km ため池 ヶ所	農道	3.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 21人 農業団体 1団体	非農業者個人	48人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では豊かな水田風景、農業用水等の水質向上を目標として活動を行ってきました。取組当初は構成員の方々が、どれだけこの事業を理解し参加してくれるか心配もありましたが、春秋のクリーンアップや景観形成活動は構成員のほとんどが参加する、集落の大きな事業となりました。活動組織の目標でもあった水質向上活動では、子供会が水質試験に参加し、水や自然の大切さを考える貴重な活動になりました。

私たちの集落は24戸と小さい地区でこのところ個々の繁りが少し薄れてきていましたが、この活動を通し住民相互の絆が出てきているように感じています。

構成員皆が全活動を始める前よりも積極的に参加し、住み良い地域を作っていこうという気持ちが生まれてきました。

農業者以外の方々も草刈、泥上げなどの活動に参加し個々の農業者の負担が軽減され喜ばれています。

これからも構成員の皆が力を合わせこの地域を盛り上げ、より住み良い地域作りのために頑張っていきたいと思っています。



この清らかな水資源保全のために、これからも水路等の保全に努めています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	豊川環境保全活動組織	代表	高橋 勝則
協定面積	田 349.11ha 畑 ha 計 349.11ha	対象面積	田 349.11ha 畑 ha 計 349.11ha		
管理施設	開水路 48.06 km ため池 ヶ所	農道	34.733 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 244人 農業団体 2団体	非農業者個人	652人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の活動組織では、地域のみinnで農業を支え、農村環境を守り、次世代へ伝えていく事を目標に活動を行ってきました。

当初は農業者中心の活動が殆どでしたが、年々非農業者の参加も増え、「農業、農村環境を地域のみinnで支える」という意識の高まりを感じます。農用地等への花の植栽では、女性、老人クラブ等の非農業者が主体となり、沢山の花で彩られた美しい田園風景が作り上げられました。子ども達の参加数も徐々に増え、農業、環境に対する意識向上を図ると同時に、笑顔溢れる世代間交流の場になりました。地域の繋がりが希薄化している昨今、老若男女が団結して5年間の活動に取り組んだ事は、地域の活性化に大きく貢献したと思います。

また、当地域には準絶滅危惧種である「梅花藻」の生息地が数箇所あり、水質モニタリングの定期的な実施に併せて、地域住民、団体が連携して保全活動に取り組んでおります。

今後は、自助努力による農村環境の保全をより積極的に行う事を目指すと共に人と人との絆を深め、地域を盛り上げる活動を展開していきたいと思っています。



清流でしか育たない希少種の梅花藻を保全するため、地域で連携して草刈、清掃、移植作業を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	下黒土北活動組織	代表	高畠 良市
協定面積	田 56ha 畑 ha 計 56ha	対象面積	田 56ha 畑 ha 計 56ha		
管理施設	開水路 5 km	ため池 ヶ所	農道 9.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 19人	農業団体 1団体	非農業者個人 6人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

「みんなで守ろうやすらぎの里、農村環境」をスローガンに掲げ5年間活動を続けてきました。平成19年度より「美しい日本」の対策として環境保全対策が始まる指導を受け、集落有志による協議そして構成員を集い、説明会を実施し、当活動組織を立ち上げました。初年度は作成する書類が多で事務的作業に苦労しつつ、不安を抱えた活動始めでありましたが、回を増す毎に構成員の理解も深まり、地域の環境は自分達で守る「協力の心、結いの心」が大きくなり、参加人数も多くなって来ました。今振り返るとこの対策に取り組まなかったら、耕作放棄地は増大し、雑草雑林が生い茂り、農道も雑草が繁り開水路には土砂が溜まり、稲作・畑作に多大な支障をもたらしたのではないかと思います。

しかし今では農道には春の花が咲き、景観地には晩秋まで色々な花が一杯咲き心を和ませてくれます、また隣接集落にはイバラトミヨの生息地があり子供会、PTA合同の調査観察に行ってきました。水田に使用する水質検査も毎年実施し、有害物質もなく自信を持って美味しい「あきたこまち清水米」を生産出来ます。

次年度からは活動交付金が4割程度減額になるとの事ですが、それでも皆で「絆、協助」の心を持ち頑張っていくことを確認しました。行政には今まで以上に御指導をお願いする次第です。



春の訪れを告げるスイセン苗を農道路肩に毎年植えています。また、ゴミ拾いや草刈り等も行っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上黒土環境保全活動組織	代表	長澤 金亮
協定面積	田 77.9ha 畑ha 計 77.9ha	対象面積	田 77.9ha 畑 ha 計 77.9ha		
管理施設	開水路 25 km	ため池 ヶ所	農道 13 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 54名	農業団体 団体	非農業者個人 11名	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

環境保全活動を5ヵ年続けてきて思うことは、地域住民の繋がり・まとまりが、どんなに大切なものか思い知らされた様な気がします。いままで個人々が行ってきた農道の補修も限られた部分しか出来なかったものが、集落全体がきれいな農道に変わりました。また、水路にしても泥・土砂で埋もれていた土側溝・U字溝も、きれいな流れを取り戻すことができました。これは地域住民が協力し合えば大きな成果が得られるという証しでもありました。

景観形成向上作物に 120aの田んぼを借り受けて、コスモスを作付けして、失敗を繰り返しながらも花が咲いてくれた時の喜びは、みんな一生懸命汗を流しながら管理してくれた“賜物”だと感謝にたえませんでした。

絶滅危惧種の“イバラトミヨ”の保護区水路が集落内にあるので水路の草刈り・川草の清掃等きれいな水路作りに一丸となって取組み、子供会との親子での生息状況の観察会を通して子供達に自然の大切さを解ってもらい、また、毎年の水質検査により、水質の変化等貴重な体験をさせて頂きました。

これからも地域住民が手を取り合って地域の環境を護り、更に子供達に受け継がれるよう頑張りたいと思います。



子供会と親子で“イバラトミヨ”の生息状況観察会

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	下黒土南アグリ環境保全会	代表	高橋 正栄
協定面積	田 52.2ha 畑 0.5ha 計 52.7ha	対象面積	田 52.2ha 畑 0.5ha 計 52.7ha		
管理施設	開水路 20.4 km ため池 ヶ所	農道	9.2 km、	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 28人 農業団体 1団体	非農業者個人	3人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの環境保全会では地域の景観を向上させるため、路肩に水仙を植栽したり減反で荒れた田んぼにアート稲でその年の話題性のある文字や絵を描いてきました。これらの共同活動によって参加された農業者、非農業者は地域の環境は自分たちで保全しなければならない事だと考えるようになり、一斉草刈りや農道整備などの共同作業に率先して参加するようになりました。また、アート稲の作業は種まき、田植え、草取り、稲刈りと手作業で行い、子供たちから老人クラブまで参加を求め、昔ながらの稲作りの伝承に努めております。

それから、地域の水系には農業用排水のみならず、生活用水や融雪・防火用水を兼ねている水系がありますので、これらの水質を汚さないように、地域で農業用では除草剤の適正使用や、生活面では洗濯機・台所洗剤の適正使用の勉強会を行い水質モニタリングも行っており、総会時にはその数値を公開して小さな事でも水質改善にも組んでおります。また、このことによって以前は水路に細かなゴミなどが投げ込まれたりしておりましたが、地域の水質は上流があつてのことですが綺麗にしていかなければという自覚が生まれてきたように思われます。

また、これらの共同活動によって地域内のコミュニケーションが以前より格段によくとれてきたように思います。



転作田に地域の景観をアピールするため、毎年テーマを設けて5年間アート稲に取り組んできました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	金鑑みどりの会	代表	明平 吉芳
協定面積	田 60.8ha 畑 1.1ha 計 61.9ha	対象面積	田 60.8ha 畑 1.1ha 計 61.9ha		
管理施設	開水路 8.9 km ため池 ヶ所	農道	5.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 34人 農業団体 1団体	非農業者個人	4人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 私達みどりの会では、「誇れる風土をみんなの力で未来へ」を合言葉に、子供からお年寄りまで活動組織全員が問題意識を持ちながら活動を行ってきました。取り組み当初は、水路清掃や農道整備等以前から行われていた活動以外何をしていけばいいのか戸惑うところもありましたが、子供会を中心にクリーンアップ活動や水質保全のために水質検査を势力的に取り組んでもらい、構成員の意識も次第に高まっていきました。景観向上活動として、マリーゴールド等の定植や水仙の球根定植は構成員のみならず、子供会や老人クラブまで活動組織全体で地域の景観を保全してまいりました。また、従来個々に草刈り作業をしていましたが農地・水向上活動としてみんなで草刈り作業をしたことで、以前コミュニケーションをとることのなかった人との繋がりや意見交換の場を構築できたと思います。

昨今、人との繋がりが軽視されている世の中ではありますが、この活動を通じて、新たな気づきや思いやる心が芽生えてきた気がします。

5年間試行錯誤の連続でしたが、未来を担う子供達が地域の素晴らしさを知る良い機会になったと思うので、この活動を糧にして地域を盛り上げていってほしいです。



子供会から老人クラブまで、活動組織全員で取り組んだマリーゴールド等の定植作業

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	大仙市	組織名	下桜田農村環境保全会	代表	高橋 寛一
協定面積	田 45.73ha 畑 ha 計 45.73ha	対象面積	田 45.73ha 畑 ha 計 45.73ha		
管理施設	開水路 16.03 km ため池 ヲ所	農道	4.562 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 15人 農業団体 1団体	非農業者個人	25人	非農業団体	団体
（5年間の活動内容や感想等記入） 私達の集落は40戸の中で32戸あった農業者戸数が15戸に半減、少子高齢化が進む中で農業者人口の減少が加速し集落の絆が薄れて来ている状況の中で、農地・水環境保全事業全戸加入に伴い景観形成活動や農用道水路の草刈、泥上げなどの農業施設の保全管理に農業者以外からも理解と協力により集落組織の絆が深まった事は大きな成果と非常に感謝されているところであります。 これからも集落の絆を深めるため、集落の結びを大事にしながら地域を盛り上げたいと思います。					
					
日中は暑いので早朝の草刈活動					

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	大仙市	組織名	柏木野集落地域環境保全活動組織	代表	高橋 正悦
協定面積	田 17.8ha 畑 ha 計 17.8ha	対象面積	田 17.8ha 畑 ha 計 17.8ha		
管理施設	開水路 3.6 km ため池 ヲ所	農道	3.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 6人 農業団体 2団体	非農業者個人	18人	非農業団体	団体
（5年間の活動内容や感想等記入） 私達の活動組織では、集落内の農地・農道・用水路等の保全や環境形成のため、花苗の植栽や支障木の伐採等を多くの構成員が参加して活動してきました。また、毎年1回視察研修を行い、農業や文化に対する見聞を深めて、組織の活動を円滑に行っていました。こうした5年間の活動で組織内の話し合いの機会が多くなり、地域の絆が深まってきました。これからも、草刈や水路の土砂上げ、農業施設の保全管理等、自分達で出来る事はみんなで協力して行い、集落の保全のため頑張りたいと思います。					
					
地域の景観形成のため、子供から大人まで、協力して活動しました。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	五百刈田地域資源保全組合	代表	田口 篤男
協定面積	田 34.88ha 畑 ha 計 34.88ha	対象面積	田 34.88ha 畑 ha 計 34.88ha		
管理施設	開水路 9.6 km	ため池 1ヶ所	農道 4.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 41人	農業団体 1団体	非農業者個人 19人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全組合では、農地及びその付帯施設に対し、きめ細やかな視点で臨み、地域の景観形成とともに農村環境の保全を図ることを目標として活動を行ってきました。

取組当初は方針も定まらず、戸惑いもありましたが個々の活動を実施するにつれて、参加人数も徐々に増えてきました。奥羽山系の麓に広がる、標高 100m前後の当地域としては、水田の大半がため池を水源としており、水質モニタリングの実施により、用水と排水の水質がほとんど変わらないことが数値として確かめられました。この事は大変な驚きでした。

春のクリーンアップや開水路の泥上げに始まり、景観ソバの作付け管理、花苗の植栽、ため池の草刈り等、夏までの活動を通じては、地域の連帯感が強まり、様々な提言や要望が出されるようになりました。破損施設の改修も実施しました。

夏以降の活動は稲刈り等により制約を受けましたが、冬季も活動を実施しました。

5年間の活動を通じて感じたことは、薄れつつあった地域内の連帯感が取り戻せたこと、農業者と非農業者の交流が生まれたこと、非農業者の農地と水及び各施設に対する理解が進んだ事があると思います。ただ残念なことは子供の参加が数人だったことです。

地域の財産である、農地と水、農村環境、そして素晴らしい自然をこれからも集落全員で守り、維持をして下流域の人達や次の世代の人々に残していけるようにがんばりたいと思います。



平成21年7月12日に実施した、ため池のきめ細やかな雑草対策です。協定面積の大部分に用水として使用している、貴重な水資源に多数の参加がありました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	喜内野地域環境保全向上隊活動組織	代表	佐藤 啓
協定面積	田 46.3 ha 畑 ha 計 46.3ha	対象面積	田 46.3 ha 畑 ha 計 46.3ha		
管理施設	開水路 7.4 km	ため池 ヶ所	農道 2.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 13人	農業団体 団体	非農業者個人 3人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、地域の水田に関わる用水路、排水路の保全を行い、また春のクリーンアップや景観形成活動は構成員全てが参加して行ってきました。特に、農用地に関わる障害物(支障木)等の除去に力を入れて農作業のへ支障を取り除く共同作業に努力しました。子供達へ魅力ある農村環境を受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。

私たちの小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、環境保全活動へ農業者以外の方々も参加出来たことで地域の連携が深まったと感じています。

“自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”という機運が生まれました。

農業施設の保安全管理の他にも、草刈や泥上げなどの日常管理を地域みんなで行うことにより、地域の集落営農組織では営農に専念することができ、非常に感謝されています。

これからも“自分たちで出来ることは自分たちでがんばろう”の精神で地域を盛り上げたいと思います。



休耕田の荒廃を防ぐ為、支障木の伐採

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	長戸呂環境保全組合	代表	佐々木 幸得
協定面積	田 66.64ha 畑 ha 計 66.64ha	対象面積	田 66.6ha 畑 ha 計 66.6ha		
管理施設	開水路 8.267 km ため池 ヶ所	農道	5.951 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 28人 農業団体 1団体	非農業者個人	9人	非農業団体	1団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 環境保全活動が5年間の節目を迎え、地域住民の強い絆を感じた。

これまで個々で行ってきた、農道整備 農道の法面草刈、あるいは水路の泥上げ等、限られた部分での作業、さらにはこれまで手が付けられなかった、県道端の法面の草刈、それら全てが地域住民の活動により、見違えるような環境が整ってきた。

また、集落内の道路端には植栽をしたマリーゴールドの花が、部落住民のみならず長戸呂を訪れた人々を癒し、憩いと安らぎを与えてくれた。

そして集落内のクリーンアップでは、小中学生達が積極的に参加し、自分達の住んでいる土地への優しい思いが芽生えたと思う。

今後の彼らの思いが将来に繋がれば、この環境保全事業の大切さが継承されるものと信じている。

環境保全共同活動により、部落全体のコミュニケーションがとれたこともうれしく思う。



子ども会と親子での部落内クリーンアップ大作戦。子供達が環境に対する勉強もできた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	東長野谷地乙森地域環境保全グループ	代表	村上 日出男
協定面積	田 100.2ha 畑 ha 計 100.2ha	対象面積	田 100.2ha 畑 ha 計 100.2ha		
管理施設	開水路 34.3 km ため池 ヶ所	農道	9.06 km	ハ°イ°ライン	1.8 km
構成員	農業者 56人(実農家90) 農業団体 1団体	非農業者個人	45人(非農家11)	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの環境保全事業の対象地域の南・北側は大小2つの河川、東・西側は集落が位置し、四方に囲まれ整備された広大な100haの圃場、地域内には主要市道が南北・東西に走っています。

そして、東方には1,000m級の和賀山塊の稜線、北東には花の山駒ヶ岳、南西には秀麗鳥海山が遠く眺望できます。また、集落内には、以前よりは箇所数も水量も少なくなったものの、湧水地があり、春先には河川の堤防の桜並木、圃場は田植え後の緑から収穫期の黄金色に変わり、冬冬は一面白色の中、白鳥が飛来するなど、四季を通じての自然の豊かさがあります。

この事業により、後世に引き継がなければならない自然・環境の大切さを再認識する機会となりました。

圃場整備が完成したことにより、今までの小規模農家は集約され、大規模農家の耕作へと移行、同じ集落内でも、あまり顔を合わせる機会が少なくなっていました。しかし集落の老若男女、農業者と非農業者が一緒に汗を流す共同作業は、連携・交流はもちろん、お互いの立場の理解と集落会員の情報交換、世代を超えたコミュニティの場となりました。しかも、花壇・道路路肩への花の植栽は集落内外の住民・通行者の目を楽しませ、心を和ませております。

今後ますます高齢化が進み、集落形態の崩壊が現実となりつつある中で、それぞれが協力・共生の機運が高まり、いくらか明るい希望が持ててきたことが、この事業実施の成果・収穫だと思えます。



5月3日、恒例の作業となった水路の泥上げ・空缶拾い前の記念写真。この自然景観と地域住民の絆をいつまでも守り続けたい。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	齊開水系環境保全の会	代表	佐々木 堅一
協定面積	田 65.9ha 畑 ha 計 65.9ha	対象面積	田 65.9ha 畑 ha 計 65.9ha		
管理施設	開水路 14.3 km ため池 ヲ所	農道	7.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 89人 農業団体 2団体	非農業者個人	21人	非農業団体	10団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動組織では、この地域が圃場未整備地区のため、主に農業施設の保全管理及び補修に重点を置いて活動するとともに、春の一斉クリーンアップや施設への植栽活動は、非農業者も含め多数の構成員が参加して行ってきました。多数の構成員が一緒に活動することで、薄れ掛けていた地域の一体感、絆が復活しつつあるように思えます。 草刈りや泥上げなど、個人では難儀な作業も共同作業で行うことにより農業者に感謝されています。 農業用水については、冬の流雪水として使用するなどその多面的機能を非農業者においても、益々の保全管理、補修の必要性が再認識されています。 当地区においても少子高齢化は深刻で、将来にわたって営農を継続していくにあたりその基礎となる活動と捉え、より充実したものにしていく必要があると考えています。					
 国道105号沿いの水路脇に植えられた水仙多くの観光客の目に触れ地域の活動をアピールしている。					

農地 水 環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	館郷環境保全活動組織	代表	玉井 公介
協定面積	田 70.2ha 畑 ha 計 70.2ha	対象面積	田 70.2ha 畑 ha 計 70.2ha		
管理施設	開水路 29.7 km ため池 ヲ所	農道	13.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 25人 農業団体 2団体	非農業者個人	70人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) この事業が始まるに当たり、取組当初は戸惑いの声も聞かれましたが、年1回の研修会を開催することにより、地域の皆様方の理解を得られるようになりました。地域のまとまりが薄れてきている昨今、私たちの集落では5年間の活動の中で地域の『まとまり・協力』が生まれつつあるように感じているところです。また、農業関係でも今まで少人数で対応して来た「作業、事項」についても、集落全体で取り組むことにより、効率のよい作業が出来ました。 景観形成活動においては、構成員より花の苗を作ってもらい、休耕田・遊休農地2ヶ所に植栽活動を大多数の参加により行い、毎年ボリュームのある美しい花が咲き、地域内はもとより他方の皆様方からも評判となり、この活動を通して緑豊かな活力のある?館郷(たてのごう) ”のPRになりました。 水質モニタリングも年2回(春・夏)行い、農業者には肥料成分等の流出の管理、地域内の方々には流水に対しての状況と汚さないためにはどのようにするか、研修会を通して理解していただくようにいたしました。 これは、地域の構成員のご理解とご協力無しでは達する事の出来ない活動であったし、みんなで保全して綺麗集落を作ろう、守ろうと言う『結い』の気持ちになったと思います。 これからもこの様な組織を継続して緑豊かな郷作りを行っていきたいと思っています。					
 景観形成活動(花の栽培・管理) 館郷環境保全活動 最高の参加人数 最も賑やかな充実した活動です					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	八幡地区環境保全組合	代表	長澤 勝久
協定面積	田 37.7ha 畑 ha 計 37.7ha	対象面積	田 37.7ha 畑 ha 計 37.7ha		
管理施設	開水路 16.9 km ため池 ヶ所	農道	7.5 km	ハ°イ°ライン	0.6 km
構成員	農業者 40人 農業団体 団体	非農業者個人	15人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

八幡地区環境保全組合では、新しい基盤整備事業の完成と共に、豊かな水田と仙北平野のもと地域の若い担い手と共に奥羽の食農の地として発展できる事を願って活動して参りました。

日常の身のまわりの事業については、春のクリーンアップから始まり、花壇地作り、いろいろな花の作付計画や、水路の土砂上げ、生活上の水質モニタリング等を行い、慣れない仕事が多くありましたが、思った以上の共同作業ができ、その終わりにはきれいに整備された環境に満足感を味わう事ができました。

この5年間の活動の中では「強い絆」ができたと思っております。農業以外の方については、初めての農作業や農業についての共存を示し、自然災害・防災対策や水害・台風被害等農業の多面的機能についても、その必要的な理解を示し、農業は楽しい仕事であると実感されました。これからの地域のあり方については、農業・非農業に関わらず、お互いに協力し合い自然災害から身を守り、また、自然環境を守りながら集落営農についても、消費者と共存して行く地域社会作りが必要だと思われま

す。



水路の土砂上げ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	長楽寺農村公園環境保全守る会	代表	鈴木 清敏
協定面積	田 47.6ha 畑 ha 計 47.6ha	対象面積	田 47.6ha 畑 ha 計 47.6ha		
管理施設	開水路 1.8 km ため池 2ヶ所	農道	5 km	ハ°イ°ライン	1.8 km
構成員	農業者 59人 農業団体 1団体	非農業者個人	40人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会では、緑豊かな水田風景、地域を流れる湧水池を子供達へ受け継いで行く事を目標として活動を行ってきました。保全会の目標でもあった湧水保全活動では水質モニタリングや生き物調査も行い、子供達が自分の目で地域の貴重な魚イバラトミヨ、植物ではヤマトミクリなどを確認することができ、保護者も自分達が子供の頃の環境を伝えるなど貴重な活動となりました。

私達の小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動参加者も増え地域の結束が復活しつつあるように感じています。

農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設、湧水のある農村公園を『維持していこう』と自分達でやることは頑張っていくという団結が生まれました。農業施設の保管理のほかにも草刈りや泥上げなどの日常管理を地域みんなで行う事により、地域に密着した精神が生まれる事で地域を盛り上げて行きたいと思ひます。



湧水池やその周辺水路には、絶滅危惧種の魚や植物が生息しており、生態系保全のための生息調査、草刈りや支障木除去・泥上げ等の清掃を行いま

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

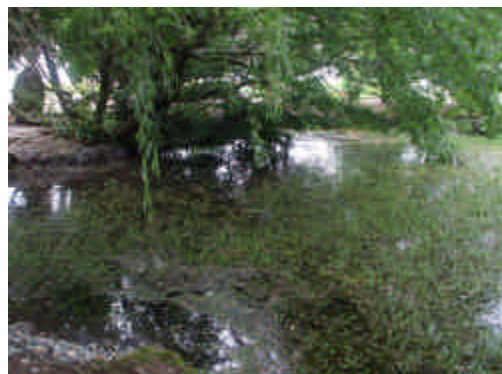
市町村名	大仙市	組織名	清水東部地区環境保全推進委員会	代表	細谷 精悦
協定面積	田 137.14ha 畑 ha 計 137.14ha	対象面積	田 137.14ha 畑 ha 計 137.14ha		
管理施設	開水路 33.4 km	ため池 ヶ所	農道 14.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 78人	農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体 12団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの委員会は2つの集落で構成されていますが、共通の資源として絶滅危惧種の「イバラトミヨ」の生息する湧水池がありました。そのため、この豊かな水資源、きれいな水辺環境を子供、孫の世代へ継承するため活動を行ってきました。また、田園風景を彩る花の植栽にも積極的に取り組んできました。

始めた頃は、この取組が構成員全てに理解していただいているとは言えず、参加者も多くはありませんでしたが、作業を重ねる毎に参加者も増え、今では、ほとんどの世帯が参加していただけるようになりました。これまでの集落での集まりは年に1、2回程度でしたが、この5年間で数十回となり、特に世代間の交流の場が増えたことが何より喜ばれております。

この取組による水路の泥上げや補修、集落全体の草刈り農道路肩への花の植栽、そして美しい水辺環境の維持を自分たちの手で行えたこと、そのことで地域コミュニティが強化され、“自分たちの住むこの豊かな自然環境を守っていくのは、やはり自分たちなんだ”という意識が再確認されたと思います。



湧水池には、絶滅危惧種のイバラトミヨが生息しており、この大切な資源を次世代へ継承すべく適正な管理を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	土洩地域環境保全組織	代表	加藤 元
協定面積	田 21.59ha 畑 ha 計 21.59ha	対象面積	田 21.59ha 畑 ha 計 21.59ha		
管理施設	開水路 5.6 km ため池 2ヶ所	農道	3.1 km	ハ゜イ°ライン	2.6 km
構成員	農業者 21人 農業団体 1団体	非農業者個人	37人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域は、土地改良区との係りが無く、昔からの水利組合組織によって、地域農業施設の維持管理を行ってきた。圃場整備を契機に今後の施設管理のあり方をどうするか、農業者だけでの、施設管理は先行き難しい状況となっていた。幸いに5年前から農地・水環境保全向上事業が始まり、いち早く集落農業者、非農業者の理解を得る事により、当時老朽化していた、堤体補修に取り掛かった。当地域の強みはなんと言っても、土木工事のプロが多数構成員の中にいた事があり、通常百万円近く掛かるであろう補修費が数十万円ですんだ事もあった。又、環境事業における、施設への花木の植栽等には、老人を中心にほぼ全員が出席し、絆の強さを強く感じる事ができた。人との係りが希薄になりつつあったが、最大の収穫は、この協同作業への参加による、安否確認や、地域融和にあったと強く感じている。今事業により、遊休農地もほぼ解消された事から、今後は、複数年に亘る全排水路へのカバープランツを計画しており、地域全員参加による景観形成とさらなる施設管理の充実を図って行きたい。



毎年、参加率ほぼ100%の老人による施設周辺への花木の植栽風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	稲沢環境保全グループ	代表	茂木 靖雄
協定面積	田37.07ha 畑 ha 計37.07ha	対象面積	田 37.07ha 畑 0ha 計37.07ha		
管理施設	開水路 9.03 km 貯水ダム 1ヶ所	農道	4.72 km	ハ゜イ°ライン	0.58 km
構成員	農業者 34人 農業団体 団体	非農業者個人	14人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

これまで集落で行ってきた年1回の草刈りや、クリーンアップにくわえ、本事業に取り組むことにより構成員が、農道の補修、水路の泥上げ、景観形成活動と、それぞれの立場で参加できるようになり活動を通して希薄になりつつあった地域のつながりが深まったよう感じました。水田に景観作物として、ソバや、ひまわりの種を蒔き、プランターにサルビアや、マリーゴールドを植え路肩に並べ、水やりや草取りをする。従来の集落では、予想だになかったことが、老若男女を交えコミュニケーションを取りながら集落一丸となって景観の大切さを、活動の中で認識を新にすることが出来とおもいます。

水質モニタリングも、水質検査キットを準備して、子供達も大人も参加し調査することで、水質の大切さを体感してもらうことが出来ました。

5年間の活動で、農業用施設の保安全管理や、草刈りは、農業者が自分たちで、景観形成活動は、非農業者も交えて、集落みんなで頑張ろうという思いが根付き、事業終了後も、規模を縮小しても継続していこうという機運が生まれています。



耕作放棄地に咲いたヒマワリ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	水沢地域資源保全隊	代表	鈴木 武夫
協定面積	田 32.9ha 畑 1.2ha 計 33.8ha	対象面積	田 32.6ha 畑 ha 計 32.6ha		
管理施設	開水路 7 km ため池 1ヶ所	農道	2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 26人 農業団体 1団体	非農業者個人	10人	非農業団体	8団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの保全隊は、緑豊かな水田風景を地域子供達へ受け継いでいくことを目標として活動をおこなって来ました。私たちの集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域の結いが復活しつつあるようになりました。農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設を長持ちさせよう、自分達で出来ることは自分達で頑張ろうと、言う機運が生まれました。 草刈りや泥上げなどの日常管理を地域みんなで行うことにより、これからも自分達の出来る事は自分達で頑張ろうと、地域を盛り上げていきたいと思ひます。					
					
地域の水田に灌漑する奥山ため池の草刈り作業前の風景、このため池は地域を護る水かめであり重要なす現地で有る。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	芦沢地域資源保全隊	代表	後藤 隆司
協定面積	田 9.4ha 畑 ha 計 9.4ha	対象面積	田 7.9ha 畑 ha 計 7.9ha		
管理施設	開水路 5.5 km ため池 ヶ所	農道	2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 11人 農業団体 1団体	非農業者個人	7人	非農業団体	2団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当私達の保全隊は荒廃地の復旧等水田風景の保持や多面的農業用水路の保持を次代へ受け継いでいくことを重点活動としてまいりました。当初は戸惑いもあったが、クリーアップや景観形成活動等構成員の理解もあり集落の一大イベントとなっております。保全隊の目標でもあった保全活動では水質モニタリングや生き物調査も行い、子供達が自分の目で地域の貴重な宝物を確認することができ、保護者も自分達が子供の頃を伝えるなど貴重な活動に育っております。 小さな集落でも地域のまとまりが薄れてきておりましたが5年間の活動で地域の「結い」が復活しつつ、あるようになりました。農業者以外の方々も農業用水が持つ多面的機能に理解を示し自分達で出来ることは自分達で頑張ろうという機運が生まれ、草刈や、泥上げなどの日常管理を地域みんなで行う事により、集落営農組織では営農に専念する事が出来非常に喜ばれております、これからも自分達で出来ることは自分達で頑張ろうの精神で地域を盛り上げてまいります。					
					
生き物調査を行い、ホタルの幼虫、餌のカワニナの生息も確認され、水質保全のため草刈や清掃を行います。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	福部羅地区環境を守る会	代表	工藤 壽次
協定面積	田 22.4ha 畑 1.4ha 計 23.8ha	対象面積	田 22.3ha 畑 ha 計 22.3ha		
管理施設	開水路 7.3 km ため池 ヶ所	農道	3.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 20人	農業団体	2団体	非農業者個人	13人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち環境を守る会は地域の農地と環境を守り未来へ受け継ぐことを目的として活動してきました。取り組み当初は今ひとつ地域に浸透していませんでしたが、春のクリーンアップ・用水路清掃・農道整備・草刈などをし、しだいに非農業者の協力も得ることができるようになった。景観形成活動は構成員全員が参加し蕎麦の播種収穫・ひまわりなど花を植え地域の美化に勤めた、蕎麦収穫後にはそばを粉にしそばうち体験を行い地域の一大イベントになりました。

又子供たちを交え水路などの水質調査・生物の生息状況の調査を実施した、子供たちも初めての体験した子もいて貴重な活動となりました。

五年間を振り返りますと農業者・非農業者の繋がりが薄れがちだったが、この活動により、非農業者の理解を得、用排水路清掃・農道整備・草刈等に積極的に参加するようになり絆がいつそう深まった感がある。地域みんなが参画し地域を守ろうとし自分たちでできることは進んでがんばろうとする気持ちが出てきました。

今後もこの事業を実施し、益々地域の繋がりが深まるようにがんばっていききたいと思います。



老人クラブ、親子会、婦人会など
三世代による花植えの実施状況

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	新田地域資源保全隊	代表	工藤 寛一
協定面積	田 19.2ha 畑 0.2ha 計 19.4ha	対象面積	田 17.2ha 畑 ha 計 17.2ha		
管理施設	開水路 1.7 km ため池 ヶ所	農道	2.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 27人	農業団体	2団体	非農業者個人	4人 非農業団体 団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

この事業に取り組みして早いもので5年にもなりました。

事業の内容を十分な把握しないなかでのスタートで戸惑いもありました。当初は 老人、婦人の会も構成員の予定でありましたが参加する事ができませんでした。しかし作業の中身においては 男、女 或いは 若い人、老人と巾のある人での参加でしたので良かったなと思っております。

私達農家、非農家とも地域を守るものとして水と環境保全のため、水質の調査、草刈、景観など当然の事として取り組んで参りました。

1回位の作業の中で世代間の交流、今後の活動のあり方など話合いの中、参加人数も多いので深い御理解を得ていると思って降ります今後も互助の精神で頑張っていけたらと思っております。



多数の参加による、景観作物
(コスモス)の草取り 作業状況

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	大川端環境保全組織	代表	畠山 昭一
協定面積	田 24.7ha 畑 1.7ha 計 26.4ha	対象面積	田 24.7ha 畑 ha 計 24.7ha		
管理施設	開水路 5.8 km	ため池 ヶ所	農道 3.2 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 14人	農業団体 2団体	非農業者個人 4人	非農業団体 3団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの集落は農村地帯ですが、雄物川築堤により集団移転の際離農者が5戸出るなど過疎化が進んでお農地の流動化が進んでいる現状にあります。このため農地の保全や集落としての活動をいかに活性化しているかが課題でありました。また、集落に隣接する耕作不敵な畑地は荒廃し、景観を損ねている現状でした。この畑地は、二十年以上手入れをしていないため林地化しており、雑木の伐採や抜根、草刈り、石拾い等多くの労力が必要で、全面積の整備は困難と思われましたが、会員のやり遂げるといふ強い意志で整備することができ、花の植栽や菜の花を栽培し今は見違える景観です。 また、用排水路も組織を中心とした泥上げ作業により、用排水の滞留もなく、スムーズな農作業を行える環境です。あの荒れ地を所有者個人で整備行うことはできませんし、泥上げも一か所でも行われないと効果は上がりません。 前述したとおり過疎化、高齢化が進み後継者や子供も少ない組織ですが、この事業への取り組みで、集落のまとまりと地域環境を自らが守る意識ができたと感じます。農地は数年放置すれば荒れ地となり、それを戻すには何倍も労力が必要です。 今後も自らが地域環境を守る事業を継続し、地域への貢献を目指した活動に、取り組んでいきたいと思ひます。					
				 荒廃地の雑木を、集落総出で伐採作業を行った。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上野地域資源保全活動組合	代表	加藤 征郎
協定面積	田 23.9ha 畑 ha 計 23.9ha	対象面積	田 23.9ha 畑 ha 計 23.9ha		
管理施設	開水路 3.6 km	ため池 ヶ所	農道 3.9 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 40人	農業団体 2団体	非農業者個人 98人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当活動組合では、集落の環境向上と、農業用施設の長寿命化を目標に活動を行ってきました。事業当初から、集落の関心が高く、各事業には、農業者のみならず自治会、老人クラブ、子供会からも積極的に参加してもらい充実した活動でできました。この活動を通して、農業施設維持管理を集落みんなで行う体制づくりや、景観作物を育てることにより世代間交流と集落内の環境が向上が図られと感じております。 今後もこの活動で得たことを生かし、集落が一体となって農地と環境を守っていききたいと思ひております。					
集落が一体となって育てたひまわり畑、集落環境向上のためこれからも頑張っていきます。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上宿アグリフォ実践隊	代表	清水 修二
協定面積	田 61.3ha 畑 ha 計 61.3ha	対象面積	田 61.3ha 畑 ha 計 61.3ha		
管理施設	開水路 4.85 km ため池 3ヶ所	農道	7.8 km	ハ°イ°ライン	4.8 km
構成員	農業者 45人 農業団体 団体	非農業者個人	6人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの実践隊では、農地、水路、農道等の各施設の長寿命化を図るためきめ細かな保全管理の事を目的に活動を実践したが、地域内の高齢化や後継者不在職業の多様化が進み年々地域のまとわりや話し合いの場が極端に少なくなっておりましたが、五年間の実践活動で地域内の交流や農地・水・環境をみんなで守ろうとする意識の高揚がみられ、いままで薄れていた人の輪と地域の和が確実に広がり地域の活性化に結び付き貴重な活動であったと実感しております。

取組当初は地域住民の理解を得るまで戸惑いもあったものの遊休農地への景観形成作物の栽植活動やため池や水路に生息する生き物調査活動には非農業者や高齢者の多数の参加を得るなど貴重な活動となりました。農業施設の点検や実践活動においても地域の農業資源の必要性や多面的機能に理解を得ることができました。地域内では多種多様の課題があるものの本事業を活用しながら交流や人との絆を深めながら頑張ろうと思います。



農村環境向上活動の一環として花苗設置の共同活動を実施しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中小種地域資源向上活動組合	代表	仲川 久紀
協定面積	田 27.9ha 畑 0.9ha 計 28.8ha	対象面積	田 27.9ha 畑 0.9ha 計 28.8ha		
管理施設	開水路 7.055 km ため池 ヶ所	農道	5.207 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 21人 農業団体 2団体	非農業者個人	53人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

開水路の土砂上げ、草刈りは毎年3回以上実施し地域内中心部を流れる沼立川の清掃、支障木の伐採を行い毎年流れを良くして来ました。農道補修も年1回実施し、畑の遊休農地に景観植物(菜の花、ひまわり、コスモス、ダリヤ)の植栽し、水質モニタリング調査を親子会と一緒に実施してきました。

集落を維持するために、農家、非農家、寿老人クラブ、中小種婦人会、など集落全体で維持管理に積極的に参加して集落全体で取り組むことができこれからも集落活動に積極的に参加して集落を盛り上げたいと思います。



親子会と一緒にモニタリング調査

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市		組織名	白岩ふるさと倶楽部		代表	佐藤 正一	
協定面積	田 41.0ha	畑0ha	計 41.0ha	対象面積	田 41.0ha	畑 ha	計 41.0ha	
管理施設	開水路 13.7 km	ため池 2ヶ所	農道 5 km	パイプライン km				
構成員	農業者 13人	農業団体 3団体	非農業者個人 22人		非農業団体 2団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)								
5年間の活動は、水田を主とした環境維持の保全に努めてきました。 農業従事者が減少し後継者が育たない中で、如何にして共通の目的意識を高めていくか、参加率を高められるか、試行錯誤の連続でした。水路の維持管理や農道の砂利敷整備等継続を求められる作業の中に、ひまわりや菜の花などの景観作物を取入れ、変化を持たせることで事業にイベント性を持たせ、期待と興味を失わないようにしました。環境を維持しながら新しい目標を設定し、実践することは非常に難しいことでした。農業者が求めるもの、非農業者が期待するものが決して一致するものではなく又、話し合いのテーブルに着き協議する雰囲気作りができなかったからです。しかしながら少しずつこの会に対する要望等も出始め、期待感も膨らみはじめました。 5年間の実績は確かな基礎作りとなり、今後の運営に対する足掛りとなりました。この実績は今後の方向性を見出すための、ひとつの判断材料になると思います。高齢化による限界集落、少子化による年少者の現象、農業従事者の更なる減少等、事業を取り巻く環境は決して楽観できるものではありません。しかしながら、集落は永遠に存続します。存続の条件は住人の定着です。人の知恵が事業を育て育み成熟させます。人材育成が急務です。これからの事業に期待することは、枠組みに囚われない自主性のある活動の援助です。これからの新しい人材に期待するならば、意味のない規制や干渉は不要です。 事業の制度の原点に戻って、本質を提起することを最後に期待します。								
農道砂利敷整備								

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市		組織名	野田自治会		代表	加藤 耕成	
協定面積	田 23.2ha	畑 ha	計 22.2ha	対象面積	田 22.2ha	畑 ha	計 22.2ha	
管理施設	開水路 5.04 km	ため池 ヶ所	農道 3.23 km	パイプライン km				
構成員	農業者 31人	農業団体 2団体	非農業者個人 13人		非農業団体 2団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たち自治会では、緑豊かな水田風景を保全することを目標として活動を行ってきました。 春のクリーンアップ、や景観形成活動の花植え、菜の花や向日葵の栽培と自治会会員の参加により、私たち小さな自治会でも5年間の活動を通し、地域みんなで農業施設の保全管理のほかにも、草刈りや泥上げなどの日常管理を地域みんなで行う事により地域の和が一段と深まって、他の行事にも積極的に参加するようになります。								
全員参加の地域内道路周辺への花の植栽								

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	落合地域資源保全活動組合	代表	佐川 淳
協定面積	田 12.7ha 畑 1.1ha 計 13.8ha	対象面積	田 12.9ha 畑 1.2ha 計 14.1ha		
管理施設	開水路 5.3 km	ため池 1ヶ所	農道 4.0 km	ハ゜イ°ライン	km
構成員	農業者 12人	農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
落合集落はこれまで各取水施設のある受益農家とその団地（水田）の取水施設（頭首工）や用水路、排水路等の維持管理に当たってきた。しかしながら、当該事業開始前までは、自己保全管理や不作付け農地が目立っていた。平成19年度からの当該事業に参画後、柳や葦に覆われた田んぼの復旧への取り組みが図られ集落内を流れる川に沿った荒れた田んぼもこの取り組みによって、秋には蕎麦の花に覆われるようになったり元の水田に復旧されるまでになったりしている。 また、農業用水の源である集落内を流れる小河川への環境への意識も芽生え、生物の生息状況や水質調査なども地元の小人数の小学生を巻き込みその活動を行ってきたところである。 更に、地域内の景観向上を図るため、兼ねてから自治会事業として行ってきた清掃活動も集落内道路から沿線の農地や用排水路の点検清掃を非農業者にまで活動対象者を拡大させるなど、地域環境の向上への取り組みが少子高齢化が進む中、持続させてきている。 従来からの自治会活動の一環である地域環境向上活動と5年間の中から新たに生まれた活動を今後も融合させ、「住みよい村」を維持向上させる機運を今後も持続し、活動につなげていきたいと考えている。					
				 農地・水・環境保全向上対策事業がきっかけで発足した「落合土日市」前で花の苗のポットへの移植作業を行っています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中村地域資源保全隊	代表	小田島 盛一
協定面積	田 68.1ha、 畑 ha、 計 68.1ha	対象面積	田 47.6ha、 畑 ha、 計 47.6ha		
管理施設	開水路 26.7 km、	ため池 1ヶ所、	農道 7.8 km、	ハ゜イ°ライン	5.2 km
構成員	農業者 27人、	農業団体 団体	非農業者個人 9人、	非農業団体 団体	
(5年間の活動内容や感想等記入)					
共同活動を通じて、中村地域に存する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目的に、耕作放棄農地の復旧や農道整備・用排水の泥上げ等の共同作業により、優良農地の維持管理に努めるとともに、遊休農地へのコスモスの植栽や水田土手などへのヒメイワダレ草の植栽なども女性や高齢者の協力により共同作業により年々その面積を拡大し、農村環境の向上と美化促進に努めてきたところである。 急速に進む地域住民の高齢化と農業後継者が極端に少ない 当地域にあって、本事業による5ヵ年に及ぶ共同活動は、ため池や用排水路・農道などの農業施設や水・農用地は、地域の資源であることを再認識させるとともに、地域の力で維持管理していくことの重要性を自覚させるものであった。 農業法人や個別農家らの農業者と、高齢者や女性達の地域住民が環境美化等の共同作業を通して連携を深めることができ、地域資源としての農地や水・農村環境の維持向上に貢献できることは大変意義あることであり、今後も継続して取り組んで行きたいと思う。					
				 農用地の急峻な土手を管理しやすく改良すると共に、ヒメイワダレ草を植栽し農村景観の向上対策に努めました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	合貝集落会	代表	渡邊 秀俊
協定面積	田 16.7ha 畑 ha 計 16.7ha	対象面積	田 16.0ha 畑 ha 計 16.0ha		
管理施設	開水路 5.7 km	ため池 2ヶ所	農道 2.4 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 20人	農業団体 2団体	非農業者個人 300人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当該合貝集落会は、217世帯と協和地域の中では大きな集落であるが、農業者数は20名で田の面積は16haである。共同活動を通じ、合貝地域に存する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目標に活動を行ってきた。集落会が主体的になって活動を進めてきたが、市営住宅や新興住宅団地等非農業者が多く、当初はこの事業の理解が得にくく、活動に参加する人も限られていた。しかし、環境向上のための花苗の植栽やその維持管理一斉クリーンアップへの参加等景観形成活動には多くの会員が参加し、徐々に会員同士の連携や融和が図られた。

特に、市営住宅に隣接している遊休農用地やため池の草刈りは地域住民に感謝されている。

ほとんどが非農業者世帯の地域であり、比較的若い世帯で子どもが多く、その子ども達と農業者等と一緒に活動し生態系・水質保全の重要性等環境学習を行い、当地域の農業用水路には、最近見かけなかった”たにし” ”ざりがに” ”どじょう”など生息していることが確人出来たことは、大きな収穫であった。

農業者・非農業者が一体となった共同活動により、地域の活性化が図られ環境保全へと繋がることを信じている。



環境向上のため農業者・非農業者と一緒に、花苗の植栽に汗して活動している。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上荒川地域資源保全隊	代表	川井 多久雄
協定面積	田 18.4ha 畑 ha 計 18.4ha	対象面積	田 18.3ha 畑 ha 計 18.3ha		
管理施設	開水路 4.8 km	ため池 ヶ所	農道 3.5 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 11人	農業団体 団体	非農業者個人 15人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

長年町内の憩いの場所である「桜の杜」「荒川神社」を中心とした地域資源隊の活動区域の環境整備及び向上活動において、期間中は農業者のみならず非農家の参加が多数あり、停滞していた地域の連帯感の向上に大きな役割を果たした事業でありました。特に水芭蕉の群生地や、間伐材を用いて整備した「里山の花」の花壇付近では、お年寄りや子供たちの休憩場所とされ、世代間交流の一役を担っているものと思われます。

また、年々少しずつではあるが整備されていく農道を含めた農業施設では、各水利組合からの要望も多く、期間中に対応出来なかった箇所もあったが、集落内の高齢化が進む中、後継者を育成しながら更なる周辺環境の向上を目指しこれからも事業を継続して行きたいと思っています。



間伐材を用いて整備した「里山の花」の花壇整備状況。【付近には、杉丸太椅子もあり田園風景を眺められる住民憩いの場でもある。】

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	びんだれの里保全隊	代表	田村 勉
協定面積	田 76.7ha 畑 ha 計 76.7ha	対象面積	田 73.95ha 畑 ha 計 73.95ha		
管理施設	開水路 43.2 km	ため池 ヲ所	農道 21.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 63人	農業団体 4団体	非農業者個人 人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域の農家は殆どが兼業農家で、稲作以外の作物に手が回らなく自己保全農地が点在し、一見荒れ地のようになっており、景観的に非常に悪い状態でありました。このことから様々なイベントが開催される協和ダムの玄関に位置しており、また、集落内に多くの温泉施設が点在し観光客も多いため、未利用地を活用した景観作物（ひまわり、そば）を栽培、生物史を考慮した適正管理を行い、蜚の里など活力ある地域を目標に活動してきました。

活動は多くの非農家の協力を得、景観作物の栽培、年2回の地域一斉の除草作業、農業施設の管理を実施したことにより地域の環境が一変し、農地、農業施設の多面的機能を理解していただき、地域とともに住民の心が明るくなり、この環境を持続的に維持し将来に残そうという気運が地域全体に高まっている。また、観光客にも非常に好評で、開花時期には多くの方が記念写真を撮っている姿が見受けられる。



多くの非農家の協力による、ひまわりの播種作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	一ノ渡・君ヶ野資源保全向上隊「絆」	代表	加藤 久孝
協定面積	田 70.0ha 畑 ha 計 70.0ha	対象面積	田 65.73ha 畑 ha 計 65.73ha		
管理施設	開水路 25.8 km	ため池 ヲ所	農道 10.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 28人	農業団体 1団体	非農業者個人 8人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

今日の農村社会は混在化と経済優先の中で次第に人と人との心の「絆」「結」が疎遠になりつつあります、戦中、戦後の食糧難時代は農家及び集落が協力し合い協同の力で農業用水の確保や施設の維持に勤めて参りました。

農地・水・環境保全向上対策事業が平成19年度から始まり、組織名を一ノ渡・君ヶ野資源保全向上隊「絆」と命名致しました、この事業の活動を通じて少しでも人と人との絆、年代を越えた世代間の絆、又集落と集落の絆を少しでも取り戻せればとの思いと願いを込めての命名です。

さて活動の内容ですが基礎活動については農家の方々が先頭になり、各水系ごとに用排水路の泥上げ及び草刈りを実施関係者の殆どが作業に従事活動致しました、農道についても毎年約50?から70?の砂利を敷きでこぼこのない立派な農道が維持されております。

次に農地・水・向上活動であります、我が地域集落は中山間地域であり、その地域的背景から転作面積拡大に伴い遊休農地も増大して参りました、組織では予算の範囲で草刈りを実施、遊休農地の解消に務めて参りました、用排水路についても施設の機能が十分に発揮できる様又長寿命化を計り維持、補修に務めて参りました。最後に農村環境向上活動であります、この5年間で水仙の球根を構成員より25,000球程提供して頂き集落内や集落と集落を結ぶ県道及び市道、農道の側溝の片に植栽致しました。

春一番に咲く水仙花は見事です、又農道の広場に桜の苗木の植栽も行い今後お花見を楽しみにしています、この作業には集落の殆どの方から参加、協力を頂いております。

自然豊かなこの環境を次世代の子供たちに残しこの地に住んで良かったと言われる環境づくりの為、親子会に依る親子で自然にふれあい、自然の大切さ、生命の大切さ、食物連鎖を学ぶ生き物観察会を毎年行っております。この一連の活動を通して本来の目的である「絆」も徐々に構成員に浸透して参りました。

平成24年度からの活動に益々強い絆を期待致しております。



生き物観察会で小川で取れた小魚の名前など学んでおります。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動）

市町村名	大仙市	組織名	和田川又地域資源保全活動組合	代表	伊藤 作十郎
協定面積	田 40.28ha 畑 ha 計 40.28ha	対象面積	田 40.28ha 畑 ha 計 40.28ha		
管理施設	開水路 14.8 km	ため池 1ヶ所	農道 4.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 39人	農業団体 3団体	非農業者個人 52人	非農業団体 2団体	

（5年間の活動内容と感想等）

”未来へつながる農地・水・環境”が私たちの広報看板のスローガンです。

地域は国道13号線と協和ICを繋ぐ国道341号線の南側に位置しています。初年度の平成19年6月、柳が繁茂していた耕作放棄地45aの柳を伐採し抜根、耕起して「ひまわり」を播種、サルビアを植え、以降毎年継続し、この景観形成事業は組合の活動を象徴するものとなりました。景観形成のもう一つが、南側36aの圃場への「そば」の播種で、白いそばの花を咲かせることは出来ましたが、そばの栽培確立までは至りませんでした。

春先に全員で地域の圃場、水路、ため池、農道を点検し簡単な補修作業をして春作業に備えました。重機の必要な補修作業は有資格者が率先して実施し、施設の保全が図られました。しかし、すべての構成員が参加する春の水路の整備作業（堰あげ）は、平成19年は37名人でしたが、平成23年は30人と年々高齢化による減少が見られます。

水質保全のため毎年水質検査を実施し異常はありません。平成21年からは小学生の夏休みを利用し、学童によるPHとCODの検査を実施しています。そして、その際「稲の花」や「田んぼの生き物」の観察も行って田んぼに親しみを持つ機会を増やすよう努めています。



耕作が放棄され、柳が繁茂していた圃場の伐採作業。復旧後は「ひまわり」を播種。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	大仙市	組織名	宇津野地域環境保全隊	代表	豊島 義春
協定面積	田 54.7ha 畑 ha 計 54.7ha	対象面積	田 49.7ha 畑 ha 計 49.7ha		
管理施設	開水路 21.1 km	ため池 ヶ所	農道 7.0 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 70人	農業団体 8団体	非農業者個人 37人	非農業団体 5団体	

（5年間の活動内容や感想等記入）

当保全隊では、休耕田の景観向上をめざして、花壇の造成を始めとしてソバを栽培して美しい田園づくりに努めてまいりました。活動の内容としては、農地や農道の草刈りや農道に碎石を敷いたり、各水利組合との共同により用排水路の整備などを手掛け、農業者のみならず各種団体の協力を得ながら、集落が心をひとつにしてこの事業に取り組むことができたのは大きな収穫だったと思っておりますし、集落の絆を深めることにつながっております。

5年間この事業の活動を通じて感じたことは、地域の住民が環境に対する関心が高まってきたことと、水質保全の観点からか農地に除草剤を使用する方が減少してきていることであります。この美しい緑と水資源を永く未来に引き継いでいくことが私たちの使命であると思っております。

今後、当集落も年々高齢化が進んでいくことが予想されますし、活動を続けていくことが少しずつ困難になっていくことと思われます。

しかしながら、これまでの活動を通して培ってきた環境保全の精神を継承し、誇れる郷土として残していくべく努力していくことが必要であると考えております。



休耕田を利用し、花壇を造成し、周囲には防草シートを貼る。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	釜坂活動組織	代表	佐々木 喜栄智
協定面積	田 21.59ha 畑 ha 計 21.59ha	対象面積	田 21.35ha 畑 ha 計 21.35ha		
管理施設	開水路 7.5 km ため池 1ヶ所	農道	5.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 28人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
釜坂地区は水田と山林に囲まれたのどかな24戸の小さな集落です。 農作業の省力化や、外で遊ぶ子供たちがめっきり少なくなり農地は近くて遠いものになったと感じています。他の地域では大規模な圃場整備が進められ集団営農、農業の法人化が今後の米づくりには欠かせないものになってきています。私たちの住む地域では、作業の高能率化は望めないため農家の人達、個人がそれぞれ協力しながら農業を続けていかなければならないと考えています。休耕田を何とかしなければいけないと皆が思っていますが人出が足りない、適した作物が見つからない、日照時間が短い、水はけが悪い、現地につながる道路が狭いなど課題が山積みになっています。 基礎部分の「遊休農地発生防止のためのの保全管理」だけでも実施しなければと思い、作業をしてきました。共同作業ならなんとか出来る、みんなと作業すると楽しくできる等共通の考えができるようになりました。 また、環境向上活動では非農業者、子供会など理解ある部落全戸の協力のもと、素晴らしい花壇に5年間花を咲かせることができました。農業人口が減少する中、高齢化も進んできておりますが、私たちの地域にも若い後継者が一人でも誕生することを願っております。					
会長 佐々木喜栄智		 小さな後継者、将来が大いに期待できるよう地域の人々で見守っていきたいです。			

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	西ノ又水利組合	代表	佐々木 茂治
協定面積	田 19.26ha 畑 0.23ha 計 19.49ha	対象面積	田 19.26ha 畑 ha 計 19.26ha		
管理施設	開水路 7.3 km ため池 ヶ所	農道	6.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 33人	農業団体	1団体	非農業者個人	人 非農業団体 3団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの地域は、ほ場整備が完工し間もない地域で主に水利組合が主体として地域の農地等を保全しておりました。当事業が始まり5年が経とうとしていますが、事業当初は活動計画や資金計画に試行錯誤しながらのスタートとなりましたが、自治会や老人クラブの方々などに事業の啓発を行い理解と参加をいただき、共同活動に取り組めたことはとても感慨深いものでありました。今では、集落花壇や農業用施設一体の清掃など地域全体が率先して活動に取り組んでおります。 老若男女問わず、こういったコミュニケーションの機会が増えたことは地域にとって大きな財産でもあり、昔よくあった世代交流を促すきっかけとなったこの事業に巡り合えたことに感謝いたします。					
		 集落花壇での花の植栽状況			

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	薬師堂館の会	代表	佐渡 馨
協定面積	田 11.75ha 畑 ha 計 11.75ha	対象面積	田 11.44ha 畑 ha 計 11.44ha		
管理施設	開水路 4.6 km ため池 ヶ所 農道 1.8 km	ハイクライ	0.4 km		
構成員	農業者 18人 農業団体 1団体	非農業者個人 5人	非農業団体 8団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の集落は、薬師堂館の下に位置する22戸と小さな集落であるが、大半が兼業農家で農業を片手間に勤めており、集落の皆が募って活動することが少なく「ふれあい」や「コミュニケーション」が不足しておりました。

5年前にこの事業に参加することにより、集落全体で活動する母体を構築することが出来ました。農業者も非農業者も一体となって、水路の泥上げや草刈りなどに取り組み、自分たちの農村環境との融和と交流が図れるようになりました。

また、集落内の道路の路肩に花を植栽し、春から秋まで皆で世話をしながら道行く人たちの心を和ませております。老若男女が集い環境美化に取り組むと共に親睦と交流が図られ、協力する大切さなどをこの事業が気付かせてくれました。こうして築いた集落の「絆」をこれからも大切にしていこうと皆で誓い合っています。



共同活動後に焼肉で親睦交流

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中宿部落	代表	伊藤 武
協定面積	田 16.72ha 畑 0.05ha 計 16.77ha	対象面積	田 16.72ha 畑 ha 計 16.72ha		
管理施設	開水路 5.3 km ため池 ヶ所 農道 2.3 km	ハイクライ	km		
構成員	農業者 29人 農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

地域内の農地・水・環境の保全は、集落全体の道路一斉清掃や集落花壇整備及び景観作物の植栽による景観形成、水質調査の実施、農地・農業用水路の整備など、地区の農地・水・農村環境に着目した活動に取り組んできました。

この事業を通じ、農地・農業用水路にも生命の営みがあることを実感し、豊かな農村環境を大事に守り後世に残すという意識が芽生えるなど、有意義な活動であったように感じます。

特に集落花壇整備などの共同活動作業は、世代を超えた交流の場となりました。年を重ねるごとに、日常管理は交替で行い、みんなで景観形成しようという意識が強まりました。

この事業の並行し、集落全体の基盤整備事業(ほ場整備)が実施され、集落営農組織が設立されるなど農業に専念する環境が整いました。

農村環境の保全は、農業者だけでは限界があります。この事業を通じ、農地・農業用水路の多面的機能を実感できた非農業者が気軽に参加出来る共同活動を今後も継続していきたいと考えています。



(平成20年4月) 基盤整備前の土側溝で生物観察会を実施。地域住民・親子会が参加し小魚の生息を確認。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市		組織名	北田活動組織		代表	伊藤 和弘	
協定面積	田 20.13ha	畑 1.68ha	計 1.81ha	対象面積	田 19.89ha	畑 ha	計 19.89ha	
管理施設	開水路 3.9	km	ため池 ヶ所	農道 2.8	km	パイプライン	km	
構成員	農業者 21人	農業団体 1団体		非農業者個人 人		非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は、『地域を明るく』を目標に活動を行ってきました。

取組当初は戸惑いもありましたが、景観形成等では構成員のほか、自治会及び子供会も参加して、地域の結びつきがだんだん薄れてきているところに、集落の一大イベントとして定着し、地域の交流の場となりました。「集落の農地及び休耕地5箇所と集落花壇」と集落ほぼ全体に花が咲いていることは地域一体での作業ということで貴重な活動となりました。

また、水質モニタリングでは改めて水の貴重さを確認することとなり、これから地域を担う子供たちと一緒に検査できたことは水の大切さを体験することができて非常に良かったと思っています。

草刈・農道の整備等では農業者以外の方も参加していたき、地域みんなで作業することで、景観形成等を主とした『地域を明るく』という目標が達成されたのではないかと感じています。

これからも「自分たちが出来ることは自分たちで頑張って『地域を明るく』」の精神で地域を盛り上げたいと思います。



水質検査を地域住民及び子供会とともに行う

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市		組織名	大向坊村地区環境保全委員会		代表		佐々木 詔夫					
協定面積	田	14.43ha	畑	ha	計	14.43ha	対象面積	田	11.44ha	畑	ha	計	11.44ha
管理施設	開水路	3.4	km	ため池	1ヶ所	農道	2.0	km	パイプライン	0.7	km		
構成員	農業者	19人	農業団体	1団体	非農業者個人			3人	非農業団体	2団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの環境保全委員会では、緑豊かな水田風景、地域を流れる河川を次世代に受け継いでともらいたく、子供達や後継者に働きかけ環境保全を主とする活動を行ってきました。

特に、コスモスロードは集落全体の市道路肩に大仙市の花であるコスモスを植栽したことは、道行く人を魅了し、地域の景観形成に大きな効果をもたらしました。

種まきのための地拵えや種まき、雑草処理と集落全員が事業に参加したことからコミュニケーションが図られ楽しい交流が出来ました。

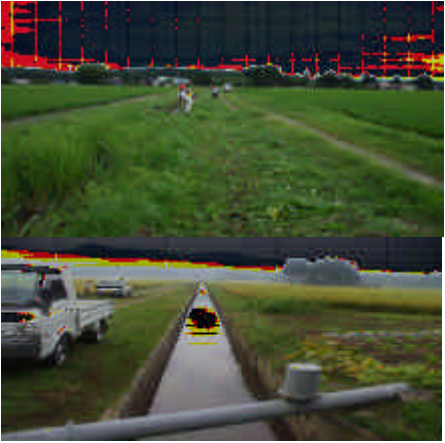
農道や水路等農業施設の保全にも農業者や非農業者の参加があり集団での活動の楽しさや労働時間の短縮を図ることが出来ました。

5年間の集団活動で集落のまとまりが見え昔のような「結い」が出来ればと思っています。



自分たちがに植栽したコスモスロードで遊ぶ子供達。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	田屋活動組織	代表	小松 昭孝
協定面積	田 30.24ha 畑 ha 計 30.24ha	対象面積	田 30.24ha 畑 ha 計 30.24ha		
管理施設	開水路 7.9 km ため池 ヲ所 農道 6.2 km	ハイツライン	km		
構成員	農業者 52人 農業団体 2団体	非農業者個人 人 非農業団体 3団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動組織は、自然環境の復活と保護、農道水路の維持管理を軸に「自然保護みんなの力と協力で」を合い言葉に構成員全員で取り組んできました。 十数年前の「蛍の群れを復活させたい」という声も多くあり、活動の一環として水質モニタリングはもちろん、次世代への意識付けも念頭におきながら、学校教育と連携した子供会活動による水性生物調査も毎年行っております。 これら老若男女一緒に活動を通じて地域の絆が深まったと言うことは言うまでもありません。同じ目標に向かって声を掛け合う。又、全員で活動する事により他人任せではなく各々が主役という意識改革も大きな収穫です。 一人暮らしの急増や住民の高齢化という避けて通れない課題も多々ありますが、今後も集落のために全戸を繋ぐ絆を大切に営農に専念できる農業環境の維持向上に努力し、集落のより一層の発展に期待しております。					
					
				上段*蛍生息水路の清掃作業状況(H19) 下段*現在の水路状況(H23)	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	物渡活動組織	代表	鈴木 仁
協定面積	田 3.97ha 畑 0.42ha 計 4.39ha	対象面積	田 3.97ha 畑 ha 計 3.97ha		
管理施設	開水路 1.5 km ため池 ヲ所 農道 0.6 km	ハイツライン	km		
構成員	農業者 3人 農業団体 団体	非農業者個人 7人 非農業団体 2団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの集落は、小規模であるが農村の景観として欠かせない貴重な資源をたくさんもっております。そのため、農地及び農業用施設の維持向上は地域の美化保全に密に繋がっており、集落環境の保全活動として地域に大きく貢献しております。 世帯数の少ない当集落ではありますが、地域の高齢化も進んでいるのが実情です。しかし、この事業のおかげもあって、地域一体で農村環境向上活動を主に有意義な交流の場が設けられました。 昔は、こういった風景がよく見られていたものですが、懐かしき思いながらも活動に取り組んで参りました。 今後も集落一体となって、自分たちの集落（農村風景）を守っていききたいと思います。					
					
				集落花壇での花の植栽	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	日吉地域環境保全会	代表	伊藤 利夫
協定面積	田 26.90ha 畑 0.69ha 計 27.59ha	対象面積	田 24.55ha 畑 ha 計 24.55ha		
管理施設	開水路 7.0 km ため池 1ヶ所	農道	7.0 km	パンプライン	km
構成員	農業者 37人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当保全会では、ヤマメ、カジカ、沢ガニ等が生息する小川があり、秋には鮭、鱒等の遡上も見られる黒沢川水路の泥上げや周辺の草刈りを実施してきました。

また、農地へ接している学童通学通路としている主道路の清掃や草刈り、伝統施設の清掃、集落花壇や親子会花壇の管理、農道への砂利敷、主要道路路肩へのコスモスの植え付け等を実施してきました。事業開始前までも一斉清掃等は行っておりましたが、この環境保全会が発足し、集落全体できれいな水の保全、集落内の美化に一人一人が

自覚を持って守ろうとする気持ちが強くなりました。特に集落花壇は、朝早くからほとんどの人が集まり花を植栽し、花壇の管理も積極的に行うようになり、主要道路路肩に植えたコスモスも道行く人の心を和ますものとなりました。

この5年間で行った活動を通じ、地域一体の絆が強まったことは間違いありません。

今後も集落には過疎化が進むなど課題はありますが、農地の荒廃を防ぎ集落をみんなの力で守っていくため、引き続き清掃、美化運動を続けていきたいと考えております。



集落花壇の植栽はもちろん、花壇の管理に朝早くから大勢の人が来て精を出してくれました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	木直地区環境保全協議会	代表	伊藤 又エ門
協定面積	田 58.65ha 畑 ha 計 58.65ha	対象面積	田 50.01ha 畑 ha 計 50.01ha		
管理施設	開水路 14.5 km ため池	農道	6.0 km	パンプライン	km
構成員	農業者 66人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

少子高齢化や担い手不足に伴い、集落全体の活力の減退や連帯感の希薄化が顕著になっていましたが、この活動を契機に「地域の世代間交流が育まれたこと」、「地域の将来を考える機会が芽生えたこと」は、私たちにとって大きな財産になったと思います。

これまでの農業施策にはなかった地域に密着した支援活動ということで、事業を定着させるまでの1～2年間は試行錯誤の連続でした。計画どおり進まず、毎週にわたって作業に追われたこともありました。

まだまだ未熟な点や課題もありますが、この美しい田園風景を次代を担う子どもたちへ守りつなげるため、この5年間で得た経験を最大限生かすと共に、集落住民の絆（ままとまり）を深め、これからも自主自立的な活動を実践していきたいと思っています。



【集落花壇への花の植栽作業】
次代の地域を担う子供達の参加が、何よりも私たちに活力と元気をくれました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	揚坊活動組織	代表	渡部 良太郎
協定面積	田 21.81ha 畑 1.49ha 計 23.30ha	対象面積	田 21.81ha 畑 ha 計 21.81ha		
管理施設	開水路 7.6 km ため池 9ヶ所	農道	3.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 17人	農業団体	団体	非農業者個人	7人 非農業団体 4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの組織は、緑豊かな農地、地域を流れる小川、用水路の保全、減反地の有効利用を目標に活動して参りました。 活動当初は、事業要件などいろいろ戸惑いもありましたが、徐々に農業者以外の方々活動に理解を示され集落を挙げての活動をする事が出来き、農地等の保全も併せて地域の「絆」を深めることが出来たと思います。 ただ、事務処理については、パソコンの操作など非常に専門的な知識が必要とされ、素人では手に負えないような気がしました。 今後の継続される事業においては、より一層簡易的で容易な事務処理であることを期待しています。					
					
				農地（転作田）を活用しながら地域の景観を魅了することが出来ました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	中野地区環境保全グループ	代表	今野 栄一
協定面積	田 21.04ha 畑 ha 計 21.04ha	対象面積	田 21.041ha 畑 ha 計 21.04ha		
管理施設	開水路 9.3 km ため池 ヶ所	農道	5.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 21人	農業団体	2団体	非農業者個人	人 非農業団体 2団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当集落の農業者は、現在の農業が抱えている問題でもある後継者不足による高齢化という現実と直面しており、今後も農業を安定的に持続させていくという大きな課題をどうクリアしていくかが懸案事項でありました。 5年前に始まった「農地・水・環境保全向上対策事業」は、農業者のみならず、非農業者も巻き込んだ施策として当集落に「和」と「輪」という財産を残してくれたと思っています。 農家個人では大変な仕事である水路の泥上げや農道の草刈りなど、農業用施設の維持管理に関する作業は、農家以外の方々からもご理解とご協力を得ることができ、そのことが農家の方々の負担軽減につながり、さらにはコミュニケーションの深化につながったと思います。 今後も人と人との絆を保ちながら、当集落の基幹産業である稲作を衰退させることの無いよう、そして次の世代にバトンタッチできるよう、みんなで一致団結して農業と環境保全に取り組んでいきたいと思っています。					
					
				農道法面の草刈範囲が広く、難儀な草刈作業も協力して行うことで労力の軽減と効率化が図られました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	落合活動組織	代表	八嶋 貞雄
協定面積	田 13.54ha 畑 1.08ha 計 14.62ha	対象面積	田 11.28ha 畑 ha 計 11.28ha		
管理施設	開水路 6.3 km ため池 1ヶ所 農道 2.5 km	ハイツライン	km		
構成員	農業者 22人 農業団体 1団体	非農業者個人	4人 非農業団体	3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は、山間に位置した集落です。この事業が始まると共に圃場整備事業も同行しながら、当事業もスタートしました。もともと水利組合が維持管理していた農業用施設も農地を維持することは農村を守ることに繋がることの理解度が深まり、非農家も維持管理に参画する話し合いが増え、今では地域一体となって共同活動に参加しております。

ほ場整備をきっかけに営農組織も設立し水稻以外の作物にも挑戦しながら、非農家も含め消費者のニーズに沿う産業化に励んでいます。こういった地域の意欲の高まりもこの事業が大きく貢献しています。

次期対策でも事業を活用しながら、地域のコミュニケーションに役立てていきたいです。



農地を活用した花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	小出地域活動組織	代表	伊藤 栄一
協定面積	田 24.56ha 畑 ha 計 24.56ha	対象面積	田 21.23ha 畑 ha 計 21.23ha		
管理施設	開水路 6.3 km ため池 ヶ所 農道 2.5 km	ハイツライン	km		
構成員	農業者 40人 農業団体 1団体	非農業者個人	人 非農業団体	4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落には、春夏秋冬直物の様々な木々に囲まれた閑静な「ふれあいパーク」があり、他地域からの小さな子供連れの家族が多く訪れます。また、県道に接する農地等も多く自然景観は訪れる人々に潤いと安らぎを提供しています。

活動組織では、基礎部分と農地・水向上活動を主に農業者と自治会が、農村環境向上活動は、組織構成員全てが参加しております。特に年配の体力には圧倒しつつ自分たちが活躍できる作業に生き生きしながら取り組んでいます。

これからも広がる田んぼの景観や、皆が集う「ふれあいパーク」等の景観保全を農業者のみならず地域住民と一体となった取り組みを実施し、集落内を流れる小出川の水質保全を維持するため、農用地等から流入する水環境の改善に取り組んでいきます。



活動前の朝礼

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	平形活動組織	代表	伊藤 幸治
協定面積	田 32.47ha 畑 ha 計 32.47ha	対象面積	田 32.42ha 畑 ha 計 32.42ha		
管理施設	開水路 1.4 km ため池 ヶ所	農道	2.1 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 33人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地域は、南外地域内でも有数の穀倉地帯であり、集落住民の約8割を農業者が占めております。昭和50年代には場整備や築堤を整備してからは、水利や作業効率の面でも恵まれた環境条件にあり、これまで稲作を中心に農業生産を営んでおりました。しかしながら、近年の米価の下落、農業者の高齢化や担い手不足に伴い、集落全体の活力の減退が著しく、地域農業の衰退は、集落機能そのものの維持にも大いにかかわる課題でありました。 この共同活動を通じ、集落住民の絆（まとまり）を深め、農地と緑の荒廃を防ぐと共に、協同（共同）による集落のにぎわい創出と、美しい田園情景を後世へ守り続けてゆきたい思いで事業に臨みました。 これからも、農村景観の保全と非農家の参画を維持するため、農村環境向上活動は地域一体となって取り組んでいき、環境向上活動を通しての花の植栽も地域環境を後世に繋ぐための大きな役割として、継続していきます。					
					
				集落花壇への花の植栽	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	高野地区環境保全委員会	代表	佐々木 義雄
協定面積	田 13.71ha 畑 2.52ha 計 16.23ha	対象面積	田 6.60ha 畑 ha 計 6.60ha		
管理施設	開水路 2.6 km ため池 4ヶ所	農道	0.3 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 5人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の委員会では、緑豊かな水田風景、地域にある湧水2カ所を守ることと農道を整備することを目標として活動を行ってきました。 取り組み当初は、とまどいもありましたが春のクリーンアップや農道除草は構成員全てが参加する集落の一大イベントになりました。当委員会の目標でもあった湧水の復活が泥上げや水路の整備により昔のような清らかな水流が復活し、また田植え時に水浸しとなっていた農道も不陸整正や砂利の補充により改善され、農業機械の通行が容易になりました。 私達の集落でも地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で昔の清らかな姿が少しは復活したのではないかと感じています。 農業者以外の方々も地域の農業施設を大事にしようという気運が生まれ、小さいことは自分達で頑張ろうという意識改革により、これまで実施できなかった、ため池の水抜きによる点検も行えるようになりました。 これからも“自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”の精神で地域を盛り上げたいと思います。					
					
				ため池の水抜きによる点検	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上野活動組織	代表	伊藤 松雄
協定面積	田 18.25ha 畑 ha 計 18.25ha	対象面積	田 16.59ha 畑 ha 計 16.59ha		
管理施設	開水路 3.0 km ため池 ヶ所 農道 2.2 km	ハイツライン	km		
構成員	農業者 32人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では、基礎部分と農地・水向上活動を主に農業者と自治会が、農村環境向上活動は組織構成員全てが実施しております。

本地域の用水路は県河川西ノ又川の恩恵を受けており、地域の農家は昔から水の依存性が強く生活に密接したものであり、水生植物にも欠かせない貴重な資源となっています。そのため、地域の自然（水）は自分たちで維持向上して行かなくてははいけない。この事は生態系の保全に密に繋がっており、水資源の保全活動として地域に大いに貢献していると思います。

また、環境向上活動をととしての花の植栽も地域ぐるみの環境向上を未来に繋ぐための大きな役割となっており、地域交流の場面がとても増えました。

本事業に取り組んだことにより、地域のリーダー育成に大きく貢献していることから、事業を通しての役割を次世代に受け継ぎながら今後も活動していきたいと思っています。



集落花壇での花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	及水地区土地改良組合 大及水環境保全活動隊	代表	佐藤 章
協定面積	田 47.31ha 畑 ha 計 47.31ha	対象面積	田 47.31ha 畑 ha 計 47.31ha		
管理施設	開水路 1.9 km ため池 1 ヶ所 農道 8.3 km	ハイツライン	2.2 km		
構成員	農業者 59人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

5年間継続した効果として、地域住民の環境への認識も高まり、希薄化しつつあった住民のつながりにも強い意識が感じられるようになりました。

私達の地域では、平成15年度から19年度までの工期で水田及びため池等の整備事業が行なわれており、充実した施設環境の中での活動でありました。

景観形成については、当初どのような取り組みをすべきか戸惑いもありましたが、近隣組織の情報を得ながら、市の担当職員の指導のもとでやり甲斐のある活動を行うことができました。特に花壇やプランタへの花の植栽に活動では、婦人層及び親子会等から強い意気込みが感じられ、地域内を往来する人達からもすばらしい活動だと声をかけられたことは、とてもうれしいことでした。

この事業によって培ったつながりを生かし、今、婦人層では産地直売などの地産地消への取り組みも見られるようになり、地域全体のつながりもより確かなものになりつつあります。



景観形成に自慢げな面々

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	赤平地域資源保全隊	代表	佐藤 一男
協定面積	田 38.84ha 畑 4.40ha 計 43.24ha	対象面積	田 37.82ha 畑 ha 計 37.82ha		
管理施設	開水路 7.2 km ため池 ヶ所 農道 4.6 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 43人 農業団体 団体	非農業者個人	人 非農業団体	3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は里山に隣し、住民は水稻栽培を中心とした兼業農家が主体であり、ほ場整備は、完了後40年ほど経過しています。水利組合は、生産基盤整備以前から3組織あり、用排水路、農道等の農業用施設の適切な管理を実施していましたが、近年は高齢化や耕作者の減少等が進行し、また、未装工の水路や未舗装の農道も多いことから、農業用施設の整備が十分に行き届かない状況下であり、併せて地域交流活動が希薄化しつつありました。

本事業の活動目標としては、景観形成向上を主体として進めることで地域の和、心の輪、人の和を広げること、並びに農業生産基盤を地域の大切な資源として位置づけ、確実に次の世代に伝えていくことの2点を掲げました。

実施内容としては、地域内の花の植栽、クリーンアップ、水質調査等を地域住民挙って行い、みんなの環境への意識向上に繋がりました。また、数年放置されていた複数の決壊水路の補修も期間内に完了し、農道の除草等は農家非農家を問わず若い世代が積極的に参加するなど地域の資源を保全しようとする意識は確実に向上したと感じます。

この流れを閉ざすことなく、次のリーダーを育成しながら継続していくことが必要だと思っています。



〔点検活動中の組織中核メンバー〕

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	高梨第1地区環境保全グループ	代表	松本 亨
協定面積	田 495.22ha 畑 ha 計 495.22ha	対象面積	田 495.22ha 畑 ha 計 495.22ha		
管理施設	開水路 120 km ため池 ヶ所	農道	56 km	パイプライン	km
構成員	農業者 383人 農業団体 1団体	非農業者個人	258人	非農業団体	40団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの環境保全グループの活動を振り返ってみると、5年間という期間は本当に早く過ぎたように思っております。最初はこの活動に対する期待とともに、とまどいもありました。農道の草刈りなどはこれまで自分でやっていたのに、そんな事に公金を使わなくてもいいのではないかという人もいたようです。しかし、地域の環境浄化のため共同で草刈りをしたり、花を植えたりあるいは農道の補修を行うという活動をとおして、徐々に関心が深まったように感じております。

また、当グループは約1000世帯、500haの規模ですが、5年間の活動、特に春、秋のクリーンアップ等をとおして初めての人と出会ったり、昔の友人と再会したり構成員の交流や絆が深まったと思います。これからは、少子、高齢化、人口減少という課題を現実のものとして受け止めなければなりません。このような状況の中で地域、集落をどのようにして維持していったらいいか不安もあります。5年間の活動を経験して今感じていることは、地域に活動の中心になるリーダーを育てるとともに、地域住民も自分たちのことは自分たちでやろうと積極的に活動に参加する自主的な意識を持ってもらうことが大切だと思っています。これからも、地域活性化のための事業推進を願っております。



プランターや花壇に植栽し、地域の集会所等に設置し、環境美化を図りました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	高梨第2地区環境保全グループ	代表	土井 文夫
協定面積	田 235.54ha 畑 ha 計 235.54ha	対象面積	田 235.54ha 畑 ha 計 235.54ha		
管理施設	開水路 80.7 km ため池 ヶ所	農道	39.3 km	パイプライン	1.2 km
構成員	農業者 172人 農業団体 1団体	非農業者個人	278人	非農業団体	16団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地区には有名な史跡払田柵があります。また名勝指定池田家の払田分家もあり、公開日にはこの地に県内外から大勢の方々が見学に訪れます。くしくも事業発足の平成19年は秋田国体が開催され、メインの払田柵南門前の県道は自転車競技のロードレースのコースにもなり、当初はここを重点的に景観形成の花を植えて、選手を温かく迎えようという目的で取り組みました。県道南側の歩道わきに並べられたプランタの様々な花と、さらには県道北側の市有地で残土で盛土された殺風景な場所に簡易的に花壇を作り、この花壇を活動グループ全体の事業として植栽に取り組みしました。作業には100名ぐらゐの参加があります。最盛期には道路両側は、フラワーロードとしてすっかり定着してきました。

払田柵の近くには新興住宅地である払田ニュータウンがあります。ここにも新たな居住地として非農業者の方が土地の購入と家を新築され、自治会に新規加入するわけですが、この方々も理解を示し積極的にこの活動に参加してくれます。

うれしいことに、花の植栽だけでなく、地域用水の管理や草刈り作業にも参加される方もおり、最初は共同活動に戸惑いを感じていましたが、今では、かなり地域にまともりもできてきたように感じています。



500m近い沿道は、地域交流を兼ねたような賑わい。夏には、除草作業の構成員の笑顔と、多種の花の色がより一層満開になります。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	高梨第3地区環境保全グループ	代表	佐藤 隆盛
協定面積	田 111.39ha 畑 ha 計 111.39ha	対象面積	田 111.39ha 畑 ha 計 111.39ha		
管理施設	開水路 51.9 km ため池 ヶ所	農道	11.4 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 94人 農業団体 1団体	非農業者個人	494人	非農業団体	12団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当第3グループは戸地谷全域の内北部が農振地帯で南部は農振除外地域で住居混在地帯となっており、町内会構成が8町内となっており極めて非農家の多い地域で有ると共に、基盤整理箇所が一部のみで、水路は土溝のため農道がぬかるみが多く、軽トラも通れない箇所が多くありました。年間作業は景観と農道の草刈・法面植栽、農道補修等を共同作業とし、これを重点作業とし5年間活動をした結果、景観では農道法面の植栽・水芭蕉群生地の蘇生、軽トラが通れる農道になったが、未だに水路土溝改善要請箇所が多い事が問題としてあります。作業はすべて共同作業として戸地谷全域の行事として定着しました。 5年間の定例一斉作業。①5/5日一斉泥上げ作業 ②6.7.9.月一斉草刈作業 ③6月各町内病害虫防除作業 ④7月9月農道補修砂利敷き作業⑤ 4月施設総点検作業 ⑥農道法面にヒメワダレ草植栽作業6.8.9月 ⑦水芭蕉群生地草刈4回 ⑧植栽地草取り作業 ⑨景観蕎麦・コスモス番種 ⑩その他 等々と定例作業として進めました。 5年間の作業を振り返り成果と反省 ①戸地谷全域で農家非農家・全町内会との絆が出てきた事 ②作業を通じて人的交流が深まった事 ③一部箇所を除き農道泥濘が改善された事 ④主要農道法面にヒメワダレが植栽された事 反省点 一斉作業開催日が日曜日となり日程上限られている事 水路の目地詰め等が出来なかった事 基礎部分の取り組みが不足した事 重機オペが限られた事					
					
				老人クラブによるプランタ花植え活動 歩道に設置作業	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	横堀地区環境保全グループ	代表	伊藤 稔
協定面積	田 487.11ha 畑 ha 計 487.11ha	対象面積	田 487.11ha 畑 ha 計 487.11ha		
管理施設	開水路 143.9 km ため池 ヶ所	農道	53.4 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 299人 農業団体 団体	非農業者個人	102人	非農業団体	14団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
当環境保全グループは、8集落からなる大規模な組織であったことから、事業当初は活動方法等に戸惑いもあり、思うような取り組みが出来ない集落もあったが、互いに知恵を出し合いながら色々な活動を行って来ました。その活動の輪も年々大きくなり、今では老若男女を問わず共同活動に参加していただくまでになりました。 代表的な活動としては体験学習(伝統農法による田植え、稲刈り、脱穀作業)ではないかと思ひます。老人クラブ、若年層、子供会など幅広く活動に参加し、普段では中々顔を合わせない世代が一つの目標に向かって活動をする姿は本当に美しく思いました。 他にも景観に配慮した植栽も盛んに行われ、植物が生み出す癒しの効果がゆとりを生み出し、自分の事だけではなく周囲にも目を向け、他人を思いやる余裕が出来たのではないかと考えております。又農業用水路は、防火用水や冬の消流雪水にも利用されており、集落の貴重な資源であることを再認識出来たのではないかとと思ひます。そして地域全体で農業用施設を維持管理をし、次の世代に受け継いで行かなければいけないと考えさせられたことと思ひます。このような活動を通し、集落の結びつき、助け合いの精神が生み出されたのではないかと改めて感じさせております。新しい地域のリーダーが育ち始めている今、そのような人達を中心に、今後もっと強い結びつき、魅力のある地域作りを行って参りたいと思ひます。					
					
				地域住民のほとんどが参加して 行われた伝統農法による田植え作 業	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	堀板地区環境保全グループ	代表	原 松男
協定面積	田 382.9ha 畑 ha 計 382.9ha	対象面積	田 382.9ha 畑 ha 計 382.9ha		
管理施設	開水路 107.7 km ため池 1ヶ所	農道	36.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 230人 農業団体 4団体	非農業者個人	74人	非農業団体	13団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当グループは、面積の関係から11集落ごとに活動しておりますが、地域が有する生態系保全水路は全体で活動して参りました。草刈りや清掃は勿論のこと、地域に生息する絶滅危惧種の魚や希少な植物の保護のため、外来種の駆除と在来生物の育成に取り組んで来ました。小学校に呼びかけた「生きもの探検」は、外で遊ぶことの少なくなった児童が魚に触れ、泥遊びをすることで学校では得られない貴重な体験をすることができました。

また、特に農業者以外の方々も多く参加され、自然環境をみんなで守る意識が向上し広められたように感じられました。

この活動を通して「人の輪」と「集落の和」が今まで以上に高まりました。今後も地域活性化につなげていきたいと思っています。



生態系水路を地区内外に啓発し、自然環境を大切にするメッセージや願いを書いた「かかし祭り」。水路の維持管理は大切です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	仙北西地区環境保全グループ	代表	小林 一雄
協定面積	田 215.23ha 畑 ha 計 215.23ha	対象面積	田 215.23ha 畑 ha 計 215.23ha		
管理施設	開水路 67 km ため池 ヶ所	農道	18.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 172人 農業団体 団体	非農業者個人	97人	非農業団体	10団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織は、仙北西地区圃場整備事業区域（旧仙北町分）を基盤として誕生した。従って、ハード面で農道は公共交通網として、農業用水は地域内の消流雪や防火用水として、農用地は雨水の一時貯留として洪水を極力抑える、それぞれの機能を持たせた社会資本造りを担っていること。また、ソフト面では共働作業を通じて集落内のコミュニケーションを深めつつ、互恵互助の心を養うことを念頭に置きながら、5集落で活動を進めた。

中でも、農業の高齢化に伴い重労働となる草刈り作業を軽減、併せて心を和ませる花の里造りをねらいとしたカバープランツ等の植栽。植栽を始点として、生育の観察と検討会等の開催。農道や農地に様々な花を植え、人々の心を優しく包むための試み。これらは、地域連帯意識の醸成に多大な効果があったと思います。今後も、あらゆる（作業や話し合い・施策等）面から自主・自治の精神を身につけ、①人づくり ②家庭づくり ③地域づくり に励んでいきたいと思っています。

人間の中にひそむ力はもともと新鮮である。

自分に何ができるかを知っている人間は自分以外にないが、自分でさえ試みるまではわからない。 ～エマソン～



23.6.25 田茂木集落で行ったカバープランツと草花の植栽の様子です。斜面には、土に還る生分解シートを貼り付け、生育状況や防草効果を観察し、地域の将来に役立てたいとの想いです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	金井伝真木地区環境保全グループ	代表	高貝 勝雄
協定面積	田 49.8ha 畑 ha 計 49.8ha	対象面積	田 48.82ha 畑 ha 計 48.82ha		
管理施設	開水路 13 km	ため池 3ヶ所	農道 9.8 km	パイプライン	0.4 km
構成員	農業者 38人	農業団体 1団体	非農業者個人 8人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当環境保全グループでは、地域の高齢化が進む中で、先祖から引継いできた、農地、用排水路、ため池、農道などの貴重な地域財産をあるべき姿のまま、次世代の子どもたちへ継承することを目標に活動をしてきました。また、この活動を通し地域住民の世代を超えたコミュニケーション作りとして農道の路肩へ植物の植栽の共同作業にも取り組みました。

当地域には、生活用水と稲作りの水資源を確保する目的の、ため池が3ヶ所ありましたが、内2ヶ所は機能を果たしていない状態であるほか、管理しきれず、その周囲の環境も劣悪な状態でした。農業者にとっての財産でもあり、非農業者にとっては生活用水としての水資源であったので共同作業の出務については理解を頂き積極的に参加を得て整備することが出来ました。

景観形成の取り組みでは、農道の路肩へ水仙などの草花を植栽し景観を保ってきました。参加した子どもから年配者は、同じ集落内においてもなかなか顔を合わすことが無い中で活動を通じお互いに喜び楽しむ会話がなされ新たな交流が図られました。

将来にわたって環境保全に継承されるものと期待できる活動になりました。環境保全活動と草刈、泥上げ等の農地・水向上活動の一体化を通じ、水田や農業用水が持つ多面的な機能が、皆のものとしての農地であり、環境であることの理解が深まり、この活動が一区切りされた後においても、活動が自らの手により進めることのできる体制の構築に努めるものとして確認されているところです。



農業者・非農業者が交流と絆を深め景観形成のコスモス植栽を通じて環境保全の大切さを学びました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	太田集落環境保全組合	代表	谷口 章
協定面積	田 757.0ha 畑0ha 計 757.0ha	対象面積	田 757.0ha 畑 ha 計 757.0ha		
管理施設	開水路 214.8 km	ため池 ヶ所	農道 52.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 588人	農業団体 4団体	非農業者個人 人	非農業団体	23団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

太田集落環境保全組合は「緑につつまれ風格と誇りのある郷土づくり」を目指し様々な共同活動を行ってきました。花の植栽やクリーンアップ運動は積極的に非農家に参加してもらうことで農村環境に対する意識を高めることができ、これまで農家が専ら管理してきた農村環境の保全・美化を、農家・非農家の区別なく農村の構成員全体が一体となって実施していく足掛かりとなりました。

当保全組合の活動する地域においても、他の地域と同様に過疎化が進み、将来の地域農業の担い手不足が大きな問題となっているため、学校教育との連携により早い段階から子供たちに農業・農村環境に対する意識を持ってもらうよう働きかけることに力を入れてきました。「なかよし田んぼ」と名付けた学校田を、五年生が中心となり田植えから収穫までの農家の一年のサイクルを体験学習することで、農業のたいへんさや収穫の喜び、ひいては農村環境の大切さを学んでくれたものと思います。農業に対する高い意識を持った子供たちが十年後、二十年後担い手となり、新たな世代のリーダーとして地域を引っ張ってってくれるよう今後も保全組合として手を差し伸べて行きたいと思っています。



「なかよし田んぼ」太田東小学校児童、父兄、地域住民で稲刈り中の風景。刈った稲ははさ掛けして天日乾燥する。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上・下斉内集落環境保全組合	代表	門脇 一男
協定面積	田 80ha 畑 ha 計 80ha	対象面積	田 77.31ha 畑 ha 計 77.31ha		
管理施設	開水路 16.4 km ため池 ヶ所	農道	22.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 89人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組合では、奥羽山脈を背景とした自然豊かな水田風景で、真木溪谷からの水が斉内川へと流れている。その斉内川から、農業用水、防火用水、冬期間の消流雪水として使用され集落の貴重な資源となっている。用排水路の管理として土砂上げ、草刈り等年2回行っているが集合場所として、瀬波となっており、集落の憩いの場所として活動を行って来ました。東西と流れる用水路が瀬波で北側と、南側にと別れる場所であり水路面への花壇造成をし、花の植栽をしました。花が咲き誇る頃子供達が写生に訪れるようになった。

農業用水が持つ多面的機能に理解を持ち、用水路の維持管理等については、農業者、集落会が一体となり活動をし、行ってきた。

瀬波へ花壇造成したことにより、花の咲き誇る頃の景観が美しく農業者、集落会、婦人学級一体となった取り組みに楽しさとふれ合いが加わり今まで以上の参加機運がうまれました。小用排水路は素堀が大半で礫水路であり、水路の土砂あげ等は人力では困難な作業となっている。

最終年度、古U字溝布設(補修)を行ったが、活動区分ごとに資金の割り当てがあり、残念な結果であったが、今後へ託し、地域の生産基盤の充実を図りたい。



瀬波花壇造成地に花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	南小神成農村生活環境を守る会	代表	高橋 孝治
協定面積	田 38.45ha 畑 ha 計 38.45ha	対象面積	田 38.45ha 畑 ha 計 38.45ha		
管理施設	開水路 18.4 km ため池 ヶ所	農道	9.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 46人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの南小神成農村生活環境を守る会では、豊かな農村景観を未来につなぐため、地域内にある生態系保全施設の手入れ、生き物調査、道路花壇の手入れ等を通して、子供達に環境保全の大切さを伝えていくことを目標に活動を行って来ました。

生活環境を守る会の目標でもあった水資源の保全活動としては水質モニタリングを実施しました。特に生態系保全施設の生物調査は、子供達にとどまらず、おとなにとっても地域の貴重な宝物を確認する事ができ意義ある活動となりました。

近年、地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域のまとまりが復活しつつあるように感じています。又、農業以外の方々も農業用水が持つ多面的機能を理解し毎年集落で実施している内川払いの参加者も増加しております。

これからも、地域用水として利用されている用水路の維持管理や農村景観の保全については、農業者、集落会が一体となって取り組んで行きたいと思えます。



生態系保全施設の生き物調査

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	田の尻地区環境保全会	代表	高橋 稔
協定面積	田 45.9ha 畑 ha 計 45.9ha	対象面積	田 37.29ha 畑 ha 計 37.29ha		
管理施設	開水路 16.3 km ため池 ヶ所	農道	8.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 31人 農業団体 1団体	非農業者個人	10人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・農業用水等の資源・環境を保全する活動として施設の点検、共同作業計画の策定、施設周辺の整備、水路の泥上げ、農道の砂利補充-整備、その他の活動を実施することができた。

資源・環境を維持・保全する活動として施設の点検、共同作業計画の策定、施設周辺の整備、その他の活動を実施できた。特に維持・保全が困難な場所（土側溝周辺）については、新たな施設を作る共同作業ができた。

大臣賞を受賞したこともある「花壇」の充実した地域であるので、本事業を通してさらに充実した景観形成活動を行なって、農村環境の向上を図ることができた。特に右の写真、名付けて「スイセンロード」は、独創的でユニークな活動である。

5年間の長期にわたる活動であったので、じっくり様々な活動ができたと思う。本活動をとおして、集落内のまとまりができ、これからの集落活動にとって、大きなプラスになったと、実感している。



5年がかりで、対象面積37haそして農道8km ほとんど全てに、スイセン球根の植え付けをした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上堰地域資源保全隊	代表	小松 悦歩
協定面積	田 237.18ha 畑 ha 計 237.18ha	対象面積	田 237.18ha 畑 ha 計 237.18ha		
管理施設	開水路 53.8 km ため池 ヶ所	農道	26.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 155人 農業団体 3団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域では、プランターへ植栽を行い、農道路肩に並べる景観形成活動を主体に行ってきました。4つの集落からなる当地域では、これまでそれぞれの集落単位での集まりはありましたが、全体での活動は殆どありませんでした。この取組により地域全体また、世代間のコミュニケーションが図られ、“地域の繋がり”がより強化されたことと感じます。

農業者の多い地域であります。後継者不足による高齢化が年々進行しており、この取組の中で、農業者だけでなく非農業者からも水路の泥上げや、草刈り作業に参加していただいたことで、高齢農業者の方々からは大変感謝されております。また、非農家の方々もこの活動に参加することで、農業用施設についても自分たちの地域の財産であるという認識が生まれているように感じます。

これまで交流の無かった方々同士でも、一緒に作業を行う事で“新たな繋がり”も生まれ、“自分たちの地域は自分たちのものであり、自分たちの手で守っていく”という心構えで今後も活動していきたいと思ひます。



景観形成活動では、200戸あまりの地域住民が一堂に会して花の植栽を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	下堰地域資源保全隊	代表	明平 哲雄
協定面積	田 261.5ha 畑 ha 計 261.5ha	対象面積	田 261.5ha 畑 ha 計 261.5ha		
管理施設	開水路 68.3 km ため池 ヶ所	農道	35.3 km	ハブライ	km
構成員	農業者 219人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域では、水路の泥上げ・補修、草刈りはもちろんのこと、花の植栽などの景観形成また、絶滅危惧種の「イバラトミヨ」を守るための生態系保全活動など様々な取組を頑張ってきました。特に生態系保全活動では、小学生を中心に魚類調査や、簡易検査キッドを使っのの水質調査も行ってきました。今の小学生達は、タモ網を使っのの魚類の捕獲が上手ではなく、おじいちゃん達が一生懸命、孫達に教えている様子はとても良い光景でした。子供達からは、“スゴイ魚がいるんだね”や“これからもココをきれいにしなくちゃいけないね”等の声が聞かれ、この美しい農村環境を次世代へ継承するという目的の一つが達成出来たのではないかと感じています。これらの活動を通して、希薄になりつつあった住民間、世代間の“絆”が強くなってきたように感じますし、実際に高齢の農家の方からは“草刈りをみんなに行ってもらい、とても楽になった”、一般の住民の方々からも“こうしてみんなで集まれるのが楽しい”という多くの喜びの声聞くことが出来ました。

これからも楽しみながら、地域住民が一体となってこの美しい農村環境を守っていききたいと思います。



絶滅危惧種が生息する池・水路の適正管理を子供達と行っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	横沢北環境保全グループ	代表	草薨 幸作
協定面積	田 65.84ha 畑 ha 計 65.84ha	対象面積	田 65.84ha 畑 ha 計 65.84ha		
管理施設	開水路 16.8 km ため池 ヶ所	農道	12.8 km	ハブライ	km
構成員	農業者 35人 農業団体 6団体	非農業者個人	107人	非農業団体	1団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全グループの活動の拠点となる横沢北地区は、地理的及び文化産業的な側面からも地域の中心にあり、各公共施設を緑豊かに整備された農地が取り囲む環境にあります。

しかしながら、近年は農業従事者の減少や高齢化に伴い耕作放棄地や管理の行き届かない施設が目立つようになってきました。またそれに伴い地域の絆も大変薄れてきたように思います。

取り組み当初は、農業者自身に於いてもこの事業の本質を理解することに戸惑いがありました。が、事業を重ねるにつれ普段接することのない農業者以外の方々との交流を通じ、いつも見慣れているこの緑や素晴らしい環境が未来永劫と続くには、地域みんなの意識が一つになる事が大切であると痛感させられました。

また、この事業を通して農業者のみならず、学生や他産業の人々も日々暮らしの中で、空気のように存在するこの自然や環境は、様々な保全の為の努力によって守られている事を教えられました。

今後もこの事業で培った絆や共同の精神を忘れることなく農村環境の向上を目指して行きたいと思っています。



地域の中心に花のある空間が生まれて、通行する人々に安らぎを与えています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	横沢東地域資源保全隊	代表	伊藤 豊之助
協定面積	田 54.29ha 畑 ha 計 54.29ha	対象面積	田 54.29ha 畑 ha 計 54.29ha		
管理施設	開水路 37.8 km ため池 ヶ所	農道	14.8 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 23人 農業団体 2団体	非農業者個人	9人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち横沢東地域は全域が開拓で見事な水田地帯と緑に囲まれた集落です。

しかし、当地域も農業者の高齢化に伴い、この美しい環境も少しずつ荒廃して行くのではと危惧していた所、この保全対策が行われる事を知りなんの躊躇いもなく参加する事にしました。と言った事も有りスタートから集落一丸となり活動して来ましたが慣れない事務系統にはいささか閉口しました。

しながら、この五年間集落一致団結し活動した結果、水路の流れも良くなり水質も改善され昔のきれいな水に戻りつつありますし、農作業道も草の中を掻き分けて行かなくても良くなりました。

また、敷砂利等により環境向上に役立っていると思っています。なによりも集落全員が参加して行う景観形成にとりなう美化活動で道路への花の植栽では見事なフラワーロードになったばかりではなく共同作業をする事による集落民の連帯感が強くなった事は非常に嬉しく思っています。



共同活動（景観形成）中の休憩風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	横沢南地域保全会	代表	倉田 正吾
協定面積	田 28.16ha 畑 ha 計 28.16ha	対象面積	田 28.16ha 畑 ha 計 28.16ha		
管理施設	開水路 9.1 km ため池 ヶ所	農道	2.8 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 46人 農業団体 4団体	非農業者個人	人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域では、遊休農用地へ景観を考慮したソバを植えることを重点に、その他では水質調査や水路の泥上げ・補修、草刈り作業などを活動してきました。

春の水路の泥上げから、雪が降る前の流雪溝の清掃まで幾度となく集まり、話をしながら一緒に汗を流しあったことがこの取組の最も良いところではなかったかと思います。これまでは、一人で行うことがほとんどであった草刈りなどの農作業も、みんなで行うことで楽しみながら作業出来ました。

これまで雑草だらけの遊休農用地に、ソバを植えたほ場がきれいな白い花を咲かせた時は、活動実績を実感することが出来ました。

地域住民が集まることが年々減少し、活動前は年に1、2回程度しかありませんでしたが、この5年間で格段に増加し、数多くのコミュニケーションを取ることが出来るようになり、地域のまとまりが強くなったように感じます。

これからも地域のみんなできれいな農村の景色を守っていけたらと思います。



遊休農用地に白い花のソバを植え、景観に配慮を行ってきました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	上中里地域資源保全隊	代表	佐藤 春雄
協定面積	田 32.18ha 畑 ha 計 32.18ha	対象面積	田 32.18ha 畑 ha 計 32.18ha		
管理施設	開水路 11.4 km ため池 ヶ所	農道	6.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 19人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織では、景観形成活動、特に路肩・農道法面への花の植栽をメインに活動を行ってきました。また、当地域では農業者の高齢化が著しく、農道法面への植栽の際は防草シートを張り、草刈り作業の軽減も図ってきました。

花の植栽や草むしりには、老人クラブや婦人会からも活動に参加していただき、非農業者団体間のコミュニケーションも図られ大変喜ばれおり、本事業に取り組んで本当に良かったと実感しています。

農道法面への防草シートの設置作業においては、なかなか1人では出来ない大変な作業ではありますが、みんなで一緒になって汗を流し作業を行えたことで“絆”がより強くなったと思います。

取組当初は、手探りで活動を行ってまいりましたが、5年間活動をしてきて、地域みんなの結束も強まり、自分たちの住むこの美しい農村環境を、この美しいまま次世代へ受け継いでもらうためには、やはり自分たちが協力し合い守っていかなければならないと確認できたと思います。



老人クラブや婦人会と一緒に農道路肩・法面への植栽を積極的に行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	駒場地域資源保全会	代表	高橋 房雄
協定面積	田 229.22ha 畑 ha 計 229.22ha	対象面積	田 229.22ha 畑 ha 計 229.22ha		
管理施設	開水路 81.2 km ため池 ヶ所	農道	43.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 161人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織では、絶滅危惧種の「イバラトミヨ」が生息している湧水池・水路があり、その美しい水辺環境を次の代へ残していこう、という目的に重点を置いて活動して参りました。

「イバラトミヨ」の営巣時期・場所を考慮しての除草作業を、専門家の方々からアドバイスをいただいたり、子供達が参加しやすい活動日を設定するなど、毎年試行錯誤の連続でした。こうした結果、平成22年度には秋田県の環境大賞を受賞し、地域住民に喜びの報告をすることが出来たことで、より一層頑張っている活動していこう、という意識が高まりました。

この他にも全長3kmを超えるプランターロードや、花壇の造成も行い、景観形成活動にも力を注ぎました。水路の泥上げや補修、地域全体の草刈り活動やカバープランツの植栽なども実施してきましたが、どの活動でも、これまで少なかった住民同士のコミュニケーションが大幅に増え、地域コミュニティが強化されたと感じています。

これからも、地域環境を守っていく活動を、地域が一体となって行い、ますます地域住民間のつながりが強くなる様に努力していきたいと思っています。

う今後も保全組合として手を差し伸べて行きたいと思っています。



絶滅危惧種が生息している湧水池を、幼稚園児から祖父母まで、みんなで清掃しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	今宿地域資源保全隊	代表	石崎 敬一
協定面積	田 85.1ha 畑 ha 計 85.1ha	対象面積	田 78.22ha 畑 ha 計 78.22ha		
管理施設	12.8 km ため池 ヶ所	農道	11.1 km	ハイクライン	km
構成員	農業者 102人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域では高齢化が進み、農業の後継者も育っていない現状から耕作放棄地が見られるようになったり、貴重な「イバラトミウオ」が生息する清水も荒廃が進んでいる状況でした。

そうした中、この事業に取り組むことになり、道路花壇を整備したり、耕作放棄地にコスモスを播いたりした結果、昔のきれいな農村環境を取り戻すことができました。また地域で利用している道路や水路を住民が一緒となって整備することにより、日頃、顔を合わせる機会の少ない人との触れ合いにより、地域での一体感が醸成されてきたように感じています。

また、このような共同作業を行ってきた結果、「集落営農組織」が地域で設立されるなど、農業においても活性化が図られるようになりました。

地域の農地や水は、地域共有の貴重な資源であるとの認識を持ち、今後も農業者だけではなく、農業者以外の理解を得ながら、地域ぐるみの共同活動として継続的に取り組んでいきたい。



地域の環境をきれいにするため、空きカンやごみ拾いを行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	清水川若葉会	代表	清水川一郎
協定面積	田 42.18ha 畑 ha 計 42.18ha	対象面積	田 42.18ha 畑 ha 計 42.18ha		
管理施設	開水路 7.637 km ため池 ヶ所	農道	2.163 km	ハイクライン	0.66 km
構成員	農業者 23人	農業団体	1団体	非農業者個人	3人 非農業団体 4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

奥羽山脈の伏流水を利用し水稻の作付けが主流で農業を行っている小さな集落に、農地・水・環境保全活動の話が持ちあがり、活動前までは個々で水路の管理、「土砂上げ・路肩の補修・雑種地の草刈り等」日々の作業で、朝から夕方遅くまで個人作業で行い額に汗して取り組んでいる毎日でした。地域の集まりなど年に数回しかなく、年中多忙の中、参加者は数名にしら至らない会合が毎回でした。

活動に参加するようになり、あるご老体は、「今まで一人で1週間もかけておこなっていた草刈りが一日で刈り上げた！」みんなでやると楽しく体を動かすことができたことと絶賛。こんな声が多くの方から聞いたときは感動でした。

作業の空いた時間を利用し、景観形成活動で花の植栽を行い、幼児～年配者まで参加して1本の苗を丁寧に植え開花したときの感動は集落のメインイベントとなっていました。共同作業で花など植える事など忙しい毎日の中では考えられない事が実現出来ました。集落内がこの活動に対する関心が高まって中、今回で活動が終わりではなく今後も集落の絆が途切れる事無く、次世代まで末長く活動を継続し植栽が地域のシンボルとなるように共同活動で自分で出来る事だけ、少しずつ積みあげて地域の連携を継続して今後の活動に生かしていければ幸いです。



小学生と共同作業で池の整備を行い地域の憩いの広場として活用している。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	永代FWE会	代表	高橋 栄
協定面積	田 46.06ha 畑 ha 計 46.06ha	対象面積	田 46.06ha 畑 ha 計 46.06ha		
管理施設	開水路 16.2 km ため池 4ヶ所	農道	11 km	パイプライン	km
構成員	農業者 21人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 1団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの永代集落は、奥羽山脈の麓に位置し数多くの沢から集まった川口川の水を農業用水として利用し、その管理を集落で水利組合を組織して行なっていました。平野部では無風状態の時でも山の麓の永代にだけは東風が吹くことがあり、いつも水不足の心配がありました。

そのために先人は、4つのため池を私達に残しております。全長2kmに及ぶ幹線水路と4つのため池を必死に守ってまいりましたが、近年では稲作農業の衰退で兼業農家が増え、その管理が難しくなっていました。

そんな時期にこの事業が始まり、マニュアルに沿って点検・診断を行ない、かつてのようにきめ細かな管理を行なうことができました。これによって次の世代に受け継がれていくことと思います。

路肩花壇の管理は、日曜日毎に行ないましたが、各家庭の仕事や学校行事で忙しいのに参加していただき、地域のまとまりがよりいっそう強まったと思います。

今後とも事業継続を希望しますが、規模を縮小してでもこの5年間の共同作業の経験を生かし、集落に花を植栽し目を楽しませると共にコミュニケーションの場としていきたいと思っています。



このため池は農業用水を補うと共に多くの生き物が生息しております。そのことを子供達に体験して学んでもらいました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	北川口地域資源保全隊	代表	伊藤 康幸
協定面積	田 66.28ha 畑 ha 計 66.28ha	対象面積	田 66.28ha 畑 ha 計 6.28ha		
管理施設	開水路 20675 km ため池 ヶ所	農道	14650 km	パイプライン	km
構成員	農業者 33人	農業団体	団体	非農業者個人	8人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

北川口地域資源保全隊では、緑豊かな水田風景、地域の資源を次世代に受け継いで行くことと今、薄れつつある地域の「結の精神」を受け継ぐことを目標として活動を行ってきました。

はじめは何かと戸惑いもありましたが、春一番から用水路の泥上げ・杉葉上げ、農道の一斉草刈りを実施しました。水質保全については継続して水質モニタリングを実施しました。

また、景観形成活動では、農業者、非農業者を含め全員参加での花植え作業を行いました。

この5年間の活動により、地域のまとまりが強くなったように思います。

農業用水や施設の保全管理を農業者以外も賛同し、地域みんなで資源を保全する活動の大切を実感しています。

後継者不足は心配されますが集落で担い手の育成・確保を図れるよう地域全体で協力したいと考えております。



景観形成活動によるプランターへの花植え準備作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	惣行地区資源保全隊	代表	高橋 久昭
協定面積	田 69.15ha 畑 ha 計 69.15ha	対象面積	田 69.15ha 畑 ha 計 69.15ha		
管理施設	開水路 10 km ため池 3ヶ所	農道	10.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 14人	農業団体	団体	非農業者個人 7人	非農業団体 団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

惣行集落は奥羽山荘のふもと奥羽山荘と大台スキー場に囲まれた緑豊かな森林とため池があり、四季を通じて風景の美しい地域であります。観光客も多く地域の環境設備は何かと気を付けています。点在するため池では養魚活動を行い集落の鯉祭りとしてイベントを開催として住民と子どもたちとの交流の場となっています。営農活動では有機農家も多く、有機栽培に取り組む農家はほぼ全戸におよび自然にやさしい米づくりを地域で実践しています。

5年間の活動を通じて反省点も問題点も多くありますが大切な集落の自然環境を次の世代に残すためにも今後も活動を続ける努力をしたいと思います。



奥羽山荘周辺のため池の草刈り

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	沖田・本川農地、水、環境保全会	代表	加藤 光一郎
協定面積	田 32.60ha 畑 ha 計 32.60ha	対象面積	田 32.60ha 畑 ha 計 32.60ha		
管理施設	開水路 7.5 km ため池 ヶ所	農道	4.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 36人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は、田園風景の緑豊かな、そして清らかな水の流れに恵まれたこの地に誕生しました。地域の状況は高齢化の進んだ非常に厳しい、しかも農業者の平均年齢は80歳と高くとても保全活動など考えられませんでした。それではなぜ保全活動が実施されたか少し紹介します。それは1人の認定農業者の発想です。ほかの地域の模範にはなれないけど、何かを考え、何かを計画し、何かを実行すれば何かの結果が出る、それを繰り返すと地域活動ができると。それから数人で、地域をくまなく見て回りました。その結果、私たちはきめ細やかな除草活動、開水路の清掃、機械力を活用した農道保全、また婦人部の皆

さんの総力を挙げた花壇の植栽、保全活動を柱とした活動計画を立案しましたが、参加者の不足や特定化された様態でした。これではいかんと一念発起し、活動案件を数多く実施し、時には給水タイムを設けたりと、また支払いは給料袋でその都度顔を見ながら手渡し、何かと苦労はありましたが相当改善されました。

今では他の地域の活動も気になるほどで、仙北支部現地研修会仙北水土里(みどり)紀行には、マイクロバスをチャーターするほどになり、春の一斉草刈デーや花壇の植栽活動なども多彩な参加者に見込まれ、私たちも苦労が報われた気がします。

そして年間行事の締めくくりとして、子どもから老人まで参加したソバ打ち試食会で地域住民との交流活動を行うことが出来ました。



「一斉草刈デー」と「花の植栽」
前の活動前の集合写真
【今日も一日みんなで頑張ろう】

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	西板戸地区農地、水、環境保全会	代表	高寺 一
協定面積	田 26.80ha 畑 ha 計 26.80ha	対象面積	田 26.80ha 畑 ha 計 26.80ha		
管理施設	開水路 11.1 km ため池 3ヶ所	農道	5.3 km	パイプライン	1.5 km
構成員	農業者 15人	農業団体	2団体	非農業者個人	11人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地区は、雄物川に接し山々に囲まれた優雅な魅力ある地区であり、地域住民の心休まる景観を備えているが、地区内の農地が一部荒れ遊休農地となっている所があり、今後も遊休農地をなくすため、保全管理に徹底していく必要があり、事業へ参加しました。

活動組織では、生態系を壊さない環境にやさしい農業を目標に活動してまいりました。

地域用水として利用される水路及び農道の維持管理は、農業者と水利組合が主体となり、10年後の共同活動参加者の高齢化を考慮しながら、新たなリーダーを育成にも取り組んでいきたいと思ひます。そのためは、次世代へつなげるための集落・農業基盤(農地・施設等)は、今、私たちが踏ん張り後世へ繋げていきます。

また、食米値でも好評のある地域で取り組んでいる減農薬米をPR・情報発信しながら、地区のブランド化に努め、若者に魅力ある住みやすい住環境を提供していききたいと思ひであります。



草刈り後の集合写真

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	仙北市	住 所	仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30番地 電話 0187-43-2207		
担当部署	農林部 農山村活性課	担当者	課長補佐 高橋徳夫、係長 門脇達也		
(5年間の感想等記入)					
仙北市では31組織が農地・水・環境保全対策に取り組んでおりますが、これまでの活動内容を振り返って見ますと、機能診断に基づいた補修箇所の早期発見による補修活動などきめ細やかな活動が出来たように思います。 特に、近年の豪雨災害に対応できる異常気象等後の見回り・応急措置については、「自分たちの集落は自分たちの手で守る」という意識から被災箇所の早期復旧に地域一丸となって取り組んでいただいたと思います。 また、秋田内陸縦貫鉄道に隣接する箇所に「田んぼアート」を実施した組織では、この「田んぼアート」から収穫した「あきたこまち」を支援米として東日本大震災の被災地や山形県の地滑り被災地区へ届ける活動も併せて実施しており、地域を越えた活動が展開できたのではと思います。 農村環境では希少生物の生態調査や水路へ炭の設置活動を通しての水質調査の実施等により、意識の向上が図られたものと思います。 平成24年度からの次期対策では新規地区を含め今後も農村環境の保全に取り組んだ結果として、非農家を含めた地域の一体化がより一層図られることを期待しております。					

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

仙北市	耕地面積	田	4,920 ha	畑	580 ha	合計	5,500 ha
平成19年度	協定面積	田	2,308.54 ha	畑	18.40 ha	合計	2,326.94 ha
平成20年度	協定面積	田	2,308.54 ha	畑	18.40 ha	合計	2,326.94 ha
平成21年度	協定面積	田	2,308.54 ha	畑	11.00 ha	合計	2,319.54 ha
平成22年度	協定面積	田	2,308.54 ha	畑	11.00 ha	合計	2,319.54 ha
平成23年度	協定面積	田	2,308.54 ha	畑	11.00 ha	合計	2,319.54 ha
(支援交付金実績)				〔支援交付金全体〕			
平成19年度	対象面積	計	2,220.48 ha	97,701,120円			
平成20年度	対象面積	計	2,220.48 ha	97,701,120円			
平成21年度	対象面積	計	2,220.48 ha	97,440,640円			
平成22年度	対象面積	計	2,220.48 ha	97,434,920円			
平成23年度	対象面積	計	2,220.48 ha	96,150,944円			
合計				486,428,744円			
活動組織名称		仙北市		組織が多い場合次頁に			
番 号	活動組織名称		番 号	活動組織名称			
0449	石神地域自然保全隊		0457	神代中央環境保全組合			
0450	向生保内地区環境保全会		0458	小松地区資源保全組合			
0451	刺巻水ばしょうの郷環境保全グループ		0459	生田地区環境保全グループ			
0452	上真崎野ふる里愛護会		0460	下川原の環境を守る会			
0453	谷地川地区環境を守る会		0461	川崎地域環境保全向上組合			
0454	岡崎地域環境保全組合		0462	黒沢地区活動組合			
0455	神代北部環境保全向上活動協議会		0463	高屋寺沢環境資源保全会			
0456	小松・東前郷地区環境保全協議会		0464	古米沢川下田資源保全組合			

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	石神地域自然保全隊活動組織	代表	千葉 惣永
協定面積	田 85.74ha 畑 ha 計 85.74ha	対象面積	田 85.74ha 畑 a 計 85.74ha		
管理施設	開水路 37.1 km ため池 ヶ所	農道	5.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 44人 農業団体 1団体	非農業者個人	17人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は、昭和45年に圃場整備事業がなされましたが、当時の設計は構造物施工が極めて少なかったために、近年は用排水路の劣化に苦慮していたところでした。この事業によって手当てができないでいた用排水路の破損箇所や欠落危険部分の手当てを計画的に実施することができ、極めて有効に活用できました。

これまで、集落を取りまく水環境やそれに伴う生物相について把握できないでいましたが、水棲生物調査によって絶滅危惧種のイバラトミヨ雄物型が各所に生息することや絶滅したと思われた淡水貝が確認されるなど豊かな水環境であることを改めて認識を新たにしましたところ

です。

集落のなかでもお互いに顔を合わせる機会が少ない近頃ですが、共同作業では老いも若きも参加する場面が多く、広くコミュニケーションを図れる場ともなっています。

(石神地域自然保全隊活動組織 代表 千葉惣永)



生徒たちがなかなか水から上がろうとしな
いほど熱心に取り組みました。
この調査によって絶滅危惧種のイバラト
ミヨ雄物型を確認できたなど、成果が上
がっています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	向生保内地区環境保全会	代表	荒木田 俊一
協定面積	田 150.08ha 畑 ha 計 150.08ha	対象面積	田 150.08ha 畑 a 計 150.08ha		
管理施設	開水路 24 km ため池 ヶ所	農道	1.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 85人 農業団体 1団体	非農業者個人	137人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織が活動する地域は、一度も基盤整備がされたことが無い農地が殆どであり、農道は狭く軟弱なところもあり、用排水路は素掘り側溝が大半であり、法面は傾斜が急でありその維持管理には大変苦勞をしていました。

取り組み当初は組織活動の意図が理解されず、参加者が少ない時もありました。活動を重ねるたびに参加者は増えていき、参加の年代層も多様になりました。

農道の維持管理はされ、用排水路の破損箇所は自力施行等で改良され管理も行き届くようになり、個々から地域ぐるみになり、希薄になりつつあった関係がまたより強くなったと感じられます。

豊かな農村風景を守りながらも、少しでも所得が増加する生産活動に結び付けて、地域を盛り上げていきたいと思ひます。

(向生保内地区環境保全会 会長 荒木田俊一)



この環境を次世代にしっかりと引き継
ぐためにも活動して行かなければと
思っている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	刺巻水ばしょうの郷環境保全グループ	代表	小玉 昌一
協定面積	田 48.10ha 畑 ha 計 48.10ha	対象面積	田 48.10ha 畑 a 計 48.10ha		
管理施設	開水路 15.4 km	ため池 2ヶ所	農道 7.3 km	パイプライン	2.1 km
構成員	農業者 32人	農業団体 1団体	非農業者個人 33人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

昭和47年に圃場整備を行った当地では、周囲の山々から湧き出る水を揚水ポンプで循環しながら有効利用する農業を行ってきたが、施設の老朽化とともに少子高齢化が進むなど地域の課題が多くなってきた。

こうした状況の中で、私たち保全隊は平成19年から【水質保全】をテーマに本事業に取り組み、地域のシンボル「刺巻湿原【刺巻水ばしょう群生地】」を核に緑豊かな水田風景と水環境を次代に受け継ぐために活動を行ってきた。

今回の事業を通して、これまで農業者が行ってきた農道や水路の草刈り・泥上げ・補修などの他、農作業前や収穫後の施設点検や機能診断なども農業者・非農業者共同で行うようになり、子供達も小河川の水質調査や生き物調査、クリーンアップなど豊かな地区の宝物を再確認するようになった。また、女性達は地区の水環境をテーマに家庭の雑排水や生ゴミの処理と活用にも取り組み、高齢者も農道沿いや刺巻湿原エリアへの花木の植栽や管理を行うなど、子供達から高齢者までが自分たちができる取り組みを通して地域で【守り・継承する】ことへの意識付けが芽生えてきた。こうした地域一丸となつての取り組みの結果、現在では4haのハンノキ林に自生する6万株の「水ばしょう」が咲き誇る春の刺巻湿原は、首都圏等からの観光客で賑わいを見せるようになった。

今後は、自然環境と美しい農村風景に配慮した「水ばしょうの郷」を目指した活動を続け、繁殖牛飼育農家を中心に地域全体で化学肥料や農薬の低減を図りながら有機農業を進めながら地域内の水環境を向上させ、水路(地域の80%以上が土側溝)には水ばしょうが自生し小魚が生息する環境を整え、ホテルが飛び交う自然豊かで美しい農村環境づくりを進め、安全で安心して食べられる6次産業化を地域全体で行っていききたい。

(刺巻水ばしょうの郷環境保全グループ 会長 小玉昌一)



子供たちによる刺巻湿原清掃風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	上真崎野ふる里愛護会	代表	真崎 勝之
協定面積	田 60.64ha 畑 ha 計 60.64ha	対象面積	田 60.64ha 畑 a 計 60.64ha		
管理施設	開水路 5.3 km	ため池 ヶ所	農道 7.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 11人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織の活動範囲は50年以上も前に、先人の開墾事業によって興された集落です。開墾当時は28軒の農業集落でしたが、現在農業者は11名と激減、集落の目標とする基盤整備事業も後継者の集落外への流出により困難を極めております。

平成19年からのこの事業によって廃U事溝による土側溝の改修、碎石の敷き均しによって農道の整備も進んできました。この作業に協力しているのは農業者以外の構成員によるものです。これにより地域の絆もますます深まっています。農業者の利益以外にプランターへの花の植栽による地域の景観づくりや冬季間の防火用水の確保等、青年会や若妻会、親子会、集落会等の団体の協力もありこの事業も順調に5年間続けられました。これからも地域の絆、地域の和を大切に、この組織を核として地域を盛り上げたいと思っています。

(上真崎野ふる里愛護会 代表 真崎勝之)



平成19年度からの活動期間中毎年のように沢からの土砂によって埋まってしまった堰の、構成員による土砂利の撤去作業。市町村への負担なく行えたのもこの事業のおかげです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	谷地川地区環境を守る会	代表	大山 実
協定面積	田 47.00ha 畑 ha 計 47.00ha	対象面積	田 47.00ha 畑 a 計 47.00ha		
管理施設	開水路 19 km	ため池 1ヶ所	農道 6.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 26人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 「谷地川地区環境を守る会」は地域内の水田（10a区画）農道（砂利道）の狭少や用排水路（素堀）の荒廃等、又近隣の大沼（ため池）の景観や、外来魚（ブラックバス）の駆除等の問題点が課題となっていました。 平成19年度当初は、計画が先行し、地域全体の活動移行に苦慮しました。 本事業により農家、非農家との連携が農道（敷砂利）水路（草刈り、整正）の作業により、地域の共通財産としての自覚が芽生えました。又、大沼（ため池）の景観形成を図る小学生・父兄による花壇作りや、花植（マリーゴールド、ペゴニア等）を実施し、花を愛する気持ちを高揚し、外来魚（ブラックバス）駆除等の活動のなかから、その気運は高まり、本地域の融和が図られました。 これからも高齢化のなかで、若い世代を中心に、5ヶ年事業の経験を糧として地域の元気性を取り戻したいと思えます。 (谷地川地区環境を守る会)					
				 小学生PTA、中成会（地域団体）との連携による大沼（ため池）花植が5ヶ年継続して実施しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	岡崎地域環境保全組合	代表	清水 勇二
協定面積	田 104.3ha 畑 ha 計 104.3ha	対象面積	田 104.30ha 畑 a 計 104.30ha		
管理施設	開水路 21.7 km	ため池 3ヶ所	農道 7.0 km	パイプライン	km
構成員	農業者 69人	農業団体 9団体	非農業者個人 人	非農業団体	9団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 本協定により、農家・非農家1人1人が何らかの共同作業に参加する意識の向上が見られた。結果として用水路の補修、地域景観形成の保全等多面に亘って整備された。 今後は組織内の高齢化、更に世帯数人口の減少のなか住民各人が1人一役を担うと共に、共同活動の持続により住み良い地域創りを推進する。 (岡崎地域環境保全組合 代表 清水勇二)					
				 地域玄関口に創造ある「花いっぱい」の皆さん。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	神代北部環境保全向上活動協議会	代表	佐藤 貞博
協定面積	田 99.30ha 畑 ha 計 99.30ha	対象面積	田 99.30ha 畑 a 計 99.30ha		
管理施設	開水路 22 km	ため池 1ヶ所	農道 9 km	パイプライン	1.9 km
構成員	農業者 124人	農業団体 団体	非農業者個人 117人	非農業団体 団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動区域には、数カ所に渡って有休農地が発生していました。親子会が中心となって花の植栽を毎年実施したところ5年目にはほぼ解消の状況となりました。 他に、砂利補充による農道補修を毎年実施したことでスムーズに通行が出来るようになったことや、開水路の泥上げ、草刈り及び、補修工事を実施したことにより、用排水の管理が淀みなく出来るようになりました。又、主要水源の一つでもあるパイプラインでは、施設の保守、点検整備作業に加えて、破損箇所の補修工事も実施出来ました。水質検査の実施では、結果の数値がなかなか解りにくい面もありましたが、総体的に当地区を流れる水は概ね良好であることが分かりました。 これからも、みんなで意識を持って地域のことを考え、活動を続けていきたいと考えております。 (神代北部環境保全向上活動協議会 会長 佐藤貞博)					
				 有休農地へ親子会が中心となって、コスモスの植栽を行いました。秋には色鮮やかな花々が咲き誇り、道行く人達の目を和ませてくれました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	小松・東前郷地区環境保全協議会	代表	伊藤 裕明
協定面積	田 148.80ha 畑 ha 計 148.80ha	対象面積	田 148.80ha 畑 a 計 148.80ha		
管理施設	開水路 23 km	ため池 ヶ所	農道 8.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 147人	農業団体 10団体	非農業者個人 26人	非農業団体 17団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の協議会では豊かな田園風景、景観形成活動を目的に、地域の交流、親睦として田んぼアートを始めました。最初は皆、手植えするのに戸惑いながらも互いに助け合い田植えを終えることが出来ました。 昔、近所・集落で「結」で作業したことを思い出します。 昨年3月11日の東日本大震災が起き、東北は元より日本全国、世界中に衝撃が走りました。100年に一度の大災害で多数の人が犠牲になり、家族を失っております。一日も早い復旧復興を願って「がんばろう東北」を田んぼアートにしました。 多数のボランティアの協力を得て、龍神太鼓等の応援をいただき無事田植えを終えることが出来ました。 秋には収穫した「あきたこまち」を被災地の宮古市田老摂待地区に支援米として届けました。 これからも災害復興に少しでも役に立てればと思っております。 (小松・東前郷地区環境保全協議会 代表 伊藤裕明)					
				 私達の協議会では、5年前より地域交流を目的に田んぼアートに取り組んでいます。毎年の用に秋に子供たちが稲刈りに来て、喜んで帰ります。子供たちの元気な様子に勇気づけられます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	神代中央環境保全組合	代表	細川 俊雄
協定面積	田 185.40ha 畑 ha 計 185.40ha	対象面積	田 185.40ha 畑 a 計 185.40ha		
管理施設	開水路 55 km ため池 ヶ所	農道 24.7 km	パイプライン km		
構成員	農業者 151人 農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体 11団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の区域は農地面積約185haと広く、集落も広範囲にわたっており当初はこの事業の周知に難儀した経緯がありますが、しだいに農家・非農家問わず協力体制が根づいてきました。

地域の景観形成については、今まで実施してきた活動をさらにパワーアップを図る、その為に若い世代の力も必要になると考えている。

また地域の地下水については、水道の水が細くなったりした為この事業における地下水涵養ということで冬期間水田に水張りを実施しました。非常に効果が上がったように感じております。

景観については、道水路沿いにプランターの設置を中心に毎年多くの住民の参加を得て作業にあたり、地域住民交流の場としても効果があった気がします。また、畑地にヒマワリなど各種花を植栽し地域の癒しになったと思っています。今後も地域の特色を出すよう美化に努めたいです。

(神代中央環境保全組合 代表 細川俊雄)



毎年100人前後の住民が集まりプランター設置

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	小松地区環境保全組合	代表	伊藤 紀一
協定面積	田 87.30ha 畑 ha 計 87.30ha	対象面積	田 87.30ha 畑 a 計 87.30ha		
管理施設	開水路 25 km ため池 ヶ所	農道 9.7 km	パイプライン km		
構成員	農業者 50人 農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達のエリアにおける農地は、平成18年度に大区画の圃場整備が終了し、道水路・農道等整備がされ維持管理を主体に施設を維持していくこととし、水路の浚渫、草刈、農道の敷き砂利など従来の作業のほか、この事業を活用して、なかなか普段手をかけられない施設の維持管理を実施することができました。

また、畑地を借り受け組織の住民の協力によりヒマワリを植栽し、農道沿いには地域の青年会が毎年ユニークな看板を設置するなど子供からお年寄りまで作業に汗を流しました。付近の国道を通るドライバーが立ち寄って写真など取っている様子もみられました。

今後も引き続き、この素晴らしい農村風景を守るためにもヒマワリに限らず様々な花を植栽し、住民一体となって活動し、地域の環境整備に努めたいです。

(小松地区環境保全組合 代表 伊藤紀一)



毎年好評なヒマワリ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	生田地区環境保全グループ	代表	高橋 政敏
協定面積	田 182.80ha 畑 ha 計 182.80ha	対象面積	田 182.80ha 畑 a 計 182.80ha		
管理施設	開水路 48.5 km ため池 ヶ所	農道	20.9 km	パイプライン	1.2 km
構成員	農業者 89人	農業団体	3団体	非農業者個人 人	非農業団体 24団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の環境保全グループの活動は、当初何をすればよいものかよくわからないところからの出発でした。ともかく取り組んだ共同作業が進むにつれ、これが正に圃場環境の荒廃をくいとめて回復させる結果につながっていることを実感したものでした。活動5年を経て、地域内の農道は車で走っても何も心配ないほど整備され、荒れていた排水路法面はとにかく草を刈れる状態まで復元、水路の補修や改良も実施し、地域に喜ばれています。

個人的にはなかなか実行できなかった、道水路沿いの支障木除去など集落全体にかなり進み、集落の景観があっと思うほど明るく変わったところもありました。

また、荒れた遊休畑を畑に復元し、毎年各種花を植栽し単に景観を楽しむことのみならず、失っていた畑としての機能を取り戻す本来的な目的を達したことになるのではないかと考えている。同様に全部の集落にフラワー道路が出来たし、7m幅の広い法面をもつ土手数百mにヒメワダレ草を植栽して防草と土手の崩落を防ぐことが出来ました。

しかもこれらは、集落内の老若男女を問わない多くの人達が参加した共同作業によるものでありました。

これから先の課題は、この活動の中で培った集落や圃場環境を共同で保全するという感覚をどう維持していくか今後の課題である。

(生田地区環境保全グループ 代表 高橋政敏)



農道・排水路法面に植栽した
ヒメワダレ草
5年間管理に努める

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	下川原の環境を守る会	代表	中村 清悦
協定面積	田 59.50ha 畑 ha 計 59.50ha	対象面積	田 59.50ha 畑 a 計 59.50ha		
管理施設	開水路 19.5 km ため池 ヶ所	農道	7.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 24人	農業団体	2団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織は、「今より、良い環境を次の世代に！」をコンセプトに平成19年度よりこの事業に取り組んできました。そのためには、農業生産基盤としての用排水路清掃、農道への敷き砂利などの他に、我が集落に昔から存在する水芭蕉の群生地をより拡大することに力を注いできました。農家・非農家を問わず皆で群生地の雑草を刈るなどして、この5年の間に随分広がってきたと感じています。

また、イバトミヨをはじめ清水に棲む生物の環境を整えるため、湧水地及びそれから流れ出る小川の清掃、雑木の伐採等を行うことにより、清らかな水は維持されています。

今後も会員力を合わせて今以上の「ふるさと」にするよう頑張りたいと思います。

(下川原の環境を守る会 代表 中村清悦)



湧水が豊富な水路の整備
(清水な小川)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	川崎地区環境保全向上組合	代表	藤原 正
協定面積	田 44.34ha 畑 ha 計 44.34ha	対象面積	田 44.34ha 畑 a 計 44.34ha		
管理施設	開水路 13.3 km ため池 1ヶ所	農道 5.4 km	パイプライン 0.5 km		
構成員	農業者 47人 農業団体 団体	非農業者個人 5人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達川崎地域環境保全向上組合の活動地域は、農業用施設の維持管理は集落が共同管理をしており、また高齢化の為耕作放棄田も少なからず存在し、近い将来水路・農道の維持管理の人員確保が困難になり得る状況であった。しかし組合組織を立ち上げ地域の子供から大人まで各団体の連携を計り、草刈りや水路の泥上げ、生活排水への炭入れなど農家・非農家にかかわらず一緒に作業をして、昨今話題となっている地域間の「絆」がより強く感じられるようになった。また地域の水質・環境問題に対し私達の地域は自分達で守るという意識改革がされ、今後の地域発展・環境の向上の原動力になるように感じられる様に思います。

(川崎地区環境保全向上組合 代表 藤原 正)



5年間で3地域15カ所の炭の布設を実施し水質調査を実施各家庭で生活排水への考えが大きく変わりつつある。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	黒沢地区活動組合	代表	黒沢 龍己
協定面積	田 60.30ha 畑 ha 計 60.30ha	対象面積	田 60.30ha 畑 a 計 60.30ha		
管理施設	開水路 22.3 km ため池 2ヶ所	農道 7.6 km	パイプライン km		
構成員	農業者 41人 農業団体 1団体	非農業者個人 36人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織が活動するエリアは山裾に住む地域で二つのため池を活用して生活用水がほとんど入らない安全・安心な稲作栽培に取り組んでいる集落です。

取組当初は、いろいろな戸惑いや課題が数多くありましたが、年々活動をしていく中で、組合員の理解や協力などつながりが出来、今はみなさん喜んで活動に参加しています。

これからも地域のことは自分たちで守っていくという気持ちで盛り上げたいと思っています。

(黒沢地区活動組合 代表 黒沢龍己)



斜樋点検風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	高屋寺沢環境資源保全会	代表	佐々木 一彦
協定面積	田 21.40ha 畑 ha 計 21.40ha	対象面積	田 21.40ha 畑 a 計 21.40ha		
管理施設	開水路 10.8 km ため池 1ヶ所	農道	3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 20人	農業団体	団体	非農業者個人	14人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

地域住民と交流を図りながら毎年行われた寺沢地区大清水の清掃活動においては希少生物であるイバラトミヨ、サンショウウオの生そくが確認され、住民の環境保全に対する意識の向上がはかられたと思います。

また、農道、水路、ため池の維持管理においても経費の面でも大変たすかりました。

(高屋寺沢環境資源保全会 代表 佐々木一彦)



毎年行われた子供会による生態系調査で自然を大切にする心がつちかわれたと思います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	古米沢・川下田資源保全組合	代表	伊藤 隆一郎
協定面積	田 38.38ha 畑 ha 計 38.38ha	対象面積	田 38.38ha 畑 a 計 38.38ha		
管理施設	開水路 10.5 km ため池 ヶ所	農道	4.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 7人	農業団体	3団体	非農業者個人	人 非農業団体 4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年度を初年度とし農水省、県、市町村からの助成金を受け、農業者、非農業者の地域住民が共同で参加し、農地や自然環境の保全、向上していく事を目的として今まで活動してきました。

その目的通り事業を開始した時よりも、活動の成果は確実に出ています。

農道への砂利補充により、農業資材の運搬、農業機械の搬入が安全、快適に行えるようになりました。農道側溝の目地補修や部分的不等沈下の早期対応、破損施設の改修を行い施設の利便性が向上しています。

景観形成・生活環境保全も行う事ができ、子供たちが生き物の生息状況を調査し、自然環境の大切さを肌で感じました。その後、生き物調査、水質モニタリングの結果をまとめ学校教育等との連携を図ることができました。

この活動を通し、地域のまとまりや、地域の活性化を図ることが出来たと感じられます。今後も、この5年間を通して得ることが出来たものを継続して行きたいと思います。

(古米沢・川下田資源保全組合 組合長 伊藤隆一郎)



子供会で行った農業用水路の生き物調査。ドジョウやタニシなどの生き物が確認されました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	雲然水系環境向上事業会議	代表	高橋 惣十郎
協定面積	田 164.04ha 畑 ha 計 164.04ha	対象面積	田 164.04ha 畑 a 計 164.04ha		
管理施設	開水路 52 km ため池 ヲ所	農道	26.5 km	ハ°イ°ライン	4 km
構成員	農業者 183人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

雲然本地域は、東方に奥羽山脈や駒ヶ岳が遠望出来る桧木内川沿いに広がる200余haの完備された広大な田園地帯にあって、農家、非農家、各団体が「故郷の景観ときれいな水、そして、地域の連帯を深めあう」を目指しこの5年間共に汗を流してきた。

地域整備構想では、本地域特産の雲然柿をテーマに柿の木・景観等の保全及び雲然柿を利用した商品開発に着目し、手始めに地域住民の関心を喚起するため柿の木調査と写真展を開催。徐々に地域住民の関心が高まり、ついで商品開発にも婦人組織が立ち上がり行政の支援もあってその糸口をたぐりつつある。商品化製品のパッケージに写真展の作品を利用。夢が現実になる日も近い。本事業を契機に地域の連帯と、新たな小さな地域興しに大いに成果があった。この想いを後に続く世代へ託して。

(雲然水系環境向上事業会議 会長 高橋惣十郎)



4月の管内11集落一斉クリーンアップ作業。平成23年は子供を含め総勢166人の参加でした。これまで毎年実施してきましたが今後も継続しようと張り切っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	下延地区環境保護会	代表	藤原 房雄
協定面積	田 67.18ha 畑 ha 計 67.18ha	対象面積	田 67.18ha 畑 a 計 67.18ha		
管理施設	開水路 21.4 km ため池 ヲ所	農道	9.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 118人 農業団体 団体	非農業者個人	20人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の住む地域は、純農村地帯で平坦部の自然集落間に農用地が拓け、農業生産活動を展開し、農業用水路は灌漑用水のほか生活、防火用水、冬期間の流雪用水として活用し貴重な資源となっている。

また、近年、急激な少子高齢化に伴い、農業従事者も高齢者が増加し、今後の地域農業生産活動が懸念される。

これまで、下延地区環境保護会の構成員である地域住民や各種団体が一体となり、農地・水資源の保全や環境向上対策の活動を実施してきたが、今後も限られた農地・水資源の保全管理に努めると共に、若い農業者を中心とした農業生産体制の確立と、高齢者を支えるコミュニティ社会の形成を目指して参りたい。

(下延地区環境保護会 会長 藤原房雄)



地域住民100人の参加による農村環境向上活動(プランターへ花の植栽)の一コマです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	花園環境保全協議会	代表	雲雀 俊作
協定面積	田 78.50ha 畑 ha 計 78.50ha	対象面積	田 78.50ha 畑 a 計 78.50ha		
管理施設	開水路 14.2 km ため池 ヶ所	農道 12.5 km	ハ°イ°ライン	km	
構成員	農業者 45人 農業団体 団体	非農業者個人 25人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織では、春の地域住民総出で行う水路の泥上げに始まり、農道の草刈や砂利の補充、古清水用水路復活のための間伐材を利用した水路敷の造成。

サイフォンの浚渫、子どもからお年寄りまで参加して行われたマリーゴールドや水仙の球根の植栽などこの5年間活動を行ってきました。始めはどうなることかと非常に不安な気持ちで取り組んでいましたが、農道が整備されたり、サイフォンの中に長年溜まった土砂を上げて水の流れをスムーズにしたことにより、地域内を流れる水の有効活用を構成員の皆さんが以前よりも一層考えてくれるようになりました。

この5年間の経験を生かし農村環境の保全や、構成員相互の親睦を更に深めて行きたいと考えています。

(花園環境保全協議会 代表 雲雀俊作)



古清水用水路復活に向けた構成員総出の草刈作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	釣田地区環境保全組合	代表	菅原 孝作
協定面積	田 26.40ha 畑 ha 計 26.40ha	対象面積	田 26.40ha 畑 a 計 26.40ha		
管理施設	開水路 12.2 km ため池 ヶ所	農道 4.3 km	ハ°イ°ライン	km	
構成員	農業者 55人 農業団体 1団体	非農業者個人 11人	非農業団体 1団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

釣田地区は、昭和42年に圃場の整備事業を行いました。が、用排水路老朽化が進み、どのように維持し、管理するか課題でしたが、農地・水・環境保全に参加し、課題を地域住民皆さんで考え、対策を立てて行動しました。

間伐材で用水路の補修工事、農道法面の補修や用排水路の草刈り作業。

また、環境面でも地域の子供たちや、保護者と一緒に生態系調査(用水路を網ですくい捕り)、婦人部参加の花植手作業や、水質検査、広報活動等いろいろな活動を実践してきました。

五年間を振り返って見て、地域住民の心が自分たちの地域は自分たちの手で守って行こうと思う空気が感じられます。

(釣田地区環境保全組合 代表 菅原孝作)



地域の子供たちや保護者と用水路を網ですくい捕り体験

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	堂野口資源保全組合	代表	相馬 武夫
協定面積	田 29.42ha 畑 ha 計 29.42ha	対象面積	田 29.42ha 畑 a 計 29.42ha		
管理施設	開水路 6.3 km ため池 ヶ所	農道 3.7 km	ハイツライン		km
構成員	農業者 14人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち資源保全組合では、緑豊かな水田風景、水質保全、集落の景観等を目標として活動をおこなってきました。

取組当初は、戸惑いもありましたがクリーンアップや景観形成活動は構成員全てが参加する一大イベントになりました。

水質モニタリングや生き物調査も行い地域内の状況を確認でき貴重な活動となりました。

5年間の活動で地域の結束がより深まったように感じます。

(堂野口資源保全組合 代表 相馬武夫)



水質モニタリング調査風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	中川原地区環境保全組合	代表	高橋 昭郎
協定面積	田 77.90ha 畑 ha 計 77.90ha	対象面積	田 77.90ha 畑 a 計 77.90ha		
管理施設	開水路 20 km ため池 ヶ所	農道 11.7 km	ハイツライン		km
構成員	農業者 61人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私共の組織のエリアは、平成18年度に大区画圃場整備が終了し、農村環境も一変した中で、平成19年度からこの事業に参加しました。用・排水路の清掃、農道への敷砂利など農業者を主体としての作業や、また集落ごとに道水路沿いへの花の植栽等を実施し、地域の住民に喜ばれております。

地域の中を県道が通っており、若い人たちが率先して道水路沿いのクリーンアップや看板設置など農村環境の美化に努めており話題になっています。

これからも引き続き今まで活動してきたことを、踏襲して、地域を盛り上げていきたいです。

(中川原地区環境保全組合 代表 高橋昭郎)



住民総出で、花の植栽や除草

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	西根北地域自然保全活動隊	代表	浅利 則夫
協定面積	田 28.20ha 畑 ha 計 28.20ha	対象面積	田 28.20ha 畑 a 計 28.20ha		
管理施設	開水路 11.1 km ため池 ヶ所	農道	6.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 29人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊は、過疎が進行している山間部に位置して高齢化の割合が高い地域です。農業も機械化が進み、農業者以外の方、地域の老人会、小学校と連携して活動してきました。特に、小学児童との農業体験は、春の田植えでは老人会が先生役になり、高学年には田んぼアート作りをして、夏には高学年の手押し除草機押しに汗を流し、秋には稲刈り、ハサ掛け、足踏み脱穀と古農機体験をし、収穫祭のモチつき体験会をしてみんなで交流をふかめることができ地域間の絆が深まったと感じています。

(西根北地域自然保全活動隊 代表 浅利則夫)



5・6年生の皆さん
裸足でがんばりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	長戸呂農用地保全組合	代表	浅利 吉博
協定面積	田 17.90ha 畑 ha 計 17.90ha	対象面積	田 17.90ha 畑 a 計 17.90ha		
管理施設	開水路 3 km ため池 ヶ所	農道	1.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 35人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	1団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

我々の地域は、古くから農業者と農業者以外の方も一緒にこの地域の農業用水路の維持管理に努めてきました。

従って、この補助事業への取り組みも何の抵抗もなく入ることが出来たこと、自分たちが行ってきたことをそのまま続けることで、補助を受けられることに組合員一同喜びました。

この事業で、秋田内陸線羽後長戸呂駅から見る事が出来る紫陽花の花を育て、列車内からもすぐ紫陽花の花を一望できるようにみんなで大切に大きく育て、内陸線の名所の一躍を担えればと思う。

(長戸呂農用地保全組合 組合長 浅利吉博)



秋田内陸線羽後長戸呂駅を5年
間かけて囲むように紫陽花の植栽
を実施しました。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	仙北市	組織名	潟野環境保全組合	代表	澤山 純一
協定面積	田 27.20ha 畑 ha 計 27.20ha	対象面積	田 27.20ha 畑 a 計 27.20ha		
管理施設	開水路 5 km ため池 ヶ所	農道 4.9 km	ハ°イ°ライン		km
構成員	農業者 23人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体	

（5年間の活動内容や感想等記入）

今までの農地・水・環境整備事業を行うことが出来、今まで荒れていた耕作放棄地の整備及び用排水路管理等が地域一丸となって整備することができ、地域の絆も一層強くなってきました。

今後も引き続き行うことにより地域環境が良くなり、次の世代へのバトンタッチが進むと思います。

（潟野環境保全組合 組合長 澤山純一）



活動組織員による景観形成のための植栽

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	仙北市	組織名	カタクリの郷環境保全会	代表	八柳 茂
協定面積	田 17.73ha 畑 ha 計 17.73ha	対象面積	田 17.73ha 畑 a 計 17.73ha		
管理施設	開水路 3.1 km ため池 ヶ所	農道 1.7 km	ハ°イ°ライン		km
構成員	農業者 24人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

（5年間の活動内容や感想等記入）

わたし達の保全会には、集落の中を流れる水路があり、農業用水路のほか生活用水として古くから通年利用してきました。バイカモの繁殖やカジカ、ヤマメ、イワナ等の魚類が生息していますが、近年バイカモの過繁茂や泥の堆積やゴミが目立つようになっていました。

この保全会の事業により環境整備に取り組んだ結果、会員の協力で水路もきれいになり、地域の環境にたいする意識も高まり、とてもよい機運がうまれました。

この地域の和と環境を、良い状態で次の世代に伝えたいものです。

（カタクリの郷環境保全会 会長 八柳 茂）



水路の清掃、泥あげ、水草の過繁茂抑制を適度におこないきれいな水路にしました。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	仙北市	組織名	大石水利保全組合	代表	田口 孔一
協定面積	田 57.00ha 畑 ha 計 57.00ha	対象面積	田 57.00ha 畑 a 計 57.00ha		
管理施設	開水路 8.7 km ため池 ヶ所	農道 12.4 km	パイプライン km		
構成員	農業者 73人 農業団体 団体	非農業者個人 27人	非農業団体 5団体		

（5年間の活動内容や感想等記入）

農業用施設の定期的な点検、集中豪雨時及び後の対応等、更には冬季における消火防水路の除排雪作業を通して、小山田地区の7集落の目標が五年間でほぼ達成し、情報の共有が出来、集落間の連帯意識につながるものと信じております。

今後も、大石水系の貴重な水資源の維持確保に努め次代を担う若者に継承したいと思っております。

（大石水利保全組合 代表 田口孔一）



不法投棄防止用の看板を設置

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	仙北市	組織名	屋敷田親睦会	代表	鈴木 正幸
協定面積	田 30.10ha 畑 ha 計 30.10ha	対象面積	田 30.10ha 畑 a 計 30.10ha		
管理施設	開水路 13.1 km ため池 ヶ所	農道 5.8 km	パイプライン km		
構成員	農業者 37人 農業団体 団体	非農業者個人 27人	非農業団体 4団体		

（5年間の活動内容や感想等記入）

私達の活動組織ではおよそ30haの面積を対象に活動をしてきました。25年から40年前に圃場整備が完成した地域で、水路の破損・漏水等、施設の老朽化が目立つようになってきていましたが、なかなか修繕が進んでいませんでした。

そこで平成19年度より開始されたこの交付金制度を活用し組織活動に取り組んだところ、破損箇所の修繕が急速に進みました。

また、それに関連して交付金を活用して、地域の景観形成のための植栽活動を重点的に行い、ペニーロイヤルメントや芝桜の植栽等に取り組みました。

周辺には温泉施設、医療施設、老人施設等の公共施設が多くあり、他の地域からの来訪者も多く、その皆様方からは概ね好評を頂けたものと感じております。

最初はわからないことも多く、何度も聞いて歩いたり、意見の集約などに腐心しましたが地域の交流も盛んになり地域のためにわずかながらでも貢献できたと感じております、この活動地域の更なる盛り上げのために今後も継続して取り組んで参りたい所存です。

（屋敷田親睦会 代表 鈴木正幸）



芝桜植栽により環境整備に努めました。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	仙北市	組織名	山崎環境保全組合	代表	大蔵 定臣
協定面積	田 47.23ha 畑 ha 計 47.23ha	対象面積	田 47.23ha 畑 a 計 47.23ha		
管理施設	開水路 9.8 km ため池 ヶ所	農道	10.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 22人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	7団体

（5年間の活動内容や感想等記入）

平成19年から当事業に取り組み、農業者以外の方々も農業用水がもつ多面的機能に理解を示し、地域みんなで農業施設の保全管理等について、「自分たちで出来ることは自分たちでがんばろう」という機運の助長に大きく貢献することができたと感じている。

集落の取水口であるオヨケ地域は、農業用水として、また、生活用水として貴重な場所であり、毎年4月29日は共同活動により水路の清掃をしてきているが、それに併せて草刈り、泥上げ、水路の補修、農道の砂利敷き、また集落内のクリーンアップ、花の植付け等実施しながら集落内での絆を盛り上げたいと思う。

（山崎環境保全組合 会長 大蔵定臣）



農業用水路清掃状況

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	仙北市	組織名	小湊野南部地域自然保全隊	代表	阿部 昭司
協定面積	田 93.30ha 畑 ha 計 93.30ha	対象面積	田 93.30ha 畑 a 計 93.30ha		
管理施設	開水路 31.6 km ため池 ヶ所	農道	16.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 14人 農業団体 3団体	非農業者個人	人	非農業団体	6団体

（5年間の活動内容や感想等記入）

本事業活動により、作業計画等の話し合う機会が多くなったことに伴い、意思疎通ができ40年前の集落を思い出されました。

子どもたちや高齢者も自分ができることには積極的に参加されました。

非農家も含めた本活動は、農業用水への理解を深めるとともに水路の生物調査・水質調査により水に対する意識の変化も感じます。

当地区では、農事組合法人が設立されており、農道・水路等の農業用施設の保全管理を地域のみんなで協力し合うことで今後も地域の営農に寄与できると思います。

（小湊野南部地域自然保全隊 代表 阿部昭司）



花植え作業風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	仙北市	組織名	小湊野環境保全組合	代表	佐藤 正敏
協定面積	田 35.00ha 畑 ha 計 35.00ha	対象面積	田 35.00ha 畑 a 計 35.00ha		
管理施設	開水路 2.7 km ため池 ヶ所	農道 3.1 km	パイプライン km		
構成員	農業者 13人 農業団体 団体	非農業者個人 8人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

小湊野地域は、20件弱程の集落である所から、小さいからこそまとまりのある地域を目指し、地道な取り組みを中心に活動を重ねてきました。

特にこの度は、広く深く意識改善を図る事にも重点を置き地元子供会には、水性物の生き物調査をはじめ、コスモス畑の看板作成や水質検査の勉強会。また、コスモスの種を蒔く時には、より多くの住民に参加を呼びかけ、花が咲く頃に地域住民を取り込んでの記念撮影など、世代の壁を越えて交流ができる場面を盛り込み、お互い楽しみながら作業に携わる事を第一としてきた5年間でした。

これからも、それぞれが汗を流して作業を進めながらも、良き古き時代を大切にする実りある活動を続けて行きたいと考えています。

(小湊野環境保全組合 代表 佐藤正敏)



小湊野環境保全組合とコスモス畑の告知を兼ねて、子供会メンバーお手製の看板を作成。子供達の元気パワーが、地域住民の下支えとなりました。

（農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式）

市町村名	美郷町	住 所	仙北郡美郷町土崎字上野乙170-10	電 話	0187-84-4908
担当部署	農政課		担当者	鈴木孝悦 高階泰充 竹川朋彦	

（5年間の感想等記入）

美郷町は東に奥羽山脈、西に仙北平野が広がる肥沃な土壌と豊富な水資源に恵まれた町です。

この豊かな自然環境を大切に、未来に向けてさらに豊かで美しい町をつくっていくための重要な事業のひとつとして、この農地・水・環境保全向上対策に取り組もうと、当事業が始まる前年の平成18年度から各集落や改良区等に活動組織の立ち上げについて働きかけました。

今までに例のない事業であったため、活動内容に戸惑いを感じながらの働きかけでしたが、町内38の集落が活動組織を立ち上げました。

各組織とも試行錯誤しながら、自分たちの地域は自分たちで守ろうと、農業用施設の保全管理や農村環境の向上に、山間部から平野部まで様々な地域で、その特性を活かしながら取り組みました。

特に、美郷町の重要な資源の一つである『水』環境の保全には積極的に取り組み、湧水群がある地域では生活用水や農業用水として重要な役割を果たしているこの湧水を次世代に残そうと、保全管理に力を入れその他の地域でも用排水の水質保全や水路周辺の環境維持や景観形成に取り組みました。

農業従事者の減少が進み、農村環境の適正な日常管理が行き届かなくなってきた昨今、この事業を実施したことにより、農業者だけでなく、非農家の方々も取り込みながら活動できたことで、地域のまとまりや繋がりが強くなり、農村環境保全に対する意識の高揚が生まれたように思います。

今年度で一つの区切りを迎えることとなりますが、各組織の方々には、それぞれ自分の仕事を持ちながらも様々な活動に快く参加していただき、更には複雑な事務作業にも従事していただいたことに心から感謝いたします。

この5年間で培った「地域での共同活動」の意識の高まりが今後も継続され、これからの農村環境の保全に役立つよう、町としても全力でバックアップしていきます。

（農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ）

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

美郷町	耕地面積	田	6,220	ha	畑	458	ha	合計	6,680	ha
平成19年度	協定面積	田	4,289.73	ha	畑	135.10	ha	合計	4,424.83	ha
平成20年度	協定面積	田	4,288.07	ha	畑	135.10	ha	合計	4,423.17	ha
平成21年度	協定面積	田	4,286.89	ha	畑	135.10	ha	合計	4,421.99	ha
平成22年度	協定面積	田	4,285.76	ha	畑	135.10	ha	合計	4,420.86	ha
平成23年度	協定面積	田	4,285.71	ha	畑	135.10	ha	合計	4,420.81	ha

（支援交付金実績）

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	3,970.13	ha	174,685,720円
平成20年度	対象面積	計	3,968.50	ha	174,614,000円
平成21年度	対象面積	計	3,968.12	ha	169,935,880円
平成22年度	対象面積	計	3,967.81	ha	170,055,160円
平成23年度	対象面積	計	3,967.76	ha	168,378,517円
				合計	857,669,277円

活動組織名称

美郷町

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0480	本館集落資源保全活動組合	0488	千屋南部環境保全組合
0481	浮池・遠槻集落資源保全活動組合	0489	小荒川地域資源保全向上組合
0482	西北環境保全グループ	0490	土崎環境保全組合
0483	中央地区資源保全組合	0491	本堂城回資源保全組合
0484	中通り地区資源と環境を守る会	0492	元本堂資源保全活動組合
0485	あらよ水資源保全組合	0493	黒沢資源保全組合
0486	千北集落資源保全活動組合	0494	大坂資源保全組合
0487	千屋中部地域資源保全組合	0495	善知島部落環境保全組合

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	本館集落資源保全活動組合	代表	加藤 辰見
協定面積	田 23.8ha 畑 ha 計 23.8ha	対象面積	田 23.8ha 畑 ha 計 23.8ha		
管理施設	開水路 4.2 km ため池 ヶ所 農道 3.7 km	ハ イグライ	km		
構成員	農業者 27人 農業団体 団体	非農業者個人 13人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

高齢化と後継者が減少している現状から、地域での活動により少しでも資源保全に役立ちたいとの思いから組織を立ち上げました。昭和44・45年に区画された地域を活動エリアにしました。水稻作付けが中心で農道も狭く、路肩が崩壊、水路に泥が沈殿し、雑草が生い茂り、水の流れも悪い地区です。

共同作業は、農地への砂利補充、水路の維持、雑草の草刈、子ども達のごみ収集、環境保全看板設置、休耕田利用の花植栽などを主な活動としました。

プランターへの花植栽は、多くの世帯にご協力をいただき、植え付けから水管理、病害虫の消毒など実施し、主要道路の道端に並べ通行者、朝夕の散歩する人々の気持ちを和ませることができました。

多くの非農業者を含めた地域の皆さんから5年間活動にご協力いただいたことに感謝いたします。



女性中心の花植栽活動です。秋田県わか杉国体では、自転車ロードコースで好評を得ました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	浮池・遠槻集落資源保全活動組合	代表	飛澤龍右エ門
協定面積	田 68.0ha 畑 ha 計 68.0ha	対象面積	田 68.0ha 畑 ha 計 68.0ha		
管理施設	開水路 15.2 km ため池 ヶ所 農道 11.8 km	ハ イグライ	km		
構成員	農業者 56人 農業団体 団体	非農業者個人 3人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち浮池・遠槻集落資源保全活動組合は20戸余りの2つの集落を中心にしたグループです。全ての運営を組合員自身が行うことは取り組み当初から戸惑いの連続でしたが、役員会などの話し合いを多く重ね、組合員への連絡周知もきめ細かく行うことに心がけました。定期的に農業用施設の点検・機能診断を行い、水路の土砂上げや農道の砂利補修など保全管理の実施及び年6回以上の草刈りや危険な立木の除去など日常管理の実施、またプランター500個の作成、管理や看板、桃太郎旗での環境向上活動を実施しました。5年間の活動を通じ、組合員に地域の環境資源を自ら協力しあって保全・向上に努めることの連帯感、充実感が生まれました。私たちの集落でも地域のまとまりが薄れつつありますが、この活動が「集い」の場となり、草刈り作業では刈取後の舗道を女性たちがほうきで掃き、プランター作成では女性や子供たちが花を植え、男性が運ぶなど自然に補い協力しあうかたちが生まれました。また、プランターを直ちに舗道に並べるのではなく各家庭で約2ヶ月管理することで、作業にでられない家庭も活動に参加して貰うこととなり、地域全体の活動とすることができたのではと思います。いつの間にか失いかけていた「地域の絆」を、この活動を通じて呼び覚まして頂いた思いです。ありがとうございました。



景観形成の一環で500個のプランター作成・設置を5年間続けました。作業終了後の誇らしげな組合員です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	西北環境保全グループ	代表	谷屋 誠市
協定面積	田 58.9ha 畑 ha 計 58.9ha	対象面積	田 57.1ha 畑 ha 計 57.1ha		
管理施設	開水路 20 km、ため池 ヶ所	農道	6 km	ハ イ プ ラ イ	km
構成員	農業者 52人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	11団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達、西北環境保全グループは、七滝用水と田沢疎水を中心に緑豊かな田園風景が広がる地域を次の世代へ残すことを目標として活動してきました。

個々に行われていた草刈や泥上げなども地域として共同で取り組むことになり、また、プランターや休耕田に花を植えたり、水路や農道の清掃や補修など新しい取組みも始めました。小面積に分かれて放置されアカシアなどが繁っていた圃場も、復田され農地としてキャベツなどの栽培に利用されています。

花植えや除草作業などの時は地域の老若男女が集い、普段はあまり顔を合わせないもの同士の交流の場ともなっています。また、水路や農道などのゴミや施設の破損なども話題になるようになりました。

農作業が機械化され、以前よりもお互いの関係が薄れていく中、この事業に参加し、共同作業や話し合いを通じて、地域の人口が減っていく中、次の世代が誇りをもってこの地に暮らしていけるような環境を残していくために頑張っていきたいと思います。



地域の老若男女が集まり、プランターや減反田に花の苗を植えた。地域の交流の場にもなった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	中央地区資源保全組合	代表	小西 文男
協定面積	田 55.2ha 畑 ha 計 55.2ha	対象面積	田 42.4ha 畑 ha 計 42.4ha		
管理施設	開水路 17 km	ため池 ヶ所	農道 2 km	ハ イ プ ラ イ	km
構成員	農業者 61人 農業団体 2団体	非農業者個人	20人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、農業用水の取水地点として関田頭首工や円型分水工がされており、ここから分水される用水は、防火用水、消流雪水等、日常の生活用水としても活用されていることから集落の貴重な水資源となっている。私たちの保全組合では『「清らかな水・豊かな土」は安全安心な食べ物をつくり、環境を守ります。』を合言葉に保全活動を実施しました。

作業は、水路に付着した藻の除去や農道の交通に支障のある雑草の草刈、地域子供会による水質モニタリング、環境保全ポスターの作成、掲示等を実施しました。当初は、農家だけの作業活動と思っていた関係地域の皆さんも安全・安心な農産物づくりや自然豊かな景観等、貴重な地域資源であることを再認識していただくことができ農業者は勿論、非農家の方達や子供会等、多くの皆さんから参加を得ることができました。

この5年間の活動で子供たちから高齢者の方たちまで皆が顔を合わせ、語り合える地域交流の場ともなりました。又、通学路に植栽した花は子供たちや道路利用者の和みの路線となり空き缶等の投げ捨てもなくなりました。

この事業の実施により地域の人々に安らぎと心の豊かさを提供できたと思います。又、食の安全の大切さや自然を守ることの重要性を特に感じました。



猛暑の中での作業、一時休憩です。5年間で約2千人が活動に参加しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	中通り地区資源と環境を守る会	代表	佐々木 順吉
協定面積	田 76.8ha 畑 ha 計 76.8ha	対象面積	田 76.8ha 畑 ha 計 76.8ha		
管理施設	開水路 16.8 km ため池 ヶ所	農道	7.5 km	ハ イ プ ラ イ ン	km
構成員	農業者 59人 農業団体 2団体	非農業者個人	12人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織は、農業用・排水路、農道などの施設の保全管理や美しい景観づくりを地域住民が一体となって取り組んでいくことを目標に活動をおこなってきました。当初は活動経験が少なかったことにより、目的意識を共有するまでに時間がかかりました。しかし、実際に施設の管理が強化され、景観や環境が整えられ、さらには人と人とのつながりが強化され、地域全体が活性化されてきたことを実感できるまで到達することができました。必要な改善箇所の把握については以前より目配りが強化され、その対応が早くなり、粗放されている箇所が減少。各農業者が以前より施設の改善対応に悩むことが少なくなりました。また、グランドカバープランツの導入により、景観が整備され、草刈りの一部軽減や草刈り管理に対する意識が高まりました。特に、地域の地形や歴史など、地域環境の特徴をお互いに勉強することができ、地域に生きる住民として、貴重な取組みとなりました。今後も、地域の農業施設の管理や環境保全を地域住民が一体となって取組み、活性化しながら可能な限り活動が続けていきたいと思ひます。



カラムシ対策に良いと言われるアジサイの植栽。抑草効果もあり、除草剤の抑制に役かっている。その他クローバーなども植栽している。以前より草刈など景観に気遣うようになった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	あらよ水資源保全組合	代表	藤岡 政好
協定面積	田 21.4ha 畑 ha 計 21.4ha	対象面積	田 21.4ha 畑 ha 計 21.4ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 ヶ所	農道	2.9 km	ハ イ プ ラ イ ン	6.5 km
構成員	農業者 5人 農業団体 1団体	非農業者個人	7人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動する地域は、山間部に位置し、ほとんどの農業用水路や農道が未整備となっていました。この「農地・水・環境保全活動」により、5年間の計画的な作業によって補修や整備、改修が行われ、これからの営農基盤の維持を保つことが出来て地域住民にとっても喜ばれています。

対象面積においても郡内最小の規模で、小さな組織ですが、地域の人々のまとまりが良く、活動への協力や参加率も非常に高く、5年間のいろんな活動を通して地域の交流や「絆」が今まで以上に保つことができたと感じています。

当地区には、年間利用客数が10万人以上の温泉施設「あったか山」があり、地域の道路等に花の植栽やプランターを設置して温泉利用客に喜んでもらおうと活発な活動が続けてきました。老人クラブなどの協力を得ながら、年4～5回の草刈りや除草作業を行ってきました。みんなが施設や花などに関心を抱き理解を深め、協力し合い、美しくきれいな自然をいつまでも残せるよう、地域の和を大切にしながらこれからも盛り上げていきたいと思ひます。



芝桜の花壇の除草作業の休憩。みんなの会話が弾む(22年度の活動写真コンクールで『最優秀賞』を頂きました)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	千北集落資源保全活動組合	代表	照井 修二
協定面積	田 42.0ha 畑 1.6ha 計 43.6ha	対象面積	田 37.0ha 畑 ha 計 37.0ha		
管理施設	開水路 13.5 km ため池 ヶ所 農道 7.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 83人 農業団体 団体	非農業者個人	5人 非農業団体	12団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の活動組合は、町の行政区域「千北」の中に、二つの集落組織があり、それぞれ会館を所有して活動を展開しておりました。

本事業の新たな活動により、非農家の多い高齢化率の高い地区からは、特に環境保全活動に積極的な参加が得られましたし、また、水質保全活動では、水路にかかわる保全活動（施設の老朽化による補修など）で、地域の環境美化とその機能発揮を可能とし、特に山沿いの基幹水路の通年使用している水路の樹木の障害除去に大きな成果をあげました。

なお、協働作業を通じて、二つの集落の仲間意識が高まり、事業実施最終年（5年目）において、「千屋北部自治会」が結成され、念願であった行政区域一つの組織ができたことは本事業による協働活動の大きな成果といえます。



生き物調査をしながら農業施設を学びました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	千屋中部地域資源保全組合	代表	高橋 秀明
協定面積	田 79.5ha 畑 1.7ha 計 81.2ha	対象面積	田 79.4ha 畑 ha 計 79.4ha		
管理施設	開水路 15.8 km ため池 ヶ所 農道 13.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 77人 農業団体 団体	非農業者個人	22人 非農業団体	10団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組合では、豊かで美しい地域の農地・環境を保全し、次世代に引き継ぐために、地域構成員が同じ意識を共有すること、多くの地域構成員が活動に参加することを第一の目的として活動を計画・実践してきました。また、当地区は陸羽地震で形成された学術的価値の高い千屋断層の見られる地域であるとともに、真木真昼県立自然公園や町の観光拠点であるラベンダー園の玄関口であるため、とりわけ環境美化にも力を入れて活動しました。

事業では、どの地域でも実施している草刈り、農道整備、水路管理、植栽など地味な活動が中心でしたが、構成員の多数参加型、手作り感、内部調達を意識して活動を計画・実践しました。例えば、水路・農道補修では極力業者委託せず、手作業で実施したこと、植栽のための花苗や球根は構成員からの内部調達したこと、これによって活動への参加率の向上と事業費の内部還元が図られたと思います。

5年間とおして、各活動への参加率が非常に高かったことは、地域のみなさんが当組合の事業の主旨に理解いただけたものと自負し、自慢できるものであると思います。

事業により意識の共有が図られ、それが今後の地域の農地・水・環境保全につながるものであると期待します。



水仙の球根を植えて、水仙ロードを作り上げました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	千屋南部環境保全組合	代表	田沢 義弘
協定面積	田 94.4ha 畑 1.4ha 計 95.8ha	対象面積	田 92.9ha 畑 ha 計 92.9ha		
管理施設	開水路 18.6 km ため池 ヶ所	農道	14.9 km	パンプライン	km
構成員	農業者 50人 農業団体 団体	非農業者個人	12人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全組合では、緑豊かな水田風景、そして農業に大事な地域を流れる水をこの地域を受け継いで行く子供たちへ残すことで活動を行ってきました。

初めは、事業で取り組む内容を理解するに戸惑いもありましたが、減農薬・減化学肥料による営農への取り組み、地域一斉の水路清掃、地域水路の水質検査、それに子供たちの参加による体験農場の実践と非常に意義のある貴重な活動となりました。

それに加え、これまでは地域の繋がりが少なくなる傾向にありましたが、この5年間の事業のおかげで、地域一同の集まりが多くなり昔のような地域の絆が生まれたように感じております。

これからも、このすばらしい農村風景を守り、これまでの活動で培った精神でこの地域を盛り上げて行きたいと思えます。



体験農場でさつまいもの植え付け

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	小荒川地域資源保全向上組合	代表	加藤 征輝
協定面積	田 63.4ha 畑 0.3ha 計 63.7ha	対象面積	田 62.4ha 畑 ha 計 62.4ha		
管理施設	開水路 18 km ため池 ヶ所	農道	13.7 km	パンプライン	km
構成員	農業者 51人 農業団体 団体	非農業者個人	24人	非農業団体	11団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 19年度から始まった活動も5年も経ち、振り返るとあっという間に過ぎ去った気がします。立ち上げ当初は手探り状態で何を行っていけばいいのか判らないままの見切り発車の形でした。なんとか1年を乗り切って参加者が増えてきて、地域の交流の場が増えていく実感が増してきました。地域の農業資源も区画整理終了地区と未整理地区があるといった形で老朽化が著しい所を重点的に点検・診断を行い、集落営農のメンバーが主体となり補修・修繕をすることが出来て有効に事業を活用できたと思えます。

農村環境の面では、休耕田を利用して菜の花、そばを栽培して景観形成を目指し、それを収穫し菜種油やそば粉に加工して住民に使用して貰い、廃食用油の回収を行い、地元企業から協力を頂きBDFに再生し、それをトラクターに使用するとといった資源サイクルにも取り組みました。また湧水池も法面補修等の保全管理を行い、水質の改善が図られたのか生物の生息数が多くなったといった声が聞かれたのは嬉しかったです。

地域の環境に対しての意識の向上がみることが出来て、当初に目指した地域に優しい環境をつくる事のきっかけが出来た活動を行うことが出来たと思うのが一番の収穫でした。



菜の花で景観形成を現地研修会での取り組みを発表する

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	土崎環境保全組合	代表	熊谷 隆一
協定面積	田 284.6ha 畑 3.0ha 計 287.6ha	対象面積	田 239.0ha 畑 ha 計 239.0ha		
管理施設	開水路 43.2 km ため池 ヶ所 農道 49.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 192人 農業団体 団体	非農業者個人	52人 非農業団体	13団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は圃場整備が平成19年に完工し効率的な農業が営まれる様になりました。

この圃場整備事業では古くからある地域内の湧泉も集約され、21あったものが6ヶ所に整備されました。1年中ほとんど水量が変化しないで流れている水は農業用水としてはもちろん、生活用水としても貴重なものです。

又、絶滅危惧とされているイバラトミヨも多く生息しており、湧泉の管理、生態系の保全をどうするのが地域の課題でしたが、この事業の取り組みにより地域の住民が皆で管理をすることができました。

農家以外の人達も地域の貴重な宝として湧泉を大切に思っております。

現在地域には3つの農業法人、3つの集落営農組織がありますが、草刈や農道の整備、水路の泥上げ等がこの事業で実施されたため営農に専念する事ができ非常に感謝されています。



イバラトミヨ（ハリザッコ）がいるかな湧水池での生き物調査

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	本堂城回資源保全組合	代表	進藤 晃成
協定面積	田 332.3ha 畑7.8ha 計 340.1ha	対象面積	田 207.7ha 畑 ha 計 207.7ha		
管理施設	開水路 98.6 km ため池 ヶ所 農道 55.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 161人 農業団体 団体	非農業者個人	89人 非農業団体	27団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

本堂城回地区は、250の対象世帯、3つの行政区、6つの集落組合、7つの集落会館がある規模の大きな地域であり、活動範囲も広い地域です。元々自治会活動が一本化していることと、以前より産土神社である春日神社の氏子集落であり、共同作業・共同活動には結集する気概が充実している地域であります。更にはこの活動を通して、中世の本堂城と城下町の地域環境が今まで支えあう風習が生きていることを痛感いたしました。

また、集落は奥羽山地の扇状地末端部に位置し、湧水池に恵まれ、古来より水環境の豊かな地域であります。このように恵まれた地域環境のなかで今回の農地・水・環境保全向上対策事業に取り組むことになりましたが、5年間を振り返って地域住民の協力に改めて感謝しております。

毎年度12月～1月にかけて、各集落の会館を会場に座談会を開催いたしました。事業の活動写真をスライドで紹介したり、直接地元の方々から意見を聞く場を設けたことは意義深かったと思います。また、本堂地域は19年度より大型の基盤整備事業が同時進行され、地域住民の共同活動意識の高揚に役立ったことと信じております。この活動実績を基礎に今後の活動に繋げることを期待しております。



地域のシンボルとして守っている星山清水の清掃作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	元本堂資源保全活動組合	代表	高階 眞龍
協定面積	田 243.9ha 畑 26.1ha 計 270.0ha	対象面積	田 217.9ha 畑 ha 計 217.9ha		
管理施設	開水路 61.3 km	ため池 2ヶ所	農道 45.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 124人	農業団体 団体	非農業者個人 22人	非農業団体 18団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

元本堂資源保全活動組合では基本方針として、

- ①、全員が参加しての活動 基礎・農地水向上)に心がける。
- ②、子ども、老人クラブ、婦人会など地域のみんが参加できる活動 環境保全)を行う。
- ③、環境保全の啓発と保全整備を目的とした活動を実施する。

この三点を掲げ活動を行ってきました。

春夏秋には地区農道・水路法面・ため池を中心とした一斉草刈・清掃作業を実施。

雑木林状態だったため池周辺が徐々に整備され、今では周辺に群生しているミズバショウも息を吹き返し、毎年きれいな白い花を咲かせてくれ、私たちに一時の安らぎを与えてくれる場となりました。

又、当地区には山城の本堂城跡があるため周囲の農道及び水路の環境保全を整備し、秋には元本堂ウォーキングを開催。 荒井地区のサンショウウオ生息地、馬場添地区のイバトロミヨ生息地、ため池のカラス貝などを直接観察したり、水の大切さと併せて300年ものこの地で城が形成され生活が営まれていたことに思いをはせ改めてこの地の地区住民方と探訪しました。

地域の「たから」であるこれからの子ども達に農業をする喜びと楽しさを伝えるためキッズ農業体験を企画。春には田植え体験や大豆種まき、サツマイモ・カボチャ・里芋などを植栽、夏には除草や大豆の葉取り、秋の収穫では大豆のはさ掛け、足踏み選別機やとみなどを使用しての選別作業の体験を行い、冬には餅つき、米粉使用してのクレープやおからドーナツなどのお菓子作り、稲わらを使用してのわら細工に挑戦したり、80才のおばあさんを講師として大豆を使用しての豆腐作りなど、子どもと一緒に若い奥さん方も昔ながらの作り方に感心していたのを思い出します。



子供たちがクリーンアップをしながら地元を再確認出来ました

環境保全については、プランターによる花苗の植栽を行っていましたが、地区中心地の水路法面の草刈頻度が多いことから、法面へヒメイワダレ草を植栽し景観と草刈回数の縮減を図りました。又、花苗を植栽したいとの要望からマリーゴールド、サルビア、ジニア、ペチュニアなどを植栽し景観形成に努め、今では立ち寄り観察していく車も見受けられるようになりうれしく思います。

これらの環境保全活動を通して、世代を超えて一緒になって今までにない取り組みができたと思います。

今後は、地区内にとどまらず、地域外、さらに県外の方々と交流を通じて農業環境に対する認識の共有を持ってもらうとともに、さらには、草刈や水路補修に女性作業者が増加しているため、安全と女性に配慮した作業管理が必要と思われます。

また、活動するにしても作業者の多くが高齢化となっていることから、農道法面など広範囲な草刈作業にはトラクター用モアなどを活用した作業も必要と思われます。

次の世代へ良い農業環境を引き継ぐためにも生物、植物を大切に育てる環境を守っていくとともに自分たちの手で地域環境を良くしていく活動にしたいものです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	黒沢資源保全組合	代表	高階 幸男
協定面積	田 151.8ha 畑 6.9ha 計 158.7ha	対象面積	田 147.8ha 畑 ha 計 147.8ha		
管理施設	開水路 32.1 km ため池 8ヶ所	農道	37.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 110人 農業団体 団体	非農業者個人	14人	非農業団体	9団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全組合は、町最北の山村集落で眼下に仙北平野の美田が眺望でき自然環境に恵まれた美しい農材集落です。

農材集落の景観維持と自然環境の保全を目標として活動してきました。

当初は構成員のまとまりもいまいちでしたが、春の水路清掃や景観形成活動は構成員のほとんどが参加する集落一大恒例事業となりました。

厳しい農業情勢により農地の放棄地が増加している現状においてこの活動により保全されています。5年前とは自然環境においても見違えるほど整備されたと思います。

又、農業施設の保管理の他、農用地、農道の草刈など、農業者も非農業者も参加し実施してきた事が、今までは自分達で出来ることは自分達で頑張るという認識を構成員全体が思うようになってきたことはこの事業に取組み大変良かったと感謝しております。

美しい農材風景を保全し、子や孫の代まで受継がれていければと望みます。



地域の協力できれいな花壇を作り上げました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	大坂資源保全組合	代表	高橋 孝人
協定面積	田 105.6ha 畑 22.1ha 計 127.7ha	対象面積	田 86.6ha 畑 ha 計 86.6ha		
管理施設	開水路 33.0 km ため池 28ヶ所	農道	29.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 57人 農業団体 団体	非農業者個人	19人	非農業団体	9団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年4月より本格的に始まった事業ですが、組織立ち上げは前年度の、秋口より始まりしました。人員の選定や事業内容、想定される予算の振り分け等々、実際の活動に支障をきたす事無く段取りを組む作業は、未経験のため難儀しました。

私達の暮らす地域は、山間地であり水田等も未整理地が多いなど日々平坦地と比較し、難儀な作業を強いられている地域です。そんな中にあっても地域のまとまりは他と比較し、濃いように思われます。しかし生活様式の多様化等により若干ながら薄れてきているようにも思われました。5年間の活動により少しずつ復活しつつあると思います。

今後は組合員が更に参加しやすいように努力し地域を盛り上げ、環境を守り後世に伝えて生きたいと思います。



地域みんなで花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	善知鳥部落環境保全組合	代表	煙山 健
協定面積	田 90.2ha 畑 2.7ha 計 92.9ha	対象面積	田 77.2ha 畑 ha 計 77.2ha		
管理施設	開水路 24.9 km	ため池 2ヶ所	農道 20.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 60人	農業団体 団体	非農業者個人 9人	非農業団体 8団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地域は、山間部に位置し自然の豊かな地域です。農用地や、水路は昔とあまり変わりません。しかし近年は、農業者も高齢化が進み後継者もない現状で施設の管理に頭を悩ませていました。 そんな中での今回の5年間の活動は、地域住民の繋がり場にもなり大変良かったと思います。出来ないことが皆でやれば出来るということも良かったと思います。 また、景観形成活動は、構成員の8割近くが参加し花の植栽や除草作業など行い地域がとても綺麗になりました。 今後も活動する中で住民の繋がりを大切に活動を行いたいと思います。					
					
地域 みんなが協力して花の植栽を行う					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	第一曉集落資源保全活動組合	代表	藤嶋 政春
協定面積	田 42.3ha 畑 1.0ha 計 43.3ha	対象面積	田 39.6ha 畑 ha 計 39.6ha		
管理施設	開水路 16.1 km	ため池 ヶ所	農道 6.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 31人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 周辺組織の中で最も対象面積が少ない地域です。基盤整備の計画もなく、田沢疎水開通で整備された田圃です。行政の庁舎の近くにあり、田園風景があるだけで、林も、地域を流れる湧水もなく、戦後に移り住んだ新しい集落です。 地域間の絆を再確認しながら、戸惑いながらも活動を行ってきました。 農業以外の方々も活動には積極的に参加していただきました。5年間での活動の中で、お互いの気持ちが活動前とは違った雰囲気です話が出来ようになりました。声掛け運動も（あいさつ等）素直にかかわることができるようになり、地域の雰囲気も、農業者と非農業者との違和感もありません。 草刈りや泥上げ、地域のクリーンナップ事業で、集落の日常管理が行われております。 農道の砂利敷き等補修作業は特に頑張りました。また、地域内の用水路の目地詰め作業もみんなで頑張りました。 5年間の活動を反省してみると、やってみて良かったとの言葉が多く聞かれます。これからも地域は自分たちの力で守ろうという精神を持ちながら【絆】を深めてゆきます。地域の住民がそろって活動した植栽活動					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	第二畹資源保全組合	代表	高橋 隆二
協定面積	田 115.0ha 畑 2.1ha 計 117.1ha	対象面積	田 115.0ha 畑 ha 計 115.0ha		
管理施設	開水路 24.5 km ため池 ヶ所	農道	16.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 52人 農業団体 団体	非農業者個人	12人	非農業団体	7団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の組織では高齢化で荒れ始めた地域の景観を改善すること、多くの子供達が活動に参加することを目標にしました。フラワーパークでは毎年きれいな花を咲かせ、人々の心を和ませました。荒地の草刈り、清掃作業では環境整備に多くの人の協力が必要なことを痛感しました。 高齢化してゆく集落にとって子供達は宝です。子供達が田植、稲刈り、イモの植え付け、収穫などを体験することで農業の大切さと収穫の喜びを知ってもらうことができました。 5年間の活動を、地域の自然と、人々のつながりをどうやって守っていくかを考えるきっかけとすることができました。					
					
				9月に子供達が春に自分で植え付けたサトイモ、サツマイモを大人と一緒に収穫しました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	畑屋集落資源保全活動組合	代表	本間 光男
協定面積	田 167.1ha 畑 2.5ha 計 169.6ha	対象面積	田 166.6ha 畑 ha 計 166.6ha		
管理施設	開水路 38.4 km ため池 ヶ所	農道	25.7 km、	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 121人 農業団体 団体	非農業者個人	65人	非農業団体	18団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちはこの活動に参加する当初は何もわからず戸惑いだけが先に立ち、よちよち歩きの組織だったように思います。農道の清掃、プランターに花の苗を植える景観形成の作業には構成員全員が参加し共同作業するこうした光景は今までなかったように思います。夏休み、子供達と湧水で生き物調査を実施しました。小学生の子供達とあまり触れ合いのない私達役員にとっては貴重な体験だったと思います。貴重な湧水はここ数年手つかずの状態では荒廃していましたが、この事業で取り組んだ事により今ではきれいな湧水になっています。こうした活動を振り返って見ますと少しは地域のまとまりが見えて来たような気がします。農業施設の保管理砂利引き、草刈、排水路浚渫、雑草対策等、色々な活動をして来ました。そうした活動に対して良かったと言う声が聞こえてくるようになりました。序々にではありますがこの活動が地域に浸透してきてるように思います。					
					
				湧水の生き物調査 イバラトミヨの生息地	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	羽貫谷地環境保全グループ	代表	渡辺 千加士
協定面積	田 82.9ha 畑 0.5ha 計 85.6ha	対象面積	田 82.9ha 畑 ha 計 82.9ha		
管理施設	開水路 23.2 km ため池 ヶ所	農道	13.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 55人 農業団体 団体	非農業者個人	5人	非農業団体	8団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 本対策事業では当地区では年度途中で区画整理が始まり、なかなか計画実行が難しい地区だったと思います。初年度から3年目までは全地域で活動を出来たのが、その後は約半分となり、活動・資金の面でがらりと計画を転換しなければいけないのが大変だったと思います。しかしながら、共同活動だけでなく先進的営農活動にも取り組み地域としてのまとまりが強固になったと感じられます。農業施設の管理等も自分の関わりのある所だけで無く、地域全体を見渡すような流れになってきたように思います。今後もこの地域のつながりを保ちつつ、様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。					
					
地域にフラワーロードを作成しました					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	塚集落環境保全会	代表	加畠 徹
協定面積	田 74.29ha 畑 ha 計 74.29ha	対象面積	田 74.29ha 畑 ha 計 74.29ha		
管理施設	開水路 27.2 km ため池 ヶ所	農道	12.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 199人 農業団体 団体	非農業者個人	80人	非農業団体	7団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地域は、住宅地に隣接している水田が多いうえ、10a区画のほ場整備から半世紀以上もたったため、素掘排水路は老朽化が進み、埋塞している箇所があちこちに出現していました。また、農業者は高齢化し、減反と相まって草刈等の手入れのされていない放置された水田が目立ち、農村環境は低下し、稲作にも苦慮している現状でした。 活動は、主に排水路機能の復元を重点として実施しました。難題も数多くありましたが予定していた計画はすべて達成することができ、農業者、地域の方々から、大変喜ばれ感謝されています。 景観形成活動では、地域住民が総出で参加した春と夏のクリーンアップや花の植え付けと管理をしたことにより、この活動に関心が高まり、積極的な参加者が増えて、今まで以上に地域の連帯が深まったようです。 地域の方々には、5年間の活動を通じて農地・水・農業そして自然を守る事の大切さと必要性を改めて感じて頂けたと思います。					
					
用排水路の泥上げ作業					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	安城寺環境資源保全会	代表	鈴木 直勝
協定面積	田 140.2ha 畑 2.5ha 計 142.7ha	対象面積	田 133.7ha 畑 ha 計 133.7ha		
管理施設	開水路 40 km ため池 ヶ所 農道 21.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 117人 農業団体 団体	非農業者個人 17人 非農業団体 10団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち安城寺環境資源保全会が活動する地域では、圃場整備事業が完了してから40年近くが経過し、用排水路施設の老朽化が著しく維持管理の経費増大が課題となっていました。 農地・水・環境保全向上活動では、用水路の目地補修や破損が著しい用排水路の部分的な交換やゲートの塗装、グリスアップなどの向上活動を活用し、施設の長寿命化とともに維持管理費の節減に役立ちました。また、施設の機能診断や点検活動を行うことにより、改めて農業用水利施設の多面的機能があることを認識することができました。 当地域では、この事業を通じて、地域全体の農地や農業用水利施設の将来について危機感を抱き、農地や施設など地域の環境を次世代にどう守り次いでいくかを住民みんなが考えさせられたとてもよい機会になったのではないかと思います。					
					
				地域の農業施設の長寿命化を目指して	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	中野集落資源保全活動組合	代表	藤井 金光
協定面積	田 88.6ha 畑 1.7ha 計 90.3ha	対象面積	田 83.7ha 畑 ha 計 83.7ha		
管理施設	開水路 25.2 km ため池 ヶ所 農道 17.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 79人 農業団体 団体	非農業者個人 10人 非農業団体 10団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) この地域は農業施設の老朽化がかなり目立つ地域で、この事業ではかなり有効に活用できたと思います。区画整理後かなりの経年経過がみられ、細かな補修が多々有り、個人ではなかなか対応が出来ていない状況でした。基本的な基礎活動は今までと同様にある程度はボランティアの所は残しつつ活動が出来たのではと思います。 目地や破損箇所の補修は有効に活用する為、年度毎に計画し少しずつではありましたがかなり改善されたと思います。参加してくれる地域の住民たちが協力し合い、自分たちの施設は自分たちで管理していく意識が生まれて来た為、スムーズに運営できたのだと思います。子供たちには地域の農村風景を写真にとり、コンテストを開催し地域の自然を再確認して貰うことが出来たと思います。					
					
				農道に砂利を補充する	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	湯竹資源保全組合	代表	高橋 辰美
協定面積	田 44.6ha 畑 2.4ha 計 47.0ha	対象面積	田 42.4ha 畑 ha 計 42.4ha		
管理施設	開水路 16.2 km	ため池 2ヶ所	農道 9.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 33人	農業団体 団体	非農業者個人 8人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の資源保全組合は、地域の美しい自然・豊かな生活環境を農業の環境整備を行いながら、地域住民みんなで守ってゆくことを目標に活動してきました。今までも缶拾いなど各組織での活動はありましたが、農地・水環境保全向上対策事業に取り組むことになり、春からのクリーンアップ・花の植栽・泥上げ・草刈・砂利敷き・農業施設の補修等、一連の活動を構成員みんなの参加、協力のもと実施することができ、これまでも比較的まとまりのよい集落と言われておりましたが、5年間の共同活動を通して地域の環境は自分達の力で守っていこう、改善していこうという機運が生まれ、よりまとまりのある集落になったように感じられます。又、仙北平野の上流に位置する私達の集落においては水はみんなのものの下流にはきれいな水を流す責務があるとの観点から水質保全意識の向上を目指して活動してきました。農業用水の定期的な水質検査、子供達を対象にした学習会を行い水に対する関心を高めることができました。特に学習会においては保護者同伴で水源を訪れダム等の施設を見学し多方面からの水によって地域が支えられていることを学びました。今は農業に携わっている保護者は少なく地域を知る良い機会であり有意義な5年間の学習会であったと思っています。これからも5年間の活動で得た共同の力こそがまとまりこそが地域の環境を守る大きな力であることを胸に頑張ってゆきたいものです。



地元の水はどうなっているか検査をしてみましょう

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	大畑環境保全組合	代表	高橋 順一
協定面積	田 59.9ha 畑 ha 計 59.9ha	対象面積	田 59.9ha 畑 ha 計 59.9ha		
管理施設	開水路 14.2 km	ため池 ヶ所	農道 11.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 61人	農業団体 3団体	非農業者個人 24人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち環境保全組合では、取組み当初は自分の農地に隣接した道水路は個人が管理するという従来の考え方から抜けきれない構成員も多かったのですが、活動回数を重ねるうちに自らが草刈作業や泥上げ作業・施設の補修などを提案する人が出てくる等、地域に変化が見られるようになりました。

また、私たちの地域には、源氏蛭が生息しておりその蛭を保護しようという機運が高まり地域のみんなと蛭の生息条件などを勉強するようになりました。それにより、綺麗な水と適宜の植物が必要なことに気付き水質保護の活動が活発化するようになりました。

子供たちはカワニナの調査をしたり、婦人会は家庭廃油を利用したろうそくを作り蛭観察会に使用したりと、地域住民の農地や水の関わりと住民との交流が活発になってきたことはとても良かったと思います。

最終年度の23年度は圃場整備事業の工事が始まり、活動地域は半減したものの、活動意識は半減することなく例年どおりの活動ができたことは、今後に大いに期待ができていると思っています。



家庭用の廃油を使ったろうそく作りの講習会を行い、台所からの油の垂れ流し禁止をアピール。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	大柳環境保全組合	代表	富樫 久則
協定面積	田 73.7ha 畑 2.8ha 計 76.5ha	対象面積	田 70.8ha 畑 ha 計 70.8ha		
管理施設	開水路 20.4 km ため池 ヶ所	農道 12.5 km	パイプライン km		
構成員	農業者 36人 農業団体 団体	非農業者個人 16人	非農業団体 10団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

手探りで始めた活動も5年が経ち、一段落がついたと思っています。始まった当初は具体的に何が出来るのかといった思いの集落もいろいろと知恵を出し合い活動を行ってきたと思います。自分の所有の農地だけに目を向けていたのが、5年も活動を行っていると主立ったメンバーは集落全体を見渡せるようになっていました。遊休農地になりそうな所は早めに保全管理を行い、施設の破損がみられると補修を計画し行おうといった自分たちで計画して活動がスムーズに出来る組織ができあがったと思います。農村環境も景観形成・水質保全といった活動を通じて地域の意識が高まるような活動が出来たと思っています。



排水路の泥上げ作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	善元寺環境グループ	代表	高橋 博
協定面積	田 70.6ha 畑 2.3ha 計 72.9ha	対象面積	田 65.7ha 畑 ha 計 65.7ha		
管理施設	開水路 21.1 km ため池 ヶ所	農道 13.0 km	パイプライン km		
構成員	農業者 71人 農業団体 団体	非農業者個人 10人	非農業団体 9団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の環境グループは部落内を二分する川が流れています。川の東側が山沿いで一方が平地となっています。

春からの用水路泥上げ、草刈り、雑木払い等の作業があります。高低差がある用水路の年数回の法面の草刈り、降雪前の用水路の雑木払い、見回り等をしてきました。又、水田と道路の段差が大きくガードレールの接地が数ヶ所あるので草刈作業も大変危険だったのでこの5年間で防草シートを張りました。雑草もなくなり景観を保つ事が出来ています。又地域住民の老若男女の総参加により花の植栽等も実施しており、これらの事業によりまとまりがより一層強くなったと実感しております。

さらにこの事業は来年度も継続していくので創意工夫をして大切な地域を守っていききたいと思います。



班ごとに競って素晴らしい花で農村に彩りを加えました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	外川原水と緑の会	代表	高橋 正治
協定面積	田 101.9ha 畑 41.5ha 計 143.4ha	対象面積	田 92.6ha 畑 ha 計 92.6ha		
管理施設	開水路 32.9 km	ため池 1ヶ所	農道 25.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 67人	農業団体 団体	非農業者個人 13人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち外川原水と緑の会では、食糧生産に不可欠な水が生活用水を始め、多面的役割を果たしていることに注目し、世代を超えて「このきれいな水を守ろう」を大きなテーマとして活動を展開してきました。次代を担う子供達と水質モニタリングや、水の中の生き物調査。ホタルの生息調査などを実施し、将来にわたりこの環境を守り続けようとする心を育むことができたことも成果の一つです。

地域が一丸となって取り組んで来た5年間の活動は班ごとの活動が多かったものの、それぞれのコミュニケーションの良い機会となりました。また、老人クラブ・親子会・JA女性部・昔を語る会においても活動の活性化につながったようです。そして地域の結びつきが強くなりました。

この5年間で培った地域の力を大切に、みんなで外川原を大切に作る気持ちを持って、盛り上げていきたいと思えます。



水の生き物調査で水がきれいかを調べてみる

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	金沢西根地区地域協議会	代表	因幡 文夫
協定面積	田 892.8ha 畑 ha 計 892.8ha	対象面積	田 892.8ha 畑 ha 計 892.8ha		
管理施設	開水路 228.6 km	ため池 ヶ所	農道 90 km	ハ°イ°ライン	0.5 km
構成員	農業者 561人	農業団体 2団体	非農業者個人 225人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、大区画化の圃場整備事業が終了したばかりで本事業に取り組む必要があるのか疑問があったが、近隣地域の多くが加入することとなり何となく取り組みをしなければ地域の方々には済まないとの軽い思いの中から事業を始めることとなった。

幸いなことに圃場整備施行時に構成されていた集落推進員をリーダーとして、900ha全域の農家は勿論、非農家を巻き込んだ活動に展開する取り組みが行われた。

約10年間の整備事業時の繋がりから本活動への取り組みやすさがあり、地域の環境保全活動への理解度も増した。本地域では非農家とはいえ殆どの方が元農業者であり、行う活動への取り組みに協力が比較的得やすかった。

地元小学校がありながら成人となるにつれ子ども達とふれ合う機会もなくなっていたが、永く地域の環境を保つ活動を行うためには意識の情操を深めるために子供達と繋がりを持つ必要があったことから、学校を対象とした活動を展開するにあたり、学校側からもタイミング良く授業に引き込みいただき理解度を深めるきっかけを創ることが出来た。

当該地域は農道も整備された関係から、一般交通量も多く、整備基準以上の交通もあり、基礎活動における敷き砂利作業が地域では一番に期待された中身となっている。また集落内における景観形成の活動から、小さな花壇が整備されるようになっており、管理を個人が行うことではなく地域活動として構成員全員が行うという意識の改善が持たされたことは大きな成果と思ってる。圃場整備事業によって地域の担い手に農作業が集中することが課題となっていたことについても、やりきれない管理作業を地域が手助けする環境の構築にも役立っている。都市部とは違い非農家の参加が多いのは郡部の良いところであって、この5年間で地域をみんなで守る意識の情操が徐々に出来たことに本事業の大きな意義が感じられた。今後永らくこの意識が継続されるよう努力したい。



金沢西根地区の小学生児童による花の植栽活動です。地域住民の方々と一緒に作業をしました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	山本地域水資源保全組合	代表	照井 忠夫
協定面積	田 38.9ha 畑 ha 計 38.9ha	対象面積	田 38.9ha 畑 ha 計 38.9ha		
管理施設	開水路 6.2 km ため池 2ヶ所	農道 3.4 km	パイプライン km		
構成員	農業者 42人 農業団体 団体	非農業者個人 17人	非農業団体 2団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織では、この田園風景、そして農業に欠かすことのできない水を、地域みんなで守っていくことを目標に活動を行ってきました。

地域内には、古戦場でもある西沼を含む農業用ため池が2か所あり、対象農地の唯一の水源となっています。水源の水には生活排水の流入、外来魚の増加といった問題があり、これらを解決するための活動も展開してきました。また、この地域は温泉、スキー場、キャンプ場に隣接し、農地、農道へ投棄されたゴミの清掃にも取り組みました。

従前はこれらの活動は農業者のみが実施していましたが、事業を通じて農業者と非農業者、また老人クラブ、児童会といった地域の全員で問題を共有し、課題解決に向けた協同作業の大切さが再認識されたものと思います。



農業者、非農業者、児童会、老人クラブによる花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	橋本集落環境グループ	代表	小田島 誠
協定面積	田 40.3ha 畑 ha 計 40.3ha	対象面積	田 40.3ha 畑 ha 計 40.3ha		
管理施設	開水路 5.3 km ため池 ヶ所	農道 5.2 km	パイプライン km		
構成員	農業者 29人 農業団体 1団体	非農業者個人 4人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達、橋本集落環境グループの活動目的は、農地、農業用水等の資源や農業環境の良好な保全と資質向上を図ることが大きな目標でありました。当初は地域の皆さんの理解と活動内容に多少戸惑いがありましたが、計画しながら徐々に活動していくと、「地域のまとまり」「話っこしながら出来た作業」「環境に対する意識改革」といった、つながりを大切にした地域共同作業の楽しさを、再確認出来たように感じます。作業内容も、老若が出来る範囲での分担を行いながら協力しました。中でも種から育てた花の移植までの管理の楽しさと、綺麗に咲いた地域自慢の花の観賞は「景観形成活動」そのものだと思いました。

この様な活動を通して、「農地・水・環境」は地域の貴重な財産であり、自分達で出来る資源保全管理を協力しながら行い、将来を担う子供達へ受け継いでもらうことを目標に今後も頑張っていきたいと思っています。



転作田10aに環境を配慮した花の栽培を行う。また幹線道路沿いにも花の移植を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	鶴水集落資源保全活動組合	代表	鶴谷 正一
協定面積	田 50.2ha 畑 ha 計 50.2ha	対象面積	田 48.2ha 畑 ha 計 48.2ha		
管理施設	開水路 9 km	ため池 ヶ所	農道 6 km	ハ゜イ゜ライン	km
構成員	農業者 33人	農業団体 1団体	非農業者個人 18人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組合は、集落42戸を中心とし、緑あふれる美田と環境を守り、それを次世代の子や孫に引き継ぐことを第一の目的に掲げ取り組んできました。

前から、伝統行事など集落単位で活動はしていましたが、いつも決まった人達の参加で、だんだん尻すぼりの傾向になり、婦人や老人の参加がなくマンネリ化してきておりました。こんな状態で始めた本事業、はたして参加協力してくれるのか不安でスタートをきりました。

しかし、“集落内のクリーアップ”、“除草剤使用取り止めと、草刈りの省力化のためのカバープランツ植栽”、“景観形成と、人の心に安らぎを与える、花畑とプランターへの花植栽”と活動を重ねるにつれ、老若男女、農家、非農家に関係なく多くの人達の協力を得ることができた。

特に外にでる機会の少なかった女性のパワーには敬服した今では、集落の社交場の感じさえあり、その活動を楽しみにしている人達がいる。

結果的に、安全・安心の食のために農地や環境を守り、その他に集落内の「絆」をよりいっそう深めてくれた。

この「絆」の火を消さないためにも、集落全体で取り組みを考え行動したいと思います。 がんばるべえ鶴水



活動をとおして、集落の「絆」を深め、心に安らぎを与えてくれて、みごとに咲く花たちです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	天神堂集落資源保全活動組織	代表	佐藤 功
協定面積	田 100.6ha 畑 ha 計 100.6ha	対象面積	田 100.6ha 畑 ha 計 100.6ha		
管理施設	開水路 36.1 km	ため池 ヶ所	農道 8.3 km	ハ゜イ゜ライン	km
構成員	農業者 93人	農業団体 3団体	非農業者個人 23人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は、平成19年度4月1日に3集落が合併し、新たに天神堂集落としてスタートした地域です。この地域には、水量が豊富で古くから農業用水としても利用されている清水川と呼ばれている湧水地帯があり、イバトミヨ、ヨコエビ、サンショウウオが生息、クレソンなども自生する貴重な自然が身近に存在し、以前より土地改良管理組合や集落会、子供会などで清掃活動を実施し清水を守ってきました。こうしたなか、平成19年度より始まった農地・水・環境保全向上対策事業に取り組めたのも、身近に清水川があったからであり、本事業実施により更にきめ細やかに清水川の環境保全活動を実施することができました。

また、農業施設の草刈りや景観形成や長年の懸案事項でありました、荒れ地の清掃を実施することができ、本事業に取り組んだ成果を実感しているところです。

しかし、最も大きな成果は本事業の活動を通し、3集落が合併した地域の交流が進んだことです。

少子高齢化の流れの中で、当集落も高齢者世帯、一人暮らし世帯が増加していますが、今後とも清水川清掃後の運動会、グランドゴルフ大会の実施など、集落会、老人クラブ、子供会が一緒になって交流を深めて行きたいと考えています



清水川は上流部左右2箇所の湧水池と、下流250mにわたり湧き出る、数カ所の湧水で形成され、豊富な水量は農業用水などにも利用されている。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	扇田集落資源保全活動組織	代表	庄司 宰
協定面積	田 53.5ha 畑 ha 計 53.5ha	対象面積	田 53.5ha 畑 ha 計 53.5ha		
管理施設	開水路 9.8 km ため池 ヶ所	農道	3.3 km、	ハ イ プ ラ イ	km
構成員	農業者 24人 農業団体 3団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち活動組織は、略称を「豊穰会」として緑豊かな田園風景や環境の文化を現在から次の世代につなげようとして活動を行ってきました。もとより農業は大地を活用し「物」を生産することのみならず、環境及び地表面等景観にも重要な責務を担っています。集落の老・壮・青の組織を一体化し男女を問わず集落農業の維持、発展のため用排水路の泥上げや全戸一斉の農道法面の草刈り、農道の砂利敷き等労働力を伴う作業も整然と行いました。当初、景観形成にはソバや菜種を播いて、その花に「美」を求めましたが、発芽不良や雑草害により成果をあげることはできませんでした。そこで3年目から水田アートに着目し県農業試験場の協力を得て着色品種を植え付け「天・地・人」「I LOVE 米」「心・技・体」と3年間デザインを変えながら挑戦し、道路に設置したプランターとともに集落の人々のみならず、通る人の気持ちを和やかにしました。さらにはこの稲を活用して「フラワーアレンジメント」に挑戦し各人個性ある綺麗なものに仕上げました。また、稲わらを活用した、昔のドンド焼（通称かまくら）も復活しました。私達のような小さな集落でも地域のまとまりが希薄になりつつある今5年間の活動で連携と絆が強まったように感じます。



地域住民が連携し協力しあって挑戦した水田アート「I LOVE 米」

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	谷地中・川原保集落エコクラブ活動組合	代表	佐藤 静雄
協定面積	田 61ha 畑 ha 計 61ha	対象面積	田 61ha 畑 ha 計 61ha		
管理施設	開水路 11 km ため池 ヶ所	農道	1.6 km	ハ イ プ ラ イ	km
構成員	農業者 35人 農業団体 3団体	非農業者個人	5人	非農業団体	7団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する範囲は、県営圃場事業が実施されてから30年以上経過し、水路・農道等農業施設の老朽化が著しく集落の課題となっておりました。

この5年間の活動により農道の整備、緊急を要する用排水路の補修をする等集落の農業施設の保管理に努めてきました。併せて、非農家の協力を得ながら草刈りや、水路の泥上げ等集落の皆で管理していくことができました。

私たちの組織は、二つの集落で組織されており当初は集落のまとまりが薄れてきている中で取り組みに心配もありましたが、花の種蒔きから仮植・定植・植最後の管理・後かた付け等の作業に集落内の老若男女の総参加による共同作業の結果、集落内の交流の場となり親睦が一層深まるとともに環境美化が進み大変喜ばれました。

この間の活動の結果、放置されてきた草刈地がなくなる等これからも「自分たちで出来ることは自分たちでがんばろう」精神で集落の自然環境・農業施設を守っていききたいと思います。



10月下旬の晴れた日、花定植地のあとかた付けを老若男女で一緒に作業しました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	中前郷集落組合	代表	後藤 弘
協定面積	田 51.8ha 畑 ha 計 51.8ha	対象面積	田 51.8ha 畑 ha 計 51.8ha		
管理施設	開水路 14.6 km	ため池 ヶ所	農道 3 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 48人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織では、この田園風景、そして農業にかかすことのできない水を、地域みんなで守っていくことを目標に活動を行ってきました。

初めは、事業で取り組む内容を理解するに戸惑いもありましたが、草刈りや水路の清掃、プランターの花の植栽など、農家だけではなく、非農家も交えて活動することができました。

これまでは地域の繋がりが少なくなる傾向にありましたが、この事業のおかげで、地域のみなが集まる機会が増えたことで、昔のような地域の絆が生まれたように思います。

これからも、このすばらしい自然環境を守り、これまでの活動で培った精神でこの地域を盛り上げて行きたいと思っています。



プランターでの花の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	石神活動組合	代表	淡路 吉亮
協定面積	田 97.7ha 畑0ha 計 97.7ha	対象面積	田 97.7ha 畑 ha 計 97.7ha		
管理施設	開水路 8.5 km	ため池 4 ヶ所	農道 5.4 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 94人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組合では、みどり豊かな水田風景、地域の環境美化、河川改修前のほたるの乱舞する姿を目標に活動を行ってきました。取組み当初は、活動組合の方向性を示しながら進みましたが、農業者・地域住民も大きな戸惑を感じながらも構成団体役員等からの大きな助言をいただきながら地区内の春のクリーンアップ（用排水路の堆積物の除去・地区内の生活排水に応じた環境保全、花いっぱいの景観形成植栽等）作戦が構成員すべてが参加する地区内の一大イベントになりました。活動組合の目標でもあった豊かな田園風景（耕作放棄地なし）、環境美化等は達せられたものの、ほたるの乱舞については、中々昔のような生息環境からほど遠く夢見るような風景まではいかなかった。（石神青年団中心に河川土手等草刈等実施）

唯一の子供会は少人数であるが、ほたるの復活を目指した看板等作成していただき、地区内の環境保全活動に大いに役に立った。私たちの小さな集落

（6集落・旧土地改良区）単位の地域のまとまりが薄れてきていましたが、5年間の活動で地域の活性化が復活しつつあるように感じています。

当地区は農業者がほとんどであり、農業に対する農業施設の管理等については土地改良区主体であったが石神活動組合のなかで“管理維持長持ち”“自分たちで出来ることは自分たちで頑張ろう”を合い言葉に機運が生まれました。

農業施設の保全管理のほかにも、ため池等の草刈や、水路等の泥上げ、花の管理による景観形成など日常管理を地域みんなで行ことにより地域の集落営農組織・織担い手等から、非常に感謝されています。

これからも“自分たちで出来ることは自分達で頑張ろう”の精神で地域全体で持続性のある活動を目指して大いに盛り上げたいと思っています。



地域の自然を大切にしながら、活動組合構成員全体で豊かな環境を維持しながら草刈や清掃活動を行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	明田地保全活動組織	代表	橘 伸一
協定面積	田 44.2ha 畑 ha 計 44.2ha	対象面積	田 44.2ha 畑 ha 計 44.2ha		
管理施設	開水路 11 km ため池 ヶ所	農道	5.4 km	ハ イ° ライ°	km
構成員	農業者 24人 農業団体 1団体	非農業者個人	4人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織では、奥羽山脈のふもとに広がる清らかな水に恵まれた田園風景、開拓地として入植し、多大な苦勞のもと築き上げた水田を次の世代へ受け継いで行くことを目標として活動を行ってきました。取組当初は、戸惑いもありましたが春と秋のクリーンアップや景観形成活動は構成員のほとんどが参加する集落の一大イベントになりました。また、構成員やその子供たちから活動に対する標語を募集、看板にし設置するなど地域環境についてあらためて意識することにより、この活動の持つ意味を共有できたと思います。

旧行政区の関係上、2つに分かれていた区域の構成員が一堂に会して活動をすることは、昨今、地域のまとまりが薄れていた中、新たなコミュニケーションが生まれた活動となりました。

今後、農業者の高齢化、後継者等抱える問題を地域の皆と気軽に話し合い、労働力の確保や協力体制、水田を中心とする環境の維持保全する基礎ができたと感じています。



6月の晴れた日、約450mの間をサルビア、ケイトウの苗を赤、黄色の花で交互に植え付けする。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	横手市	住 所	秋田県横手市旭川一丁目3番41号	電 話	0182-32-2114
担当部署	産業経済部 農林整備課		担当者	農村整備担当 主査 竹内勉	
(5年間の感想等記入)					
当初、94組織で出発した活動組織は、途中一部統合があり92組織となりましたが、すべての組織が地域の自然や環境を守り、農業用施設補修や環境保全に積極的に取り組んだことは、農業を基幹産業とする横手市にとっても、たいへん意義のある活動であったと思います。また、この活動を契機に地域住民の交流が増え、地域の活性化につながったという声もかなりの組織から聞かれます。しかしながら、結果として地域にとってマイナスの部分が噴出したことも否めません。それは、今まで地域の中で無償で当たり前の作業として行っていた堰普請や草刈りなどに日当を支給したことで、活動していない地域との間に金銭的、精神的格差が生じたことです。次期対策ではこれらを踏まえて、交付金無しでも各組織ができるだけ自立していけるよう行政が指導していくことになると思いますが、今後5年間ではうまくシフトしていかない組織もあるかと思われますので、次期対策終了後しばらくはこの事業に代わる何らかの対策が必要になると思います。今までの各組織の実績をかんがみても、それだけの価値はあるのではないのでしょうか。いずれこれから後継者を含め、活動できる構成員が減少していくことは体制整備構想で推定した集落構成ではっきりしており、できるだけ広域的な範囲での共同活動が重要になってくるものと思われます。そういう面からも集落営農組織、認定農業者、そして若い後継者を育成していく必要があります。当事業を実施してよかったと前向きに捉え、営農を含めた農村環境の保全、地域活性化のための活動が停滞しないよう強く望むものです。					

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

横手市	耕地面積	田	15,700 ha	畑	2,310 ha	合計	18,000 ha
平成19年度	協定面積	田	9,309.44 ha	畑	147.77 ha	合計	9,457.21 ha
平成20年度	協定面積	田	9,305.69 ha	畑	147.81 ha	合計	9,453.50 ha
平成21年度	協定面積	田	9,278.75 ha	畑	149.66 ha	合計	9,428.41 ha
平成22年度	協定面積	田	9,223.18 ha	畑	150.20 ha	合計	9,373.38 ha
平成23年度	協定面積	田	9,258.79 ha	畑	158.24 ha	合計	9,417.03 ha
(支援交付金実績)				〔支援交付金全体〕			
平成19年度	対象面積	計	8,860.49 ha	388,810,040円			
平成20年度	対象面積	計	8,895.47 ha	390,349,160円			
平成21年度	対象面積	計	8,928.04 ha	391,753,120円			
平成22年度	対象面積	計	8,915.43 ha	391,198,280円			
平成23年度	対象面積	計	8,919.21 ha	390,608,856円			
合計				1,952,719,456円			
活動組織名称		横手市		組織が多い場合次頁に			
番 号	活動組織名称		番 号	活動組織名称			
0518	横手南部地区資源保全隊（合併で横手地区）		0526	杉沢地区資源保全隊			
0519	横手北部地区資源保全隊（合併で横手地区）		0527	金沢地区資源保全隊			
0520	旭地区資源保全隊		0528	福嶋北原地域資源保全集団			
0521	栄地区資源保全隊		0529	八木地域資源保全集団			
0522	境町南部地区資源保全隊（合併で境町地区）		0530	亀田地域資源保全会			
0523	境町北部地区資源保全隊（合併で境町地区）		0531	鍋ヶ沢地域資源保全集団			
0524	黒川地区資源保全隊		0532	成瀬・皆瀬資源保全会			
0525	百万刈地区資源保全隊		0533	浅舞東部地域資源保全活動組織			

活動組織名 横手市

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0534	甚平地域資源保全活動組織	0574	桑ノ木地域環境保全組合
0535	道川地域環境・資源保全活動組織	0575	沼田環境保全組合
0536	林崎地域資源保全活動組織	0576	金谷地域保全環境向上活動組織
0537	新平川・五味川地域資源保全活動組織	0577	下村地域環境保全推進集団
0538	高野地域資源保全活動組織	0578	上村環境保全会
0539	中野地域資源保全活動組織	0579	神成環境推進隊
0540	蛭野地域資源保全活動組織	0580	末野地区環境保全組合
0541	豊前地域資源保全活動組織	0581	中房地域資源保全推進集団
0542	樽見内地域資源保全委員会	0582	大平地域資源保全推進隊
0543	下高口地域資源保全活動組織	0583	本郷地域環境保全集団
0544	深間内地域資源保全活動組織	0584	十日町環境整備組合
0545	中清水地域資源保全活動組織	0585	新古内地域資源保全推進集団
0546	清水川端地域資源保全活動組織	0586	仁井田地域資源保全推進集団
0547	白藤地域資源保全活動組織	0587	富沢集落活性化協議会
0548	天龍院沼水系環境保全協議会	0588	能平喜環境保全活動事業組合
0549	和村集落資源保全活動組織	0589	荒田目環境保全活動組合
0550	蟹沢地域資源保全活動組織	0590	植田環境保全集団
0551	高口地域資源保全活動組織	0591	越前地域資源保全推進集団
0552	石成地域資源保全活動組織	0592	二ツ橋環境保全会
0553	上醍醐地域資源保全活動組織	0593	木下・北沢地域環境保全組合
0554	下醍醐地域資源保全活動組織	0594	左馬地域資源保全推進集団
0555	沖田地域資源保全活動組織	0595	宿地域環境保全会
0556	樋ノ口地域資源保全活動組織	0596	館前地域資源保全推進集団
0557	亀田堰・荒堰地域資源保全活動組織	0597	川前環境保全活動集団
0558	明沢地域資源保全活動組織	0598	砂出福島資源保全会
0559	関合地域資源保全活動組織	0599	サン・ビレッジ別明
0560	下籠田地域資源保全活動組織	0600	根木場農村環境保全会
0561	本堂地域資源保全活動組織	0601	下村環境保全活動組合
0562	大中嶋地域資源保全活動組織	0602	中村農村環境保全会
0563	田ノ植地域資源保全活動組織	0603	土渕地域資源保全活動組織
0564	福地地区環境保全会	0604	新処地域資源保全活動組織
0565	里見地区環境保全会	0605	八柏地域資源環境向上活動組織
0566	館合地区環境保全会	0606	阿気南部地域資源保全活動組織
0567	二井山地区農地・水・環境保全向上組合	0607	阿気中央地域資源保全活動組織
0568	矢神堰集落	0608	阿気北部地域資源保全活動組織
0569	湯ノ沢環境保全会	0609	宮田地域資源保全活動組織
0570	宇津野地域環境保全組合	0610	小林地域資源保全活動組織
0571	ワークショップ下川原	0611	大雄西部地域資源保全活動組織
0572	八卦水と緑を守る会	0714	横手地区資源保全隊
0573	石塚環境保全会	0715	境町地区資源保全隊

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	旭地区資源保全隊	代表	松井 長助
協定面積	田 304.01ha 畑 ha 計 304.01ha	対象面積	田 300.01ha 畑 ha 計 300.01ha		
管理施設	開水路 85.8 km ため池 1ヶ所	農道	33.6 km	ハ°イ°ライン	4.8 km
構成員	農業者 196人 農業団体 2団体	非農業者個人	345人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
旭地区資源保全隊では、「住み良い農村」・「美しい水田風景」・「地域にある環境資源」をテーマに活動を進めて来ました。「住み良い農村」では、各集落に花壇やフラワーロード、景観形成作物の植栽等を実施し地域の景観を良くする活動の他、地域の世代間交流会を実施したことで、人と人のまとまりや交流が盛んになってきた様に感じています。「美しい水田風景」では、農業用施設の持つ色々な機能を再認識できた事、景観形成活動や耕作放棄地の減少によって地域のもつ水田風景が蘇った様に思います。「地域にある環境資源」では、旭地区には湧水地にイバラトミヨが生息している事もあり、生物調査には沢山の子供達に参加してもらいこの地域にも珍しい貴重な生物がいると云う事を知る事が出来たと思いますし、生物調査を実施している子供達の元気な姿や声を聞くとこちらまで元気をもらえるととても楽しい活動でした。 この他、施設の保全管理のため、泥上げや草刈り、敷砂利の他クリーンアップ活動等地域全体で沢山の人達が参加していただき多くの交流が出来た事が何よりも大きな収穫だったと思います。					
					
				湧水地の清掃をかねて、イバラトミヨの生息状況の把握活動を行っています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	栄地区資源保全隊	代表	和賀 重
協定面積	田 253.74ha 畑 ha 計 253.74ha	対象面積	田 199.99ha 畑 ha 計 199.99ha		
管理施設	開水路 123 km ため池 16ヶ所	農道	31.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 342人 農業団体 2団体	非農業者個人	601人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
栄地区資源保全隊の共同活動エリア内は、市内に隣接している事もあり、都市化・混住化が著しい事から、平成19年度当初は地域ぐるみの活動が果たして順調に行えるか心配な点が多々あったものの農業者は元より、各種関係団体特に地域の小学校・PTAのご理解とご協力により何とか5ヵ年を有意義な共同活動が出来たと感じます。 私達のエリアには他地区と違い、ため池が数多くあり農村環境を保つ上で非常に苦慮してきました。本事業の導入により管理の面で非常に助かったと思います。ため池以外の各施設も5ヵ年の間に補修出来た事や農業者のみならず非農業者といった地域住民の活動への参加により住み良い農村環境が保全された事は、将来の子供達へ良い状態で引き継がれようとしています。 今後共、自分達の農村地域は自分達で守ることを念頭におき地域の"つながり"を大切に、これからも共同活動を続けて行きたいと思っています。					
					
				ため池の生き物調査と水質調査を一緒に行い地域住民との交流活動を行いながら環境保全に努めています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	黒川地区資源保全隊	代表	伊藤 竹夫
協定面積	田 347.77ha 畑 ha 計 347.77ha	対象面積	田 343.70ha 畑 ha 計 343.70ha		
管理施設	開水路 88.8 km ため池 ヲ所 農道 39.9 km	ハ°イ°ライン	5.2 km		
構成員	農業者 254人 農業団体 2団体	非農業者個人	447人 非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達黒川地区では、担い手ほ場整備事業が平成10年度より施工され、平成17年度の竣工ではほ場整備の工事も終わり担い手整備事業が完成となりました。完成されたばかりの新しいほ場ではありますが、常日頃の維持管理費又は工事の償還金と、ともにかかっております。この様な中で平成19年度より発足しました農地・水・環境保全向上対策が行われ大変に助けられたところです。この厳しい農業情勢の中で私達の集落の住環境の清掃活動や、子供達での用水路等での生物調査、また河川の水質調査などではそれなりの興味をもたれたことと思われます。

又、集落・農道・用排水路などの草刈り作業、補修作業等でも毎日働く私達にとっても清掃・整備される事は働く身にしても健康のためにも良いと思われます。

今後は、H23.3.11の東日本大震災での農地の復元等で大変な時期でありますがこの先、転作作物の輪作等を真剣に考える時期にでもあり、大型ほ場とともに農機具の大型化が進み新しいほ場でも基盤が壊れ補修をしなければならない農地もあります。その様な時でも臨機応変に対応が出来ればと思います。

この5年間に養われてきた共に働き良い環境を作って気持ちよく働けるよう願う気持ちを忘れずに活動出来ればと思います。



親子会を対象に水路の生き物調査を行いました。この活動を通じ農業や環境保全に少しでも関心を持ってくれたと思います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	百万刈地区資源保全隊	代表	山田 芳明
協定面積	田 85.20ha 畑 ha 計 85.20ha	対象面積	田 84.35ha 畑 ha 計 84.35ha		
管理施設	開水路 19.5 km ため池 ヲ所 農道 5.8 km	ハ°イ°ライン	0.1 km		
構成員	農業者 76人 農業団体 2団体	非農業者個人	134人 非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

先ずもって農地・水・環境保全向上対策を導入してくださいました、関係機関及び指導して下さった水土里ネット南旭川の皆様にお礼申し上げます。

厳しい農業情勢の中で私達保全隊の地区もいづれ、数名の担い手による営農に集積される事と思います。結果、水土里ネットの施設の維持管理を少数の担い手だけでどのように対応できるか大変悩んでおりました。この事業に取り組んで地域の環境保全また、景観形成活動まで地域一体となつての取り組みに、まさに集落のあるべく姿を見た思いが致しました。

今後は、5年間で培った"絆"を大切にして地域の環境保全並びに施設の維持管理に取り組みたいです。



地域全体で、施設の維持管理・環境保全活動に取り組んでいます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	杉沢地区資源保全隊	代表	村田 忠雄
協定面積	田 219.82ha 畑 ha 計 219.82ha	対象面積	田 218.45ha 畑 ha 計 218.45ha		
管理施設	開水路 45.1 km ため池 9ヶ所	農道	30.7 km	ハ°イ°ライン	23.4 km
構成員	農業者 159人 農業団体 2団体	非農業者個人	279人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成14年より、担い手事業整備で従来の5aの水田から50a～120aとなり、このことにより農耕作業が一挙に省力化がはかれることになった。しかし、従来の経営規模での対応が困難となり漸次農機具の大型化・集約化が進んできましたが一部に従来の、経営方式への切り替えがなされないのが現状である。しかし次第に経営規模拡大また集団化されて来ておる。水利については9ヶ所の沼の利用方法に改善がなされて担い手事業の効果がみられる。

この事業では、今までにはなかった山間地の湧水堰管理が進み、清水に発生する「ほたる」が増大し、自然保護、鑑賞対策を講じ、看板等を設置しPRし、自然環境を訴えておる。又中心地には花壇(15a)を設置し、関係集落には基点とした畦畔(10a)を利活用し「しばざくら」を植栽し、集落住民で管理し市民・地域住民の憩いの地、癒しの場を提供し、好感を得ております。

ほたるの里PR看板の設置状況及び自然環境保全の交流活動に繋がっております。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	金沢地区資源保全隊	代表	照井 晴夫
協定面積	田 271.48ha 畑 ha 計 269.17ha	対象面積	田 269.17ha 畑 ha 計 269.17ha		
管理施設	開水路 65.5 km ため池 21ヶ所	農道	39.9 km	ハ°イ°ライン	11.2 km
構成員	農業者 174人 農業団体 2団体	非農業者個人	306人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境保全向上対策の活動の主軸が土地改良区管内の地区施設管理委員会となっており事業の理解と協力の存在感アピールに繋がっている。事業開始時は手探りの活動であったが他地区との交流会や講習会等により数々の成果を得る事が出来た。景観形成活動では花の植栽でランニングロードやフラワロード造り、又、絶滅危惧種であるゼニタナゴの保護活動の取り組み及びカジカ生息地域の清掃活動等、子供達に伝えていきたい自然意識の高揚に繋げる事が出来たと思います。今まで手付かずであった農道や用排水路の保全等が5年間の共同活動により良くなったことは、地域の皆さんに感謝しております。

ゼニタナゴ生息調査と、ため池の水質調査を行いながら、水の大切さと地域住民との交流活動を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	福嶋北原地域資源保全集団	代表	佐藤 新市
協定面積	田 169.84ha 畑 2.3ha 計 172.1ha	対象面積	田 169.84ha 畑 ha 計 169.84ha		
管理施設	開水路 10.7 km ため池 ヶ所	農道	17.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 228人 農業団体 団体	非農業者個人	3人	非農業団体	15団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たち福北保全集団は、成瀬側の「清流」がそのまま注がれる横手市の南東に位置している地域で活動しています。私たちの主眼は、この「清流を守る」とし水質汚濁防止と節水の観点から浅水代かきの実施を呼びかけ、現在では全域で実行されるようになりました。また、23年度には地域の子どもの対象とした水質調査と生き物調査を兼ねた「田んぼの水教室」を実施し、きれいな水を実感し、それにともなう様々な小魚そして噂のナマズなどを発見することができました。 景観形成活動では、春のクリーンアップを実施したくさんの子ども達の参加を得ました。またPTAによる「ふれあい農園」を開設したくさんの種類の花やさつまいも等を植栽していただき土と触れ合う微笑ましい親子の光景が見られました。そして、主要道法面には、ヒメイワダレソウが植栽され小さいながらも可憐に咲きほこった花を見ることができました。 5年間の事業でしたが、それぞれの活動を通して農業者以外のたくさんの方々と意見を交わしたり、交流できたことが最大の成果と思います。 これからも、この福嶋北原の農地・水・環境が永遠に守られることを切望します。					
				 年3回実施している草刈り作業。 約90人が参加者する。 (合河原取水口付近)	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	八木地域資源保全集団	代表	斉藤 伝治
協定面積	田 67.56ha 畑 5.95ha 計 73.51ha	対象面積	田 67.56ha 畑 ha 計 67.56ha		
管理施設	開水路 11 km ため池 ヶ所	農道	9.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 127人 農業団体 4団体	非農業者個人	人	非農業団体	1団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
きれいな水での米作り。魚が泳ぐ過ぎし日の情景、春夏秋冬昆虫の鳴き声とする豊かな圃場に心が休まる思いがしたものです。 作業効率の良い大きな圃場に将来の夢を託した現実も10年目を過ぎた頃から農道・水路の荒れが目立ち自分のところだけ守れば農業が出来るという共同の精神が薄れ、管地等も含め道路等の草木の生えたままの放置が続き始めました。 矢先、この事業に参加し水路を含めた施設の点検・整備・構成員一同がきれいな環境を目標に荒れた畦畔の補修・草刈等お互いが利用する道路整備と草木の除去。 また草花を植栽し美的環境づくり。老人クラブ・子ども会の協力で除草や稲刈体験。この事業は高齢構成員が心豊かさを孫子に伝える絆事業であり地域住民がお互いに心をつながる事業と思います。 長く長く事業継続を願うものです。					
					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動)

市町村名	横手市	組織名	亀田地域資源保全会	代表	沼沢 武雄
協定面積	田 73.65ha 畑 67.54ha 計 141.19ha	対象面積	田 73.65ha 畑 67.54ha 計 141.19ha		
管理施設	開水路 30.20 km ため池 ヶ所	農道	13.26 km	パイプライン	km
構成員	農業者 243人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動する組織は、雄物川上流部、増田町亀田地域で奥羽山脈からの綺麗な水での稲作栽培と平鹿りんご発祥の地であるため、水田転作への果樹栽培が盛んに行われ、農業担い手は他地域より多く、農業の盛んな所である。第二次構造改善事業より40年と、最近行われた公害特別事業との新旧施設が点在しております。古い施設、特に排水路の老朽化と、堆積物の増加により大雨により水路から溢れた水が果樹園に冠水する被害が毎年のように発生しました。この「農地・水・環境保全環境事業」により、幹線排水路の改修工事を主に水路等の泥上げ、草刈等により施設の機能回復が向上し、水害の防止となりました。

また、農道整備することにより、農産物の管理・運搬が飛躍的に向上し、地域農業の発展に努めました。

さらに、環境保全活動には、婦人会、子供会の協力により花の植栽・管理が行われ地域のふれ合いの場となった。

農業担い手が年々高齢化になり農業施設の維持管理が難しくなりそうな時に、集落ごと・地域ごとに助け合いの精神うまれ、地域全体の環境保全が保たれたと思います。

これからも、地域全体を見渡し農業が持続的に出来るよう、組織をあげて頑張りたい。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	鍋ヶ沢地域資源保全集団	代表	高橋 稔
協定面積	田 4.5ha 畑 ha 計 4.5ha	対象面積	田 4.5ha 畑 ha 計 4.5ha		
管理施設	開水路 2.2 km ため池 ヶ所	農道	0.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 10人 農業団体 団体	非農業者個人	8人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する範囲は、35年以上前に団体営ほ場整備事業により整備された区域で水路、農道などの土地改良施設の老朽化が目立つようになり、水路施設の破損等は一部の関係者による応急的な修繕をしながらの耕作を続けておりました。この先、耕作者の高齢化により破損箇所の補修等がなされないまま、耕作放棄地が増えていくのではと危惧しておりました。

また、集落内のほ場の半分以上が中山間地域であるため、中山間地域等直接支払制度の対象地として活動して、別に活動していたため、集落全体としてのまとまりが、以前に比べて薄れてきていました。

そんな中で、当該事業に取り組み、生活用水及び防火用水さらには冬期間の流雪水として利用している農業用水路が関係農業者のほか、集落全体により維持管理作業等を行うようになったこと、集落全体での春のクリーンアップ作業や集落の親子会も参加している景観形成活動のコスモスの播種や除草作業により、若い親や子供たちに少しでも、たんぼにふれあってもらえた（理解してくれたかな？）と思っています。小さな集落ですが、5年間で得た、集落のまとまりを継続し、次世代の担い手の子供たちに、今のまとまりと環境を引継いでいきたいと思います。



集落会、親子会など集落全体で、周辺地域と合わせて実施している、コスモスの除草（農村環境向上活）。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	成瀬皆瀬資源保全会	代表	内藤 宏
協定面積	田 68.9ha 畑 ha 計 68.9ha	対象面積	田 65.8ha 畑 ha 計 65.8ha		
管理施設	開水路 27.5 km	ため池 ヶ所	農道 13 km	パイプライン	km
構成員	農業者 135人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち成瀬皆瀬資源保全会では、成瀬川と皆瀬川が合流するこの、奥羽山脈の清流の恵の大切さを子供達に伝えるべく、水質モニタリングを実施してきました。

毎年鮎つりに来る釣り人で、にぎわう地域の川は、守るべきわれわれの貴重な資源です。

5年間を通じて、子供達は魚が住める川の清流を維持することの大変さ、一度なくしてしまえば二度と戻らない自然の大切さを学んだことと思います

私たち大人も、地域の開水路に生息しているホタルが東北の短い夏を彩る「ふるさと」の原風景であることを再認識した5年間でした。

世代を超え、水資源の豊かさと大切さを次世代、そして、その、孫子まで、伝えたい、と思いました

この活動を通して、その種は蒔かれ、将来大輪の花を咲かせると、感じています。

成瀬皆瀬資源保全会 代表 内藤 宏

5年間で2部落計40回の水質検査を行い、たくさんの子供達が参加しました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	浅舞東部地域資源保全活動組織	代表	長谷川 正清
協定面積	田 71.9ha 畑 ha 計 71.9ha	対象面積	田 71.9ha 畑 ha 計 71.9ha		
管理施設	開水路 27.0 km	ため池 ヶ所	農道 11.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 41人	農業団体 1団体	非農業者個人 8人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は浅舞地区の中心部に位置し、関係する集落が8つと広範囲に渡っている活動組織です。又、当活動組織では地下水が豊富で、その地下水を利用する2箇所の酒蔵と豆腐等を作る会社があり、一般家庭でも100%地下水を飲料水・生活用水として使用しております。そのため当活動組織では、この豊富な地下水を守り、次の世代へと渡すための土台作りを目標として活動を行ってきました。

活動に当たっては、集落内を流れる水路が生活用水、防火用水、冬場の消雪等に使われていることを理解した上でその上流、下流にある農業施設の保管理がいかに大切なのか啓発を行いながら、草刈りや泥上げ等の維持管理活動を5年間行ってきました。

その結果農業者、非農業者関係なく地域みんなで水の利用を考えながら、農村環境の維持保全ができるよう理解を深め、農業の大切さ、水を守る事の必要性、水は命だという事を理解していただけたと感じております。

今後も水の大切さ、特に今自分が使用している水がどのように水路を流れてきているのかを非農業者の方に理解してもらえよう啓発を行っていききたいと思います。

豪雪により水路の上に倒れた木を撤去している様子。集落へ流れ込む水路の維持管理は重要です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	甚平地域資源保全活動組織	代表	菅原 良己
協定面積	田 47.5ha 畑 3.2ha 計 50.7ha	対象面積	田 47.5ha 畑 3.2ha 計 50.7ha		
管理施設	開水路 10.6 km	ため池 ヶ所	農道 6.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 27人	農業団体 1団体	非農業者個人 45人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織では、毎年伝統農法継承の為田植えと稲刈りを子供会主体に活動し、作業終了後の昼食は、観覧の年配者を囲んでおにぎり交流会を実施した事により地域へ嫁いで来た方々や子供達がどこの家か知ったようで、この老若男女の触合いは大切だと皆が実感しました。

また、隣接の樽見内組織と合同で活動した【水の学び】では、子供達は水源の勉強を楽しそうにした事によって学校教育ではなし得ない貴重な体験をしたようです。

今では、親子会の夏の活動を【水の学び】に絞っているようです。



※田植え
親子や孫、地域の老人との共同作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	道川地域環境・資源保全活動組織	代表	加藤 春道
協定面積	田 41.43ha 畑 4.37ha 計 45.8ha	対象面積	田 41.43ha 畑 4.37ha 計 45.8ha		
管理施設	開水路 5.36 km	ため池 ヶ所	農道 3.05 km	パイプライン	km
構成員	農業者 28人	農業団体 1団体	非農業者個人 15人	非農業団体 4団体	
			非農業団体 4団体	自治会 1団体	子供会 1団体
				婦人会 1団体	消防団 1団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全活動区域は、湧水池とそれに付随した雑木の多い未整理圃場が主体の区域です。それに伴う圃場風景は昔からの農村風景を醸し、また湧水池には湧水池ならではのハリザッコヨコえび、スナメグリ等の魚類やカワセミが生息しており、この事業を通じ、この地区の風景と残された自然を子供を含め地域みんなで再確認し合うことを目的として5年間取り組んできました。

その成果は、年々回収ゴミや作業車の圃場への脱輪件数の減少にみられますし、管内の施設点検を通じ、お互いの作業施設環境を確認し合い年次計画にも反映できました。

また、湧水池調査では大人が子供にましてスナメグリやヨコえび、ハリザッコを見つけては昔を思い起こし興奮していた姿や子供のいる家族もいない家族皆で会館で交流できたことは薄れつつある地域の絆を強めてくれたと感じております。



昔を思い起こし、子供より意気込む大人たちと子供による生息調査風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	林崎地域資源保全向上活動組織	代表	武内 竹蔵
協定面積	田 81.9ha 畑 ha 計 1.9ha	対象面積	田 54.4ha 畑 ha 計 54.4ha		
管理施設	開水路 7.0 km ため池 ヶ所	農道	5.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 59人 農業団体 3団体	非農業者個人	6人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち組織が活動する範囲は、40年以上前に、構造改善事業により人力では場整理を行った地域で、排水路は20年ほど前に構造物で整備されましたが、用水路は未だ素掘りのままで構造物が入っておりません。毎年個人で少しずつ整備はしておりますが限界がありました。そのため遊休農地になってしまう場所があるのではないかと常に危険を感じていました。

しかし、平成19年より始まった本事業により、水路や農道等の補修を行うことが出来るようになり、特に農道に関しては板柵等による農道十字路の路肩補強を15箇所以上実施することができました。

また、子供会、親の会、町内会等非農業者の方々と、農免道路沿いのごみ拾い、プランターへの植栽、農業者全員での草刈り、子供たちの田植え体験等で地域の交流を図ることにより絆が深まったように感じております。特に田植え体験は子供達に農業を知ってもらえるいい機会、将来の担い手達に農業者が真剣に説明を行っているのがとても印象的でした。

これからも、この5年間の活動実績を糧に、事業を継続し、集落内の絆をより強く出来るように盛り上げて行きたいと思います。



5月下旬に行われた田植え体験。子供たちに農業の大切さと、自分達が食べるお米がどのように作られているのか知ってもらえました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	新平川・五味川地域資源保全活動組織	代表	菅原 孝
協定面積	田 150.4ha 畑 ha 計 150.4ha	対象面積	田 148.8ha 畑 ha 計 148.8ha		
管理施設	開水路 50.5 km ため池 ヶ所	農道	22.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 90人 農業団体 1団体	非農業者個人	8人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は、昭和35年から積寒事業及び農業改善事業により地区内農地は20a～30区画に整備された地域で、主に新平川集落と五味川集落を中心に活動を行ってきました。活動内容は農業者による農地・水路・農道の維持管理と地域全体で行う一斉清掃、景観植物の植栽、そして子供会を中心に行う水質保全があります。農地・水路・農道の維持管理に関しては、主に草刈りと泥上げ、敷き砂利を行っており、おおよそ全ての農地・水路・農道を対象に行い、その他にも農道の路肩補強等を行いました。地域全体で行う活動では、春と秋に行っている一斉清掃に多数の参加者があり、広範囲の清掃活動を行う事ができました。子供会を中心に行っている水質モニタリングでは自分たちの集落を流れる水路や上流にある湧水池の水質を5年間調べてきました。水質モニタリングを行うことで子供たちも水路が何故汚れているのか、そしてどうすればきれいな水に戻るのか真剣に考えてくれました。

今後は今行われている活動をベースとして、農地・水路・農道の維持管理と環境保全の大切さを啓発していきたく思います。



子供会を中心に行っている水質モニタリング。子供達に環境保全の大切さを学んでももらいました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	高野地域資源保全活動組織	代表	長谷川 武吉
協定面積	田 103.1ha 畑 ha 計 103.1ha	対象面積	田 103.1ha 畑 ha 計 103.1ha		
管理施設	開水路 27.5 km ため池 ヲ所 農道 14.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 76人 農業団体 4団体	非農業者個人 6人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの活動組織の地域は平成17年度から1ha区画の面工事が始まり、道水路は整備されたばかりのため、田園景観の保全と地域のつながり深めることを目的に活動を進めて来ました。基礎活動は道水路の草刈りや泥上げを実施し、活動以前に増してきめ細やかに農家の皆さんが作業をしてくれるようになりました。 農村環境活動は春の農業施設への植栽活動を皮切りに、花壇の除草作業や水路の清掃及びゴミ拾いを集落総出により実施し、環境美化と共に住民の集いの場となり、今までは同じ集落の住民でも1年のうちに顔を合わせることが無かった人同士が、活動で集まるたびに話が弾むようになりました。このことにより集落で行う活動への参加者も増え、最終年度である今年は今までで最多の参加者があり初年度ではできなかった規模の大きな活動をすることが出来るようになりました。 5年間の活動を通して集落の住民全員が環境保全の大切さを考えてくれるようになりました。今後は、この恵まれた環境をこれからも守り、次の世代へ受け継いでいけるように、せっかく燈り始めた集落の絆をより一層深めて行きたいと思っています。					
					
				集落の老若男女による花壇の除草作業の様子。作業と共に会話も弾みます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	中野地域資源保全活動組織	代表	鈴木 吉郎
協定面積	田 24.5ha 畑 ha 計 24.5ha	対象面積	田 24.1ha 畑 ha 計 24.1ha		
管理施設	開水路 2.2 km ため池 ヲ所 農道 3.3 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 11人 農業団体 4団体	非農業者個人 6人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの活動組織が本活動で目標としてきたのは「結」の精神の復活です。40年ほど前は集落の全戸が農家で、農業機械もなかったため農作業や集落の活動を全員で行う「結」の精神で結ばれていました。しかし時代が進むにつれて、農作業も個々の農家で行われるようになり、非農家の数も増え、「結」の精神は薄れていってしまいました。 本活動がスタートし、今までは近隣農家のボランティアで行われていた集落の入り口にある集落のシンボルである杉の木周辺の管理を、活動組織により環境向上活動を行うことになりました。集落全員でゴミ拾いから始まり、草を刈り、土を耕し、石を拾い、花を植え水を遣り、草をむしり、そしてささやかではありますが、きれいな花壇が出来上がりました。この花壇を完成させたときの感激は今でも忘れられません。 計画の段階では活動をうまく行えるのか不安でしたが、この活動により集落の中には「結」の精神が復活し、新たな「絆」が生まれたように感じました。 本事業は5年間の区切りを迎えますが、これまでの活動で培ってきた集落の「絆」を元に更なる発展を求め、活動展開をしていきたいと思っています。					
					
				毎年8月に構成員による集落のシンボル（ご神木）周辺への植栽が行なわれています。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	蛭野地域資源保全活動組織	代表	真田 則幸
協定面積	田 100.1ha 畑 ha 計 100.1ha	対象面積	田 99.3ha 畑 ha 計 99.3ha		
管理施設	開水路 15.4 km ため池 ヲ所 農道 14.4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 65人 農業団体 2団体	非農業者個人 13人 非農業団体 7団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織では、共同作業を通じて自分たちの地域のために知恵を出し合い、共に汗を流すことによって自分たちの地域は自分たちで守るという意識付け及び地域住民の和を広げることを目指してきました。

活動の中で特に力を入れたものは農村環境の保全でした。景観形成のための花壇づくりでは平成19年度には67名の方々の参加があり、「こんなに村の人が集まったのいつ以来かな」「たぶんこんなに集まったのは初めてだと思うよ」などという会話が交わされました。年度を重ねるごとに参加者が増えてゆき、平成23年度には102名の方々の参加があり、当組織の最大の活動となりました。また、農業施設及び大宮川幹線排水路周辺の清掃にも力を入れ、皆が気持ちよく生活できる環境づくりにも取り組みました。他にも水路の泥上げ、草刈り、農道の敷き砂利を行いました。

共同作業を通じて、試行錯誤しながら農村環境を保全する事の難しさと達成出来たときの喜び、世代を超えた絆を形成できました。この5年間を通して、一番地域のことを考えているのはそこに住んでいる人たちであるということを確認することが出来る事業でありました。



さまざまな世代の地域住民が農地を有効利用し、共同で花壇づくりを行い交流を深めました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	豊前地域資源保全活動組織	代表	谷口 耕一
協定面積	田 31.6ha 畑 2ha 計 33.6ha	対象面積	田 31.6ha 畑 2ha 計 33.6ha		
管理施設	開水路 5 km ため池 ヲ所 農道 4.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 20人 農業団体 2団体	非農業者個人 2人 非農業団体 2団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

従来、集落で行っていた農道、畦畔、開水路等の保安全管理としての草刈り、泥上げなどの共同活動に加え、生活環境向上のためにシバザクラの植栽や農業用廃プラ処理を継続して行ってきました。春のシバザクラ植栽作業には、子供から高齢者まで参加する毎年の春の行事になっております。また、農業用資材から出るプラスチックやポリ製品の廃棄物も、集落の一か所に収集籠を設置しまとめて処理業者へ搬入してきましたが、これも今では集落全体の習慣となり、以前のような野焼きがなくなり生活環境の向上につながったと考えております。

今後も、集落全体で住み良い環境や人間関係を守っていきたいと思います。



年2回程度、集まった廃プラを処理業者へ搬入して廃棄処分をしてきました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	樽見内地域資源保全委員会	代表	石山 聞一
協定面積	田 222.9ha 畑 14.7ha 計 237.6ha	対象面積	田 211.3ha 畑 9.9ha 計 221.2 ha		
管理施設	開水路 71.6 km ため池 ヶ所 農道 32.3 km	ハ°イ°ライン	1.4 km		
構成員	農業者 192人 農業団体 団体	非農業者個人	38人 非農業団体	26団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

地域における農業の持続的発展、住み良い農村環境の保全、地域社会の活性化を目指し、農村の古き営み「結い」の復活をテーマに活動をしてきました。基盤である農地、水路、施設等の整備はもとより、地域住民、高齢者、子供達が参加しての諸活動が多岐にわたる中で、他組織からの視察者の来訪も多く、地域への思いに大きな見直しが生まれたといえます。

特徴的なものとしては高齢者や幼児、子供達を巻き込んだ活動が挙げられます。遊休地を活用してみんなで植栽する30aの「夢花壇」には、マリーゴールド、サルビア、ヒマワリの花々が咲き乱れます。保育園児達と共にサツマイモを植え合う「ふれあい農園」では、秋の収穫時の焼き芋に歓声が上がります。夏休み、子供達の親子の参加で実施する「水の学びの集い」も5回を数え、身近な水路の水源地を訪ね、雄物川に水の行方を追ひ、また、県内の水に関わる施設を訪れ、水の大切さや働きについて、交流を深めながらの貴重な学び合いとなっています。また、高齢者の知恵を活かしながらの地域の伝統文化・行事等の継承にも力を入れることが出来ました。

こうした活動を通し、地域に元気を取り戻し、交流を生み出し、活性化への大きな渦を起こし得たといえます。



子供会親子参加による「水の学びの集い」で、鳥海山からの伏流水の不思議を「元滝」で学ぶ (H23年8月)

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	下高口地域資源保全活動組織	代表	高橋 敏夫
協定面積	田 103.0ha 畑 ha 計 103.0ha	対象面積	田 102.3ha 畑 ha 計 102.3ha		
管理施設	開水路 21.3 km ため池 ヶ所 農道 13.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 63人 農業団体 5団体	非農業者個人	5人 非農業団体	5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち活動組織の目的は、地域の環境美化と保全であり、特に水田に於ける農業用水路の清掃・管理・水量の確保でありました。また、景観美化と農地の保全の観点から農道及び水路溝畔等の草刈りの徹底を行うと共に、農道への敷砂利等による補修にも力を入れました。

環境美化活動としては、道水路沿いのゴミ拾いを春と秋の年2回実施するほか、秋にスイセンの球根を農道に植え込みすることにより、春には茶色の大地を華やかに変身させ、地域住民に大変喜ばれました。ゴミ拾いをを行っている道路は、交通量が多いためなかなかポイ捨ては無くなりませんでした。しかし、同じ路線の近くにスイセンを植え込みしたところポイ捨てが減りその効果に全員が満足しました。やはり景観を守るためには常にきれいにしよう心がけることが大切なのだと思います。

この5年間で、地域の環境は自分たちでとの意識の増大が図られたことが、大きな成果でありました。今後も今までの活動を続けていき、景観美化と農地の保全が大切であることを地域住民全員で考えていきたいと思ひます。



地域総出によるスイセン植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	深間内地域資源保全活動組織	代表	長沢 弘治
協定面積	田 59.1ha 畑 0.3ha 計 9.4ha	対象面積	田 52.3ha 畑 ha 計 52.3ha		
管理施設	開水路 14.2 km	ため池 ヲ所	農道 8.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 42人	農業団体 3団体	非農業者個人 7人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達組織の活動範囲の農地は区画が小さい圃場が多く、素掘り用水路で農道も狭いため維持管理を行うことが難しい地区でした。特に農道に関しては通行が出来ないような物もありました。そのため組織の活動として、地域の人々と共同で用水路の泥上げ、農道の砂利敷、使用料が多く劣化の激しい農道の路肩補強等を行い農業用施設の保全に務めてきました。

また、景観形成作物の植栽は老人から子供達まで多く参加して頂けたことで広範囲への植栽を行うことが出来ました。植栽を行っている間は、子供達がお年寄りから花の植え方を教わったりし、生き物に対する関心が大きくなったような気がします。

5年間活動を行って見て、集落のまとまりが強くなったように感じます。そのまとまりが強まる事によって、活動への参加者も増え、5年目である今年はほぼ全戸が参加して植栽などの景観形成の活動を行うことが出来ました。

来年度以降も多数の参加者があるように、そして強くなった集落のまとまりをさらに強め、老人から子供達まで集落としての輪を大切に継いで行きたいと思ひます。



景観作物の植栽風景。子供から大人まで真剣に活動を行っていました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	中清水地域資源保全活動組織	代表	川崎 昇一
協定面積	田 41.7ha 畑 ha 計 41.7ha	対象面積	田 41.6ha 畑 ha 計 41.6ha		
管理施設	開水路 6.4 km	ため池 ヲ所	農道 3.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 38人	農業団体 1団体	非農業者個人 4人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

若者の農業離れや農業従事者の高齢化に伴い、農地環境が荒れてきた中で活動を5年間継続できた事は大変意義があったと思う。特に地域の子供、青年、老人が一体となって環境保全活動の基で交流出来た事は今後の地域の様々な事に生きてくると思う。活動の中でも6月の景観作物の植栽及び10月の景観作物の管理・さつまいも収穫の際には、毎年50名余りの地域住民に参加いただいた。

当事業を通じて近年希薄になってきた地域のまとまりの重要性を再確認出来る良い機会となり、今後ともこのまとまりを継続出来るよう、地域での取り組みを考えていかなければならない。

当事業の改善点を挙げると、活動項目を全国一律に設定しないで地域の特色が出るように本県のような豪雪地帯は冬場の活動も必要となってくると思う。また、花壇を造成する場合は事業の継続性を考えるとプランターに1年苗を植え付けするよりも地面に直接永年苗や花木等を植え付けし、事業が終了しても次の世代に花木が残り活動がつながるようにしたい。



地域住民が協力して多年草を植栽し、交流を深めるとともに継続して管理する意識を醸成している。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	清水川端地域資源保全活動組織	代表	川崎 繁
協定面積	田 22.0ha 畑 ha 計 22.0ha	対象面積	田 21.8ha 畑 ha 計 21.8ha		
管理施設	開水路 9.1 km	ため池 ヶ所	農道 3.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 29人	農業団体 5団体	非農業者個人 7人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域は専業農家は少なく、兼業農家・非農家の混在集落であり、これまで集落の諸行事は農家・非農家が協力し合い集落の形態を保ってきた。

本活動発足以来、活動への参加者は従来のように農家・非農家共々の協力のもとに農業関連施設、自然環境の維持・美化活動に取り組み、集落内の美化運動は大きく前進し集落の絆を強める事が出来た。

当地域は多くの湧水地に恵まれ、旧平鹿町時代より「白藤自然公園」として整備された経緯があり、当地域内にある嘉平沼は希少生物トゲ魚(雄物型・淡水型の2種類)が3千匹を超えて生息している。また、嘉平沼の下流堰にはほたるも生息しており、貴重な沼として地域住民に親しまれている。今後とも本活動の柱として沼の自然を守る活動とともに、トゲ魚観察会・ほたる鑑賞会を実施し、啓発・普及を通じて次世代に引き継ぐべく継続して参りたい。

また、他活動についても今後とも集落の共同作業を通じて地域の和を図り、農業関連施設の保守と利便性向上に努めて参りたい。



毎年8月上旬には農家・非農家が協力し、嘉平沼内の雑草及び水源の整備清掃を実施している。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	白藤地域環境保全活動組織	代表	柿崎 平一
協定面積	田 29.6ha 畑 0.9ha 計 30.5ha	対象面積	田 28.72ha 畑 ha 計 28.7ha		
管理施設	開水路 2.6 km	ため池 2 ヶ所	農道 3.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 11人	農業団体 1団体	非農業者個人 3人	非農業団体 団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年度からのスタート、白藤地域環境保全組織は長年、遊休農地が約60a程ありました。直径30cm位の柳の木、近隣の補場では害虫問題が大変でした。この共同活動支援を利用し、19年度でこの問題を解消しました。この制度がなければ、今も木立の田んぼだったと思います。田んぼを復元し作付けしてから4年、自己整地し広い田んぼとなり、この制度に感謝しているところです。

また、その木を湿田の暗渠排水に利用し、大変大きな活動が出来ました。

共同活動月年を越すごとに、高齢化に伴い、なかなか集合率も悪くなり、まだまだ活用し、改善する課題が山積みしておりますが、前項の理由により、活動を辞退せざるおえなくなり、非常に残念に思っております。

今までの事業に大変感謝しております。

有難うございました。



柳の木を伐採し、整地を行い田んぼを復元して作付けすることが出来ました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	天龍院沼水系環境保全協議会	代表	柿崎 茂夫
協定面積	田 44.8ha 畑 1.4ha 計 46.2ha	対象面積	田 43.3ha 畑 ha 計 43.3ha		
管理施設	開水路 14.0 km	ため池 ヶ所	農道 7.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 36人	農業団体 5団体	非農業者個人 5人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は天龍院沼というため池の湧水の保全管理を中心とした活動を行って参りました。天龍院沼は昔から私たちの地域では農業用水及び生活用水、防火用水等多岐にわたり通年を通して利用している大切なため池です。また、天龍院沼には絶滅危惧種のトゲウオ、ヨコエビ等が未だ生息しております。

天龍院沼を将来も湧水が絶える事がないよう、泥上げ及び草刈り、ゴミ拾い等を実施しております。また、現地にて地域住民との交流活動を実施し、天龍院沼への理解を深めると共に環境保全活動への協力を呼びかけて、次世代に引き継ぐべく活動を実施して参りました。

天龍院沼の保全管理以外の活動では、農道・水路等の整備、地域の環境整備等を行い、農業者だけではなく非農家の方々にも参加いただいた結果、薄れてきた地域のまとまりが少しずつですが出てきたように感じております。この5年間を振り返ると非常に素晴らしい事業であったと思います。今後ともこの5年間の経験を生かし、地域のまとまりを大切にしながら継続して取り組んでいきたいと思ひます。



多面的機能を持つ天龍院沼を将来にわたり保全するため、泥上げ・草刈り・勉強会等を実施しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	和村集落資源保全活動組織	代表	佐藤 均
協定面積	田 19.4ha 畑 0.1ha 計 19.5ha	対象面積	田 18.9ha 畑 ha 計 18.9ha		
管理施設	開水路 5.5 km	ため池 ヶ所	農道 4.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 12人	農業団体 1団体	非農業者個人 5人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は農業従事者が少なく、非農家の方々及び婦人会・老人会等の団体にもご協力をいただき、地域の和を大切にしながら農村環境を維持・発展させることを目標に活動してきました。取り組み当初は手探り状況でのスタートでしたが、活動年度を重ねる毎に活動参加者の数が増えてゆき、まとまりのある活動を展開出来たと思います。

当組織の活動は農業用水路の維持管理の徹底を中心として行いました。農業用水路は営農の基盤であり、その他にも防火用水・冬場の消流雪等の生活用水としての役割を持ち集落の貴重な資源です。水路普請は引水前・夏場・降雪前と年に三度、農家・非農家が協力して行い、保全の重要性を再確認する機会となりました。

その他活動の花苗の植栽・地域内清掃においては農業者だけではなくさまざまな世代の地域住民に参加いただき、地域が一体となり取り組みました。

この5年間を振り返ると共同で作業することにより、地域の和の大切さを再確認出来たとともに、次世代を担う若い世代にも継承出来る良い機会となりました。5年間で得た経験を今後とも生かしていけるように方策を考えていきたいと思ひます。



地域用水としても利用される農業用水の維持管理は今後とも地域全体で取り組んでいきたいと思ひます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	蟹沢地域資源保全活動組織	代表	佐藤 忠男
協定面積	田 41.3ha 畑 0.6ha 計 41.9ha	対象面積	田 37.9ha 畑 ha 計 37.9ha		
管理施設	開水路 8.6 km	ため池 ヶ所	農道 7.3 km	パンプライン	km
構成員	農業者 33人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当活動組織の目的は、先祖代々が苦勞して開拓された農地・風景を現在の世代で力と心を合わせ守り続けていき、そして生活の「カテ」となる農産物を生産・販売してゆくことであります。

経年により農業施設の破損や老朽化が見受けられる箇所が多く発生する中、平成19年度より当事業が開始され、地域の皆さんのご理解・ご協力をいただき現在まで続けて参りました。当初は皆苦勞をしながらの作業でありましたが、少しずつ地域の婦人会や子供会の皆さんも積極的に参加いただきました。

また、この5年間は手探りの状況からのスタートし、草刈り、泥上げ、農道の補修等を行って参りましたが、中でも農業施設への補修に力を入れて取り組んだ結果、当初の目標に100%に近い成果を上げる事が出来、本当に有意義な資源保全の活動でありました。

今後の事を考えると地域内で色々と話し合いの場を作って、次の世代にも安心をして農業を中心とした生活スタイルを継続出来るような方策を立案して参りたいと思っております。



破損・老朽化した農業施設の補修を通して、利便性を向上する活動に力を入れ取り組みました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	高口地域資源保全活動組織	代表	武田 一美
協定面積	田 76.9ha 畑 3.1ha 計 80.0ha	対象面積	田 69.2ha 畑 ha 計 69.2ha		
管理施設	開水路 27.5 km	ため池 ヶ所	農道 14.9 km	パンプライン	km
構成員	農業者 80人	農業団体 1団体	非農業者個人 6人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織が活動する地域は、50年前の積寒事業により区画整理された地区で、ほとんどが10a区画で農道も狭く大型機械の乗り入れも困難なため、過疎化が進んでいる当地域では農地や農業施設をきめ細やかに管理することができず、雑草等が伸びてあまり良い環境ではありませんでした。

本事業が開始されてからは、農地や農業施設の管理を全員で行うことにより田んぼの風景は見違えるほどきれいになりました。まず、草刈りや泥上げなど農地の維持管理が徹底されたこと、路肩が崩れ通行に支障があった農道の補修を行ったこと、そしてなにより一番良かったことは農家、非農家関係なく全員で行った植栽活動があります。農地や農業施設の管理を全員で行うことにより余裕の出来た時間により活動を行えるようになったのだと思っています。

5年間の事業を振り返ると、当初の景観が、たった数年で見違える程きれいになったことが感慨深いです。集落の人達がこの事業を理解してくれて、自分たちの農地や景観は、自分たちできれいにして行こうと云う気持ちが表れたのではないかと思います。



集落全員で行った植栽活動。年々参加者が増え毎年規模を拡大して行っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	石成地域資源保全活動組織	代表	小場 健一郎
協定面積	田 91.8ha 畑 2.6ha 計 94.4ha	対象面積	田 85.7ha 畑 ha 計 85.7ha		
管理施設	開水路 19.6 km	ため池 1ヶ所	農道 14.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 70人	農業団体 1団体	非農業者個人 5人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

5年間の活動は我々の組織にとって農業者はもちろんですが地域住民にとっても有意義な活動が出来たものと思っています。特に、5年間の事業継続の中で地区内の湧水沼の環境保全への取り組みを開始出来たことは一定の成果として残ったものと思われます。このことは、地区内の農業者はもちろん、地区内全体の住民に地区内には今は消えようとしている、絶滅危惧種、希少種の動植物が今現在も生息していることを認識させることが出来ました。

活動を行っていく上で、湧水沼の生態系を考慮し、農業者は必要最低限の農薬を使用し、非農業者も湧水沼のために出来ること、例えばゴミ拾い等の活動に真剣に取り組んでももらえました。

P T A、子供会との合同での生態系調査、生物調査により農業の大切さと郷土の自然を守る大切さを、希少になりつつある後継者へ継ぐべき事業の第一歩となるのではないかと考えています。このことにより、次年度以降も活動を行えるような地区体制が出来上がったのだと思われます。

今後も上記の事をベースとしながら、もっともっと質の高い活動を行えるようにしていきたいと思います。



湧水沼の絶滅危惧種・希少種の動植物の調査を、構成員、P T A、子供会とともに行ないました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	上醍醐地域資源保全活動組織	代表	奥 勝也
協定面積	田 35.5ha 畑 0.9ha 計 36.4ha	対象面積	田 31.1ha 畑 ha 計 31.1ha		
管理施設	開水路 4.6 km	ため池 ヶ所	農道 8.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 28人	農業団体 2団体	非農業者個人 8人	非農業団体 8団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

菅江真澄の「雪の出羽路」にも記されている上醍醐の戸数は当時7戸、金屋地区との「松明焼き」は脈々と続く一大行事であり、当地の精神的拠りどころである。現在では30戸であるが、農業との関わりは年々変化している。圃場整備事業の施設も老朽化しており、共同活動事業の立ち上げは、農業を見つめ直し、住民間の交流を図るには絶好の機会となった。農道、水路の補修・改修は活動組織で対応可能なものは、ほぼやり尽くせたと思っている。花植栽の際には、集落にこれだけの人がいたのかと思われる程の盛況であった。

初年度が秋田国体の年であり、来県者の為に県道端にサルビアを飾り付けたことも弾みとなった。「交流会」の開催では、毎回各方面から講師をお招きし、地域の歴史や医学などについてみんなで勉強し、相互の親睦を図った。

昨年の大震災に見るように、個人や組織などが所有しているものは、実は地球からの借りものであって、いつかは返さなければいけないものではないかと思うことがある。借りている環境を守り育て、次世代に受け継ぐために5年間で成し得たものは微少なものかも知れないが、点火した役割は大きいと思う。

「松明焼き」を絶やさずに来た先人のように・・・。



毎年6月の中旬に行われているサルビアの植栽風景。集落内のほとんどが参加している程の盛況ぶりを見せる。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	下畠地域資源保全活動組織	代表	齋藤 孝志
協定面積	田 84.5ha 畑 19.9ha 計 104.4ha	対象面積	田 81.8ha 畑 ha 計 81.8ha		
管理施設	開水路 12.5 km ため池 ヶ所 農道 5.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 70人 農業団体 1団体	非農業者個人 7人 非農業団体 7団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私達、資源保全活動組織の目的は地域の仲間づくりや環境への取り組みを目的として集落一体となり取り組んでまいりました。特に環境（春の花の植栽）事業に関しては、集落の老若男女幼児を含め、この集落にこんなに多勢の人が居たのかと思う程たくさんの方々の参加により事業を盛大に行なわれた事は集落初まって以来の驚きと喜びで一杯でした。集落の真ん中を通る道路沿いに配置された花は集落だけでなく道行く人々の目も楽しめたのではないかと思います。 また、農業者等による草刈にも多勢の方々に参加して頂き地域のつながりを感じて事業を行なう事が出来たと思います。普段は一人仕事为主な農家の人達もたくさんの人達と雑談したり、水稻等の生育状況の情報交換をしながら活動を行うさまはとても有意義な時間になったのではないかと考えられます。 5年間の活動を通じて、集落が徐々にまとまっていくのを感じられました。このまとまりを無くさないためにもどんどん活動を行っていき、集落みんながやってよかった、参加してよかったと思えるような活動にしていきたいと思えます。					
					
				6月に老若男女幼児による植栽作業のひとつです	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	沖田地域資源保全活動組織	代表	柿崎 功市郎
協定面積	田 66.0ha 畑 ha 計 66.0ha	対象面積	田 66.0ha 畑 ha 計 66.0ha		
管理施設	開水路 12.5 km ため池 ヶ所 農道 6.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 60人 農業団体 1団体	非農業者個人 6人 非農業団体 6団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの活動組織では、農業者を中心に行う基礎部分の活動と、集落全員で行う景観形成の活動を主に行ってきました。農業者を中心に行う活動には、夏場に2回行う一斉草刈りと、秋に地区全体に行う農道補修や敷き砂利、目地詰め等の開水路の補修、そして11月初め頃に開水路の泥上げを行っています。集落全員で行う景観形成の活動は、春と秋の2回行われている一斉清掃や、コスモスの植栽等を行ってきました。 どちらの活動も、普段一緒に作業をすることのない人との作業が交流の場となり、農業施設の補修や一斉清掃等を通じて環境保全の大切さを感じていただけたと思います。 活動の成果として普段行えなかった維持管理活動を行えた事と、一斉清掃を行ったことにより目に見えてゴミが減ったことがあります。この事から分かるように活動の成果が目に見えることによって、年々活動への参加意欲が上がってきました。 今後は、今まで行ってきた活動を行いつつ、より多くの参加者を募り今よりもっと質の高い活動を行っていきたいと思えます。					
					
				きめ細やかな雑草対策による構成員による草刈です。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市		組織名	樋ノ口地域資源保全活動組織		代表	柴田 幹男	
協定面積	田 77.0ha	畑 0.5ha	計 77.5ha	対象面積	田 76.9ha	畑 ha	計 76.9ha	
管理施設	開水路 9.9 km	ため池 ヶ所	農道 6.4 km	パ°イ°ライン km				
構成員	農業者 59人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体				
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たちの組織が活動する範囲は、30年以上前に県営圃場整備事業が完成し、道・水路などの農業施設もその時点で整備されたものを使用しておりました。 また県内でも有数の豪雪地域ということもあり、農業用水は冬期間は消雪・流雪用の水路としても利用されておりましたが、老朽化が進んでいるため、その保守と管理が課題となっていました。 今回の事業により、農業者以外の方々にも、草刈や水路の清掃に参加していただき、またその保全管理(目地補修・破損施設の補修・不同沈下への対応等)へも、参加をしていただきました、このことにより、農業施設を農業者だけのものではなく、地域全体の財産として認識していただいたものと思います。 また、施設への植栽や施設の清掃点検等 農村環境向上活動については、樋ノ口地域内の大半の家庭から参加をいただき、地域の活性化へも貢献できたと思います。								
								
				施設への植栽の後お茶会をしながら地域住民との交流会を実施しました。様々な話題がでて和やかな会となりました				

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	亀田堰・荒堰地域資源保全活動組織	代表	柿崎 賢司
協定面積	田 109.2ha 畑 1.1ha 計 110.3ha	対象面積	田 109.2ha 畑 ha 計 109.2ha		
管理施設	開水路 55.5 km ため池 1ヶ所 農道 14.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 125人 農業団体 2団体	非農業者個人	6人 非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの活動組織では、農家だけでなく、自治会、地域の老人会、婦人会や子供会等の組織と共に農用地や集落内を流れる亀田堰・荒堰等の開水路を保全していくことを目標に活動を行ってきました。当初より大勢の人々が活動に参加してくれたのできめ細やかな活動を行うことが出来ました。毎年4月上旬に行っている全ての構成員を対象とした一斉清掃では単純にゴミを拾うだけでなく、その後のゴミ捨て防止の啓発にも力を入れることにより、毎年少しずつゴミの量が減少していきました。その他にも自分たちではなかなか手のかけられなかった集落内排水路の浚渫や、ため池の補修作業も行うことができました。 活動組織の役員会や実績検討会、総会等では農業者だけでなく各団体からも活発な意見交換を行うことが出来、5年間の活動の中で農地を守ること、環境を守ること、それぞれの考え方を啓発することができました。 今後も農地を守ること、環境を守ること、の啓発を継続し、自分たちの農地、自分たちの集落は自分たちで守っていかねばならないという気持ちを構成員全員が持つてくれるような活動や啓発を行っていききたいと思います。					
					
なかなか手のかけられなかった集落内排水路の浚渫作業。この作業により生活排水からくる悪臭等がなくなりました。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市		組織名	明沢地域資源保全活動組織		代表	佐藤 富美雄	
協定面積	田 22.6ha	畑 3.5ha	計 26.1ha	対象面積	田 22.6ha	畑 ha	計 22.6ha	
管理施設	開水路 5.7 km	ため池 1ヶ所	農道 2 km	ハ°イ°ライン km				
構成員	農業者 44人 農業団体 1団体		非農業者個人 4人 非農業団体 4団体					
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たちの活動組織は山間部に位置する明沢集落を中心として活動を行っている組織で、集落に近い農道沿いに花壇を設置したり、農地、水路や農道の景観保全のため定期的なゴミの除去も併せて地域の老人会、婦人会や子供会を中心に取り組むこととした。併せて、環境にやさしい農業への取組みとして、減農薬・減化学肥料の稲作りを取り入れ地域全体の水質保全と環境保全に努めることを目標として活動を行ってきた。その結果、構成員全員で一斉に行う草刈り活動や、ため池の維持管理及び排水管理の徹底がなされるようになった。その他にもゴミの不法投棄禁止の啓発のための看板の設置や水質保全のための濁水管理等を行っており、環境保全について構成員の意識改革が起きている。 5年間の活動の中で農業者、非農業者問わず集落の景観美化、減農薬・減化学肥料で行う農作業そして、集落を自分たちで良くしていこうと考える生活環境保全に対して真剣に考えてくれるようになったと感じている。今後はその気持ちをもっと大きなものに育てるために全体の会議や各活動の中で啓発を行っていき、この豊かな田園風景を守り次の世代へ渡せるようにしていきたい。								
								
私たちの活動組織では構成員全員が参加する草刈り作業を行っています。刈り終えた草はそのままにせず軽トラック等で集積場所に集めています。								

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市		組織名	関合地域資源保全活動組織				代表	高橋 肇				
協定面積	田	35.9ha	畑	4.4ha	計	40.3ha	対象面積	田	36.0ha	畑	ha	計	36.0ha
管理施設	開水路	6.3	km	ため池	ヶ所	農道	5.7	km	ハ°イ°ライン	km			
構成員	農業者 29人		農業団体 団体		非農業者個人 53人			非農業団体 3団体					
(5年間の活動内容や感想等記入)													
私たちの地域は、水田を主体とした農業地域であり、昭和49年からの県営ほ場事業により30a区画に整備され、30年余り経過していたことから、水路などの農業施設の老朽化が地域の課題となっていました。 この事業を機に、地域内の農業施設の管理・維持を関係者だけでなく、地域住民の協力で活動できたことは非常に良かったと思います。 また、私たちの集落の環境改善についても、自治会、消防団、子ども会とともに活動することができ、花植など今後も継続して行こうと思っています。													
関合地域資源保全活動組織 代表 高 橋 肇													
													
6月の花植え。たくさんのプランターに子供たちが一生懸命サルビアやマリーゴールドなどを植えています。													

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	下簗田地域資源保全活動組織	代表	福原 浩美
協定面積	田 29.1ha 畑 2.9ha 計 32.0ha	対象面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha		
管理施設	開水路 8.4 km ため池 ヶ所 農道 2.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 24人 農業団体 1団体	非農業者個人	5人 非農業団体	5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織では、農業施設の維持管理と同時に田園風景を守りながら後の世代に引き継いでいこうという目標の元、様々な活動を行ってきました。特に春のクリーンアップと花の植栽は、地域全体の取り組みとして下簗田集落全戸が参加してくれる活動になりました。その他にも農地や農業施設の管理・補修を行いそれぞれが持つ他面的な機能を再認識するいい機会となりました。

活動組織の地域内には交通量の多い道路があり、ゴミのポイ捨てが多いことは分かっていたのですが何もすることが出来ずにいました。しかしこの活動が始まってからは、毎年クリーンアップや周辺の水路の泥上げ等を行っており、活動組織を中心とした啓発活動の効果もあらわれ始め、今までたくさんあったゴミもほとんどなくなり、そしてポイ捨てを行う人もいなくなりました。以上のことから、本事業で活動を行うことにより目標としてきたこと2つを満たし、又各世代の交流やそのつながりの強化に大きく寄与してくれたと思います。

今後もこの活動を維持していけるように今よりも質の高い環境保全対策を行っていきたいと思います。



水路の中に捨てられたゴミを撤去している様子。毎年多くのゴミを撤去しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	本堂地域資源保全活動組織	代表	佐藤 誠一
協定面積	田 9.9ha 畑 0.9ha 計 10.8ha	対象面積	田 9.7ha 畑 ha 計 9.7ha		
管理施設	開水路 2.5 km ため池 ヶ所 農道 0.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 13人 農業団体 団体	非農業者個人	9人 非農業団体	団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の地域は、農地のほ場整備等実施しておらず、又、今後の計画もないことから、地域独自の施設管理が必要となる土地柄であり、今回の活動は大変意義のあるものでした。

私達活動組織は、地域施設の状態を把握し不具合のある施設について農業者及び地域住民が共通の課題として認識し、協力して改善・改良を行うこと目的とし「農地・水・環境保全」に取り組みほぼ当初の目的が達成出来たと思っています。

私達の様な小さな集落でも農家の兼業化が進み地域交流が薄れつつある様に感じていましたが、

- (1) 渇水期に行った水路の整備(側溝の設置や補修)
- (2) 初夏～初秋の暑い中の年3回の草刈り作業
- (3) 農業者・老人・子供達で行った花の植栽

等〃を通して老若男女が協力し活動する機会を持てたことで「地域のまとまり」にも繋がった活動でした。

5年間の活動で、水路・農道でまだ整備を要する箇所が残っており、地域として今後の課題になるが総括としてこの活動で得られた「地域のまとまり」は大きな成果であり継続しながら、安全で安心して生活できる地域環境づくりをしていきたいと考えます。



5年間の中で、水路7か所の整備を実施し、その内3か所には側溝を付設し恒久的対応が出来たと思います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	大中嶋地域資源保全活動組織	代表	福岡 馨
協定面積	田 17.1ha 畑 ha 計 17.1ha	対象面積	田 17.1ha 畑 ha 計 17.1ha		
管理施設	開水路 5.8 km ため池 ヶ所 農道 2.8 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 16人 農業団体 1団体	非農業者個人	6人 非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

社会の移り変わりと同時に、「大中嶋集落」の農村の姿がここ数十年でどんどん変わり、農業の形態や農村の風景、それに伴い村人の人との関わりが希薄になり、村人の「絆」が次第に薄れてきました。この状況を地域みんなが改めて考えるきっかけを作って下さったのがこの事業でした。当活動組織ではもう一度昔の農村の姿、あの大変な農作業をみんなで協力し合い、大事な国民の食糧である米を生産してきたことの「結いのこころ」の復活を目指して取り組みました。

イネ作りのための大事な作業をみんなで力を合わせて実施した水路のゴミ上げや、暑い中での農道敷砂利や草刈り作業、水路の補修など施設の機能回復と維持保全を図ることが出来ました。

様々な活動は農家、非農家、若い人など世代を超えた交流の場となり、地域の繋がりが出来たことを感じました。田植え後の「さなぶり」や秋の「収穫祭」を復活させたことが地域の絆を深め、地域の文化や伝統を伝える最も大切な語り合いの場として大事なことだと思いました。また、自然の大切さ、農業の素晴らしさ、人とのふれ合い、ふるさとを愛することなど子どもたちや地域みんなが理解し「結い」の大切さを感じ取って頂けたと思います。



花の植栽ではみんなで楽しく作業し、5年間での子どもたちの成長過程を感じ取ったことが感激でした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	田ノ植地域資源保全活動組織	代表	伊藤 彰英
協定面積	田 81.4ha 畑 ha 計 81.4ha	対象面積	田 75.0ha 畑 ha 計 75.0ha		
管理施設	開水路 22.7 km ため池 ヶ所 農道 12.6 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 72人 農業団体 団体	非農業者個人	247人 非農業団体 8団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、水田を主体とした平地農業地帯であり、昭和35年からの基盤整備事業で概ね10a区画に整備されているが、用水路は土水路のため、法面の崩壊や泥の堆積などが散見されていた。また、農道も劣化し、走行に支障をきたしていた。今回の5年間の事業により、水路の法面補修や泥上げ、農道の砂利敷きなどを行うことにより、施設は大幅に改善された。共同作業によって自分たちの農地が良くなっていくことを目の当たりにすることによって、「自分たちの農地は自分たちで守るんだ」という意識が醸成されたと感じている。しかし、手を抜くことにより、また施設は劣化していくため、継続していくことが大切である。

また、私たちの地域には保育所や小学校があり、地域には子供たちも多い。この組織では教育機関や子供会との連携を多くしたことが特徴の一つであり、地域の子供たちに農業・食・ふるさとの大切さを伝えることが出来た。保育所や小学校側も活動に対してとても理解があり、先生方のご協力に感謝している。

今後とも地域の農業や日本人としての正しい価値観の育成のために努力していきたい。



アイガモ農法による無農薬栽培米の稲刈りの様子

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	福地地区環境保全会	代表	湊谷 裕平
協定面積	田 538.8ha 畑 ha 計 538.8ha	対象面積	田 538,8ha 畑 ha 計 538,8ha		
管理施設	開水路 84.9 km	ため池 ヶ所	農道 58.7 km	パイプライン	18.8 km
構成員	農業者 400人	農業団体 2団体	非農業者個人 14人	非農業団体	38団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当保全会のほとんどが大区画整理を行った、JA合併前の旧福地農協の農地範囲を協定面積とし、7支部(7集落)に分けてそれぞれ活動計画を立案し、構成員は地域内交流型の構成として支部内での絆を深める意味で、特徴のある活動は出来ませんでした。5年間活動してきました。 各支部とも出来るだけ多くの構成員に共同活動に参加して貰うようにと、会社員・農業者の活動は土曜・日曜に計画し、婦人会・老人クラブ等の活動は平日の活動しやすい日程で計画するなど独自の方法で活動しました。 成活動は、農業者も下準備等に協力し老若男女の共同作業による集落内の交流の場としても有意義な活動でしたし、口々に、昔で言う「ゆいっこ(結)」の精神が戻ってきたと実感した構成員も数多くいたようです。 又、当保全会のキャッチフレーズを『おいしいお米と西瓜の里』とうたっており、米・野菜を作る源が綺麗な水である事から、水系末端地域の当保全会としては水質調査にも力を入れており、今まで5年間の調査結果を纏め、今後の水質保全への取り組みについて地域で話し合い、付加価値のある農作物等が作れる特徴のある地域にしていきたいと感じた活動期間でした。 最後になりますが、少しでも昔の精神を復活できるこのような活動が、今後も続けられる事を期待しております。					
				 6月に行った花の植栽活動前の子供会・婦人会・老人クラブ・農業者のいざ活動前の和やかな集合写真です。地域の交流の場でもあります。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	里見地区環境保全会	代表	高橋 茂
協定面積	田 426.7ha 畑 ha 計 426.7ha	対象面積	田 414.2ha 畑 ha 計 414.2ha		
管理施設	開水路 108.3 km	ため池 ヶ所	農道 44.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 363人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	23団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの環境保全会は、地区内の道水路等の農業用施設の維持管理のため、水利組合や受益者により適正な維持管理に努めて来ました。担い手育成基盤整備事業を導入して、さらに地区内の道水路等の維持管理に積極的に取り組み、農業の営農環境や自然環境を含めた農村環境を将来的に保全する活動として、非農家も含め取り組んできました。 今は、田舎でも地区住民が一同に会する機会もめっきり少なくなって来ましたが、この活動を通し地区内の老若男女層での花の植栽、クリーンアップ、草刈り作業等の一服の時間に青空の下で地区住民の話も盛り上がりを見せ、昔ながらの「絆」を取り戻してきたように感じております。ほとんどが共同作業であり楽しみながら作業ができ、仕事の能率アップにも繋がったように思います。 これからも、この経験を生かし出来ることは地区全体で頑張っていきたいと思っております。					
				 地域住民総出で景観植物の植栽活動を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	館合地区環境保全会	代表	佐藤 三四郎
協定面積	田 392.3ha 畑 ha 計 392.3ha	対象面積	田 392.3ha 畑 ha 計 392.3ha		
管理施設	開水路 97.3 km ため池 ヶ所 農道 45.9 km		パイプライン km		
構成員	農業者 293人 農業団体 団体		非農業者個人 人 非農業団体 15団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの環境保全会は、地区内用排水路、農道等の維持管理に積極的に取り組み、農業の営農環境や自然環境を含めた農村環境を将来的に保全する活動として、非農家も含め取り組んできました。 今は、田舎でも地区住民が一同に会する機会もめっきり少なくなって来ましたが、この活動を通し地区内の老若男女総出の花の植栽、クリーンアップ、草刈り作業等の一服の時間に青空の下で地区住民の話も盛り上がりを見せ、昔ながらの「絆」を取り戻してきたように感じております。ほとんどが共同作業であり楽しみながら作業ができ、仕事の能率アップにも繋がったように思います。 これからも、この経験を生かし出来ることは地区全体で頑張っていきたいと思ひます。					
					
				親子会によるクリーンアップ活動を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	二井山地区農地・水・環境保全向上組合	代表	大塚 昭一
協定面積	田 50.58ha 畑 ha 計 50.58ha	対象面積	田 0.58ha 畑 ha 計 50.58ha		
管理施設	開水路 25.7 km ため池 3ヶ所 農道 18.4 km		パイプライン km		
構成員	農業者 人 農業団体 団体		非農業者個人 人 非農業団体 団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 組織が活動している当地域は近年、農業者の高齢化と少数化に伴い、担い手不足が見込まれる現状の中で農地・水・環境保全向上を目標に進めてられ併せて生まれ育った故郷の良さを愛する子供達が将来の担い手となって欲しいと願い、期待しながら生態系保全管理活動、更には女性部による景観形成の為に植栽管理を実施しながら共同作業の大切さを実感しておりました。 農地の基盤整備が行われていない山間地の草刈り。堰きの泥上げ、農道の補修等、保全向上を目指した5年間でしたがおおむねその活動の成果が得られたと自負しております。中でも地域の共同作業が復活し薄れゆきつつあった「事実」を取り戻したような気がしております。 山間地での農業を保全向上事業制度の基で実施して来ましたが農地・水・環境の持つ多面的機能に向う時、特に山間地用水の農業施設として、重要性を実感した。集中豪雨による河川の氾濫、法面の崩落による被害の大きい現状、河川的环境実害等は私達の山間地域では2年続けての被害を受け来年の用水施設管理にも影響を残る物と不安視しております。 小学生を主体にした生態系の保全調査活動による河川水の大切さを実感しながら遊ぶことを身に付け将来の創出になると同時に地域の「担い手」と成るよう願ひます					
					
				7月の日曜日に七滝川において親子地域住民と生物調査後稚魚の放流を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	矢神堰集落	代表	佐々木 節男
協定面積	田 67.48ha 畑 ha 計 67.48ha	対象面積	田 67.48ha 畑 ha 計 67.48ha		
管理施設	開水路 12.9 km ため池 ヶ所 農道 5.8 km	パイプライン km			
構成員	農業者 74人 農業団体 団体	非農業者個人 11人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち活動組織の目的は、地域住民が一丸となり農地の保全、農業施設の維持管理及び河川等の周辺環境の改善に取り組み、次世代の人々に安心して受け継ぐことが出来る地域づくりを目指すという活動でした。

この目的は、個々の力では到底なし得ない大きな目標でしたが、組織員一丸となり各事業へ取り組んだ結果、農地基盤整備から40年近く経ち、農業施設の老朽化が進み整備が必要でしたが活動開始から5年間の取り組みで、ほぼ全域を整備することが出来ました。

その結果、自分たちで整備してきた農業施設の維持管理に努めようとの気持ちが、全組織員に生まれてきたことを感じ取っています。

今後は、この5年間、活動してきたことを継続しながら、“自分たちの地域は自分たちで守り維持して行く”ことを確認しました。また環境保全等にも今以上に努力、住民が安心して生活できる地域作りを考えていきます。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	湯ノ沢環境保全会	代表	鈴木 秀一
協定面積	田 23.97ha 畑 ha 計 23.97ha	対象面積	田 23.97ha 畑 ha 計 23.97ha		
管理施設	開水路 4 km ため池 1 ヶ所 農道 3 km	パイプライン km			
構成員	農業者 38人 農業団体 1団体	非農業者個人 15人 非農業団体 1団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

湯ノ沢環境保全会は国道を境に湯ノ沢地域と上前地域に分かれており、農業用水は湯ノ沢ため池と湯ノ沢川を水源とし、山間部と平坦地が一体となった農業地区であり、難しい共同活動事業でありました。

最初はどんな共同活動事業が分かりませんでしたでしたが、1年2年と活動を実施したところ徐々に構成員親子会、一般住民にも浸透し共同活動結果も少しずつ見えるようになった。

さて、湯ノ沢環境保全会としては大きな事業として、5年計画で長年手のつけなかった水源、ため池のコンクリートブロック法面の目地詰め、土砂などが除去できたことと又構成員の方も水のなくなった、ため池の原形を見ることができたのでこれも一つの成果があったのかなと思われまます。

草刈りは、山間部の為田圃の面積が小さく、法面、路肩部分面積が大きく共同での草刈作業が困難で実施が難しかった。

農道は、毎年地区ごとに砂利補充を実施した結果、農業者をはじめ一般住民にも良かったと喜ばれた。

景観形成は、親子会の協力により花壇の花植え、周囲を清掃又水質のモニタリングによる水の汚れ、湯ノ沢川の源流観察など実施、少しは子供たちの勉強になったかと思ひます。

ただ共同活動に参加する人がいつも同じ、構成員も高齢者が多く声をかけてもなかなか参加する人が少なく残念だと思ひた。



ため池ブロック法面目地詰めと5年計画で概ね出来たため池のコンクリート状態

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	宇津野地域環境保全組合				代表	佐野 藤十郎
協定面積	田 43.2ha 畑 ha 計 43.2ha	対象面積	田 43.2ha 畑 ha 計 43.2ha					
管理施設	開水路 4.5 km ため池 ヲ所	農道	3.9 km	ハ°イ°ライン	km			
構成員	農業者 63人	農業団体	団体	非農業者 5人	非農業団体	団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たちの保全組合は中山間地に位置し、農業用水は地域を流れる清流地竹川を利用している。川には清流を棲家とする岩魚やヤマメが生息しており、その清流を守るべく環境にやさしい農業を持続し、子供たちにもその大切さを伝えることを目指してきた。5年間には最近特に異常気象等による施設内の破損や流失等があり、その度毎に組合の資金を活用させて頂き大変有難く思っています。更に近年地域の繋がりが希薄になる中で、共同作業を通し世代を超えた交流をし一段と地域の団結を深めました。特に、子供会による休耕田への花の植栽共同作業を通じ、農業への理解を深め、将来の後継者育成へ少しでもつなげられるものと思っています。								
								
6月の晴れた日曜日、お父さん、お母さんと花の苗を植えるお手伝いをしました。なかなか上手に出来なかったけど大変楽しかったです。外の空気もおいしかったです。								

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	ワークショップ下川原	代表	佐藤 順一
協定面積	田 52.04ha 畑 ha 計 52.04ha	対象面積	田 50.04ha 畑 ha 計 50.04ha		
管理施設	開水路 15 km ため池 ヲ所	農道	15 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 67人 農業団体 1団体	非農業者個人 23人	非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
ワークショップ下川原は、農業施設の適正管理、維持を主に目的として活動を行ってきました。この地域の農業用水路は、農業用資源であるとともに、防火用水及び冬期間の消流雪水としても使用されていて、また豪雨の際には沼館地区全体の排水路という地域住民の生活を守る地域用水としての役割も果たしています。その為、特に用水路管理は徹底し、水路のごみ上げ、清掃等の活動を中心として行ってきました。子供たちには、水路付近に設置する看板製作を依頼しましたが、私たちの予想を上回る良い看板が設置することができました。これをきっかけに水や環境、自分達の地域を少しでも意識してもらえればと思いました。そして私たちも活動することで情報交換や交流の場も多くなり、自分たちの地域を維持し、後輩たちにどのように引き継いでいってもらうのかを考えるきっかけとなりました。 この「農地・水・環境保全活動」を通して様々な問題点がわかりましたが、いろいろな職業や、立場の人が集まることで考え、行動していけば少しずつ解決していけると思っています。これからも地域の交流を大切にし、自分たちで出来る活動があれば続けていきたいと思っています。					
					
住宅地を流れる農業用水路、清掃活動の様子。重機などが使えないためすべて人力での作業となる。					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	八卦 水と緑を守る会	代表	畑山 忠
協定面積	田 64.2ha 畑 ha 計 64.2ha	対象面積	田 64.2ha 畑 ha 計 64.2ha		
管理施設	開水路 6.9 km ため池 ヶ所	農道	10.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 42人 農業団体 5団体	非農業者個人	2人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たち 八卦 水と緑を守る会の目的は、緑豊かな自然と環境の整備を行いながら地域の農地を守り、子供たちに素晴らしい形で残していきたいと思い活動に参加しました。個々の力では到底なしえない大きな目標でした。農地・水・環境保全向上活動は、農地や農業施設は単に食料供給だけでなく多面的機能を発揮する社会共通資本にあり、農業者だけでなく非農業者・多様な組織の方々に活動に参加して頂き、施設の機能回復と農村環境の維持保全が図られました。 夏の猛暑の中での草刈り作業は大変でしたし、農道や水路の補修などは道具を持ち寄ったり、非農家や若い人たちの協力もあってこそ活動することができました。 また老人クラブの方々や婦人会の方々の協力も得て花の苗を植え付けし、何度も除草をしてきれいに維持管理してもらい、素晴らしい景観ができました。 作業を通して世代を超えた交流の場や地域のつながりが強くなったように感じました。取り組み当初は戸惑いもありましたが、5年間で振り返り活動に取り組んで良かったと思っています。					
					
				水の使用時期を前にして、多くの参加者のもとに水路の護岸工事を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	石塚環境保全会	代表	高橋 良一
協定面積	田 94.7ha 畑 ha 計 94.7ha	対象面積	田 94.7ha 畑 ha 計 94.7ha		
管理施設	開水路 24.9 km ため池 ヶ所	農道	12.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 76人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの組織の活動する地域は県営のは場整備事業 (h19～22)と平行して活動する事になりました。整備された施設を末永く保全する為に、農道法面に防草シートを張りハーブ (ヒメイワタダレソウ) を植え付けて、法面の崩れ、雑草の繁茂を防ぐ事にしました。 その為に草刈りをなくしカメムシの繁殖を抑さえる効果もあるようです。 地域の主要道路でもあり通学路 (市道) の側面に景観形成の為に花を植えました。 親子 孫3世代協力して植えた花の通学路、地域住民の和が出来ましたことは喜ばしい限りです。 暑い中 草刈りや、泥上げは大変な労働ではありますが小休止等の時にはお互いに、励まし合い語り合い作業を通じて絆が育まれた事と信じております。 当会の運営 作業にご協力いただいた皆様 ご指導いただいた地域局の方々に感謝しております。 皆様ご協力有り難う御座います。					
					
				ハーブの植え付け作業しております	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	桑ノ木地域環境保全組合	代表	播磨 繁
協定面積	田 79.5ha 畑 ha 計 79.5ha	対象面積	田 79.5ha 畑 ha 計 79.5ha		
管理施設	開水路 14.8 km	ため池 ヶ所	農道 7.5 km	ハ゜イライン	1.2 km
構成員	農業者 250人	農業団体 4団体	非農業者個人 14人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域は昭和48年頃圃場整備が行われ、以後、主要給水路を除く農道、開水路の管理修復は農家個人に託されましたが全くの不十分でした。本事業に際し私達は営農環境の向上、農道を含む諸施設の修理、修復により良好な農業を営む事を活動の基盤とし、地域の子供達及び全構成員が土に親しみ農業を愛する心を育成する活動とすることにしました。

整備事業より30年余、繁茂する柳・ススキ等を重機等で除去し荒廃田を農地に復元しました。農道は不陸がひどく転作田におけるスイカの集荷等に苦勞しておりましたが碎石等で懸命の是正をお行い立派になりました。分岐タメマスの沈殿物による機能不全、開水路の目地落ち・破損による機能不良を沈泥の除去、目地詰め等で修復し作業の効率化を図りました。これを機にゆずり合いの気持ちが深まりました。

子供達との農業施設の清掃、景観用花苗の植栽、老人クラブによる植栽物の育成管理を通じ生活環境の向上、植物を愛する気持ちが培われました。近年では本事業を「環境」の言葉のもと地域社会の生活の一部となりました。



転作田スイカ集荷。秋の収穫直前、年2回碎石による不陸是正を5年回行い、立派な農道となりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	沼田環境保全組合	代表	佐藤 博典
協定面積	田 61.8ha 畑 ha 計 61.8ha	対象面積	田 61.8ha 畑 ha 計 61.8ha		
管理施設	開水路 5.8 km	ため池 ヶ所	農道 5.6 km	ハ゜イライン	km
構成員	農業者 64人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

初めた時は我々で出来るかなと自分自身でも半信半疑のまま取り組みはじめた「沼田環境保全組合」でした。当地区では、地域60数世帯のみんなが集まり、議事を行い、話し合い、物事を決めるという作業自体が初めての事であり、本当にやりきる事が出来るのかと戸惑いがありました。

なにもかも初めて総会、協同活動でどうなるかと思いましたが、私自身一番感じた事は20代、30代、若い人達の柔軟性と行動力でした。頼まれた事は文句も言わず動いてくれ、こうしたらいいと思う事は自分の言葉で積極的に提言。それにつられてか親子会の若いお母さん達も自主的にこの事業の枠組みの中で、自ら取り組める年間計画を作ってくれたり、今まで知らなかったこの地区の力を見せてもらえました。その姿勢に刺激されてか、年配の皆さんも序々にでありますが活動に取り組んでくれました。

5年前と今を比べれば、開始当初は農業を主体に活動していた方々だけの集まりでしたが、年々認知されるにつれ、地域のための活動に変化したと思えます。

年々、地区の平均年齢が上がっていきながら、この環境保全活動をとおして次の世代にしっかりとこの地区を託す事ができると私自身が思いました。

非農家の皆さんにも農業施設が暮らしの中の大切さを理解していただく事ができ、地域としても新たな結びつきを持つことができ、大変でしたが良い活動をさせてもらったと思います。



春の共同作業の集合時の写真。1つの活動を通じて年代問わず会話するようになり、地域の結びつきが強くなった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	金谷地域環境保全向上活動組織	代表	中村 修二
協定面積	田 32ha 畑 ha 計 32ha	対象面積	田 32ha 畑 ha 計 32ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 ヲ所 農道 4.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 26人 農業団体 1団体	非農業者個人 30人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は、出羽丘陵に抱かれた集落に位置しています。緑豊かな風景を守り続けることが後世への「タスキ」と先人たちは汗と泥まみれを惜まず礎を築き渡してくれました。しかし、経済構造の変化に対応できない現世代は耕作放棄地の拡大、施設の老朽化に歯止めをかける術の知恵すら出せない状況でしたが、5年前から村内が一変しました。遊休農地の草刈り共同作業、泥堆積で湧き出る流れの用水から泥上げ、農道轍の段差解消に砂利補充の共同作業等は高齢者ドライバーから感謝の言葉をかけられました。

県道路肩への水仙球根植栽、花苗の植栽、花を枯らすまいと猛暑の中、水かけ作業等で小学児童との「絆」は次第に強まり登下校のみならず、挨拶を自然に交わせる村内環境に変化したのは活動の大きな成果と思われます。

米作りの重要な条件である水を確保する為に共同で土砂利上げ、草刈り、金谷堰きの倒木処理、目地詰め等の作業に本腰で取り組む機会を与えてくれた制度には感謝します。

自立できる地域活動を目指す、第一ステップの5年は活動趣旨に対する理解が深まり全体の盛り上がりを感じ取れた活動期間であったと自己採点しています、地域は冬期除雪作業迄、輪が広まり「地域の絆」を強めたのが成果です。



稲刈体験児童は、春の田植え体験から始まり稲刈と杭かけ作業、もちつき体験は10月30日地域との交流を兼ねて行われる、児童からは来年も、元気な声がかかる。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	下村地域環境保全推進集団	代表	高田 隆男
協定面積	田 85.7ha 畑 ha 計 85.7ha	対象面積	田 85.7ha 畑 ha 計 85.7ha		
管理施設	開水路 20.4 km ため池 ヲ所 農道 8.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 69人 農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当下村地域は、国の農業構造改善事業や土地改良総合整備事業の導入により、農地・農道・用排水路等の農業用施設の維持管理のため、地域の受益者による共同活動により、施設の適正な維持管理に努めてきました。

また、地区内の河川や環境用排水路等の維持管理も積極的に取り組み、農業の営農環境や自然環境面での地域の役割を担ってきております。

しかし、近年の農業従事者の高齢化が進み、農業用施設の維持管理面の作業が地域の農業担い手へ集中し、地域環境の保全活動までは作業が及ばない状況にありました。

本共同活動の導入により、地域の老若男女が積極的に作業活動に集い、地域の美しい自然環境を保持し、農業施設をはじめ、地域の資源を守る活動が実行できたと感じております。

また、地域ぐるみで取り組んだ、共同による泥上げや草刈り、春秋のクリーンアップ、そして、みんなで作業した長距離にわたる花植えなど、地域住民の益々の「絆」が深まり、地域の環境や自然資源を守る意識が育まれたと感じております。



地域の子供たちを中心に住民みんなで、延長約400mの道路路肩へ花植え作業を毎年行っております。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	上村環境保全会	代表	佐々木 誉
協定面積	田 27.5ha 畑 ha 計 27.5ha	対象面積	田 46.0ha 畑 ha 計 46.0ha		
管理施設	開水路 13 km	ため池 ヲ所	農道 7 km	ハ イ プ ラ イ	km
構成員	農業者 33人	農業団体 1団体	非農業者個人 27人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち上村環境保全会は、農作業や環境保全活動を農家・非農家が一緒に行い、より良い地域を創っていかうということを目的に、「会の活動は地域づくりそのもの」という思いで5年間活動を行ってきました。

活動は、30～40代の比較的若い人達を中心となってい、農家、非農家、小学校の親子会や婦人部など様々な方々と連携・協力しながら、農地水環境向上対策事業を活用し、地域に新たな「風」を起こすことが出来たと自負しております。

活動の参加者からは、「こういう作業もしろう」、「もっとこうしたいほうがいい」など積極的な意見も出て、共通の目的をもって活動することで豊かなソーシャル・キャピタルが形成されはじめてきています。

非農家で30代の私が代表ということで、活動初期の頃はいろいろな方に多数ご迷惑をおかけしたことと思います。5年間活動できたのは、上村部落会をはじめとする各会、会員の皆様の地域への熱意とご理解、ご協力があったからと感じております。厚く御礼申し上げます。

これからも自分たちの地域は、自分たちで創っていきましょう！



交通量の多い市道脇の遊休農地に植栽し、見事にひまわりが咲き誇りました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動)

市町村名	横手市	組織名	神成環境推進隊	代表	成田 修一
協定面積	田 66.3ha 畑 ha 計 66.3ha	対象面積	田 66.3ha 畑 ha 計 66.3ha		
管理施設	開水路 35.1 km	ため池 ヲ所	農道 2 km	ハ イ プ ラ イ	km
構成員	農業者 34人	農業団体 団体	非農業者個人 45人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

神成環境推進隊は、緑豊かな水田と環境を保全するために、活動を進めて来ました。春の地域内のクリーンアップから開水路の泥上げ、草刈りと農業者を中心に活動を行いました。地域内の環境保全にも力を入れ、地域内に植栽を行いました。この活動は非農業者の参加も多く、地域内の世代を超えて多くの参加者がありました。活動を始める前は、世代を超える交流等はほとんど無い状況でしたが、この活動を通し子供から年配の方々まで活動に参加し交流が深まり、特に年配の方々から喜びの声が絶えませんでした。

植栽は、毎年330鉢のプランターに花のマリーゴールドを植え地域内に設置、皆でプランター管理を行いました。

地域内どこを見ても綺麗な花が咲き、とても良い生活環境が維持できたと思います。これからも、地域一丸となって素晴らしい農業環境が維持できるよう頑張っていこうと思ひ、こうと思ひ、こうと思ひます。



毎年6月に、世代を超え多くの参加者で植栽を実施しました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	末野地区環境保全組合	代表	佐々木 勝好
協定面積	田 33.58ha 畑 ha 計 33.58ha	対象面積	田 33.58ha 畑 ha 計 33.58ha		
管理施設	開水路 12.8 km ため池 ヲ所	農道	4.6 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 36人 農業団体 8団体	非農業者個人	人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織が活動する目的は、3つの集落が協力して、農業施設の維持管理をするほか草刈りや水路の土砂上げ・花植え等の景観整備活動を行うことでした。

事務担当に言わせると、報告ものや一連の証拠書類・写真が細か過ぎること。また、総会・役員会の議事録まで必要だろうかとのこと。活動区分の活動項目が細かくかつ施設ごとに同じ項目が出てくるので、ややこしく、それ毎の証拠写真を必要とするのは、とても煩わしい作業のようである。もう少し簡略化して頂きたいものである。

農道草刈りは、一斉に行うため病害虫の防除効果も高く米の品質向上にも貢献している。あっちやったりこっちやったりすると、やってない所に害虫が移動するので、一斉草刈りの効果は大きい。

花植えは老人クラブと小学校親子会が一生懸命がんばってくれてます。プランター植え、地植えともその年の気候により綺麗に咲いたり、そうでなかったり。毎々が勉強ですが、楽しそうにやっています。

これからも、自分たちの地域農業を自分たちの力で守り、活性化していきたいと思います。



農道草刈り終了後の休憩風景

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	中房地域資源保全推進集団	代表	菊地 正男
協定面積	田 45.54ha 畑 ha 計 45.54ha	対象面積	田 45.54ha 畑 ha 計 45.54ha		
管理施設	開水路 17.0 km ため池 ヲ所	農道	3.4 km	ハ イ° ライ	km
構成員	農業者 42人 農業団体 1団体	非農業者個人	27人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

集団は、土地改良区内の農業施設の維持管理に取り組み、農業の営農環境や効率的な営農活動を図り、農村環境を将来的に保全する地域自然を守る活動に取り組みました。基礎部分では、農道等への砂利の補充、交差する施設の舗装による長寿命化、水路等の泥上げ、柵等に溜まった泥等の選別による各施設への補修に繋がる活動（環境にも繋がる）農地・水向上では、きめ細やかな雑草対策＝管理組合が責任を持って管理すべき換地面積があり一斉に刈り取る事は病害虫発生防止からも大変有効な活動となりました。

ゲート類等の保守管理の徹底＝ゲートの塗装、グリスアップ、冬季の囲いによる長寿命化活動。農村環境向上＝水質保全の水質モニタリング、生態系保全の親水施設での上溝川へのイワナの放流による地域住民との交流（地域自然の恵）。

生活環境保全、景観形成のための施設への植栽施設への花苗の植栽は6月から10月まで田舎の田園風景に美を添え地域住民による施設等の定期的な点検清掃にも繋がる活動。点検活動、機能診断、異常気象後の点検は施設の長寿命化に繋がる貴重な体験となりました。



組合が責任を持って管理すべき換地部分が多面にあり、きめ細やかな雑草対策は減農薬に繋がり、農村環境にやさしい病害虫発生防止活動でした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市・大仙市	組織名	大平地域資源保全推進隊	代表	平元 茂
協定面積	田 13.0ha 畑 ha 計 13.0ha	対象面積	田13.0ha 畑 ha 計 13.0ha		
管理施設	開水路 2.8 km ため池 ヲ所	農道	1.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 13人 農業団体 2団体	非農業者個人	3人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの活動組織は、水利組合を母体に開水路からなる対象水田を範囲として構成しました。農業用水は、防火用水、生活用水、融雪水など多目的機能もち地域にとって必要不可欠ものです。しかしながら、水路の老朽化に伴う漏水や大雨による水路決壊などが続き組合や農家経済に影響及ぼす状況の中、地域住民の理解と協力により、U字溝の設置や泥上げなど構成員として5年間本事業に従事していただきました。水路補修延長1.2km完成により、この5年間の活動を振り返り、農業施設のみならず集落で管理する消防施設や景観施設等の維持活動も継続してこととしました。

また、集落を流れる一級河川管理道(堤防)の草刈作業を県より受託し、営農に大切な病虫害防除の予防活動も実施する予定です。

山間地の豪雪地帯でも、本事業の有効利用と、効率的な活動は集落民の共助力アップに結びついたのでと感じてます。



構成員自ら建設機械を操作しながら、基幹水路施設の設置や補修等を1.2km完成する事ができました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	本郷地域環境保全集団	代表	丹波 隆治
協定面積	田 39.5ha 畑 ha 計 39.5ha	対象面積	田 39.5ha 畑 ha 計 39.5ha		
管理施設	開水路 13.83 km ため池 ヲ所	農道	6.295 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 52人 農業団体 2団体	非農業者個人	4人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の組織は、この共同活動を通して意識的に今までには無いものを得たと感じております。県営ほ場整備事業が完了してから35年以上が経過し老朽化や維持管理等の問題が山積しているこの地において、現状の先の見えない農業情勢の傍ら、個人主義的な感情にとらわれがちになっていた構成員の気持ちの中に、新鮮であり且つどこか懐かしいような息吹が感じられるようになりました。一人では到底でき得ない作業も協力する事によって、施設の懸案事項を一つずつ解決して行く様は、時に感動も与えてくれました。

活動内容としては、延べ300mを超える水路の勾配修正を独自で施工したり、年次計画に沿って重機を使用した排水路の土砂上げや農道の整備、世代間を超えた景観作物の栽培はお年寄りと子供達の笑顔が満ち溢れていました。

この5年間の活動によって多機能を取り戻した農業施設や農用地等を、今後は戦略的な活動にステップアップして地域の活力を復活させる一助になれば幸いと思っております。また、私達の組織も高齢化が深刻であり、作業能率と経済面とのギャップによって経営悪化を余儀なくされており、この事業を通して「結い」の精神を培った若い世代が今後の集落を統率してくれる事を節に願うものです。



老人会と親子会との共同作業を実施、初めての体験で見事に咲いた向日葵を記念に「ハイ、ポーズ!!」

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	十日町環境整備組合	代表	太田 明雄
協定面積	田 12.1ha 畑 ha 計 12.1ha	対象面積	田 12.1ha 畑 ha 計 12.1ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 ヶ所 農道 2.2 km	ハ イ プ ラ イ ン km			
構成員	農業者 18人 農業団体 団体	非農業者個人 3人 非農業団体 6団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

十日町環境整備組合が、農地・水事業に取り組んでからは、地域がだんだんと年を追うごとに綺麗になり、農地、農道 水路の草刈、道路脇の空き缶のポイ捨て減少、次第に田園風景が戻りつつある間が致します。この事業の発足によって、地域の絆が自主的に非常に強くなり、農業を通じて子供から老人まで、一体となり1つ・1つの事業に参加し、親から子へ、子から孫へと仕事のやり方、方法を教え合い、親子 孫子のふれあいの場、話題の提供がなされております。

私達の地域でも過疎化が進み、隣近所間が疎遠に成りつつ有るのが現状です。農地・水事業を通じて地域の(和)を広げ、遊休・荒涼農地の撲滅、地域活動チェック表の実施生活環境保全活動及び、町内クリーンアップ等の美化運動そして、子供から老人クラブまで6月～10月までの管理する「花っこ」運動等が年を追うごとに整備されて来ていると感じております。反別は少ないですが遊休農地は一箇所ありません。構成員の努力の賜物です。作付け前の活動チェックも念入りに多くの目でチェックいたし修正いたします。少子高齢化の時代、自分たちの地域は自分達で守り育て、そして後世に語り継ぐ、集落の原風景を壊さず引き継ぐ為にも、この事業を継続していただきたい。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	新古内地域資源保全推進集団	代表	柿崎 孝一
協定面積	田 52.1ha 畑 ha 計 52.1ha	対象面積	田 52.1ha 畑 ha 計 52.1ha		
管理施設	開水路 16 km ため池 ヶ所 農道 7.7 km	ハ イ プ ラ イ ン km			
構成員	農業者 56人 農業団体 2団体	非農業者個人 9人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

当事業導入により地域は自らの手で守り、将来に繋げようという機運が高まったと思う。

当地区は平成16年に担い手事業によって用排水路を整備しましたが、積雪等により陥没や目地からの漏水が目立ってきました。5年間毎年施設の点検をし、完璧に修繕してきました。また、機械の大型化によって傷みの激しい農道も構成員の出務と機械類の提供により補修してきました。また、畦畔の再築立により水田の管理も行き届き、代掻きも無水状態で行うなど濁水を流すことでの環境破壊はしないという意識も定着してきました。目に見える形での環境整備も5年間つづけてまいりました。1.4キロに亘る基幹農道の両脇に防草シートを張りつけ、ヒメイワダレ草を植付けました。年3回の除草作業を行うことにより緑のシートに白い花が通る人の目を楽しませる営農ロードが完成しました。

子供たちには、5年間環境保全のポスターを制作してもらい公民館等公共施設に掲示して頂いたほか、水質調査活動、道路わきの空き缶拾い等積極的に参加してもらい地域住民との絆を深めると同時に、農業の大切さ、自然を守ることの必要性を理解してもらえたと思う。この親子会のほか、自治会、高齢者クラブ、消防団、青年組織、女性部など、集落のあらゆる組織の参加協力を得て活動できたことが最大の成果でした。



5月の連休に農道わきに防草シートを展開、1カ月後ヒメイワダレ草を定植した。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	仁井田地域資源保全推進集団	代表	石川 清五郎
協定面積	田 72.65ha 畑 ha 計 72.65ha	対象面積	田 66.15ha 畑 ha 計 66.15ha		
管理施設	開水路 16.3 km ため池 ヶ所	農道	6.9 km	ハ゜イ°ライン	km
構成員	農業者 95人 農業団体 2団体	非農業者個人	9人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全集団は"水清き 緑豊かなふるさと"づくりを目的として、地域の資源としての農地や農業用施設が、食料生産施設であるだけでなく、多面的な機能を備えもつ施設であることを再認識し、地域の生活環境の向上と、資源保全のために活動してまいりました。非農業者の方々にも参加いただき、親子会や老人クラブ等仁井田郷中の多様なグループを当活動の構成団体として、老若男女の住人が活動を通じて交流できる事の楽しさと意義を深く感じております。

活動は4月に始まり基礎活動としての開水路の泥上げ、全施設の草刈、農道整備など、農地・水向上活動では施設の長寿命化に向けた補修、カメムシ対策の草刈など、農村環境向上活動では、親子会と一緒に仁井田地域内を流れる成瀬川と皆瀬川及び生活排水路など水質モニタリングの実施、水田からの排水(汚濁)管理など、景観形成の為の植栽活動では、遊休農地発生防止対策として、菜の花、ひまわり等の植栽、親子会による通学路への花植え、路肩への花壇設置等実施いたしました。

全活動を通じて農業への理解を深め、資源保全の必要性を改めて理解して頂けたと感じております。



6月地域住民による花壇への花植、親子会による通学路への花植えが実施された。参加者58名

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	富沢集落活性化協議会	代表	佐々木 茂晴
協定面積	田 120.1ha 畑 ha 計 120.1ha	対象面積	田 120.1ha 畑 ha 計 120.1ha		
管理施設	開水路 28.29 km ため池 ヶ所	農道	16.29 km	ハ゜イ°ライン	km
構成員	農業者 85人 農業団体 3団体	非農業者個人	127人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

富沢集落活性化協議会の活動は、結いの復活と集落の活性化のテーマのもと初年度より話し合いの中で基礎部分である農道と水路が最近特に荒れてきていると言う結論から、農道の砂利敷きと用排水路施設の整備に重点を置いて活動をしてきました。

春のクリーンアップから、休耕田を借りての花壇造成、水路の泥上げと草刈、農道の砂利敷きと橋の補修(20箇所)、U字溝の補修、未整備地区もあり12月の雑木の伐採まで、多様な活動で非常にに密度の濃いものでした。これも形あるもので将来に残したいという一環した考えからです。

最近、農村環境が荒廃してきている現状を見て誠にタイムリーな事業であり感謝しておるところです。私達は特に目新しい活動はしておりませんが、地域の環境は農業者非農業者にかかわらず、皆んなで保全していくんだという姿勢が生まれてきた感じがして頼もしく感じられます。次年度から、農地・水保全管理支払い事業の新活動が始まりますがますますの発展を期待をしています。最後に小学生の皆さんから、80才代の年長の方まで農地・水の活動に参加していただきありがとうございました。



重点活動の農道砂利敷き作業状況

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	能平喜環境保全活動事業組合	代表	大山 晴美
協定面積	田 50.8ha 畑 ha 計 50.8ha	対象面積	田 50.8ha 畑 ha 計 50.8ha		
管理施設	開水路 13.4 km ため池 ヶ所	農道	8.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 34人 農業団体 1団体	非農業者個人	15人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の地域は、平成10年に2度目の圃場整備事業を終え大型水田に生まれ変わりました、大型機械だけが圃場を行き来するだけで、圃場の中で作業をする人がいないのが、今の農作業風景のようです。昔の農作業は隣近所、家族総出で協力しあい、ほとんど、人の手による作業だったと思います。機械の普及により人の力も少数で済み地域の共同作業らしきものがほとんど見られないこの頃です。農地水向上活動の参加計画を聞いたとき果たして構成員の人々がこの事業に参加協力してもらえるか疑問でした。この組合のメイン事業は市道路肩に2000本.500mの花の植栽計画でした、各役員で、役割分担をし土づくりから作業を始め準備しました。いよいよ植栽予定日になり、参加者が大勢集まってくれる事だけが願いでした。心配とは裏腹に地域構成員の大半の参加を頂き、作業も順調に進み予定どうり終わることが出来ました。大勢集まって会話しながらの作業は、楽しかったと、嬉しい反響でした、その後の管理等の協力を得見事な景観を作る事が出来ました。この事業を5年間継続出来たのは、共同作業を通じ、昔のような会話、助け合い人との触れ合い等多くの良い面が集落に又芽生えた事で参加協力してくれたものと確信しています。



植栽株数2000本、延長500m構成員の協力で5年間見事な景観を作ることができました

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	荒田目環境保全活動組合	代表	佐藤 京功
協定面積	田 35.3ha 畑 ha 計 35.3ha	対象面積	田 35.3ha 畑 ha 計 35.3ha		
管理施設	開水路 12.0 km ため池 ヶ所	農道	5.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 21人 農業団体 団体	非農業者個人	8人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の環境保全活動組合地域は、担い手整備事業が平成12年度に終わってまもない処です。用、排水路などの施設の破損箇所等を、早期に発見し対処して地域のみんなで、農業施設を長持ちさせようと認識していただきたいと思いました。私達の地域は、緑豊かな水田単作地帯で100a区画が並ぶ代表的な水田地域で、この地域を皆瀬川水系で流れる湧水を、次世代へ受け継いで行くことが目標として、5年間、用、排水路の泥上げ作業などを農業者、非農業者29名全員でおこない、施設の機能回復と、環境の維持、保全が図られました。また、農業施設の保全管理のほかにも、農地畦畔、農用地の路肩法面の草刈り等の作業実施、農道への砂利補充、コーキング材で用水路の目地詰めなどの実施。

水路のゲート類の保守管理、ペンキ塗り（腐食防止）また冬期にはブルーシートで覆い防寒対策をしました。

実施し自然を守ることの必要性を改めて理解して頂けると感じております。景観形成では、構成員、老人クラブ、なかよし会、全員参加しそれぞれの担当もあり、6月～花壇作り、水路沿い農道法面へコスモス、サルビア、マリーゴールドを植栽。7月～花の管理。水やり、肥料散布などの作業、8月～花の植栽後の除草作業、水やりなど、9月～維持管理等、10月～花の終わりに付き撤去、清掃作業実施、取り組み当初は戸惑いもありましたが景観形成活動には、会員総参加となり、地域の「絆」が出来たと感じました。

相互的には、農業への理解を深め、自然を守ることの必要性を改めて理解して頂けたと感じております。

これからも、自分達で出来ることは、自分達でがんばろうと思いで盛り上げて行きたいと思ひます。



構成員、老人クラブ、なかよし会で水路沿い農道法面へ花の植栽・草むしり等の維持管理をして景観形成活動を行います

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	植田環境保全集団	代表	梅津 克義
協定面積	田 157.5ha 畑 ha 計 157.5ha	対象面積	田 157.5ha 畑 ha 計 157.5ha		
管理施設	開水路 46.7 km ため池 ヲ所 農道 15.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 122人 農業団体 1団体	非農業者個人 116人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当団体では、『美しいふるさと環境を次世代へ引き継ごう』を合言葉に活動を実行してまいりました。

この活動を始める以前から、神木会を中心とした『花いっぱい運動』や自治体による春先の『缶拾い』、親子会の主催による『夏休み・道ばたと水路のゴミゼロ運動』など、多くの活動を実行しておりましたので、当初から参加者人数の不安はありませんでしたが、それぞれの活動に繋がるものはなく、独立行動の印象でありました。

しかしこの共同活動事業が発足してからは、立案も含めた計画実行に対する意見が多く寄せられるようになり、その関心度も以前の比ではなく、全事業の繋がりが感じられるようになり、事業の有意義さを痛感しております。

特に花苗植栽運動におきましては、子供や女性の参加増が顕著であり、取り組む作業表情にも関心の高さが覗われるなど、本事業に参加して本当によかったと感謝をしているしだいであります。

今後もみんなで、よい環境づくりに尽力してまいります。

植田環境保全集団 代表 梅津克義



花苗植栽運動は、年々参加者が増え、殆どの家庭で老いも若きも参加するメイン事業になりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	越前地域資源保全推進集団	代表	佐藤 逸郎
協定面積	田 74.08ha 畑 ha 計 74.08ha	対象面積	田 74.08ha 畑 ha 計 74.08ha		
管理施設	開水路 17.81 km ため池 ヲ所 農道 6.477 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 35人 農業団体 1団体	非農業者個人 10人	非農業団体 8団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集団では、圃場中心部に直線部分が約1km(当集落600m)の町道があり殺風景な田園風景がつづいていました。そのため町道の路肩部分に隣接組織と一緒に植栽をすることにより、景観豊かな田園風景にすることを計画し5年間実行してきました。

本活動により地域住民全員がそろうことにより、普段はなかなかできない老若男女及び児童すべてのスキンシップをとることができ、集落に一体感がうまれ集落全体が明るくなり本活動以外の集まりも良くなったように思われます。

また、春作業の農地掃除や代掻きの濁水管理、農地・農道等の草刈り作業、その他多数の共同活動をするにより、今まで意識が低かった環境への意識も芽生えたのではないのでしょうか。これらの経験を生かし今後も環境、各共同活動において集落全体でとりくんでいこうと、構成員全員で話し合っているところです。集落全体で地域の活性化に努め、明るい農村を築くことができるように努力していきます。

こういう気持ちが出てきたのは、本活動のおかげだと感謝しています。



5年間すべての年度で全集落の構成員(小学生・児童含む)による花の植栽活動により地域の景観を形成することができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	二ツ橋環境保全会	代表	鷹田 直
協定面積	田 86.0ha 畑 ha 計 86.0ha	対象面積	田 86.0a 畑 ha 計 86.0ha		
管理施設	開水路 14.2 km ため池 ヲ所 農道 9.6 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 65人 農業団体 1団体	非農業者個人 53人	非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

いままでは、受益者たちによる草刈り、泥上げ等の共同活動はおこなっておりましたが、この事業に参画することにより、地域住民の景観等資源保全への関心が高まり、草刈りや花の植栽等様々な活動に対して、構成員はもとより、子供や女性・年配者も参加するようになりました。

この5年間の活動は、地域のコミュニケーションを保ち、地域の為“自分たちに出来ること”を再認識させた意義深いものがありました。

今後も、地域一丸となり、貴重な美しい農村風景を保ちながら、未来に繋げて行きたいものです。



5年間、この施設へ、花の植栽を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	木下・北沢地域環境保全組合	代表	菊地 豊晴
協定面積	田 70.90ha 畑 ha 計 70.90ha	対象面積	田 70.90ha 畑 ha 計 70.90ha		
管理施設	開水路 16.8 km ため池 ヲ所 農道 6.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 49人 農業団体 1団体	非農業者個人 10人	非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達、木下・北沢地域環境保全組合の活動目的は、地域の活性化、農業施設の環境整備などを行ってきました。特に景観形成活動に力を入れ、子供達と睦寿会の交流を目的とし植栽活動と啓発活動として視察研修を5年間行い、集落の一大イベントとなりました。毎年、視察先を探すのに一苦勞致しましたが40人～50人参加して頂き、地域の活性に役に立てたと思っています。

農業施設の老朽化が集落の問題となっていました。農道の補修、目地詰め、泥あげ作業には農業者の方々に参加して頂き、老朽化が抑えられたと思います。。排水路では、U字溝が泥で埋まり水が流れない所があり、機械を使用し泥上げ作業してきました。土地改良区に委託した年もあり、この対策が無ければ出来なかったと思われます。

5年間活動してきて、今後、どのように管理、維持をしていくか課題が残っていますが、地域全体で盛り上げて行きたいと思っています。



子供達と睦寿会の交流を目的とし植栽活動。

平成21年に市道わきを埋め立てて両側に植栽しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	左馬地域資源保全推進集団	代表	高階 房夫
協定面積	田 22.89ha 畑 ha 計 22.89ha	対象面積	田 22.89ha 畑 ha 計 22.89ha		
管理施設	開水路 9.08 km ため池 ヶ所	農道	3.12 km	パイプライン	km
構成員	農業者 14人 農業団体 1団体	非農業者個人	4人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が活動する範囲は、昭和47年頃の県営圃場整備事業が完成し、面積は約23haと少なく、事業完成から約38年を過ぎ農業施設(開水路・農道・農用地等)の破損ヶ所も見られるようになり、この事業の取り組みに農業者以外の方たちも理解を示していただき、協力をいただき、農道補修、水路の泥上げ、開水路の補修等、農業用施設を長持ちさせる取り組みに農業者、非農業者のみなさんに参加していただき、地域の共同意識が今まで以上になったと思われる。

また、当地域は白鳥、冬鳥が飛来する皆瀬川の流域にあり緑豊かな田園地帯であります、この事業で取り組んだ景観形成では老人クラブ、婦人会、親子会等地域住民皆でコスモスの栽培、花の植栽に取り組みこの事業に取り組むまえには見られなかった、子供から老人に至るまでの人たちが地域の景観を維持しようと作業する姿が、この事業に取り組む前よりも地域の一体感より大きくなったと感じます。ここは18戸の小さな集落です、当事業に取り組んでから共同活動に参加してくれる地域住民(組織員)が、この小さな集落にこんなに多くの人がいたのかと、この事業を通じてあらためて感じました。



6月に播種したコスモスを7月に老人から子供まで地域の人たちが出て、除草中耕等の作業を行っております。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	宿地域環境保全会	代表	土谷 昭市
協定面積	田 21.2ha 畑 ha 計 21.2ha	対象面積	田 21.2ha 畑 ha 計 21.2ha		
管理施設	開水路 3.6 km ため池 ヶ所	農道	4.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 22人 農業団体 団体	非農業者個人	5人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全会では、平成18年度からモデル事業に取り組み、当初から農業者以外の方々も構成員となり進めてまいりました。

農業施設の管理では代掻き後の泥水の排水溝への防止に取り組み、排水柵の設置を5年間で行いました。

草刈・農道の砂利敷き等についても、みんなで協力しながら行う事で、地域営農活動への励みとなりました。

又、春のクリーンアップや景観形成事業(ひまわりの植栽)では地域のみなさんが5年間参加、協力し合う事で地域のまとまりが生まれて来たように思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	館前地域資源保全推進集団	代表	斎藤 孝悦
協定面積	田 24.36ha 畑 ha 計 24.36ha	対象面積	田 24.36ha 畑 ha 計 24.36ha		
管理施設	開水路 5.94 km ため池 ヶ所 農道 3.64 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 13人 農業団体 団体	非農業者個人	16人 非農業団体 団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全隊の活動の目的は、生まれ育った故郷館八の自然を農業の環境整備を行いながら子供達や孫達にすばらしい形で残していこうとしている活動ですが、個々の力では到底なし得ない大変大きな目標でもありました。沢山の方々の協力、そして何よりも故郷を愛する方々の熱い心が、本活動を支えて下さったものと感じております。この「農地・水・環境保全活動」は農地や農業用施設は単に食料供給だけでなく、多面的機能を発揮する「社会共通資本」であり、農業者だけでなく、非農家等多様なグループの参画で活動頂き、施設の機能回復と農村環境の維持保全が図られました。夏の猛暑の中で草刈り作業は大変でしたが、非農家の若い人の協力もあって、作業を通じ世代を超えた交流の場となり、地域の「絆」が出来たと感じました。

「環境保全」活動は、地域住民の老若男女（親子や孫）の総参加による花の植栽の共同作業が楽しかった。

農業用水が持つ多面的機能、特に冬場の消流雪としての利用に理解を示し、地域みんなで農業施設を”長持ちさせよう”、”自分達で出来ることは自分達で頑張ろう”という機運が生まれました。



6月の中旬、花苗の植え付け作業を行いました。構成員、親子会と共に共同で作業を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	川前環境保全活動集団	代表	土屋 均
協定面積	田 38.15ha 畑 ha 計 38.15ha	対象面積	田 38.15ha 畑 ha 計 38.15ha		
管理施設	開水路 6.5 km ため池 ヶ所 農道 4.8 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 33人 農業団体 1団体	非農業者個人	25人 非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

活動集団では烏海山と雄物川が一望できる自然豊かな地域にあって、遊休農地を利用した花いっぱい運動に取り組みました。活動は老人クラブ・親子会・婦人会など老若男女が参加して集落の一大イベントになりました。活動当初は「どこの嫁さんだべ」「あそこの元気な子供はどこの孫だべ」など顔は見たことあるが、話したこともあいさつもしなかった人たちだった。しかし、回を重ねるごとに、世代を超えた交流の場となり、一人暮らしの人や、子供が仕事で遠くにいてさびしい思いをしている人たちにとっては、楽しいひと時となり、地域の”きずな”が深まったように感じます。

農用地、開水路の泥上げ作業では、農業者が中心の活動だったが、農業用水の持つ多面機能に理解を求めるため、地域みんなで行うことにより、農業施設を「長持ちさせよう」という機運が生まれた。草刈り作業では、一斉実施するため害虫の発生を抑えることができ、活動を始めてからは、害虫による被害米が少なく非常に感謝されている。

これからも、”自分たちでできることは自分たちでがんばろう”の精神で地域を盛り上げたいと思います。



おじいちゃん、おばあちゃんは子供たちに作業の仕方を教えながら和気藹々と行っていた

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	砂出福島資源保全会	代表	山本 輝悦
協定面積	田 57.9ha 畑 ha 計 57.9ha	対象面積	田 57.9ha 畑 ha 計 57.9ha		
管理施設	開水路 26,5 km ため池 ヶ所	農道	1.0 km	パイプライン	km
構成員	農業者 58人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち砂出福島保全会は、緑豊かな水田を有する農村の原風景を守ることと、水路や農道の維持管理を通して現在ある農業用施設を守ること。また、その活動を自分たちで実施することで、現在ある資源を大切に使う気持ちと育むという目標をもって活動してきました。

春の雪消えとともに、区域内の施設状況をしっかりと確認することから始まり、親子会によるクリーンアップ活動でのゴミ拾いと、集落総出の泥上げで活動を開始します。夏から秋にかけては各農家による草刈り作業を行い、農繁期を過ぎた頃からは壊れた水路や法面の補修、農道への砂利敷き作業などを行うことで施設を維持してきました。

環境保全活動としては、県道脇や農用地を利用した植栽活動に力を入れ、集落の子供たちを含む多くの人に参加してもらうことができました。世代を越えた交流の場として集落の結びつきを強める役割を担っていたと思います。

今後、集落の高齢化がますます加速する中で、自分たちが住んでいる集落とそれを取り巻く環境や施設を守ることの重要性がますます高まっています。そういった意識を育むとともに、子供たちに誇れる集落が継承できるよう今後も活動に取り組んでいきたいと思っています。



多くの子供たちも参加した植栽活動。集落の結びつきを高める活動になれたと思います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	サン・ビレッジ別明	代表	佐藤 忠道
協定面積	田 34.8ha 畑 ha 計 34.8ha	対象面積	田 34.8ha 畑 ha 計 34.8ha		
管理施設	開水路 7.7 km ため池 ヶ所	農道	2.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 33人 農業団体 2団体	非農業者個人	2人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの組織が5年間活動して来た主なるものは、水路側溝の泥上げ、農道の砂利補充、畦畔の再構築、破損施設の改修、水質モニタリング(年6回)、景観作物の植栽、EM活性液の活用等が上げられます。

色々な活動で一番参加者が多く、盛り上がったのは、集落の老若男女(親や孫)の総参加による花の植栽でありました。その作業の中で、年代を越えたコミュニケーションが生まれて来たと思いました。

又、5年間の活動を通じて、昔の様な集落の纏まり(絆?)が復活したような感じを受けました。今後、芽生えた絆を大事にして行きたいと思っています。

追記

活動については、集落の皆さんに喜んで頂きました。次期の事業に於いても、畦畔の再構築は是非活動の中に入れて欲しいと云うリクエストがありました。



集落総参加の花の植栽作業です。花は、ベコニアとサルビアでした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	根木場農村環境保全会	代表	加藤 俊悦
協定面積	田 32.5ha 畑 ha 計 32.5ha	対象面積	田 32.5ha 畑 ha 計 32.5ha		
管理施設	開水路 6.4 km ため池 ヶ所	農道	3.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 22人 農業団体 1団体	非農業者個人	3人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、保全会発足以前から地域内にある農業用施設である水路（下流域の受益農家が用水需要がなくなったことにより、維持管理が手薄となり不法投棄等のゴミが散在していました）の維持管理に頭を悩ませていました。集落内には町内会の組織はありますが、この問題の解決のためさまざまな取り組みをしてきましたが、具体的な解消には至らずにいました。ちょうど農地・水環境保全向上活動事業が計画されたのに伴い、当地域もこの問題が解消されるものと期待し、喜んで参加することとなりました。

組織発足当時は、戸惑いもあり、地域のみinnで何度も協議をしながら事業を進めてきました。こうして地域の皆さんからも積極的な協力もいただき、良好な景観形成（清掃活動・草刈・花の植栽等）を継続していく意識が年々高まってきたことを実感しております。また、農業者も管理農地の従来の維持管理をさらに向上させようとしている努力も見られてきています。今後も、次世代にこうした意識が伝承されていくことを大いに期待します。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	下村環境保全活動組合	代表	熊谷 昭助
協定面積	田 24.1ha 畑 ha 計 24.1ha	対象面積	田24.1ha 畑 ha 計 24.1ha		
管理施設	開水路 4.2 km ため池 ヶ所	農道	4.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 22人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は田んぼに囲まれた、小さな集落です。この事業を始めて最初の1年目は、何をやる事業なのか分からない人もいましたが、5年間という継続事業のおかげで、皆がこの事業の趣旨を概ね理解して、各活動に賛同していただけました。

最初の1年目は、代表や役員が先導を切って事業を進めてまいりましたが、次第に構成員から「〇〇いうことは出来ないのか?」、「〇〇をやりたいけどお金が無いから、環境保全で出来ないか?」と自発的に活動するようになりました。

また基本的には農業者にかかわる活動がメインでしたが、集落の「親子会」や「消防団」も巻き込み集落全員で、この5年間活動できたと思います。

私どもの集落には農事組合法人もあり、今後は今まで築き上げた共同活動の広がりを持続できるよう、法人と協力しながら、現状維持若しくはそれ以上を目指していきたいと思っています。



集落の農家や親子会が一緒になって、地域の花壇の植栽や環境保全アピールをしました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	中村農村環境保全会	代表	近 宣夫
協定面積	田 101.79ha 畑 ha 計 101.79ha	対象面積	田 101.79ha 畑 ha 計 101.79ha		
管理施設	開水路 50.8 km ため池 ヶ所 農道 10.7 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 82人 農業団体 1団体	非農業者個人	14人 非農業団体	12団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

当農村環境保全会の活動目標は、生まれ育ち情緒豊かな心身を育んでくれた故郷の自然環境を次世代に現在のまま、いやそれ以上の状態で引き継ぎたいとの思いが活動原点ですが、それぞれ個々の努力だけでは到底実現し得ない目標でした何よりも故郷を愛してやまない集落の皆様や、各団体の前向きな熱意がこの活動を支えて頂いたものと強く感じています。

単に農業者だけでなく非農家の方、はじめ集落内各団体グループの協力を得た活動の結果施設の維持、機能回復、及び環境の保全が図られました。

初夏に始まり猛暑の中での草刈作業は、大変ということで提案により涼しい早朝5時からの作業開始で現役サラリーマンの方々も多数参加いただき世代を超えた交流の場となり地域の「結」という機運が強まったものと感じております。

集落総出による景観作物植栽作業
クリーンアップ、子供による生き物調査
を通じて、地域の実態を認識し集落の
今の姿を踏まえ今後の在りようを感じて
いただいたものと思います。

最後に、はじめに行政ありきではなく
自分たちでできることは、自分たちで
知恵を出しての、精神で地域を活性化
出来ればと思います。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	土洳地域資源保全活動組織	代表	高橋 誠一
協定面積	田 5.04ha 畑 ha 計 5.04ha	対象面積	田 5.04ha 畑 ha 計 5.04ha		
管理施設	開水路 2.3 km ため池 ヶ所 農道 1.4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 10人 農業団体 1団体	非農業者個人	2人 非農業団体	2団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち活動組織は、5年間地域の老人クラブやPTAと共に景観向上を図る活動を行ってきた。私たちの地域以外では高齢化が急速に進展し、後継者不足に悩んでいる集落が多い中、子供とお年寄りが共に活動する機会ができたことによりその悩みがいくらか軽減できるのではと期待している。

これからも先人の知恵を伝授いただき、農地及び周辺の管理はもちろん、子供たちへも継承できるよう地域を盛り上げていきたいものだ。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	新処地域資源保全活動組織	代表	伊藤 先之助
協定面積	田 9.39ha 畑 ha 計 9.39ha	対象面積	田 9.39ha 畑 ha 計 9.39ha		
管理施設	開水路 1.7 km ため池 ヲ所	農道	1.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 20人 農業団体 団体	非農業者個人	3人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

この5年間でスタート時の代表者が病気により亡くなるという、地域として大きな痛手を被る事由に遭遇した。

計画実行に向けて大きなハンデを負った形になったが、組織の協力によりほぼ計画通り実施できた。また、農地の維持管理についても組織としてフォローすることができたことが今後の自信に繋がった。集中豪雨被害についても全員で復旧作業にあたることができた。



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	八柏地区資源環境向上活動組織	代表	佐井 祐助
協定面積	田 144.88ha 畑 ha 計 144.88ha	対象面積	田 144.4ha 畑 ha 計 144.4ha		
管理施設	開水路 64.7 km ため池 ヲ所	農道	26.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 83人 農業団体 1団体	非農業者個人	9人	非農業団体	団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の活動する地域は、昔から水不足で地下水に頼り今では水路の大半がコンクリートとなり水の浄化が悪く、昔からの生物が住めない地域となりました。そこで、本事業を活用し集落の2箇所ある子ども達の遊び場を活用し、ビオトープを作ることとしました。地下水の利用・水の浄化・稚魚の放流・芝張り作業・花木の植栽等の作業は集落の各組織の協力を得て全戸参加で完成しました。今では子ども達の自然環境調査また集落のいこいの場として利用しています。

基礎活動では、農道の砂利敷設・水路の泥上げ・草刈り等は非農家も交え全戸参加で活動しています。

これからは、農家の減少は必死。全戸で農道水路等を守っていきたいと思います。



第2ビオトープ公園。子ども達の自然環境調査または集落のいこいの場として利用しています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	阿気南部地域資源保全活動組織	代表	小玉 養之助
協定面積	田 37.2ha 畑 ha 計 37.2ha	対象面積	田 37.2ha 畑 ha 計 37.2ha		
管理施設	開水路 12.9 km ため池 ヲ所 農道 4.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 33人 農業団体 団体	非農業者個人	1人 非農業団体	2団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境向上活動における5年間では、農用地・水路・農道の保全・管理作業が、それまでよりも更に充実させられた事が、第一に挙げられると思います。また、非農家を巻き込んだ環境向上の面では、イベント的要素を始めとする多面性が事業に見え、地域の(特に世代間の)“絆”を埋める役割ともなり、同時に少しずつ理解出来たのは、自分たちの組織における、先の基礎活動の重要性を認知すると共に、資源(田・水・畑)は保全すべき、という人間と自然の共存の必要性を改めて実感させられる機会を得られたという事でしょう。

その全てが、将来の展望を考えざるを得ない我々にとっては嬉しい事だったと思います。

同時に、班編成を組んで活動に取り組んだ事により、地域の特色がよりよく見渡せた事にも繋がり、営農活動等の例に見られるような、新しいプロジェクトの発展にも貢献出来たのではないかと考えております。



写真上：景観植物の植栽作業

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	阿気中央地域資源保全活動組織	代表	土田 征一
協定面積	田 440.2ha 畑 ha 計 440.2ha	対象面積	田 440.2ha 畑 ha 計 440.2ha		
管理施設	開水路 127.3 km ため池 ヲ所 農道 47.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 385人 農業団体 2団体	非農業者個人	15人 非農業団体	27団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境向上活動における5年間では、農用地・水路・農道の保全・管理作業が、それまでよりも更に充実させられた事が、第一に挙げられると思います。また、非農家を巻き込んだ環境向上の面では、イベント的要素を始めとする多面性が事業に見え、地域の(特に世代間の)“絆”を埋める役割ともなり、同時に少しずつ理解出来たのは、自分たちの組織における、先の基礎活動の重要性を認知すると共に、資源(田・水・畑)は保全すべき、という人間と自然の共存の必要性を改めて実感させられる機会を得られたという事でしょう。

その全てが、将来の展望を考えざるを得ない我々にとっては嬉しい事だったと思います。

同時に、班編成を組んで活動に取り組んだ事により、地域の特色がよりよく見渡せた事にも繋がり、営農活動等の例に見られるような、新しいプロジェクトの発展にも貢献出来たのではないかと考えております。



写真上：秋の水路沿い清掃

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	阿気北部地域資源保全活動組織	代表	加藤 信雄
協定面積	田 19.2ha 畑 ha 計 19.2ha	対象面積	田 19.2ha 畑 ha 計 19.2ha		
管理施設	開水路 12.1 km ため池 ヶ所	農道	6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 33人 農業団体 団体	非農業者個人	1人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境向上活動における5年間では、農用地・水路・農道の保全・管理作業が、それまでよりも更に充実させられた事が、第一に挙げられると思います。また、非農家を巻き込んだ環境向上の面では、イベント的要素を始めとする多面性が事業に見え、地域の(特に世代間の)“絆”を埋める役割ともなり、同時に少しずつ理解出来たのは、自分たちの組織における、先の基礎活動の重要性を認知すると共に、資源(田・水・畑)は保全すべき、という人間と自然の共存の必要性を改めて実感させられる機会を得られたという事でしょう。

その全てが、将来の展望を考えざるを得ない我々にとっては嬉しい事だったと思います。

同時に、班編成を組んで活動に取り組んだ事により、地域の特色がよりよく見渡せた事にも繋がり、営農活動等の例に見られるような、新しいプロジェクトの発展にも貢献出来たのではないかと考えております。



写真上：抑草シートの設置箇所

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	宮田地域資源保全活動組織	代表	小松田 隆一
協定面積	田 68.8ha 畑 ha 計 68.8ha	対象面積	田 80.4ha 畑 ha 計 80.4ha		
管理施設	開水路 47.4 km ため池 ヶ所	農道	14.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 65人 農業団体 1団体	非農業者個人	2人	非農業団体	6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は住民の長年の努力によって豊かな田園風景を保っておりましたが、後継者不足と高齢化が相まって、農業施設の維持管理が困難になると懸念されておりました。平成19年度から始まったほ場整備事業計画でも環境に配慮した基盤整備を押し進めることとなり、当組織では二カ所の集落内水路を水棲生物が絶えることなく住み続けていけるよう「生き物水路」と名付け、共同作業で木柵を設置しました。多少凹凸がある施行とはなりましたが姫岩ダレ草やタイムを植え付けて景観も非常に良くなり、安全で親しみやすい水路に生まれ変わりました。水質・生き物調査では子供達が目を輝かせて魚や虫を捕まえては調べ、大人達にとっても楽しく有意義な活動となりました。春と秋の農道水路の清掃や花植え作業には親子で多数参加していただき、農業環境への関心が深まってきております。水路・農道の補修整備や草刈り作業などには若い世代の参加も徐々に増え、地域環境を自分たちで守っていこうとする機運が高まってきたと感じております。今後も農地・水・環境保全の重要性についてより理解を深めるべく家族を巻き込んだ活動を進め、全住民の結束を強めて、縁のある人々にとってもかけがえのない財産と感じられる農村を目指していきたいと思っております。



集落内水路に木柵を設置し、姫岩ダレ草等を植栽して、魚や昆虫が集まる「生き物水路」を造成しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	小林地域資源保全活動組織	代表	菅 篤司
協定面積	田 50.75ha 畑 ha 計 50.75ha	対象面積	田 50.75ha 畑 ha 計 50.75ha		
管理施設	開水路 26.0 km ため池 ヲ所	農道 13.0 km	ハ イグライ	km	
構成員	農業者 60人 農業団体 団体	非農業者個人 15人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの保全組織の活動の目的は、生まれ育った故郷の自然を、農業の環境整備を行いながら、子供達や孫達に伝えていこうとしている活動です。当小林地域の概況は、30年以上前に県営ほ場整備事業が完成しましたが、その後、水路や農道などの農業施設の老朽化が地域の課題となっていました。農道の草刈りや水路の泥上げなどの共同作業により、地域の連携が生まれ、地域みんなで農業施設を「長持ちさせよう」「自分達で出来ることを頑張ろう」という機運が広がりました。「環境保全」活動では、地域住民の老若男女の参加によるクリーンアップや、花の植栽の共同活動が集落の恒例の事業になりました。路肩に綺麗に咲いた花がいっぱいになり、他の農道や水路にも関心がもたれるようになりました。また、当地内には小学校があり、立派なビオトープがあります。3年生の児童21名の皆さんと一緒に、池の泥を上げながら、生き物調査をしました。子供たちは、泥んこになりながら、土の柔らかさに親しみ、池の中のいろいろな生き物をすくい上げました。「生き物大好き」で「命の尊さ」を感じている子供たちでした。これからも、農業施設の維持と地域の連携を大事にしていきたいと思います。					
泥上げが終わり綺麗になった池に、全部の生き物を無事に戻すのに、一生懸命でした。 					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 記載様式)

市町村名	横手市	組織名	大雄西部地域資源保全活動組織		代表	岡根 弘幸	
協定面積	田 44.35ha 畑 ha 計 44.35ha	対象面積	田 44.35ha 畑 ha 計 44.35ha				
管理施設	開水路 14.0 km	ため池 ヲ所	農道 8.8 km	ハ イグライ		km	
構成員	農業者 55人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)							
我が資源保全活動組織では、緑豊かな水田風景、地域を流れる農業用水の浄化と道路沿いの美化等景観形成活動を主力目標として活動を行ってきました。当初は、個々の都合優先で人員確保で苦労しましたが行政開催のクリーンアップ美化運動と抱き合わせて実施したところ作業実施時間まで参加するようになり、景観形成活動（花の植栽管理等）はもちろんの事、生き物調査にも親子で積極的に参加し子供達自ら自分の目で地域の実態を確認するという貴重な体験をし、環境の大切さを実感させた実り有る活動でした。 地域のまとまりが薄れてきている昨今、この事業実施により事業そのものが地域内住民の共有物となり、意思の疎通も出来これがキッカケとなり住民間の繋がりが昔の良き時代に近づくように思います。 又、皆んなが農業環境と生活環境の大きな関係をあらためて再認識した結果、農業施設、環境の保管理について、地域で出来ることは地域でやろうという精神的環境が出来上がってきております。 尚、老人クラブ、婦人会等では花の植栽地の管理等に参加する事でいろんな人と話が出来るので嬉しいと感謝されております。 今後とも、住民のこの雰囲気盛り上げかつ継続し我が地域の環境及び資源の保全に務めて行きたいと思っております。							
							
				法面には、水仙を植栽し環境の保全に努めた、この大切な資源保全のため草刈りや清掃を行っています。			

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	横手地区資源保全隊	代表	大山 栄太郎
協定面積	田 543.02ha 畑 ha 計 543.02ha	対象面積	田 435.03ha 畑 ha 計 435.03ha		
管理施設	開水路 247.9 km	ため池 ヶ所	農道 127.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 591人	農業団体 2団体	非農業者個人 1,048人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の活動組織の活動エリアは旧横手市街地の西方に位置しており、近年の上流域での開発に伴い、都市化・混住化が顕著な地域であります。そのため、地域の纏まりが薄れてきていましたが、本事業での5年間の共同活動により地域の「結い」が復活したと感じています。 農業者は勿論のこと多くの非農業者が共同活動に参加し、その活動を通して農業用水や農業用施設が持つ多面的機能について理解を深めたことにより、地域のみんなで施設の保全管理に取り組もうとする意識が高まりました。 また、学校教育との連携にも力を入れ、活動エリア内の小学校3校の児童達と一緒にいろいろな活動に取り組みました。学校農園で収穫した野菜を種苗交換会に出品したり学校田で収穫したモチ米で餅つきを行ったりと、農作業を通じて次世代を担う子供達にも農地や水の働きや重要性について伝えることが出来たと思います。 本事業の取り組みにより「住み良い農村環境」が保たれております。これまでの共同活動で深めた地域の絆を大切にし、今後も共同活動に取り組んで行きたいと思ひます。					
				 学校教育と連携して小学校の児童と一緒に田植えや稲刈り、学校農園での野菜の栽培等を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	境町地区資源保全隊	代表	伊藤 昭雄
協定面積	田 636.67ha 畑 ha 計 636.67ha	対象面積	田 617.74ha 畑 ha 計 617.74ha		
管理施設	開水路 200.8 km	ため池 ヶ所	農道 45.4 km	ハ°イ°ライン	3.2 km
構成員	農業者 382人	農業団体 2団体	非農業者個人 672人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の資源保全隊では、旧横手市のほぼ中心部に位置し田畑に囲まれた農業が基幹産業の純農村地帯であります。事業取り組み時は、地区全体での共同活動に上手く取り組めるのか不安もあり、活動を行う範囲も広い為「南部地区」と「北部地区」に分け共同活動を行ってきました。年数が経つにつれ事業内容が広く浸透し活動への参加者も増え平成23年度より統合し現在の境町地区資源保全隊として活動に取り組んでいます。 この事業に取り組み、農業施設の維持保全のみならず春の地区全体でのクリーンアップ活動から始まり、春から秋にかけての向日葵やコスモス・菜の花・水仙等の植栽・播種、さつまいもやソバの収穫活動、地元小学校との連携、行政と連携しての「さかいまち歴史探訪ウォーキング」等地域の子供達を中心に世代を超えた共同活動を行う事により、地域の良さを見つめ直し環境保全の大切さへを”再認識”し子供達へも伝える事が出来たと思ひます。 今後も泥上げや草刈り活動はもとより、地域住民が互いに手を取り合い”美しく住み良い農村環境を次世代に”を胸に共同活動に取り組んで行きたいと思ひます。					
				 行政と連携しての歴史探訪ウォーキングでは、焼きいもやソバを提供し世代間交流を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	湯沢市	住 所	湯沢市佐竹町 1 番 1 号	電 話	0183-73-2111
担当部署	産業振興部 農林課 農村整備班	担当者	佐藤 正規		

(5年間の感想等記入)

農業・農村を取りまく情勢は、混住化・兼業化の進展や農業従事者の高齢化、後継者不足問題に加え、4割に近い転作への協力が求められるなど、労力面や経済面で大変厳しい状況にあり、農業経営はもとより、農地・農業用施設の適正管理及び農村の環境保全を図るのが大変難しくなってきている。

こうした状況下において、農業・農村の活性化に向け、農地の有効活用はもとより、農業・農村のもつ多面的機能の維持・向上を図るうえで、この交付金事業の意義、果たす役割の重要性を強く感じることがこの5年間で感じることができた。農家のみならず、地域住民が一体となり、各組織の調査計画・実践活動が必要不可欠であり次期対策への期待と、更なる事業の充実を期待するものである。

【活動組織 実施状況】



(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ) H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

湯沢市	耕地面積	田	5,900 ha	畑	954 ha	合計	6,860 ha
平成19年度	協定面積	田	2,747.76 ha	畑	32.33 ha	合計	2,780.09 ha
平成20年度	協定面積	田	2,744.86 ha	畑	32.72 ha	合計	2,777.58 ha
平成21年度	協定面積	田	2,744.64 ha	畑	32.72 ha	合計	2,777.36 ha
平成22年度	協定面積	田	2,742.33 ha	畑	32.66 ha	合計	2,774.99 ha
平成23年度	協定面積	田	2,741.54 ha	畑	32.66 ha	合計	2,774.20 ha

(支援交付金実績)

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	2,726.39 ha	119,961,160円
平成20年度	対象面積	計	2,722.70 ha	119,798,800円
平成21年度	対象面積	計	2,722.65 ha	119,796,600円
平成22年度	対象面積	計	2,720.16 ha	119,540,520円
平成23年度	対象面積	計	2,719.50 ha	118,887,272円
合計				597,984,352円

活動組織名称

湯沢市

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0612	新木野地域資源保全隊	0620	金谷地域資源保全隊
0613	上関環境保全会	0621	八幡地域資源保全隊
0614	下関地域資源保全会	0622	新田地域資源保全会
0615	関口環境資源保全会	0623	落合地域資源保全会
0616	大島地域資源保全隊	0624	森地域資源保全隊
0617	杉沢・新所地域資源保全隊	0625	山谷地域資源保全会
0618	倉内地域資源保全隊	0626	岩崎地域資源保全会
0619	柳田地域資源保全隊	0627	森合地域資源保全会

活動組織名 湯沢市

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0628	田園歓喜地域資源保全会		
0629	上角間資源保全会		
0630	下角間地域資源保全会		
0631	小中島資源保全会		
0632	八幡白子資源保全隊		
0633	田ノ沢環境をまもる会		
0634	緑野清流環境保全会		
0635	田螺溪流の里地域資源保全隊		
0636	萬古清風地域資源保全隊		
0637	清流の郷堂ヶ沢地域資源保全隊		
0638	中屋敷環境保全会		
0639	田園創造の愛宕会		
0640	勇水会		
0641	天地友情地域資源保全隊		
0642	地域保全 新緑銀山会		
0643	白山豊穰の里保全会		
0674	貴船の郷地域資源保全隊（台帳は羽後町）		
0644	馬場地域資源保全会		
0645	横堀地域資源保全会		
0646	小野小町地域資源保全会		
0647	上谷地地域資源保全会		
0648	飯塚地域資源保全会		
0649	岩館地域資源保全会		
0650	桑崎地域資源保全会		
0651	白水地域資源保全会		
0652	酒蒔地域資源保全会		
0653	皆瀬資源保全会		
0654	新城・鍛冶屋布資源保全会		
0655	御嶽堂資源保全会		
0656	上久保資源保全会		
0657	宮田・京政資源保全会		
0658	飯田資源保全会		
0659	野村資源保全会		
0660	八面資源保全会		
0661	佐野資源保全会		
0662	東福寺資源保全会		
0663	高村資源保全会		
0664	戸波・羽場資源保全会		
0665	稲庭資源保全会		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	新木野地域資源保全隊	代表	菅 忠一郎
協定面積	田 43.7ha 畑 ha 計 43.7ha	対象面積	田 43.7ha 畑 ha 計 43.7ha		
管理施設	開水路 11.7 km ため池 ヲ所	農道	4.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 63人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 10団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

活動を振り返りますと、『自分たちの地域を自分たちで美化しよう』を合言葉に活動を始め、あっという間に5年が過ぎました。

地域の皆さんの絶大なご協力とご理解をいただき、事業を推進することが出来ました。今後も事業が継続されますことは大変良いことであり、関係機関のご指導等よろしくお願いいたします。



町内会員による流雪利用
水路蓋取り

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	上関環境保全会	代表	浅村 嘉雄
協定面積	田 48.8ha 畑 7.4ha 計 56.2ha	対象面積	田 48.8ha 畑 ha 計 48.8ha		
管理施設	開水路 26.7 km ため池 ヲ所	農道	4.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 110人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの上関地区は、果樹の生産が盛んな地域であるため、水田環境を含めた全体の保全活動を理解してもらうことに多少戸惑いもありました。

しかし、老人クラブやPTAの方々が年を追うごとに積極的に参加してもらえるようになり、農業者も以前より一歩踏み込んだ活動に理解を得られるようになりました。

自分達の地域環境を自分達で協力し合って守る気持ちを今後につなげて行きたいと思っております。



子供会による動植物観察会、
水質モニタリング

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	下関地域資源保全会	代表	近藤 助左エ門
協定面積	田 48.0ha 畑 3.8ha 計 51.8ha	対象面積	田 48.0ha 畑 ha 計 48.0ha		
管理施設	開水路 17.6 km ため池 ヶ所	農道	3.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 77人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

三関という県内屈指の土壌条件に恵まれた環境で下関地域資源保全会が設立され、5年の月日が過ぎ、その中で農業施設の老朽化、農産物の価格の低迷等、又高齢化、担い手不足などいろいろ問題を抱えつつ、今回保全会活動が絶好のタイミングで行われてきたことは、農地保全の危機的状況に大きな力で役立ってきたと感じます。

人それぞれ将来の考えはいろいろですが、まずはともあれ、地域の人たちが老若男女気持ちがまとまったことが、今後の保全活動に役立つと確信します。

又、町内の地域づくり活動も(自治)活力が出てきました。今後美しい農村を維持するためにも関係機関のご協力をお願いします。



農業者による
夏季水路清掃草刈

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	関口環境資源保全会	代表	奥山 武郎
協定面積	田 61.4ha 畑 ha 計 61.4ha	対象面積	田 61.4ha 畑 ha 計 61.4ha		
管理施設	開水路 32.3 km、 ため池 1ヶ所、	農道	2.8 km、	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 146人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

この度の保全会活動が開始され、何よりも感じることは共同作業による草刈と泥上げである。従来は自分の管理する畦畔、水路、道路、隣接する土堤等しか行わなかったが、今まで誰もが手入れをしなかった一部の放置され荒れ放題の箇所の手入れが出来たことである。水路の浚渫も然り、流末の草ぼうぼうでほとんど埋まってしまった水路も綺麗に整備し、見違えるようになった。

又、水質モニタリングの調査によって、水質がアルカリ性に近いことがわかり、昔から野菜の産地として品質の良い物が生産できることの一つの原因がわかるように思いました。

この活動が今後も継続されるということですので、大変喜んでおります。



農人クラブによる
景観植物(花)の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	大島地域資源保全隊	代表	渡部 秀悦
協定面積	田 40.7ha 畑 ha 計 40.7ha	対象面積	田 40.7ha 畑 ha 計 40.7ha		
管理施設	開水路 23.7 km ため池 ヶ所	農道 1.8 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 70人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達大島地域資源保全隊の5年間の活動を振り返ると、1年目は取り組みの方法が分からず戸惑いました。春に行う町内水路清掃で皆の気持ちが一つにまとまりました。その後始まった共同草刈、農道補修敷き砂利、用水路や柵の泥上げ、浅水代掻きによる濁水流出防止、水質モニタリング調査、景観植物の植栽、地域に生息する動植物の観察会、農業用水と町内の防火用水として利用しております白子川からの取水も常に気配りをしながら進めております。

農地・水・環境保全活動は、農業者、自治会、老人クラブ、PTA、若者会、消防団、土地改良区など多くの人々の協力により多様な活動が出来ました。

2年目以降は初年度の教訓を生かして、共同の作業を通じて村の絆も深まりました。

これからは自分達で出来る事は、自分達で頑張ろうの精神で地域を盛り上げたいと思っています。



白子川よりの取水柵に堆積した土砂上げ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	杉沢・新所地域資源保全隊	代表	福土 國太郎
協定面積	田 77.1ha 畑 ha 計 77.1ha	対象面積	田 77.1ha 畑 ha 計 77.1ha		
管理施設	開水路 32.6 km ため池 3ヶ所	農道 7.1 km	ハ°イ°ライン km		
構成員	農業者 135人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 9団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は湯沢市の近郊に位置し、若者が農業以外に勤める人が多くなり、農業従事者が少なく農家だけで地域農業を支えきれなくなりつつありました。又地域全体の活力が減退の中になりました。

このようなとき五年前に農地・水・環境保全事業の導入により地域全体に活力が出て来ました。

非農家を含む町内会、老人クラブ、PTA、消防団等々地域をあげての協力体制が出来ましたことは、この事業の大きな成果であったと思うものです。

地域全体での清掃活動や花の植栽による環境整備、また農道の砂利敷きなど補修や用水路の浚渫、農道の草刈り作業に非農家の方々の協力を得て事業を遂行することが出来ました。



老人クラブによる景観植物（花）の植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	倉内地域資源保全隊	代表	小原 信義
協定面積	田 43.4ha 畑 ha 計 43.4ha	対象面積	田 43.4ha 畑 ha 計 43.4ha		
管理施設	開水路 16.1 km ため池 ヲ所	農道	3.9 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 67人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 当集落は、稲作と施設園芸が盛んな農村地域に位置しております。 近年、市街化による混住化・兼業化が進み、住民の意識と行動も多様化し、集落機能や農業生産活動に支障が生じてきていることから、地域が一体となり、食料の安定供給に加わえ、農業・農村の果たしてきた多面的機能を再認識しながら、環境整備や農地・農業施設等の維持管理など、保全隊活動を展開してきたところであり、住民の意識も徐々に高まってきております。 引き続き、「みんなで守ろう！わが郷土」を合言葉に、保全隊活動の充実・強化を図りながら、自然環境の維持・保全をはじめ、限りある資源を次世代に引き継いでまいりたいと考えております。					
					
				水路の目地補修	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	柳田地域資源保全隊	代表	高橋 幸夫
協定面積	田 35.4ha 畑 ha 計 35.4ha	対象面積	田 35.4ha 畑 ha 計 35.4ha		
管理施設	開水路 20.1 km ため池 ヲ所	農道	1.8 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 49人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 構成員皆様の叱咤激励を受けながら、5年間代表として活動を行ってまいりました。 保全隊として活動するに当たり町内会の結束が何より必要であり、柳田町内会は活動に積極的に参加して頂き、感謝申し上げます。 水仙ロードの植栽、除草管理には老人クラブの方々、動植物観察にはPTA・子供達に大勢参加して頂きました。 これからも継続してこの事業に取り組んで、さらに地域の結束力を高め、素晴らしい地域環境を子孫まで引き継ぎたいと思います。					
					
				水仙ロードへ植栽、除草管理を行い春には可憐な花が咲きます。	

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	湯沢市	組織名	金谷地域資源保全隊	代表	小野 清
協定面積	田 94.6ha 畑 ha 計 94.6ha	対象面積	田 94.6ha 畑 ha 計 94.6ha		
管理施設	開水路 31.4 km ため池 ヶ所	農道	2.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 90人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	7団体
（5年間の活動内容や感想等記入） この事業の目的である地域づくり・環境づくり・共同活動はだいたい達成出来たと思っています。 地域づくりでは、住民一人一人の横のつながりが強くなり、住民意識向上があったと感じております。 環境づくりでは、水路のゴミの減少と農車日（ノーカーデ）が根付いてきていると思っています。又、子供たちの環境に対する気持ちの変化を感じ、父兄たちの連帯感も感じました。スポーツクラブに所属している親子、そうでない親子もこの活動には、90%以上の参加があり、役員一同大変喜んでおります。 共同活動においては、この事業前は住民の出席率は80%前後でしたが、水路清掃・農道補修の出席率は、今では95%以上を保っています。 住民が集まれば会話ははずみも笑顔があり、地域住民の連帯感が強く感じました。 農地を守り・環境を維持し・共同活動を広げ、この事業の目的が住民に浸透してきていると感じています。					
				 子供会による動植物観察会	

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	湯沢市	組織名	八幡地域資源保全隊	代表	佐藤 準一
協定面積	田 76.7ha 畑 ha 計 76.7ha	対象面積	田 76.7ha 畑 ha 計 76.7ha		
管理施設	開水路 23.3 km ため池 ヶ所	農道	3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 104人 農業団体 団体	非農業者個人	人	非農業団体	9団体
（5年間の活動内容や感想等記入） 保全隊活動も5年間やってみると、その名前や活動の意義等が地域の人達にかなり浸透してきたように思われます。活動もスムーズに進められるようになりました。 ただ昨年夏に突然2階部分の嵩上げの説明がありましたが、地域の人達に理解が得られませんでした。これは事務方が受け手（地域住民）側をよくわかっていないからと思われます。今後事業の継続に当たり地域住民とのやりとりはレポートの提出よりも対話の時間をもっと多くしたほうが良いのではと思います。					
				 町内会員による流雪利用のための水路蓋掛け	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	新田地域資源保全会	代表	竹沢 良雄
協定面積	田 14.0ha 畑 ha 計 14.0ha	対象面積	田 14.0ha 畑 ha 計 14.0ha		
管理施設	開水路 6.8 km ため池 ヶ所 農道 0.9 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 22人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全会では、従来から取り組んできました農業環境整備（農業水路のゴミ上げ、水路などの草刈、農道敷き砂利、冬季における生活用水や流雪用水用の水路の蓋掛け、取りなど）に加え、生活雑排水が流入する農業用水の水質モニタリングや景観形成活動は構成員すべてが参加しての取り組みになりました。 また、子供たちが保護者と共に自分の地域に見られる生き物調査を通しての出会い、新田消防団の集落見回り活動などにより、この5年間の活動で地域の共同が一層強化されたように感じています。					
					
子供たちによる動植物観察会					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	落合地域資源保全会	代表	佐藤 秀市
協定面積	田 30.7ha 畑 0.2ha 計 30.9ha	対象面積	田 30.7ha 畑 ha 計 30.7ha		
管理施設	開水路 km ため池 ヶ所 農道 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 30人 農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の町内会はのどかな田園風景のど真ん中にあり、大きな川に囲まれた自然豊かな環境の中にあります。この豊かな自然環境を保全活動を通じ全員で守ることを大きな目標に掲げ活動をしてきました。保全会が設立するまでは地域全体で作業することも少なくなり地域内の交流も少なくなっていました。しかし保全会活動により非農家の方々からも協力を頂き全員で参加活動ができたことは素晴らしいことだと思います。 水質モニタリングや動植物の観察等の活動で自然を守ることの必要性を理解しながら今一度地域の環境を見つめ直すきっかけになりました。					
					
町内会員全員による花の植栽					

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	森地域資源保全隊	代表	渡部 光一
協定面積	田 112.1ha 畑 ha 計 112.1ha	対象面積	田 112.1ha 畑 ha 計 112.1ha		
管理施設	開水路 42.5 km	ため池 ヶ所	農道 5.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 117人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) この事業を実施したことにより、これまでの村の共同活動に対する意識が強まり、新たに転居してきた非農家も活動に理解を示し、快く参加してくれるようになりました。 ただ農村の環境資源保全とは言うも、環境整備を実施したくとも制度に99%合致しない部分もあり、運用面での理解と工夫が求められた。 これまでは地域が広範囲で住民の意思疎通がなかなか行き届かなかったのが、この事業を通じて組織運営に関わった人達に団体活動の重要性が強く認識され、共同の意識、意義が広まったと感じている。					
					
				子供たちによる動植物観察	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	山谷地域資源保全会	代表	最上 政雄
協定面積	田 5.4ha 畑 ha 計 5.4ha	対象面積	田 5.4ha 畑 ha 計 5.4ha		
管理施設	開水路 6.4 km	ため池 3ヶ所	農道 0.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 13人	農業団体 団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地域は昭和50年に圃場整備事業が完成しているが用水路にはU字溝施設もなく草刈や泥上げなどには困難な状態だった。又保全会の地域は鉦打沢川、白子川の上流に位置し、国道398号線に沿って川が流れ、昭和40年代まではカジカやザッコが泳ぎ夏は「ホタル」が乱舞し夕涼みを楽しむ環境に恵まれた地域でした。最近はそのホタルの数も少なく寂しい限りとなっておりました。 そうした時に資源保全会活動の指導を受け、農地・水・環境保全向上対策と共に私達が若い時代に見た、ホタルが乱舞する地域を取り戻すことができれば素晴らしいことだとの話し合いから「ホタルの飛び交う地域づくり」を目標に活動を行ってきました。 保全会の目標である水質保全活動では水質検査を実施し自分達の水田等に使われる水質の状況が把握が出来ました。又水辺の動植物観察会は夏休み中児童達に父兄も加わり捕獲網の使い方等を教えながら貴重な地域の生き物として最終年には34匹のハリザッコを始め13種類(102匹)を確認するなど、夏休み学習の一助とする事ができPTAの方より感謝されております。 農業施設の保全管理や用水路の泥上げ、草刈などを始め町内会、消防団組織や流雪溝組合のメンバーも会の一員となり河川のクリーンアップや用水路の草刈清掃等共同活動作業を定期的な活動によってホタルの発生も復活の兆しが見えてきたように感じています。 これまでの共同活動の経験を基に地域の生産性の向上、農地・水・環境保全に共同の輪をさらに広げ次世代に自分達の住んでいる地域の良さを繋げてゆかなければいけないのではないかと考えております。					
					
				子供たちによる動植物観察会	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市		組織名	岩崎地域資源保全会		代表 佐々木 輝雄		
協定面積	田 152.5ha	畑 3.6ha	計 156.1ha	対象面積	田 151.4ha	畑 ha	計 151.4ha	
管理施設	開水路 26.3 km	ため池 2ヶ所		農道 7.5 km	ハ°イ°ライン km			
構成員	農業者 181人	農業団体 1団体		非農業者個人 人	非農業団体 4団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たち「岩崎地域資源保全会」は、5年前6町内で終結し、農業、農村、地域環境整備保全活動に取り組んで参りました。 以前は、農家だけの用排水路清掃、農道整備、草刈作業であり、本活動において、どの様にして非農家の協力を得ていくのか戸惑いもありましたが、農地・農業用水が持つ多面的効果について説明したところ、非農家の方々が積極的に活動に参加される様になりました。この事は、本活動のおかげだと感謝申し上げます。 また、子供達と地域の方々が中心となって行った、ひまわりの植栽は、農用地の景観向上に大きく効果を果たし、農道を散策される方々から好感を得ております。 地元小学校との連携を図りながら、「水」「生態系」「地域環境」「地域の歴史・文化」について子供達と若い保護者に学ばせる機会を作れたことは、郷土を知る意味で意義深いものであったと思います。 この活動により、地域の方々の農地・水に対する思いは確実に向上しました。 国の政策が、こういう農業の多面的機能維持保全のため継続していくことを祈りたいと思います。								
								
				子供達も参加しての、地区の歴史、文化、環境に関するウォーキングを開催				

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市		組織名	森合地域資源保全会		代表	藤田 直	
協定面積	田 62.3a	畑 0.2ha	計 62.5ha	対象面積	田 61.7ha	畑 ha	計 61.7ha	
管理施設	開水路 21.3 km	ため池 ヶ所	農道 6.6 km	ハ°イ°ライン km				
構成員	農業者 89人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体				
(5年間の活動内容や感想等記入)								
平成24年厳冬、我々が活動した圃場は白い下で静かな眠りにある。5年前、「農地・水・環境保全向上対策事業」は突然のようにやってきた。集落全戸が農地・水・環境の現状に危機感を持っていたから非農家の理解も得て、全戸加入で組織を構成することができた。3.11以来、「絆」が流行語になっているが何も今に始まった事ではない。以前の農業集落には当然のようにあったことであり、時代が忘れさせていただけに過ぎない。現在、殆どの組織に言えることであるが、混合集落と相成り、付き合いが希薄なっているから、この事業は老若男女が会話する仲介も果たしたといえる。 今後、日本農業は新たな展開をするだろう。（しなければならない。）当地区を含む岩崎地区は、明治末期～大正初期に、他にさきがけて乾田馬耕ができる耕地整備がなされた田圃である。先人の先見の明に敬服している。 次世代のために、特に「水」について将来予測を的確に把握する必要があると思っている。水も地方が生み出す大資源である。深々と降る雪をみて 「ホジないが水商売もわるくないなーーーー」								
								
地域住民一体となつての水路清掃活動								

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	田園歓喜地域資源保全会	代表	佐々木 忠雄
協定面積	田 107.0ha 畑 2.8ha 計 109.8ha	対象面積	田 105.3ha 畑 ha 計 105.3ha		
管理施設	開水路 23.9 km ため池 ヶ所 農道 9.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 110人 農業団体 1団体	非農業者個人 人 非農業団体 1団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 当地域の活動範囲は、昭和55年にほ場整備事業が完成し、平成12年～16年度に担い手事業で、用排水路、農道を整備補修した地域です。 農業者は、新しくなった土地改良施設の維持管理に努めてまいりましたが、限られた予算の範囲では、十分な維持保全ができないのが実情でした。 本活動では、農業者を含めた町内会が中心となり、草刈、浚渫、農道整備、環境保全、景観向上活動を進めてきました。農道は、重機も活用しながら立派な農道になりました。環境保全、景観向上活動には、子供たちも参加して活動を満喫しています。 活動への取組により、地域の連帯感を深めつつ施設の保全、環境の保全向上に大きな効果があったことは、大変喜ばしいことです。 これからも、地域住民一体となり地域を盛り上げて行きたいと思っております。					
					
				地域の若いお母さん方も一所懸命に草刈、清掃活動を頑張ってくれました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	上角間資源保全会	代表	小川 幹男
協定面積	田 25.0ha 畑 1.1ha 計 26.1ha	対象面積	田 25.0ha 畑 ha 計 25.0ha		
管理施設	開水路 7.2 km ため池 ヶ所 農道 2.4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 24人 農業団体 1団体	非農業者個人 人 非農業団体 1団体			
(5年間の活動内容や感想等記入) 当地区は、全戸数20数戸の小さな集落で、その殆どが農家です。 これまでも、年2回の水路清掃は集落全戸を対象に行っており、比較的まとまりのある集落であります。 本事業への取り組みにあたり、地域住民の更なる協働精神の向上、地域環境の保全、向上を目指し、子供から老人まで一体となった活動を展開してきました。 特に、集落入り口の水路敷地を活用した景観向上活動では、購入した花苗の他に、各家庭からスイセン、菖蒲など、季節折々の花の苗を持ち寄り植栽を行いました。 今後も、地域一体となり、地域環境の保全向上活動に取り組んでいく所存です。					
					
				植栽活動では、子供たちも一生懸命頑張ってくれました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	下角間地域資源保全会	代表	伊藤 秀郎
協定面積	田66.1ha、畑2.0ha 計 68.1ha	対象面積	田 64.2ha 畑 ha 計 64.2ha		
管理施設	開水路 15.8 km ため池 ヶ所	農道	4.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 49人 農業団体 2団体	非農業者個人	人	非農業団体	1団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 「農地・水・環境保全向上対策」には地域住民の殆どが、高い関心を持って取り組んで参りました。 春、夏の水路清掃や草刈作業等は元々行われておりましたが、本対策が始まってからは、住民挙げての協力体制が強化されました。 特に、活動の一環である景観形成のための花の植栽活動は、年々レベルアップしてきました。 これから老若男女住民一体となって、地域の「絆」を深め、貴重な資源・環境を守り育む事こそ、子供達や地域の未来に繋がるはずです。					
					
				地域住民の協力により、防草対策と景観向上が達成されました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	小中島資源保全会	代表	伊藤 幹雄
協定面積	田 42.5ha 畑 2.5ha 計 45.0ha	対象面積	田 42.0ha 畑 ha 計 42.0ha		
管理施設	開水路 14.2 km ため池 ヶ所	農道	5.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 31人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 過去5年間の活動で、主に用排水路の泥上げ、農道の保守管理活動を行ってきました。 特に、圃場整備後一度も行えなかった生活雑排水が流入する排水路の重機による泥上げ活動は、集落の生活環境の保全、向上に大きな効果がありました。 用水と排水を兼ねている通称五ヶ村堰は、草刈などの管理は大変な作業でしたが、法面に5ヵ年で、雑草対策及び景観形成のためにカバープランツとしてヒメイワダレ草を植栽し、草刈作業の省力化、景観の向上がなされました。 また、地区の子供達には、水質、生態系調査を通して地域の水への関心を与えることができ、清掃活動を通して、道徳教育にもつなげることができたと思います。 この活動により、農家の負担軽減もなされていることから、24年度以降も活動に取り組んでいけることを喜んでいます。					
					
				集落環境の向上を目指し、生活雑排水が流入する排水路(柵渠)への生コン打設を地域活動として実施	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	八幡白子資源保全隊	代表	佐藤 哲夫
協定面積	田 32.9ha 畑 0.2ha 計 33.1ha	対象面積	田 32.6ha 畑 ha 計 32.6ha		
管理施設	開水路 12.5 km ため池 ヶ所	農道	3.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 53人	農業団体	1団体	非農業者個人	人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私は、これまでの活動を振り返り、農家・非農家が連携し、農業用水路の草刈、泥上げ、施設補修、景観形成などを実施し、一番肌で感じたことは、地域住民の親睦と多種多様な情報交換ができたことが最も意義ある収穫だと感じています。

地域内の水路は、30年前に整備された施設で、老朽化が進み、維持管理が大変でした。

しかし、この活動により地域住民の協力を得ながら、補修活動を積極的に行ったことから、農地・農業用施設が持つ多面的機能を維持することができました。

非農家の方々と農地・水・環境保全向上対策には感謝申し上げます。



地域住民の協力を得ながら、用水路の目地補修を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	田ノ沢環境をまもる会	代表	菅原 修一
協定面積	田 8.8ha 畑 ha 計 8.8ha	対象面積	田 8.8ha 畑 ha 計 8.8ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 ヶ所	農道	0.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 25人	農業団体	団体	非農業者個人	2人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全隊では、初めのうちは地域全体で行事することは少なく、有志のみで活動をおこなっておりました。ただ、活動を重ねていくにつれて、徐々に地域内に浸透していき、子供達から高齢者と、幅広い世代の方々が進んで協力してくれるようになりました。今ではどの活動も地域全体の行事と変わることができました。

これからも共同活動の行事を通じて、地域全体のつながりをしっかりと守り続けていけるよう取り組んでいきたいと思っています。



用水路の泥上げ作業。幅広い世代が一体となって活動を行い、地域・環境をまもります。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市		組織名	緑野清流環境保全会		代表	菅 敏郎	
協定面積	田 53.2ha	畑 0.5ha	計 53.7ha	対象面積	田 53.2ha	畑 ha	計 53.2ha	
管理施設	開水路 16.1 km	ため池 ヶ所	農道 5.5 km	ハ°イ°ライン km				
構成員	農業者 69人		農業団体 団体	非農業者個人 6人		非農業団体 5団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境は地域の大切な資源であり、緑や水、おいしい空気、地域に棲む動植物、安らぎや平穏などは地域の宝であることを共有することからスタートしました。この事業が具体的に「何をするのか」「誰がやるのか」「いつからやるのか」「経費はどうするのか」等の疑問に答える手段として、環境保全会だより「緑野清風」の発行にとりかかり、積雪期を除いた農作業期間にほぼ1ヶ月に1回のペースで発行を続け、2012年1月までに35号まで継続することが出来ました。それぞれの事業を写真を中心に編集し地域全世帯に配布することで、共同作業に対する理解も深まり、非農業者の参加も年々増加したことは嬉しいことでした。

私達の集落も例外なく農業者の高齢化と農家、非農家（勤め人）の混在化が進み、農家だけの環境保全は難しい状態でしたので、「農地・水・農村環境保全向上」事業は実にタイムリーなものでした。地域内の団体やグループとの打合せを重ね、「花壇をつくりどんな花を植えようか」「共同作業にどうすれば多数参加してくれるか」など役員を中心に知恵を出し合い、多くの時間を費やしましたが、この取り組みが失われつつあった地域の連帯感を呼び起こすことになったと実感しています。

地域住民が身近なことに心配り、気配りが出来るようになったことも成果であり、緑野清流環境保全会の合言葉「地域総出で一人一役」の更なる徹底と、地域づくりは「地域の輪」「人の和」を大切にして取り組みを続けて参ります。



農道への敷砂利作業。地域住民一体となっておこなう共同活動の大切さ、楽しさをこの事業で再認識しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市		組織名	田螺溪流の里地域資源保全会		代表	石山 国広	
協定面積	田 24.9ha	畑 0.1ha	計 25.0ha	対象面積	田 24.7ha	畑 ha	計 24.7ha	
管理施設	開水路 9.2 km	ため池 ヶ所	農道 4.8 km	ハ°イ°ライン km				
構成員	農業者 32人		農業団体 1団体	非農業者個人 7人		非農業団体 3団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たちの保全隊では緑豊かな水田風景、地域を流れる湧水を次の世代へ受け継いでいくことを目標として活動を行ってきました。 取組当初は戸惑いもありましたが、春のクリーンアップや農業用水路の泥上げなどや景観形成活動は構成員全てが参加する集落の一大イベントになりました。夏の猛暑の中での草刈り作業は大変でしたが、非農家の若い人の協力もあって作業を通じ世代を超えた交流の場となり、地域の絆ができたと感じました。環境保全活動は地域住民の老若男女の総参加による花の植栽の共同作業を行い、ますます集落の信頼と絆ができたと思います。 これからも自分たちで出来ることは、自分たちでがんばろうの精神で地域を盛り上げたいと思います。 私たちの小さな集落でも、地域のまとまりが薄れてきていた時、この5年間の活動で地域の「結い」が復活しつつあるように感じています。								
								
				花の植栽活動は地域の大イベントとなり、老若男女問わずたくさんの方が参加してくれました。				

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	萬古清風地域資源保全隊	代表	高橋 俊市
協定面積	田 111.2ha 畑 0.2ha 計 111.4ha	対象面積	田 108.5ha 畑 ha 計 108.5ha		
管理施設	開水路 37.2 km ため池 ヶ所 農道 12.1 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 114人 農業団体 2団体	非農業者個人	11人 非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全隊では、『誇れる集落財産を後世へ』を合い言葉に対策に取り組みました。農村集落を形成する農業用水利施設も貴重な財産であることを住民が広く認識・理解してもらうことから始めた活動は、地域資源を活用したイベントを企画・運営や広報活動を通じて、住民の理解が深まり、対策の取り組み年数の経過とともに、活動への参加協力が広がっていききました。対策を契機として、地域資源の保全管理について、集落内の組織や世代を越えて話し合いや合意形成により活動ができる体制となったことが大きな成果です。 集落共同で行う農業水利施設のきめ細かい保全活動は、住民生活で地域用水（冬季消流雪用）の円滑な利用に寄与し、耐用年数を経過した農業用施設として長寿命化を図り、集落の営農を支える担い手農家の省力化につながりました。 農村環境向上活動の啓発・普及では、次世代を担う地域内外の子供達や非農家世帯を参集して農業体験を行い、地域ブランドづくりのきっかけとなりました。 今後の集落の保全活動も、5年間で築いた体制や経験を糧に、住民総意で取り組んでいきたいと思ひます。					
				 農業体験を通じた交流イベントでは、地域内外から多くの参加があり、地域ブランド【萬古清風の里】として認知され、地場農産物の直売も好評でした。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	清流の郷堂ヶ沢地域資源保全隊	代表	丹 徳雄
協定面積	田 39.7ha 畑 ha 計 39.7ha	対象面積	田 38.2ha 畑 ha 計 38.2 ha		
管理施設	開水路 10.2 km ため池 ヶ所 農道 4.3 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 44人 農業団体 団体	非農業者個人	4人 非農業団体 3団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の保全隊は、組織名のとおり緑豊かな水田風景と地域を流れる清流があります。その上流域で生活している我々が、最近汚れてきているこの水を子供達と一緒に水質モニタリングや生き物調査を行い、子供達が自分の目で地域に住む魚や生物を確認することができ、また大人も自分達が子供の頃の用水路は、まだ沢山の生き物がいたことを伝えるなど、大変貴重な活動となりました。 小さな集落なので、昔からすべての作業は“結”で行なわれていましたが、この5年間の活動で、さらに強い絆ができたと思ひます。					
				 自分の地域にはどんな生き物がいるのか。この活動を通じて子供たちのためにもより良い環境を残したいと思ひます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	中屋敷環境保全会	代表	高橋 與志幸
協定面積	田 32.2ha 畑 0.2ha 計 32.4ha	対象面積	田 31.6ha 畑 ha 計 31.6ha		
管理施設	開水路 11.7 km ため池 ヶ所	農道	3.6 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 22人 農業団体 2団体	非農業者個人	6人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) この事業の活動にあたり、集落内の非農家を含め、集落周辺の生活環境や農道用排水路の整備ができたことは大変喜ばしいと思っています。また、集落内の他団体（PTA・青年会・老人クラブ・婦人会・自治会）との交流も図られ、今まで以上に絆が深まったように感じられます。 老・壮・青と一緒に汗を流し、集落を守ることの大切さを得ることができたことは、本当によかったと思います。今後も、この活動を通して、集落内の融和に努めていきたいと思っています。					
					
				水路の泥上げ作業 全員で汗を流した活動が、地域の絆を深めてくれました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	田園創造の愛宕会	代表	織田 正
協定面積	田 47.6ha 畑 0.1ha 計 47.7ha	対象面積	田 46.6ha 畑 ha 計 46.6ha		
管理施設	開水路 20.8 km ため池 ヶ所	農道	7.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 75人 農業団体 1団体	非農業者個人	6人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの活動地域は、総合病院、大型ショッピングセンターができ、ここ数年で農村環境が大きく変化している地域です。環境のみだけでなく、保全会会員の半分が多地域に住む農家という状況です。そのような状況ではありますが、多くの会員の協力により、5年間の事業が実施できました。また農家以外にも、老人クラブとPTAに環境保全に協力していただきました。クリーンアップや花の植栽・管理、また水質検査では子供たちの元気な姿が印象的でした。 農道の保全是大きな課題でもありました。前記のように病院、大型店の進出で、農道が利用されることにより、その補修は農作業を安全に行うためにも必要不可欠な作業となりました。 各季節を通しての作業も、会員の協力で実施できたわけですが、今後も農家の増加は難しいと考えられます。そのため、より一層の会員の連携と効率的作業が必要と考えられます。 この美しい水田を守り、次世代につなげることが、私たちの役目だと感じております。					
					
				子供たちも積極的に活動に参加してくれました。普段交わることの無い世代の交流ができ本当に良かったと思います。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	勇水会	代表	武石 吉廣
協定面積	田 45.4ha 畑 0.1ha 計 45.5ha	対象面積	田 42.6ha 畑 ha 計 42.6ha		
管理施設	開水路 17.9 km ため池 ヶ所 農道 6.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 48人 農業団体 1団体	非農業者個人 5人 非農業団体 4団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち勇水会は川原地区、蓮台寺地区がひとつとなって活動してきました。

当初どのように進んだらよいのかわからず四苦八苦した時期もありましたが、地域の皆さま方の協力が勇水会の活動を支えてくれました。

老若男女幅広い世代に参加して頂いた花の植栽やヒメイワダレ草の植栽。猛暑の中での草刈り作業や農道への敷き砂利。共同作業が世代を超えた交流の場となり、地域の「絆」が一層深まったと感じました。

農地・水事業の活動によって、維持管理の大切さや農村環境をまもることの大切さを地域全体が感じ取れたと思います。今後も共同活動によって育まれた地域の「絆」を大切に残していきたいと思います。



幅広い世代が参加してくれたヒメイワダレ草の植栽です。普段触合う機会のない世代が一緒になって活動できました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市		組織名	天地友情地域資源保全隊		代表	佐藤 虎太郎	
協定面積	田 116.2ha	畑 0.8ha	計 117.0ha	対象面積	田 115.0ha	畑 ha	計 115.0ha	
管理施設	開水路 35.3 km	ため池 ヶ所	農道 14.3 km	ハ°イ°ライン km				
構成員	農業者 120人 農業団体 1団体		非農業者個人 9人		非農業団体 4団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)								
私たちの保全隊は、従来から集落ぐるみの保全管理体制で地域資源の保全を実践してきました。今回、新たな組織体制で対策の計画を話し合う過程で、農業の視点や住民の提案を改めて見直すことで、農村集落の環境について創意工夫が生まれ、また住民相互の意識を合意形成により計画・実践するようになり、保全隊が住民共有の問題を解決することで、住民により認知されるようになりました。 地域ぐるみで実践する農業水利施設の保全活動では、老朽化や不具合のある水利施設について、役割分担しきめ細かな活動を行った結果、施設の長寿命化につながりました。また、共同除草で対応してきた幹線排水路の抑草対策を年次計画で実践し、管理の省力化を図りました。諸活動の実践を通じて、住民の連帯感が生まれました。農村環境向上活動では、農業用水を生活用水として利用管理しているため、水質保全、水辺環境について活動を実践した結果、住民の関心が高まり、保全管理や利用管理のルールづくりができました。 今後も、組織で合意形成を図り住民連携により、保全管理活動を継続していきたいと思います。								
								
				幹線排水路溝畔の除草軽減・管理省力化対策として施したカバープランツ				

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	地域保全 新緑銀山会	代表	高橋 馨
協定面積	田 36.7ha 畑 ha 計 36.7ha	対象面積	田 36.5ha 畑 ha 計 36.5ha		
管理施設	開水路 9.3 km ため池 ヲ所	農道	3.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 32人 農業団体 1団体	非農業者個人	6人	非農業団体	3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は、かつては松岡銀山として栄え、農業と鉱山が共存してきた集落です。今では樹木や雑草が生茂り、山肌も緑化し形跡もなくなりましたが、現在は採鉱跡の湧水や雨水などが鉱毒水として集められ、溜池で中和処理し排水路へ放水されています。ゆえに、私たちにとって、鉱水は生活用水や農業用水として適さず、水利施設による灌漑用水は大切な水資源とされてきました。

私たちにとって、この活動は特に水資源の大切さ、それに不可欠な用排水路の維持管理や農業を理解することで、地域住民が率先して創意工夫をし、取り組むことができました。

また、当地域では徐々に一人世帯や高齢化が進み、離農者も多くなり、希薄になりつつある日常の交流が、この活動により人と人との輪を育み、自治活動や地域形成の一役となったことと思っています。



大切な農業用施設を末永く使うため、分水ゲートの塗装を実施しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	白山豊穰の里保全会	代表	阿部 久雄
協定面積	田 73.7ha 畑 ha 計 73.7ha	対象面積	田 73.7ha 畑 ha 計 73.7ha		
管理施設	開水路 19.8 km ため池 ヲ所	農道	6.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 86人 農業団体 2団体	非農業者個人	7人	非農業団体	9団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会が保全管理する協定内の農地は、中山間地形であり、農地畦畔・水路溝畔・農道法面の除草や補修が、高齢化した農家にとって重労働となっており、対処法を模索していました。対策を契機として、保全活動の諸問題について組織で話し合い、創意工夫により保全活動を取り組む体制となりました。保全活動を施設の規模に応じた人員配置で実施したり、管理の省力化を図るため、水路法面にカバープランツ植栽や防草対策を施しました。結果、除草作業の軽減、雑草繁茂による通水障害解消、洪水防止が効果として表れています。

農村環境向上活動では、子供たちや婦人会が中心となって、住民で施設への景観形成植栽に行いました。自分たちで世話をして大切に育てた花が晩秋まで煌いていたことに大変感動していました。この共同活動で共有した苦労や感動は強い絆となって、地域の交流活動が盛んになっています。

今後の保全管理も住民みんなで楽しみ、支え合いながら実践していきたいと思っています。



農道沿道に景観花を植栽しました。参加者が手がけた花の様子が気になり、集いの場となったそうです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	貴船の郷地域資源保全隊	代表	井上 奎左衛門
協定面積	田 65.8ha 畑 0.1ha 計 65.9 ha	対象面積	田 65.1ha 畑 ha 計 65.1 ha		
管理施設	開水路 18.7 km ため池 ヶ所	農道	7.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 49人 農業団体 3団体	非農業者個人	3人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの保全隊では、農家組織である維持管理ブロック委員会で農業水利施設の保全管理をしてきましたが、近年、担い手高齢化・減少が進み、保全管理に費やす労働時間が多くなり、担い手農家の規模拡大の阻害要因となっていました。対策を契機として、集落一体の保全隊の体制で保全管理を実施しました。 住民相互が対策に参加することや農業や農村環境の認識を高めるための手段として、啓発・普及活動として、集落ぐるみで楽しめる体験農園や生き物調査に取り組みました。体験農園に参加した子供たちは、作物の種を播く、育てる、収穫する、味わうことで食料生産の大切さや農業への関心が深まったようです。 対策をきっかけに、集落農業法人が設立され営農を牽引しています。保全隊と相互に連携した活動が行われるようになり、大きな変化で明るい話題です。 今後の保全活動も、5年間の対策で築いた保全管理体制を継続していきたいと思います。					
				 生き物調査では、子供たちは身近な環境の生態に驚き、大人たちは、童心に帰って採取しておりました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	馬場地域資源保全会	代表	栗田 健悦
協定面積	田 41.34ha 畑 ha 計 41.34ha	対象面積	田 41.34ha 畑 ha 計 41.34ha		
管理施設	開水路 20.5 km ため池 ヶ所	農道	6.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 35人 農業団体 3団体	非農業者個人	65人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの組織は、この事業が始まるまで水利組合を中心に活動してきました。しかし、水利権の問題や水路の維持管理の問題等で必ずしも農家と非農家がうまく連携しているとは言えない状態でした。 しかも、水路や農道の維持管理には莫大な資金が必要であり、受益者数や受益面積が少ない組織では、水路や農道の維持だけで精一杯の状況で今回の事業は、地域にとって大変貴重な事業でした。 この事業により農道の補修や待避所の設置、水路の目地補修による漏水の防止、素掘り側溝の土砂除去や、幹線水路流末の土砂除去による冬期間の蛇詰まりの防止等地域生活の安全安心の向上に大きな成果をもたらしました。 しかしながら、この事業によるハード面の充実はもとより、今までの農家と非農家の見えない壁を取り除き、農家や非農家そして子供会や高齢者のみんなが同じ目標に向かって、地域の良さ・注意しなければならない事等、地域生活の中での協力や協調性が生まれいろいろな事業に対する参加者が増加し、それぞれが持つ技術や知識を出し合った作業が出来た事だと思う。 これを機会に地域の協調性をさらに高め、事業終了後にも引き続き協力できる体制作りに努めたいと思います。					
				 秋期水路清掃に集まった会員 この作業は冬期流雪溝の水量確保と蛇詰まり防止に大切な作業です。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	横堀地域資源保全会	代表	今 精一
協定面積	田 31.8ha 畑 0.1ha 計 31.9ha	対象面積	田 31.8ha 畑 0.1ha 計 31.9ha		
管理施設	開水路 9.7 km ため池 ヲ所 農道 2.8 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 68人 農業団体 1団体	非農業者個人	7人 非農業団体	7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

横堀地域に存する農地、農業用水等の資源や環境の保全と質的向上を図ることを地域全体で円滑に実施することを目的に活動を行ってきました。

清流に恵まれているこの地域の緑豊かな水田風景を守り受け継いでいってもらうために、子供たちには水質モニタリング調査を通じて地域の環境を教え、伝える活動を行ってきました。

また、非農業者の方々には休耕地への花の植栽を中心に活動を行ってきました。

役員会を中心に環境調査を行い、特に重点的に実施したのは農道の検査・修理・舗装活動です。農家の方々に呼びかけて協力実施し、地域の方々にも喜ばれています。さらに、冬期における雪害の発生が毎年のようにあり、消雪・流雪に対する見廻り等は地域全体の保全活動として皆様に理解していただいているところです。

5年間の活動は農業への「関心」はもちろんのこと、農業を通じて環境・水に対する理解と自然を守る大切さを感じていただけたものと思います。

これまでの活動を基としてこれからも地域の環境を守り伝えていく活動を継続していきたいと考えています。



農家の方々に呼びかけて一緒に共同実施した農道の検査・修理・舗装活動です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	小野小町地域資源保全会	代表	高橋 弘一
協定面積	田 63.5ha 畑 ha 計 63.5ha	対象面積	田 63.5ha 畑 ha 計 63.5ha		
管理施設	開水路 21 km ため池 ヲ所 農道 6 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 106人 農業団体 団体	非農業者個人	人 非農業団体	7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境保全向上対策として、休耕地の設立にめり、大変な苦難がありました。組織を立ち上げるための協力者の集い、農家構成員への説明をし承認得る事、役員選任、非農家のそれぞれの意見が賛同できず、戸惑いがありました。とりあえず土地改良区の維持管理を担当していた方々に役員をお願いして進行することに至りました。春一番に用水路等の清掃、施設の機能診断してのミーティング、コスモス、シバザクラ、ヒメイワダレ草等の花の植栽、用排水路の管理、ゲート等構造物のさび止め塗装、共同作業で農道、畦畔、水路の法面等の草刈、農道の傷んでいる箇所への敷き砂利など地域の保全に自分達に出来ることは皆で協力して努めてきました。

年数が経過すると共に作業内容も知ることとなり、自然に参加する人も多くなってきて、これからも小野小町保全会の名称にふさわしく、小野小町の郷である、山川、緑豊かな田園の自然美を後世に伝えることを目的として継続できるように望みます。小野小町保全会のメインは市道両側に、コスモスロード600m、シバザクラロード100m植栽し四季彩る美観形成に努めており子供会、老人クラブ、町内会、非農家の人達と共に作業し、指導しながら語り合える場ができたことが一番和となり、なごむ場となったことと思います。

年一回コスモス終わる9月中旬に撤去作業の後、参加者全員で反省会を会費制で行ったところ若い人、老人クラブ、婦人会の同席で歓談することも楽しく、カラオケも大盛会で何よりも触れ合いが出来たことでした。これからも続けてほしいとの声がありますので、今後も活動維持して地域の活性化に継続できることを念願致しております。



町内会によるシバザクラの植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	上谷地地域資源保全会	代表	藤原 克美
協定面積	田26.6ha、畑0.1ha、計26.7ha、	対象面積	田26.6ha、畑 ha、計26.6ha、		
管理施設	開水路 12.2 km、	ため池 ヲ所、	農道 2.6 km、	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 48人、	農業団体 団体、	非農業者個人 6人、	非農業団体 団体、	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの地域は、後1年(1回)の支払で圃場整備事業の償還が終わり、大分楽になるのかな？というところですよ。 さて上谷地地域資源保全会は27ha弱の小さな保全会ですが町内会、親子会、ふれあいサロン(老人クラブ)などの皆様に支えられてどうにか5年間を過ごすことが出来ました。 凶凶翌翌は無く、なついていた農道補修などの共同活動がまた後泊し、町内の仲間と「ソイツイ」やりながらの作業は、なかなか楽しくさえありました。 U字溝の補修やほかの活動でも町内会員の中にはなかなか技術を持った人も居るものと再認識しました。 ただ予算の使い方は、もう少し自由に裁量できればよいかなと思います。 5年間の活動で地域のまとまりが強まったと思います。					
					
				子供達と水質モニタリング調査	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	飯塚地域資源保全会	代表	今 正勝
協定面積	田 58.7ha 畑 ha 計 58.7ha	対象面積	田 58.7ha 畑 ha 計 58.7ha		
管理施設	開水路 17.7 km	ため池 ヲ所	農道 4.2 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 87人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達飯塚地域資源保全会では、圃場整備事業完成後から長い年数が経過し、農道の整備や水路の破損等の補修が急務の課題となっていました。また降雪の多い地域柄、地域内の水路は生活用水としての利用や消雪水路としての役割も大きく、農業者、地域住民はこの保全活動への意識を高く持って取り組むことができたと思います。 特に農道整備活動においては、多くの農業者の参加により素晴らしく改善されたこと、また、道路沿線の芍薬植栽活動では地域住民婦人たちの活躍と定期的な管理により、成長した芍薬株が年々景観を美しく鮮やかに飾ってくれるようになったことは、この保全会活動意識の証しであると確信します。 これらの活動の他にも、クリーンアップ、水路の泥上げ等農業者、地域住民が一体となって集落を守り、農用地、施設、美しい景観を後世につなげて行きたいと思っています。					
飯塚地域資源保全会 代表 今 正勝					
				毎年農道整備活動には、大勢の参加者によりとても良く改善されました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	岩館地域資源保全会	代表	小野垣 繁雄
協定面積	田 55.1ha 畑 0.3ha 計 55.4ha	対象面積	田 55.1ha 畑 ha 計 55.1ha		
管理施設	開水路 19.4 km ため池 ヶ所	農道	4.7 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 73人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年度から23年度までの5年間に亘って、事業として取り組んだ訳ですが、当初事業の内容等十分理解できない不安な中での出発となりましたが、土地改良区を始め各関係機関のご指導、ご協力によりそれなりの事業を実施することが出来ましたことに対し心から感謝申し上げます。

お陰様で地域の構成員は勿論非農家の方々にも大変喜んでいただいております。

ありがとうございました。



町内会員によるクリーンアップ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	桑崎地域資源保全会	代表	高橋 隆蔵
協定面積	田 86.3ha 畑 0.4ha 計 86.7ha	対象面積	田 86.3ha 畑 ha 計 86.3ha		
管理施設	開水路 28.2 km ため池 ヶ所	農道	6.3 km	ハイツライン	km
構成員	農業者 106人	農業団体	団体	非農業者個人	人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、地域の環境向上を目的とし、子供会による水質モニタリング調査や、ヒマワリ、サルビアなどの植栽を町内会が中心となって進め、老若男女多くの参加がありました。

「このふるさとを、自分たちが率先して守っていこう。」と様々な共同活動を通じてその重要性を理解頂けたと感じています。

また、農業施設の改修及び保全管理に力を入れてきました。農作業の利便性が高まり、効率化が図られるようになりました。

今後、農村の環境保全は勿論、ふるさとの食文化や食生活をも守り続けてゆく活動に発展して行ければと感じています。



町内会員総出によるヒマワリの植栽

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	白水地域資源保全会	代表	金子 忠久
協定面積	田 75.5ha 畑 0.9ha 計 76.4ha	対象面積	田 75.5ha 畑 ha 計 75.5ha		
管理施設	開水路 27 km ため池 ヶ所 農道 6.6 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 64人 農業団体 団体	非農業者個人	人 非農業団体 6団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

豊かな自然を後世に残す取り組みとしての活動も最終年となり、戸惑いながらのスタートも各方面から指導を受けながら進めてきました当地区も整備後30年ほど経過し、あちこちの施設の破損がみられるようになり、この活動で細部にわたり補修を行い、長寿命化が図られたと思われる。又花の植栽は地域の人達に心なごむ癒しの場を提供できたが、高齢化社会の中で作業面で負担となる草刈等軽減対策として、防草シートの施工を毎年続行し、延3,500m程となり大変喜ばれる結果となりました。

水質モニタリングの結果、想像以上に水質が悪化していることが分かり、生活の変化による影響と思われる。今後広い範囲で汚染防止の認識を高める呼びかけをしていくのが急務と感じています。



草刈り作業軽減のための防草シート
施工

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	酒蔭地域資源保全会	代表	高橋 喜信
協定面積	田 56.9ha 畑 1.2ha 計 58.1ha	対象面積	田 56.9ha 畑 ha 計 56.9ha		
管理施設	開水路 20.4 km ため池 ヶ所 農道 3.8 km	パイプライン	km		
構成員	農業者 71人 農業団体 団体	非農業者個人	人 非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち地域資源保全会は、春のクリーンアップから始まり、用水路の泥上げ、農道の敷き砂利と、地域が一丸となって活動をしてきました。

老人クラブの皆さんの力を借りての花植栽、又子供達に、地域の良さを知ってもらう為の水質モニタリング調査、5年間の内で地域の小学校からの依頼を受け高学年の水質モニタリングも行いました。

5年間保全会をやってきたの反省点として、泥上げ、草刈、クリーンアップ等は、人手に不自由する事はなかったが、他の活動になると仕事の違いや年齢の違いから、なかなか人員を集めることが出来ず、同じ人員で活動をこなすことが多かったと思います。

これから保全会が継続したら、違いのズレをどうしたらいいか考え、良い方法で地域の活性化を目指して行きたいと思っています。



町内会員による施設のクリーンアップ

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	皆瀬資源保全会	代表	阿部 正見
協定面積	田 57.7ha 畑 ha 計 57.7ha	対象面積	田 57.7ha 畑 ha 計 57.7ha		
管理施設	開水路 10.9 km ため池 ヶ所	農道 6.8 km	パイプライン km		
構成員	農業者 96人 農業団体 1団体	非農業者個人 30人	非農業団体 5団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 私達の地域は、農業従事者の高齢化と並行して農作業の委託も増加している状況であります。 昭和50年代の区画整備以来、共同作業と云えば年1回の泥上げぐらいでした。農地の管理や草刈りは個人作業の範囲にとどまり計画性があるとは思えませんでした、このように将来的な保全の取り組みが不安視される中、今後の「農地・水・保全活動」は個々人では成し遂げられない地域活動を作り出すとともに、大きな目標に向かう価値観の共有をうる絶好の機会となりました。 農地整備以来、時が経ち施設の老朽化、破損は目立ち始めた矢先、破損修理、畦畔補修、農道補修の実施が広域的に行われたことで、農作業と水管理がスムーズになったと感謝され、大変喜ばれてました。又活動後半には、親子会、婦人部等による遊休農地に花植栽が始まり、草取りは老人クラブの応援も得られ、その傍らには「皆瀬資源保全会」の名入りのモニュメントも建てられました。行き交うドライバーの目を楽しませ、時折写真を撮る光景も見られ、地域の景観を造ろうとする心が芽生え始めたものと嬉しくなりました。 年3回の草刈作業には、PTA父兄の早朝応援もあり、堤防の野生化した雑草は、この数年で、グランドカバー化し、手入れの届いた様子は住民から評価されました。 保全会活動は、農業者から地域住民へ、一つのグループから地域活動へと輪を広げ環境が守られています。このような地域活動を続けることが、私たちの役割であり、そして次世代の子ども達へと引き継ぐことで、故郷を大切にすることが培われるものと信じています。					



(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	新城・鍛冶屋布資源保全会	代表	新山 富雄
協定面積	田 28.9ha 畑 ha 計 28.9ha	対象面積	田 27.7ha 畑 ha 計 27.7ha		
管理施設	開水路 11.2 km ため池 ヶ所	農道 4.7 km	パイプライン km		
構成員	農業者 57人 農業団体 1団体	非農業者個人 49人	非農業団体 7団体		
(5年間の活動内容や感想等記入) 当保全会は地域コミュニティが地域保全の原点であるとの認識の下、活動を展開してきました。そのため、農業者以外の参加が重要なポイントであると考え、景観形成活動などの参加しやすい事業を重点に取り組んできました。 それにより、事業に対する理解が深まり、草刈作業や農道整備などの従来は農業者が行ってきた作業にも非農業者の参加が増えました。 また、これからの地域を担う子供たちも参加し地域のことを学ぶ機会としては、大変有効であったと考えます。 今後、地域の高齢化により危ぶまれる農業施設の保全管理において、地域に住む者全体が農地の担う公益的役割を認識し、自分たちの責務として今後の活動に臨む姿勢を醸成できたことは大いに価値のあることと考えます。 またこの活動をとおして自助、共助の意識が生まれたことはこれからの地域活動にとって大きな力となって集落を支えると確信します。					



80名を超える参加者があった花の植栽作業。子供たちも皆と楽しくお手伝い。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	御嶽堂資源保全会	代表	佐藤 俊雄
協定面積	田 14.9ha 畑 ha 計 14.9ha	対象面積	田 14.1ha 畑 ha 計 14.1ha		
管理施設	開水路 5.2 km	ため池 ヶ所	農道 2.3 km	パンプライン	km
構成員	農業者 32人	農業団体 1団体	非農業者個人 13人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達御嶽堂資源保の目的は国見岳より湧き出る清水と緑豊かな水田風景を保全会活動を通じて地域内の農地の保全、活動での後継者の育成、薄くなりつつある地域住民の対話や絆の復活を目的に活動しました。特に地域内の農道は小中学校の通学路であり道路側への景観植物〔マリーゴールド〕植栽や管理作業は婦人会を中心に全体の活動の中で盛り上がりがありました。それは昔のような田植えなどの共同作業もなくなり集落内の職業も多種になりコミュニケーションが無くなったからだと思います。子供たちにも水質検査をさせて地域内の水の状態を勉強させました。これは将来地元からはなれても故郷を思い出してもらえたらと思います。T P Pの問題が提起されたり、国家、地方財政の破綻再建問題や消費税の増税を提起されるなどして自分達の無駄や構造改革はしないで国民に負担を押し付けるのは問題だと思います。福島原発事故を早く終息させて福島の故郷を復活させて下さい。政治に対する不信感が増幅すると思います私達御嶽堂資源保全会は5年間の活動で築きあげた絆や友情を忘れる事なく地域のために活動していきたいと思ひます。



共同活動によるマリーゴールドの植栽や植栽後の手入れ等の作業では地域の連帯感が生まれました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	上久保資源保全会	代表	石垣 一志
協定面積	田 20.4ha 畑 ha 計 20.4ha	対象面積	田 20.1ha 畑 ha 計 20.1ha		
管理施設	開水路 4.1 km	ため池 ヶ所	農道 1.8 km	パンプライン	km
構成員	農業者 27人	農業団体 1団体	非農業者個人 23人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会地域は三方が山に囲まれた緑豊かな水田風景が、冬は凜とした銀世界が拡がります。活動初年度は、何かと戸惑いもありましたが、構成員の積極的な参加に熱い心を感じ5年間続けてくることが出来たと感じております。

活動の目的は、緑の自然と農業環境の整備を行い、また、活動を通し最近希薄になってきてると(地区行事の縮小、廃止や高齢化)云われている地域のふれあいの向上も目標でもありました。

活動は開水路の浚渫作業に始まり、子供からお年寄りまで数十人での景観植物の植栽は集落の世代間交流の一つとなりました。暑い日の農道の砂利敷き、草刈りは本当に大変な作業でしたが、休憩時間での雑談がやる気と絆が深くなります。小学校との動植物観察会ではアドバイザーの説明に貴重な魚や植物が身近にあることに感嘆し、自然の大切さを実感、子供達も自分で体験したことで環境を考える一助になればと思っています。

構成員みなさんのご理解とご協力により農業施設の機能回復、農村環境の維持保全が図られ、活動を通して自然を守る事の大切さを理解して頂けたと感じております。



小学生との動植物観察会の様子です。絶滅危惧種の魚も生息していますが、5年間で随分と変化がみられました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	宮田・京政資源保全会	代表	佐藤 博
協定面積	田 19.6ha 畑 ha 計 19.6ha	対象面積	田 19.6ha 畑 ha 計 19.6ha		
管理施設	開水路 6.2 km	ため池 ヲ所	農道 3.1 km	ハ [°] イ [°] ライン	km
構成員	農業者 56人	農業団体 1団体	非農業者個人 15人	非農業団体 9団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会では、子供達に地域の自然のすばらしさや環境を守る大事さを伝え受け継いで行く事を目標として活動を行って来ました。取り組み当初は地域の農地の環境を守り、維持していく事が主体の活動でしたが活動していく内にただ守るだけでは駄目だという事に気づきました。実際に手をかけないと農地はすぐに崩れて荒れてしまいます。それを防ぐには環境を維持していく事が大事で地域の人達の意識として根付く事が本当に大切だと気づきました。活動としては、普段行う事が少ない「農道法面の草刈り」に始まり、排水溝の詰まりなどを防ぐ「泥上げ

暑い中や冷たい雨降りの中、世代を超えて協力してもらい普段会う事が無い人達との地域の繋がりが出来て、とても有意義な活動でした。又、環境保全活動として老人クラブや婦人会を主体とした「花の植栽」は綺麗な色々な花を植える事が出来て心が豊かになる活動で、暑い日中での草むしり等、お疲れ様でした。小学生と親による「クリーンアップ活動」や「水質モニタリング」などの活動は、子供達の心の中にも地域の環境のすばらしさや壊さないようにする大事さなど自分達でもやれば出来るという貴重な体験をしていただけたとおもいます。地域の自然を守



6月になると、待ちわびたように皆んなで花壇造りの作業に入ります。いろんな種類の花々を植えます。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	飯田資源保全会	代表	佐々木 誠
協定面積	田 21.0ha 畑 ha 計 21.0ha	対象面積	田 21.0ha 畑 ha 計 21.0ha		
管理施設	開水路 5.3 km	ため池 ヲ所	農道 2.9 km	ハ [°] イ [°] ライン	km
構成員	農業者 32人	農業団体 1団体	非農業者個人 56人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達の保全会での活動は、次世代の子供達に少しでも素晴らしい自然環境を残せるようにと代表をはじめ、集落皆で活動を行って来ました。最初に取り組んだ時は、集落の皆が協力してくれるだろうか等色々な不安もありました。しかし、いざ活動してみると集落の大人から子供まで大勢集まってゴミ拾いや堰の泥上げ・花の植栽・草刈等一致団結して取り組んでくれました。その取り組む姿を見てまだまだこの集落はどんな活動をしても皆が協力してくれるだろうと安心感を覚えました。

又、子供達による水質モニタリングや生き物調査でも普段の生活では体験できない地域の水の状態やその水質で生きている生物などを目で見て、手で触れて感じる事ができたことは子供達が大人になった時に今度は自分の子供達に伝えて言ってくれればと思います。

最後に非常に大変な時代ではありますが、今回の活動で学んだ事をこれからの集落の活動にも活かし、地域の環境がこれ以上破壊されないで、いつまでもきれいに残せるようお願い、皆で努力していきたいと思っています。



子供達が行った水質モニタリングと生き物調査です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	野村資源保全会	代表	佐藤 儀三郎
協定面積	田 40.1ha 畑 ha 計 40.1ha	対象面積	田 37.0ha 畑 ha 計 37.0ha		
管理施設	開水路 9.6 km ため池 ヲ所	農道	4.7 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 57人 農業団体 1団体	非農業者個人	322人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
本地域の農地は今後ますます農地集積が進み、農地や農業水利施設の維持管理が農業者だけで出来るものではなく、労力を有する地域の各組織がそれぞれ行う、協働活動としてこの資源の保全活動に取り組んでいかなければと思っている。現在は耕作放棄地はないものの、自己保全の農地については適正な管理がされるよう地域全体の課題としてとらえ、特に病害虫の発生源や景観上も好ましくないことから、これまで同様皆で注意しながら管理してまいりたい。また、施設については整備後30年以上が経過し、施設の老朽化が目立ってきているため、軽微な補修					
草刈り作業の省力化として植栽したグランドカバープランツ（ヒメイワダレ草）は景観上も良好であり、今後とも景観等の環境への意識を向上させるため、除草などの活動を婦人会や老人クラブなどに協力を依頼し、今の景観を保全してまいりたいと思っている。 そして当集落にある小学校は地域の宝であり、子供達の活力が地域を元気づけてくれており、通学の際に交わされるあいさつは地域住民に潤いと安らぎを与えてくれている。そんな子供たちに農業や農村の役割、大切さを伝えるため、これからも学校教育と連携し農作業体験など水土里ネットと協力し					
					
				地域の小学校で稲刈の体験指導を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	八面資源保全会	代表	杵澤 勇悦
協定面積	田 100.6ha 畑 ha 計 100.6ha	対象面積	田 99.4ha 畑 ha 計 99.4ha		
管理施設	開水路 28.7 km ため池 ヲ所	農道	13.3 km	ハ イ°ライン	km
構成員	農業者 133人 農業団体 1団体	非農業者個人	94人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
保全会活動を通して農道や水路の機能が改善したのは当然であるが、農道や水路の除草作業、景観植物植栽等の共同作業は、薄れつつあった集落の『和』や『絆』の復活に役立った。特に景観植物植栽活動は、老若男女を問わず、また非農家も気軽に参加でき、作業中の親子の団欒や井戸端会議は楽しそうで、終了後の集合写真の表情はにこやかで、目が輝いている。 また、土地改良区の活動に協力する形で参加を始めた、田植（手植え）に始まり、稲刈り（手刈り）、その稲わらを使った『縄ない教室』、出来上った縄を使った『雪中田植え』で終わる、地元小学生対象の『学校教育との連携活動』は、大部分の都会の児童には経験出来ない貴重な体験を、参加児童に与えることが出来たと考えている。 就職や進学等で、多くの児童は将来当地から離れることと思われるが、これらの体験を通して、稲作への関心や食を大切に思う気持ち、伝承行事の重みとして、心の片隅に残ることを期待している。 4集落の自主性を損なわずに、保全会全体の纏まりを保つため苦勞した部分も有ったが、『得るものが多かった五年間であった』が役員の総括意見であった。					
					
				駒形小学校4～6年生(65名)を対象にした縄ない教室（今年で5年目）	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	佐野資源保全会	代表	佐藤 浩之
協定面積	田 11.3ha 畑 ha 計 11.3ha	対象面積	田 10.9ha 畑 ha 計 10.9ha		
管理施設	開水路 3.9 km ため池 ヶ所	農道	1.7 km、	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 18人 農業団体 1団体	非農業者個人	33人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

この5年間農道整備・水路周辺の草刈・排水路の泥上げ等個人ひとりではできない活動を構成員の協力のもと継続し活動する事が出来ました。特に印象深い活動は初年度のカバープランツで本当に自分達で出来るのか不安でしたが無事施工できそこに毎年景観植物を植栽することができました。又この活動は特に高齢者の女性の方々に喜ばれ自分達にもやれば出来るし集落内がきれいになり皆協力し活動する事が楽しいと感じたのではないのでしょうか。

これまでの活動を通じ地域住民の方々には
「農地・水・環境保全活動」の意味と必要性を理解して頂けたものと思います。又年々集落内のまとまりや協力が薄れつつある現代これを機に多少は復活できたと思います。

以上

水路の周りに初年度はカバープランツその後毎年景観植物を植栽することができた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	東福寺資源保全会	代表	阿部 順治
協定面積	田 10.2ha 畑 ha 計 10.2ha	対象面積	田 9.7ha 畑 ha 計 9.7ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 ヶ所	農道	1.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 25人 農業団体 1団体	非農業者個人	29人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

集落の2km上流にある、「東福寺ため池」の一带の山林を水源の森として地域住民一丸となって伐採を禁じるなど、江戸時代から保護し続けてきた集落の「まとまり」をもって資源保全活動を続けてきました。

集落を取り巻く農地の約9割を傾斜地が占めていることから、中山間地直接支払制度（集落協定組織）を資源保全会立ち上げの一年前に設立し、翌年度平坦な農地を対象に資源保全会区域に定め両組織が共同して緑豊かな農業・農村環境整備に取り組んできました。集落全員参加型の二つの組織が共同で広報を発行し、春の「ゴミ捨て防止」の呼びかけ、初夏の「花いっぱい運動」、夏は親子での「ホタルの観察会」、秋の「地域内一斉草刈り実施」や農業施設の保安全管理のみならず地域全域の環境整備について周知を図り、集落内での交流の場が少なくなってきた現状に、この五年間で活気を取り戻しつつあります。

また、地域の小学校へは農業体験学習会に保全会役員を講師として派遣するなど、子供たちへ農業の果たす役割や自然を守る事の大切さなどを伝えながら、活動を継続していきたいと思います。

保全会設立と同時に行なわれた、東福寺親の会と保全会役員の第一回合同学習会。「資源保全会の役割」、「水質調査体験」「ホタルの学習会」など共に学んだ。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	高村資源保全会	代表	藤原 秋夫
協定面積	田 25.0ha 畑 ha 計 25.0ha	対象面積	田 24.1ha 畑 ha 計 24.1ha		
管理施設	開水路 9.7 km ため池 ヲ所	農道	4.5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 38人 農業団体 1団体	非農業者個人	20人	非農業団体	6団体
(5年間の活動内容や感想等記入) この5年間の主な活動としては側溝の補修、農道砂利敷き、側溝へ蓋設置などのユーティリティの補修・メンテナンスと部落と県道を連結する部分への花の植栽があった。 ユーティリティのメンテナンスでは、会員の職業を活かした作業を実施してもらい良く対応できた。又花の植栽に合わせて子供会の参加による道路のゴミ拾いを行い部落全体の活動として各作業を継続して実施できた。 又農道の砂利敷きにより農作業時の安全も確保出来ており5年間で部落の景観形成・安全な農作業・世代を超えた活動により、全員参加で活動することの有意義さを体験できた。 その他、消防団・婦人部・子供会・しばこや会等の個別団体の協力で作業も順調に進んだことと、集落農場化組合の春作業における濁水管理も行うことが出来、多面的な活動とすることが出来た。					
					
				5月5日こどもの日に部落内側溝清掃に合わせ子供会の部落周辺のゴミ拾いを行い景観形成への参画。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	戸波・羽場資源保全会	代表	内藤新左衛門
協定面積	田 30.3ha 畑 ha 計 30.3ha	対象面積	田 29.8ha 畑 ha 計 29.8ha		
管理施設	開水路 7.8 km ため池 ヲ所	農道	3.7 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 64人 農業団体 1団体	非農業者個人	人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たち戸波羽場資源保全会では、自然の恵み、命の源である水資源の大切さを子供に伝えるべく、水質モニタリングに取り組んできました。 夏の風物詩である、鮎つり、カヌーイストらによる川遊び、地域の清流は自然の楽しさを教えてくれます。 開水路のホタルや貴重な生物たち、この自然を永遠に守るため、大人と子供世代を超えて、話合ってきました。この5年間で、大人も子供も環境にたいする意識が高まったのではないかと感じました。 郷土の資源を守るためにこれからも、がんばっていききたいと思います					
					
			5年間で計20回の水質検査を行い、 たくさんの子供達が参加しました。		
戸波羽場資源保全会			代表 内藤 新左衛門		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市	組織名	稲庭資源保全会	代表	松村 善夫
協定面積	田 56.6ha 畑 ha 計 56.6ha	対象面積	田 56.6ha 畑 ha 計 56.6ha		
管理施設	開水路 12.6 km ため池 ヶ所	農道	6.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 112人 農業団体 1団体	非農業者個人	38人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会管内は、旧稲庭城址の裾野に農地が広がっています。皆瀬川から取り込んだ清流は新処堰や五ヶ村堰を流れ、米や野菜の生産が代々受け継がれてきました。農地は自然の一部ではありますが、環境保全にも大きな役割を果たしていることを地域みんなが理解しています。このため、本事業発足当初から各種作業には、農家、非農家問わず大勢の方々が参加していただきました。PTAの親子会にも、水路や農道の清掃活動を積極的に取り入れてもらうなど、地域の子供たちには環境保全の大切さ、意義が少しずつ浸透したような感じがします。

農地も整備され、機械化によって昔のような共同作業が減ってきた中で、5年間実施した「農地・水・環境向上対策事業」の役割は大きかったと思います。農業施設を守ることはもちろん、自分たちでできることはみんなで頑張ろうという意識が地域に芽生えた感じがします。

振り返ってみれば、まだまだ取り組みたかった事業があったかもしれませんが、これまでの実践、経験を踏まえ、若い世代に食糧生産の大切な財産を残していきたいものだと考えています。



水田に向かう農道の整備は重点事業として、毎年実施しました。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	羽後町	住 所	雄勝郡羽後町西馬音内字中野177	電 話	0183-62-2111
担当部署	農林課 農山村整備担当	担当者	主任 藤原 敏		

(5年間の感想等記入)

羽後町は平成18年度からのモデル地区から取り組むことになりましたが、事業の方針がなかなか固まらず、手探りが多かったため、はっきりした指導ができないままスタートしました。活動組織に対して、事業内容や交付金の使途、書類の作成等がうまく周知できるか不安も多かったのですが、土地改良区に全面的にサポートしていただいたおかげで、事業がスムーズに進んだと感じています。

この交付金により、それぞれの地域において支障となっていた施設の補修や維持管理的な作業を実施することができたうえ、住民自身の手で行ったことで、地域資源の保全に対する意識が高まったのではないかと思います。この5年間で、きれいに管理された農地や補修された施設が町内各地で見られるようになったことは、それぞれの地域で共同活動が定着したものと感じられます。また、植栽活動や生態調査等は、地域環境の向上となったほか、住民同士の交流の場として大きな効果があったと思われます。

この事業に取り組む以前も、草刈や泥上げといった共同活動は行われていたわけですが、5年間で活動の範囲もレベルも向上したと思います。しかし、活動組織の代表をはじめとする役員や、実際に作業をしているのは高齢者が多いのが実情であり、後継者不足、高齢化が進む地域にとって、これから10年後、20年後を考えた場合、今の農村環境を保全していくためには、ますます地域住民のまとまりが必要になると思われます。この事業を通して構築された保全に対する意識を地域住民で共有し、住民一人一人が自分のできることを少しでも継続していくことで、地域の環境が保全されていくことを期待します。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

羽後町	耕地面積	田	3,600 ha	畑	443 ha	合計	4,040 ha
平成19年度	協定面積	田	2,694.83 ha	畑	1.50 ha	合計	2,696.33 ha
平成20年度	協定面積	田	2,696.13 ha	畑	1.50 ha	合計	2,697.63 ha
平成21年度	協定面積	田	2,693.58 ha	畑	1.50 ha	合計	2,695.08 ha
平成22年度	協定面積	田	2,695.04 ha	畑	1.50 ha	合計	2,696.54 ha
平成23年度	協定面積	田	2,693.08 ha	畑	1.50 ha	合計	2,694.58 ha

(支援交付金実績)

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	2,680.82 ha	117,956,080円
平成20年度	対象面積	計	2,680.22 ha	117,929,680円
平成21年度	対象面積	計	2,679.59 ha	117,901,960円
平成22年度	対象面積	計	2,679.59 ha	117,901,520円
平成23年度	対象面積	計	2,679.15 ha	117,852,926円
合計				589,542,166円

活動組織名称

羽後町

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0666	貝沢本郷地域資源保全隊	0674	貴船の郷地域資源保全隊 (資料は湯沢市に添付)
0667	床舞の里保全会	0675	鶴巣資源保全会
0668	床舞ecoグループ30	0676	高尾田資源保全会
0669	野の郷地域資源保全隊	0677	嶋田新田資源保全会
0670	緑の風の京塚保全会	0678	四ツ屋資源保全会
0671	紅梅団の里地域資源保全隊	0679	下郡資源保全会
0672	鳥居四ッ堰保全会	0680	土館資源保全会
0673	掬ノ上地域資源保全隊	0681	上郡資源保全会

[illegible]

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	貝沢本郷地域資源保全隊	代表	佐藤 久夫
協定面積	田 138.5ha 畑 1.1ha 計 139.6ha	対象面積	田137.1ha 畑 ha 計 137.1ha		
管理施設	開水路 36.9 km ため池 ヶ所 農道 13.5 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 95人 農業団体 団体	非農業者個人 8人 非農業団体 4団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊の集落は、農業用水が年間を通じて地域用水として利用されていることから、住民一体となった保全管理を従来から実施してきました。しかし、住民意識の多様化、農家の兼業化・高齢化・減少等により、継続的な保全管理に不安を抱えていました。集落を形成する農業用水利施設は貴重な地域資源であることを改めて住民が広く認識・理解を深めてもらうことから始めた活動は、全ての活動に誰でも参加できるよう広報を通知する等の啓発に努める工夫をしました。また既存の活動の取り組み方法を話し合い、改善することで省力化も図られ、きめ細かい活動が出来ました。

農村環境向上活動で、景観形成に取り組み、参加者が交流し楽しめる活動を計画しました。老人から子供たちの参加で、花街道や体験農園を設置し、住民交流会も実施しました。保全活動を行う過程で、住民交流が深まることと共に、地域資源への意識が向上し理解・協力が繋がっています。

今後は、対策で築いた集落体制で、住民相互で合意形成を図りながら、地域資源の保全と活用により、農村集落の豊かさを発信していきたいと思います。



人通りの多い集落街道添いに景観形成を実施したことで、活動の啓発が図られた。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市・羽後町	組織名	床舞の里保全会	代表	藤原 長雄
協定面積	田 114.1ha 畑 0.2ha 計 114.3ha	対象面積	田 112.6ha 畑 ha 計 112.6ha		
管理施設	開水路 37.8 km ため池 ヶ所 農道 15.2 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 130人 農業団体 1団体	非農業者個人 7人 非農業団体 5団体			

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊は水系単位の3集落で構成しており、農業用排水を居住している付近を流下しており、防火用水や冬季の消流雪用水として通年利用していることから、住民一体となった保全管理を従来から実施してきました。対策を契機として、地域の保全管理が継続的に実施できるよう体制を見直すことから始めました。

従来からの活動に加えて、地域内で要望のあった景観形成活動(施設への植栽・体験農園)を新たに計画し、誰でも参加できるよう広報を通知する等の啓発に努めたところ、地域一体となった活動となり、住民交流が活発になりました。

保全活動を通じて、住民相互の連携や保全管理の意識が向上し、参加者の増加や役割分担で充実した活動ができるようになりました。

当地域でも集落の高齢化や農業者の減少が進行しており、保全管理を継続していくことが今後の課題ですが、5年間で築いた地域一帯の連帯感を育みながら取り組んでいきたいと思っています。



景観形成や体験農園で住民交流が活発になった。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	床舞ecoグループ30	代表	竹原 永一
協定面積	田 36.9ha 畑 ha 計 36.9 ha	対象面積	田 36.6ha 畑 ha 計 36.6ha		
管理施設	開水路 15.2 km ため池 ヲ所	農道	6.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 26人 農業団体 団体	非農業者個人	4人	非農業団体	4団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちのグループでは、農業者の高齢化や施設の老朽化が進行し、施設の維持管理にも影響が出始め、不安を抱えていました。対策をきっかけとして、新たな組織体制になったことで、農家を主体に住民の協力も得ながら、老朽化した不具合のある施設の長寿命化を図る活動を年次計画により実施しました。溝畔の補修、不等沈下の対応、目地詰めにより、機能が回復し、関係農家から感謝されました。また、点検・機能診断、異常気象後の見回りを組織で実施することで、被害が拡大する前に初期補修が行える体制となりました。 農村環境向上活動では、遊休農地の荒廃を防止するため、住民で農地へ景観花の植栽を行いました。景観活動を通じて、住民の連携が深まり、保全管理活動への理解が深まったようです。 今後も、保全管理活動を住民参加で継続して、農地の荒廃や施設が機能不全にならないよう活動していきたいと思います。					
				 農道整備を住民参加で実施して、集落と幹線道を結ぶ農業以外の施設であることや、保全管理について理解が深まった。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	野の郷地域資源保全隊	代表	松井 昭太郎
協定面積	田 84.6ha 畑 ha 計 84.6 ha	対象面積	田 84.2ha 畑 ha 計 84.2 ha		
管理施設	開水路 28.3 km ため池 ヲ所	農道	11.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 80人 農業団体 3団体	非農業者個人	4人	非農業団体	3団体
(5年間の活動内容や感想等記入)					
私たちの保全隊は、緑豊かなこの土地を代々受け継ぐことが出来るよう、皆の力を合わせて環境維持をしていくことを目的に活動をスタートしました。 当初は、何から手を付けたらいいのか戸惑いましたが、集落で話し合いながら今何が必要か順序を決めながら環境維持に努めることにしました。また、環境美化事業（花の植生）は各グループ（老人クラブ等）に依頼し、年間を通して管理運営に当たってもらいました。その成果としまして、作業終了後にすぐ帰らず話し込んでいるようで、社交の場となっていました。さらに子供達には、農業の体験をしてもらい、野菜の定植、管理、収穫、そして収穫した野菜を食べる事で、食育に欠かせない作業を通じての楽しさを知ってもらうことが出来ました。 今回の保全事業で、集落の人々が集まって話し合い、そして一緒に作業をする事で、集落内がより近く感じられるようになりました。					
				 農業用水を冬季の消流雪として利用するため、蓋かけを実施。農業用水の大切さを地域で再確認できました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	湯沢市・羽後町	組織名	緑の風の京塚保全会	代表	鶴沼 和博
協定面積	田 32.1ha 畑 ha 計 32.1ha	対象面積	田 29.8ha 畑 ha 計 29.8ha		
管理施設	開水路 15.2 km ため池 ヶ所 農道 4 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 41人 農業団体 団体	非農業者個人 3人	非農業団体 4団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、近年、担い手の高齢化・減少が進み、近年の課題は、農業用水利施設の保全活動において、活動参加者の確保や活動の効率、省力化が課題とされていました。対策を契機として、保全活動の具体的な方策について話し合い、組織の合意形成により、課題に取り組むことが出来ました。

延長が長く法面積が広い排水路について、年次計画で防草対策を施しました。結果、除草作業の軽減、雑草繁茂による通水障害、土砂堆積が解消され保全会の省力化が図られました。また、組織で自主施工したことで、施設の理解や愛着心が生まれました。今後の保全活動につながる大きな成果です。

農業や農村環境について、関心を高めてもらうために、地域の子供たちと生き物・水質調査を行いました。活動を通じて、環境教育の教材となる貴重な地域資源であることを知り、農村環境への意識が芽生えた貴重な経験でした。

今後の保全活動も、5年間の対策で芽生えた意識を大切に、創意工夫により取り組んでいきたいと思っています。



年次計画で自主施工により施した防草対策は、保全会の省力化、流下能力が向上した。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	紅梅団の里地域資源保全隊	代表	寺田 定夫
協定面積	田 97.7ha 畑 0.1ha 計 97.8ha	対象面積	田 96.7ha 畑 ha 計 96.7ha		
管理施設	開水路 18.7 km ため池 ヶ所 農道 7.8 km	ハ°イ°ライン	km		
構成員	農業者 78人 農業団体 団体	非農業者個人 4人	非農業団体 3団体		

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち保全隊の環境は、集落四方を水田に囲まれ、緑豊かな風景が展開しています。取組当初は、初めての事業であり経験者がいないため、手探りの状態で不安が一杯での船出でした。春の用水路の泥上げを皮切りに、クリーンアップ・共同での用水路の草刈等集落の住民全員を対象に実施しました。自治会・老人クラブ・PTA・婦人会等、各実施事業から協力をいただき5年間実施してきました。老人クラブには、農道脇延べ350Mの花の植栽の管理を委託し、婦人部には「フラワーガーデン」の管理を委託、老人クラブ及びPTA・児童共同での、伝統農法の継承として水田の一部を借用し、昔ながらの手植え、手刈り、はさ掛けの農作業の実施をいたしました。また、夏と秋には農家個々の水田の除草、稲刈り後には用水路の目地詰・補修、ゲートの塗装等を実施しました。目地詰・補修については、年次毎に計画的に実施し、最終5年目では数箇所と減少しました。

5年間実施してきて、集落の絆みたいなものが確立されてきたと感じます。実施前までは人間関係が都会的で希薄だったのが、老人クラブ・児童の共同作業により親密になり、お互いに声を掛け合うようになったと思っています。また、年に1度の収穫感謝祭には集落の老若男女が多数参加し、児童による餅つき等盛大に実施され好評を得ております。収穫感謝祭については今後も続けてほしいとの要望が多数ありました。

今後も集落全体の絆を大切に頑張っていこうと思っています。



子供たちを主体とした手植え体験の様子。花の植栽や伝統農法のイベントを通じて、地域の絆を深めることができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町		組織名	鳥居四ッ堰保全会		代表	阿部 貞一						
協定面積	田	102.8ha	畑	ha	計	102.8ha	対象面積	田	97.7ha	畑	ha	計	97.7 ha
管理施設	開水路	32.5	km	ため池	ヶ所	農道	11.4	km	ハ イ°ライン	km			
構成員	農業者	92人	農業団体	団体	非農業者個人			5人	非農業団体	3団体			
(5年間の活動内容や感想等記入)													
私たちの保全会が保全管理する範囲は水系単位として、3つの集落で構成された農業者が従来から維持管理組織で保全管理を実践してきました。農家の高齢化や減少が進んだことによる参加者の減少により、農家一人あたりの作業時間が増加してきていることや施設が老朽し維持管理費が増大している現状があり、対処法を模索していました。対策をきっかけとして、新たな組織で保全活動の諸問題について話し合い、地域一体の保全管理を取り組むこととなりました。 住民共同の保全活動を進めるため、住民への保全活動への参加の呼びかけや地域生活を支える農業用水利施設の役割を理解してもらうことに苦労しましたが、農村環境向上活動で実施した水利施設周辺や遊休農地を利用した花の植栽を通じて、農地や施設周辺の環境が向上し、地域環境への意識が芽生え、生活用水として利用されている農業用水路の清掃活動への住民参加協力が得られるようになりました。 今後は、保全管理を住民の役割分担で実践する体制を構築できるように努めていきたいと思います。													
													
						農用地を利用した景観花や体験農園で農村環境への住民啓発活動をおこないました。							

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	掬ノ上地域資源保全隊		代表	柿崎 眞悦	
協定面積	田 23.7ha 畑 ha 計 23.7 ha	対象面積	田 22ha 畑 ha 計 22ha				
管理施設	開水路 6.9 km	ため池 ヶ所	農道 2.3 km		ハ イ°ライン km		
構成員	農業者 31人	農業団体 団体	非農業者個人 2人		非農業団体 3団体		
(5年間の活動内容や感想等記入)							
当保全隊の活動地域は、入り作が多いことと、家敷沿いに隣接している所です。							
取組当初は、入り作が多くて組織としてやっていけるか不安でありました。そこで、まずは各地域に役員をおき、日々構成員との連絡をお願いして活動を始めました。これまで水路清掃、改修、農道整備、景観形成、そして農業以外では、集落の生活用水路の清掃もお願いしたり、冬期の流雪水としての水を確保するため、水路の蓋掛け等の実施をお願いしたりして進めてきました。また、隣接している組織との連絡をとり、活動作業が重ならないようにすることで、参加人員の動員が得られました。							
活動を続けていくにつれて、構成員の方々は、自分達でできることは、できるだけ自分達で頑張らなければという精神がわいてきたように感じられました。							
							
積雪被害防止活動としての蓋かけを実施。農業者だけでなく、非農家も含め、農業用水の大切さを感じました。							

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	鶴巣資源保全会	代表	佐藤 松雄
協定面積	田 33.7ha 畑 ha 計 33.7ha	対象面積	田 33.7ha 畑 ha 計 33.7ha		
管理施設	開水路 10.2 km	ため池 ヶ所	農道 2.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 43人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 2団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

鶴巣資源保全会活動の5年間を振り返りますと、1年目はどの様にすれば良いのか、とまどいながらの活動でしたが、2年目以降は雪消え後の点検活動から始まり、花の植栽等部落住人と一緒になった共同活動や、敷砂利等の農道整備、長年に亘り排水に蓄積した土砂利の撤去など、個人ではできない整備も行い、有効な保全活動となりました。

これからも農村風景を維持し、保全していくため住民一丸となって活動していきたいと思っています。



水路の草刈り作業の様子
構成員が大勢参加し、雑木も合わせて伐採しました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	高尾田資源保全会	代表	後藤 順吉
協定面積	田 68.8ha 畑 ha 計 68.8ha	対象面積	田 68.8ha 畑 ha 計 68.8ha		
管理施設	開水路 17.4 km	ため池 ヶ所	農道 3.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 80人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 6団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

「資源保全会」の設立と活動にあたって、心配事は山ほどありましたが、いざスタートしてみると農道への砂利敷や、集落総出の水路泥上げなどがスムーズに行わていきました。

保全会活動が始まって変わったことは、集落役員、トマトの会、老人クラブ、多高会など集落の幅広い年齢層の人たちが一同に会し話し合いをし、一緒に作業に汗を流すようになったことです。

また、それなりに活動費が支払われるようになったことで、同じ仕事をするにも励みが出てきたようにも思われます。会議や共同作業により、保全会発足前より人々が顔を合わせる機会が桁違いに増え、集落のまとまりが格段に良くなったことが感じられます。また、農道脇への花の植栽で心和む景観が創出されましたし、個人では困難だった排水路の泥上げや用水路の目地詰め、溝畔の再築立などが実施され、みんなの力で農業の生産基盤や集落の環境が改善されたことを実感しています。

高尾田には、9月に村の災厄を川に流す「鹿島流し」という何百年も続いている伝統行事があります。この行事のように、いつまでもこのような活動が続けられ、快適な環境の高尾田集落が維持され繁栄することを願っています。



水路脇の植栽は非農家が主に管理してくれました。好評な活動で、今後も続けていきたいです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	嶋田新田資源保全会	代表	藤原 登代治
協定面積	田 109.0ha 畑 ha 計 109.0ha	対象面積	田 109.0ha 畑 ha 計 109.0ha		
管理施設	開水路 25.2 km	ため池 ヲ所	農道 8.9 km	パイプライン	km
構成員	農業者 68人	農業団体 3団体	非農業者個人 1人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

嶋田新田資源保全会は、モデル事業を加え通算6年間の活動となりました。当初目標としたのは「農業用施設」「農村環境」の保全のほか「地域住民の助け合い」が主なものでした。農業施設保全活動として用水路農道等の除草泥上げを全農業者で、農道不陸整正・水路目地補修などは構成員の建築土木経験者の指導で実施、施設機能の延命に大きな成果をあげました。

農村環境保全活動では自治会を中心に婦人会や消防班が協力して用排水路の機能保全やカバープランツの実証、耕作放棄地等への景観植物植栽などを実施しましたが、特に全世帯参加で二千mを超す幹線用水に蓋をかけた作業により、積雪寒冷期間の生活用水を確保できたことが大きな成果と考えられます。また、親の会が毎年実施した「生き物調査」は将来を担う地域の子供たちはもちろん、参加した若い親たちにとっても環境保全思想を醸成する良い機会となりました。

これらの事業実施により地域の世代間交流や集落間交流が促進され農村環境保全は自ら行うという機運が高まったことが最大の成果と考えられます。

今後も農地・水・環境保全については継続すべきという意見が多いので、継続するようお願いいたします。



積雪被害防止活動として水路の蓋掛けを毎年実施しています。生活用水確保に役立っています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	四ツ屋資源保全会	代表	仙道 隆
協定面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha	対象面積	田 28.8ha 畑 ha 計 28.8ha		
管理施設	開水路 6.3 km	ため池 ヲ所	農道 1.8 km	パイプライン	km
構成員	農業者 22人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 1団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

四ツ屋保全会は集落を中心とした小さな地域で構成され、水系の流末に近い場所にあります。冬期間は流雪溝として利用される水路があるため、上流の集落より流下する水によって水路の破損箇所や法面の崩落箇所が何箇所も見られました。この事業では水路の法面を補修することができたため、個人ではなかなか補修することが難しかった箇所も、自分たちで補修することができました。農道も同じように補修が進められ、通行に支障をきたしていた箇所も整備されました。

保全会では業者に委託するのではなく、計画から資材の準備、作業までを構成員がやることで、希望通りの補修ができたものと思っています。

集落の多くを占める農業者からも、営農活動に支障をきたす箇所がなくなっていくことから大変喜ばれました。

今後もこの事業が続くとともに、農業を中心とした農村集落である当地域が、ますます活気を帯びていくことを願っています。



中央の段差を削り砂利の補充をした農道。通行しやすくなり喜ばれています。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	羽後町	組織名	下郡資源保全会	代表	仙道 国男
協定面積	田 43.1ha 畑 ha 計 43.1ha	対象面積	田 43.1ha 畑 ha 計 43.1ha		
管理施設	開水路 12.2 km	ため池 ヶ所	農道 2.1 km	パイプライン km	
構成員	農業者 40人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

（5年間の活動内容や感想等記入）

私たちの保全会は集落が小さく、4集落で構成となり構成員も40名ほどしかいません。5年間いろいろと事業をやってきましたが、最初は戸惑いながらも全員が積極的に協力し合い、良いチームだと思います。

道路沿いの花壇作り等、若い女性と子供たちも参加してくれます。また、堰や用水路等の水質調査も子供たちとその親が大勢参加してくれました。

用排水路の清掃、また、農道の補修も全員参加で行ってきました。加えて農用地、水路、農道においても各々が積極的に心配りをして草刈りや清掃に力を入れてくれるようになりました。

少人数でもまとまることで大きな仕事ができます。全員が和気藹々と仕事をしてくれるのが何よりの誇りです。

「資源保全」とはいい言葉だと思います。これからも集落がなお一層明るくなるよう、また、施設の維持管理も自分たちでできることは自分たちで子供たちへ継承していけるよう、皆で力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

目地詰め、破損箇所改修、はらみ修正等水路の補修を今後も続けていきます。

（農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式）

市町村名	羽後町	組織名	土館資源保全会	代表	和泉 俊男
協定面積	田 69.7ha 畑 0ha 計 69.7ha	対象面積	田 69.7ha 畑 ha 計 69.7ha		
管理施設	開水路 16.7 km	ため池 ヶ所	農道 2.9 km	パイプライン km	
構成員	農業者 75人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体	

（5年間の活動内容や感想等記入）

土館集落は会社員などの非農業者が多い地域であり、今まで集落廻りを流れる開水路の管理は農業者によって行われてきました。毎年行っている春作業でも、非農業者に参加してもらうことが難しく、なかなか啓発の場がありませんでした。

この会が始まってから、自治会、親の会、婦人会と一緒に活動する機会が増え、農業用水路は農業者のためだけに利用されているのではなく、集落内を流れている水路も、待っていれば流れてくるものではないということを非農家の方々にも知ってもらえました。

特に子供たちは生物調査を通じて地域の自然に親しみを持ったり、流れてくる水がどこからどのようにして集落までたどり着くのかを教えた時の「そうだったのか」という驚きを忘れないでいてくれるものと思います。

今後は非農家への啓発活動をますます進め、地域の環境は住民全員で守っていくものだという意識を育めるように頑張っていきたいです。

生活用水として流れる水路の改修で冬期間の消流雪用水の確保につとめました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	上郡資源保全会	代表	遠藤 甲一郎
協定面積	田 69ha 畑 ha 計 69ha	対象面積	田 69ha 畑 ha 計 69ha		
管理施設	開水路 17.6 km	ため池 ヲ所	農道 5.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 62人	農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

上郡での保全会活動は、各施設の点検から始まります。豪雪地帯のため冬期間の降雪量が多く、雪によって破損した箇所等も多く見られるため、水路や農道を中心として全域を回ります。

集落周辺では冬期間の水路破損を防ぐため、水路に蓋掛けをしている箇所があり、春作業として水路の泥上げと一緒に蓋の撤去をします。夏には各農家による圃場まわりの草刈り作業を期間を定めて全員にやってもらい、期間終了後に役員が草刈り状況を確認します。花の植栽は集落周りの水路脇と、遊休農地にならないように利用されていない農用地へ行いました。秋には2回目の草刈り作業を行うとともに、春の点検で見つかった水路や農道の補修箇所を直したり、新たに破損した箇所を見つけて次年度の計画を立てます。そして、水路へ蓋掛けをして活動がほぼ終わります。

初年度こそ何をすればよいのか分からずに活動していましたが、年度が経過するにつれ上記のような活動を積極的に行えるようになりました。農村環境も営農上にも集落が活性化できたものと考えています。

今後もこの事業が続いていくことを、構成員からも要望が出ていますので、継続してもらいたいです。



ゲートへの注油、ペンキの塗布は毎年秋の作業となりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	安良町資源保全会	代表	今泉 久
協定面積	田 55ha 畑 ha 計 55ha	対象面積	田 55ha 畑 ha 計 55ha		
管理施設	開水路 15.3 km	ため池 ヲ所	農道 2.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 54人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

5年前に保全会活動を行うにあたり、安良町維持管理ブロック会を中心に地域全体で取り組む活動をテーマに土地改良区等の協力を受けながら農業者以外の方々にも参加を呼びかけ一緒に活動していただきました。春、秋のクリーンアップは、全員参加の事業とし、子供たちには夏休みに水質モニタリングや生き物調査を継続してもらっています。どこから水が流れてくるのか水源地から自分たちの地域までの水路をたどる勉強会を親子で行ったりもしました。

景観形成活動は全員で準備して花を定植し、初夏から晩秋まで女性たちに追肥や除草等の管理をしてもらい長く花を楽しむ活動をしてもらいました。

地域の消防隊には一年を通して水路の点検をしていただいたり、年配の皆さんには色々な行事でアドバイスをいただき地域の伝統の継承に力を入れてもらっています。

農業施設の保管理はもちろんの事、草刈りや泥上げ、農道整備等一定期間に皆で行うことで地域の統一感もできたと思います。

自分たちの地域環境を自分たちで守ろうと、地域全体で今後も取り組むことにしました。



春の一斉作業、水路の泥上げの様子
住民が協力して水路を守ります。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	糠塚資源保全会	代表	高橋 忠一
協定面積	田 43.7ha 畑 ha 計 43.7ha	対象面積	田 43.7ha 畑 ha 計 43.7ha		
管理施設	開水路 13.8 km	ため池 ヶ所	農道 2.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 31人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

保全会活動に取り組むにあたり、当初は不安や戸惑いもありましたが、あまり肩肘張らずに集落の協力を仰ぎながらやっていこうとスタートしました。

維持管理の助成金だけではできない農業施設の整備（特に農道）ができて、大変喜ばれました。景観形成活動の花の植栽・管理では、婦人会・若妻会と老いも若きも一緒になって笑顔で楽しく作業していただきました。

また、水質調査・生態系調査では、子供たちに自分の食べている米の用水の源は？ということでため池等も見回しして関心をもってもらいました。

冬期間も、生活用水や流雪溝の確保のため見回りして喜ばれています。

いろいろな活動を通して、以前よりも「絆」が深まり協力の体制が生まれてきたと思います。

今後も、皆の協力で地域を守り、盛り上げていきたいと思っています。

植栽の管理をする婦人会、若妻会。女性たちの交流の場と、集落入口の景観維持に役立ちました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	谷地中資源保全会	代表	高橋 耕治
協定面積	田 44.6ha 畑 ha 計 44.6ha	対象面積	田 44.6ha 畑 ha 計 44.6ha		
管理施設	開水路 13.4 km	ため池 ヶ所	農道 2.2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 39人	農業団体 2団体	非農業者個人 1人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち谷地中部落では、5年か農地・水・環境保全向上対策に取り組みました。

大変良かった点として、景観形成活動としての花の植栽において、集落の若い世代の女性と高齢の女性たちの間に交流がもたれ、輪ができたことが一つ。もう一つは、用排水を全て点検して補修や泥上げ等を自分たちで行うことで、農家の方はもちろんのこと、非農家の人達にも用排水路の大切さを知ってもらえたことです。

子供たちには水質調査、生物調査を行いながら、集落に流れてくる水はどこからきているのか、その水を綺麗に保っていくためにはどのような活動が必要なのか、といったことを教えることができました。

私たちを取り巻く農村とその環境が、自分たちの手で守っていくことができるのを、この事業で活動することによって再確認できたと思います。

来年度からは事業の名称が変わることと思いますが、地域を守る良い事業だと思っていますので、ぜひ継続してもらいたいです。

植栽に参加してくれた方たち。花の咲いている間の草むしりや管理も頑張ってくれました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	塩出資源保全会	代表	平柳 竹夫
協定面積	田 35.5ha 畑 ha 計 35.5ha	対象面積	田 35.5ha 畑 ha 計 35.5ha		
管理施設	開水路 10.7 km	ため池 ヲ所	農道 1.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 36人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、自治会を中心として子供会や婦人会にも活動に参加してもらい、幅広い年齢の住民に活動参加してもらうことができました。主に花の植栽と水質・生物調査に参加してもらいましたが、植栽では親子が楽しそうに花植えを行ってくれましたし、生物調査では楽しみながら田んぼの生き物の生息状況を、水質調査では集落に流れる水がどこから来るのかを興味深げに学習してくれました。

今まで個人では手をつけることが難しかった水路の破損部分の補修や、農道をきれいに整備できたことも農業者にとってはありがたいことでしたが、普段は接する機会がなかった非農業者や子供たちと触れあえたことは、自分たちの地域を再確認するとともに、人と人のつながり「結い」を蘇らせることができたのではないかと思います。

農家にとっては厳しいことが山積している現在の状況ですが、この事業の継続と共に集落の「結い」がより強くなっていくよう頑張っていきたいです。



あいにくの雨でしたがたくさんの親子が参加してくれた植栽。みんな楽しく作業してくれました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	元城資源保全会	代表	長谷山 重吉
協定面積	田 92.3ha 畑 ha 計 92.3ha	対象面積	田 92.3ha 畑 ha 計 92.3ha		
管理施設	開水路 26.2 km	ため池 ヲ所	農道 3.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 137人	農業団体 3団体	非農業者個人 人	非農業団体	8団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域の最大の資源は、豊かな山林、水と農地です。

そこに連なる施設の維持管理を、受託者全員参加による共同作業で守っていききたいとの目標を設定し、5年間保全会事業を推進してきました。

発足当時より高齢化を主たる原因として減少した農業者と、予想を超える大きな情勢変化の中でも、全員による共同活動を展開してきたおかげか、施設と環境は全員で守るという認識が定着したのです。

花の植栽は道行く人の気持ちを和ませ喜ばれましたし、水質調査等に参加した小学生は、源流をしっかりと管理することで水質が守られることを学習してくれました。

5年間の事業の集約では、排水路浚渫や溝畔の再築立など施設見回りの結果をもとに推進しておりますが、今後農業の持続とその施設環境の整備保全に向けて地域全体に呼びかけ、共同作業を柱に据えて取り組みを強めていきたいと考えております。



きめ細やかな雑草対策として行われた草刈り作業。水路や農道といった場所の管理を行いました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	下開資源保全会	代表	柴田 協三
協定面積	田 27.2ha 畑 ha 計 27.2ha	対象面積	田 27.2ha 畑 ha 計 27.2ha		
管理施設	開水路 9 km	ため池 ヲ所	農道 1.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 33人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 1団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

下開資源保全会では、今まで農業者が各戸で行ってきた維持管理活動を中心にして、経年劣化による水路の破損箇所の改修や、農道の補修作業を5年間行ってきました。

この事業は大規模な工事による改善ではなく、自分たちの手でできるところまでやるという事業でしたので、細かな目地の補修やゲートの塗装も並行して行ってきました。保全会の開始前に気になっていた箇所の多くに手をつける事ができ、改良されたと思っています。

また、農村環境向上活動として花の植栽や水質検査も行なってきましたが、地元にならなくても興味を持つきっかけになってくれればと考えています。

この事業は今年度をもって1期目が終了となってしまいますが、集落を活性化する要因の一つとして定着してきましたので、ぜひ今後も継続してもらいたいと思います。



みんなで花の植栽を行います。
見た目に華やかになったと好評の活動でした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	大久保資源保全会	代表	篠木 清作
協定面積	田 114.7ha 畑 ha 計 114.7ha	対象面積	田 114.7ha 畑 ha 計 114.7ha		
管理施設	開水路 30.3 km	ため池 ヲ所	農道 7.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 101人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は、組織の構成員や構成団体の協力を得ることにより、与えられた5年間の共同活動の中で、昔からのきれいな水田風景や周囲の景観の維持、農道としての機能を高めるための整備・補修や用排水路を長持ちさせるために細かなところへの補修など、農業者（構成員）や非農業者が一緒になって活動してきました。

昨今の集落では、まとまりが薄れてきている感があったのですがこの事業により、昔ながらの“結い”“絆”が復活してきたように感じた5年間でした。

米価の下落により、圃場に投資できない地域の農業者、農村にとってタイミングの良い事業だったと思います。

子供たちによる、水質調査や生物調査など身の回りの生き物への関心につながる活動など、少子高齢化が進む農村集落において、将来を期待させる子供たちとの接触は嬉しいものがありました。

農業施設の保全管理のほかにも、草刈りや排水路の泥上げ、ポイ捨てされた空き缶拾いなど自分たちが周囲を美化させることは、今後の営農活動にも生きてくると思います。今後も自分たちでできることは、自分たちで頑張ります。



5年間かけて地域内の農道を整備しました。作業は地元の土木経験者が行ったため大変良くなりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	大黒屋堰資源保全会	代表	佐々木 孝一
協定面積	田 161.4ha 畑 ha 計 161.4ha	対象面積	田 161.4ha 畑 ha 計 161.4ha		
管理施設	開水路 52 km	ため池 ヲ所	農道 10.1 km	パイプライン	km
構成員	農業者 229人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

大黒屋堰保全会という名前で5年間活動してきましたが、最初の1年は2つの集落合同のために、再三の話し合いを経て計画を立てました。まず子供たちと母さんたちに農地、水、そして環境について理解してもらい、母さん達には集落近くの農道に景観形成の一環の中で花の植栽をしてもらい、子供たちは生物調査と水質調査をしてもらったら、水路に泥が溜まっている所があったと指摘され、集落一丸となって水路を浚渫したりして、子供たちにきれいな水路での生物調査や水質調査をしてもらえるようになりました。

母さんたちも農道が花道になったり、農道脇に祭られている田んぼのお堂が花で飾られたりということに喜んでくれました。

また、集落全員での農道整備、用排水路の改修、雑草対策としての一斉草刈などで、農地や農村景観がきれいになったと喜んでいます。

2つの集落の絆ができ、農業者以外の方々にも農地の大切さをわかってもらうことができ、これからも2つの集落が手を取り合って地域を守ろうという意識ができています。

今後もこの事業が継続し、農村を守っていけるよう頑張っていきます。



破損施設の改修は自分たちの手で。毎年少しずつの補修でも、5年間でほとんどの箇所が直せました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	西馬音内資源保全会	代表	丹 孝一
協定面積	田 118.9ha 畑 ha 計 118.9ha	対象面積	田 118.9ha 畑 ha 計 118.9ha		
管理施設	開水路 39 km	ため池 ヲ所	農道 4.5 km	パイプライン	km
構成員	農業者 230人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

この事業は、水と緑に包まれた秋田のふるさとの原風景を守り継ぐ県民運動の一環だと聞いた時は少々戸惑いました。当初は初めてのことで、活動内容をうまくつかむことができずにどのようにやっていけばいいのか試行錯誤しながらやってきました。

土地改良区から事業内容を指導していただき、協議会による経理事務指導を通じて、少しずつ活動内容をつかめるようになりました。指導いただいた皆さんには心から感謝申し上げます。

活動内容についてはその都度役員会で協議を重ねる方法を取り、役員の皆様には大変なご苦勞をおかけしましたが非常に協力的に活動していただき、ありがたいことだと感じております。

春と秋には構成員全員参加の草刈り・泥上げ作業を行い、多少ながらも賃金が支払えたことで構成員の皆様には喜んでいただけたと感じています。

活動を通した人と人のつながりをみて、あらためてふるさとの良さと、それを守っていくことの大事さを感じることでできた事業でした。



小学校の子供たちとの水質調査。地域の水はどのようなになっているのか興味深そうに調べてくれました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	大戸資源保全会	代表	藤原 重栄
協定面積	田 45.5ha 畑 ha 計 45.5ha	対象面積	田 45.5ha 畑 ha 計 45.5ha		
管理施設	開水路 17.4 km	ため池 ヲ所	農道 0.7 km	パイプライン	km
構成員	農業者 43人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

大戸保全会では、本体策を活用し次の活動に力を入れてきた。
農地・農道を含む地域の環境美化運動の推進である。その一環として、第4回の共同（農家、非農家）草刈り、水路清掃、農道整備、老人クラブによる農道の花の植栽、子供たちの環境保全、美化の意識向上のための水質・生物調査等である。結果、草刈り時期の統一により、除草剤散布の回数が少なくなり、帰化植物等が減少し、本来の水田風景に一步近づいた。また、老人パワーの結集（花の植栽）により、老人に活力、景観美化意識を生む機会を設けることができた。これは、子供パワーにもいえる。

5年間、共同で作業することにより、環境美化意識がかなり高くなったと思う。今後の地域環境向上、また、担い手育成のため、引き続きこの対策が必要だと思う。



補修技術の研修を構成員に行いました。自分たちで補修するための知識を蓄えることができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	浅井二条道横原資源保全会	代表	阿部 清二
協定面積	田 82.8ha 畑 ha 計 82.8ha	対象面積	田 82.8ha 畑 ha 計 82.8ha		
管理施設	開水路 20.8 km	ため池 ヲ所	農道 5.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 97人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 11団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は3つの集落が地域に入っており、それぞれの集落から役員を集めて話し合う形で事業を進めてきました。毎年春に行ってきた水路の泥上げは保全会ができてからも変わらずに行われており、それぞれ集落ごとに水路をきれいにしてきました。

水路の補修については、各集落よりあがってきた意見を役員会で検討し、優先順位を決めながら不公平感のないように進めてきました。農道の補修は5年間で全ての農道を補修できるよう計画し、滞りなく終わらせる事ができました。

ですが、私たちの地域は圃場整備から相当な年数が経過しており、補修する箇所が減少することはありません。個人で補修するのにも限度があり、高齢化も進む集落では農地を維持するのに精一杯な農家が多くあります。その中で保全会の事業は、自分たちで農地を守ることができる活動として重宝されてきました。

先行きの見えない情勢ですが、今後もこの事業が続いていくことを希望しています。



春作業の水路の泥上げの様子。集落ほとんどが参加し、地域内の水路をきれいにしました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	小松資源保全会	代表	大松 恭一
協定面積	田 19.8ha 畑 ha 計 19.8ha	対象面積	田 19.8ha 畑 ha 計 19.8ha		
管理施設	開水路 5.4 km	ため池 ヶ所	農道 0.6 km	パイプライン	km
構成員	農業者 31人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は22軒しかない小さな集落で活動をスタートしました。役員4人で初めは戸惑いもあり、事務を委託してもらった土地改良区へ何度も足を運び、事業の進め方を聞きに行った思い出があります。

春のクリーンアップから始まり、各施設の点検と機能診断、田植え前の水路泥上げや農道の草刈り、花の植栽活動など、色々な活動を行う事ができました。

水質調査や生物調査には父兄も含めて地域の子供全員に参加していただくことができ、魚の一匹に大喜びでした。共同活動や子供たちを含めた啓発・普及活動によって地域への意識が高まり、この村全員で農村環境を維持していくという気持ちが生まれたと思います。

また、農道や水路の補修等、不具合のある箇所は保全会で整備補修していきたいです。

子供たちがいきいきとした顔で水路に親しめるような、綺麗な水と農村環境を保全していけるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。



大好評の植栽活動。
集落へつながる道が綺麗になったと
よろこばれています。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	下田沢資源保全会	代表	黒沢 忠利
協定面積	田 23.2ha 畑 ha 計 23.2ha	対象面積	田 23.2ha 畑 ha 計 23.2ha		
管理施設	開水路 7.6 km	ため池 ヶ所	農道 0.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 27人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

下田沢資源保全会では、事業の全貌がよく分からず、半信半疑のままスタートしました。とりあえずは言われるままに作業を進め、草刈りや補修をこなしているうちに、あっという間に5年が過ぎました。

排水路の泥上げや施設の補修といった作業では、農家の方々に多く参加していただき、作業もスムーズに進める事ができ、大変良かったと思います。

また、植栽に関してははめったに集まる機会のなかった女性の方々に多く参加していただき、井戸端会議のような雰囲気になりながら交流を深めてもらったと思います。

水質等の調査では、子供たちが夏休みのなか、都合をつけていただき地域の自然を観察しました。少しでも興味を持っていただければと思っています。

全体を通して、この事業に取り組んでよかったと思いますが、計画にある項目数の多さと、事務処理の手続はもう少し簡略化していただければと思います。

次期対策ではそのあたりの改善も要望しつつ、5年間の感想とさせていただきます。



崩落した法面の補修作業。
多くの参加者によりスムーズに作業
が進められました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	新町資源保全会	代表	藤原 繁朗
協定面積	田 30.0ha 畑 ha 計 30.0ha	対象面積	田 30.0ha 畑 ha 計 30.0ha		
管理施設	開水路 10.3 km	ため池 ヶ所	農道 1.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 42人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体	4団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地域での保全会は平成19年度から発足しましたが、当初は何をどう進めていけばよいのか分からずに、手探り状態での活動となりました。非農業者も含めた保全活動とはいえ、農業用施設や圃場の管理に積極的に参加してくれる方も少なく、どのようにして取り組めば理解を得ることができるのか、苦慮していたのが記憶に残ります。

景観形成活動としての植栽などは農業者以外も参加しやすい活動であるため、構成団体からも参加くださるよう呼びかけ、少しずつ保全会の活動に参加してもらうようにしながら5年間活動してきました。

結果として、参加いただいた方からは、農業用施設は自分たちの生活にも密接な関わりをもつことや、地域の環境は農業者の草刈りや泥上げといった活動を通して維持されてきたことが若干でも浸透してくれたと思います。

今後もこの事業を通して、農村景観を守っていくことの大切さと、次世代が誇りを持って受け継いでいけるような環境を作っていけるよう、活動を続けていきたいと思ひます。



重機を使って農道の整備。道幅が広くなることで通行が楽になりました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	野町資源保全会	代表	小野 藤夫
協定面積	田 11.8ha 畑 ha 計 11.8ha	対象面積	田 11.8ha 畑 ha 計 11.8ha		
管理施設	開水路 8 km	ため池 ヶ所	農道 2 km	パイプライン	km
構成員	農業者 29人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体	2団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

野町保全会はとても小さな地域で、決して大きなことは計画できませんでした。また、毎年行ってきたことをいつものように続けていくことも、人手不足から困難となってきたのが現状です。この事業を始めた頃は小学校もありましたが、まもなく廃校となってしまう、子供の姿もほとんど見かけることが無くなってしまいました。

3年目には体制整備構想として地域の人口分布調査を行いました、想像を超える高齢化の現実、皆で驚いたことを思い出します。

兼業ではなく専業で農家を行っている構成員が多い地域なので、高齢化による労力の減少は深刻です。この事業をきっかけにして、非農家も含めた全員で行う草刈り活動や農業用施設の整備は、住民のコミュニケーションの場でもあります。農業と地域の環境を守ることは密接な関係があり、非農家の方々にもその意識が浸透し、活動を通して集落がまとまっていけるよう、今後も活動を続けていきたいと思ひます。



地元の経験者による農道整備作業。業者に委託するよりも安く、丁寧な作業で整備ができました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	高寺資源保全会	代表	大庭 昭市
協定面積	田 29.4ha 畑 ha 計 29.4ha	対象面積	田 29.4ha 畑 ha 計 29.4ha		
管理施設	開水路 12.3 km	ため池 ヶ所	農道 2.2 km	パイプライン km	
構成員	農業者 52人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 2団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は、発足当初から国の要綱あるいは土地改良区の指導のもと、集落一丸となって積極的に活動してまいりました。

特に水質のモニタリングや生き物調査は、普段地域の水路や田んぼなどの自然に親しむことの少ない子供たちにとって学校とは少し違う貴重な体験と環境保全の大切さを学ぶ事ができたものと思っております。

ただ残念なことは、会の役員全員が現役の農業者のため、一日精一杯働いた後の事業管理は負担が大きくなかなか思い通りの活動ができず、義務化された事業展開に終始せざるを得なかったことが残念に思っております。

次期対策があるとすれば、農業者の事務的な負担が少ない策となるよう望みたいです。



水管理の上でも大事なゲートの管理は毎年きちんと行います。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	堀内資源保全会	代表	藤原 宣昭
協定面積	田 54.2ha 畑 ha 計 54.2ha	対象面積	田 54.2ha 畑 ha 計 54.2ha		
管理施設	開水路 17.6 km	ため池 ヶ所	農道 2.2 km	パイプライン km	
構成員	農業者 67人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は、中山間地と平坦地のちょうど中間に位置する地域です。そのため、草刈りはもちろんのこと、用水路にかかる立ち木の処理などには多くの労力を割いています。

最近ではどこの農村もそうになっていることでしょうか、農業を営む農業者は高齢者ばかりとなっています。若い世代の後継者も勤めに出てしまい、農業を継承していく人もほとんどおりません。そんな中でこの事業は、地域を自分たちで管理していく意識を持たせるきっかけの一つとなってくれました。

稲作は機械化が進み、個人が多くの面積を請け負うことも珍しくありませんが、水が無駄にせず使っていくというのは非常に難しいです。農用地や農道の法面の草刈りも、急傾斜な法面などは自分で対応できない農業者も増えてきています。かといって除草剤を多用しては、法面の崩落を起こしてしまいます。

かつては当然のように行われていた集落挙げての維持管理活動を、保全会が発足することで取り戻せた気がしています。今後もこの事業が続き、集落の活性化につながってくれることを期待しています。



大雨後の法面崩落箇所補修。保全会で対応することで、素早く直す事が出来ました。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	林崎資源保全会	代表	伊藤 勝朗
協定面積	田 35.1ha 畑 ha 計 35.1ha	対象面積	田 35.1ha 畑 ha 計 35.1ha		
管理施設	開水路 14 km	ため池 ヲ所	農道 1.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 39人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体	10団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの保全会では、発足以前から行われてきた集落全員での水路の草刈り活動を主として、経年劣化により破損した水路や農道を自分たちで補修する、といった方法で活動してきました。 もともと集落全員が参加する春作業、秋作業では多くの人が参加してくれましたが、補修などの作業はやはり農業者以外に参加してもらうことは難しく、同じ地区に住む住民とはいえ農村を守る活動への参加を促すことは簡単ではありませんでした。 ですが、植栽や生物調査には老人クラブや親子会の力を借りて活動することができたため、少しでも地域の環境について興味を持ってもらえる活動になったと思います。 事務処理作業は慣れないためか非常に難儀しましたが、役員の力を借りてなんとかこなすことができました。 次にこのような事業があるときは、もう少し事務が楽になることを望みつつ、また参加していきたいと考えている次第です。					
					
				集落による草刈り作業には多くの構成員が参加します。今後は他にも参加できる活動を探っていきます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	弘体資源保全会	代表	武田 重一
協定面積	田 20.8ha 畑 ha 計 20.8ha	対象面積	田 20.8ha 畑 ha 計 20.8ha		
管理施設	開水路 7.6 km	ため池 ヲ所	農道 1.3 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 31人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体	5団体
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たちの集落での保全会の活動前は、農業に対して関心がほとんどなかった若者たちが、5年間活動してきたことによって、農業の重要性や自然環境への影響などについて感心を持つ良い機会になったのではないかと思います。 昨年大雨での災害時には、直ちに重機や部材などの予算の確保等を行い、役員一同がすぐに復旧活動に取り組む事が出来たのは保全会があったからこそでしょう。改めて、保全会の重要性を実感しました。普段、草刈りや泥上げ、農業施設の管理等を行っていなかったら、もっと被害が拡大していたかもしれないと思うとぞっとします。 また、集落での一大イベントであるクリーンアップ活動では、普段顔を合わすことのない会社勤めの方と近況などを話合ういい機会にもなり、絆を深める事ができたのではないかと感じています。 これからも、集落の人々との絆を大切に、さらに深めることができるような活動を行っていききたいと思います。					
					
				大雨災害の復旧活動を直ちに行う保全会役員。被害が拡大する前に適切な対処を行います。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	水沢資源保全会	代表	伊藤 喜十郎
協定面積	田 10.4ha 畑 ha 計 10.4ha	対象面積	田 10.4ha 畑 ha 計 10.4ha		
管理施設	開水路 4.8 km	ため池 ヶ所	農道 0.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 21人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 私たち水沢集落の保全会では、緑豊かな水田と山村風景を子孫に保全し継承する事を目的として活動して参りました。看板には、私たち水沢集落が太平山より流れ出る清流水と共にある事から「水の郷」と命名いたしました。 5年間の活動において、景観形成活動、水質モニタリングと生物の生息状況の把握等、構成員の方々全てが参加する大事業となり、集落全体の団結力に繋がり、用水路の草刈り作業や汚泥、堆積物の除去等、農業施設の保全、維持管理活動が円滑に行えるようになりました。					
					
				植栽活動を行う老人クラブの方々。集落が美しくなる活動には皆さんが楽しんで参加してくれました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	床舞資源保全会	代表	池田 茂男
協定面積	田 37.8ha 畑 ha 計 37.8ha	対象面積	田 37.8ha 畑 ha 計 37.8ha		
管理施設	開水路 17.8 km	ため池 ヶ所	農道 1.8 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 81人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 当保全会は山林につながる集落が合わさって形成されており、冬期は豪雪に悩まされる地域でもあります。農業用水として、また冬期は消流雪用の生活用水として利用される水路は、山林から流れ出る自然の恵みです。ですが、そのような貴重な資源も、ただ黙っていても集落へもたらされるわけではありません。水路に堆積する土砂の清掃や、ため池周辺の草刈り等の管理によってやっと安定して集落まで供給されるのです。そして、農業用施設の維持管理は、これまで農業者の手によって行われてきました。 農業情勢の悪化に伴い、離農や耕作放棄地の増加が進むなかで、非農家も含めた地域の資源を保全管理しようという目標でこの組織が立ち上がりました。当初は農業用施設の管理に「なぜ非農家もやらなければならないのか」といった声もありましたが、農業だけに利用されているのではなく、集落の環境や資源を守るために大切なことなのだと理解してもらういい機会になった事業だと思います。 昨今では生活用水路につながる水路清掃に、非農家も多く参加してくれるようになり、事業の成果を感じています。今後もこの事業が継続することで、集落と農業がより活性化することを望んでいます。					
					
				ゲート類等の保守管理の徹底。ペンキの塗布、グリス注油でゲートの管理を行いました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	軽井沢資源保全会	代表	佐々木 信雄
協定面積	田 19.9ha 畑 ha 計 19.9ha	対象面積	田 19.9ha、畑 0ha、計 19.9ha		
管理施設	開水路 7 km	ため池 ヲ所	農道 1.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 19人	農業団体 2団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 軽井沢保全会では、活動取組をどうすれば良いのか手探り状態でしたが、年々集落のまとまりができ、効果の高い活動ができたと思います。 畦畔など農用地の法面には急傾斜なところが多く、草刈り等維持管理にも危険が伴うため少しでも楽になるよう「アジュガ」を植栽してみたところ、6月には綺麗な花を咲かせ景観も良くなり構成員の負担も軽減されて大変喜ばれております。 また、親子で田んぼや水路に踏み入り、生き物に触れるという体験を通じ、自然を守ることの大切さを感じる事ができました。 地域農業を維持していくためには、用排水路の除草や水路のこまめな補修、水路の泥上げなどが必要であることを非農家の方々にも活動を通して理解を深めてもらえたと思います。 環境が良くなることでその活動に対し誇りを持ち、集落の一体感が生まれたことは大変喜ばしいことですし、今後も地域住民全員で楽しみながら地域を守っていく活動ができればと考えています。					
				 急な法面にカバープランツを施工。高齢者の多い地域で、草刈り作業が楽になりました。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	上到米資源保全会	代表	佐藤 節男
協定面積	田 98.9ha 畑 ha 計 98.9ha	対象面積	田 98.9ha 畑 ha 計 98.9ha		
管理施設	開水路 28.9 km	ため池 ヲ所	農道 4.9 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 105人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 5団体	
(5年間の活動内容や感想等記入) 上到米地区は圃場整備から約40年が経過しており、水利施設は更新が必要な箇所が多くなっていました。農業者の高齢化と後継者不足が深刻な問題としてのしかかってくる状況の中、この事業はスタートしました。 初年度から継続してきた活動の一つに水質と生き物調査があります。当保全会では生物調査に有識者を招き、小学校の子供たちに向けて地域の環境と自然に親しむ活動として行いました。田んぼや水路の生き物に触れながら、自分たちの生活する地域の自然はこんなにも豊かなのだと実感できたことと思います。 また、個人ではとても手が出せなかった排水路の浚渫にも積極的に取り組み、土砂が多く堆積していた箇所はほとんど撤去することができました。今後は毎年の恒例行事となっている春作業でこまめに整備しながら、保全会の活動で良くなってきた環境を守っていききたいと思います。					
				 水路は多くの箇所を補修しましたがまだまだ破損箇所は多いため、今後も継続して補修していきます。	

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	田代資源保全会	代表	長谷山 菊雄
協定面積	田 132.3ha 畑 ha 計 132.3ha	対象面積	田 132.3ha 畑 ha 計 132.3ha		
管理施設	開水路 39.5 km	ため池 ヶ所	農道 5.1 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 130人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの集落は山間部に位置しており、過疎化と高齢化が著しく農業においては後継者不足に頭を抱えている地域でもあります。地域の環境と食糧を支える根幹が農業ですが、米価の下落等により離農も見られるようになってきました。そんな中で保全会は、農業者ではなく非農業者も含めて住民全員で地域の環境と資源を守っていこうという目標のもとに発足しました。

当初は事業の進め方も良く分からずに戸惑うことも多かったですが、年度を重ねるにつれ活動の参加者も多くなり、地域の景観や農業用施設の維持管理状況もよくなりました。

現在農業が直面している状況は生易しいものではなく、収入面からも決して楽な仕事とは言えません。ですが、緑豊かな地域の環境と、生活を支える大事な食糧を供給する田んぼを簡単に放棄してしまえば、子供たちが生きていく国の土台を壊してしまうようなものです。

そのようなことがない様に、地域住民みんなで先祖代々受け継がれてきたこの地域、環境を守っていくことが私たちの責任ではないかと思っています。

この事業をきっかけにして、そういう意識が育まれることを祈りつつ、今後も頑張っていきたいと思っています。



増水時に法面崩落につながっていた施設の改修を行いました。自分たちでできるのは保全会ならではの事です。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	下仙道資源保全会	代表	佐藤 栄之助
協定面積	田 89.4ha 畑 ha 計 89.4ha	対象面積	田 89.4ha 畑 ha 計 89.4ha		
管理施設	開水路 29.2 km	ため池 ヶ所	農道 5 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 99人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 3団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会がある地域は、緑豊かな山間部にあります。この自然と農村環境を次世代に受け継いでいくため、農業用施設がもつ多面的な機能への理解を深めてもらうことや、それを維持していくことの大切さを学ぶことの出来た活動だったと思います。

子供たちには水質調査や生物調査を行うことで自分たちを取り巻く自然環境を理解してもらいながら、地域への愛着を深める活動に関わってもらいました。

景観形成活動では花の植栽として非農業者である老人クラブに多く参加してもらうことができ、たくさんの花が住民の心を和ませました。

維持管理活動としての草刈りや泥上げにも精力的に取り組み、人力では難しくなっていた排水路の土砂上げ等を順次行うことで、施設の長寿命化に一役かってくれたと思います。

今後も地域でできることは地域でやっていく、という保全会で培われた意識をもちながら、私たちの地域を守っていく活動を頑張っていきたいと思っています。



農道の補修も大部分が終わりましたが、毎年新たな補修候補が出てくるため継続していきたいです。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	中仙道資源保全会	代表	鈴木 代吉
協定面積	田 60.5ha 畑 ha 計 60.5ha	対象面積	田 60.5ha 畑 ha 計 60.5ha		
管理施設	開水路 23.6 km	ため池 ヲ所	農道 4.4 km	ハ°イ°ライン	km
構成員	農業者 54人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 7団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの中仙道保全会では、地域の結びつきを大事にして五年間やってきましたが、取組当初はものすごく不安がありました。

春には構成員すべてが参加の泥上げと草刈り、地域全員でのクリーンアップ、夏には景観形成活動と子供たちと保護者も参加してくれた水質モニタリングと生物調査活動に取り組み、秋には地域の農業施設を長持ちさせる為に自分たちでできる範囲の補修作業を行ってきました。

結果、自分たちができる事は自分たちで頑張ろうという機運が生まれてきました。

私たちが目標としてきながらも、なかなか達成する手が見つけられないでいた“地域の結びつき”がこの事業で生まれ、育まれたことは大変嬉しく思います。

今後もこの事業が継続し、地域を盛り上げる活動の一環となってくれば幸いです。



生物調査に参加する子供と保護者。地域内の水路には想像よりも多くの生物がいたことに驚きでした。

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	上仙道資源保全会	代表	土田 和幸
協定面積	田 80.0ha 畑 ha 計 80.0ha	対象面積	田 80.0ha 畑 ha 計 80.0ha		
管理施設	開水路 26.4 km	ため池 ヲ所	農道 3.1 km	ハ°イ°ライン	0 km
構成員	農業者 75人	農業団体 1団体	非農業者個人 人	非農業団体 4団体	

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会は、いくつもの集落を含む地域で形成されているため、初年度はそれぞれの地域を取りまとめるのに大変苦労し、役員の皆様には大変なご難儀をおかけしながら活動にこぎつけたものでした。活動も何をやらたらいいのかわからず戸惑うことも多かったですが、少しずつ自分たちでできることを探しながら補修や用排水路管理などを頑張ってきました。

なかでも、印象に残っているのは景観形成の植栽活動です。当初は計画にある活動だからと一集落が行っていたのですが、夏季に咲いている花が目止まった他の集落から「自分たちの集落にも花を植える活動はやらせてもらいたい」との申し出がありました。

最終年度では六集落で植栽を行うこととなり、農村の景観向上に一役買ってくれたと思います。また、植栽活動には老若男女問わずに参加者が集まるので、今まで機会を設けることが難しかった地域住民の話合いの場になりました。

五年間続けてきたことで、各集落に根付きはじめた植栽活動は、これからも継続していきたいと考えています。

この事業が継続され、先行きの見えない農業を明るくする一つの要因になってくれればと思う次第です。



集落の「結い」を育む植栽活動。高齢者を中心に、それぞれの集落が楽しく活動しています。

(農地・水・環境保全向上対策、市町村記載様式)

市町村名	東成瀬村	住 所	東成瀬村田子内字仙人下30-1	電 話	0182-47-3406
担当部署	東成瀬村 農林建設課	担当者	主査 佐々木 年子喜		
(5年間の感想等記入)					
当村では、3つの地域が本対策において活動組織を作り、様々な共同活動を展開してきました。活動規模、組織数ともにそれほど大きなものであるとはいえませんでした。コンパクトな取り組みである分、行政がよりきめ細かな支援体制をとることができたと考えます。 担当者自らも活動組織の事務を掌っており、事業の推進にあたっては常に「自らのことである」と心得て、どのように進めれば活動組織が無理なく取り組んでいけるか考えながら業務を行ってきたと考えております。市町村担当者としての側面、そして活動組織員の側面の双方を持ちながら事業実施にあたってきた5年間でした。 現行の共同活動は一応の区切りを迎えましたが、各組織においてはこの活動を通じ、地域コミュニティの活性化につながり、また地域間の絆が深まってきたものと、本対策を高く評価している模様であります。この対策をきっかけに、今後も農地や水路、農道といった農業資源の保全を通じ、地域が一層活性化することを期待しております。					

(農地・水・環境保全向上対策、市町村取組データ)

H21年農林水産省統計部「耕地面積調査」による。

東成瀬村	耕地面積	田	395 ha	畑	240 ha	合計	635 ha
平成19年度	協定面積	田	102.47 ha	畑	0.00 ha	合計	102.47 ha
平成20年度	協定面積	田	102.47 ha	畑	0.00 ha	合計	102.47 ha
平成21年度	協定面積	田	102.47 ha	畑	0.00 ha	合計	102.47 ha
平成22年度	協定面積	田	102.47 ha	畑	0.00 ha	合計	102.47 ha
平成23年度	協定面積	田	102.47 ha	畑	0.00 ha	合計	102.47 ha

(支援交付金実績)

〔支援交付金全体〕

平成19年度	対象面積	計	102.47 ha	4,508,680円
平成20年度	対象面積	計	102.47 ha	4,508,680円
平成21年度	対象面積	計	102.47 ha	4,508,680円
平成22年度	対象面積	計	102.47 ha	4,508,680円
平成23年度	対象面積	計	102.47 ha	4,508,680円
			合計	22,543,400円

活動組織名称

東成瀬村

組織が多い場合次頁に

番 号	活動組織名称	番 号	活動組織名称
0709	滝ノ沢農地保全会		
0710	下田農地保全会		
0711	岩井川農地保全会		

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	東成瀬村	組織名	滝ノ沢農地保全会	代表	佐々木 正信
協定面積	田 39.39ha 畑 ha 計 39.39ha	対象面積	田 39.39ha 畑 ha 計 39.39ha		
管理施設	開水路 9.5 km ため池 ヶ所	農道	4.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 50人	農業団体	団体	非農業者個人	37人 非農業団体 3団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの保全会では、水田風景の向上と地域内を流れる水路の維持補修と水質調査などを主な活動の中心として実施してきました。対象となる協定面積に他集落の構成員が少なかったことや集落も比較的小規模でまとまりやすかったことなどから、活動については、順調に推移したと感じております。この活動のおかげで、課題となっていた水路の補修や水門の塗装なども実施できましたし、何よりも多くの構成員や地域の方々が水路や地域の歴史などに興味を持っていただいたことが何よりの財産になったのではないかと思います。

特に、水田の景観悪化要因であった水路敷の雑草対策では、親子会や自治会の協力を得て一面にシートを貼り、芝桜を年次計画で植栽し、春に花が咲く頃には農作業や地域を訪れる方々の心を和ましています。

また、全世帯が協力して水質保全のため、EM活性液を使用した浄化活動にも取り組み、数字的な効果の確認は難しいですが、水の大切さは十分認識できたと思います。

最後に、この活動を通じて一番の収穫は「地域の再生」や「農用地の果たす役割」が認識できたことに加え、「地域のつながり」が強くなったことで、今後の地域づくりのヒントではなかったかと振り返っています。



共同作業によるシバザクラの植栽作業です

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	東成瀬村	組織名	下田農地保全会	代表	古谷 実
協定面積	田 11.85ha 畑 ha 計 11.85ha	対象面積	田 11.85ha 畑 ha 計 11.85ha		
管理施設	開水路 3.2 km ため池 ヶ所	農道	1.4 km	パイプライン	km
構成員	農業者 43人	農業団体	団体	非農業者個人	5人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当組織は、下田部落を中心に、親子会や婦人会、老人クラブ、消防団といった地域に密着した団体が一つになり、5年間の活動を展開してきました。組織の規模はそれほど大きくはありませんが、「農地・水向上活動」及び「農村環境向上活動」の部分に活動の重点を置き、特に資金のほとんどをこれらの活動に向けることで事業の目的を効果的に達成させることができたものと考えます。

当組織の一番大きな特徴は、生態系の保存に力を入れてきたことです。親子会が中心となり、カジカの稚魚やホタルの幼虫の放流活動を行ったり、また自然観察会やホタルの生態に詳しい学識経験者の説明を聞いたりしながら理解を深めるなど、次世代を担う子どもたちに現在行っている活動がとても大切なことであるということを学んでいただきました。

得るものがとても大きい5年間でした。今回の活動に取り組んだことをきっかけに、今後も独自にこのような体験活動を実施していきたいものと考えます。



親子会が中心となって行ったホタル幼虫の放流

(農地・水・環境保全向上対策、共同活動 事例記載様式)

市町村名	東成瀬村	組織名	岩井川農地保全会	代表	佐藤 正次郎
協定面積	田 51.23ha 畑 ha 計 51.23ha	対象面積	田 51.23ha 畑 ha 計 51.23ha		
管理施設	開水路 17.8 km ため池 ヶ所	農道	9.3 km	パイプライン	km
構成員	農業者 94人	農業団体	団体	非農業者個人	96人 非農業団体 5団体

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区においては、岩井川部落を中心として農業者及び地域のコミュニティ関係団体を巻き込んだ形で活動を展開してきました。地区の基幹農業用水路である「遠藤堰」の受益区域を中心に、従来から行ってきた泥上げ作業・草刈り作業を実施したほか、今回の事業が始まったことをきっかけに、自らの手による水路の共同補修作業にも取り組みました。

当組織では、もともと従来からの活動を中心に展開する予定ではありましたが、事業に取り組んでみると、ステップアップした活動（農地・水向上活動）の中にも自らの手で十分に行える活動が意外にも多いことに気づきました。水路に詰まった巨大な岩の除去作業、目地塗り作業、水門の適正な手入れ等、「こんなことも自分たちでできる」と気づき、幅が広がった事例は数多いものでした。

今後も「地域でできることは地域で」という考え方で、共同作業を通じ地域住民間の絆を深めていきたいものであると考えます。



共同作業で水路に落ちてきた岩の除去作業を実施しました

- 資 料 編 -

●秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会 会員 （30団体）

◎県会員

秋田県知事

◎市町村会員（25市町村）

〔鹿角管内〕 鹿角市長・小坂町長

〔北秋田管内〕 大館市長・北秋田市長・上小阿仁村長

〔山本管内〕 能代市長・藤里町長・三種町長・八峰町長

〔秋田管内〕 秋田市長・男鹿市長・潟上町長・五城目町長

八郎潟町長・井川町長・大潟村長

〔由利管内〕 由利本荘市長・にかほ市長

〔仙北管内〕 大仙市長・仙北市長・美郷町長

〔平鹿管内〕 横手市長

〔雄勝管内〕 湯沢市長・羽後町長・東成瀬村長

◎農業団体会員（4団体）

秋田県農業協同中央会長

全国農業協同組合連合会秋田県本部長

秋田県主食集荷商業協同組合

秋田県土地改良事業団体連合会長

●役員

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
地域協議会長	藤田 了次	三浦 貞一	黒子 高夫	黒子 高夫	黒子 高夫
所属	秋田県農林水産部長	土地連専務理事	土地連専務理事	土地連専務理事	土地連専務理事
副会長	三浦 貞一	嵯峨 峰芳	鎌田 潔	佐藤 佐太幸	佐藤 佐太幸
所属	土地連専務理事	秋田市農林部長	秋田市農林部長	秋田市農林部長	秋田市農林部長
監事	嵯峨 峰芳	吉田 茂	泉 健太郎	津谷 憲司	津谷 憲司
所属	秋田市農林部長	北秋田市産業部長	北秋田市産業部長	北秋田市産業部長	北秋田市産業部長
監事	吉田 茂	藤原 薫	藤原 薫	藤原 薫	高橋 豊幸
所属	北秋田市産業部長	大仙市農林商工部長	大仙市農林商工部長	大仙市農林商工部長	大仙市農林商工部長
監事	藤原 薫	小松 秀穂	小松 秀穂	小松 秀穂	佐藤 一喜
所属	大仙市農林商工部長	由利本荘市農林水産部長	由利本荘市農林水産部長	由利本荘市農林水産部長	由利本荘市農林水産部長

●幹事会（地域協議会規約第5章20条第2項による幹事の任命）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
幹事長	川原 幸徳	長谷部 勝	菅原 徳蔵	保坂 龍弥	保坂 龍弥
所属	秋田県農林水産部 農地整備課長	秋田県農林水産部 農山村振興課長	秋田県農林水産部 農山村振興課長	秋田県農林水産部 農山村振興課長	秋田県農林水産部 農山村振興課長
幹事	鈴木 長彦	保坂 進	工藤 正義	工藤 正義	佐藤 博
所属	秋田県農林水産部 農畜産振興課長	秋田県農林水産部 参事兼水田総合利用課長	秋田県農林水産部 水田総合利用課長	秋田県農林水産部 参事兼水田総合利用課	秋田県農林水産部 水田総合利用課長
幹事	木村 忠好	大森 明	大森 明	田口 善浩	田口 善浩
所属	鹿角市農林課長	鹿角市農林課長	鹿角市農林課長	鹿角市農林課長	鹿角市農林課長
幹事	田畑 政光	田畑 政光	櫻田 進	櫻田 進	芳賀 幸
所属	大館市農林課長	大館市農林課長	大館市農林課長	大館市農林課長	大館市農林課長
幹事	北澤 至	渡部 信之	渡部 信之	渡部 信之	渡部 信之
所属	能代市農林水産課長	能代市農林水産課長	能代市農林水産課長	能代市農林水産課長	能代市農林水産課長
幹事	畑澤 兼道	猿田 利彦	猿田 利彦	猿田 利彦	佐々木 照三
所属	五城目町産業課長	五城目町産業課長	五城目町産業課長	五城目町産業課長	五城目町農林振興課長
幹事	伊藤 賢二	阿部 誠一	金子 勇一郎	金子 勇一郎	伊東 秀一
所属	にかほ市農漁村整備課長	にかほ市農林水産課長	にかほ市農林水産課長	にかほ市農林水産課長	にかほ市農林水産課長
幹事	照井 智則	照井 智則	照井 智則	深澤 克太郎	深澤 克太郎
所属	美郷町農政課長	美郷町農政課長	美郷町農政課長	美郷町農政課長	美郷町農政課長
幹事	阿部 充	藤井 孝芳	藤井 孝芳	藤井 孝芳	遠藤 久志
所属	横手市産業経済部長	横手市産業経済部長	横手市産業経済部長	横手市産業経済部長	横手市産業経済部長
幹事	佐藤 公作	佐藤 公作	佐藤 公作	高久 義寿	高久 義寿
所属	湯沢市農林課長	湯沢市農林課長	湯沢市農林課長	湯沢市農林課長	湯沢市農林課長
幹事	渡部 正敬	渡部 正敬	高橋 明彦	高橋 明彦	高橋 明彦
所属	J A 秋田中央会 担い手室長	J A 秋田中央会 担い手室長	J A 秋田中央会 担い手室長	J A 秋田中央会 担い手室長	J A 秋田中央会 担い手室長
幹事	藤原 隆則	藤原 隆則	藤原 正	藤原 正	石井 正幸
所属	土地連環境整備部長	土地連環境整備部長	土地連技監	土地連技監	土地連技監

●事務局長（地域協議会規約第6章22条第4項による事務局長の任命）

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事務局長	所 属	水戸 憲光 土地連 参事兼総務企画部長	水戸 憲光 土地連参事	水戸 憲光 土地連常務理事	水戸 憲光 土地連常務理事	水戸 憲光 土地連常務理事

●内部監査員

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
内部監査責任者	所 属	佐藤 勇吉 秋田県農林水産部 農地整備課主幹兼班長	田村 敏一 秋田県農林水産部 農山村振興課主幹兼班長	田村 敏一 秋田県農林水産部 農山村振興課主幹兼班長	高野 尚紀 秋田県農林水産部 農山村振興課主幹兼班長	村上 旬 秋田県農林水産部 農山村振興課主幹兼班長
	内部監査員	鈴木 重忠 J A秋田中央会 担い手対策室審査役	鈴木 重忠 J A秋田中央会 担い手対策室次長	鈴木 重忠 A 中央会 担い手対策室次長	杉測 忠彦 J A秋田中央会 担い手対策室課長	高橋 幸毅 J A秋田中央会 担い手対策室課長
内部監査員	所 属	佐藤 正敏 由利本荘市農林水産部 農地整備課次長兼課長	米森 昭一 八峰町農業振興課長	松森 尚文 八峰町農業振興課長	松森 尚文 八峰町農業振興課長	松森 尚文 八峰町農林振興課長
	内部監査員	粕加屋 俊夫 横手市産業経済部 農林整備課課長	粕加屋 俊夫 横手市産業経済部 農林整備課次長兼課長	粕加屋 俊夫 横手市産業経済部 農林整備課次長兼課長	佐藤 誠悦 横手市産業経済部 農林整備課長	佐藤 誠悦 横手市産業経済部 農林整備課長

●地域協議会 支部 (支部代表者・振興局農林部長)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
鹿角支部代表	佐藤 満雄	柳原 守	柳原 守	倉部 明彦	倉部 明彦
北秋田支部代表	藤原 正	藤原 正	熊谷 譲	渡辺 兵衛	渡辺 兵衛
山本支部代表	金澤 千昭	金澤 千昭	宮崎 一彦	宮崎 一彦	小川 正
秋田支部代表	岩谷 里美	渡会 信紀	本郷 礼三	工藤 孝夫	菊子 正稔
由利支部代表	本郷 礼三	本郷 礼三	篠田 信行	篠田 信行	菊地 正隆
仙北支部代表	工藤 正義	工藤 正義	田口 保孝	伊藤 盛徳	伊藤 盛徳
平鹿支部代表	照井 義宣	鈴木 誠	鈴木 誠	柳原 守	柳原 守
雄勝支部代表	清野 弘久	堀田 勝一	進藤 健	進藤 健	金 多喜夫
土地連北事務所	畠山 政勝	戸沢 正巳	戸沢 正巳	戸沢 正巳	堀井 股次
土地連本部	白川 由二	白川 由二	畠山 政勝	畠山 政勝	畠山 政勝
土地連南事務所	高野 孝行	高野 孝行	鈴木 輝秋	鈴木 輝秋	鈴木 輝秋

●事務局

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
文書管理責任者	池田 与嗣広	池田 与嗣広	池田 与嗣広	池田 与嗣広	猿田 春一
所 属	土地連総務企画部 部長	土地連総務企画部 部長	土地連総務企画部 部長	土地連総務企画部 部長	土地連総務企画部 部長
経理責任者	金森 正広	金森 正広	金森 正広	金森 正広	金森 正広
所 属	土地連総務企画部 副主幹兼総務班長	土地連総務企画部 総務班長	土地連総務企画部 総務班長	土地連総務企画部 次長兼総務班長	土地連総務企画部 次長兼総務班長
◎事務局（秋田県農林水産部）					
共同担当	佐藤 勇吉	田村 敏一	田村 敏一	高野 尚紀	藤原 元吉
所 属	農地整備課 資源保全班 主幹兼班長	農山村振興課 地域環境保全班 主幹兼班長	農山村振興課 地域環境保全班 主幹兼班長	農山村振興課 地域環境保全班 主幹兼班長	農山村振興課 政策監
共同担当	阿部 喜孝	袴田 鉄直	池田 裕一	池田 裕一	村上 旬
所 属	農地整備課 資源保全班 副主幹	農山村振興課 地域環境保全班 専門主幹	農山村振興課 地域環境保全班 副主幹	農山村振興課 地域環境保全班 副主幹	農山村振興課 地域環境保全班 主幹兼班長
共同担当	青木 隆行	阿部 喜孝	福司 健治	長谷川 龍彦	池田 裕一
所 属	農地整備課 資源保全班 技師	農山村振興課 地域環境保全班副 主幹	農山村振興課 地域環境保全班 主査	農山村振興課 地域環境保全班 主任	農山村振興課 地域環境保全班 副主幹
共同担当					長谷川 龍彦
所 属					農山村振興課 地域環境保全班 主任
営農担当	草薙 睦雄	中村 信夫	中村 信夫	田村 敏一	七尾 清己
所 属	農畜産振興 課環・飼料班 主幹兼班長	水田総合利用課 土壌・環境対策班 主幹兼班長	水田総合利用課 土壌・環境対策班 上席主幹兼班長	水田総合利用課 土壌・環境対策班 主幹兼班長	水田総合利用課 土壌・環境対策班 主幹兼班長
営農担当	佐藤 義隆	齋藤 辰嗣	足達 信廣	藤原 慶一郎	藤原 慶一郎
所 属	農畜産振興課 環・飼料班 副主幹	水田総合利用課 土壌・環境対策班 副主幹	水田総合利用課 土壌・環境対策班 専門主幹	水田総合利用課 土壌・環境対策班 副主幹	水田総合利用課 土壌・環境対策班 副主幹
営農担当		高橋 俊行	藤原 慶一郎		
所 属		水田総合利用課 土壌・環境対策班 主査	水田総合利用課 土壌・環境対策班 主査		
◎事務局（土地連）					
交付事務	渡部 敏行	渡部 敏行	渡部 敏行	渡部 敏行	渡部 敏行
所 属	土地連総務企画部 水土里対策・PJ 副主幹(兼)班長	土地連総務企画部 広報・渉外班長	土地連総務企画部 広報・渉外班長	土地連総務企画部 広報・渉外班長	土地連総務企画部 広報・渉外班長
事業推進指導	熊谷 敬一	熊谷 敬一	白川 由二	白川 由二	畠山 政勝
所 属	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員
事業推進指導	白川 由二	白川 由二	畠山 政勝	畠山 政勝	鈴木 一秋
所 属	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員	土地連総務企画部 専門員

●共同活動支援交付金

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備 考
市町村	25 市町村	25 市町村	25 市町村	25 市町村	25 市町村	
活動組織数	709 組織	709 組織	709 組織	709 組織	707 組織	
協定面積	6,335,905 a	6,342,647 a	6,335,863 a	6,331,946 a	6,330,155 a	
田	6,223,038 a	6,233,637 a	6,223,598 a	6,219,525 a	6,216,851 a	
畑	112,867 a	109,010 a	112,265 a	112,421 a	113,304 a	
対象面積	5,544,208 a	5,407,165 a	5,546,269 a	5,537,842 a	5,546,034 a	
田	5,480,647 a	5,343,604 a	5,482,526 a	5,474,099 a	5,482,291 a	
畑	63,561 a	63,561 a	63,743 a	63,743 a	63,743 a	↓5年間合計
支援交付金	2,337,947,120 円	2,368,983,240 円	2,325,578,040 円	2,330,408,510 円	2,276,462,333 円	11,644,374,743 円
国	1,168,973,560 円	1,184,491,620 円	1,162,789,020 円	1,165,204,255 円	1,138,231,098 円	5,822,187,303 円
県	584,486,780 円	592,245,810 円	581,394,510 円	582,602,127 円	569,115,693 円	2,911,093,795 円
市町村	584,486,780 円	592,245,810 円	581,394,510 円	582,602,128 円	569,115,542 円	2,911,093,645 円

※平成23年度は決算見込額

●営農活動支援交付金

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	備 考
市町村	7 市町村	7 市町村	8 市町村	8 市町村	7 市町村	
活動対象区域数	38 区域	46 区域	50 区域	51 区域	47 区域	
先進的営農支援対象面積	233,009 a	343,719 a	385,303 a	646,100 a	592,727 a	
水稻	206,444 a	301,666 a	338,273 a	606,308 a	574,618 a	
麦・豆類	25,100 a	38,318 a	43,431 a	36,639 a	15,442 a	
その他作物	1,465 a	3,735 a	3,599 a	3,153 a	2,667 a	
先進的営農支援農家数	870 戸	1,081 戸	1,244 戸	1,350 戸	1,227 戸	
水稻	674 戸	782 戸	904 戸	1,051 戸	1,052 戸	
麦・豆類	167 戸	212 戸	250 戸	224 戸	102 戸	
その他作物	29 戸	87 戸	90 戸	75 戸	73 戸	↓5年間合計
先進的営農支援交付金	133,759,000 円	196,485,800 円	219,815,800 円	378,181,900 円	352,512,800 円	1,280,754,900 円
水稻	123,866,000 円	180,999,600 円	202,963,800 円	363,784,800 円	344,770,800 円	1,216,385,400 円
麦・豆類	7,530,000 円	11,495,400 円	13,029,300 円	10,991,700 円	4,632,600 円	47,6796,000 円
その他作物	2,363,000 円	3,990,800 円	3,822,700 円	3,405,400 円	3,109,400 円	16,690,500 円
営農基礎活動支援交付金	7,304,000 円	9,200,000 円	9,642,500 円	9,855,510 円	0 円	36,002,010 円
支援交付金	141,062,600 円	205,685,800 円	229,458,300 円	388,037,410 円	352,512,800 円	1,316,756,910 円
国	70,531,300 円	102,842,900 円	114,729,150 円	194,018,704 円	176,256,400 円	658,378,454 円
県	35,265,650 円	51,421,450 円	57,364,575 円	62,990,879 円	59,875,200 円	266,917,754 円
市町村	35,265,650 円	51,421,450 円	57,364,575 円	131,027,827 円	116,381,200 円	391,460,702 円

※平成 2 2 年度及び平成 2 3 年度の支援交付金の市町村費が
県費より多いのは、大潟村の負担増のため。

※平成 2 3 年度の農家戸数及び決算額は見込み。

※ 平成 2 3 年度に営農活動支援交付金は、環境保全型農業直接支援対策に分離され、新たに
環境保全型農業直接支払交付金と先進的営農活動支援交付金（H 2 3 限り）に制度改正され
ました。また、営農活動支援交付金の基礎活動支援がなくなりました。

営農活動事例として、支援交付金の大きな代表的な活動組織の活動内容を次頁以降に掲載
しましたので、参考にして下さい。

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	上小阿仁村	組織名	上仏社地区環境保全隊	代表	齊藤 進
先進的営農支援	区域名	上仏社	取組面積	16.2 ha	支援農家数 18 戸
支援作物	水稲	16.2 ha	麦・豆類	ha	その他作物 ha
支援交付金	970,200 円	水稲	970,200円、	麦・豆類	円、その他作物 円

(3年間の活動内容や感想等記入)

私共、上仏社地区環境保全隊は、村においても棚田が存在する超山間地帯で、農業後継者が不足し将来、耕作放棄田になってしまうのを阻止することを目的に、平成15年に集落営農組織を立ち上げ、同時に特定農業法人となった農事組合法人上仏社営農組合の構成員が中心に同組合がエコファーマーの認可を取得していることから、堆肥投入による土づくり、科学肥料や農薬をできるだけ使用しない、環境にやさしい営農方法を採用し栽培した「こあにさわ米」を消費者のニーズに合わせ販売に取り組んでおります。

上仏社地区は、殆どの農家が営農組合に関係しており、30ヘクタールの水田面積を集積している他、水稲の直播栽培或いは、そば、菜の花など環境景観に配慮した特色のある営農を継続しており、今後は、隣接地域一帯が一緒に活動できるような仲間と面積の拡大を図りたいと考えております。

〃 環境にやさしい米づくりを目指して (上仏社地区環境保全隊)

○当活動組織には平成15年に設立された営農組合があり、平成23年で更新した持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画認定(23北農EC09)により、面積は30haとなっているが、本事業の営農支援を受けている水稲面積は16haとなっています。今後は、転作作物もローテーションで水稲、大豆、そばの組み合わせが全て、科学肥料や科学農薬をできるだけ使わない環境に優しい農産物の生産を進めている。

○地域の声

売れる米づくりをめざしているところに、本事業で営農活動にも支援交付金が交付されることとなり、負担が軽減され大変喜んでいる。

本事業を通じ「絆」と「戦前の農業」が復活し、活力ある地域の維持と発展を目指していくものと思われる。

直播栽培の作業



堆肥散布作業



(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	大潟村	組織名	大潟村農地・水・環境保全向上対策推進会議	代表	後藤 幸三
先進的営農支援	区域名	大潟村	取組面積	8943.6 ha	支援農家数 410戸
支援作物	水稲	4,925.86 ha	麦・豆類	41.40 ha	その他作物 5.57 ha
支援交付金	297,753,000 円	水稲 295,551,600円、麦・豆類 1,242,000円、その他作物 959,400円			

(5年間の活動内容や感想等記入)

大潟村では、平成19年に大潟村農地・水・環境保全向上対策推進会議を設立し、5割減農薬5割減化学肥料栽培をはじめとする環境保全型農業の推進を図り、八郎湖の水質改善を目標に活動してきました。

平成19年度の事業開始当初は、全農家戸数533戸中200戸の取組みしかありませんでしたが、年々取組み農家は増え、平成23年度には全農家戸数519戸中410戸もの農家が5割減農薬5割減化学肥料農法に取り組んでいます。

また、エコファーマーに認定されている農家は469戸で、全農家のうち9割が環境に配慮した農法に取り組んでおり、八郎湖の水質汚濁防止など環境保全に対して多くの農家が関心を持ち、行動していることが分かります。

しかし、未だに八郎湖の水質改善はされておらず、今後も地域で協力して取り組んでいくべき大きな課題です。農地・水・環境保全向上対策事業を実施し、多くの農家に5割減農薬5割減化学肥料農法などの環境保全型農業が普及しましたが、これからも継続して取り組み、きれいな八郎湖を目標に、活動していきたいと考えます。



写真①

5割減農薬5割減化学肥料栽培
実施ほ場の稲刈りの様子



写真②

特別栽培米の販売促進キャンペーン
の様子

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	横沢東地域資源保全隊	代表	伊藤 豊之助
先進的営農支援	区域名	横 沢 東	取組面積	23.61 ha	支援農家数 11戸
支援作物	水稲	21.74 ha	麦・豆類	1.62 ha	その他作物 0.25 ha
支援交付金	1,453,000 円	水稲1,304,400円、大豆48,600円、施設トマト100,000円			

(5年間の活動内容や感想等記入)

初年度に施設トマトで始まった環境に優しい農産物作りが共感を得て水稲や大豆栽培でも減農薬、減化学肥料栽培者が次年度から面積、仲間とも大幅に増え今では収量も安定してきました。

新たに始まった対策では対応できない当地区ではありますが、せっかく意識が高まったこの灯を消さない様に頑張ろうと思っています。



(有機肥料の散布)



(水稲の出来秋)



(施設トマトの全面敷マルチ)

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	惣行地域資源保全集落		代表	高橋 久昭
先進的営農支援	区域名	惣 行	取組面積	25.27	支援農家数	11
支援作物	水稻	25.27 ha	麦・豆類	0 ha	その他作物	0 ha
支援交付金	1,516,200 円	水稻 1,516,200 円、麦・豆類 0 円、その他作物 0 円				

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちの地域は奥羽山脈のふもとに真木、川口溪谷があり自然豊かな中に惣行集落の水田が広がっています。農業では水稻が中心ですが有機農業に取り組む農家が多く有畜農業は共同作業を通じてほぼ全量認証米を受けています。他の農家も積極的に「米の精」などの有機質の利用による栽培に取り組んでいます。地域全体で循環型の自然にやさしい農村づくりを実施しています。



米の精（散布）



堆肥（散布）

全取組面積（水稻）の認証を目指して

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	大仙市	組織名	沖田・本川農地、水、環境保全会	代表	加藤 光一郎
先進的営農支援	区域名	沖田・本川	取組面積	16.53 ha	支援農家数 20戸
支援作物	水稻	16.53 ha	麦・豆類	0 ha	その他作物 0 ha
支援交付金	991,800 円	水稻	991,800円、麦・豆類	0円、その他作物	0円

(5年間の活動内容や感想等記入)

私達保全会の地域内には清流がありホテルが舞う田園地帯であり、とても静かな所であります。当事業への参画時前から高齢社会の波がこの地域にも押し寄せており農業者の平均年齢は七十三歳と非常に高く、営農活動にあっては大変心配しておりました。

事業当初、計画であった先進的な取組面積は12haでしたが、減農薬等に興味を示した農家の皆さんの協力もあり事業最終年度には16.5haと取組面積も増え、減農薬等に係る耕作意欲の高さに驚くばかりです。

この取組面積は、私達の地域全体の50%に相当します。当地域の「おいしいお米」作りは、これからも続いていくことでしょう！

下記の写真は、共に活動した仲間やあきたecoライス活動、有機認証圃場における木炭ろ過を使用した写真です。

”小さな安全から大きな安心へ「地域の美味しいお米」づくりを目指して！！”



(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	安城寺環境資源保全会	代表	鈴木 直勝
先進的営農支援	区域名	安城寺	取組面積	27.34ha	支援農家数 22戸
支援作物	水稲	27.34 ha	麦・豆類	0 ha	その他作物 0 ha
支援交付金	1,640,400 円	水稲	1,640,400円、麦・豆類	0円、その他作物	0円

(5年間の活動内容や感想等記入)

農地・水・環境保全対策(営農活動)として、安城寺の場合は平成21年度から3年間だけの取り組みでしたが、助成を受けたことにより大変助かりました。

米の精・減・減というこだわり米としては平成18年頃より取り組んでいました。千畑地区でも部会を立ち上げ減農薬、減化学肥料を使用し100%有機肥料を使用し環境には非常にやさしい栽培をしていると思います。

自分たちの集落も初めは10戸、1戸1ha平均の10ha程度でしたが、平成23年度現在では22戸27.34haと増えました。

米の消費量も少ないため在庫を出さないで全数量出荷できるように量より質(味)に挑戦していくよう取り組みしているところです。



(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	美郷町	組織名	千屋中部地域資源保全組合	代表	高橋秀明
先進的営農支援	区域名	千屋中部	取組面積	19.08 ha	支援農家数 28戸
支援作物	水稲	19.08 ha	麦・豆類	0 ha	その他作物 0 ha
支援交付金	1,144,800 円	水稲	1,144,800円、麦・豆類	0円、その他作物	0円

(5年間の活動内容や感想等記入)

平成19年度、私共千屋中部地域資源保全組合は集落営農組合を立ち上げました。食の安全・安心、うまい米作りを目標に減農薬減化学肥料栽培に取り組みました。町の堆肥センター(美郷の大地)を購入散布し、米糠、大豆粕、菜種等からできた有機肥料と稲わらの秋のすきこみと合わせ循環型農業を行ってきました。最初は15名から作付けし、その後28名まで栽培面積を増やし、今では高度な食味値と安全安心な米ができております。これも、農地・水・環境保全向上対策助成金と活動費があったからこそ良い勉強が出来たのだと思います。先進地研修、作付け場巡回、肥料工場の視察など会員の意識向上、技術の向上につながったと思います。今後はJGPを取得地域全体で作付して、全国一位の安全安心米を目指し営農活動できるように面積を拡大したいと思っています。



先進地研修、勉強会



肥料工場の視察

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	林崎地域資源保全活動組織		代表	武内 竹蔵	
先進的営農支援	区域名	林崎	取組面積	26.09 ha	支援農家数	29 戸	
支援作物	水稻	26.09 ha	麦・豆類	ha	その他作物	ha	
支援交付金	1,565,400 円	水稻	1,565,400円、	麦・豆類	円、	その他作物	円

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち組織の農業者の一部は、平成7～8頃から特別栽培米（5割減減）に取り組んできましたその後、平成17年から8割減減米の栽培に取り組んでおります。

ご存知のように、8割減減では農薬の使用は、除草剤3成分だけの使用です。

他の化学成分農薬は使用できないため、丈夫な苗作りを心掛け、いもち等は自然由来成分の物を使用し、雑草処理は深水管理、手取り除草等を行っております。

そんな中、平成19年からの営農活動交付金は、大きな力となりました。この交付金を活用し、先進地研修等多くの、特別栽培米に取り組んでいる方たちと交流を深められました。ただ、近年害虫被害が、顕著となり栽培農家が減少していることが気がかりです。

そういう方々には、一般米への栽培変更では無く、1～2年の期限付きで5割減減で作付し、その後8割減減米への作付復帰を促していこうと思っております。

今後も、自然にやさしい米作り及び転作作物を栽培して行きたいと思っております。

また、地域内の親交を深め、より良い集落を構築していくよう努力して参ります。

7月上旬、省農薬米栽培者の一部を動員して行なった手取り除草。共同作業の重要性を再認識し、法人設立への足がかりとなった。

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	樽見内地域資源保全委員会	代表	石山 聞一
先進的営農支援	区域名	樽見内地区	取組面積	153.2 ha	支援農家数 64 戸
支援作物	水稲 147.6 ha	麦・豆類	ha	その他作物	5.6 ha
支援交付金	9,730,000 円	水稲 8,855,400円、麦・豆類	円、その他作物	874,600円	

(5年間の活動内容や感想等記入)

水稲、枝豆、アスパラガスの減化学肥料、減化学農薬栽培に地域が一丸となり、環境に優しい農業に取り組んできました。

当地は、堆肥の施用と有機質入り肥料を組み合わせた施肥設計をし、使用する農薬を出来るだけ少なくすることに心掛けて栽培をしています。

また、営農活動支援を受けることにより、農家自ら栽培研修会を毎年開催すると共に、土づくり推進フォーラムや全国エコファーマーネットワークの研修会等に参加する機会が出来、仲間づくりに参画する機会となりました。

当委員会において、平成20年3月に地域の農家30名が集まり、を東京大学名誉教授・？日本土壌協会会長理事 松本聰 氏をお招きをして「環境保全型農業を考える集い」を開催しました。

この集いは、東北農政局をはじめ、秋田県、横手市、土地改良区などの関係機関の協力と支援を頂き、「農村環境・環境保全型農業を考える集い」と名を変えて、2月に開催し、第5回を数える至りました。

集い参加者は秋田県内各地、岩手県、山形県からも集うようになり、参加者も250名を超える集いになりました。

これからもこの集いを毎年2月に開催していきたい、と思っています。

営農支援活動に取り組むことにより、田んぼや水路の生き物調査を行ったり、堆肥の施用等の耕畜連携、消費地との交流などを行うようにもなりました。

そして、環境に優しい農業に取り組むことにより交付される営農活動支援交付金は、農家に変り有り難い交付金でした。



農)樽見内営農組合の水稲種子の温湯消毒



マニアスプレッダによる堆肥の散布作業



子供たちと生き物調査



農村環境 環境保全型農業を考える集い

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	里見地区環境保全	代表	佐々木 政男
先進的営農支援	区域名	造山	取組面積	42.52 ha	支援農家数 20 戸
支援作物	水稲	42.52 ha	麦・豆類	ha	その他作物 ha
支援交付金	2,551,200 円	水稲	2,551,200 円、麦・豆類	円、その他作物	円

(5年間の活動内容や感想等記入)

J Aや関係機関の方を講師に迎え、研修会や検討会へ参加し技術向上につとめた。



消費者との交流会へ参加し消費者、生産者の交流や意見交換を行った。



環境保全型農業の先進地研修への参加し、知識技術向上に努めた。



(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	里見地区環境保全	代表	高橋 正
先進的営農支援	区域名	中村	取組面積	20.34 ha	支援農家数 9 戸
支援作物	水稲	20.34 ha	麦・豆類	ha	その他作物 ha
支援交付金	1,220,400 円	水稲	1,220,400 円、麦・豆類	円、その他作物	円

(5年間の活動内容や感想等記入)

当地区は、以前よりJ Aの指導により減農薬減科学肥料に取り組んでいたもので、事業へスムーズに参加することが出来た。

環境保全型農業がすすめられているので、継続してほしい事業でした。



(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	横手市	組織名	館合地区環境保全	代表	後藤 東一
先進的営農支援	区域名	下大見内	取組面積	24.56 ha	支援農家数 10戸
支援作物	水稻	24.56 ha	麦・豆類	ha	その他作物 ha
支援交付金	1,473,600 円	水稻	1,473,600円、麦・豆類	円、その他作物	円

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たち下大見内営農組合は、地域の農業の共同化を通じて効率的な農業経営の実現と農業地利用改善と利用集積を図る目的で、活動を開始いたしました。

組織立ち上げを機会に、環境保全型農業の取組み活動の支援を受け、環境にやさしい農業生産に取り組むことを決議いたしました。

「農地・水・環境保全活動」は農業者だけの管理、維持のものと思っていましたが、地域住民全員の参加により、農業者はもちろん、非農家、若年層に至るまで、環境保全の大切さ、農地・農道・用排水路を改めて見直すことができました。

年間計画のもと一年を通した活動として、大きな変化、改善は出来ませんでした。何より作業日には、皆さんの理解と協力により多くの参加をいただいたことにより、共同活動の意義と集落内の結びつき、環境保全の大切さを見直す機会となりました。

有機物の散布・・・減農薬・減肥料栽培を目的に畜産農家の協力の下、堆肥の散布作業を実施した。

(農地・水・環境保全向上対策、営農活動 事例記載様式)

市町村名	羽後町	組織名	嶋田新田資源保全会	代表	藤原登代治
先進的営農支援	区域名	嶋田新田	取組面積	18.99 ha	支援農家数 12 戸
支援作物	水稻	18.99 ha	麦・豆類	ha	その他作物 ha
支援交付金	1,134,600 円	水稻 1,134,600 円、麦・豆類	円、その他作物	円	円

(5年間の活動内容や感想等記入)

私たちは農地・水・環境保全向上対策のモデル地区として、平成18年度に嶋田新田資源保全会の組織を立ち上げましたが、この地域を中心とする「嶋田特別栽培米研究会」は20年以上の長きにわたり環境保全型農業を実践してまいりました。堆肥投入による徹底した土づくりとともに、化学合成農薬と化学肥料の大幅な低減を実践してきたことから、この営農活動支援にも取り組みやすかったと感じております。

ここで生産された米は「羽後のこまち」という商品名で出荷されておりますが、この交付金を活用して出荷先である愛知県のスーパーに出向き、消費者との交流を図ることができました。その他にも、特別栽培米のPRや産地の取組等を紹介し、環境保全型農業の理解を深めてもらうことができたと思っております。

今後も安心・安全な米づくりをモットーに、地域で協力しながら環境保全型農業を推進していきたいと考えております。



(名古屋市のスーパーにて)